

「基礎ゼミナール」（担当者：馮 雪梅）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	馮 雪梅
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	この授業は、学生諸君が大学ではどのような学習態度で望めばよいかということ、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	比較的、少人数で行われる授業なので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマは、講義ノートの取り方・資料の集め方・テキストの読み方・レポートの書き方など、秋学期に取り扱うテーマは、パブリックスピーキングのやり方・プレゼンテーションのやり方・ディベートのやり方などです。なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。また、春学期の内容と秋学期の内容は、担当教員の裁量で前後する場合があります。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価しますので、試験期間中に筆答試験は行いません。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール」（担当者：サイモン クレイ）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	サイモン クレイ
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	この授業は、学生諸君が大学ではどのような学習態度で望めばよいかということ、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	比較的、少人数で行われる授業なので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマは、講義ノートの取り方・資料の集め方・テキストの読み方・レポートの書き方など、秋学期に取り扱うテーマは、パブリックスピーキングのやり方・プレゼンテーションのやり方・ディベートのやり方などです。なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。また、春学期の内容と秋学期の内容は、担当教員の裁量で前後する場合があります。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価しますので、試験期間中に筆答試験は行いません。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール」（担当者：高野 秀之）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	高野 秀之
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	この授業は、学生諸君が大学ではどのような学習態度で望めばよいかということを、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。 大学の授業を大別すると、実習、講義、演習の3種類からなりますので、それぞれにあった準備と学習方法を身につけなければなりません。高校までのように、それぞれの科目に丁寧な説明が施された教科書が用意され、誰もが同じ答えを導き出すために勉強するというものとはだいぶ様子が違います。また、高校の先生のように、ノートをもとめ易く黒板を利用する教員ばかりではありませんし、教科書を順番に読み進める授業ばかりではありません。授業に出てから『この授業の受け方がわからない』、『ノートが取れない』と言って困らないように、大学の授業というものをよく理解し、大学における学びのスタイルを築き上げて下さい。
授業方法：	比較的、少人数で行われる授業なので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。 授業内容によっては更に小さなグループに分かれることや、個々人で課題に取り組むこともあります。また、教室の外で人の意見を聞いたり、授業担当者ではない教員に質問することもあるでしょう。さまざまな授業方法が採用されるのは、一人ひとりの学生に少しでも早く大学の授業というものを理解してもらいたいからであり、そこにはさまざまな形態があることを体験してもらいたいからです。 演習形式の授業なので、できる限り「一方通行の授業」にならないように工夫されているのですが、受講者全員に共通する内容のときには、講義形式（時には、合同講義形式）が採用されることもあります。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマは、講義ノートの取り方・資料の集め方・テキストの読み方・レポートの書き方など、秋学期に取り扱うテーマは、パブリックスピーキングのやり方・プレゼンテーションのやり方・ディベートのやり方などです。なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。また、春学期の内容と秋学期の内容は、担当教員の裁量で前後する場合があります。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価しますので、試験期間中に筆答試験は行いません。 なお、最終学年の履修者は規程により再試を受験することができますが、科目内容からして50%以上出席をしていない場合は、再試を受験しても合格することはできません。一年を通じて出席をすることを心がけると同時に、自分の出席状況を勘案して再試験の申込みをするようにして下さい。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール」（担当者：嘉悦 康太）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	嘉悦 康太
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	大学での学習は、皆さんが高校までで慣れ親しんできた「お勉強」とはだいぶ様子が違います。講義に出てみれば、多くの教員は板書をそれほどしませんし、教科書もそれほど使いません。なかには、全く板書をしない教員もいますし、教科書自体がないという授業もあります。また、学生が自分の意見を持ち、それをある理屈にしたがって表現することを要求されることもしばしばです。その結果、こういった違いに戸惑うあまり、大学で学ぶべき内容を学び損ねてしまう学生が、実はかなり多くいます。この授業は、学生諸君がこのようなことにならないように、大学ではどのような学習態度で望めばよいかということ、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	基本的に演習形式で行いますので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。大学での学習は、皆さんが高校までで慣れ親しんできた「お勉強」とはだいぶ様子が違います。講義に出てみれば、多くの教員は板書をそれほどしませんし、教科書もそれほど使いません。なかには、全く板書をしない教員もいますし、教科書自体がないという授業もあります。また、学生が自分の意見を持ち、それをある理屈にしたがって表現することを要求されることもしばしばです。その結果、こういった違いに戸惑うあまり、大学で学ぶべき内容を学び損ねてしまう学生が、実はかなり多くいます。この授業は、学生諸君がこのようなことにならないように、大学ではどのような学習態度で望めばよいかということ、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマは、講義ノートの取り方・資料の集め方・テキストの読み方・レポートの書き方など。秋学期に取り扱うテーマは、パブリックスピーキングのやり方・プレゼンテーションのやり方・ディベートのやり方など。なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価します。ですから、試験期間中に筆答試験は行いません。なお、最終学年の履修者は規程により再試を受験することができますが、科目内容からして50%以上出席をしていない場合は、再試を受験しても合格することはできません。一年を通じて出席することを心がけると同時に、自分の出席状況を勘案して再試験の申込みをするようにして下さい。
教科書：	『知へのステップ』 学習技術研究会（編・著） くろしお出版 2005（2002）
参考書：	『（大学生と留学生のための）論文ワークブック』 浜田麻里ほか くろしお出版 2001（1997）

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール」（担当者：ポール エトガ）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	ポール エトガ
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	この授業は、学生諸君が大学ではどのような学習態度で望めばよいかということ、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	比較的、少人数で行われる授業なので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマは、講義ノートの取り方・資料の集め方・テキストの読み方・レポートの書き方など、秋学期に取り扱うテーマは、パブリックスピーキングのやり方・プレゼンテーションのやり方・ディベートのやり方などです。なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。また、春学期の内容と秋学期の内容は、担当教員の裁量で前後する場合があります。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価しますので、試験期間中に筆答試験は行いません。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	平田 貴
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	この授業は、学生諸君が大学ではどのような学習態度で望めばよいかということ、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	比較的、少人数で行われる授業なので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマは、講義ノートの取り方・資料の集め方・テキストの読み方・レポートの書き方など、秋学期に取り扱うテーマは、パブリックスピーキングのやり方・プレゼンテーションのやり方・ディベートのやり方などです。なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。また、春学期の内容と秋学期の内容は、担当教員の裁量で前後する場合があります。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価しますので、試験期間中に筆答試験は行いません。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール」（担当者：松嶋 哲雄）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	松嶋 哲雄
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	この授業は、学生諸君が大学ではどのような学習態度で望めばよいかということ、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	比較的、少人数で行われる授業なので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマは、講義ノートの取り方・資料の集め方・テキストの読み方・レポートの書き方など、秋学期に取り扱うテーマは、パブリックスピーキングのやり方・プレゼンテーションのやり方・ディベートのやり方などです。なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。また、春学期の内容と秋学期の内容は、担当教員の裁量で前後する場合があります。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価しますので、試験期間中に筆答試験は行いません。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール」（担当者：森 康夫）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	森 康夫
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	この授業は、学生諸君が大学ではどのような学習態度で望めばよいかということ、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	比較的、少人数で行われる授業なので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマは、講義ノートの取り方・資料の集め方・テキストの読み方・レポートの書き方など、秋学期に取り扱うテーマは、パブリックスピーキングのやり方・プレゼンテーションのやり方・ディベートのやり方などです。なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。また、春学期の内容と秋学期の内容は、担当教員の裁量で前後する場合があります。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価しますので、試験期間中に筆答試験は行いません。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール」（担当者：吉沢 正広）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	吉沢 正広
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	この授業は、学生諸君が大学ではどのような学習態度で望めばよいかということ、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	比較的、少人数で行われる授業なので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマは、講義ノートの取り方・資料の集め方・テキストの読み方・レポートの書き方など、秋学期に取り扱うテーマは、パブリックスピーキングのやり方・プレゼンテーションのやり方・ディベートのやり方などです。なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。また、春学期の内容と秋学期の内容は、担当教員の裁量で前後する場合があります。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価しますので、試験期間中に筆答試験は行いません。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール」（担当者：滑川 光裕）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	滑川 光裕
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>大学での学習は、皆さんが高校までで慣れ親しんできた「お勉強」とはだいぶ様子が違います。講義に出てみれば、多くの教員は板書をそれほどしませんし、教科書もそれほど使いません。なかには、全く板書をしない教員もいますし、教科書自体がないという授業もあります。また、学生が自分の意見を持ち、それをある理屈にしたがって表現することを要求されることもしばしばです。その結果、こういった違いに戸惑うあまり、大学で学ぶべき内容を学び損ねてしまう学生が、実はかなり多くいます。この授業は、学生諸君がこのようなことにならないように、大学ではどのような学習態度で望めばよいかということを、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。</p>
授業方法：	基本的に演習形式で行いますので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	<p>春学期に取り扱うテーマは、講義ノートの取り方・資料の集め方・テキストの読み方・レポートの書き方など。秋学期に取り扱うテーマは、パブリックスピーキングのやり方・プレゼンテーションのやり方・ディベートのやり方など。なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。</p>
目標と評価：	<p>毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価します。ですから、試験期間中に筆答試験は行いません。 なお、最終学年の履修者は規程により再試を受験することができますが、科目内容からして50%以上出席をしていない場合は、再試を受験しても合格することはできません。一年を通じて出席をすることを心がけると同時に、自分の出席状況を勘案して再試験の申込みをするようにして下さい。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール」（担当者：森本 孝）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	森本 孝
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	この授業は、学生諸君が大学ではどのような学習態度で望めばよいかということ、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	比較的、少人数で行われる授業なので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマは、講義ノートの取り方・資料の集め方・テキストの読み方・レポートの書き方など、秋学期に取り扱うテーマは、パブリックスピーキングのやり方・プレゼンテーションのやり方・ディベートのやり方などです。なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。また、春学期の内容と秋学期の内容は、担当教員の裁量で前後する場合があります。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価しますので、試験期間中に筆答試験は行いません。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール」（担当者：小菅 成一）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	小菅 成一
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	この授業は、学生諸君が大学ではどのような学習態度で望めばよいかということ、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	比較的、少人数で行われる授業なので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマは、講義ノートの取り方・資料の集め方・テキストの読み方・レポートの書き方など、秋学期に取り扱うテーマは、パブリックスピーキングのやり方・プレゼンテーションのやり方・ディベートのやり方などです。なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。また、春学期の内容と秋学期の内容は、担当教員の裁量で前後する場合があります。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価しますので、試験期間中に筆答試験は行いません。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール」（担当者：石川 光晴）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	石川 光晴
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	この授業は、学生諸君が大学ではどのような学習態度で望めばよいかということ、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	比較的、少人数で行われる授業なので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマは、講義ノートの取り方・資料の集め方・テキストの読み方・レポートの書き方など、秋学期に取り扱うテーマは、パブリックスピーキングのやり方・プレゼンテーションのやり方・ディベートのやり方などです。なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。また、春学期の内容と秋学期の内容は、担当教員の裁量で前後する場合があります。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価しますので、試験期間中に筆答試験は行いません。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール」（担当者：内藤 勝）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	内藤 勝
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	大学での学習は、皆さんが高校までで慣れ親しんできた「お勉強」とはだいぶ様子が違います。講義に出てみれば、多くの教員は板書をそれほどしませんし、教科書もそれほど使いません。なかには、全く板書をしない教員もいますし、教科書自体がないという授業もあります。また、学生が自分の意見を持ち、それをある理屈にしたがって表現することを要求されることもしばしばです。その結果、こういった違いに戸惑うあまり、大学で学ぶべき内容を学び損ねてしまう学生が、実はかなり多くいます。この授業は、学生諸君がこのようなことにならないように、大学ではどのような学習態度で望めばよいかということを、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	基本的に演習形式で行いますので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマは、講義ノートの取り方・資料の集め方・テキストの読み方・レポートの書き方など。秋学期に取り扱うテーマは、パブリックスピーキングのやり方・プレゼンテーションのやり方・ディベートのやり方など。なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価します。ですから、試験期間中に筆答試験は行いません。なお、最終学年の履修者は規程により再試を受験することができますが、科目内容からして50%以上出席をしていない場合は、再試を受験しても合格することはできません。一年を通じて出席することを心がけると同時に、自分の出席状況を勘案して再試験の申込みをするようにして下さい。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール」（担当者：田尻 慎太郎）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	田尻 慎太郎
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	この授業は、学生諸君が大学ではどのような学習態度で望めばよいかということ、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	比較的、少人数で行われる授業なので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマは、講義ノートの取り方・資料の集め方・テキストの読み方・レポートの書き方など、秋学期に取り扱うテーマは、パブリックスピーキングのやり方・プレゼンテーションのやり方・ディベートのやり方などです。なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。また、春学期の内容と秋学期の内容は、担当教員の裁量で前後する場合があります。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価しますので、試験期間中に筆答試験は行いません。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール（再履修）」（担当者：青山 悦子）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール（再履修）
担当者：	青山 悦子
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	この授業は、学生諸君が大学ではどのような学習態度で望めばよいかということ、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	比較的、少人数で行われる授業なので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマは、講義ノートの取り方・資料の集め方・テキストの読み方・レポートの書き方など、秋学期に取り扱うテーマは、パブリックスピーキングのやり方・プレゼンテーションのやり方・ディベートのやり方などです。なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。また、春学期の内容と秋学期の内容は、担当教員の裁量で前後する場合があります。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価しますので、試験期間中に筆答試験は行いません。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール（再履修）」（担当者：小菅 成一）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール（再履修）
担当者：	小菅 成一
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	この授業は、学生諸君が大学ではどのような学習態度で望めばよいかということ、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	比較的、少人数で行われる授業なので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマは、講義ノートの取り方・資料の集め方・テキストの読み方・レポートの書き方など、秋学期に取り扱うテーマは、パブリックスピーキングのやり方・プレゼンテーションのやり方・ディベートのやり方などです。なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。また、春学期の内容と秋学期の内容は、担当教員の裁量で前後する場合があります。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価しますので、試験期間中に筆答試験は行いません。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール（再履修）」（担当者：田尻 慎太郎）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール（再履修）
担当者：	田尻 慎太郎
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	この授業では、輪読を通じて大学生生活において必要となるノートの取り方、資料の集め方、文章の読み方、レジュメの書き方、レポートの書き方、プレゼンテーションのやり方を学んでいきます。といっても難しいことをするのは？と不安に思う必要はありません。まず、「だんご3兄弟」で有名なCMプランナーの佐藤雅彦氏と、小泉首相のブレーンであり郵政民営化の推進役となった竹中平蔵総務大臣の対話をまとめた『経済ってそういうことだったのか会議』を読みます。この本では、経済学については素人である佐藤氏に説明するために、経済学者でもある竹中大臣が誰にでも分かりやすく、お金とは、株とは、税金とは、投資とは、起業や失業とは何かについて答えています。へぼい経済学の教科書を読むよりも、ずっと経済のことが理解できるというようになる素晴らしいおもしろくて楽しい本です。ゆっくり、みんなでこの本を読むことによって、大学で勉強することとはということから始まって、いま日本の経済はということまで学んでいきます。
授業方法：	木曜一限の授業なので、くつろいだ雰囲気を進めたいと思っています。授業は、毎回、担当した学生が『経済ってそういうことだったのか会議』の一部について発表し、他の学生はそのトピックに関連した資料を探してくるといったスタイルで進めます。資料といっても、そう言えばテレビでこういうことを言っていたということでも構いませんし、最終的には図書館やインターネットから適切な文献、データを見つけられるようになることを目標とします。
履修の留意点：	『経済ってそういうことだったのか会議』と充電したノートPCは毎回使いますので、必ず持参してください。もし一年の途中で読み終わってしまったら、次は『さおだけ屋はなぜ潰れないのか？』を読みます。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価しますので、試験期間中に筆答試験は行いません。
教科書：	経済ってそういうことだったのか会議 佐藤雅彦・竹中平蔵 日経ビジネス人文庫 2002
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール（再履修）」（担当者：内藤 勝）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール（再履修）
担当者：	内藤 勝
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	大学での学習は、皆さんが高校までで慣れ親しんできた「お勉強」とはだいぶ様子が違います。講義に出てみれば、多くの教員は板書をそれほどしませんし、教科書もそれほど使いません。なかには、全く板書をしない教員もいますし、教科書自体がないという授業もあります。また、学生が自分の意見を持ち、それをある理屈にしたがって表現することを要求されることもしばしばです。その結果、こういった違いに戸惑うあまり、大学で学ぶべき内容を学び損ねてしまう学生が、実はかなり多くいます。この授業は、学生諸君がこのようなことにならないように、大学ではどのような学習態度で望めばよいかということ、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	基本的に演習形式で行いますので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマは、講義ノートの取り方・資料の集め方・テキストの読み方・レポートの書き方など。秋学期に取り扱うテーマは、パブリックスピーキングのやり方・プレゼンテーションのやり方・ディベートのやり方など。なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価します。ですから、試験期間中に筆答試験は行いません。なお、最終学年の履修者は規程により再試を受験することができますが、科目内容からして50%以上出席をしていない場合は、再試を受験しても合格することはできません。一年を通じて出席することを心がけると同時に、自分の出席状況を勘案して再試験の申込みをするようにして下さい。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール（再履修）」（担当者：嘉悦 康太）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール（再履修）
担当者：	嘉悦 康太
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	大学での学習は、皆さんが高校までで慣れ親しんできた「お勉強」とはだいぶ様子が違います。講義に出てみれば、多くの教員は板書をそれほどしませんし、教科書もそれほど使いません。なかには、全く板書をしない教員もいますし、教科書自体がないという授業もあります。また、学生が自分の意見を持ち、それをある理屈にしたがって表現することを要求されることもしばしばです。その結果、こういった違いに戸惑うあまり、大学で学ぶべき内容を学び損ねてしまう学生が、実はかなり多くいます。この授業は、学生諸君がこのようなことにならないように、大学ではどのような学習態度で望めばよいかということを、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	基本的に演習形式で行いますので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマは、講義ノートの取り方・資料の集め方・テキストの読み方・レポートの書き方など。秋学期に取り扱うテーマは、パブリックスピーキングのやり方・プレゼンテーションのやり方・ディベートのやり方など。なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価します。ですから、試験期間中に筆答試験は行いません。なお、最終学年の履修者は規程により再試を受験することができますが、科目内容からして50%以上出席をしていない場合は、再試を受験しても合格することはできません。一年を通じて出席をすることを心がけると同時に、自分の出席状況を勘案して再試験の申込みをするようにして下さい。
教科書：	『知へのステップ』 学習技術研究会（編・著） くらしお出版 2005（2002）
参考書：	『（大学生と留学生のための）論文ワークブック』 浜田麻里ほか くらしお出版 2001（1997）

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール」（担当者：劉 暢）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	劉 暢
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	この授業は、学生諸君が大学ではどのような学習態度で望めばよいかということ、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	比較的、少人数で行われる授業なので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマは、講義ノートの取り方・資料の集め方・テキストの読み方・レポートの書き方など、秋学期に取り扱うテーマは、パブリックスピーキングのやり方・プレゼンテーションのやり方・ディベートのやり方などです。なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。また、春学期の内容と秋学期の内容は、担当教員の裁量で前後する場合があります。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価しますので、試験期間中に筆答試験は行いません。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール」（担当者：安田 利枝）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	安田 利枝
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	この授業は、学生諸君が大学ではどのような学習態度で望めばよいかということ、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	比較的、少人数で行われる授業なので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマは、講義ノートの取り方・資料の集め方・テキストの読み方・レポートの書き方など、秋学期に取り扱うテーマは、パブリックスピーキングのやり方・プレゼンテーションのやり方・ディベートのやり方などです。なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。また、春学期の内容と秋学期の内容は、担当教員の裁量で前後する場合があります。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価しますので、試験期間中に筆答試験は行いません。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール(※1)」(担当者:久保 真)の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人(久保 真先生)にお問合せ下さい。

「日本語表現法Ⅰ」（担当者：田尻 慎太郎）の履修の手引き

科目名：	日本語表現法Ⅰ
担当者：	田尻 慎太郎
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>一年時の必修科目である日本語表現法Ⅰ（春学期）と日本語表現法Ⅱ（秋学期）では、今後大学で授業を受け課題を提出する上で必須となる論文・レポートを書く力をみなさんの一人一人が身につけることを目標としています。実際に秋学期の後半では、受講者の全員が短いレポートを書くことが要求されます。また、こうした論理的な「読み書き」の能力は、卒業後みなさんがどのような進路に向かうにしても必要となるものです。</p> <p>それでは論文とかレポートって一体どのような文章なのでしょう？これまでみなさんは小中学校の国語や高校の現代文の授業で主に作文や読書感想文を書くことを習ってきたと思います。そこではみなさんの感情が読み手に伝わるような文章がうまい文章として評価されてきました。しかし大学の論文では、そうした感情はほとんど評価の対象とならず、事実に基づく主張と主張を導く論理構成のみが重要になります。また他人の文章を読むときには、なぜこう主張できるのかと批判的に読むことが求められます。つまり、「作文から論文」という意識改革を達成することが、本講義では非常に重要となります。</p>
授業方法：	<p>以下に示す共通授業計画に従って進めます。</p> <p>第1回 インタロダクション 第2回 基礎文法と辞書・辞典 第3回 本と図書館 第4回 書籍文献データベース 第5回 新聞と雑誌 第6回 新聞DB・雑誌記事DB 第7回 インターネット検索・百科事典 第8回 中間グループ演習（検索宝探し） 第9回 良い文章・悪い文章 第10回 文章読解 第11回 論証① 第12回 論証② 第13回 期末テスト</p>
履修の留意点：	<p>毎回、パワーポイントによる講義資料を教室内で用いるとともに、学ナビに掲載します。また授業時間内にコンピュータを用いた演習を行いますので、各自、充電済みのノートPCを毎回持参すること。</p> <p>特定の教科書は使いませんが、以下の本が非常に参考になります。 戸田山和久（2002）『論文の教室－レポートから卒論まで』NHK BOOKS（954）、日本放送出版協会 小笠原喜康（2002）『大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書（1603）、講談社 山内志朗（2001）『ぎりぎり合格への論文マニュアル』平凡社新書（103）、平凡社 大串夏身（2004）『文科系学生の情報術』、青弓社</p> <p>また以下に挙げるように大学生向けの良質な読書ガイドが多数ありますので、これらを手に取り自分が興味を持つ本を見つけて実際に読んでみることを強く推奨します。</p> <p>広島大学総合科学部101冊の本プロジェクト編（2005）『大学新生に薦める101冊の本』、岩波書店 文藝春秋編（2004）『東大教師が新生にすすめる本』文春新書、文藝春秋 佐高信（1992）『現代を読む 100冊のノンフィクション』岩波新書、岩波書店 新書マップ・プレス編（2004）『新書マップ～知の窓口～』、日経BP社</p>
目標と評価：	<p>春学期の日本語表現法Ⅰでは、①文章構造、②情報検索、③読解力・論理力の三点に重点を置いて、実習を盛り込んだスタイルで授業を進めていき、秋学期においてレポートを書くための準備としてそれぞれの基礎力をつけることを目標とします。</p> <p>成績評価は出席（30点）、中間グループ演習（20点）、期末テスト（30点）、その他授業内課題による平常点（20点）で行います。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語表現法Ⅰ」（担当者：田尻 慎太郎）の履修の手引き

科目名：	日本語表現法Ⅰ
担当者：	田尻 慎太郎
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>一年時の必修科目である日本語表現法Ⅰ（春学期）と日本語表現法Ⅱ（秋学期）では、今後大学で授業を受け課題を提出する上で必須となる論文・レポートを書く力をみなさんの一人一人が身につけることを目標としています。実際に秋学期の後半では、受講者の全員が短いレポートを書くことが要求されます。また、こうした論理的な「読み書き」の能力は、卒業後みなさんがどのような進路に向かうにしても必要となるものです。</p> <p>それでは論文とかレポートって一体どのような文章なのでしょう？これまでみなさんは小中学校の国語や高校の現代文の授業で主に作文や読書感想文を書くことを習ってきたと思います。そこではみなさんの感情が読み手に伝わるような文章がうまい文章として評価されてきました。しかし大学の論文では、そうした感情はほとんど評価の対象とならず、事実に基づく主張と主張を導く論理構成のみが重要になります。また他人の文章を読むときには、なぜこう主張できるのかと批判的に読むことが求められます。つまり、「作文から論文」という意識改革を達成することが、本講義では非常に重要となります。</p>
授業方法：	<p>以下に示す共通授業計画に従って進めます。</p> <p>第1回 インタロダクション 第2回 基礎文法と辞書・辞典 第3回 本と図書館 第4回 書籍文献データベース 第5回 新聞と雑誌 第6回 新聞DB・雑誌記事DB 第7回 インターネット検索・百科事典 第8回 中間グループ演習（検索宝探し） 第9回 良い文章・悪い文章 第10回 文章読解 第11回 論証① 第12回 論証② 第13回 期末テスト</p>
履修の留意点：	<p>毎回、パワーポイントによる講義資料を教室内で用いるとともに、学ナビに掲載します。また授業時間内にコンピュータを用いた演習を行いますので、各自、充電済みのノートPCを毎回持参すること。</p> <p>特定の教科書は使いませんが、以下の本が非常に参考になります。 戸田山和久（2002）『論文の教室－レポートから卒論まで』NHK BOOKS（954）、日本放送出版協会 小笠原喜康（2002）『大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書（1603）、講談社 山内志朗（2001）『ぎりぎり合格への論文マニュアル』平凡社新書（103）、平凡社 大串夏身（2004）『文科系学生の情報術』、青弓社</p> <p>また以下に挙げるように大学生向けの良質な読書ガイドが多数ありますので、これらを手に取り自分が興味を持つ本を見つけて実際に読んでみることを強く推奨します。</p> <p>広島大学総合科学部101冊の本プロジェクト編（2005）『大学新生に薦める101冊の本』、岩波書店 文藝春秋編（2004）『東大教師が新生にすすめる本』文春新書、文藝春秋 佐高信（1992）『現代を読む 100冊のノンフィクション』岩波新書、岩波書店 新書マップ・プレス編（2004）『新書マップ～知の窓口～』、日経BP社</p>
目標と評価：	<p>春学期の日本語表現法Ⅰでは、①文章構造、②情報検索、③読解力・論理力の三点に重点を置いて、実習を盛り込んだスタイルで授業を進めていき、秋学期においてレポートを書くための準備としてそれぞれの基礎力をつけることを目標とします。</p> <p>成績評価は出席（30点）、中間グループ演習（20点）、期末テスト（30点）、その他授業内課題による平常点（20点）で行います。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語表現法Ⅰ」（担当者：小菅 成一）の履修の手引き

科目名：	日本語表現法Ⅰ
担当者：	小菅 成一
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	一年時の必修科目であるアカデミック・リーディング（春学期）とアカデミック・ライティング（秋学期）では、今後大学で授業を受け課題を提出する上で必須となる論文・レポートを書く力をみなさんの一人一人が身につけることを目標としています。実際に秋学期の後半では、受講者の全員が短いレポートを書くことが要求されます。また、こうした論理的な「読み書き」の能力は、卒業後みなさんがどのような進路に向かうにしても必要となるものです。それでは論文とかレポートって一体どのような文章なのでしょう？これまでみなさんは小中学校の国語や高校の現代文の授業で主に作文や読書感想文を書くことを習ってきたと思います。そこではみなさんの感情が読み手に伝わるような文章がうまい文章として評価されてきました。しかし大学の論文では、そうした感情はほとんど評価の対象とならず、事実に基づく主張と主張を導く論理構成のみが重要になります。また他人の文章を読むときには、なぜこう主張できるのかと批判的に読むことが求められます。つまり、「作文から論文」という意識改革を達成することが、本講義では非常に重要となります。
授業方法：	以下に示す共通授業計画に従って進めます。 第1回 インTRODクション 第2回 基礎文法と辞書・辞典 第3回 本と図書館 第4回 書籍文献データベース 第5回 新聞と雑誌 第6回 新聞DB・雑誌記事DB 第7回 インターネット検索・百科事典 第8回 中間グループ演習（検索宝探し） 第9回 良い文章・悪い文章 第10回 文章読解 第11回 論証① 第12回 論証② 第13回 期末テスト
履修の留意点：	毎回、パワーポイントによる講義資料を教室内で用いるとともに、学ナビに掲載します。また授業時間内にコンピュータを用いた演習を行いますので、各自、充電済みのノートPCを毎回持参すること。
目標と評価：	春学期のアカデミック・リーディングでは、①文章構造、②情報検索、③読解力・論理力の三点に重点を置いて、実習を盛り込んだスタイルで授業を進めていき、秋学期においてレポートを書くための準備としてそれぞれの基礎力をつけることを目標とします。成績評価は出席（30点）、中間グループ演習（20点）、期末テスト（30点）、その他授業内課題による平常点（20点）で行います。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語表現法Ⅰ」（担当者：石川 光晴）の履修の手引き

科目名：	日本語表現法Ⅰ
担当者：	石川 光晴
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	一年時の必修科目であるアカデミック・リーディング（春学期）とアカデミック・ライティング（秋学期）では、今後大学で授業を受け課題を提出する上で必須となる論文・レポートを書く力をみなさんの一人一人が身につけることを目標としています。実際に秋学期の後半では、受講者の全員が短いレポートを書くことが要求されます。また、こうした論理的な「読み書き」の能力は、卒業後みなさんがどのような進路に向かうにしても必要となるものです。
授業方法：	以下に示す共通授業計画に従って進めます。
履修の留意点：	毎回、パワーポイントによる講義資料を教室内で用いるとともに、学ナビに掲載します。また授業時間内にコンピュータを用いた演習を行いますので、各自、充電済みのノートPCを毎回持参すること。
目標と評価：	春学期のアカデミック・リーディングでは、①文章構造、②情報検索、③読解力・論理力の三点に重点を置いて、実習を盛り込んだスタイルで授業を進めていき、秋学期においてレポートを書くための準備としてそれぞれの基礎力をつけることを目標とします。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語表現法Ⅰ」（担当者：石川 光晴）の履修の手引き

科目名：	日本語表現法Ⅰ
担当者：	石川 光晴
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	一年時の必修科目であるアカデミック・リーディング（春学期）とアカデミック・ライティング（秋学期）では、今後大学で授業を受け課題を提出する上で必須となる論文・レポートを書く力をみなさんの一人一人が身につけることを目標としています。実際に秋学期の後半では、受講者の全員が短いレポートを書くことが要求されます。また、こうした論理的な「読み書き」の能力は、卒業後みなさんがどのような進路に向かうにしても必要となるものです。
授業方法：	以下に示す共通授業計画に従って進めます。
履修の留意点：	毎回、パワーポイントによる講義資料を教室内で用いるとともに、学ナビに掲載します。また授業時間内にコンピュータを用いた演習を行いますので、各自、充電済みのノートPCを毎回持参すること。
目標と評価：	春学期のアカデミック・リーディングでは、①文章構造、②情報検索、③読解力・論理力の三点に重点を置いて、実習を盛り込んだスタイルで授業を進めていき、秋学期においてレポートを書くための準備としてそれぞれの基礎力をつけることを目標とします。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語表現法Ⅰ」（担当者：石川 光晴）の履修の手引き

科目名：	日本語表現法Ⅰ
担当者：	石川 光晴
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	一年時の必修科目であるアカデミック・リーディング（春学期）とアカデミック・ライティング（秋学期）では、今後大学で授業を受け課題を提出する上で必須となる論文・レポートを書く力をみなさんの一人一人が身につけることを目標としています。実際に秋学期の後半では、受講者の全員が短いレポートを書くことが要求されます。また、こうした論理的な「読み書き」の能力は、卒業後みなさんがどのような進路に向かうにしても必要となるものです。
授業方法：	以下に示す共通授業計画に従って進めます。
履修の留意点：	毎回、パワーポイントによる講義資料を教室内で用いるとともに、学ナビに掲載します。また授業時間内にコンピュータを用いた演習を行いますので、各自、充電済みのノートPCを毎回持参すること。
目標と評価：	春学期のアカデミック・リーディングでは、①文章構造、②情報検索、③読解力・論理力の三点に重点を置いて、実習を盛り込んだスタイルで授業を進めていき、秋学期においてレポートを書くための準備としてそれぞれの基礎力をつけることを目標とします。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語表現法Ⅱ」（担当者：田尻 慎太郎）の履修の手引き

科目名：	日本語表現法Ⅱ
担当者：	田尻 慎太郎
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	一年時の必修科目であるアカデミック・リーディング（春学期）とアカデミック・ライティング（秋学期）では、今後大学で授業を受け課題を提出する上で必須となる論文・レポートを書く力をみなさんの一人一人が身につけることを目標としています。実際に秋学期の後半では、受講者の全員が短いレポートを書くことが要求されます。また、こうした論理的な「読み書き」の能力は、卒業後みなさんがどのような進路に向かうにしても必要となるものです。
授業方法：	以下に示す共通授業計画に従って進めます。
履修の留意点：	毎回、パワーポイントによる講義資料を教室内で用いるとともに、学ナビに掲載します。また授業時間内にコンピュータを用いた演習を行いますので、各自、充電済みのノートPCを毎回持参すること。
目標と評価：	春学期のアカデミック・リーディングでは、①文章構造、②情報検索、③読解力・論理力の三点に重点を置いて、実習を盛り込んだスタイルで授業を進めていき、秋学期においてレポートを書くための準備としてそれぞれの基礎力をつけることを目標とします。
教科書：	大学生と留学生のための論文ワークブック 浜田麻里・平尾得子・由井紀久子 くろしお出版 1997
参考書：	

※最終評価は、評価点7割，出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語表現法Ⅱ」（担当者：田尻 慎太郎）の履修の手引き

科目名：	日本語表現法Ⅱ
担当者：	田尻 慎太郎
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	一年時の必修科目であるアカデミック・リーディング（春学期）とアカデミック・ライティング（秋学期）では、今後大学で授業を受け課題を提出する上で必須となる論文・レポートを書く力をみなさんの一人一人が身につけることを目標としています。実際に秋学期の後半では、受講者の全員が短いレポートを書くことが要求されます。また、こうした論理的な「読み書き」の能力は、卒業後みなさんがどのような進路に向かうにしても必要となるものです。
授業方法：	以下に示す共通授業計画に従って進めます。
履修の留意点：	毎回、パワーポイントによる講義資料を教室内で用いるとともに、学ナビに掲載します。また授業時間内にコンピュータを用いた演習を行いますので、各自、充電済みのノートPCを毎回持参すること。
目標と評価：	春学期のアカデミック・リーディングでは、①文章構造、②情報検索、③読解力・論理力の三点に重点を置いて、実習を盛り込んだスタイルで授業を進めていき、秋学期においてレポートを書くための準備としてそれぞれの基礎力をつけることを目標とします。
教科書：	大学生と留学生のための論文ワークブック 浜田麻里・平尾得子・由井紀久子 くろしお出版 1997
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語表現法Ⅱ」（担当者：小菅 成一）の履修の手引き

科目名：	日本語表現法Ⅱ
担当者：	小菅 成一
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>一年時の必修科目であるアカデミック・リーディング（春学期）とアカデミック・ライティング（秋学期）では、今後大学で授業を受け課題を提出する上で必須となる論文・レポートを書く力をみなさんの一人一人が身につけることを目標としています。実際に秋学期の後半では、受講者の全員が短いレポートを書くことが要求されます。また、こうした論理的な「読み書き」の能力は、卒業後みなさんがどのような進路に向かうにしても必要となるものです。</p> <p>それでは論文とかレポートって一体どのような文章なのでしょう？これまでみなさんは小中学校の国語や高校の現代文の授業で主に作文や読書感想文を書くことを習ってきたと思います。そこではみなさんの感情が読み手に伝わるような文章がうまい文章として評価されてきました。しかし大学の論文では、そうした感情はほとんど評価の対象とならず、事実に基づく主張と主張を導く論理構成のみが重要になります。また他人の文章を読むときには、なぜこう主張できるのかと批判的に読むことが求められます。つまり、「作文から論文」という意識改革を達成することが、本講義では非常に重要となります。</p>
授業方法：	以下に示す共通授業計画に従って進めます。
履修の留意点：	毎回、パワーポイントによる講義資料を教室内で用いるとともに、学ナビに掲載します。また授業時間内にコンピュータを用いた演習を行いますので、各自、充電済みのノートPCを毎回持参すること。
目標と評価：	<p>春学期のアカデミック・リーディングでは、①文章構造、②情報検索、③読解力・論理力の三点に重点を置いて、実習を盛り込んだスタイルで授業を進めていき、秋学期においてレポートを書くための準備としてそれぞれの基礎力をつけることを目標とします。</p> <p>成績評価は出席（30点）、中間グループ演習（20点）、期末テスト（30点）、その他授業内課題による平常点（20点）で行います。</p>
教科書：	大学生と留学生のための論文ワークブック 浜田麻里・平尾得子・由井紀久子 くろしお出版 1997
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語表現法Ⅱ」（担当者：石川 光晴）の履修の手引き

科目名：	日本語表現法Ⅱ
担当者：	石川 光晴
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	一年時の必修科目であるアカデミック・リーディング（春学期）とアカデミック・ライティング（秋学期）では、今後大学で授業を受け課題を提出する上で必須となる論文・レポートを書く力をみなさんの一人一人が身につけることを目標としています。実際に秋学期の後半では、受講者の全員が短いレポートを書くことが要求されます。また、こうした論理的な「読み書き」の能力は、卒業後みなさんがどのような進路に向かうにしても必要となるものです。
授業方法：	以下に示す共通授業計画に従って進めます。
履修の留意点：	毎回、パワーポイントによる講義資料を教室内で用いるとともに、学ナビに掲載します。また授業時間内にコンピュータを用いた演習を行いますので、各自、充電済みのノートPCを毎回持参すること。
目標と評価：	春学期のアカデミック・リーディングでは、①文章構造、②情報検索、③読解力・論理力の三点に重点を置いて、実習を盛り込んだスタイルで授業を進めていき、秋学期においてレポートを書くための準備としてそれぞれの基礎力をつけることを目標とします。
教科書：	大学生と留学生のための論文ワークブック 浜田 麻里 くろしお出版
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語表現法Ⅱ」（担当者：石川 光晴）の履修の手引き

科目名：	日本語表現法Ⅱ
担当者：	石川 光晴
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	一年時の必修科目であるアカデミック・リーディング（春学期）とアカデミック・ライティング（秋学期）では、今後大学で授業を受け課題を提出する上で必須となる論文・レポートを書く力をみなさんの一人一人が身につけることを目標としています。実際に秋学期の後半では、受講者の全員が短いレポートを書くことが要求されます。また、こうした論理的な「読み書き」の能力は、卒業後みなさんがどのような進路に向かうにしても必要となるものです。
授業方法：	以下に示す共通授業計画に従って進めます。
履修の留意点：	毎回、パワーポイントによる講義資料を教室内で用いるとともに、学ナビに掲載します。また授業時間内にコンピュータを用いた演習を行いますので、各自、充電済みのノートPCを毎回持参すること。
目標と評価：	春学期のアカデミック・リーディングでは、①文章構造、②情報検索、③読解力・論理力の三点に重点を置いて、実習を盛り込んだスタイルで授業を進めていき、秋学期においてレポートを書くための準備としてそれぞれの基礎力をつけることを目標とします。
教科書：	大学生と留学生のための論文ワークブック 浜田 麻里 くろしお出版
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語表現法Ⅱ」（担当者：石川 光晴）の履修の手引き

科目名：	日本語表現法Ⅱ
担当者：	石川 光晴
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	一年時の必修科目であるアカデミック・リーディング（春学期）とアカデミック・ライティング（秋学期）では、今後大学で授業を受け課題を提出する上で必須となる論文・レポートを書く力をみなさんの一人一人が身につけることを目標としています。実際に秋学期の後半では、受講者の全員が短いレポートを書くことが要求されます。また、こうした論理的な「読み書き」の能力は、卒業後みなさんがどのような進路に向かうにしても必要となるものです。
授業方法：	以下に示す共通授業計画に従って進めます。
履修の留意点：	毎回、パワーポイントによる講義資料を教室内で用いるとともに、学ナビに掲載します。また授業時間内にコンピュータを用いた演習を行いますので、各自、充電済みのノートPCを毎回持参すること。
目標と評価：	春学期のアカデミック・リーディングでは、①文章構造、②情報検索、③読解力・論理力の三点に重点を置いて、実習を盛り込んだスタイルで授業を進めていき、秋学期においてレポートを書くための準備としてそれぞれの基礎力をつけることを目標とします。
教科書：	大学生と留学生のための論文ワークブック 浜田 麻里 ころしお出版
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「近現代史」（担当者：久保 真）の履修の手引き

科目名：	近現代史
担当者：	久保 真
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	「近代」という時代は、古代や中世といった時代区分の一つというだけではありません。それは、それ以前の時代（前近代）ともそれ以後の時代（ポスト近代）とも異なる、特殊時代的な生活様式（例えば、社会のありかたや考え方など）を指します。さらに日本においては、そのような生活様式が外来のものとして意識的に移入された歴史的経緯から、特殊地理的な様相を強く帯びています。この授業では、上のような意味を考慮に入れつつ、単なる歴史的事実の列挙・暗記に終始することなく、「近代」のもっている特徴や問題点を考察することを主題とします。少人数の授業が予想されますので、履修者は授業に積極的に参加する（出席するだけでなく、課題を提出したり発言したりすること）ことを強く求めます。
授業方法：	上に記したように、少人数の授業が予想されますので、履修者は授業に積極的に参加する（出席するだけでなく、課題を提出したり発言したりすること）ことを強く求めます。
履修の留意点：	旧カリキュラム（2001年～2004年入学者に適用）での必修科目ですので、まだ単位修得していない該当学生は必ず履修するようにして下さい。
目標と評価：	目標は「概要」を参照して下さい。 評価点は、平常点評価を50%、定期試験評価を50%とします。定期試験は、レポート試験を予定しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシⅠ」（担当者：仲島 暁美）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅠ
担当者：	仲島 暁美
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>パソコン検定（P検）2005 4級程度の知識を有することを前提とします。 Microsoft Word2003を使用して、ワープロソフトによる文書作成の基本から長文作成までの活用機能を全般的に学びます。他授業のレポート作成に役立ち、さらに社会に出た時に即戦力となるよう、スムーズに文書作成が出来ることを目的に実習します。</p> <p>（注意） 成績評価、単位認定制度、P検受験の詳細について1週目の授業で説明するので、必ず出席すること。 1週目の授業は「基本クラス」と「マスタークラス」は合同で行う。</p>
授業方法：	<p>実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内に実施します。</p>
履修の留意点：	<p>○1年生 4月3日にパソコン設定会で実施するクラス分けテストの結果により、指定された「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。</p> <p>○2、3、4年生 1週目の授業でレベル分けテストを実施し、その結果により「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。 成績とともに配布される「『コンピュータリテラシⅠ』を再履修する皆さんへ」のプリントをよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。</p>
目標と評価：	<p>目標…表や図形を含む文書の作成・長文作成の機能を利用したレポート作成ができること。 P検準2級レベルの知識を身につける。</p> <p>評価…出席、課題、実技試験（文書作成、タイピング）により評価。 学内で実施するP検準2級に合格した場合は、単位の取得を保障する。 （2007年2月に全員受験）</p>
教科書：	Wordマスターブック 2003&2002対応 WindowsXP版 （株）毎日コミュニケーションズ
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシⅠ」（担当者：仲島 暁美）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅠ
担当者：	仲島 暁美
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>パソコン検定（P検）2005 4級程度の知識を有することを前提とします。 Microsoft Word2003を使用して、ワープロソフトによる文書作成の基本から長文作成までの活用機能を全般的に学びます。他授業のレポート作成に役立ち、さらに社会に出た時に即戦力となるよう、スムーズに文書作成が出来ることを目的に実習します。</p> <p>（注意） 成績評価、単位認定制度、P検受験の詳細について1週目の授業で説明するので、必ず出席すること。 1週目の授業は「基本クラス」と「マスタークラス」は合同で行う。</p>
授業方法：	<p>実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内に実施します。</p>
履修の留意点：	<p>○1年生 4月3日にパソコン設定会で実施するクラス分けテストの結果により、指定された「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。</p> <p>○2、3、4年生 1週目の授業でレベル分けテストを実施し、その結果により「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。 成績とともに配布される「『コンピュータリテラシⅠ』を再履修する皆さんへ」のプリントをよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。</p>
目標と評価：	<p>目標…表や図形を含む文書の作成・長文作成の機能を利用したレポート作成ができること。 P検準2級レベルの知識を身につける。</p> <p>評価…出席、課題、実技試験（文書作成、タイピング）により評価。 学内で実施するP検準2級に合格した場合は、単位の取得を保障する。 （2007年2月に全員受験）</p>
教科書：	Wordマスターブック 2003&2002対応 WindowsXP版 （株）毎日コミュニケーションズ
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシ I」（担当者：仲島 暁美）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシ I
担当者：	仲島 暁美
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>パソコン検定（P検）2005 4級程度の知識を有することを前提とします。 Microsoft Word2003を使用して、ワープロソフトによる文書作成の基本から長文作成までの活用機能を全般的に学びます。他授業のレポート作成に役立ち、さらに社会に出た時に即戦力となるよう、スムーズに文書作成が出来ることを目的に実習します。</p> <p>（注意） 成績評価、単位認定制度、P検受験の詳細について1週目の授業で説明するので、必ず出席すること。 1週目の授業は「基本クラス」と「マスタークラス」は合同で行う。</p>
授業方法：	<p>実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内に実施します。</p>
履修の留意点：	<p>○1年生 4月3日にパソコン設定会で実施するクラス分けテストの結果により、指定された「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。</p> <p>○2、3、4年生 1週目の授業でレベル分けテストを実施し、その結果により「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。 成績とともに配布される「『コンピュータリテラシ I』を再履修する皆さんへ」のプリントをよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。</p>
目標と評価：	<p>目標…表や図形を含む文書の作成・長文作成の機能を利用したレポート作成ができること。 P検準2級レベルの知識を身につける。</p> <p>評価…出席、課題、実技試験（文書作成、タイピング）により評価。 学内で実施するP検準2級に合格した場合は、単位の取得を保障する。 （2007年2月に全員受験）</p>
教科書：	Wordマスターブック 2003&2002対応 WindowsXP版 （株）毎日コミュニケーションズ
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシⅠ」（担当者：仲島 暁美）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅠ
担当者：	仲島 暁美
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>パソコン検定（P検）2005 4級程度の知識を有することを前提とします。 Microsoft Word2003を使用して、ワープロソフトによる文書作成の基本から長文作成までの活用機能を全般的に学びます。他授業のレポート作成に役立ち、さらに社会に出た時に即戦力となるよう、スムーズに文書作成が出来ることを目的に実習します。</p> <p>（注意） 成績評価、単位認定制度、P検受験の詳細について1週目の授業で説明するので、必ず出席すること。1週目の授業は「基本クラス」と「マスタークラス」は合同で行う。</p>
授業方法：	<p>実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内に実施します。</p>
履修の留意点：	<p>○1年生 4月3日にパソコン設定会で実施するクラス分けテストの結果により、指定された「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。</p> <p>○2、3、4年生 1週目の授業でレベル分けテストを実施し、その結果により「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。 成績とともに配布される「『コンピュータリテラシⅠ』を再履修する皆さんへ」のプリントをよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。</p>
目標と評価：	<p>目標…表や図形を含む文書の作成・長文作成の機能を利用したレポート作成ができること。 P検準2級レベルの知識を身につける。</p> <p>評価…出席、課題、実技試験（文書作成、タイピング）により評価。 学内で実施するP検準2級に合格した場合は、単位の取得を保障する。 （2007年2月に全員受験）</p>
教科書：	Wordマスターブック 2003&2002対応 WindowsXP版 （株）毎日コミュニケーションズ
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシⅠ」（担当者：仲島 暁美）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅠ
担当者：	仲島 暁美
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>パソコン検定（P検）2005 4級程度の知識を有することを前提とします。 Microsoft Word2003を使用して、ワープロソフトによる文書作成の基本から長文作成までの活用機能を全般的に学びます。他授業のレポート作成に役立ち、さらに社会に出た時に即戦力となるよう、スムーズに文書作成が出来ることを目的に実習します。</p> <p>（注意） 成績評価、単位認定制度、P検受験の詳細について1週目の授業で説明するので、必ず出席すること。 1週目の授業は「基本クラス」と「マスタークラス」は合同で行う。</p>
授業方法：	<p>実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内に実施します。</p>
履修の留意点：	<p>○1年生 4月3日にパソコン設定会で実施するクラス分けテストの結果により、指定された「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。</p> <p>○2、3、4年生 1週目の授業でレベル分けテストを実施し、その結果により「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。 成績とともに配布される「『コンピュータリテラシⅠ』を再履修する皆さんへ」のプリントをよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。</p>
目標と評価：	<p>目標…表や図形を含む文書の作成・長文作成の機能を利用したレポート作成ができること。 P検準2級レベルの知識を身につける。</p> <p>評価…出席、課題、実技試験（文書作成、タイピング）により評価。 学内で実施するP検準2級に合格した場合は、単位の取得を保障する。 （2007年2月に全員受験）</p>
教科書：	Wordマスターブック 2003&2002対応 WindowsXP版 （株）毎日コミュニケーションズ
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシⅠ」（担当者：仲島 暁美）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅠ
担当者：	仲島 暁美
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>パソコン検定（P検）2005 4級程度の知識を有することを前提とします。 Microsoft Word2003を使用して、ワープロソフトによる文書作成の基本から長文作成までの活用機能を全般的に学びます。他授業のレポート作成に役立ち、さらに社会に出た時に即戦力となるよう、スムーズに文書作成が出来ることを目的に実習します。</p> <p>（注意） 成績評価、単位認定制度、P検受験の詳細について1週目の授業で説明するので、必ず出席すること。 1週目の授業は「基本クラス」と「マスタークラス」は合同で行う。</p>
授業方法：	<p>実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内に実施します。</p>
履修の留意点：	<p>○1年生 4月3日にパソコン設定会で実施するクラス分けテストの結果により、指定された「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。</p> <p>○2、3、4年生 1週目の授業でレベル分けテストを実施し、その結果により「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。 成績とともに配布される「『コンピュータリテラシⅠ』を再履修する皆さんへ」のプリントをよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。</p>
目標と評価：	<p>目標…表や図形を含む文書の作成・長文作成の機能を利用したレポート作成ができること。 P検準2級レベルの知識を身につける。</p> <p>評価…出席、課題、実技試験（文書作成、タイピング）により評価。 学内で実施するP検準2級に合格した場合は、単位の取得を保障する。 （2007年2月に全員受験）</p>
教科書：	Wordマスターブック 2003&2002対応 WindowsXP版 （株）毎日コミュニケーションズ
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシⅠ」（担当者：仲島 暁美）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅠ
担当者：	仲島 暁美
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>パソコン検定（P検）2005 4級程度の知識を有することを前提とします。 Microsoft Word2003を使用して、ワープロソフトによる文書作成の基本から長文作成までの活用機能を全般的に学びます。他授業のレポート作成に役立ち、さらに社会に出た時に即戦力となるよう、スムーズに文書作成が出来ることを目的に実習します。</p> <p>（注意） 成績評価、単位認定制度、P検受験の詳細について1週目の授業で説明するので、必ず出席すること。 1週目の授業は「基本クラス」と「マスタークラス」は合同で行う。</p>
授業方法：	<p>実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内に実施します。</p>
履修の留意点：	<p>○1年生 4月3日にパソコン設定会で実施するクラス分けテストの結果により、指定された「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。</p> <p>○2、3、4年生 1週目の授業でレベル分けテストを実施し、その結果により「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。 成績とともに配布される「『コンピュータリテラシⅠ』を再履修する皆さんへ」のプリントをよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。</p>
目標と評価：	<p>目標…表や図形を含む文書の作成・長文作成の機能を利用したレポート作成ができること。 P検準2級レベルの知識を身につける。</p> <p>評価…出席、課題、実技試験（文書作成、タイピング）により評価。 学内で実施するP検準2級に合格した場合は、単位の取得を保障する。 （2007年2月に全員受験）</p>
教科書：	Wordマスターブック 2003&2002対応 WindowsXP版 （株）毎日コミュニケーションズ
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシⅠ」（担当者：仲島 暁美）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅠ
担当者：	仲島 暁美
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>パソコン検定（P検）2005 4級程度の知識を有することを前提とします。 Microsoft Word2003を使用して、ワープロソフトによる文書作成の基本から長文作成までの活用機能を全般的に学びます。他授業のレポート作成に役立ち、さらに社会に出た時に即戦力となるよう、スムーズに文書作成が出来ることを目的に実習します。</p> <p>（注意） 成績評価、単位認定制度、P検受験の詳細について1週目の授業で説明するので、必ず出席すること。 1週目の授業は「基本クラス」と「マスタークラス」は合同で行う。</p>
授業方法：	<p>実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内に実施します。</p>
履修の留意点：	<p>○1年生 4月3日にパソコン設定会で実施するクラス分けテストの結果により、指定された「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。</p> <p>○2、3、4年生 1週目の授業でレベル分けテストを実施し、その結果により「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。 成績とともに配布される「『コンピュータリテラシⅠ』を再履修する皆さんへ」のプリントをよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。</p>
目標と評価：	<p>目標…表や図形を含む文書の作成・長文作成の機能を利用したレポート作成ができること。 P検準2級レベルの知識を身につける。</p> <p>評価…出席、課題、実技試験（文書作成、タイピング）により評価。 学内で実施するP検準2級に合格した場合は、単位の取得を保障する。 （2007年2月に全員受験）</p>
教科書：	Wordマスターブック 2003&2002対応 WindowsXP版 （株）毎日コミュニケーションズ
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシⅠ」（担当者：堤 郁子）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅠ
担当者：	堤 郁子
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	Microsoft Word 2003を使用して、他の授業のレポート作成に役立ち、さらに社会に出たときに即戦力となれるよう、パソコン操作を身につけ、スムーズに文字入力や文書作成が出来ることを目的に実習します。 (注意) 成績評価、単位認定制度、P検受験の詳細について1週目の授業で説明するので、必ず出席すること。1週目の授業は「基本クラス」と「マスタークラス」は合同で行う。
授業方法：	実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内に実施します。
履修の留意点：	○1年生 4月3日にパソコン設定会で実施するクラス分けテストの結果により、指定された「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。 ○2、3、4年生 1週目の授業でレベル分けテストを実施し、その結果により「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。 成績とともに配布される「『コンピュータリテラシⅠ』を再履修する皆さんへ」のプリントをよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。
目標と評価：	目標…表や図形を含む文書を作成できること。 P検準2級レベルに近づく知識を身につける。 評価…出席、課題、実技試験（文書作成、タイピング）により評価。 学内で実施するP検準2級に合格した場合は、単位の取得を保障する。 （2007年2月に全員受験）
教科書：	はじめてのWord2003 基本編（WindowsXP版） 秀和システム
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシⅠ」（担当者：堤 郁子）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅠ
担当者：	堤 郁子
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	Microsoft Word 2003を使用して、他の授業のレポート作成に役立ち、さらに社会に出たときに即戦力となれるよう、パソコン操作を身につけ、スムーズに文字入力や文書作成が出来ることを目的に実習します。 (注意) 成績評価、単位認定制度、P検受験の詳細について1週目の授業で説明するので、必ず出席すること。1週目の授業は「基本クラス」と「マスタークラス」は合同で行う。
授業方法：	実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内に実施します。
履修の留意点：	○1年生 4月3日にパソコン設定会で実施するクラス分けテストの結果により、指定された「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。 ○2、3、4年生 1週目の授業でレベル分けテストを実施し、その結果により「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。 成績とともに配布される「『コンピュータリテラシⅠ』を再履修する皆さんへ」のプリントをよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。
目標と評価：	目標…表や図形を含む文書を作成できること。 P検準2級レベルに近づく知識を身につける。 評価…出席、課題、実技試験（文書作成、タイピング）により評価。 学内で実施するP検準2級に合格した場合は、単位の取得を保障する。 （2007年2月に全員受験）
教科書：	はじめてのWord2003 基本編（WindowsXP版） 秀和システム
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシⅠ」（担当者：堤 郁子）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅠ
担当者：	堤 郁子
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	Microsoft Word 2003を使用して、他の授業のレポート作成に役立ち、さらに社会に出たときに即戦力となれるよう、パソコン操作を身につけ、スムーズに文字入力や文書作成が出来ることを目的に実習します。 (注意) 成績評価、単位認定制度、P検受験の詳細について1週目の授業で説明するので、必ず出席すること。1週目の授業は「基本クラス」と「マスタークラス」は合同で行う。
授業方法：	実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内に実施します。
履修の留意点：	○1年生 4月3日にパソコン設定会で実施するクラス分けテストの結果により、指定された「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。 ○2、3、4年生 1週目の授業でレベル分けテストを実施し、その結果により「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。 成績とともに配布される「『コンピュータリテラシⅠ』を再履修する皆さんへ」のプリントをよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。
目標と評価：	目標…表や図形を含む文書を作成できること。 P検準2級レベルに近づく知識を身につける。 評価…出席、課題、実技試験（文書作成、タイピング）により評価。 学内で実施するP検準2級に合格した場合は、単位の取得を保障する。 （2007年2月に全員受験）
教科書：	はじめてのWord2003 基本編（WindowsXP版） 秀和システム
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシⅠ」（担当者：堤 郁子）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅠ
担当者：	堤 郁子
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	Microsoft Word 2003を使用して、他の授業のレポート作成に役立ち、さらに社会に出たときに即戦力となれるよう、パソコン操作を身につけ、スムーズに文字入力や文書作成が出来ることを目的に実習します。 (注意) 成績評価、単位認定制度、P検受験の詳細について1週目の授業で説明するので、必ず出席すること。1週目の授業は「基本クラス」と「マスタークラス」は合同で行う。
授業方法：	実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内に実施します。
履修の留意点：	○1年生 4月3日にパソコン設定会で実施するクラス分けテストの結果により、指定された「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。 ○2、3、4年生 1週目の授業でレベル分けテストを実施し、その結果により「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。 成績とともに配布される「『コンピュータリテラシⅠ』を再履修する皆さんへ」のプリントをよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。
目標と評価：	目標…表や図形を含む文書を作成できること。 P検準2級レベルに近づく知識を身につける。 評価…出席、課題、実技試験（文書作成、タイピング）により評価。 学内で実施するP検準2級に合格した場合は、単位の取得を保障する。 （2007年2月に全員受験）
教科書：	はじめてのWord2003 基本編（WindowsXP版） 秀和システム
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシⅠ」（担当者：堤 郁子）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅠ
担当者：	堤 郁子
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	Microsoft Word 2003を使用して、他の授業のレポート作成に役立ち、さらに社会に出たときに即戦力となれるよう、パソコン操作を身につけ、スムーズに文字入力や文書作成が出来ることを目的に実習します。 (注意) 成績評価、単位認定制度、P検受験の詳細について1週目の授業で説明するので、必ず出席すること。1週目の授業は「基本クラス」と「マスタークラス」は合同で行う。
授業方法：	実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習(11回)と、確認テスト(2回)を行います。 確認テストは授業内に実施します。
履修の留意点：	○1年生 4月3日にパソコン設定会で実施するクラス分けテストの結果により、指定された「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。 ○2、3、4年生 1週目の授業でレベル分けテストを実施し、その結果により「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。 成績とともに配布される「『コンピュータリテラシⅠ』を再履修する皆さんへ」のプリントをよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。
目標と評価：	目標…表や図形を含む文書を作成できること。 P検準2級レベルに近づく知識を身につける。 評価…出席、課題、実技試験(文書作成、タイピング)により評価。 学内で実施するP検準2級に合格した場合は、単位の取得を保障する。 (2007年2月に全員受験)
教科書：	はじめてのWord2003 基本編 (WindowsXP版) 秀和システム
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシⅠ」（担当者：堤 郁子）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅠ
担当者：	堤 郁子
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	Microsoft Word 2003を使用して、他の授業のレポート作成に役立ち、さらに社会に出たときに即戦力となれるよう、パソコン操作を身につけ、スムーズに文字入力や文書作成が出来ることを目的に実習します。 (注意) 成績評価、単位認定制度、P検受験の詳細について1週目の授業で説明するので、必ず出席すること。1週目の授業は「基本クラス」と「マスタークラス」は合同で行う。
授業方法：	実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内に実施します。
履修の留意点：	○1年生 4月3日にパソコン設定会で実施するクラス分けテストの結果により、指定された「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。 ○2、3、4年生 1週目の授業でレベル分けテストを実施し、その結果により「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。 成績とともに配布される「『コンピュータリテラシⅠ』を再履修する皆さんへ」のプリントをよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。
目標と評価：	目標…表や図形を含む文書を作成できること。 P検準2級レベルに近づく知識を身につける。 評価…出席、課題、実技試験（文書作成、タイピング）により評価。 学内で実施するP検準2級に合格した場合は、単位の取得を保障する。 （2007年2月に全員受験）
教科書：	はじめてのWord2003 基本編（WindowsXP版） 秀和システム
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシⅠ」（担当者：堤 郁子）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅠ
担当者：	堤 郁子
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	Microsoft Word 2003を使用して、他の授業のレポート作成に役立ち、さらに社会に出たときに即戦力となれるよう、パソコン操作を身につけ、スムーズに文字入力や文書作成が出来ることを目的に実習します。 (注意) 成績評価、単位認定制度、P検受験の詳細について1週目の授業で説明するので、必ず出席すること。1週目の授業は「基本クラス」と「マスタークラス」は合同で行う。
授業方法：	実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内に実施します。
履修の留意点：	○1年生 4月3日にパソコン設定会で実施するクラス分けテストの結果により、指定された「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。 ○2、3、4年生 1週目の授業でレベル分けテストを実施し、その結果により「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。 成績とともに配布される「『コンピュータリテラシⅠ』を再履修する皆さんへ」のプリントをよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。
目標と評価：	目標…表や図形を含む文書を作成できること。 P検準2級レベルに近づく知識を身につける。 評価…出席、課題、実技試験（文書作成、タイピング）により評価。 学内で実施するP検準2級に合格した場合は、単位の取得を保障する。 （2007年2月に全員受験）
教科書：	はじめてのWord2003 基本編（WindowsXP版） 秀和システム
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシⅠ」（担当者：堤 郁子）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅠ
担当者：	堤 郁子
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	Microsoft Word 2003を使用して、他の授業のレポート作成に役立ち、さらに社会に出たときに即戦力となれるよう、パソコン操作を身につけ、スムーズに文字入力や文書作成が出来ることを目的に実習します。 (注意) 成績評価、単位認定制度、P検受験の詳細について1週目の授業で説明するので、必ず出席すること。1週目の授業は「基本クラス」と「マスタークラス」は合同で行う。
授業方法：	実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内に実施します。
履修の留意点：	○1年生 4月3日にパソコン設定会で実施するクラス分けテストの結果により、指定された「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。 ○2、3、4年生 1週目の授業でレベル分けテストを実施し、その結果により「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。 成績とともに配布される「『コンピュータリテラシⅠ』を再履修する皆さんへ」のプリントをよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。
目標と評価：	目標…表や図形を含む文書を作成できること。 P検準2級レベルに近づく知識を身につける。 評価…出席、課題、実技試験（文書作成、タイピング）により評価。 学内で実施するP検準2級に合格した場合は、単位の取得を保障する。 （2007年2月に全員受験）
教科書：	はじめてのWord2003 基本編（WindowsXP版） 秀和システム
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピューテラシ I (特別上級クラス)」（担当者：細江 哲志）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人（細江 哲志先生）にお問合せ下さい。

「コンピュータリテラシⅡ」（担当者：仲島 暁美）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅡ
担当者：	仲島 暁美
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>パソコン検定（P検）2005 4級程度の知識を有することを前提とします。 Microsoft Excel 2003を使用して、表計算ソフトによる計算・グラフ・データベースの活用機能を全般的に学びます。他授業のレポート作成やデータの分析に役立ち、さらに社会に出た時に即戦力となるよう、スムーズにデータの活用ができることを目的に実習します。</p> <p>（注意） 成績評価、単位認定制度、P検受験の詳細について1週目の授業で説明するので、必ず出席すること。 1週目の授業は「基本クラス」と「マスタークラス」は合同で行う。</p>
授業方法：	<p>実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内に実施します。</p>
履修の留意点：	<p>○1年生 4月3日のパソコン設定会で実施したクラス分けテストの結果により、指定された「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。</p> <p>○2、3、4年生 1週目の授業でレベル分けテストを実施し、その結果により「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。 成績とともに配布される「『コンピュータリテラシⅠ』を再履修する皆さんへ」のプリントをよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。</p>
目標と評価：	<p>目標…計算・グラフ・データベース・自動集計などの機能を利用できること。 P検準2級レベルの知識を身につける。</p> <p>評価…出席、課題、実技試験（文書作成、タイピング）により評価。 学内で実施するP検準2級に合格した場合は、単位の取得を保障する。 （2007年2月に全員受験）</p>
教科書：	Excel力をつける本 Excel2003&2002対応 （株）毎日コミュニケーションズ
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシⅡ」（担当者：仲島 暁美）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅡ
担当者：	仲島 暁美
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>パソコン検定（P検）2005 4級程度の知識を有することを前提とします。 Microsoft Excel 2003を使用して、表計算ソフトによる計算・グラフ・データベースの活用機能を全般的に学びます。他授業のレポート作成やデータの分析に役立ち、さらに社会に出た時に即戦力となるよう、スムーズにデータの活用ができることを目的に実習します。</p> <p>（注意） 成績評価、単位認定制度、P検受験の詳細について1週目の授業で説明するので、必ず出席すること。 1週目の授業は「基本クラス」と「マスタークラス」は合同で行う。</p>
授業方法：	<p>実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内に実施します。</p>
履修の留意点：	<p>○1年生 4月3日のパソコン設定会で実施したクラス分けテストの結果により、指定された「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。</p> <p>○2、3、4年生 1週目の授業でレベル分けテストを実施し、その結果により「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。 成績とともに配布される「『コンピュータリテラシⅠ』を再履修する皆さんへ」のプリントをよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。</p>
目標と評価：	<p>目標…計算・グラフ・データベース・自動集計などの機能を利用できること。 P検準2級レベルの知識を身につける。</p> <p>評価…出席、課題、実技試験（文書作成、タイピング）により評価。 学内で実施するP検準2級に合格した場合は、単位の取得を保障する。 （2007年2月に全員受験）</p>
教科書：	Excel力をつける本 Excel2003&2002対応 （株）毎日コミュニケーションズ
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシⅡ」（担当者：仲島 暁美）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅡ
担当者：	仲島 暁美
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>パソコン検定（P検）2005 4級程度の知識を有することを前提とします。 Microsoft Excel 2003を使用して、表計算ソフトによる計算・グラフ・データベースの活用機能を全般的に学びます。他授業のレポート作成やデータの分析に役立ち、さらに社会に出た時に即戦力となるよう、スムーズにデータの活用ができることを目的に実習します。</p> <p>（注意） 成績評価、単位認定制度、P検受験の詳細について1週目の授業で説明するので、必ず出席すること。 1週目の授業は「基本クラス」と「マスタークラス」は合同で行う。</p>
授業方法：	<p>実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内に実施します。</p>
履修の留意点：	<p>○1年生 4月3日のパソコン設定会で実施したクラス分けテストの結果により、指定された「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。</p> <p>○2、3、4年生 1週目の授業でレベル分けテストを実施し、その結果により「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。 成績とともに配布される「『コンピュータリテラシⅠ』を再履修する皆さんへ」のプリントをよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。</p>
目標と評価：	<p>目標…計算・グラフ・データベース・自動集計などの機能を利用できること。 P検準2級レベルの知識を身につける。</p> <p>評価…出席、課題、実技試験（文書作成、タイピング）により評価。 学内で実施するP検準2級に合格した場合は、単位の取得を保障する。 （2007年2月に全員受験）</p>
教科書：	Excel力をつける本 Excel2003&2002対応 （株）毎日コミュニケーションズ
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシⅡ」（担当者：仲島 暁美）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅡ
担当者：	仲島 暁美
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>パソコン検定（P検）2005 4級程度の知識を有することを前提とします。 Microsoft Excel 2003を使用して、表計算ソフトによる計算・グラフ・データベースの活用機能を全般的に学びます。他授業のレポート作成やデータの分析に役立ち、さらに社会に出た時に即戦力となるよう、スムーズにデータの活用ができることを目的に実習します。</p> <p>（注意） 成績評価、単位認定制度、P検受験の詳細について1週目の授業で説明するので、必ず出席すること。 1週目の授業は「基本クラス」と「マスタークラス」は合同で行う。</p>
授業方法：	<p>実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内に実施します。</p>
履修の留意点：	<p>○1年生 4月3日のパソコン設定会で実施したクラス分けテストの結果により、指定された「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。</p> <p>○2、3、4年生 1週目の授業でレベル分けテストを実施し、その結果により「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。 成績とともに配布される「『コンピュータリテラシⅠ』を再履修する皆さんへ」のプリントをよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。</p>
目標と評価：	<p>目標…計算・グラフ・データベース・自動集計などの機能を利用できること。 P検準2級レベルの知識を身につける。</p> <p>評価…出席、課題、実技試験（文書作成、タイピング）により評価。 学内で実施するP検準2級に合格した場合は、単位の取得を保障する。 （2007年2月に全員受験）</p>
教科書：	Excel力をつける本 Excel2003&2002対応 （株）毎日コミュニケーションズ
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシⅡ」（担当者：仲島 暁美）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅡ
担当者：	仲島 暁美
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>パソコン検定（P検）2005 4級程度の知識を有することを前提とします。 Microsoft Excel 2003を使用して、表計算ソフトによる計算・グラフ・データベースの活用機能を全般的に学びます。他授業のレポート作成やデータの分析に役立ち、さらに社会に出た時に即戦力となるよう、スムーズにデータの活用ができることを目的に実習します。</p> <p>（注意） 成績評価、単位認定制度、P検受験の詳細について1週目の授業で説明するので、必ず出席すること。 1週目の授業は「基本クラス」と「マスタークラス」は合同で行う。</p>
授業方法：	<p>実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内に実施します。</p>
履修の留意点：	<p>○1年生 4月3日のパソコン設定会で実施したクラス分けテストの結果により、指定された「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。</p> <p>○2、3、4年生 1週目の授業でレベル分けテストを実施し、その結果により「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。 成績とともに配布される「『コンピュータリテラシⅠ』を再履修する皆さんへ」のプリントをよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。</p>
目標と評価：	<p>目標…計算・グラフ・データベース・自動集計などの機能を利用できること。 P検準2級レベルの知識を身につける。</p> <p>評価…出席、課題、実技試験（文書作成、タイピング）により評価。 学内で実施するP検準2級に合格した場合は、単位の取得を保障する。 （2007年2月に全員受験）</p>
教科書：	Excel力をつける本 Excel2003&2002対応 （株）毎日コミュニケーションズ
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシⅡ」（担当者：仲島 暁美）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅡ
担当者：	仲島 暁美
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>パソコン検定（P検）2005 4級程度の知識を有することを前提とします。 Microsoft Excel 2003を使用して、表計算ソフトによる計算・グラフ・データベースの活用機能を全般的に学びます。他授業のレポート作成やデータの分析に役立ち、さらに社会に出た時に即戦力となるよう、スムーズにデータの活用ができることを目的に実習します。</p> <p>（注意） 成績評価、単位認定制度、P検受験の詳細について1週目の授業で説明するので、必ず出席すること。 1週目の授業は「基本クラス」と「マスタークラス」は合同で行う。</p>
授業方法：	<p>実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内に実施します。</p>
履修の留意点：	<p>○1年生 4月3日のパソコン設定会で実施したクラス分けテストの結果により、指定された「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。</p> <p>○2、3、4年生 1週目の授業でレベル分けテストを実施し、その結果により「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。 成績とともに配布される「『コンピュータリテラシⅠ』を再履修する皆さんへ」のプリントをよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。</p>
目標と評価：	<p>目標…計算・グラフ・データベース・自動集計などの機能を利用できること。 P検準2級レベルの知識を身につける。</p> <p>評価…出席、課題、実技試験（文書作成、タイピング）により評価。 学内で実施するP検準2級に合格した場合は、単位の取得を保障する。 （2007年2月に全員受験）</p>
教科書：	Excel力をつける本 Excel2003&2002対応 （株）毎日コミュニケーションズ
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシⅡ」（担当者：仲島 暁美）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅡ
担当者：	仲島 暁美
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>パソコン検定（P検）2005 4級程度の知識を有することを前提とします。 Microsoft Excel 2003を使用して、表計算ソフトによる計算・グラフ・データベースの活用機能を全般的に学びます。他授業のレポート作成やデータの分析に役立ち、さらに社会に出た時に即戦力となるよう、スムーズにデータの活用ができることを目的に実習します。</p> <p>（注意） 成績評価、単位認定制度、P検受験の詳細について1週目の授業で説明するので、必ず出席すること。 1週目の授業は「基本クラス」と「マスタークラス」は合同で行う。</p>
授業方法：	<p>実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内に実施します。</p>
履修の留意点：	<p>○1年生 4月3日のパソコン設定会で実施したクラス分けテストの結果により、指定された「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。</p> <p>○2、3、4年生 1週目の授業でレベル分けテストを実施し、その結果により「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。 成績とともに配布される「『コンピュータリテラシⅠ』を再履修する皆さんへ」のプリントをよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。</p>
目標と評価：	<p>目標…計算・グラフ・データベース・自動集計などの機能を利用できること。 P検準2級レベルの知識を身につける。</p> <p>評価…出席、課題、実技試験（文書作成、タイピング）により評価。 学内で実施するP検準2級に合格した場合は、単位の取得を保障する。 （2007年2月に全員受験）</p>
教科書：	Excel力をつける本 Excel2003&2002対応 （株）毎日コミュニケーションズ
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシⅡ」（担当者：仲島 暁美）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅡ
担当者：	仲島 暁美
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>パソコン検定（P検）2005 4級程度の知識を有することを前提とします。 Microsoft Excel 2003を使用して、表計算ソフトによる計算・グラフ・データベースの活用機能を全般的に学びます。他授業のレポート作成やデータの分析に役立ち、さらに社会に出た時に即戦力となるよう、スムーズにデータの活用ができることを目的に実習します。</p> <p>（注意） 成績評価、単位認定制度、P検受験の詳細について1週目の授業で説明するので、必ず出席すること。 1週目の授業は「基本クラス」と「マスタークラス」は合同で行う。</p>
授業方法：	<p>実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内に実施します。</p>
履修の留意点：	<p>○1年生 4月3日のパソコン設定会で実施したクラス分けテストの結果により、指定された「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。</p> <p>○2、3、4年生 1週目の授業でレベル分けテストを実施し、その結果により「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。 成績とともに配布される「『コンピュータリテラシⅠ』を再履修する皆さんへ」のプリントをよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。</p>
目標と評価：	<p>目標…計算・グラフ・データベース・自動集計などの機能を利用できること。 P検準2級レベルの知識を身につける。</p> <p>評価…出席、課題、実技試験（文書作成、タイピング）により評価。 学内で実施するP検準2級に合格した場合は、単位の取得を保障する。 （2007年2月に全員受験）</p>
教科書：	Excel力をつける本 Excel2003&2002対応 （株）毎日コミュニケーションズ
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシⅡ」（担当者：堤 郁子）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅡ
担当者：	堤 郁子
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	Microsoft Excel 2003を使用して、他の授業のレポート作成に役立ち、さらに社会に出たときに即戦力となるよう、表計算や計算、グラフ作成、データベースが出来ることを目的に実習します。 (注意) 成績評価、単位認定制度、P検受験の詳細について1週目の授業で説明するので、必ず出席すること。1週目の授業は「基本クラス」と「マスタークラス」は合同で行う。
授業方法：	実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内に実施します。
履修の留意点：	○1年生 4月3日のパソコン設定会で実施したクラス分けテストの結果により、指定された「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。 ○2、3、4年生 1週目の授業でレベル分けテストを実施し、その結果により「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。 成績とともに配布される「『コンピュータリテラシⅠ』を再履修する皆さんへ」のプリントをよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。
目標と評価：	目標…表作成、計算、グラフ、データベースの基本機能を利用できること。 P検準2級レベルに近づく知識を身につける。 評価…出席、課題、実技試験（文書作成、タイピング）により評価。 学内で実施するP検準2級に合格した場合は、単位の取得を保障する。 （2007年2月に全員受験）
教科書：	速効！図解Excel2003 基本編（株）毎日コミュニケーションズ
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシⅡ」（担当者：堤 郁子）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅡ
担当者：	堤 郁子
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	Microsoft Excel 2003を使用して、他の授業のレポート作成に役立ち、さらに社会に出たときに即戦力となるよう、表計算や計算、グラフ作成、データベースが出来ることを目的に実習します。 (注意) 成績評価、単位認定制度、P検受験の詳細について1週目の授業で説明するので、必ず出席すること。1週目の授業は「基本クラス」と「マスタークラス」は合同で行う。
授業方法：	実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内に実施します。
履修の留意点：	○1年生 4月3日のパソコン設定会で実施したクラス分けテストの結果により、指定された「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。 ○2、3、4年生 1週目の授業でレベル分けテストを実施し、その結果により「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。 成績とともに配布される「『コンピュータリテラシⅠ』を再履修する皆さんへ」のプリントをよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。
目標と評価：	目標…表作成、計算、グラフ、データベースの基本機能を利用できること。 P検準2級レベルに近づく知識を身につける。 評価…出席、課題、実技試験（文書作成、タイピング）により評価。 学内で実施するP検準2級に合格した場合は、単位の取得を保障する。 （2007年2月に全員受験）
教科書：	速効！図解Excel2003 基本編（株）毎日コミュニケーションズ
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシⅡ」（担当者：堤 郁子）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅡ
担当者：	堤 郁子
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	Microsoft Excel 2003を使用して、他の授業のレポート作成に役立ち、さらに社会に出たときに即戦力となるよう、表計算や計算、グラフ作成、データベースが出来ることを目的に実習します。 (注意) 成績評価、単位認定制度、P検受験の詳細について1週目の授業で説明するので、必ず出席すること。1週目の授業は「基本クラス」と「マスタークラス」は合同で行う。
授業方法：	実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内に実施します。
履修の留意点：	○1年生 4月3日のパソコン設定会で実施したクラス分けテストの結果により、指定された「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。 ○2、3、4年生 1週目の授業でレベル分けテストを実施し、その結果により「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。 成績とともに配布される「『コンピュータリテラシⅠ』を再履修する皆さんへ」のプリントをよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。
目標と評価：	目標…表作成、計算、グラフ、データベースの基本機能を利用できること。 P検準2級レベルに近づく知識を身につける。 評価…出席、課題、実技試験（文書作成、タイピング）により評価。 学内で実施するP検準2級に合格した場合は、単位の取得を保障する。 （2007年2月に全員受験）
教科書：	速効！図解Excel2003 基本編（株）毎日コミュニケーションズ
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシⅡ」（担当者：堤 郁子）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅡ
担当者：	堤 郁子
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	Microsoft Excel 2003を使用して、他の授業のレポート作成に役立ち、さらに社会に出たときに即戦力となるよう、表計算や計算、グラフ作成、データベースが出来ることを目的に実習します。 (注意) 成績評価、単位認定制度、P検受験の詳細について1週目の授業で説明するので、必ず出席すること。1週目の授業は「基本クラス」と「マスタークラス」は合同で行う。
授業方法：	実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内に実施します。
履修の留意点：	○1年生 4月3日のパソコン設定会で実施したクラス分けテストの結果により、指定された「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。 ○2、3、4年生 1週目の授業でレベル分けテストを実施し、その結果により「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。 成績とともに配布される「『コンピュータリテラシⅠ』を再履修する皆さんへ」のプリントをよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。
目標と評価：	目標…表作成、計算、グラフ、データベースの基本機能を利用できること。 P検準2級レベルに近づく知識を身につける。 評価…出席、課題、実技試験（文書作成、タイピング）により評価。 学内で実施するP検準2級に合格した場合は、単位の取得を保障する。 （2007年2月に全員受験）
教科書：	速効！図解Excel2003 基本編（株）毎日コミュニケーションズ
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシⅡ」（担当者：堤 郁子）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅡ
担当者：	堤 郁子
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	Microsoft Excel 2003を使用して、他の授業のレポート作成に役立ち、さらに社会に出たときに即戦力となるよう、表計算や計算、グラフ作成、データベースが出来ることを目的に実習します。 (注意) 成績評価、単位認定制度、P検受験の詳細について1週目の授業で説明するので、必ず出席すること。1週目の授業は「基本クラス」と「マスタークラス」は合同で行う。
授業方法：	実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内に実施します。
履修の留意点：	○1年生 4月3日のパソコン設定会で実施したクラス分けテストの結果により、指定された「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。 ○2、3、4年生 1週目の授業でレベル分けテストを実施し、その結果により「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。 成績とともに配布される「『コンピュータリテラシⅠ』を再履修する皆さんへ」のプリントをよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。
目標と評価：	目標…表作成、計算、グラフ、データベースの基本機能を利用できること。 P検準2級レベルに近づく知識を身につける。 評価…出席、課題、実技試験（文書作成、タイピング）により評価。 学内で実施するP検準2級に合格した場合は、単位の取得を保障する。 （2007年2月に全員受験）
教科書：	速効！図解Excel2003 基本編（株）毎日コミュニケーションズ
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシⅡ」（担当者：堤 郁子）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅡ
担当者：	堤 郁子
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	Microsoft Excel 2003を使用して、他の授業のレポート作成に役立ち、さらに社会に出たときに即戦力となるよう、表計算や計算、グラフ作成、データベースが出来ることを目的に実習します。 (注意) 成績評価、単位認定制度、P検受験の詳細について1週目の授業で説明するので、必ず出席すること。1週目の授業は「基本クラス」と「マスタークラス」は合同で行う。
授業方法：	実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内に実施します。
履修の留意点：	○1年生 4月3日のパソコン設定会で実施したクラス分けテストの結果により、指定された「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。 ○2、3、4年生 1週目の授業でレベル分けテストを実施し、その結果により「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。 成績とともに配布される「『コンピュータリテラシⅠ』を再履修する皆さんへ」のプリントをよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。
目標と評価：	目標…表作成、計算、グラフ、データベースの基本機能を利用できること。 P検準2級レベルに近づく知識を身につける。 評価…出席、課題、実技試験（文書作成、タイピング）により評価。 学内で実施するP検準2級に合格した場合は、単位の取得を保障する。 （2007年2月に全員受験）
教科書：	速効！図解Excel2003 基本編（株）毎日コミュニケーションズ
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシⅡ」（担当者：堤 郁子）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅡ
担当者：	堤 郁子
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	Microsoft Excel 2003を使用して、他の授業のレポート作成に役立ち、さらに社会に出たときに即戦力となるよう、表計算や計算、グラフ作成、データベースが出来ることを目的に実習します。 (注意) 成績評価、単位認定制度、P検受験の詳細について1週目の授業で説明するので、必ず出席すること。1週目の授業は「基本クラス」と「マスタークラス」は合同で行う。
授業方法：	実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内に実施します。
履修の留意点：	○1年生 4月3日のパソコン設定会で実施したクラス分けテストの結果により、指定された「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。 ○2、3、4年生 1週目の授業でレベル分けテストを実施し、その結果により「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。 成績とともに配布される「『コンピュータリテラシⅠ』を再履修する皆さんへ」のプリントをよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。
目標と評価：	目標…表作成、計算、グラフ、データベースの基本機能を利用できること。 P検準2級レベルに近づく知識を身につける。 評価…出席、課題、実技試験（文書作成、タイピング）により評価。 学内で実施するP検準2級に合格した場合は、単位の取得を保障する。 （2007年2月に全員受験）
教科書：	速効！図解Excel2003 基本編（株）毎日コミュニケーションズ
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシⅡ」（担当者：堤 郁子）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅡ
担当者：	堤 郁子
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	Microsoft Excel 2003を使用して、他の授業のレポート作成に役立ち、さらに社会に出たときに即戦力となるよう、表計算や計算、グラフ作成、データベースが出来ることを目的に実習します。 (注意) 成績評価、単位認定制度、P検受験の詳細について1週目の授業で説明するので、必ず出席すること。1週目の授業は「基本クラス」と「マスタークラス」は合同で行う。
授業方法：	実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内に実施します。
履修の留意点：	○1年生 4月3日のパソコン設定会で実施したクラス分けテストの結果により、指定された「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。 ○2、3、4年生 1週目の授業でレベル分けテストを実施し、その結果により「基本クラス」または「マスタークラス」のいずれかを履修する。 成績とともに配布される「『コンピュータリテラシⅠ』を再履修する皆さんへ」のプリントをよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。
目標と評価：	目標…表作成、計算、グラフ、データベースの基本機能を利用できること。 P検準2級レベルに近づく知識を身につける。 評価…出席、課題、実技試験（文書作成、タイピング）により評価。 学内で実施するP検準2級に合格した場合は、単位の取得を保障する。 （2007年2月に全員受験）
教科書：	速効！図解Excel2003 基本編（株）毎日コミュニケーションズ
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシⅡ(特別上級クラス)」（担当者：細江 哲志）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人（細江 哲志先生）にお問合せ下さい。

「体育」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目名：	体育
担当者：	平田 貴
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部科学省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病というか、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会にむけて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。
授業方法：	1) オリエンテーション（授業計画・評価についての説明） 2) 実技：ゴルフ 3) 講義：実技理論・生涯スポーツ・その他 前半は実技を中心として行い、後半は講義を行う。 (雨天等の影響により授業予定が変更になることがある。)
履修の留意点：	授業の第1週目にオリエンテーションを行い、授業内容・評価・スケジュール・その他授業に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。
目標と評価：	最終評価基準の詳細は、第1回目の授業(オリエンテーション)で説明をする。実技試験は授業内試験とし、講義の評価も行う。基本的には実技科目なので、出欠席状況も含めた平常評価を重視する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「体育」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目名：	体育
担当者：	平田 貴
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部科学省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病というか、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会にむけて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。
授業方法：	1) オリエンテーション（授業計画・評価についてなどの説明） 2) 実技：ゴルフ 3) 講義：実技理論・生涯スポーツ・その他 前半は実技を中心として行い、後半は講義を行う。 （雨天等の影響により授業予定が変更になることがある。）
履修の留意点：	授業の第1週目にオリエンテーションを行い、授業内容・評価・スケジュール・その他授業に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。
目標と評価：	最終評価基準の詳細は、第1回目の授業（オリエンテーション）で説明をする。実技試験は授業内試験とし、講義の評価も行う。基本的には実技科目なので、出欠席状況も含めた平常評価を重視する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「体育」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目名：	体育
担当者：	平田 貴
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部科学省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病というか、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会にむけて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。
授業方法：	1) オリエンテーション（授業計画・評価についての説明） 2) 実技：ゴルフ 3) 講義：実技理論・生涯スポーツ・その他 前半は実技を中心として行い、後半は講義を行う。 （雨天等の影響により授業予定が変更になることがある。）
履修の留意点：	授業の第1週目にオリエンテーションを行い、授業内容・評価・スケジュール・その他授業に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。
目標と評価：	最終評価基準の詳細は、第1回目の授業（オリエンテーション）で説明をする。実技試験は授業内試験とし、講義の評価も行う。基本的には実技科目なので、出欠席状況も含めた平常評価を重視する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「体育」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目名：	体育
担当者：	平田 貴
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部科学省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病というか、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会にむけて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。
授業方法：	1) オリエンテーション（授業計画・評価についての説明） 2) 実技：ゴルフ 3) 講義：実技理論・生涯スポーツ・その他 前半は実技を中心として行い、後半は講義を行う。 （雨天等の影響により授業予定が変更になることがある。）
履修の留意点：	授業の第1週目にオリエンテーションを行い、授業内容・評価・スケジュール・その他授業に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。
目標と評価：	最終評価基準の詳細は、第1回目の授業（オリエンテーション）で説明をする。実技試験は授業内試験とし、講義の評価も行う。基本的には実技科目なので、出欠席状況も含めた平常評価を重視する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「体育」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目名：	体育
担当者：	平田 貴
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部科学省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病というか、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会にむけて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。
授業方法：	1) オリエンテーション（授業計画・評価についての説明） 2) 実技：ゴルフ 3) 講義：実技理論・生涯スポーツ・その他 前半は実技を中心として行い、後半は講義を行う。 （雨天等の影響により授業予定が変更になることがある。）
履修の留意点：	授業の第1週目にオリエンテーションを行い、授業内容・評価・スケジュール・その他授業に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。
目標と評価：	最終評価基準の詳細は、第1回目の授業（オリエンテーション）で説明をする。実技試験は授業内試験とし、講義の評価も行う。基本的には実技科目なので、出欠席状況も含めた平常評価を重視する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「体育」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目名：	体育
担当者：	平田 貴
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部科学省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病というか、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会にむけて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。
授業方法：	1) オリエンテーション（授業計画・評価についての説明） 2) 実技：ゴルフ 3) 講義：実技理論・生涯スポーツ・その他 前半は実技を中心として行い、後半は講義を行う。 (雨天等の影響により授業予定が変更になることがある。)
履修の留意点：	授業の第1週目にオリエンテーションを行い、授業内容・評価・スケジュール・その他授業に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。
目標と評価：	最終評価基準の詳細は、第1回目の授業(オリエンテーション)で説明をする。実技試験は授業内試験とし、講義の評価も行う。基本的には実技科目なので、出欠席状況も含めた平常評価を重視する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「体育（女子）」（担当者：星 ひろみ）の履修の手引き

科目名：	体育（女子）
担当者：	星 ひろみ
設置学期：	春
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病といえるが、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会にむけて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。
授業方法：	1) オリエンテーション（授業計画・評価についてなどの説明） 2) 講義：実技理論・女性と健康（女子のみ） 3) 実技：運動量が多くかつ、楽しめるスポーツを行う。 女子の場合：春学期…ゴルフ、エアロビクス・ダンス・講義 秋学期…ソフトバレーボール・講義
履修の留意点：	・春学期は実技中心（体育館及びグラウンド） ・秋学期は実技及び講義 * 授業の第1週目にオリエンテーションを行い授業内容・評価・スケジュール・その他体育に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。
目標と評価：	※：最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出しますが詳細は第1回目の授業（オリエンテーション）説明する。実技試験は春・秋それぞれ学期末、授業内試験とする。但し、実技科目なので出欠席を重視する。講義の評価も行う。 * 体育は出席を重視し、運動能力が低くとも、積極的にからだを動かし、結果として運動量の多い学生を評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「体育（女子）」（担当者：星 ひろみ）の履修の手引き

科目名：	体育（女子）
担当者：	星 ひろみ
設置学期：	春
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病といえるが、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会にむけて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。
授業方法：	1) オリエンテーション（授業計画・評価についてなどの説明） 2) 講義：実技理論・女性と健康（女子のみ） 3) 実技：運動量が多くかつ、楽しめるスポーツを行う。 女子の場合：春学期…ゴルフ、エアロビクス・ダンス・講義 秋学期…ソフトバレーボール・講義
履修の留意点：	・春学期は実技中心（体育館及びグラウンド） ・秋学期は実技及び講義 * 授業の第1週目にオリエンテーションを行い授業内容・評価・スケジュール・その他体育に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。
目標と評価：	※：最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出しますが詳細は第1回目の授業（オリエンテーション）説明する。実技試験は春・秋それぞれ学期末、授業内試験とする。但し、実技科目なので出欠席を重視する。講義の評価も行う。 * 体育は出席を重視し、運動能力が低くとも、積極的にからだを動かし、結果として運動量の多い学生を評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「体育（女子）」（担当者：星 ひろみ）の履修の手引き

科目名：	体育（女子）
担当者：	星 ひろみ
設置学期：	春
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病というか、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会にむけて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。
授業方法：	1) オリエンテーション（授業計画・評価についてなどの説明） 2) 講義：実技理論・女性と健康（女子のみ） 3) 実技：運動量が多くかつ、楽しめるスポーツを行う。 女子の場合：春学期…ゴルフ、エアロビクス・ダンス・講義 秋学期…ソフトバレーボール・講義
履修の留意点：	・春学期は実技中心（体育館及びグラウンド） ・秋学期は実技及び講義 * 授業の第1週目にオリエンテーションを行い授業内容・評価・スケジュール・その他体育に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。
目標と評価：	※：最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出しますが詳細は第1回目の授業（オリエンテーション）説明する。実技試験は春・秋それぞれ学期末、授業内試験とする。但し、実技科目なので出欠席を重視する。講義の評価も行う。 * 体育は出席を重視し、運動能力が低くとも、積極的にからだを動かし、結果として運動量の多い学生を評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「体育（女子）」（担当者：星 ひろみ）の履修の手引き

科目名：	体育（女子）
担当者：	星 ひろみ
設置学期：	春
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病といえるが、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会にむけて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。
授業方法：	1) オリエンテーション（授業計画・評価についてなどの説明） 2) 講義：実技理論・女性と健康（女子のみ） 3) 実技：運動量が多くかつ、楽しめるスポーツを行う。 女子の場合：春学期…ゴルフ、エアロビクス・ダンス・講義 秋学期…ソフトバレーボール・講義
履修の留意点：	・春学期は実技中心（体育館及びグラウンド） ・秋学期は実技及び講義 * 授業の第1週目にオリエンテーションを行い授業内容・評価・スケジュール・その他体育に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。
目標と評価：	※：最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出しますが詳細は第1回目の授業（オリエンテーション）説明する。実技試験は春・秋それぞれ学期末、授業内試験とする。但し、実技科目なので出欠席を重視する。講義の評価も行う。 * 体育は出席を重視し、運動能力が低くとも、積極的にからだを動かし、結果として運動量の多い学生を評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「体育」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目名：	体育
担当者：	平田 貴
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部科学省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病というか、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会にむけて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。
授業方法：	1) オリエンテーション（授業計画・評価についての説明） 2) 実技：ゴルフ 3) 講義：実技理論・生涯スポーツ・その他 前半は実技を中心として行い、後半は講義を行う。 (雨天等の影響により授業予定が変更になることがある。)
履修の留意点：	授業の第1週目にオリエンテーションを行い、授業内容・評価・スケジュール・その他授業に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。
目標と評価：	最終評価基準の詳細は、第1回目の授業(オリエンテーション)で説明をする。実技試験は授業内試験とし、講義の評価も行う。基本的には実技科目なので、出欠席状況も含めた平常評価を重視する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「体育」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目名：	体育
担当者：	平田 貴
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部科学省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病というか、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会にむけて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。
授業方法：	1) オリエンテーション（授業計画・評価についての説明） 2) 実技：ゴルフ 3) 講義：実技理論・生涯スポーツ・その他 前半は実技を中心として行い、後半は講義を行う。 （雨天等の影響により授業予定が変更になることがある。）
履修の留意点：	授業の第1週目にオリエンテーションを行い、授業内容・評価・スケジュール・その他授業に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。
目標と評価：	最終評価基準の詳細は、第1回目の授業（オリエンテーション）で説明をする。実技試験は授業内試験とし、講義の評価も行う。基本的には実技科目なので、出欠席状況も含めた平常評価を重視する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「体育」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目名：	体育
担当者：	平田 貴
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部科学省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病というか、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会にむけて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。
授業方法：	1) オリエンテーション（授業計画・評価についての説明） 2) 実技：ゴルフ 3) 講義：実技理論・生涯スポーツ・その他 前半は実技を中心として行い、後半は講義を行う。 (雨天等の影響により授業予定が変更になることがある。)
履修の留意点：	授業の第1週目にオリエンテーションを行い、授業内容・評価・スケジュール・その他授業に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。
目標と評価：	最終評価基準の詳細は、第1回目の授業(オリエンテーション)で説明をする。実技試験は授業内試験とし、講義の評価も行う。基本的には実技科目なので、出欠席状況も含めた平常評価を重視する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「体育」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目名：	体育
担当者：	平田 貴
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部科学省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病というか、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会にむけて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。
授業方法：	1) オリエンテーション（授業計画・評価についての説明） 2) 実技：ゴルフ 3) 講義：実技理論・生涯スポーツ・その他 前半は実技を中心として行い、後半は講義を行う。 （雨天等の影響により授業予定が変更になることがある。）
履修の留意点：	授業の第1週目にオリエンテーションを行い、授業内容・評価・スケジュール・その他授業に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。
目標と評価：	最終評価基準の詳細は、第1回目の授業（オリエンテーション）で説明をする。実技試験は授業内試験とし、講義の評価も行う。基本的には実技科目なので、出欠席状況も含めた平常評価を重視する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「体育」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目名：	体育
担当者：	平田 貴
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部科学省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病というか、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会にむけて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。
授業方法：	1) オリエンテーション（授業計画・評価についての説明） 2) 実技：ゴルフ 3) 講義：実技理論・生涯スポーツ・その他 前半は実技を中心として行い、後半は講義を行う。 （雨天等の影響により授業予定が変更になることがある。）
履修の留意点：	授業の第1週目にオリエンテーションを行い、授業内容・評価・スケジュール・その他授業に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。
目標と評価：	最終評価基準の詳細は、第1回目の授業（オリエンテーション）で説明をする。実技試験は授業内試験とし、講義の評価も行う。基本的には実技科目なので、出欠席状況も含めた平常評価を重視する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「体育」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目名：	体育
担当者：	平田 貴
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部科学省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病というか、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会にむけて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。
授業方法：	1) オリエンテーション（授業計画・評価についての説明） 2) 実技：ゴルフ 3) 講義：実技理論・生涯スポーツ・その他 前半は実技を中心として行い、後半は講義を行う。 （雨天等の影響により授業予定が変更になることがある。）
履修の留意点：	授業の第1週目にオリエンテーションを行い、授業内容・評価・スケジュール・その他授業に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。
目標と評価：	最終評価基準の詳細は、第1回目の授業（オリエンテーション）で説明をする。実技試験は授業内試験とし、講義の評価も行う。基本的には実技科目なので、出欠席状況も含めた平常評価を重視する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「体育（女子）」（担当者：星 ひろみ）の履修の手引き

科目名：	体育（女子）
担当者：	星 ひろみ
設置学期：	秋
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病というか、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会にむけて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。
授業方法：	1) オリエンテーション（授業計画・評価についての説明） 2) 講義：実技理論・女性と健康（女子のみ） 3) 実技：運動量が多くかつ、楽しめるスポーツを行う。 女子の場合：春学期…ゴルフ、エアロビクス・ダンス・講義 秋学期…ソフトバレーボール・講義
履修の留意点：	・春学期は実技中心（体育館及びグラウンド） ・秋学期は実技及び講義 * 授業の第1週目にオリエンテーションを行い授業内容・評価・スケジュール・その他体育に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。
目標と評価：	※：最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出しますが詳細は第1回目の授業（オリエンテーション）説明する。実技試験は春・秋それぞれ学期末、授業内試験とする。但し、実技科目なので出欠席を重視する。講義の評価も行う。 * 体育は出席を重視し、運動能力が低くとも、積極的にからだを動かし、結果として運動量の多い学生を評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「体育（女子）」（担当者：星 ひろみ）の履修の手引き

科目名：	体育（女子）
担当者：	星 ひろみ
設置学期：	秋
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病といえるが、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しさを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会にむけて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。
授業方法：	1) オリエンテーション（授業計画・評価についての説明） 2) 講義：実技理論・女性と健康（女子のみ） 3) 実技：運動量が多くかつ、楽しめるスポーツを行う。 女子の場合：春学期…ゴルフ、エアロビクス・ダンス・講義 秋学期…ソフトバレーボール・講義
履修の留意点：	・春学期は実技中心（体育館及びグラウンド） ・秋学期は実技及び講義 * 授業の第1週目にオリエンテーションを行い授業内容・評価・スケジュール・その他体育に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。
目標と評価：	※：最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出しますが詳細は第1回目の授業（オリエンテーション）説明する。実技試験は春・秋それぞれ学期末、授業内試験とする。但し、実技科目なので出欠席を重視する。講義の評価も行う。 * 体育は出席を重視し、運動能力が低くとも、積極的にからだを動かし、結果として運動量の多い学生を評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「体育（女子）」（担当者：星 ひろみ）の履修の手引き

科目名：	体育（女子）
担当者：	星 ひろみ
設置学期：	秋
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病といえるが、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会にむけて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。
授業方法：	1) オリエンテーション（授業計画・評価についての説明） 2) 講義：実技理論・女性と健康（女子のみ） 3) 実技：運動量が多くかつ、楽しめるスポーツを行う。 女子の場合：春学期…ゴルフ、エアロビクス・ダンス・講義 秋学期…ソフトバレーボール・講義
履修の留意点：	・春学期は実技中心（体育館及びグラウンド） ・秋学期は実技及び講義 * 授業の第1週目にオリエンテーションを行い授業内容・評価・スケジュール・その他体育に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。
目標と評価：	※：最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出しますが詳細は第1回目の授業（オリエンテーション）説明する。実技試験は春・秋それぞれ学期末、授業内試験とする。但し、実技科目なので出欠席を重視する。講義の評価も行う。 * 体育は出席を重視し、運動能力が低くとも、積極的にからだを動かし、結果として運動量の多い学生を評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「体育（女子）」（担当者：星 ひろみ）の履修の手引き

科目名：	体育（女子）
担当者：	星 ひろみ
設置学期：	秋
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病といえるが、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会にむけて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。
授業方法：	1) オリエンテーション（授業計画・評価についてなどの説明） 2) 講義：実技理論・女性と健康（女子のみ） 3) 実技：運動量が多くかつ、楽しめるスポーツを行う。 女子の場合：春学期…ゴルフ、エアロビクス・ダンス・講義 秋学期…ソフトバレーボール・講義
履修の留意点：	・春学期は実技中心（体育館及びグラウンド） ・秋学期は実技及び講義 * 授業の第1週目にオリエンテーションを行い授業内容・評価・スケジュール・その他体育に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。
目標と評価：	※：最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出しますが詳細は第1回目の授業（オリエンテーション）説明する。実技試験は春・秋それぞれ学期末、授業内試験とする。但し、実技科目なので出欠席を重視する。講義の評価も行う。 * 体育は出席を重視し、運動能力が低くとも、積極的にからだを動かし、結果として運動量の多い学生を評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「アカデミック・リーディング」(担当者: 田尻 慎太郎) の履修の手引き

科目名:	アカデミック・リーディング
担当者:	田尻 慎太郎
設置学期:	春
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	一年時の必修科目であるアカデミック・リーディング(春学期)とアカデミック・ライティング(秋学期)では、今後大学で授業を受け課題を提出する上で必須となる論文・レポートを書く力をみなさんの一人一人が身につけることを目標としています。実際に秋学期の後半では、受講者の全員が短いレポートを書くことが要求されます。また、こうした論理的な「読み書き」の能力は、卒業後みなさんがどのような進路に向かうにしても必要となるものです。それでは論文とかレポートって一体どのような文章なのでしょう？これまでみなさんは小中学校の国語や高校の現代文の授業で主に作文や読書感想文を書くことを習ってきたと思います。そこではみなさんの感情が読み手に伝わるような文章がうまい文章として評価されてきました。しかし大学の論文では、そうした感情はほとんど評価の対象とならず、事実に基づく主張と主張を導く論理構成のみが重要になります。また他人の文章を読むときには、なぜこう主張できるのかと批判的に読むことが求められます。つまり、「作文から論文」という意識改革を達成することが、本講義では非常に重要となります。
授業方法:	以下に示す共通授業計画に従って進めます。 第1回 インタロダクション 第2回 基礎文法と辞書・辞典 第3回 本と図書館 第4回 書籍文献データベース 第5回 新聞と雑誌 第6回 新聞DB・雑誌記事DB 第7回 インターネット検索・百科事典 第8回 中間グループ演習(検索宝探し) 第9回 良い文章・悪い文章 第10回 文章読解 第11回 論証① 第12回 論証② 第13回 期末テスト
履修の留意点:	毎回、パワーポイントによる講義資料を教室内で用いるとともに、学ナビに掲載します。また授業時間内にコンピュータを用いた演習を行いますので、各自、充電済みのノートPCを毎回持参すること。 特定の教科書は使いませんが、以下の本が非常に参考になります。 戸田山和久(2002)『論文の教室-レポートから卒論まで』NHK BOOKS(954)、日本放送出版協会 小笠原喜康(2002)『大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書(1603)、講談社 山内志朗(2001)『ぎりぎり合格への論文マニュアル』平凡社新書(103)、平凡社 大串夏身(2004)『文科系学生の情報術』、青弓社 また以下に挙げるように大学生向けの良質な読書ガイドが多数ありますので、これらを手に取り自分が興味を持つ本を見つけて実際に読んでみることを強く推奨します。 広島大学総合科学部101冊の本プロジェクト編(2005)『大学新入生に薦める101冊の本』、岩波書店 文藝春秋編(2004)『東大教師が新入生にすすめる本』文春新書、文藝春秋 佐高信(1992)『現代を読む100冊のノンフィクション』岩波新書、岩波書店 新書マップ・プレス編(2004)『新書マップ~知の窓口~』、日経BP社
目標と評価:	春学期のアカデミック・リーディングでは、①文章構造、②情報検索、③読解力・論理力の三点に重点を置いて、実習を盛り込んだスタイルで授業を進めていき、秋学期においてレポートを書くための準備としてそれぞれの基礎力をつけることを目標とします。 成績評価は出席(30点)、中間グループ演習(20点)、期末テスト(30点)、その他授業内課題による平常点(20点)で行います。
教科書:	
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「アカデミック・リーディング」（担当者：田尻 慎太郎）の履修の手引き

科目名：	アカデミック・リーディング
担当者：	田尻 慎太郎
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>一年時の必修科目であるアカデミック・リーディング（春学期）とアカデミック・ライティング（秋学期）では、今後大学で授業を受け課題を提出する上で必須となる論文・レポートを書く力をみなさんの一人一人が身につけることを目標としています。実際に秋学期の後半では、受講者の全員が短いレポートを書くことが要求されます。また、こうした論理的な「読み書き」の能力は、卒業後みなさんがどのような進路に向かうにしても必要となるものです。</p> <p>それでは論文とかレポートって一体どのような文章なのでしょう？これまでみなさんは小中学校の国語や高校の現代文の授業で主に作文や読書感想文を書くことを習ってきたと思います。そこではみなさんの感情が読み手に伝わるような文章がうまい文章として評価されてきました。しかし大学の論文では、そうした感情はほとんど評価の対象とならず、事実に基づく主張と主張を導く論理構成のみが重要になります。また他人の文章を読むときには、なぜこう主張できるのかと批判的に読むことが求められます。つまり、「作文から論文」という意識改革を達成することが、本講義では非常に重要となります。</p>
授業方法：	<p>以下に示す共通授業計画に従って進めます。</p> <p>第1回 インタロダクション 第2回 基礎文法と辞書・辞典 第3回 本と図書館 第4回 書籍文献データベース 第5回 新聞と雑誌 第6回 新聞DB・雑誌記事DB 第7回 インターネット検索・百科事典 第8回 中間グループ演習（検索宝探し） 第9回 良い文章・悪い文章 第10回 文章読解 第11回 論証① 第12回 論証② 第13回 期末テスト</p>
履修の留意点：	<p>毎回、パワーポイントによる講義資料を教室内で用いるとともに、学ナビに掲載します。また授業時間内にコンピュータを用いた演習を行いますので、各自、充電済みのノートPCを毎回持参すること。</p> <p>特定の教科書は使いませんが、以下の本が非常に参考になります。 戸田山和久（2002）『論文の教室－レポートから卒論まで』NHK BOOKS（954）、日本放送出版協会 小笠原喜康（2002）『大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書（1603）、講談社 山内志朗（2001）『ぎりぎり合格への論文マニュアル』平凡社新書（103）、平凡社 大串夏身（2004）『文科系学生の情報術』、青弓社</p> <p>また以下に挙げるように大学生向けの良質な読書ガイドが多数ありますので、これらを手に取り自分が興味を持つ本を見つけて実際に読んでみることを強く推奨します。</p> <p>広島大学総合科学部101冊の本プロジェクト編（2005）『大学新入生に薦める101冊の本』、岩波書店 文藝春秋編（2004）『東大教師が新入生にすすめる本』文春新書、文藝春秋 佐高信（1992）『現代を読む 100冊のノンフィクション』岩波新書、岩波書店 新書マップ・プレス編（2004）『新書マップ～知の窓口～』、日経BP社</p>
目標と評価：	<p>春学期のアカデミック・リーディングでは、①文章構造、②情報検索、③読解力・論理力の三点に重点を置いて、実習を盛り込んだスタイルで授業を進めていき、秋学期においてレポートを書くための準備としてそれぞれの基礎力をつけることを目標とします。</p> <p>成績評価は出席（30点）、中間グループ演習（20点）、期末テスト（30点）、その他授業内課題による平常点（20点）で行います。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「アカデミック・リーディング」（担当者：小菅 成一）の履修の手引き

科目名：	アカデミック・リーディング
担当者：	小菅 成一
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	一年時の必修科目であるアカデミック・リーディング（春学期）とアカデミック・ライティング（秋学期）では、今後大学で授業を受け課題を提出する上で必須となる論文・レポートを書く力をみなさんの一人一人が身につけることを目標としています。実際に秋学期の後半では、受講者の全員が短いレポートを書くことが要求されます。また、こうした論理的な「読み書き」の能力は、卒業後みなさんがどのような進路に向かうにしても必要となるものです。それでは論文とかレポートって一体どのような文章なのでしょう？これまでみなさんは小中学校の国語や高校の現代文の授業で主に作文や読書感想文を書くことを習ってきたと思います。そこではみなさんの感情が読み手に伝わるような文章がうまい文章として評価されてきました。しかし大学の論文では、そうした感情はほとんど評価の対象とならず、事実に基づく主張と主張を導く論理構成のみが重要になります。また他人の文章を読むときには、なぜこう主張できるのかと批判的に読むことが求められます。つまり、「作文から論文」という意識改革を達成することが、本講義では非常に重要となります。
授業方法：	以下に示す共通授業計画に従って進めます。 第1回 インTRODクション 第2回 基礎文法と辞書・辞典 第3回 本と図書館 第4回 書籍文献データベース 第5回 新聞と雑誌 第6回 新聞DB・雑誌記事DB 第7回 インターネット検索・百科事典 第8回 中間グループ演習（検索宝探し） 第9回 良い文章・悪い文章 第10回 文章読解 第11回 論証① 第12回 論証② 第13回 期末テスト
履修の留意点：	毎回、パワーポイントによる講義資料を教室内で用いるとともに、学ナビに掲載します。また授業時間内にコンピュータを用いた演習を行いますので、各自、充電済みのノートPCを毎回持参すること。
目標と評価：	春学期のアカデミック・リーディングでは、①文章構造、②情報検索、③読解力・論理力の三点に重点を置いて、実習を盛り込んだスタイルで授業を進めていき、秋学期においてレポートを書くための準備としてそれぞれの基礎力をつけることを目標とします。成績評価は出席（30点）、中間グループ演習（20点）、期末テスト（30点）、その他授業内課題による平常点（20点）で行います。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「アカデミック・リーディング」（担当者：石川 光晴）の履修の手引き

科目名：	アカデミック・リーディング
担当者：	石川 光晴
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>一年時の必修科目であるアカデミック・リーディング（春学期）とアカデミック・ライティング（秋学期）では、今後大学で授業を受け課題を提出する上で必須となる論文・レポートを書く力をみなさんの一人一人が身につけることを目標としています。実際に秋学期の後半では、受講者の全員が短いレポートを書くことが要求されます。また、こうした論理的な「読み書き」の能力は、卒業後みなさんがどのような進路に向かうにしても必要となるものです。</p> <p>それでは論文とかレポートって一体どのような文章なのでしょう？これまでみなさんは小中学校の国語や高校の現代文の授業で主に作文や読書感想文を書くことを習ってきたと思います。そこではみなさんの感情が読み手に伝わるような文章がうまい文章として評価されてきました。しかし大学の論文では、そうした感情はほとんど評価の対象とならず、事実に基づく主張と主張を導く論理構成のみが重要になります。また他人の文章を読むときには、なぜこう主張できるのかと批判的に読むことが求められます。つまり、「作文から論文」という意識改革を達成することが、本講義では非常に重要となります。</p>
授業方法：	<p>以下に示す共通授業計画に従って進めます。</p> <p>第1回 インタロダクション 第2回 基礎文法と辞書・辞典 第3回 本と図書館 第4回 書籍文献データベース 第5回 新聞と雑誌 第6回 新聞DB・雑誌記事DB 第7回 インターネット検索・百科事典 第8回 中間グループ演習（検索宝探し） 第9回 良い文章・悪い文章 第10回 文章読解 第11回 論証① 第12回 論証② 第13回 期末テスト</p>
履修の留意点：	<p>毎回、パワーポイントによる講義資料を教室内で用いるとともに、学ナビに掲載します。また授業時間内にコンピュータを用いた演習を行いますので、各自、充電済みのノートPCを毎回持参すること。</p> <p>教科書： 特定の教科書は使いませんが、以下の本が非常に参考になります。 戸田山和久（2002）『論文の教室－レポートから卒論まで』NHK BOOKS（954）、日本放送出版協会 小笠原喜康（2002）『大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書（1603）、講談社 山内志朗（2001）『ぎりぎり合格への論文マニュアル』平凡社新書（103）、平凡社 大串夏身（2004）『文科系学生の情報術』、青弓社</p> <p>参考書： 以下に挙げるように大学生向けの良質な読書ガイドが多数ありますので、これらを手に取り自分が興味を持つ本を見つけて実際に読んでみることを強く推奨します。</p> <p>広島大学総合科学部101冊の本プロジェクト編（2005）『大学新入生に薦める101冊の本』、岩波書店 文藝春秋編（2004）『東大教師が新入生にすすめる本』文春新書、文藝春秋 佐高信（1992）『現代を読む 100冊のノンフィクション』岩波新書、岩波書店 新書マップ・プレス編（2004）『新書マップ～知の窓口～』、日経BP社</p>
目標と評価：	<p>春学期のアカデミック・リーディングでは、①文章構造、②情報検索、③読解力・論理力の三点に重点を置いて、実習を盛り込んだスタイルで授業を進めていき、秋学期においてレポートを書くための準備としてそれぞれの基礎力をつけることを目標とします。</p> <p>成績評価は出席（30点）、中間グループ演習（20点）、期末テスト（30点）、その他授業内課題による平常点（20点）で行います。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「アカデミック・リーディング」（担当者：石川 光晴）の履修の手引き

科目名：	アカデミック・リーディング
担当者：	石川 光晴
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	一年時の必修科目であるアカデミック・リーディング（春学期）とアカデミック・ライティング（秋学期）では、今後大学で授業を受け課題を提出する上で必須となる論文・レポートを書く力をみなさんの一人一人が身につけることを目標としています。実際に秋学期の後半では、受講者の全員が短いレポートを書くことが要求されます。また、こうした論理的な「読み書き」の能力は、卒業後みなさんがどのような進路に向かうにしても必要となるものです。それでは論文とかレポートって一体どのような文章なのでしょう？これまでみなさんは小中学校の国語や高校の現代文の授業で主に作文や読書感想文を書くことを習ってきたと思います。そこではみなさんの感情が読み手に伝わるような文章がうまい文章として評価されてきました。しかし大学の論文では、そうした感情はほとんど評価の対象とならず、事実に基づく主張と主張を導く論理構成のみが重要になります。また他人の文章を読むときには、なぜこう主張できるのかと批判的に読むことが求められます。つまり、「作文から論文」という意識改革を達成することが、本講義では非常に重要となります。
授業方法：	以下に示す共通授業計画に従って進めます。 第1回 インタロダクション 第2回 基礎文法と辞書・辞典 第3回 本と図書館 第4回 書籍文献データベース 第5回 新聞と雑誌 第6回 新聞DB・雑誌記事DB 第7回 インターネット検索・百科事典 第8回 中間グループ演習（検索宝探し） 第9回 良い文章・悪い文章 第10回 文章読解 第11回 論証① 第12回 論証② 第13回 期末テスト
履修の留意点：	毎回、パワーポイントによる講義資料を教室内で用いるとともに、学ナビに掲載します。また授業時間内にコンピュータを用いた演習を行いますので、各自、充電済みのノートPCを毎回持参すること。 教科書： 特定の教科書は使いませんが、以下の本が非常に参考になります。 戸田山和久（2002）『論文の教室－レポートから卒論まで』NHK BOOKS（954）、日本放送出版協会 小笠原喜康（2002）『大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書（1603）、講談社 山内志朗（2001）『ぎりぎり合格への論文マニュアル』平凡社新書（103）、平凡社 大串夏身（2004）『文科系学生の情報術』、青弓社 参考書： 以下に挙げるように大学生向けの良質な読書ガイドが多数ありますので、これらを手に取り自分が興味を持つ本を見つけて実際に読んでみることを強く推奨します。 広島大学総合科学部101冊の本プロジェクト編（2005）『大学新入生に薦める101冊の本』、岩波書店 文藝春秋編（2004）『東大教師が新入生にすすめる本』文春新書、文藝春秋 佐高信（1992）『現代を読む 100冊のノンフィクション』岩波新書、岩波書店 新書マップ・プレス編（2004）『新書マップ～知の窓口～』、日経BP社
目標と評価：	春学期のアカデミック・リーディングでは、①文章構造、②情報検索、③読解力・論理力の三点に重点を置いて、実習を盛り込んだスタイルで授業を進めていき、秋学期においてレポートを書くための準備としてそれぞれの基礎力をつけることを目標とします。 成績評価は出席（30点）、中間グループ演習（20点）、期末テスト（30点）、その他授業内課題による平常点（20点）で行います。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「アカデミック・リーディング」（担当者：石川 光晴）の履修の手引き

科目名：	アカデミック・リーディング
担当者：	石川 光晴
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	一年時の必修科目であるアカデミック・リーディング（春学期）とアカデミック・ライティング（秋学期）では、今後大学で授業を受け課題を提出する上で必須となる論文・レポートを書く力をみなさんの一人一人が身につけることを目標としています。実際に秋学期の後半では、受講者の全員が短いレポートを書くことが要求されます。また、こうした論理的な「読み書き」の能力は、卒業後みなさんがどのような進路に向かうにしても必要となるものです。それでは論文とかレポートって一体どのような文章なのでしょう？これまでみなさんは小中学校の国語や高校の現代文の授業で主に作文や読書感想文を書くことを習ってきたと思います。そこではみなさんの感情が読み手に伝わるような文章がうまい文章として評価されてきました。しかし大学の論文では、そうした感情はほとんど評価の対象とならず、事実に基づく主張と主張を導く論理構成のみが重要になります。また他人の文章を読むときには、なぜこう主張できるのかと批判的に読むことが求められます。つまり、「作文から論文」という意識改革を達成することが、本講義では非常に重要となります。
授業方法：	以下に示す共通授業計画に従って進めます。 第1回 インタロダクション 第2回 基礎文法と辞書・辞典 第3回 本と図書館 第4回 書籍文献データベース 第5回 新聞と雑誌 第6回 新聞DB・雑誌記事DB 第7回 インターネット検索・百科事典 第8回 中間グループ演習（検索宝探し） 第9回 良い文章・悪い文章 第10回 文章読解 第11回 論証① 第12回 論証② 第13回 期末テスト
履修の留意点：	毎回、パワーポイントによる講義資料を教室内で用いるとともに、学ナビに掲載します。また授業時間内にコンピュータを用いた演習を行いますので、各自、充電済みのノートPCを毎回持参すること。 教科書： 特定の教科書は使いませんが、以下の本が非常に参考になります。 戸田山和久（2002）『論文の教室－レポートから卒論まで』NHK BOOKS（954）、日本放送出版協会 小笠原喜康（2002）『大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書（1603）、講談社 山内志朗（2001）『ぎりぎり合格への論文マニュアル』平凡社新書（103）、平凡社 大串夏身（2004）『文科系学生の情報術』、青弓社 参考書： 以下に挙げるように大学生向けの良質な読書ガイドが多数ありますので、これらを手に取り自分が興味を持つ本を見つけて実際に読んでみることを強く推奨します。 広島大学総合科学部101冊の本プロジェクト編（2005）『大学新入生に薦める101冊の本』、岩波書店 文藝春秋編（2004）『東大教師が新入生にすすめる本』文春新書、文藝春秋 佐高信（1992）『現代を読む 100冊のノンフィクション』岩波新書、岩波書店 新書マップ・プレス編（2004）『新書マップ～知の窓口～』、日経BP社
目標と評価：	春学期のアカデミック・リーディングでは、①文章構造、②情報検索、③読解力・論理力の三点に重点を置いて、実習を盛り込んだスタイルで授業を進めていき、秋学期においてレポートを書くための準備としてそれぞれの基礎力をつけることを目標とします。 成績評価は出席（30点）、中間グループ演習（20点）、期末テスト（30点）、その他授業内課題による平常点（20点）で行います。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「アカデミック・ライティング」(担当者: 田尻 慎太郎) の履修の手引き

科目名:	アカデミック・ライティング
担当者:	田尻 慎太郎
設置学期:	秋
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	一年時の必修科目であるアカデミック・リーディング(春学期)とアカデミック・ライティング(秋学期)では、今後大学で授業を受け課題を提出する上で必須となる論文・レポートを書く力をみなさんの一人一人が身につけることを目標としています。実際に秋学期の後半では、受講者の全員が短いレポートを書くことが要求されます。また、こうした論理的な「読み書き」の能力は、卒業後みなさんがどのような進路に向かうにしても必要となるものです。
授業方法:	以下に示す共通授業計画に従って進めます。
履修の留意点:	毎回、パワーポイントによる講義資料を教室内で用いるとともに、学ナビに掲載します。また授業時間内にコンピュータを用いた演習を行いますので、各自、充電済みのノートPCを毎回持参すること。
目標と評価:	春学期のアカデミック・リーディングでは、①文章構造、②情報検索、③読解力・論理力の三点に重点を置いて、実習を盛り込んだスタイルで授業を進めていき、秋学期においてレポートを書くための準備としてそれぞれの基礎力をつけることを目標とします。
教科書:	大学生と留学生のための論文ワークブック 浜田麻里・平尾得子・由井紀久子 くらしお出版 1997
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「アカデミック・ライティング」(担当者: 田尻 慎太郎) の履修の手引き

科目名:	アカデミック・ライティング
担当者:	田尻 慎太郎
設置学期:	秋
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	一年時の必修科目であるアカデミック・リーディング(春学期)とアカデミック・ライティング(秋学期)では、今後大学で授業を受け課題を提出する上で必須となる論文・レポートを書く力をみなさんの一人一人が身につけることを目標としています。実際に秋学期の後半では、受講者の全員が短いレポートを書くことが要求されます。また、こうした論理的な「読み書き」の能力は、卒業後みなさんがどのような進路に向かうにしても必要となるものです。
授業方法:	以下に示す共通授業計画に従って進めます。
履修の留意点:	毎回、パワーポイントによる講義資料を教室内で用いるとともに、学ナビに掲載します。また授業時間内にコンピュータを用いた演習を行いますので、各自、充電済みのノートPCを毎回持参すること。
目標と評価:	春学期のアカデミック・リーディングでは、①文章構造、②情報検索、③読解力・論理力の三点に重点を置いて、実習を盛り込んだスタイルで授業を進めていき、秋学期においてレポートを書くための準備としてそれぞれの基礎力をつけることを目標とします。
教科書:	大学生と留学生のための論文ワークブック 浜田麻里・平尾得子・由井紀久子 くらしお出版 1997
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「アカデミック・ライティング」(担当者:小菅 成一)の履修の手引き

科目名:	アカデミック・ライティング
担当者:	小菅 成一
設置学期:	秋
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	<p>一年時の必修科目であるアカデミック・リーディング(春学期)とアカデミック・ライティング(秋学期)では、今後大学で授業を受け課題を提出する上で必須となる論文・レポートを書く力をみなさんの一人一人が身につけることを目標としています。実際に秋学期の後半では、受講者の全員が短いレポートを書くことが要求されます。また、こうした論理的な「読み書き」の能力は、卒業後みなさんがどのような進路に向かうにしても必要となるものです。</p> <p>それでは論文とかレポートって一体どのような文章なのでしょう？これまでみなさんは小中学校の国語や高校の現代文の授業で主に作文や読書感想文を書くことを習ってきたと思います。そこではみなさんの感情が読み手に伝わるような文章がうまい文章として評価されてきました。しかし大学の論文では、そうした感情はほとんど評価の対象とならず、事実に基づく主張と主張を導く論理構成のみが重要になります。また他人の文章を読むときには、なぜこう主張できるのかと批判的に読むことが求められます。つまり、「作文から論文」という意識改革を達成することが、本講義では非常に重要となります。</p>
授業方法:	以下に示す共通授業計画に従って進めます。
履修の留意点:	毎回、パワーポイントによる講義資料を教室内で用いるとともに、学ナビに掲載します。また授業時間内にコンピュータを用いた演習を行いますので、各自、充電済みのノートPCを毎回持参すること。
目標と評価:	<p>春学期のアカデミック・リーディングでは、①文章構造、②情報検索、③読解力・論理力の三点に重点を置いて、実習を盛り込んだスタイルで授業を進めていき、秋学期においてレポートを書くための準備としてそれぞれの基礎力をつけることを目標とします。</p> <p>成績評価は出席(30点)、中間グループ演習(20点)、期末テスト(30点)、その他授業内課題による平常点(20点)で行います。</p>
教科書:	大学生と留学生のための論文ワークブック 浜田麻里・平尾得子・由井紀久子 くろしお出版 1997
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「アカデミック・ライティング」（担当者：石川 光晴）の履修の手引き

科目名：	アカデミック・ライティング
担当者：	石川 光晴
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	一年時の必修科目であるアカデミック・リーディング（春学期）とアカデミック・ライティング（秋学期）では、今後大学で授業を受け課題を提出する上で必須となる論文・レポートを書く力をみなさんの一人一人が身につけることを目標としています。実際に秋学期の後半では、受講者の全員が短いレポートを書くことが要求されます。また、こうした論理的な「読み書き」の能力は、卒業後みなさんがどのような進路に向かうにしても必要となるものです。
授業方法：	以下に示す共通授業計画に従って進めます。
履修の留意点：	毎回、パワーポイントによる講義資料を教室内で用いるとともに、学ナビに掲載します。また授業時間内にコンピュータを用いた演習を行いますので、各自、充電済みのノートPCを毎回持参すること。
目標と評価：	春学期のアカデミック・リーディングでは、①文章構造、②情報検索、③読解力・論理力の三点に重点を置いて、実習を盛り込んだスタイルで授業を進めていき、秋学期においてレポートを書くための準備としてそれぞれの基礎力をつけることを目標とします。
教科書：	大学生と留学生のための論文ワークブック 浜田麻里・平尾得子・由井紀久子 くろしお出版 1997
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「アカデミック・ライティング」（担当者：石川 光晴）の履修の手引き

科目名：	アカデミック・ライティング
担当者：	石川 光晴
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	一年時の必修科目であるアカデミック・リーディング（春学期）とアカデミック・ライティング（秋学期）では、今後大学で授業を受け課題を提出する上で必須となる論文・レポートを書く力をみなさんの一人一人が身につけることを目標としています。実際に秋学期の後半では、受講者の全員が短いレポートを書くことが要求されます。また、こうした論理的な「読み書き」の能力は、卒業後みなさんがどのような進路に向かうにしても必要となるものです。
授業方法：	以下に示す共通授業計画に従って進めます。
履修の留意点：	毎回、パワーポイントによる講義資料を教室内で用いるとともに、学ナビに掲載します。また授業時間内にコンピュータを用いた演習を行いますので、各自、充電済みのノートPCを毎回持参すること。
目標と評価：	春学期のアカデミック・リーディングでは、①文章構造、②情報検索、③読解力・論理力の三点に重点を置いて、実習を盛り込んだスタイルで授業を進めていき、秋学期においてレポートを書くための準備としてそれぞれの基礎力をつけることを目標とします。
教科書：	大学生と留学生のための論文ワークブック 浜田麻里・平尾得子・由井紀久子 くろしお出版 1997
参考書：	

※最終評価は、評価点7割，出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「アカデミック・ライティング」（担当者：石川 光晴）の履修の手引き

科目名：	アカデミック・ライティング
担当者：	石川 光晴
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	一年時の必修科目であるアカデミック・リーディング（春学期）とアカデミック・ライティング（秋学期）では、今後大学で授業を受け課題を提出する上で必須となる論文・レポートを書く力をみなさんの一人一人が身につけることを目標としています。実際に秋学期の後半では、受講者の全員が短いレポートを書くことが要求されます。また、こうした論理的な「読み書き」の能力は、卒業後みなさんがどのような進路に向かうにしても必要となるものです。
授業方法：	以下に示す共通授業計画に従って進めます。
履修の留意点：	毎回、パワーポイントによる講義資料を教室内で用いるとともに、学ナビに掲載します。また授業時間内にコンピュータを用いた演習を行いますので、各自、充電済みのノートPCを毎回持参すること。
目標と評価：	春学期のアカデミック・リーディングでは、①文章構造、②情報検索、③読解力・論理力の三点に重点を置いて、実習を盛り込んだスタイルで授業を進めていき、秋学期においてレポートを書くための準備としてそれぞれの基礎力をつけることを目標とします。
教科書：	大学生と留学生のための論文ワークブック 浜田麻里・平尾得子・由井紀久子 くろしお出版 1997
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ビジネスキャリア基礎Ⅰ」（担当者：松浦 聡）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人（松浦 聡先生）にお問合せ下さい。

「ビジネスキャリア基礎Ⅱ」（担当者：松浦 聡）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人（松浦 聡先生）にお問合せ下さい。

「ボディ&フィットネス」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目名：	ボディ&フィットネス
担当者：	平田 貴
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部科学省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病というが、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しさを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会にむけて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。
授業方法：	1) オリエンテーション（授業計画・評価についての説明） 2) 実技：ゴルフ 3) 講義：実技理論・生涯スポーツ・その他 前半は実技を中心として行い、後半は講義を行う。 （雨天等の影響により授業予定が変更になることがある。）
履修の留意点：	授業の第1週目にオリエンテーションを行い、授業内容・評価・スケジュール・その他授業に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。
目標と評価：	最終評価基準の詳細は、第1回目の授業（オリエンテーション）で説明をする。実技試験は授業内試験とし、講義の評価も行う。基本的には実技科目なので、出欠席状況も含めた平常評価を重視する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ボディ&フィットネス」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目名：	ボディ&フィットネス
担当者：	平田 貴
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部科学省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病というか、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しさを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会にむけて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。
授業方法：	1) オリエンテーション（授業計画・評価についての説明） 2) 実技：ゴルフ 3) 講義：実技理論・生涯スポーツ・その他 前半は実技を中心として行い、後半は講義を行う。 （雨天等の影響により授業予定が変更になることがある。）
履修の留意点：	授業の第1週目にオリエンテーションを行い、授業内容・評価・スケジュール・その他授業に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。
目標と評価：	最終評価基準の詳細は、第1回目の授業（オリエンテーション）で説明をする。実技試験は授業内試験とし、講義の評価も行う。基本的には実技科目なので、出欠席状況も含めた平常評価を重視する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ボディ&フィットネス」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目名：	ボディ&フィットネス
担当者：	平田 貴
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部科学省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病というか、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しさを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会にむけて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。
授業方法：	1) オリエンテーション（授業計画・評価についての説明） 2) 実技：ゴルフ 3) 講義：実技理論・生涯スポーツ・その他 前半は実技を中心として行い、後半は講義を行う。 (雨天等の影響により授業予定が変更になることがある。)
履修の留意点：	授業の第1週目にオリエンテーションを行い、授業内容・評価・スケジュール・その他授業に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。
目標と評価：	最終評価基準の詳細は、第1回目の授業(オリエンテーション)で説明をする。実技試験は授業内試験とし、講義の評価も行う。基本的には実技科目なので、出欠席状況も含めた平常評価を重視する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ボディ&フィットネス」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目名：	ボディ&フィットネス
担当者：	平田 貴
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部科学省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病というか、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しさを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会にむけて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。
授業方法：	1) オリエンテーション（授業計画・評価についての説明） 2) 実技：ゴルフ 3) 講義：実技理論・生涯スポーツ・その他 前半は実技を中心として行い、後半は講義を行う。 （雨天等の影響により授業予定が変更になることがある。）
履修の留意点：	授業の第1週目にオリエンテーションを行い、授業内容・評価・スケジュール・その他授業に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。
目標と評価：	最終評価基準の詳細は、第1回目の授業（オリエンテーション）で説明をする。実技試験は授業内試験とし、講義の評価も行う。基本的には実技科目なので、出欠席状況も含めた平常評価を重視する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ボディ&フィットネス」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目名：	ボディ&フィットネス
担当者：	平田 貴
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部科学省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病というか、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会にむけて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。
授業方法：	1) オリエンテーション（授業計画・評価についての説明） 2) 実技：ゴルフ 3) 講義：実技理論・生涯スポーツ・その他 前半は実技を中心として行い、後半は講義を行う。 （雨天等の影響により授業予定が変更になることがある。）
履修の留意点：	授業の第1週目にオリエンテーションを行い、授業内容・評価・スケジュール・その他授業に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。
目標と評価：	最終評価基準の詳細は、第1回目の授業（オリエンテーション）で説明をする。実技試験は授業内試験とし、講義の評価も行う。基本的には実技科目なので、出欠席状況も含めた平常評価を重視する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ボディ&フィットネス」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目名：	ボディ&フィットネス
担当者：	平田 貴
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部科学省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病というが、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しさを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会にむけて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。
授業方法：	1) オリエンテーション（授業計画・評価についての説明） 2) 実技：ゴルフ 3) 講義：実技理論・生涯スポーツ・その他 前半は実技を中心として行い、後半は講義を行う。 (雨天等の影響により授業予定が変更になることがある。)
履修の留意点：	授業の第1週目にオリエンテーションを行い、授業内容・評価・スケジュール・その他授業に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。
目標と評価：	最終評価基準の詳細は、第1回目の授業(オリエンテーション)で説明をする。実技試験は授業内試験とし、講義の評価も行う。基本的には実技科目なので、出欠席状況も含めた平常評価を重視する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ボディ&フィットネス」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目名：	ボディ&フィットネス
担当者：	平田 貴
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部科学省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病というか、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会にむけて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。
授業方法：	1) オリエンテーション（授業計画・評価についての説明） 2) 実技：ゴルフ 3) 講義：実技理論・生涯スポーツ・その他 前半は実技を中心として行い、後半は講義を行う。 (雨天等の影響により授業予定が変更になることがある。)
履修の留意点：	授業の第1週目にオリエンテーションを行い、授業内容・評価・スケジュール・その他授業に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。
目標と評価：	最終評価基準の詳細は、第1回目の授業(オリエンテーション)で説明をする。実技試験は授業内試験とし、講義の評価も行う。基本的には実技科目なので、出欠席状況も含めた平常評価を重視する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ボディ&フィットネス」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目名：	ボディ&フィットネス
担当者：	平田 貴
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部科学省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病というか、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会にむけて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。
授業方法：	1) オリエンテーション（授業計画・評価についての説明） 2) 実技：ゴルフ 3) 講義：実技理論・生涯スポーツ・その他 前半は実技を中心として行い、後半は講義を行う。 (雨天等の影響により授業予定が変更になることがある。)
履修の留意点：	授業の第1週目にオリエンテーションを行い、授業内容・評価・スケジュール・その他授業に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。
目標と評価：	最終評価基準の詳細は、第1回目の授業(オリエンテーション)で説明をする。実技試験は授業内試験とし、講義の評価も行う。基本的には実技科目なので、出欠席状況も含めた平常評価を重視する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ボディ&フィットネス」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目名：	ボディ&フィットネス
担当者：	平田 貴
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部科学省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病というか、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会にむけて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。
授業方法：	1) オリエンテーション（授業計画・評価についての説明） 2) 実技：ゴルフ 3) 講義：実技理論・生涯スポーツ・その他 前半は実技を中心として行い、後半は講義を行う。 (雨天等の影響により授業予定が変更になることがある。)
履修の留意点：	授業の第1週目にオリエンテーションを行い、授業内容・評価・スケジュール・その他授業に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。
目標と評価：	最終評価基準の詳細は、第1回目の授業(オリエンテーション)で説明をする。実技試験は授業内試験とし、講義の評価も行う。基本的には実技科目なので、出欠席状況も含めた平常評価を重視する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ボディ&フィットネス」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目名：	ボディ&フィットネス
担当者：	平田 貴
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部科学省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病というか、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しさを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会にむけて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。
授業方法：	1) オリエンテーション（授業計画・評価についての説明） 2) 実技：ゴルフ 3) 講義：実技理論・生涯スポーツ・その他 前半は実技を中心として行い、後半は講義を行う。 (雨天等の影響により授業予定が変更になることがある。)
履修の留意点：	授業の第1週目にオリエンテーションを行い、授業内容・評価・スケジュール・その他授業に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。
目標と評価：	最終評価基準の詳細は、第1回目の授業(オリエンテーション)で説明をする。実技試験は授業内試験とし、講義の評価も行う。基本的には実技科目なので、出欠席状況も含めた平常評価を重視する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ボディ&フィットネス」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目名：	ボディ&フィットネス
担当者：	平田 貴
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部科学省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病というか、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しさを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会にむけて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。
授業方法：	1) オリエンテーション（授業計画・評価についての説明） 2) 実技：ゴルフ 3) 講義：実技理論・生涯スポーツ・その他 前半は実技を中心として行い、後半は講義を行う。 (雨天等の影響により授業予定が変更になることがある。)
履修の留意点：	授業の第1週目にオリエンテーションを行い、授業内容・評価・スケジュール・その他授業に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。
目標と評価：	最終評価基準の詳細は、第1回目の授業(オリエンテーション)で説明をする。実技試験は授業内試験とし、講義の評価も行う。基本的には実技科目なので、出欠席状況も含めた平常評価を重視する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ボディ&フィットネス」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目名：	ボディ&フィットネス
担当者：	平田 貴
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部科学省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病というか、我々の生活レベルが向上し、全てのもが便利になり、結果としてからだを動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会にむけて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。
授業方法：	1) オリエンテーション（授業計画・評価についての説明） 2) 実技：ゴルフ 3) 講義：実技理論・生涯スポーツ・その他 前半は実技を中心として行い、後半は講義を行う。 （雨天等の影響により授業予定が変更になることがある。）
履修の留意点：	授業の第1週目にオリエンテーションを行い、授業内容・評価・スケジュール・その他授業に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。
目標と評価：	最終評価基準の詳細は、第1回目の授業（オリエンテーション）で説明をする。実技試験は授業内試験とし、講義の評価も行う。基本的には実技科目なので、出欠席状況も含めた平常評価を重視する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「総合コミュニケーション演習」（担当者：藤井 秀子）の履修の手引き

科目名：	総合コミュニケーション演習
担当者：	藤井 秀子
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>ビジネスコミュニケーション学科では「社会の扉を開く3つの柱」のひとつとして1年次にこの科目を設置しており、嘉悦ならではの基幹科目のひとつです。この科目では大学で学ぶための基本的な『学習スキル』と、ビジネスシーンにおける基本的な『コミュニケーション能力』を学生と教員の双方向の動きの中で、アクティブに学びます。</p> <p>具体的には、春学期には『学習スキル』の習得を目指しますが、最初に、「仲間を知ろう」ということで自己紹介やインタビューゲームなどを行い、ゼミ生同士の情報交換を行います。その後はコンピュータを用いた情報検索能力の育成、レポートライティングのスキル、文章の読解方法と表現方法のスキルを学び、ビジネスシーンにおける基礎的なコミュニケーションスキルを学びます。</p> <p>秋学期にはパソコンを用いたプレゼンテーション、ロールプレイングによる模擬面接などを行い、『コミュニケーション能力』向上のためのスキルを中心に勉強し、各人の持つ自己表現能力を向上させるとともに、より高度なレベルにまで発展させてゆきます。</p>
授業方法：	<p>1年間を通じて「話す能力・聞く能力」を習得するために、皆の前で話す機会を多くする授業方法をとります。</p> <p>春学期は、はじめに自己紹介をいろいろな方法で行い、印象的な話し方やマナーを学びます。次に学外の方のお話を聞いたり、学内の方々へのインタビューを行ってさらに話し方を磨きます。その他に基本的な学習スキル習得のために、時々新聞のコラムや随筆を読んだり、レポート作成の仕方も取り入れます。</p> <p>秋学期には、さらに話す能力向上のため、3分間スピーチや最近のニュースについての解説と感想の発表などを行います。後半、対話形式のコミュニケーションとして、ロールプレイングによる模擬面接や接客業務や営業業務の話し方も学びます。</p>
履修の留意点：	<p>「人前で話す」ということに慣れるために、恥ずかしがらず積極的に話す心構えを持ってほしい。それ以前に「話す内容」がなくては話せませんので、いつも本や新聞を読んで、話題や考えを広げる努力をしていただきたいと思います。</p>
目標と評価：	<p>*目標①1年の最後には、きちんと自分の思うことが自分の言葉で話せる人間になること。 ②自分の周りにある様々な事柄から学び取る意欲のある人間になること。</p> <p>*評価①以下の3点からの総合評価とする。 ①発表やロールプレイングの内容と態度 ②レポートや感想文などの提出物 ③出席日数</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「総合コミュニケーション演習」（担当者：安富 成良）の履修の手引き

科目名：	総合コミュニケーション演習
担当者：	安富 成良
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	ビジネスコミュニケーション学科では「社会の扉を開く3つの柱」の1つの基幹科目としてこの科目を設置しています。この科目では大学で学ぶための基本的な『学習スキル』と、ビジネスシーンにおける基本的な『コミュニケーション能力』を学生と教員の双方向の動きの中でアクティブに学びます。春学期では「学習スキル」の習得を目指し、初回に「仲間を知ろう」というテーマで他己紹介やインタビューゲームを行い、ゼミ生同士の情報を交換します。その後の授業ではコンピュータを使っての情報検索、レポートライティングや文章読解法、表現方法などを学び、ビジネス現場での基本的コミュニケーション能力の育成を目指します。秋学期ではプレゼンテーションやロールプレイングによる模擬面接などを行い、「意思伝達能力」の向上を図り、受講生の自己表現能力の習得を目指します。
授業方法：	グループによる作業や討論、個人・グループによる（共同）研究、口頭発表、教員による講義などにより授業を展開してゆきます。 履修の留意点：まずは欠席をしないこと、積極的に授業に取り組むということを基本としてゼミ生同士が協力し信頼しあってゆく姿勢を大切にしてください。
履修の留意点：	特にナ
目標と評価：	出席重視で提出物、口頭発表、授業への取り組む姿勢などを総合的に判断します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「総合コミュニケーション演習」（担当者：石川 直弘）の履修の手引き

科目名：	総合コミュニケーション演習
担当者：	石川 直弘
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>大学で学ぶための基本的な「学習スキル」と、将来のビジネスシーンでの「コミュニケーション能力」の向上をめざす。</p> <p>春学期は「学習スキル」の習得、秋学期は「コミュニケーション能力」の向上を中心にした参加型の授業が行われる。</p> <p>具体的には、「ノートのとり方」、「レポートの書き方」、「文献検索」、「図書館活用術」、「思考法」、「情報処理法」等について学ぶ。</p> <p>さらに、「プレゼンテーション」、「ディスカッション」、「ディベート」を実際に行って、表現力、説得力の向上をめざす。</p>
授業方法：	発表、意見交換、実習等、学生が自ら参加して学んでいく。
履修の留意点：	積極的に、前向きに取り組む姿勢が強く求められる。
目標と評価：	授業中の発表内容、提出されたレポートの内容等を総合的に判断して評価する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「総合コミュニケーション演習」（担当者：宮本 勉）の履修の手引き

科目名：	総合コミュニケーション演習
担当者：	宮本 勉
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>ビジネスコミュニケーション学科では「社会の扉を開く3つの柱」のひとつとして1年次にこの科目を設置しており、嘉悦ならではの基幹科目の一つです。この科目では大学で学ぶための基本的な『学習スキル』と、ビジネスシーンにおける基本的な『コミュニケーション能力』を学生と教員の双方向の動きの中でアクティブに学びます。具体的には春学期には『学習スキル』の習得を目指しますが、最初に、「仲間を知ろう」ということで自己紹介やインタビューゲームなどを行い、ゼミ生同士の情報交換を行います。その後はコンピュータを用いた情報検索能力の育成、レポートライティングのスキル、文章の読解方法と表現方法のスキルを学び、ビジネスシーンにおける基礎的なコミュニケーションスキルを学びます。秋学期にはパソコンを用いたプレゼンテーション、ロールプレイングによる模擬面接などを行い、『コミュニケーション能力』向上のためのスキルを中心に勉強し、各人の持つ自己表現能力を向上させるとともに、より高度なレベルにまで発展させてゆきます。</p>
授業方法：	一方通行の講義だけでなく、皆が参加し、体験を通して学べる授業にしたい。
履修の留意点：	『コミュニケーション能力』を学生と教員の双方向の動きの中でアクティブに
目標と評価：	[目標]
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「総合コミュニケーション演習」（担当者：松嶋 哲雄）の履修の手引き

科目名：	総合コミュニケーション演習
担当者：	松嶋 哲雄
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	ビジネスコミュニケーション学科では「社会の扉を開く3つの柱」の1つの基幹科目としてこの科目を設置しています。この科目では大学で学ぶための基本的な『学習スキル』と、ビジネスシーンにおける基本的な『コミュニケーション能力』を学生と教員の双方向の動きの中でアクティブに学びます。
授業方法：	グループによる作業や討論、個人・グループによる（共同）研究、口頭発表、教員による講義などにより授業を展開してゆきます。
履修の留意点：	特にナシ
目標と評価：	出席重視で提出物、口頭発表、授業への取り組む姿勢などを総合的に判断します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「総合コミュニケーション演習」（担当者：古閑 博美）の履修の手引き

科目名：	総合コミュニケーション演習
担当者：	古閑 博美
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	ビジネスコミュニケーション学科では「社会の扉を開く3つの柱」の1つの基幹科目としてこの科目を設置しています。この科目では大学で学ぶための基本的な『学習スキル』と、ビジネスシーンにおける基本的な『コミュニケーション能力』を学生と教員の双方向の動きの中でアクティブに学びます。
授業方法：	グループによる作業や討論、個人・グループによる（共同）研究、口頭発表、教員による講義などにより授業を展開してゆきます。
履修の留意点：	特にナシ
目標と評価：	出席重視で提出物、口頭発表、授業への取り組む姿勢などを総合的に判断します。
教科書：	FYS講座 大学で学ぼう・大学を学ぼう 古閑博美編著 学文社 2005年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「総合コミュニケーション演習」（担当者：森 康夫）の履修の手引き

科目名：	総合コミュニケーション演習
担当者：	森 康夫
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	ビジネスコミュニケーション学科では「社会の扉を開く3つの柱」のひとつとして1年次にこの科目を設置しており、嘉悦ならではの基幹科目の一つです。この科目では大学で学ぶための基本的な『学習スキル』と、ビジネスシーンにおける基本的な『コミュニケーション能力』を学生と教員の双方向の動きの中でアクティブに学びます。具体的には春学期には『学習スキル』の習得を目指しますが、最初に、「仲間を知ろう」ということで自己紹介やインタビューゲームなどを行い、ゼミ生同士の情報交換を行います。その後はコンピュータを用いた情報検索能力の育成、レポートライティングのスキル、文章の読解方法と表現方法のスキルを学び、ビジネスシーンにおける基礎的なコミュニケーションスキルを学びます。秋学期にはパソコンを用いたプレゼンテーション、ロールプレイングによる模擬面接などを行い、『コミュニケーション能力』向上のためのスキルを中心に勉強し、各人の持つ自己表現能力を向上させるとともに、より高度なレベルにまで発展させてゆきます。
授業方法：	一方通行の講義だけでなく、皆が参加し、体験を通して学べる授業にしたい。難しい授業ではなく、楽しみながら学べる授業を目指したいと思っています。
履修の留意点：	『コミュニケーション能力』を学生と教員の双方向の動きの中でアクティブに学ぶということですから、積極的に発言して欲しいし、いろいろなアイデアも出して欲しい。 *一番の留意点は「授業を休まないように頑張って来て欲しい」と言うことです。
目標と評価：	[目標] 1、自分で考え、行動できるようになること。 2、筋道を立てて、論理的に考えられるようになること。 [評価] 1、1年間どれだけ自分を鍛えられたか。一生懸命にできたか。 2、それぞれの目標に達したかどうか。 *上記の点を考慮し、授業態度や提出物、発表などにより評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「総合コミュニケーション演習」（担当者：星 ひろみ）の履修の手引き

科目名：	総合コミュニケーション演習
担当者：	星 ひろみ
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	ビジネスコミュニケーション学科では「社会の扉を開く3つの柱」の1つの基幹科目としてこの科目を設置しています。この科目では大学で学ぶための基本的な『学習スキル』と、ビジネスシーンにおける基本的な『コミュニケーション能力』を学生と教員の双方向の動きの中でアクティブに学びます。
授業方法：	グループによる作業や討論、個人・グループによる（共同）研究、口頭発表、教員による講義などにより授業を展開してゆきます。
履修の留意点：	特にナシ
目標と評価：	出席重視で提出物、口頭発表、授業への取り組む姿勢などを総合的に判断します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「総合コミュニケーション演習」（担当者：馮 雪梅）の履修の手引き

科目名：	総合コミュニケーション演習
担当者：	馮 雪梅
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	ビジネスコミュニケーション学科では「社会の扉を開く3つの柱」の1つの基幹科目としてこの科目を設置しています。この科目では大学で学ぶための基本的な『学習スキル』と、ビジネスシーンにおける基本的な『コミュニケーション能力』を学生と教員の双方向の動きの中でアクティブに学びます。
授業方法：	グループによる作業や討論、個人・グループによる（共同）研究、口頭発表、教員による講義などにより授業を展開してゆきます。
履修の留意点：	特にナシ
目標と評価：	出席重視で提出物、口頭発表、授業への取り組む姿勢などを総合的に判断します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「総合コミュニケーション演習」（担当者：田尻 慎太郎）の履修の手引き

科目名：	総合コミュニケーション演習
担当者：	田尻 慎太郎
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	ビジネスコミュニケーション学科では「社会の扉を開く3つの柱」の1つの基幹科目としてこの科目を設置しています。この科目では大学で学ぶための基本的な『学習スキル』と、ビジネスシーンにおける基本的な『コミュニケーション能力』を学生と教員の双方向の動きの中でアクティブに学びます。春学期では「学習スキル」の習得を目指し、初回に「仲間を知ろう」というテーマで他己紹介やインタビュゲームを行い、ゼミ生同士の情報を交換します。その後の授業ではコンピュータを使っての情報検索、レポートライティングや文章読解法、表現方法などを学び、ビジネス現場での基本的コミュニケーション能力の育成を目指します。秋学期ではプレゼンテーションやロールプレイングによる模擬面接などを行い、「意思伝達能力」の向上を図り、受講生の自己表現能力の習得を目指します。
授業方法：	グループによる作業や討論、個人・グループによる（共同）研究、口頭発表、教員による講義などにより授業を展開してゆきます。 履修の留意点： まずは欠席をしないこと、積極的に授業に取り組むということを基本としてゼミ生同士が協力し信頼しあってゆく姿勢を大切にしてください。
履修の留意点：	特にナ
目標と評価：	出席重視で提出物、口頭発表、授業への取り組む姿勢などを総合的に判断します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「キャリアデザインⅠ」（担当者：石川 直弘）の履修の手引き

科目名：	キャリアデザインⅠ
担当者：	石川 直弘
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	この講座は、現在そして将来にわたって、自分のキャリアをどのように設計していくかを考えるためのものである。 具体的には、企業の経営者・人事担当者等を講師として招き、「大学生活の充実」「働くということ」「学生時代にみにつけてほしいこと」等のテーマで講演を行う。 その後には、「職業適性」「資格」についての理解を深める講座が用意されている。 さらに人事・教育・キャリア開発支援の専門家を招いて、わかりやすく、きめこまやかな指導を行う。
授業方法：	講演、シンポジウム、実習
履修の留意点：	毎回出席し、積極的に取り組む姿勢が求められる。
目標と評価：	自主的にキャリアデザインを考え、それを実現していくための方法を探す。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「キャリアデザインⅡ」（担当者：石川 直弘）の履修の手引き

科目名：	キャリアデザインⅡ
担当者：	石川 直弘
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	就職試験の対策として、高校までに学んだ知識の拡充をはかる目的で行う。 時事問題、言語能力、数的処理を中心にして、人文科学・自然科学・社会科学の各領域における基礎的な知識の十分な習得をめざす。
授業方法：	講義
履修の留意点：	毎回出席し、積極的に取り組む姿勢が求められる。
目標と評価：	学期末に提出する総合レポートによって単位を認定する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語コミュニケーションⅠ」（担当者：細江 哲志）の履修の手引き

科目名：	日本語コミュニケーションⅠ
担当者：	細江 哲志
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>本講義は、「問題発見に役立つコミュニケーション」を学ぶことが目的です。</p> <p>試験や問題集のように「回答が必ずある」ことばかりではないのが、この世の中です。むしろ「そもそも何が問題だろう？（解決すべき課題だろう？）」を発見する必要があるからこそ、実社会は難しく、また面白いのです。（例：新製品開発、政策立案など）</p> <p>こういった意識のもと、この授業では次の三つのスキルの向上を目指します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 社会を捉える情報を読み解く力 2) 自分が伝えるべき内容を適切にまとめ、正しい日本語で表現する力 3) 異なる立場にいる人とのコミュニケーションを通じ、新しい知識や意見を創り上げる力 <p>総合的な日本語コミュニケーションスキルの向上を目指しますが、授業で活用するメソッドとして、Current Affaires（時事問題をとりあげ議論する授業形態）やShow & Tell（国際的な取引や交渉の場で活躍するビジネスパーソンが、プレゼンテーション能力を身につけるための演習法）などを応用していきます。</p> <p>さらに、これらの作業に必要なコミュニケーションの作法や、各種資料作成に必要なメディアリテラシーについて学びます。</p> <p>一連の基礎的な演習を通じて、社会に出た際にビジネスの現場で必要となる総合的な表現力を身につけるのが本講義の狙いです。</p> <p>「よりよい問題解決」があるように、「よりよい問題発見」があることをみなさんが学ぶことができれば、この講義は成功です。</p>
授業方法：	基本的に演習を通じて行いますので、学生諸君の積極的な参加を期待します。
履修の留意点：	各種メディア（新聞、ニュース雑誌、インターネットの記事）やパソコンを利用する予定ですので、これらへ自在にアクセスできるよう準備しておいてください。
目標と評価：	日本語コミュニケーションⅠの目標は、1) 各種メディアから時事問題等を議題として取り上げ、2) その内容を情報ツールの活用を通じて適切なかたちへ要約し、3) 第三者と共有するための「効果的な資料」を作成することです。これらの目標を段階的に達成していくために、定期的に課題を出し、その達成度をもとに総合的に評価します。なお、試験期間中の筆答試験は行わない予定です。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語コミュニケーションⅠ」（担当者：原田 桂）の履修の手引き

科目名：	日本語コミュニケーションⅠ
担当者：	原田 桂
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	ここ最近、日本語をクイズ形式で問うテレビ番組が多く見られ、母語である日本語が注目されている。日常的に日本語へ目を向ける機会として歓迎できるブームであろう。しかし、ことわざや漢字といった語彙だけでは、コミュニケーションを成り立たせるのは難しい。情報化社会である現代においては、正確かつ的確に用件を文章化する能力が必要不可欠とさえ言われている。この授業では、論理的に物事をとらえ、明確に表現するための基礎をベースに、〈読み手〉〈書き手〉の言語表現を中心に考えていきたい。
授業方法：	〈読む・書く〉ことを主体とし、様々な文章を通して、問題点を指摘する方法で授業を進めたい。さらに、基礎的な文章表現のルールを確認し、レポートや小論文、手紙やEメール、ビジネス文書等、目的に合わせたコミュニケーションの形式を実践すべく、プリントを用いて学習する。
履修の留意点：	毎時、授業時に課題を提出してもらうため、出席状況が評価に影響する。
目標と評価：	取り上げた文章を通して、基礎的な日本語表現を確認しつつ、その背後にある構造やテーマを論理的な思考を用いて、自らの文章により表現できるようにする。さらに、定期試験と併せて総合的に判断する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語コミュニケーションⅠ」（担当者：高根沢 紀子）の履修の手引き

科目名：	日本語コミュニケーションⅠ
担当者：	高根沢 紀子
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	普段日本語を母語として使用している私たちは、当たり前日本語でコミュニケーションが取れると考えてしまいがちであるが、実際はだからこそ難しい問題が起こりやすいのが事実である。現代は、電子メールで簡単にコミュニケーションが取れる時代であるが、相手の見えないやり取りは文章力を問われることにもなる。現代はその場にあった多様な日本語表現能力が必要とされる時代でもあるのだ。コミュニケーションは情報を正しく伝達し相互理解が図られなくてはならない。正しく伝達するためには、相手の要求を理解する、読解力が必要不可欠であることはいまでもない。いかに上手に日本語を話せたとしても、求められている内容を読むことなしには、意味をなさないのである。この授業では、要求されている内容を読み、何を伝達すべきかを明確に表現することについて考えていく。
授業方法：	読むこと・書くことを中心に、具体的な文章を読み、課題を作成し問題点を明らかにする形で進めていく。また、日本語表現の基礎を確認しつつ、小論文・レポート、さらに一般的な文書（手紙・メールの文章）やビジネス文書など、多様な日本語表現でのコミュニケーションについてプリント学習を中心に授業を行う。
履修の留意点：	毎時、何らかの課題を提出してもらうので、欠席は大きく評価に影響する。
目標と評価：	基本的な日本語表現を学び、文章を的確に読み、論理的な日本語表現ができるようにする。定期試験に毎時の課題、授業態度を加味し評価する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語コミュニケーションⅠ」（担当者：高根沢 紀子）の履修の手引き

科目名：	日本語コミュニケーションⅠ
担当者：	高根沢 紀子
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	普段日本語を母語として使用している私たちは、当たり前日本語でコミュニケーションが取れると考えてしまいがちであるが、実際はだからこそ難しい問題が起こりやすいのが事実である。現代は、電子メールで簡単にコミュニケーションが取れる時代であるが、相手の見えないやり取りは文章力を問われることにもなる。現代はその場にあった多様な日本語表現能力が必要とされる時代でもあるのだ。コミュニケーションは情報を正しく伝達し相互理解が図られなくてはならない。正しく伝達するためには、相手の要求を理解する、読解力が必要不可欠であることはいまでもない。いかに上手に日本語を話せたとしても、求められている内容を読むことなしには、意味をなさないからである。この授業では、要求されている内容を読み、何を伝達すべきかを明確に表現することについて考えていく。
授業方法：	読むこと・書くことを中心に、具体的な文章を読み、課題を作成し問題点を明らかにする形で進めていく。また、日本語表現の基礎を確認しつつ、小論文・レポート、さらに一般的な文書（手紙・メールの文章）やビジネス文書など、多様な日本語表現でのコミュニケーションについてプリント学習を中心に授業を行う。
履修の留意点：	毎時、何らかの課題を提出してもらうので、欠席は大きく評価に影響する。
目標と評価：	基本的な日本語表現を学び、文章を的確に読み、論理的な日本語表現ができるようにする。定期試験に毎時の課題、授業態度を加味し評価する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語コミュニケーションⅡ」（担当者：細江 哲志）の履修の手引き

科目名：	日本語コミュニケーションⅡ
担当者：	細江 哲志
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>本講義は、「問題発見に役立つコミュニケーション」を学ぶことが目的です。</p> <p>試験や問題集のように「回答が必ずある」ことばかりではないのが、この世の中です。むしろ「そもそも何が問題だろう？（解決すべき課題だろう？）」を発見する必要があるからこそ、実社会は難しく、また面白いのです。（例：新製品開発、政策立案など）</p> <p>こういった意識のもと、この授業では次の三つのスキルの向上を目指します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 社会を捉える情報を読み解く力 2) 自分が伝えるべき内容を適切にまとめ、正しい日本語で表現する力 3) 異なる立場にいる人とのコミュニケーションを通じ、新しい知識や意見を創り上げる力 <p>総合的な日本語コミュニケーションスキルの向上を目指しますが、授業で活用するメソッドとして、Current Affaires（時事問題をとりあげ議論する授業形態）やShow & Tell（国際的な取引や交渉の場で活躍するビジネスパーソンが、プレゼンテーション能力を身につけるための演習法）などを応用していきます。</p> <p>さらに、日本語コミュニケーションⅡでは、春学期に行われた授業（日本語コミュニケーションⅠ）で培ったコミュニケーションの方法や、表現のスキル、そしてメディアリテラシーを活用しながら、グループワーク形式の実践的な演習を行います。</p> <p>一連の基礎的な演習を通じて、社会に出た際にビジネスの現場で必要となる総合的な表現力を身につけるのが本講義の狙いです。</p> <p>「よりよい問題解決」があるように、「よりよい問題発見」があることをみなさんが学ぶことができれば、この講義は成功です。</p>
授業方法：	基本的に演習を通じて行いますので、学生諸君の積極的な参加を期待します。
履修の留意点：	<p>「日本語コミュニケーションⅠ」の履修を必ずしも前提とはしませんが、できるだけ継続して受講するようにしてください。春学期までに「日本語コミュニケーションⅠ」を履修していない者は、講義開始時に講師にその旨を伝え、講義を受けるに当たって必要となる要件について説明を受け、各自で準備してください。</p> <p>また、各種メディア（新聞、ニュース雑誌、インターネットの記事）やパソコンを利用する予定ですので、これらへ自在にアクセスできるよう準備しておいてください。</p>
目標と評価：	<p>日本語コミュニケーションⅡの目標は、1) 各種メディアから時事問題等を議題として取り上げ、2) その内容を情報ツールの活用を通じて適切なかたちへ要約し、3) 第三者と共有するための「効果的なコミュニケーションの場」を形成することです。これらの目標を段階的に達成していくために、定期的なグループワークを中心とした演習を行い、その達成度をもとに総合的に評価します。なお、試験期間中の筆答試験は行わない予定です。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語コミュニケーションⅡ」（担当者：原田 桂）の履修の手引き

科目名：	日本語コミュニケーションⅡ
担当者：	原田 桂
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	一般に〈話し上手は聞き上手〉と言われている。一方的な問わず語りではなく、その場に合った適切な表現を用い、対話上で発信と着信の関係をスムーズに成り立たせることは決して容易ではないだろう。そこでこの授業では、個々の状況に適した会話表現のトレーニングを重ねることで、日本語を正確にやりとりできる対話力を身に付けたい。さらに、日本語の特性である敬語表現の正しい使い方を理解し身に付けながら、ビジネスシーンにおける会話表現等を実践してもらおう。
授業方法：	〈話す・聞く〉ことを主体とし、様々な用途に適したコミュニケーションのあり方を実践していく。具体的に場面を設定し、話し手の意志が正確に聞き手へ伝えられるようにするためには、どのような問題をクリアすればよいのか、話し合いを交えながら進める。
履修の留意点：	授業での積極性を重視するため、出席状況が評価に影響する。
目標と評価：	様々な用途に適した対話表現を習得し、個々に応用できる能力を身に付ける。さらに、定期試験と併せて総合的に判断する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語コミュニケーションⅡ」（担当者：高根沢 紀子）の履修の手引き

科目名：	日本語コミュニケーションⅡ
担当者：	高根沢 紀子
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	普段日本語で話し、同世代の友人と話すことが多い学生時代においては、場面にあった表現を学ぶ機会には以外と少ないのではないだろうか。この授業では、日本語で話すことの難しさを知り、その場面にあったコミュニケーションを取ることを考えていく。他の言語と比較しても特別難しいとされている敬語については、日本人の特性・文化を背負っているものであることを理解し、難しいとあきらめてしまわず、自然な敬語表現を身につけたい。また、ビジネスの場面で使用される会話を中心に、円滑なコミュニケーションがとれるスキルを学んで貰う。
授業方法：	それぞれの場面での（たとえばビジネスでの電話対応の仕方など）、コミュニケーションのとり方を会話中心に学ぶ。その場面・立場にあった話し方を、具体的に場面を想定し、実際に会話して貰いながら、問題点を明らかにする形で進めていく。相手に伝わらない話し方とはどういうものなのか、どうすれば伝わる話し方になるのかなどの問題について、話し合いながら進めて行く。
履修の留意点：	積極的に授業に参加し、発言する態度を求める。毎時、小テストを行うので欠席は大きく評価に影響する。
目標と評価：	場面にあった会話での日本語の運用能力を身につける。 定期試験に毎時の小テスト、授業態度を加味し評価する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語コミュニケーションⅡ」（担当者：高根沢 紀子）の履修の手引き

科目名：	日本語コミュニケーションⅡ
担当者：	高根沢 紀子
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	普段日本語で話し、同世代の友人と話すことが多い学生時代においては、場面にあった表現を学ぶ機会には以外と少ないのではないだろうか。この授業では、日本語で話すことの難しさを知り、その場面にあったコミュニケーションを取ることを考えていく。他の言語と比較しても特別難しいとされている敬語については、日本人の特性・文化を背負っているものであることを理解し、難しいとあきらめてしまわず、自然な敬語表現を身につけたい。また、ビジネスの場面で使用される会話を中心に、円滑なコミュニケーションがとれるスキルを学んで貰う。
授業方法：	それぞれの場面での（たとえばビジネスでの電話対応の仕方など）、コミュニケーションのとり方を会話中心に学ぶ。その場面・立場にあった話し方を、具体的に場面を想定し、実際に会話して貰いながら、問題点を明らかにする形で進めていく。相手に伝わらない話し方とはどういうものなのか、どうすれば伝わる話し方になるのかなどの問題について、話し合いながら進めて行く。
履修の留意点：	積極的に授業に参加し、発言する態度を求める。毎時、小テストを行うので欠席は大きく評価に影響する。
目標と評価：	場面にあった会話での日本語の運用能力を身につける。 定期試験に毎時の小テスト、授業態度を加味し評価する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語コミュニケーションⅠ」（担当者：安富 成良）の履修の手引き

科目名：	英語コミュニケーションⅠ
担当者：	安富 成良
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	この授業はコミュニケーションの有効な道具である英語の「読む」「書く」「聴く」「話す」の4技能を総合的に高めることを目標とし、高校までに学習した英語の基本的な文法を確認しながら、実際の場面、特に海外旅行で使える英語の習得を目指して行われます。文法事項の確認については、各文法項目のポイントのまとめと練習問題の学習を通して定着させます。また旅行英語の学習についてはオーディオ・テープを用いて、HearingとSpeakingの能力の向上を図り、旅行に必要な英語を毎回1場面（Unitを一つ）学習します。更にアメリカ人特有の英語の発音にも慣れる様に練習します。英語コミュニケーションの授業は1年間のうち春（秋）学期を日本人の英語教員が担当し、あとの半期の秋（春）学期がネイティブの英語教員が担当する、という授業形態をとっており、日本人教員とネイティブの英語教員が連携して1年間の学習を通してで英語力の向上を目指している。
授業方法：	この授業では学生の発表を重視し、旅行英語の学習では二人ペアとなった会話練習や3分以上のミニスピーチも課します。 ・基本的な文法項目の確認については、プリント教材を使用して講義と練習問題（小テスト）を行い定着化を図ります。
履修の留意点：	特にありませんが、積極的な受講を望みます。
目標と評価：	目標としては就職試験（英語）で足切りにならないような英語力を身につけると共に、海外旅行である程度英語を話したり、英語を聞き取りが出来るようになることを目指します。 ・定期考査（50%）と平常点（10%）Reading Test（10%） *『トラベル・イングリッシュ』のエッセイ読みのテストも平常点に加算。
教科書：	トラベル・イングリッシュ 古閑・ネイラー・安富 研究社 1995年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語コミュニケーションⅠ」（担当者：松嶋 哲雄）の履修の手引き

科目名：	英語コミュニケーションⅠ
担当者：	松嶋 哲雄
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	英語の総合的なコミュニケーションの育成を目標に、コミュニケーション活動で求められる自己表現と他者理解のスキルを英語というツールを通し習得していく。さらに異文化理解で不可欠な知識やコミュニケーションの楽しさの覚醒も目指す。
授業方法：	英語の歌の聞き取りや日本人が苦手とする発音・イントネーションの練習、実用的な文法知識、語句の解説とその運用、さらに作文や対話形式での反復練習などを毎回の授業で行う。隔週で復習・確認テストを実施する。
履修の留意点：	毎回予習・復習をやってこること。欠席しないこと。
目標と評価：	普段点：復習・確認テストの結果、提出物、出席率、授業態度などを総合的に考慮して評価する。
教科書：	SMASH HIT LISTENING Revised Edition Stephen Timson MACMILLAN LANGUAGEHOUSE 2003
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語コミュニケーションⅠ」（担当者：アンドレ ガニエ）の履修の手引き

科目名：	英語コミュニケーションⅠ
担当者：	アンドレ ガニエ
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	この授業はコミュニケーションの有効な道具である英語の「読む」「書く」「聴く」「話す」の4技能を総合的に高めることを目標とし、高校までに学習した英語の基本的な文法を確認しながら、実際の場面、特に海外旅行で使える英語の習得を目指して行われます。文法事項の確認については、各文法項目のポイントのまとめと練習問題の学習を通して定着させます。また旅行英語の学習についてはオーディオ・テープを用いて、HearingとSpeakingの能力の向上を図り、旅行に必要な英語を毎回1場面（Unitを一つ）学習します。更にアメリカ人特有の英語の発音にも慣れる様に練習します。
授業方法：	この授業では学生の発表を重視し、旅行英語の学習では二人ペアとなった会話練習や3分以上のミニスピーチも課します。
履修の留意点：	特にありませんが、積極的な受講を望みます。
目標と評価：	目標としては就職試験（英語）で足切りにならないような英語力を身につけると共に、海外旅行である程度英語を話したり、英語を聞き取りが出来るようになることを目指します。
教科書：	トラベル・イングリッシュ 古閑・ネイラー・安富 研究社 1995年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語コミュニケーションⅠ」（担当者：アンドレ ガニエ）の履修の手引き

科目名：	英語コミュニケーションⅠ
担当者：	アンドレ ガニエ
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	この授業はコミュニケーションの有効な道具である英語の「読む」「書く」「聴く」「話す」の4技能を総合的に高めることを目標とし、高校までに学習した英語の基本的な文法を確認しながら、実際の場面、特に海外旅行で使える英語の習得を目指して行われます。文法事項の確認については、各文法項目のポイントのまとめと練習問題の学習を通して定着させます。また旅行英語の学習についてはオーディオ・テープを用いて、HearingとSpeakingの能力の向上を図り、旅行に必要な英語を毎回1場面（Unitを一つ）学習します。更にアメリカ人特有の英語の発音にも慣れる様に練習します。
授業方法：	この授業では学生の発表を重視し、旅行英語の学習では二人ペアとなった会話練習や3分以上のミニスピーチも課します。
履修の留意点：	特にありませんが、積極的な受講を望みます。
目標と評価：	目標としては就職試験（英語）で足切りにならないような英語力を身につけると共に、海外旅行である程度英語を話したり、英語を聞き取りが出来るようになることを目指します。
教科書：	トラベル・イングリッシュ 古閑・ネイラー・安富 研究社 1995年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語コミュニケーションⅡ」（担当者：安富 成良）の履修の手引き

科目名：	英語コミュニケーションⅡ
担当者：	安富 成良
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	この授業はコミュニケーションの有効な道具である英語の「読む」「書く」「聴く」「話す」の4技能を総合的に高めることを目標とし、高校までに学習した英語の基本的な文法を確認しながら、実際の場面、特に海外旅行で使える英語の習得を目指して行われます。文法事項の確認については、各文法項目のポイントのまとめと練習問題の学習を通して定着させます。また旅行英語の学習についてはオーディオ・テープを用いて、HearingとSpeakingの能力の向上を図り、旅行に必要な英語を毎回1場面（Unitを一つ）学習します。更にアメリカ人特有の英語の発音にも慣れる様に練習します。英語コミュニケーションの授業は1年間のうち春（秋）学期を日本人の英語教員が担当し、あとの半期の秋（春）学期がネイティブの英語教員が担当する、という授業形態をとっており、日本人教員とネイティブの英語教員が連携して1年間の学習を通してで英語力の向上を目指している。
授業方法：	この授業では学生の発表を重視し、旅行英語の学習では二人ペアとなった会話練習や3分以上のミニスピーチも課します。 ・基本的な文法項目の確認については、プリント教材を使用して講義と練習問題（小テスト）を行い定着化を図ります。
履修の留意点：	特にありませんが、積極的な受講を望みます。
目標と評価：	目標としては就職試験（英語）で足切りにならないような英語力を身につけると共に、海外旅行である程度英語を話したり、英語を聞き取りが出来るようになることを目指します。 ・定期考査（50%）と平常点（10%）Reading Test（10%） * 『トラベル・イングリッシュ』のエッセイ読みのテストも平常点に加算。
教科書：	トラベル・イングリッシュ 古閑・ネイラー・安富 研究社 1995年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語コミュニケーションⅡ」（担当者：松嶋 哲雄）の履修の手引き

科目名：	英語コミュニケーションⅡ
担当者：	松嶋 哲雄
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	英語コミュニケーションⅠの応用を目指す。
授業方法：	英語コミュニケーションⅠと同じ
履修の留意点：	英語コミュニケーションⅠと同じ
目標と評価：	普段点
教科書：	Smash Hit Listening Revised Edition Stephen Timson マクミランランゲージハウス 2003
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語コミュニケーションⅡ」（担当者：アンドレ ガニエ）の履修の手引き

科目名：	英語コミュニケーションⅡ
担当者：	アンドレ ガニエ
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	この授業はコミュニケーションの有効な道具である英語の「読む」「書く」「聴く」「話す」の4技能を総合的に高めることを目標とし、高校までに学習した英語の基本的な文法を確認しながら、実際の場面、特に海外旅行で使える英語の習得を目指して行われます。文法事項の確認については、各文法項目のポイントのまとめと練習問題の学習を通して定着させます。また旅行英語の学習についてはオーディオ・テープを用いて、HearingとSpeakingの能力の向上を図り、旅行に必要な英語を毎回1場面（Unitを一つ）学習します。更にアメリカ人特有の英語の発音にも慣れる様に練習します。
授業方法：	この授業では学生の発表を重視し、旅行英語の学習では二人ペアとなった会話練習や3分以上のミニスピーチも課します。
履修の留意点：	特にありませんが、積極的な受講を望みます。
目標と評価：	目標としては就職試験（英語）で足切りにならないような英語力を身につけると共に、海外旅行である程度英語を話したり、英語を聞き取りが出来るようになることを目指します。
教科書：	トラベル・イングリッシュ 古閑・ネイラー・安富 研究社 1995年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語コミュニケーションⅡ」（担当者：アンドレ ガニエ）の履修の手引き

科目名：	英語コミュニケーションⅡ
担当者：	アンドレ ガニエ
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	この授業はコミュニケーションの有効な道具である英語の「読む」「書く」「聴く」「話す」の4技能を総合的に高めることを目標とし、高校までに学習した英語の基本的な文法を確認しながら、実際の場面、特に海外旅行で使える英語の習得を目指して行われます。文法事項の確認については、各文法項目のポイントのまとめと練習問題の学習を通して定着させます。また旅行英語の学習についてはオーディオ・テープを用いて、HearingとSpeakingの能力の向上を図り、旅行に必要な英語を毎回1場面（Unitを一つ）学習します。更にアメリカ人特有の英語の発音にも慣れる様に練習します。
授業方法：	この授業では学生の発表を重視し、旅行英語の学習では二人ペアとなった会話練習や3分以上のミニスピーチも課します。
履修の留意点：	特にありませんが、積極的な受講を望みます。
目標と評価：	目標としては就職試験（英語）で足切りにならないような英語力を身につけると共に、海外旅行である程度英語を話したり、英語を聞き取りが出来るようになることを目指します。
教科書：	トラベル・イングリッシュ 古閑・ネイラー・安富 研究社 1995年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語コミュニケーションⅢ」（担当者：松嶋 哲雄）の履修の手引き

科目名：	英語コミュニケーションⅢ
担当者：	松嶋 哲雄
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	TOEIC試験の対策・準備を目指す。実際の試験時間は二時間でリスニング100問（45分）、リーディング100問（75分）で構成されています。得点は10点～990点で示されます。リスニングはParts I～IVの4種類、リーディングはParts V～VIIの3種類からなっており、多量の問題を短時間に解答しなければなりません。総合的な英語能力はもちろん問題形式への「慣れ」が必要です。実践的な練習問題を毎回やることでその能力の育成を目指す。
授業方法：	毎回練習問題を解き、英語の音や問題形式に慣れ、試験に出やすい文法、語句の習得を目指す。
履修の留意点：	欠席しないこと、特にリスニング時はおしゃべりせず集中して聞き取るよう心がける。
目標と評価：	普段点
教科書：	LONGMAN PRIMER FOR THE TOEIC TEST 国際コミュニケーションズ 南雲堂 フェニックス 1999
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語コミュニケーションⅣ」（担当者：松嶋 哲雄）の履修の手引き

科目名：	英語コミュニケーションⅣ
担当者：	松嶋 哲雄
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	TOEIC試験の対策・準備を目指す。実際の試験時間は二時間でリスニング100問（45分）、リーディング100問（75分）で構成されています。得点は10点～990点で示されます。リスニングはParts I～IVの4種類、リーディングはParts V～VIIの3種類からなっており、多量の問題を短時間に解答しなければなりません。総合的な英語能力はもちろん問題形式への「慣れ」が必要です。実践的な練習問題を毎回やることで、英語コミュニケーションIIIの応用能力の育成を目指す。
授業方法：	毎回練習問題を解き、英語の音や問題形式に慣れ、試験に出やすい文法、語句の習得を目指す。
履修の留意点：	欠席しないこと、特にリスニング時はおしゃべりせず集中して聞き取るよう心がける。
目標と評価：	普段点
教科書：	TOEICテストのための標準総合演習 ECC外語学院 南雲堂 2006
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ウーマズボデー&フィットネスⅠ」（担当者：星 ひろみ）の履修の手引き

科目名：	ウーマズボデー&フィットネスⅠ
担当者：	星 ひろみ
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病というか、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなってしまう。特に、子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・パソコンを選ぶということが体力低下に結びついているといえよう。その結果、体力の低下だけでなく、日常の中で対人関係に悩む人が増え、学校や社会に様々な問題を提起している。だからこそIT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる中、学校体育として何ができるかを考えなければならない。</p> <p>本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。さらに、友人関係を深めるためにスポーツはとても有効な手段なので、楽しみながら、からだを鍛えることを学生に学んでもらいたい。</p> <p>また、からだの成長だけは年々早くなる中で、10代後半～20代の女性に、女性ならではのからだの変化・病気なども多くなっている。自分の「からだをやる」ということが如何に大切かを授業をとおして認識してもらい、これからの生活に役立ててもらいたい。</p>
授業方法：	<p>ウーマズボデー&フィットネスⅠ（春学期）では、実技を中心に行う。</p> <p>① オリエンテーション（授業計画・評価についてなどの説明）</p> <p>② エアロビクスダンス・・・全身運動として効果のあるこの種目において、柔軟性・リズム感・持久力を養いながら、からだを動かし、汗をかくことの気持ちよさを実感する。そうすることの中で、仲間と楽しいということを共感し、互いに向上を目指す。</p> <p>③ ゴルフ・・・スポーツの中でもエチケット・マナーの厳しいゴルフ競技を学ぶことで、技術はもちろん、周りの競技者に迷惑をかけず、気持ちよくプレーすることを学ぶゴルフは、コミュニケーション能力を上げる一要素といえる。</p>
履修の留意点：	<p>* 授業の第1週目にオリエンテーションを行い授業内容・評価・スケジュール・その他体育に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。（着替えず体育館集合。筆記用具持参）</p> <p>* 細かいルールがあるが、授業が安全実施できるよう、協力・厳守してほしい。</p>
目標と評価：	<p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出するが詳細は第1回目の授業（オリエンテーション）説明する。実技試験は実技の授業内試験とする。但し、実技科目なので出欠席を重視する。</p> <p>* 体育は出席を重視し、運動能力が低くとも、積極的にからだを動かし、結果として運動量の多い学生を評価する。</p> <p>* 詳細はプリント参照（オリエンテーションで配布）</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ウーマズボディ&フィットネスⅠ」（担当者：星 ひろみ）の履修の手引き

科目名：	ウーマズボディ&フィットネスⅠ
担当者：	星 ひろみ
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病というか、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなってしまう。特に、子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・パソコンを選ぶということが体力低下に結びついているといえよう。その結果、体力の低下だけでなく、日常の中で対人関係に悩む人が増え、学校や社会に様々な問題を提起している。だからこそIT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる中、学校体育として何ができるかを考えなければならない。</p> <p>本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。さらに、友人関係を深めるためにスポーツはとても有効な手段なので、楽しみながら、からだを鍛えることを学生に学んでもらいたい。</p> <p>また、からだの成長だけは年々早くなる中で、10代後半～20代の女性に、女性ならではのからだの変化・病気なども多くなっている。自分の「からだをやる」ということが如何に大切かを授業をとおして認識してもらい、これからの生活に役立ててもらいたい。</p>
授業方法：	<p>ウーマズボディ&フィットネスⅠ（春学期）では、実技を中心に行う。</p> <p>① オリエンテーション（授業計画・評価についての説明）</p> <p>② エアロビクスダンス・・・全身運動として効果のあるこの種目において、柔軟性・リズム感・持久力を養いながら、からだを動かし、汗をかくことの気持ちよさを実感する。そうすることの中で、仲間と楽しいということを共感し、互いに向上を目指す。</p> <p>③ ゴルフ・・・スポーツの中でもエチケット・マナーの厳しいゴルフ競技を学ぶことで、技術はもちろん、周りの競技者に迷惑をかけず、気持ちよくプレーすることを学ぶゴルフは、コミュニケーション能力を上げる一要素といえる。</p>
履修の留意点：	<p>* 授業の第1週目にオリエンテーションを行い授業内容・評価・スケジュール・その他体育に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。（着替えず体育館集合。筆記用具持参）</p> <p>* 細かいルールがあるが、授業が安全実施できるよう、協力・厳守してほしい。</p>
目標と評価：	<p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出するが詳細は第1回目の授業（オリエンテーション）説明する。実技試験は実技の授業内試験とする。但し、実技科目なので出欠席を重視する。</p> <p>* 体育は出席を重視し、運動能力が低くとも、積極的にからだを動かし、結果として運動量の多い学生を評価する。</p> <p>* 詳細はプリント参照（オリエンテーションで配布）</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ウーマズボディ&フィットネスⅠ」（担当者：星 ひろみ）の履修の手引き

科目名：	ウーマズボディ&フィットネスⅠ
担当者：	星 ひろみ
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病というか、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなってしまう。特に、子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・パソコンを選ぶということが体力低下に結びついているといえよう。その結果、体力の低下だけでなく、日常の中で対人関係に悩む人が増え、学校や社会に様々な問題を提起している。だからこそIT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる中、学校体育として何ができるかを考えなければならない。</p> <p>本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。さらに、友人関係を深めるためにスポーツはとても有効な手段なので、楽しみながら、からだを鍛えることを学生に学んでもらいたい。</p> <p>また、からだの成長だけは年々早くなる中で、10代後半～20代の女性に、女性ならではのからだの変化・病気なども多くなっている。自分の「からだをやる」ということが如何に大切かを授業をとおして認識してもらい、これからの生活に役立ててもらいたい。</p>
授業方法：	<p>ウーマズボディ&フィットネスⅠ（春学期）では、実技を中心に行う。</p> <p>① オリエンテーション（授業計画・評価についてなどの説明）</p> <p>② エアロビクスダンス・・・全身運動として効果のあるこの種目において、柔軟性・リズム感・持久力を養いながら、からだを動かし、汗をかくことの気持ちよさを実感する。そうすることの中で、仲間と楽しいということを共感し、互いに向上を目指す。</p> <p>③ ゴルフ・・・スポーツの中でもエチケット・マナーの厳しいゴルフ競技を学ぶことで、技術はもちろん、周りの競技者に迷惑をかけず、気持ちよくプレーすることを学ぶゴルフは、コミュニケーション能力を上げる一要素といえる。</p>
履修の留意点：	<p>* 授業の第1週目にオリエンテーションを行い授業内容・評価・スケジュール・その他体育に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。（着替えず体育館集合。筆記用具持参）</p> <p>* 細かいルールがあるが、授業が安全実施できるよう、協力・厳守してほしい。</p>
目標と評価：	<p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出するが詳細は第1回目の授業（オリエンテーション）説明する。実技試験は実技の授業内試験とする。但し、実技科目なので出欠席を重視する。</p> <p>* 体育は出席を重視し、運動能力が低くとも、積極的にからだを動かし、結果として運動量の多い学生を評価する。</p> <p>* 詳細はプリント参照（オリエンテーションで配布）</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ウーマズボディ&フィットネスⅠ」（担当者：星 ひろみ）の履修の手引き

科目名：	ウーマズボディ&フィットネスⅠ
担当者：	星 ひろみ
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病というか、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなってしまう。特に、子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・パソコンを選ぶということが体力低下に結びついているといえよう。その結果、体力の低下だけでなく、日常の中で対人関係に悩む人が増え、学校や社会に様々な問題を提起している。だからこそIT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる中、学校体育として何ができるかを考えなければならない。</p> <p>本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。さらに、友人関係を深めるためにスポーツはとても有効な手段なので、楽しみながら、からだを鍛えることを学生に学んでもらいたい。</p> <p>また、からだの成長だけは年々早くなる中で、10代後半～20代の女性に、女性ならではのからだの変化・病気なども多くなっている。自分の「からだをやる」ということが如何に大切かを授業をとおして認識してもらい、これからの生活に役立ててもらいたい。</p>
授業方法：	<p>ウーマズボディ&フィットネスⅠ（春学期）では、実技を中心に行う。</p> <p>① オリエンテーション（授業計画・評価についての説明）</p> <p>② エアロビクスダンス・・・全身運動として効果のあるこの種目において、柔軟性・リズム感・持久力を養いながら、からだを動かし、汗をかくことの気持ちよさを実感する。そうすることの中で、仲間と楽しいということを共感し、互いに向上を目指す。</p> <p>③ ゴルフ・・・スポーツの中でもエチケット・マナーの厳しいゴルフ競技を学ぶことで、技術はもちろん、周りの競技者に迷惑をかけず、気持ちよくプレーすることを学ぶゴルフは、コミュニケーション能力を上げる一要素といえる。</p>
履修の留意点：	<p>* 授業の第1週目にオリエンテーションを行い授業内容・評価・スケジュール・その他体育に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。（着替えず体育館集合。筆記用具持参）</p> <p>* 細かいルールがあるが、授業が安全実施できるよう、協力・厳守してほしい。</p>
目標と評価：	<p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出するが詳細は第1回目の授業（オリエンテーション）説明する。実技試験は実技の授業内試験とする。但し、実技科目なので出欠席を重視する。</p> <p>* 体育は出席を重視し、運動能力が低くとも、積極的にからだを動かし、結果として運動量の多い学生を評価する。</p> <p>* 詳細はプリント参照（オリエンテーションで配布）</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ウーマズボディ&フィットネスⅡ」（担当者：星 ひろみ）の履修の手引き

科目名：	ウーマズボディ&フィットネスⅡ
担当者：	星 ひろみ
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病というか、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなってしまう。特に、子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・パソコンを選ぶということが体力低下に結びついているといえよう。その結果、体力の低下だけでなく、日常の中で対人関係に悩む人が増え、学校や社会に様々な問題を提起している。だからこそIT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる中、学校体育として何ができるかを考えなければならない。</p> <p>本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。さらに、友人関係を深めるためにスポーツはとても有効な手段なので、楽しみながら、からだを鍛えることを学生に学んでもらいたい。</p> <p>また、からだの成長だけは年々早くなる中で、10代後半～20代の女性に、女性ならではのからだの変化・病気なども多くなっている。自分の「からだをやる」ということが如何に大切かを授業をとおして認識してもらい、これからの生活に役立ててもらいたい。</p>
授業方法：	<p>授業方法： ウーマズボディ&フィットネスⅡ（秋学期）では、実技・講義を行う。</p> <p>① ソフトバレーボール・・・グループ競技を取り上げ、力をあわせて、ゲームを楽しむ授業である。ソフトバレーボールは6人制バレーボールより体力的・技術的に苦手な学生にも取り組みやすい競技なので、誰でもが楽しめる要素が多いのが特徴。コミュニケーションをとるスポーツとして特に適している。授業はゲームを中心に行い、チームが週をおうごとにどれだけ向上するかをみる。</p> <p>③ 講義『女性と健康』・・・特に女性のからだを中心に学んでいく。実際に女性におこりうるからだの変化や病気について正しい知識を持ってもらいたい。</p>
履修の留意点：	<p>注意することは春学期「ウーマズボディ&フィットネスⅠ」と同じ</p> <p>*細かいルールがあるが、授業が安全実施できるよう、協力・厳守してほしい。</p>
目標と評価：	<p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出するが詳細は第1回目の授業(オリエンテーション)説明する。実技試験は実技の授業内試験とする。但し、出欠席を重視する。実技と講義、の総合評価とする。</p> <p>*出席を重視し、運動能力が低くとも、積極的にからだを動かし、結果として運動量の多い学生を評価する。また、講義は授業内試験(筆記試験)を行う。</p> <p>*詳細はプリント参照(オリエンテーションで配布)</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ウーマズボディ&フィットネスⅡ」（担当者：星 ひろみ）の履修の手引き

科目名：	ウーマズボディ&フィットネスⅡ
担当者：	星 ひろみ
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病というか、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなってしまう。特に、子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・パソコンを選ぶということが体力低下に結びついているといえよう。その結果、体力の低下だけでなく、日常の中で対人関係に悩む人が増え、学校や社会に様々な問題を提起している。だからこそIT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる中、学校体育として何ができるかを考えなければならない。</p> <p>本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。さらに、友人関係を深めるためにスポーツはとても有効な手段なので、楽しみながら、からだを鍛えることを学生に学んでもらいたい。</p> <p>また、からだの成長だけは年々早くなる中で、10代後半～20代の女性に、女性ならではのからだの変化・病気なども多くなっている。自分の「からだをやる」ということが如何に大切かを授業をとおして認識してもらい、これからの生活に役立ててもらいたい。</p>
授業方法：	<p>授業方法： ウーマズボディ&フィットネスⅡ（秋学期）では、実技・講義を行う。</p> <p>① ソフトバレーボール・・・グループ競技を取り上げ、力をあわせて、ゲームを楽しむ授業である。ソフトバレーボールは6人制バレーボールより体力的・技術的に苦手な学生にも取り組みやすい競技なので、誰でもが楽しめる要素が多いのが特徴。コミュニケーションをとるスポーツとして特に適している。授業はゲームを中心に行い、チームが週をおうごとにどれだけ向上するかをみる。</p> <p>③ 講義『女性と健康』・・・特に女性のからだを中心に学んでいく。実際に女性におこりうるからだの変化や病気について正しい知識を持ってもらいたい。</p>
履修の留意点：	<p>注意することは春学期「ウーマズボディ&フィットネスⅠ」と同じ</p> <p>*細かいルールがあるが、授業が安全実施できるよう、協力・厳守してほしい。</p>
目標と評価：	<p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出するが詳細は第1回目の授業(オリエンテーション)説明する。実技試験は実技の授業内試験とする。但し、出欠席を重視する。実技と講義、の総合評価とする。</p> <p>*出席を重視し、運動能力が低くとも、積極的にからだを動かし、結果として運動量の多い学生を評価する。また、講義は授業内試験(筆記試験)を行う。</p> <p>*詳細はプリント参照(オリエンテーションで配布)</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ウーマズボディ&フィットネスⅡ」（担当者：星 ひろみ）の履修の手引き

科目名：	ウーマズボディ&フィットネスⅡ
担当者：	星 ひろみ
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病というか、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなってしまう。特に、子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・パソコンを選ぶということが体力低下に結びついているといえよう。その結果、体力の低下だけでなく、日常の中で対人関係に悩む人が増え、学校や社会に様々な問題を提起している。だからこそIT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる中、学校体育として何ができるかを考えなければならない。</p> <p>本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。さらに、友人関係を深めるためにスポーツはとても有効な手段なので、楽しみながら、からだを鍛えることを学生に学んでもらいたい。</p> <p>また、からだの成長だけは年々早くなる中で、10代後半～20代の女性に、女性ならではのからだの変化・病気なども多くなっている。自分の「からだをやる」ということが如何に大切かを授業をとおして認識してもらい、これからの生活に役立ててもらいたい。</p>
授業方法：	<p>授業方法： ウーマズボディ&フィットネスⅡ（秋学期）では、実技・講義を行う。</p> <p>① ソフトバレーボール・・・グループ競技を取り上げ、力をあわせて、ゲームを楽しむ授業である。ソフトバレーボールは6人制バレーボールより体力的・技術的に苦手な学生にも取り組みやすい競技なので、誰でもが楽しめる要素が多いのが特徴。コミュニケーションをとるスポーツとして特に適している。授業はゲームを中心に行い、チームが週をおうごとにどれだけ向上するかをみる。</p> <p>③ 講義『女性と健康』・・・特に女性のからだを中心に学んでいく。実際に女性におこりうるからだの変化や病気について正しい知識を持ってもらいたい。</p>
履修の留意点：	<p>注意することは春学期「ウーマズボディ&フィットネスⅠ」と同じ</p> <p>*細かいルールがあるが、授業が安全実施できるよう、協力・厳守してほしい。</p>
目標と評価：	<p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出するが詳細は第1回目の授業(オリエンテーション)説明する。実技試験は実技の授業内試験とする。但し、出欠席を重視する。実技と講義、の総合評価とする。</p> <p>*出席を重視し、運動能力が低くとも、積極的にからだを動かし、結果として運動量の多い学生を評価する。また、講義は授業内試験(筆記試験)を行う。</p> <p>*詳細はプリント参照(オリエンテーションで配布)</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ウーマズボディ&フィットネスⅡ」（担当者：星 ひろみ）の履修の手引き

科目名：	ウーマズボディ&フィットネスⅡ
担当者：	星 ひろみ
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病というか、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなってしまう。特に、子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・パソコンを選ぶということが体力低下に結びついているといえよう。その結果、体力の低下だけでなく、日常の中で対人関係に悩む人が増え、学校や社会に様々な問題を提起している。だからこそIT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる中、学校体育として何ができるかを考えなければならない。</p> <p>本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。さらに、友人関係を深めるためにスポーツはとても有効な手段なので、楽しみながら、からだを鍛えることを学生に学んでもらいたい。</p> <p>また、からだの成長だけは年々早くなる中で、10代後半～20代の女性に、女性ならではのからだの変化・病気なども多くなっている。自分の「からだをやる」ということが如何に大切かを授業をとおして認識してもらい、これからの生活に役立ててもらいたい。</p>
授業方法：	<p>授業方法： ウーマズボディ&フィットネスⅡ（秋学期）では、実技・講義を行う。</p> <p>① ソフトバレーボール・・・グループ競技を取り上げ、力をあわせて、ゲームを楽しむ授業である。ソフトバレーボールは6人制バレーボールより体力的・技術的に苦手な学生にも取り組みやすい競技なので、誰でもが楽しめる要素が多いのが特徴。コミュニケーションをとるスポーツとして特に適している。授業はゲームを中心に行い、チームが週をおうごとにどれだけ向上するかをみる。</p> <p>③ 講義『女性と健康』・・・特に女性のからだを中心に学んでいく。実際に女性におこりうるからだの変化や病気について正しい知識を持ってもらいたい。</p>
履修の留意点：	<p>注意することは春学期「ウーマズボディ&フィットネスⅠ」と同じ</p> <p>*細かいルールがあるが、授業が安全実施できるよう、協力・厳守してほしい。</p>
目標と評価：	<p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出するが詳細は第1回目の授業(オリエンテーション)説明する。実技試験は実技の授業内試験とする。但し、出欠席を重視する。実技と講義、の総合評価とする。</p> <p>*出席を重視し、運動能力が低くとも、積極的にからだを動かし、結果として運動量の多い学生を評価する。また、講義は授業内試験(筆記試験)を行う。</p> <p>*詳細はプリント参照(オリエンテーションで配布)</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「プレゼミナール」（担当者：山田 寛）の履修の手引き

科目名：	プレゼミナール
担当者：	山田 寛
テーマ：	国際ニュース・デスク
概要：	<p>ぼくは、国際報道のジャーナリスト出身なので、こんなタイトルにしましたが、デスクというのは、新聞でもテレビでも、いろいろなニュースを集め、それを”料理”する場所です。世界で起きていること、いろいろなニュースに関心を持ち、理解してほしい、というのがねらいです。政治、経済、社会、文化、スポーツ・・・様々な分野のできごと、問題をとりあげ、調べて行きたい、と考えています。</p>
授業方法：	<p>新聞、テレビ、雑誌、本、ネット、ビデオ、写真、映画、講演会などさまざまなメディアを材料にして、調べ、考えることを予定しています。</p>
履修の留意点：	<p>戦争やテロ、飢え、拉致、難民・・・オリンピック、いろいろな問題を調べながら、その中で生きている人間の喜びや哀しみを敏感に感じ取ることを重視します。</p>
目標と評価：	
履修が望ましい科目：	国際理解と交流

「プレゼミナール」（担当者：尾村 敬二）の履修の手引き

科目名：	プレゼミナール
担当者：	尾村 敬二
テーマ：	国際経済コース
概要：	国際経済に関する問題とは何かを知り、問題の実態、原因および、解決法をいかに理解するかについての方法を会得することが目的である。内容は国際経済協力、環境問題、開発途上国の貧困問題、自由貿易体制、国際金融など、社会人となるために知っておかなければならない諸問題について学習する。
授業方法：	新聞、専門雑誌、および書籍を持続的に読みこなす能力をつけ、国際経済問題についての関心を深める。毎週、数人の発表を義務付け、討論を行う。
履修の留意点：	欠席がないことが重要である。年間に6回以上欠席した場合は単位習得が困難であることを自覚すること。月に1～2回のレポート提出を求める。
目標と評価：	国際経済分野で履修生の関心を明確にすることである。出席点とレポート提出義務の履行、およびレポート内容によって評価する。
履修が望ましい科目：	

「プレゼミナール」（担当者：劉 暢）の履修の手引き

科目名：	プレゼミナール
担当者：	劉 暢
テーマ：	中国映画の二十年間（仮）
概要：	このプレゼミナールはゼミに関する基礎知識を初歩から学ぶことを中心とする。ゼミで学ぶべき基本的なテクニックの導入に合わせ、中国映画がこの二十年間いかに中国を描いてきたか、を検討する予定である。中国映画の観賞を通して、現代中国の歴史・政治・経済・社会・文化などを垣間見ながら、それらを理解することを目的とした。
授業方法：	中国映画観賞を交えながら、実践を通して「参考資料の集め方」・「普通レポート及び課題レポートの書き方」・「ゼミ発表のやり方」などについて勉強する。受講人数・状況によって「ディベートのやり方」をも取り入れる。授業は通常の演習形式で行う。
履修の留意点：	①現代中国のことに興味をもち、中国映画に対して興味をもつ学生、3年次秋学期に「アジア経済論」・「日中比較経済論」を選択予定の学生、の履修を歓迎する。 ②初回の授業において、このプレゼミの概説・ゼミの進め方・受講注意事項などについて説明する予定。このため、履修したい学生は必ず出席するように。
目標と評価：	目標： ①ゼミナールに関する基礎知識を身につける。 ②現代中国をある程度理解できることを目指す。 評価： 課題レポートの内容・受講態度・ゼミ発表などに基つき総合的に評価する。
履修が望ましい科目：	

「プレゼミナール」（担当者：久保 真）の履修の手引き

科目名：	プレゼミナール
担当者：	久保 真
テーマ：	国際経済コース
概要：	国際経済（さらには国民経済や地域経済）に関する問題とは何かを知り、問題の実態、原因および、解決法をいかに理解するかについての方法（＝経済学の基礎）を会得することが目的である。内容はできるだけ新聞等で報道されている身近な話題を例にとりながら、上のことが会得できるように授業を構成する。
授業方法：	基本的に講義は行わない。履修者のアクティビティ（発表やディスカッションなど）を中心に授業は行われる。グループでの発表や調査を行ってもらうこともある。
履修の留意点：	欠席がないことが重要である。年間に8回を超えて欠席した場合は単位修得が原則無理である。また、年間1～2回のレポート提出を求める。
目標と評価：	目標： 国際経済分野で履修生の関心を明確にすることが第一の目標である。論理的に、そして経済学的に考えることができるようになることが第二の目標である。 評価： 評価点は、通常授業での取り組みと提出物の出来によって評価する。
履修が望ましい科目：	特になし

「プレゼミナール」（担当者：山本 孝夫）の履修の手引き

科目名：	プレゼミナール
担当者：	山本 孝夫
テーマ：	簿記・会計学
概要：	企業の経営活動を外部の利害関係者に報告・開示することが財務会計として制度化されているが、この方法に一定の規則がある。いわゆる商法・証券取引法・税法等の法律規制である。このプレゼミナールでは、会計における法律規制を理解するために前提となる複式簿記の仕組みについて理解を深めたい。
授業方法：	ゼミナールの内容としては、日商簿記検定試験3級レベルをマスターするために、簿記一巡の手続を追って解説する。また、簿記の技術的性格を重視して、練習問題を多く取り入れて学習する。
履修の留意点：	簿記は実践的な積み重ねが必要である。したがって実際に問題の解答を電卓を手にとって作成しなければならない。基本的な簿記の仕組みを理解することが、簿記を楽しく学ぶための最善の方法である。
目標と評価：	簿記検定試験3級の合格を目標とする。授業態度、授業出席率および小テストにより総合評価する。
履修が望ましい科目：	

「プレゼミナール」（担当者：井上 行忠）の履修の手引き

科目名：	プレゼミナール
担当者：	井上 行忠
テーマ：	財務会計
概要：	<p>会計理論は簿記によって具体化し、簿記は会計理論の助けを得て機能する。会計は、企業の経営活動を貨幣単位で計算し、報告することに妥当性を与えるための基準を提供する会計（理論）と、その基準に従って経営活動を正確に記録し、報告するための技術である会計（簿記）に分けることが出来る。ここに、会計は簿記と理論を共に理解することにより、会計の全体を理解したことになる。</p> <p>ここに本講義は、会計コースを担当する教員が、各級（2級・3級）ごとに内容を担当し、受験対策を行う。学習内容は、①会計の範囲・資格について、②複式簿記のルール、③簿記一巡の流れ、④会社の設立、⑤税金・個人の所得、⑥給料（厚生年金・健康保険料・住民税・所得税等）、⑦手形・小切手について、⑧損益分岐点とは、⑨企業の業種について、基本的事項を学習する。</p>
授業方法：	授業方法：検定試験対策を重点に授業を各担当教員が担当し、指導に当たる。
履修の留意点：	履修上の留意点：出席を重視する。
目標と評価：	目標：日商簿記検定2級・3級以上 全経2級・1級以上 FP検定3級以上
履修が望ましい科目：	

「プレゼミナール」（担当者：飯野 幸江）の履修の手引き

科目名：	プレゼミナール
担当者：	飯野 幸江
テーマ：	簿記
概要：	<p>企業の経済活動は、損益計算書や貸借対照表といった財務諸表によって明らかにすることができます。これらの財務諸表は、複式簿記システムから導き出されます。すなわち、企業は経済活動を複式簿記という技法によって記帳し、これを計算・整理することにより財務諸表を作成するのです。このように簿記は、会計を行う上での基礎であり、前提となるものです。会計学を勉強するのであれば簿記の知識は必要不可欠です。</p> <p>企業会計コースのプレゼミナールでは、簿記検定の取得を目標に、簿記の記帳技術とその仕組みを学んでいきます。さらに検定試験勉強を通じて、簿記の基本原則つまり簿記理論を学んでいきます。これにより、ただ単に簿記検定を取得するだけでなく、会計学や簿記についての理解をより一層深めることもできるでしょう。</p>
授業方法：	検定試験問題を解くことを中心に行います。これを通じて、個人のレベルに合わせた簿記指導および検定試験対策を行います。
履修の留意点：	簿記の勉強は、ひたすら問題を解くためのメモを書くことと計算することに追われます。問題の内容が理解できなかったり、なかなか計算が合わなくて、嫌になって投げ出したくなったりすることもあるでしょう。それでも根気よく問題を解いていくうちに、急に目の前が開け、計算がぴったり合ったりします。このときの「快感」は何物にも代え難いものです。この「快感」を体験するために、日々の努力と積み重ねができることが重要です。
目標と評価：	最低でも日商簿記検定3級の合格を目標とします。日商簿記検定3級合格後は、さらに上位の級の取得を目指して勉強します。
履修が望ましい科目：	

「プレゼミナール」（担当者：中村 修）の履修の手引き

科目名：	プレゼミナール
担当者：	中村 修
テーマ：	基礎知識を身につけ考える力を育てよう
概要：	<p>プレゼミナールは、以降の、より専門的なゼミナールⅠ、Ⅱへ進むための準備科目です。皆さんが選択する専門領域は、人それぞれで多岐にわたるでしょう。そうした状況において、準備をするには2つのことが重要です。一つは、自分自身の専門領域における基礎知識を身につけておくこと、もう一つは、自身の頭で必要となることを考える能力を身につけておくことです。もちろん、ゼミナールⅠが始まってからでも、これらのことはできますが、ゼミナールⅠを円滑に開始するためにも、プレゼミナールから始めておくことが有効です。</p>
授業方法：	<p>本プレゼミナールでは、上記のことを実践するため、以下を進めていきます。</p> <p>1. 企業経営コース共通学習項目 (1) 共通専門知識の修得 日本経済新聞を題材として、実社会における様々な動向を理解できる基礎知識について学んでいきます。また、効果的な記事の読み方を修得するために、以下のような副教材を輪読形式で読み進めていきます。 ※副教材候補：日本経済新聞社「2006年版日経経済記事の読み方」¥1,500(税別) (2) 類似研究等の調査方法の習得(論文の読み方) 通常の読書とは異なり、専門分野における論文の読み方には、幾つかの効果的な方法があります。本プレゼミナールでは、実際の研究論文を読み進めながら、効果的な研究論文の読み方を修得します。 (3) レポートの書き方の習得 本格的な卒業論文の執筆に先立ち、ポイントに絞ったレポートの執筆を通して、論文の書き方を習得していきます。プレゼミナール終了時点では、卒業論文と同様に、レポートの提出を全員が行うこととします。 (4) プレゼンテーション方法の習得 自身の研究成果を発表する練習として、プレゼンテーションに関わるスライド作成および研究発表の方法について、基礎的なスキルを習得します。</p> <p>2. 本プレゼミナール固有学習項目 (1) 情報技術(IT)関連知識の修得 共通専門知識の修得の過程で現れるビジネスの効率化に関連するITについて、適宜ポイントを説明していきます。 (2) 情報発信スキルの習得 本格的な研究を遂行するに当たっては、自身の研究成果を広く知ってもらうことが重要になります。今や当たり前となったWebページによる情報発信ですが、研究成果の発表の手段として活用していきます。また、そのための基礎知識等についても、実際にWebページの作成を通して習得していきます。 (3) 電子会議室を活用した意見交換 プレゼミナールメンバーがお互いに研究内容について意見交換を行っていきます。また、そのための有効な手段として、学ナビの電子会議室を日常のコミュニケーションツールとして活用していきます。</p>
履修の留意点：	<p>以下の2点が重要です。</p> <p>(1) 毎回のプレゼミナールに欠かさず出席すること。 (2) 決められた課題をきちんとやり遂げること。</p>
目標と評価：	<p>以下を目標とします。</p> <p>(1) 日本経済新聞を理解できる (2) ITの基礎知識を会得する (3) Webページを作成し公開できる (4) 電子会議室で自由に発言できる (5) 専門分野の論文を読んで理解できる (6) レポートを作成できる (7) 自身の研究内容のプレゼンテーションができる</p>
履修が望ましい科目：	留學生は、履修可能な日本語関連科目を受講すること。

「プレゼミナール」（担当者：青山 悦子）の履修の手引き

科目名：	プレゼミナール
担当者：	青山 悦子
テーマ：	人事・労務管理から企業社会を見る
概要：	プレゼミナールは、3・4年次の専門ゼミナールへの導入がスムーズに行われるよう、その基礎となる部分を、履修者自身が作り上げていくことを目的としている。 企業経営コースに設置されている本プレゼミナールは、コースの共通事項として、①文献調査の方法、②論文の読み方、③レポートの書き方、④プレゼンテーションの方法等を学ぶと共に、固有な部分として、広い意味で企業経営コースで学ぶための「スタディ・スキルズ」を学ぶ。年間を通して、図書館を活用しながら、広く経営、経済、社会問題への関心を広げ様々な意見を重ねていく。併せて履修者の問題関心を考慮しながら、入門書となるような本を選定し、その内容の報告、質疑、討論を行っていく。
授業方法：	年間を通して、新聞、雑誌の活用を図ると共に、履修者の問題関心を考慮したうえで選定した入門書を、その内容の報告と質疑、討論を中心に、学生主体に運営する。なお、基礎ゼミで学習した「スタディ・スキルズ」についても再度確認しながら、企業経営コースで学ぶための「スタディ・スキルズ」の修得も目指す。
履修の留意点：	プレゼミナールへの積極的な「参画」を通して、ゼミを活性化させたいと思っている学生の受講を希望。
目標と評価：	本プレゼミナールの目標は、①経営、経済、社会に関する関心を広げながら、専門科目への学習意欲を引き出す、②報告、討論する力を養う、③自分の頭で考える力を養うなどで、評価については、出席とゼミへのかかわり方で評価される。
履修が望ましい科目：	

「プレゼミナール」（担当者：南 憲一）の履修の手引き

科目名：	プレゼミナール
担当者：	南 憲一
テーマ：	「企業」を理解する
概要：	<p>企業経営コース共通事項として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文献調査の方法 ・論文の読み方 ・レポートの書き方 ・プレゼンテーションの方法 <p>について学習を進めていきます。</p> <p>固有事項としては、特に「企業」を理解するということを目指し、日経新聞を教材に用いて企業の活動について学習します。また、インターネット上から企業に関するさまざまなデータを収集してExcelを用いて経営分析を行います。ノートパソコンを活用して授業を進め、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. インターネット 2. Word 3. PowerPoint 4. Excel <p>を学習の道具として使いこなすことができるようになることを目標とします。</p>
授業方法：	講義と実習を合わせて授業を進める。
履修の留意点：	嘉悦大学のe-Campusを活用して授業を進めるので、ノートパソコンを必ず持ってくること。出席を重視するので極力休まないようにすること
目標と評価：	<p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. レポートや論文を書くための参考資料としての文献調査ができるようになること。 2. 探してきた文献を読めるようになること。 3. 論文を書く準備としてのレポートが作成できるようになること。Wordの持つレポート作成機能が使えるようになること。 4. レポートをもとに、プレゼンテーション用のスライドを作成しレポート内容についての発表ができること。PowerPointを用いたスライド作成ができるようになること。 5. 日経新聞を読んで、企業の活動について理解できるようになること。同一業種の企業について、比較・分析ができるようになること。 6. 企業を特徴付ける様々な経営指標を理解し、Excelを活用して経営分析ができるようになること。 <p>評価 授業の進行に従って提出するレポートで評価する。</p>
履修が望ましい科目：	コンピュータによるビジネス情報分析Ⅰ・Ⅱ

「プレゼミナール」（担当者：和田 耕治）の履修の手引き

科目名：	プレゼミナール
担当者：	和田 耕治
テーマ：	小売商業から日本の企業社会を考える
概要：	<p>1. 共通事項 プレゼミナールは、大学での最終的目標の一つである専門的な研究能力、調査能力を身につけるための準備段階での演習科目です。今まで基礎ゼミナールで大学での学習の方法を中心に学んで来ましたが、それを一歩推し進めて、如何に主体的に学ぶか？を学習します。実際にスキルとして、以下の課題に取り組みます。 (1) 文献調査の方法 (2) 論文の読み方 (3) プレゼンテーションの方法等</p> <p>2. 固有事項 また、プレゼミナールは自らの問題意識を構築し、如何に未知の課題を調査、研究していくかを担当教員の専門分野に従って実践していく科目です。 今年度の和田プレゼミナールは、日本の企業社会に関して、あなた方にとって最も身近な産業である小売業から考えていくことを予定しています。興味がないことは勉強したくない、好きな分野だけ勉強したいという考え方もありますが、食わず嫌いはいけません。今の小売業、流通業の劇的変化には、日本の企業社会の縮図が隠されています。 好んで和田プレゼミを履修する学生も不本意で履修する学生も縁があるからこの場にいるのです。人生無駄なことはありませんので、一年間、楽しく学習していきましょう</p>
授業方法：	ゼミナール、演習方式によるクラス運営をします。何もしないで出席だけしている学生は、欠席とみなしますので、主体的にゼミに参加するようにしてください。
履修の留意点：	<p>1. 毎回のゼミナールについては、必ず出席すること。公欠の場合であっても担当教員に連絡をいれること。</p> <p>2. ゼミナールのメンバー間での関係を良好に保つこと。ゼミナールの運営に非協力的な学生が1人でもいるとゼミの雰囲気が悪くなります。そうした学生に対しては、厳肅に対処します。</p>
目標と評価：	ゼミでの発表及び発言 プレゼミレポート ゼミ運営上に関わる貢献度
履修が望ましい科目：	特にありません。

「プレゼミナール」（担当者：戎野 淑子）の履修の手引き

科目名：	プレゼミナール
担当者：	戎野 淑子
テーマ：	働くことと企業
概要：	<p>1、3年生からゼミナールに入るにあたり、必要となる基本的知識、ならびにゼミナールにおける勉強方法を身につける。具体的には、基本的な資料や文献の収集、そしてレポート作成ならびに討論、発表を行う。</p> <p>2、「働くこと」と「企業」を中心テーマとして勉強することとなる。皆、いずれ社会に羽ばたいていくのであるが、今日は様々な働き方が存在し、正社員のほかアルバイトや派遣社員なども増加している。各自が、よくそれぞれの働き方について理解していることが望まれよう。また、そのためには、働く場としての企業についても知らなければならない。そこで、本ゼミナールでは、働くことと企業について、最近の資料やデータをみんなで収集し、議論しながら、進めていきたい。</p>
授業方法：	資料や文献を収集し、討論や発表を行う。
履修の留意点：	各自が積極的に参加してほしい。楽しく行いたい。
目標と評価：	レポートと発表を中心に行うが、授業態度も考慮する。
履修が望ましい科目：	

「プレゼミナール」（担当者：飯田 治）の履修の手引き

科目名：	プレゼミナール
担当者：	飯田 治
テーマ：	経営と組織～グローバル経済の中の日本企業～
概要：	<p>プレゼミナールは、より専門性の高いゼミナールに進む前の準備段階です。まず経営学の基本項目を整理しながら、現実の企業経営の実態と課題を、自分で調べ分析する学習方法を習得します。何を対象に選ぶか、から始まり、調査の進め方、問題点の分析、課題への対処、自分の考えを結論に纏めて論文にする、また教室で発表する、という一連の研究手法を講義と演習を通じて学びます。</p> <p>日常馴染みの深い日本企業が、それぞれにグローバル経済にどのように対応しているのかを研究対象に絞って、学習を進めます。</p> <p>個人個人で研究課題を選択するゼミナールへの前段階として、まず討論を通じて複数の課題を取り上げそれをいくつかのグループの中での討論、グループとの討論などを通じて、論理の組み立て、事実把握の正確さなどを検証してゆきます。</p>
授業方法：	<p>前期は授業前半で経営学の基本項目、新聞報道などの解説を講義で行い、授業後半の討論を基に、研究課題を徐々に絞り込んでいく。</p> <p>後期は、グループ別に割り当てた研究課題について、各グループのメンバーが共同で研究し、グループ内討論を経て結論まで完成させる。結果は、教室で発表し受講者全員で討論する。</p> <p>適宜、参考書、文献などを紹介してゆく。教科書は使用しない。</p>
履修の留意点：	<p>出席が非常に大切です。自分の頭で考え、それを簡潔にまとめて表現する場が多く与えられるので、積極的に討論に参加して下さい。</p> <p>テレビのコマーシャルや新聞雑誌の宣伝であろうが、報道記事であろうが、日本の企業について感心を持って下さい。面白い研究テーマが見つかるかもしれません。</p> <p>今日の日本は外国との関わり抜きには何も出来ないといつてよいでしょう。コンビニに並ぶ商品だって外国産が多いのです。新聞、テレビ、ラジオのニュースには常に注意を払って、日本企業の海外での活動に気を付けてください。</p> <p>グループ研究のまとめ他に、メンバー一人ひとりに、研究過程、結果、学習できたことなどにつき期末レポートしてもらいます。</p>
目標と評価：	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経営学の基本的知識を学ぶ 2. 日常生活と海外とのつながりを、日本企業の活動を通じて身近なものと感じ得ようになり、企業の経営自分の生活に密着していることを認識する。 3. 専門的課題の学習方法につき理解し、演習を通じ実践できるようにする。 4. 論文、レポートの書き方のポイントを理解し、発表能力を身につける。 <p>研究、討論への参画：50% 期末レポート：50%</p>
履修が望ましい科目：	特になし

「プレゼミナール」（担当者：吉沢 正広）の履修の手引き

科目名：	プレゼミナール
担当者：	吉沢 正広
テーマ：	経営学の基礎（仮）
概要：	<p>プレゼミナールでは、大学入学後経営学、経済学、法律、社会学などの多様な科目を学んできた学生に、経営学の専門ゼミナールへ進むための知識を提供することを目的としている。経営学は非常に複雑多岐にわたっており、経営上の事象を一つの理論や学説や立場で説明することは難しい。すなわちその全体像はきわめて複雑であるといえる。21世紀を迎え、グローバル化、経済のサービス化、情報技術（IT）の進化、国内の少子高齢化の急速な進展といったようにビジネスを取り巻く世界は大きく変貌を遂げている。このように企業や個人を取り巻く環境は大きく変わり、そしてそれに企業や組織や個人も対応していかなければならない。</p> <p>プレゼミナールでは、上記した内容を踏まえ、また学際的な知識を前提にして、経営学の基礎的な知識を学んでいきたい。複雑多岐な内容を含むので、適切な概説書を選定してゼミ・レポーターが担当個所をまとめ、それを（レジメ）作成し、それを発表し、その内容についてゼミ員が全員で討論する形式になる。その場では、唯一絶対の解答はないので、各自が自由に恥ずかしがることなく各自の意見を述べることが要求される。何事にも明るく積極的に参加しようとする姿勢が前提となる。</p>
授業方法：	<p>基本的にはゼミナール員と相談し決めるテキストの内容に基づいて、レポーターが担当個所をまとめたレジメを発表する形式で進めたい。必要に応じて、各種新聞の経営やそれに関連する記事をコピーして、その場で内容を確認し知識の吸収に努めたい。</p>
履修の留意点：	<p>経営学はきわめて学際的な学問分野なので、経済学や法律学や社会学などの科目を意欲的に勉強しておいて下さい。これは学生にとってもとても意義あることだと思います。ゼミナールは出席を前提にしていますので、休みが多くなると当然ながら評価できなくなるので注意してください。</p>
目標と評価：	<p>基本的には出席です。またゼミのレポーターとしての責任をきちんと果たしたかどうかも対象になります。</p>
履修が望ましい科目：	

「プレゼミナール」（担当者：小菅 成一）の履修の手引き

科目名：	プレゼミナール
担当者：	小菅 成一
テーマ：	法学演習
概要：	1年次の基礎ゼミナールでは、レジュメの作成方法、報告の仕方、資料の収集方法等を学習してきたと思います。2年次以降、経営法コースを選考する学生は、幅広くすべての法律分野を勉強することになりますので、これを踏まえて、本プレゼミナールでは、企業活動と法律との関わり（コンプライアンス）に興味を持った学生を対象に授業を進めていきます。
授業方法：	ゼミでは、受講生を小グループに分けて、実際に報告を担当してもらいます。その上で、報告に対する質疑応答に入ることにします。報告とディスカッションでは、新聞や著名な判例など実際の事件を題材にすることを予定しています。
履修の留意点：	1年次の「経営と法」を履修・単位取得した学生のみ受講を許可します。
目標と評価：	受講生の皆さんが、法律的なモノの考え方を身に付けられるよう学習していきます。成績については、出席率、受講態度、報告内容等を基に評価します。
履修が望ましい科目：	経営と法、商法Ⅰ、民法Ⅰ

「プレゼミナール」（担当者：原田 義郎）の履修の手引き

科目名：	プレゼミナール
担当者：	原田 義郎
テーマ：	我々の実生活の基本に関わる法律的な現象（仮）
概要：	<p>今日多くのメディア等で話題になったり、我々の実生活の基本に関わる法律的な現象についていくつかのテーマを設定し、それらについて次のようなことを考えてもらう。</p> <p>①どんな法律あるいは条文が関わるのか。 ②その法律、条文はどのような意味をもち、その立法趣旨はどうか。 ③その法的処理は、我々の素朴な社会常識からみて何か問題点はないか。あるいは、その実効性はどうか。</p> <p>テーマとしてとり上げる予定にしているものの一例は次のようなもので、民法、商法、刑法、独禁法等の各分野に及ぶ。契約と不履行、不法行為と賠償責任、刑事責任と民事責任、婚姻における人間関係、企業買収と株式、談合の違法性とその認識その他多くのものをとり上げる。</p>
授業方法：	ゼミであるから学生自ら文献を読み、考え、発表をし、質問を受け、又、発表者自身も疑問点を提示し、検討する。教師はそれらをサポートし、時には皆と一緒に考える。とり上げるテーマが広範囲の法領域に及ぶので、体系的な知識習得が目的ではなく、考察力、問題意識、自己の見解表明などの力をつけることである。
履修の留意点：	<p>①ポケット六法（必ず平成18年度版）購入のこと。 ②必ず何か発表しよう心がける。 ③自己の発言内容の優劣は気にしない。（発言に正解・不正解はないものと思うこと。たとえあったとしても、恥でも何でもない。知見を新たにさせていただきのことである。）</p>
目標と評価：	熱意と努力を評価。さらに自らの意見表明、その根拠の説明ができればなおよい。期待する。
履修が望ましい科目：	

「プレゼミナール」（担当者：内田 和夫）の履修の手引き

科目名：	プレゼミナール
担当者：	内田 和夫
テーマ：	共生型社会はどう可能か
概要：	今の社会は、一人一人の自由を保障する社会であるわけですが、一方、ある人が生きて行く上で困難に直面した時にそのまま捨ておかれてしまうと、みんなが互いにばらばらで身勝手な集まりのままにいいのかわかるかということがあるわけです。そうしたとき、浮かぶ社会のありかたとして「共生」という言葉があります。しかし、共生型の社会の形成は簡単に実現することでしょうか。けっしてそうではありません。このプレゼミナールは、「共生型社会はどう可能か」をテーマとして各人が自分なりのとりあえずの回答にたどりつき、小論文にまとめることを目標とします。
授業方法：	① 春学期は、共生への取り組みの事例にいくつか触れて、受講生同士で議論したいと思います。ドキュメンタリーを読んだり、現場にも行こうと思います。領域としては、ノーマライゼーション、環境、地域の国際化を取り上げる予定です。できれば、毎回、要約と批評を書いていくこととします。 ② 秋学期は、「共生としてのマンション居住」を取り上げ、コミュニティづくり、街づくり、都市計画、住宅政策、法政策、など種々の側面から、検討を加えます。 ③ 春学期、秋学期とも、土曜1日ゼミナールを各2回程度実施します。「アルバイトの1場面」の小演劇づくり、「小平よさこい」踊りへの参加、武蔵野市国際交流まつりへの参加などを予定しています。
履修の留意点：	①大学2年目をのびやかな中に真摯にすごしたい諸君を歓迎します。とりわけ、読み力と書く力をつけたい諸君を歓迎します。 ②安田ゼミとの合同ゼミも適宜開催します。 ③3年生以降のゼミナールへの橋渡しをひとりひとりの極力即しておこないます。
目標と評価：	①主な目標を以下の点におきます。 (1) いろいろな人のいろいろな取り組みに触れる。 (2) どうする、共に生きる世界をつくるのはと考え込む。 (3) 知りたいテーマを3つ以上もつ。 (4) 観察・情報収集・分析・記述・構造的理解を実際のスキルと素養を増しつ、経験する。 (5) 学問の成果を手がかりにする。 (6) 論理的読み取りと論理的記述を目指す。 (7) ゼミ仲間になる。 ②評価は、平常のゼミ活動と小論文の出来具合を勘案します。
履修が望ましい科目：	「ボランティア論」はかならず、「地方自治論Ⅰ」「地方自治論Ⅱ」はできるだけ履修してください。

「プレゼミナール」（担当者：安田 利枝）の履修の手引き

科目名：	プレゼミナール
担当者：	安田 利枝
テーマ：	（扱うテーマは、皆さんと相談して決めることにします）
概要：	<p>プレゼミナールという科目は、専門ゼミの入門編と位置づけられています。基礎ゼミナールで培った「大学での学び方」に一層磨きをかけるため、このゼミでは、ディベートという手法で、調査能力と論理的思考を養うことを主眼とします。この二つは皆さんが将来どのような職業についても、また、どんな場面にあっても皆さんを助けてくれる技術になるでしょう。専門知識は年々歳々古びることがあっても、身に着けた「学び方」は衰えることがないからです。ディベートを学ぶことで、次のような効果が期待できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 自分の意見や主張を論証しなければならないことを知る。 2) 論証のために、何をどのように調べるか、調べ方について知る。 3) 他者の異なる意見に敬意を払うことを知る 4) 他者の異なる意見の論拠を分析する。 5) 異なる意見、異なる論拠を知ること、柔軟にもの考えることができるようになる。 6) 自分と他者の意見や主張を比較して、その背景にある「思想」「価値観」の違いを知る。 <p>ディベートとともに、ブレイン・ストーミング、KJ法、リンクマップなどこれまでに確立されてきた「知的生産のための技法」入門編もやってみましょう。レポート作成、論文作成にきっと役立ちます。</p>
授業方法：	概要に書いたことと同じです。
履修の留意点：	履修生は、授業時間以外に多くの課題をこなしていくことが求められます。
目標と評価：	<p>目標：ディベートを学ぶことによる期待される効果が、学習の目標になります。</p> <p>評価：年度末に、プレゼンテーションとレポート提出を公共経営コース共通で実施します。この2つが1年間の学びの集大成の機会です。プレゼンテーション25% レポート40% 課題達成度25%で評価します。</p>
履修が望ましい科目：	特になし

「ゼミナールⅠ」（担当者：渡辺 広明）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	渡辺 広明
テーマ：	株式売買を通じて日本経済の今を知る
概要：	<p>①日本経済の今を知るために経済新聞や経済記事を読み、理解できることを目標とします。</p> <p>②株式の売買ゲームを行いながら経済を情報として収集し、日本経済の現状を知り、その経済分析を進めます。人数にもよりますが、東証主催の株式売買ゲームに参加する予定です。</p> <p>③現実の経済を理解するため企業見学や公共施設の訪問等を含む、合宿も行ないます。</p>
授業方法：	<p>①当方からの一方的な授業・講義はありません。</p> <p>②授業の方法は、演習形式で、参加型授業になります。毎回、何人かの受講生には売買した株式の報告書を発表したり、自分が選んだ経済ニュースや記事をプレゼンしてもらいます。</p> <p>③経営者や役所の方々へのインタビュー等の聞き取り調査をし、それをまとめ発表することも行います。</p> <p>④他大学や各種団体との交流会や討論会も行います（学園祭やスポーツ大会ももちろん参加します）。</p>
履修の留意点：	<p>①経済の勉強が好きな学生諸君お待ちしております。</p> <p>②何事にも堅実な学生諸君を待ちしております。</p> <p>③何事にも興味を持ち文武両道で生きたい学生諸君を待ちしております。</p> <p>④残りの大学生活2年間をゼミ中心に生活できる学生諸君を待ちしております。</p> <p>* 時間割上のゼミの時間以外にも活動します。</p> <p>尚、教科書はありません。新聞記事やインターネットを多く利用します。適宜、資料等も配布します。以下、参考文献を上げておきます。</p> <p>『細野真宏の世界一わかりやすい株の本』文芸春秋社、2005年、『細野真宏の世界一わかりやすい株の本 実践編』文芸春秋社、2005年、『会社四季報』（最新版）東洋経済新報社、『ゼロからわかる経済の基本』野口旭 講談社現代新書 2002年、『やさしい経済学』日本経済新聞社編 日経ビジネス人文庫 2002年、『経済のニュースが面白いほどわかる本・日本経済編、世界経済編』細野真宏 中経出版 2000、2003年、『優しい経済学』高橋伸彰 ちくま新書 2003年、『はじめての経済学 上下』伊藤元重 日経文庫 2004年。</p>
目標と評価：	<p>* 目標</p> <p>①経済学を学んでステキな社会人になろう。</p> <p>②経済学や日本経済の基本的な用語を学ぶ事ができる。</p> <p>③経済新聞を理解する事ができます。</p> <p>総じて、日本経済の発展の仕組みやその問題点を理解できます。</p> <p>* 評価</p> <p>①出欠席の状況（無断の遅刻や欠席は厳禁です。単位を与え無いこともあります）</p> <p>②毎回の授業へ貢献度（発表や発言の内容等）</p> <p>③合宿やフィールドワークの貢献度（企画・準備や実施・報告の内容）</p> <p>④その他のプロジェクトの貢献度（学園祭、スポーツ大会等）</p> <p>⑤ゼミ論や卒業制作の内容</p> <p>以上の総合評価で決定します</p>
選考方法：	規定の人数を超えた場合は、適性検査または面接を行います。
履修が望ましい科目：	日本経済論

「ゼミナールⅠ」（担当者：山田 寛）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	山田 寛
テーマ：	コース１：嘉悦青年海外協力隊 コース２：世界の子どもの問題を考える
概要：	山田ゼミは２００６年度は、２つのコースに分けて、最初からどちらのコースかを選んでもらいます。コース１もコース２も、テーマは世界の子どもが抱える様々な問題です。世界の子どもは、戦争や紛争、地雷の被害、子ども兵士、飢え死に、エイズ、孤児、貧困、児童労働、人身売買、教育を受けられない・・・暴力、いじめ、少年犯罪・・・など、さまざまな問題を抱えています。それを通して、国際政治・経済・社会の問題を考えて行きたいと思えます。それを考えるために、コース１（「嘉悦青年海外協力隊」コースというのは、政府の青年海外協力隊の名前をまねしたものです。別に難しい海外協力にいくつも出かけてもらおうというのではありません。）は、実際の学外の活動参加のほうを主体にし、一方コース２は学内での学習のほうを主体に演習します。
授業方法：	<p>コース１）</p> <p>①夏休みの海外ボランティア体験研修旅行に参加してもらいます。だいたい７泊８日で、アジアの田舎に行き、小学校で運動会を開いたり、植樹を行ったりするものです。</p> <p>②春学期にそのためのいろいろな準備をします。</p> <p>③日本国内における国際協力ＮＧＯの活動、イベントやオフィスでの作業などに参加します。国や地方自治体の国際協力・交流イベントなどにもできるだけ参加します。</p> <p>以上に７０％ぐらい重点をおきますが、</p> <p>④世界の子どもの問題についての教室での学習も３０％ぐらいで行います。</p> <p>コース２）</p> <p>①世界の子どもの問題についての学習に、８０～９０％ぐらい重点をおき、活動やイベントへの参加は１０～２０％で行います。</p> <p>②海外ボランティア体験研修旅行参加は、希望者だけです。参加しなくてもＯＫです。</p>
履修の留意点：	国際問題に関心があり、積極的な学生を歓迎します。文献を読むほかに、いろいろの情報に積極的にあたり、いろいろな活動も行って問題に取り組もうというゼミです。
目標と評価：	世界の問題に、「自分には関係ないこと」と考えず、いつもスイッチ・オンしている学生をふやしたいというのが、このゼミの目標です。ほかの先生のゼミでも 全く同じですが、出席することが大事です。学外活動参加の場合、それがよけい大事です。その積極性、出欠、真剣さを重視して評価します。
選考方法：	面談で決定します。
履修が望ましい科目：	国際関係の科目をできるだけとっていることが望ましいけれど、特定の科目はありません。

「ゼミナールⅠ」（担当者：尾村 敬二）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	尾村 敬二
テーマ：	国際経済
概要：	国際経済は日本人の生活と密着している。それゆえ、生活を通じての国際経済問題を理解することが必要である。日常利用されているパソコンの例を挙げてみる。ハード部品は日本製、韓国製、アメリカ製など多様であり、最終的に組み立てられたパソコンは日本製、韓国製などとなっているが、中身は国籍不明である。また、ソフトウェアはマイクロソフトやインテルなどのアメリカ勢が支配しており、日本は独自のソフト開発が必要かもしれない。すなわち、競争が激化し、それを通じて技術革新が行われている。パソコンの普及により社会の様相も変わり始め、世界はますます狭くなっている。また、過去コンピューター開発の過程は昨今の環境問題に関する深まりとも関係が強い。こうした変化（パソコンにかかわることだけではない）を見極める能力を身に着けることが、本ゼミナールの学習目的である。
授業方法：	春学期は国際経済に関する新聞記事を毎日メモし、各週ごとに発表する。また、英字新聞を読めるようにする。 秋学期は自分のテーマを選択し、新聞や書籍を読み、輪番で、報告し、議論する。
履修の留意点：	欠席をしないこと。通年で8回以上欠席したものは単位を授与しない。英文の読解力向上に努力すること。
目標と評価：	4年生のゼミナールⅡでは卒業論文を執筆するので、そのために必要な具体的なテーマの設定と勉強方法を確立する。
選考方法：	履修をする前に必ず面談に来ること。
履修が望ましい科目：	「原書講読」「開発経済学」

「ゼミナールⅠ」（担当者：劉暢）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	劉暢
テーマ：	日中比較経済論
概要：	このゼミナールは日中比較経済研究とは何か・その分析方法・日中両国（特に中国）の経済に関する基礎知識などの学習に重点を置きます。これらを通して、卒業論文を書くための準備・テーマ設定・資料収集・文献整理・論文作成といった卒業論文を書くうえでの必要な能力を養成します。
授業方法：	春学期では、まず卒業論文の作成について説明を行い、論文完成に至るまで実際のプロセスを明らかにします。これに基づき、『卒論・ゼミ論の書き方』（早稲田大学出版部編 2002年）の輪読を交えながら、卒業論文計画書の作成について意見交換を行います。 秋学期において、具体的に論文の書き方を説明すると同時に、比較経済論の基本概念・研究手法などの基礎知識を導入する目的で、『中国の経済発展——日本と中国の比較』南亮進（東洋経済新報社 1990年）を輪読します。そして受講生に卒業論文計画をゼミで発表させる予定です。
履修の留意点：	<ul style="list-style-type: none"> ●日中両国の経済発展を自分の目で見つめたい学生の参加を歓迎します。 ●中国語を履修することをこのゼミ選考の前提とはしません。
目標と評価：	<p>目標：卒業論文計画書の完成・計画書に関連する基礎知識の習得</p> <p>評価：卒業論文計画書の内容・受講態度・ゼミ報告などに基づき総合的に評価します。</p>
選考方法：	面接（成績表を持参してください）
履修が望ましい科目：	春学期設置科目「戦後日本経済史」 秋学期設置科目「日中比較経済論」

「ゼミナールⅠ」（担当者：久保 真）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	久保 真
テーマ：	グローバル化する世界経済、そしてそこにおける国民経済
概要：	<p>本ゼミナールは「国際経済コース」に関連づけられています。具体的なゼミの活動は、こちらをご覧ください。</p> <p>テレビや新聞などを通じて「グローバル化」とか「グローバリゼーション」といった言葉を耳にしたことがない人はいないでしょう。ヒト・モノ・カネが国境を越えて動くということが当たり前のこととなってきたということなのですが、それは私たちの身の回りでもさまざまな変化として現れています。中国工場で縫製されたユニクロの服を着て、オーストラリア産の小麦粉とメキシコ産の豚肉で作ったカツサンドをバクつきながら、ワールドカップや大リーグの生中継を、マレーシア工場で組み立てられたパナソニックのテレビで見る、なんていう情景は不思議でもなんでもありません。一見するとこのような変化はわれわれの生活を大変便利にしてくれているようですが、他方で「グローバル化はけしからん」なんていう論調も目立ちます。曰く、「成長する中国経済に日本経済は飲み込まれてしまう」とか「アメリカの投資ファンドに日本の土地や株式が買い占められてしまう」とかです。果たして、グローバル化はわたしたち国民の経済生活にどのような影響を与えているのでしょうか？</p> <p>本ゼミナールでは、経済学という視点から上のような問題に取り組みたいと考えています。とくに「マクロ経済学（＝本学の「経済学Ⅰ」の内容）」を重視しますが、私の担当する「社会認識の歩み」に興味・関心をもった学生も歓迎します。</p>
授業方法：	<p>春学期は、国際マクロ経済学の理論を講義と質疑応答によって学んでいきます。2004年度および2005年度は『入門マクロ経済学（第4版）』（中谷巖著、日本評論社、2000）をテキストブックとして採用しました。秋学期は、国際経済に関するテキストをゼミ生全員で読んでいきます。2004年度は『人間が幸福になる経済とは何か』（スティグリッツ著、徳間書店、2003）『現代世界経済システム』（立石剛他著、八千代出版、2004）をテキストブックとして採用しました。2005年度のテキストブックは現在（10月24日現在）選定中です。2006年度のテキストブックは、履修者の顔ぶれや興味・関心をお聞きして決めたいと思います。</p> <p>また、夏休みにはレポート課題を課し、夏合宿や秋学期に報告をしてもらいます。なお、四年次の「ゼミナールⅡ」では、卒業論文の作成指導を中心に行う予定です。</p>
履修の留意点：	<p>(1) 約束を守り、自律的に行動することのできる学生を歓迎します。</p> <p>(2) ゼミナールには、合宿やコンパといった授業以外の要素が含まれますので、これらに積極的に参加することができる学生を歓迎します。</p> <p>(3) 世界経済に関心がある、理論的思考を好む、本を読むのが無性に好きだ、自分の意見をとにかくだれかに話したい、二年間あんまり勉強しなかったので残り二年間は勉強に賭けたい、上のいずれか一つが該当する学生を歓迎します。</p> <p>(4) 「経済学Ⅰ」「国際経済学」の単位を修得していることが望ましいです。入ゼミ以前に上記科目を単位修得していない場合には、入ゼミ後にかならず単位修得して下さい。</p>
目標と評価：	<p>「ゼミナールⅠ」の目標は、経済学という視点から経済問題に取り組む準備を整えることです。評価は、平常的な取り組み（出席率、課題提出率、ゼミでの発言回数等）に基づいて下します。ちなみに、「ゼミナールⅡ」は、卒業論文の出来不出来に基づいて50%、平常的な取り組みに基づいて50%、という比率で評価を下します。</p>
選考方法：	<p>入ゼミ希望者が多数となった場合には、2005年度春学期までの成績で入ゼミを許可するかどうかを判断します。</p>
履修が望ましい科目：	<p>「履修の留意点」欄(4)を参照のこと。</p>

「ゼミナールⅠ」（担当者：生井 良一）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	生井 良一
テーマ：	世界そして日本の環境問題
概要：	<p>ゼミ1では下に記したような内容を勉強したり体験したりして、ゼミ2ではそれを元にして「卒業論文」の作成に当たるものとする。</p> <p>21世紀は環境の世紀とも言われる。深刻化する地球温暖化問題をはじめ、オゾン層破壊、酸性雨、森林の破壊、環境ホルモンなど化学物質による汚染、ごみ問題などの環境問題が山積している。加えて世界人口が爆発的に急増している。1900年には世界人口は16億人であったが、100年後の現在の人口は64億人である。その食糧をどうするか、エネルギーをどうするか、水をどうするか、こうした人口圧力が地球環境に及ぼす影響もきわめて大きいものと懸念されている。</p> <p>地球温暖化問題を考えてみよう。20世紀に入ると、石油石炭などの化石燃料の消費は急増した。そのおかげで生活は便利なものとなり、経済は成長した。しかし、このエネルギーの大量消費が二酸化炭素を増加させ、地球温暖化をもたらそうとしている。地球温暖化は最大の環境問題の一つと言われている。地球温暖化がこのまま進むと、海面上昇、異常気象の増加など世界各地で異常現象が続出し、しかも一度その口火を切ってしまうと人間の力では元へ戻すことは不可能と言われている。</p> <p>地球温暖化を防止するにはどうしたらよいのだろうか。どんな取り組みがあるのだろうか。それでは化石燃料に代わるエネルギー資源はあるのだろうか。化石燃料の消費を抑えることは、経済活動にも大きな影響があるだろう。それでも、化石燃料は抑えなければならぬところまできている。その取り組みの一つが省エネルギーであり、また自然エネルギーの活用である。日本では、その取り組みの現状はどうだろうか。一方、ヨーロッパのいくつかの国ではかなりの取り組みが進められている。それは、どんなものだろうか。環境を守ることと経済のことはどのように考えられているのだろうか。</p> <p>森林破壊も世界的な規模で進んでいる。これも深刻な環境問題である。なぜ、森林はそんなに大切なのだろうか。森林のはたらきとは何だろうか。熱帯林の破壊、マングローブ林、ツンドラ地帯のタイガという大森林の減少などを学びつつ森林について考えてみよう。</p> <p>森林の破壊が続いている地域では、砂漠化も進んでいる。歴史的にみても、緑を失った文明は、文明自身も減っているのだ。</p> <p>一方、森林再生への取り組みも行われている。その活動も調べてみよう。そして夏休みなどに、植林活動か、あるいは下草刈りなど森林の保全活動を体験できる機会があれば、ぜひ参加してみようではないか。</p> <p>一方、この100年間で、世界人口は急増し、やく4倍の64億人となった。単純に言えば、4倍の食糧が必要となったのである。この人口急増は主に途上国で起こっている現象である。これらの多くの人々が職を求めて都会に集まりスラム化したり、あるいは森林を焼いて焼畑農業を行い食糧を得ようとしている。このことも森林破壊に拍車をかけている。</p> <p>そんななか、20世紀後半には、技術の進歩により緑の革命とも呼ばれた食糧の大増産も可能となった。そのためには、化学肥料、農薬、そして大量の水が必要であった。結果として、現在は水不足となり、無理な耕作のために土壌も劣化した。</p> <p>水、土、緑、大気、これらは人間が生きていく上でも、他の生き物が生きていく上でも必要不可欠なものである。その存在基盤である水、土、緑、大気に現在では大きな問題が起きているのだ。</p> <p>地球はどれくらい人口を養えるのだろうか。巨大な人間活動が自然や耕作地を荒廃させ、自分達の生活をますます困難にしている。それでは、どうやって今後の世界の食糧問題を解決したらよいのだろうか、あるいは、貧困問題をどうしたらよいのだろうか。</p> <p>化学物質による汚染問題も複雑さを増している。農薬などの化学物質を大量に使用することに対して、1962年に「沈黙の春」という書物によって、生き物の生存やがんの発生に対して警告が出された。そして、1996年には「奪われし未来」という本によって、これら化学物質の一部がきわめて微量で生殖異常を引き起こしているという、いわゆる環境ホルモンについての懸念が示された。</p> <p>これら化学物質は海洋汚染も引き起こし、海の生き物たちにも影響を及ぼしている。</p> <p>日本では、明治以来足尾の銻毒事件、そして昭和の高度経済成長期の水俣病や四日市ぜんそくと言った公害問題を引き起こしてきた。これらは地域の企業による地域の汚染であり、そして多くの患者が発生した。これに似たことは現在の途上国の発展の過程でも起きている。</p> <p>現在は豊かな物質に囲まれた社会となっているが、車による大気汚染、河や湖の水質汚染、ごみ問題、森林の保全、酸性雨、あるいは地球温暖化防止のための省エネルギーをどうするかといったことが課題となっている。</p> <p>環境問題がかつての公害問題と異なる点は、環境問題では誰もが環境悪化の加害者であり、同時に被害者でもあるということである。</p> <p>ごみ問題も日本でも、世界でも大きな問題となっている。最終処分場が無くなってきていること、リサイクルをどうするか、ごみの発生を防ぐにはどうしたらよいか、実際に現場を調べてより深くごみ問題を理解しよう。</p> <p>一方で、日本の食糧自給率は40%を割っている。これは、国内の第一次産業にもダメージを与え、輸入相手国の環境にも影響を及ぼしている。また、身近なところではアレルギーに悩まされる人も多くなっているが、食品や排気ガスなどがその原因ではないかという説もある。</p> <p>こうした状況において、環境をどうするか、経済をどうするか、環境と経済の調和はとれるのか、持続可能な社会とは何か、そのことを皆で考えていきたい。</p> <p>ところで、地球というシステムと生き物との関係は絶妙なバランスの上に成り立っている。この地球システムのすばらしさもぜひ知って欲しいところである。</p> <p>なお、これら環境問題を考える際の基本的な自然法則もぜひ理解して欲しい。つまり、生態系、食物連鎖、生物濃縮、エネルギー保存則、物質不滅の法則、水の大循環、大気の大循環、物質の循環などである。</p>
授業方法：	<p>基本的には、関心のあることを調べて発表し、そして疑問、質問、意見、提案などいろいろ出し合う。そのことで、互いに他のテーマについても理解を深めたり、あるいはさらに調べることもあるだろう。具体的な事例を多く取り上げていきたい。必要に応じて、ビデオも大いに活用する。また、環境学習体験の機会もつくりたい。</p>
履修の留意点：	<p>まず、世界と日本の環境破壊の実情を知って欲しい。そして、4年生になった時の卒業論文のテーマを見つけるつもりでいろいろなことを学習し、疑問に思ったことは大事にして欲しい。環境と経済、それは対立するものなのか、調和できるものなのか、あるいはどんな調和のための取り組みがあるのか、それと持続可能な社会とは、そんな問いかけも念頭に置いて欲しい。</p> <p>目標と評価： 目標1：環境破壊について、その現状、原因、防止の取り組みの三つの視点を大事にする。 目標2：自然界では、いろいろなことが互いに関連し合っている、そのことを理解すること 目標3：生命維持のシステムは微妙なバランスの上に成り立っていることを理解すること 目標4：人間活動について、その影響の大きさを理解すること 目標5：個人の生活スタイルも見直す機会とすること</p>
目標と評価：	<p>評価については、ゼミ活動への積極性を最も大きく評価の対象とする。それと、レポート、出席点を合わせて決定する。</p>
選考方法：	<p>意欲のある人、環境問題に関心のある人、あるいは地球や生命に関心のある人にぜひ参加して欲しい。場合によっては、何か書いてもらうとか、面接をするとか、そういうことも考えている。</p>
履修が望ましい科目：	<p>[地球と環境Ⅰ] [地球と環境Ⅱ] [生活環境論]</p>

「ゼミナールⅠ」（担当者：山崎 康之）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	山崎 康之
テーマ：	ミクロ経済学—戦略的アプローチ
概要：	<p>本ゼミナールの研究対象は、「ミクロ経済学」（価格理論）です。それを戦略という視点から考えようというのがその目的です。</p> <p>ある一定の目標を持った個人が、様々な可能な行動の中から、その目標に照らして最適な行動を選択することを合理的意思決定と呼びます。戦略的アプローチ（ゲームの理論）は複数の個人の利害が相互に依存しあっている場での各個人のこの意思決定、すなわち、利害が対立する状況下における合理的行動とはいかなるものであるべきかという問題を研究します。それは、相手がこちらを出し抜こうとしていることを知った上で、さらにその上を行こうと試みる戦略的行動の分析を通じて、競争と協調をめぐる紛争の一般理論であることを目指します。</p> <p>このゼミナールでは、最近社会科学の多くの分野でその応用が著しいこの戦略的アプローチを取り上げ、そのミクロ経済学への応用について学びます。</p>
授業方法：	<p>春学期・秋学期とも梶井厚志・松井彰彦『ミクロ経済学—戦略的アプローチ』日本評論社、2000年を輪読します。輪読というのは、一人では読了するのが難しいような文献を集団で読破しようとする方法で、ゼミの受講生の一人もしくは数名に文献の指定部分の内容や問題点をレジュメを用意した上で報告してもらい、他の参加者がそれについて質問・討議を行うことによって、その内容を理解していくものです。</p> <p>授業は、多分水曜日2時限に行います。</p>
履修の留意点：	<ol style="list-style-type: none"> 1. ミクロ経済学の理論とその応用に興味を持っている学生諸君の参加を希望します。 2. 高校の数学Ⅰの内容程度の数学を使います。具体的には、1次関数・2次関数の最大値・最小値および確率などです。 3. 原則として遅刻・欠席は認めません。
目標と評価：	<p>最終的には、卒業論文の作成を目標としていますが、その過程において、文献の調べ方や討論・報告の仕方を習得していただきたいと思います。具体的には、4年次に3年次の輪読によって得られた知識や視点をもとに、履修者各自の興味ある経済学関連のテーマを設定し、卒業論文を何度かの中間報告を経て完成してもらいます。</p> <p>3年次ではゼミナールへの参加程度（出席していたかだけでなく、報告をきちんと行ったかとか質問を積極的に行ったか）および月1回ぐらいの割合で出題される宿題の結果により総合的に評価します。</p> <p>4年次のそれは、卒業論文の評価によります。なお卒業論文は、最低20000字の字数を想定しています。4年次は個別指導になると思います。</p>
選考方法：	2年次春学期までの成績および面接により決定します。
履修が望ましい科目：	経済学関係の科目（経済学Ⅰ、Ⅱなど）を出来るだけ多く履修して下さい。特に経済学Ⅱが履修済みなし3年次春学期に履修予定であること。

「ゼミナールⅠ」（担当者：内藤 勝）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	内藤 勝
テーマ：	自然と農業
概要：	<p>・・・自然を尺度として現代を考え生きる。・・・</p> <p>現代は総て人の頭つまり脳が考え出したmonoである。パソコン、ジャンボ機、ミサイル、共産主義、資本主義、自由主義、哲学、物理学、化学、宗教、経済学等である。それは人の願望や欲望を満たしてきた。経済的欲望を満たした物的要素は石油である。この大量消費によって大都市が出現し、豊かな生活が可能になった。他方、それは大量の排ガスを排出する。二酸化炭素は年間64億t（1997）大気中に捨てられ地球の温暖化、酸性雨、肺ガン、小児喘息の原因にもなっている。このまま、この増大が続けば臨界点を越え70～80年で人類の歴史も終わるであろうと予測される。（松井孝典）現代はエントロピー（エネルギーの汚れ）的限界に達しようとしている。</p>
授業方法：	<p>以上の問題を既成の学問、宗教が解けるとは思えない。以上の世界に入らないものは「自然」だけである。自然の摂理を体得しそれに従う学問と生活こそ現代の行き詰まりを解く鍵であろう。</p> <p>それを知るために「農業体験」を重視する。5月田植え 8月稲刈り 11月餅つき、12月おしるこ大会 1月聞き酒大会 2月座禅の体験を通して「自然の摂理を体得する。」実践による直感力を磨きたい。</p>
履修の留意点：	特になし。知性よりも肉体労働を喜べる頑丈な手と足そして根性を尊ぶ。
目標と評価：	体験した者には、体得しただけの評価をしたい。
選考方法：	tokuni nasi
履修が望ましい科目：	tokuni nasi

「ゼミナールⅠ」（担当者：内田 和夫）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	内田 和夫
テーマ：	市民としての「まちづくり」
概要：	<p>まちづくりとは道路や公園や建物をどう配置するのかというハードの面と、人と人がどういう関係を築けるのかといったソフトの面があります。このゼミナールでは後者に注目しながら前者も視野の中にはいれて、人間の暮らしがもっと生き生きできる「まち」がどうしたら実現できるのかを考えていきます。</p> <p>現在のまちづくりは、パートナーシップの時代を迎えています。役所だけに責任を負わせる時代は終わりました。地域に暮らす1人1人がなにができるか。昨今注目の集まるNPOはなにができるか。地元商店はなにができるか。</p> <p>さまざまな立場の人が、さまざまに協力した、「まちづくり」が今始まっています。そうした事例に学びながら、あなた自身が暮らすしたいまちをどうつくるかをみんなで考えます。</p>
授業方法：	<p>春学期は、多摩を事例に地域の歴史を学びます。興味ももてるよう、できるだけフィールドワークに行きたいとおもいます。</p> <p>夏合宿は、伊豆七島の御蔵島に行きたいとおもいます。エコツーリズムを実施している人口300人弱の島です。</p> <p>秋学期は、自分自身の卒業論文のテーマを決めるための時間にします。ひとつのことをじっくり考え抜いた経験をしたといえる自分になって大学を卒業したいと思いませんか。これまでは、「子どものためのまちづくり」「障害者のためのまちづくり」「高齢者のためのまちづくり」「震災復興のまちづくり」などのグループにわかれてテーマを設定してきました。</p>
履修の留意点：	<p>2時間続きでフィールドに行くことがあります。</p> <p>現場でがんばっている、さまざまな人と出会って、刺激を受けたい人、人と人の協力を夢持ちたい人、非営利の経済活動に興味のある人、自治体の仕事に関心のある人を歓迎します。</p>
目標と評価：	<p>私のまちづくりについての提言を含む卒業論文の執筆が最終ゴールです。</p> <p>本を読みことやフィールドにいてみることで、ものを調べ、考えることはひとつの小さい冒険旅行であることをぜひ体験してほしいとおもいます。新しい自分と新しい人と社会の理解に到達しているはず。</p> <p>3年次の評価は、出席、現場調査、報告、ゼミ活動への取り組みなどを総合評価します。4年次は、卒業論文を軸に評価する予定です。</p>
選考方法：	志望理由アンケート、課題作文、面接、によります。
履修が望ましい科目：	地方自治論ⅠⅡ

「ゼミナールⅠ」（担当者：安田 利枝）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	安田 利枝
テーマ：	環境と開発の政治経済学ー世界を変えるお金の使い方ー
概要：	<p>お金で何でもできる、何でも解決できるわけではないけれど、使い方によって「世界を変える」原動力になります。経済学で教える「市場」では、あるモノを買ったり、サービスを買ったりすることが「需要」として、モノやサービスを生産している企業やその働く人に伝わります。そこに「需要」があれば、もっとそれを生産しようということになります。</p> <p>でも、それを生み出すときに、有害な工場排水を垂れ流していたり、出たゴミを違法に捨てていたり、働く人に健康被害を与えていたり、沢山の石油など化石燃料を使っていたり、途上国の自然を大規模に破壊していたら？</p> <p>経済開発に伴う問題として「貧富の格差拡大」と「環境悪化」があります。</p> <p>今は、多少その値段が高くても、働く人や環境のことを考えて作られたモノを買い（フェア・トレード、エコ・プロダクトやグリーン購入）、そのような企業の株を買い（エコ・ファンド）、困っている人を助けている活動にほんの少し寄附をするなど、世界をもっといいところにしてしようとしている動きが沢山あります。</p> <p>それらの事例に学びながら、「経済成長か環境保全か」という二者択一の議論を越える「道」を探ります。</p>
授業方法：	<p>理論と事例研究を両軸にして学習していきます。すなわち、最初はウォーミング・アップとして数冊のルポルタージュや数本のビデオ作品から環境と開発に係る問題を知ることから始め、次に教科書として指定する文献を輪読会の形式で読み進めます。1人の報告に対して他のゼミ生全員で質疑応答・ディスカッションをしていく形になります。さらに、様々な社会運動や活動事例を考察するため、問題解決の現場で苦闘し活躍している人たちにお話を伺うこともしていきます。</p> <p>頭で考えたり本で読んだりするだけでなく、見たり、聞いたり、体全体で何かを感じることで、そして考え行動し続ける素晴らしい人たちに出会ったという体験こそが、私達のなかの何かを変えてくれるはずです。何か問題を考える時、その現場やそこに生きる人々の姿や顔が思い浮かぶようになり、それがまた、本や資料の読み方を変えることを期待しています。</p>
履修の留意点：	ゼミ活動に使う時間とエネルギーを惜しまない学生を募集します。毎回のゼミで報告者だけでなく全員がある程度準備をしてゼミの授業に臨むことを求めます。
目標と評価：	<p>学習目標は、以下の5つです。これらの点で教員の評価と自己評価をつき合わせて、最終評価を決めます。通年ですの26回の授業があります。このうち4回以上欠席したら極めて単位取得は難しいと考えてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境と開発に係る重要な概念・用語を理解し、明快に自分の言葉で説明できること。 2. 問題に係る利害関係者を相関図に描けること。 3. ウェブ・サイトからのカット&ペーストでなく、論理的な組み立てがある程度できているレポートを書くことができること。 4. 社会・政治・経済問題について自分なりの問題意識を持ち始めること。 5. ゼミの仲間とコミュニケーションがとれ、共同作業ができること。
選考方法：	このゼミナールで何を学びたいと考えているのか、志望動機を400字以上書いて提出してください。それをもとに必ず面談をします。
履修が望ましい科目：	<p>社会理解科目「地球と環境Ⅰ・Ⅱ」 国際経済コース「国際協力論」「国際援助論」国際経済コース「環境と開発」 生活経済コース「生活環境論」</p>

「ゼミナールⅠ」（担当者：戎野 淑子）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	戎野 淑子
テーマ：	「働くこと」と「企業」
概要：	<p>現在、人々の「働き方」が大きく変わりつつあります。正社員として、終身雇用を前提として働く働き方が少なくなってきて、フリーターや派遣社員など多様な働き方が多く見られるようになってきました。また、若くして新規事業を成功させている人もいます。転職も珍しくなくなり、学校卒業後短期間で仕事を辞めてしまう人も少なくありません。給料の支払われ方も、年功序列から成果主義的になってきていると言われています。このように状況がどうして起きているのでしょうか？働く場である「企業」の変化と、人々の働くことへの意識・行動の変化の両方が大きいと思われます。そこで、「企業」と「働く人々（会社で働く人や起業家等々）」の双方の視点から、現在の変化について考えてみたいと思います。そして、その時に、日本経済全体の仕組みを理解しつつ、国際化や技術革新など私たちを取り巻く環境の変化についても、検討していきたいです。</p>
授業方法：	<p>春学期は、「働き方と企業」について文献（参加者と相談して決定）を調べ、報告します。そして、報告会において、討論を行います。最後にレポートまとめ、自分の問題意識、自分の方向性を明らかにします。</p> <p>秋学期は、グループごとにテーマを決め、共同で調べ、討論を行い、最後に全体で発表を行います。</p>
履修の留意点：	<p>本ゼミナールは、グループでの共同研究も多く、全員が毎回出席することによって、初めて成り立つ授業です。皆で作っていく授業ですので、欠席や無責任な行動は、ゼミナールの全員に迷惑をかけることであることを理解していただきたいです。合宿や企業・工場見学などのイベントも行いたいと考えておりますので、「協力して、楽しいゼミを作ろう」と思ってくださいの方の参加を希望します。</p>
目標と評価：	<p>最終的には、4年次の卒業論文の作成（グループによる作成）が目標となります。</p> <p>3年次からのプレゼンやレポート作成など、日ごろのゼミナールでの積極的な取り組みがあって、卒業論文完成へとつながります。したがって、出席、発表、レポートなどによって評価します。</p>
選考方法：	簡単に志望理由を書いていただき、面談します。
履修が望ましい科目：	「日本企業と雇用システム」「労働と余暇の経済学」

「ゼミナールⅠ」（担当者：山本 孝夫）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	山本 孝夫
テーマ：	財務会計
概要：	本ゼミナールでは、企業会計の基礎理論を体系的に理解するため、財務会計の構造を考察して、実証的かつ理論的研究能力の涵養を計りたいと思います。 企業における経営活動は、営利活動と非営利活動に分かれますが、特に営利活動に限定して、社会人に必要な基礎知識、すなわち貸借対照表概念・損益計算諸概念および資金計算書概念の関連性を学問的に修得することを目指したいと思います。
授業方法：	3年生の授業は、春学期に簿記学・会計学の基礎理論を深めるため、資産会計論、資本会計論、株式会社会計論などの諸問題を取り上げ、関連する文献の輪読を行います。 秋学期には、各企業の有価証券報告書を参考にして財務分析を行い、企業の収益性や安全性など財務諸表の読み方について研究したいと思います。 4年生は、卒業論文の作成に目指して、論文の進捗状況に合わせた発表と問題提起等を行います。
履修の留意点：	ゼミナールは、学生が主体で授業が進められるので、簿記・会計に興味を持つ学生であることが望ましい。意欲的な学生諸君の参加を期待しています。 なお、定期的にゼミ合宿と他のゼミとの合同ゼミを予定しています。
目標と評価：	主体的な研究姿勢を身に付け、特定の学問について問題意識を明確に持つことができる人材を育成したいと考えています。 成績評価は、卒業論文が最終的なものとなりますが、ゼミナールへの積極的な参加と研究姿勢も重要な要素となります。
選考方法：	1. 面接を重視します。 2. 1・2年次の成績を参考にします。 3. 社会的なマナーも重視します。
履修が望ましい科目：	3年・4年次科目「財務会計論」「国際会計論」「連結会計論」「監査論」「経営分析論」

「ゼミナールⅠ」（担当者：井上 行忠）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	井上 行忠
テーマ：	財務会計
概要：	本ゼミナールでは「財務会計」を研究対象とする。財務会計とは、企業の経営成績および財政成績を外部利害関係者（株主、債権者、従業員、税務官庁、監督官庁、取引先、消費者等）に報告する会計である。したがって、財務会計は、単に一部の利害関係者の利害に基づくものではなく、企業を取り巻く不特定多数の利害関係者の意思決定に役立つものである。本ゼミナールは、公認会計士試験二次試験・税理士試験・日商簿記検定1級における「簿記論・財務諸表論」の計算および理論の理解を深めることを主要なテーマとする。
授業方法：	授業方法は、各テーマごとに担当者を決定し、発表（報告）形式で行う。 春学期のテーマは、「企業会計の基本原則」「企業会計制度と財務諸表」「損益計算原理と損益計算書の構造」「貸借対照表の構造と貸借対照表原則」「流動資産」「有形固定資産」「無形固定資産および投資その他の資産」「繰延資産」を中心に学習を行う。 秋学期のテーマは、「負債会計」「資本会計」「金融商品会計」「外貨換算会計」「税効果会計」「財務諸表の作成」「連結会計」を中心に学習を行う。 なお、学習内容については、ゼミ受講者と相談して決定する。 注：使用テキストは、ゼミ受講者の目標内容により決定する。
履修の留意点：	履修の留意点： 将来職業会計人（会計士、税理士、大学院進学、国税専門官、会計事務所勤務、会社経理等）を志す学生の参加を希望します。
目標と評価：	目標と評価： 最終的には、卒業論文の作成を目標とする。卒業論文の作成（資料の収集方法、論文の書き方等）については、3年次に指導を行う。 評価については、目標資格の取得状況、出席状況、報告内容等、総合的に評価を行う。
選考方法：	選考方法： 志望理由、面談の上、決定する。
履修が望ましい科目：	履修が望ましい科目： 履修が望ましい科目： 3年次設置科目：財務会計論、管理会計論、連結会計論

「ゼミナールⅠ」（担当者：飯野 幸江）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	飯野 幸江
テーマ：	社会と会計
概要：	現代の社会では、社会的存在としての企業の性格が濃くなり、企業は社会制度に組み込まれたものとなっています。このような現状において、かつてのように利益の追求のみを重視した企業経営は支持されなくなってきました。企業にも社会性や公共性が求められ、それらを備えていない企業は市場からも消費者からも見放される時代となっているのです。企業観の変化に伴い、会計もかつてのような利益計算のみを重視するのではなく、企業がどれだけ社会に貢献しているか、自然環境に対してどれだけ配慮しているか、従業員が働きやすい職場環境をつくっているか、といったことに関する会計情報が求められるようになってきています。すなわち、企業の経済的な業績指標である「利益」に加え、企業の社会活動に関する会計情報が求められているのです。本ゼミナールでは会計学の基礎知識を学ぶとともに、社会と会計の関係について考えていきます。
授業方法：	春学期には会計学の基礎知識について学びます。具体的には、会計報告手段としての財務諸表（損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書）と、それを支える会計理論についての理解を深めていきます。秋学期には春学期で習得した知識をもとに、社会と会計の関係について書かれた文献を輪読します。授業は、年間を通じて各学期のテーマに沿った文献を輪読する形式で行います。その際、各章につき担当者を決め、担当者がそれについて発表する形式で進めます。さらに発表内容を全員で討論し、疑問点を明らかにすることで理解を深めていきます。このようなプロセスを通じて、会計学の知識を身に付けるだけでなく、専門書の読み方、レジュメの書き方、発表の仕方、質問の考え方などを学んでいきます。
履修の留意点：	本ゼミナールは、日商簿記検定3級程度の簿記の知識を持っていることを前提に行います。入ゼミ時点で簿記検定に合格していなくても構いませんが、「会計学」という学問の性質上、最低でも日商簿記検定3級、できれば2級を取得することを旨してもらいたいと思います。ゼミナールは講義とは違い、学生が主体的に参加することで内容が身に付くものです。さらに宿舎やコンパを行うことで、学生間および学生と教員間の交流を深め、ゼミナール活動を有意義なものにします。そのためにも授業とゼミ行事の両方に、積極的に参加する意思のある学生を期待します。
目標と評価：	目標：①会計学の基礎知識を身に付けること。 ②「会計」という素材を用いて、自ら疑問点を見出し、それを自らの頭で考えて解決する能力を身に付けること。 評価：①2,000字程度のレポート（秋学期終了時点で課します） ②ゼミナールへの取組姿勢（発表内容、参加態度など）
選考方法：	定員を超えた場合にのみ、志望理由書と面接により選考します。
履修が望ましい科目：	◆3年次終了までに履修しておいてほしい科目 原価計算論、財務諸表論、財務会計論、管理会計論 ◆3年次または4年次に履修しておいてほしい科目 連結会計論、国際会計論、監査論、経営分析論、税務会計論

「ゼミナールⅠ」（担当者：古賀 義弘）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	古賀 義弘
テーマ：	日本の産業・企業の現状分析
概要：	日本経済はやや回復傾向にあると言われている。しかし企業の海外進出やリストラなどの問題もかかえており、また中国の急速な発展は東アジアの経済のみならず、世界経済にも大きな影響を与えるまでになり、日本の針路が改めて問われる時代になっている。このような傾向は産業構造にも大きな変化をもたらす、学生諸君の進路にも影響を与えている。当ゼミでは、日本の主要な産業や企業の現状に焦点を当て、これらがどのような状況にあるかを明らかにしていく。これらに取り組むことで学生諸君が将来の進路に少しでも有用であるような方向を目指す。
授業方法：	1. ゼミの最初の3分の1を新聞記事の発表と解説にあてる。 何よりも活字に親しむことから、社会の全般的認識を深めていくことを目的とする。順番に1週間の記事をまとめて簡潔に説明し、質疑応答形式で進める。 2. 残りの3分の2をテキストをレジメにして発表・執事応答とする。 日本の経済や企業の動向を改めて整理することで、4年次の卒論作成の準備と位置付ける。 3. 出来るだけ合宿や企業見学などによる集中的勉強の機会を見つけ、効果的な授業を目指す。
履修の留意点：	1. 新聞の購読と読む習慣が不可欠であり、必要箇所は切り抜きなど記録保存する 2. 基本文献には必ず目を通すこと 3. 発表者は事前にレジメを準備して発表し、発表しない者も事前学習は必修 4. 無断欠席は絶対不可
目標と評価：	1年後には日本の経済・産業についてのアウトラインが基本的に認識できる水準を目指し、また新聞に目を通す習慣が定着する事を期待する。もって各人が4年次の卒論テーマを見出せることになる事を最高の目標とする。 1. ゼミの発表内容・態度 2. 質問等ゼミへの参加態度 3. 資料や課題に対する取り組み 4. 出欠状態 これらを総合的にみて評価をする
選考方法：	
履修が望ましい科目：	日本経済論、産業構造論、企業論、中小企業論

「ゼミナールⅠ」（担当者：松行 彬子）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	松行 彬子
テーマ：	グローバル企業と経営
概要：	<p>20世紀末から21世紀にかけて経営環境の激変とともに企業経営のパラダイムは根底から転換しました。市場のグローバル化・技術革新の加速化などにより、多くの日本企業はグローバル企業へと変容しています。</p> <p>本ゼミナールでは'企業のグローバル経営とは何か'を追求します。その中でも特に'企業の競争力'に焦点を当てて、新しい時代の真の企業の競争力を理論的に、実証的に検討します。分析のツールとして、各種の資料および基礎的な経営分析を用います。これまでに、競争力の源泉、パートナーシップについて輪読しました。また、ケースとして、自動車産業等を取り上げ、調査・研究をしました。</p> <p>1,2年で培った経営学の学習を基礎に、受講生が広く経営学に関して問題意識をもち、問題解決へと発展するよう指導したいと思っています。</p>
授業方法：	<p>春学期には企業の競争力に関する最新の文献を輪読します。毎回、指名された各レポーターが内容を発表し、全員で問題点を討論します。</p> <p>各種の資料の購読、基礎的な経営分析を通して、企業の業績を分析・比較する方法を習得します。</p> <p>秋学期には、ケース・スタディを行います。ケースごとにグループに別れ、資料収集をし、競争力を分析し、その結果を比較し、成果をレポートにまとめます。このときに、経営学に関するレポートの書き方を指導します。</p>
履修の留意点：	<p>企業経営に広く興味を持ち、ゼミナール活動に積極的に取り組む熱意ある学生の参加を歓迎します。</p> <p>合宿、工場見学、企業訪問などを予定していますが、参加者との相談により選択します。これまでに、ビール工場・タイヤ工場等を見学しました。</p>
目標と評価：	<p>4年次の卒業制作を最終目的とします。そのために、3年次には、資料収集、企業評価方法、基本的な専門知識などをゼミ活動を通じて習得します。</p> <p>3年次の評価は、出席、授業時の報告・発表、ゼミナールへの取り組みの熱意などを総合的に評価します。</p>
選考方法：	<p>面談によって決定します。そのときに、成績表・本ゼミナールへの志望動機を400字程度にまとめたものを持参してください。</p>
履修が望ましい科目：	経営戦略論、経営学Ⅱ

「ゼミナールⅠ」（担当者：青山 悦子）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	青山 悦子
テーマ：	日本企業における人事労務管理研究
概要：	日本企業における人事労務管理は、現在大きな変革期にあります。終身雇用や年功制はすでに“博物館”には入りつつあるとさえ言われています。代わって登場したのが、成果主義、弾力化、多様化、個人主義などのキーワードに代表される新たな人事労務管理システムです。日本企業は、どのように変わろうとしているのでしょうか。人事労務管理と労使関係の新たな動向を検証し、それについて深く議論することが、本ゼミナールの主要なテーマとなります。あわせて、これからの就職活動に備え、ゼミナールがゼミ生各自の「働き方」を深く考え、議論する「場」となることも目標としています。
授業方法：	最終的には、ゼミナール構成員との話し合いの中で決定していく予定ですが、原則として、春学期前半は、現在の人事労務管理の様々な側面を新聞・雑誌記事を材料にしながら皆で考えていく予定です。毎回レポーターによる報告と、それに対する質疑、討論を重ねながら、現在進行しつつある日本企業における人事労務管理の「今」を学んでもらうことを主眼とします。後半は、秋以降の就職活動に備え、各自興味のある業界研究を行ってもらいます。ちなみに現3年生は、出版、ホテル、アパレル、コンビニ、ビール・飲料、スポーツ、公務員の各業界（業種）の報告を個人あるいはグループで行い、それぞれの業界（業種）の現状を身近なものとししました。秋学期は、各自テーマを決め、そのテーマについて深めてもらうことを目標とします。あわせて当該研究にかかわる資料収集の方法も身に付けてもらう予定です。最終的には、レポートとしてまとめることで、卒業論文作成のためのスキルの向上を目指します。
履修の留意点：	ゼミナールの活性化を図るため、報告準備のための作業に十分な時間をとって取り組める学生、さらに企業・工場見学、学園祭への参加などをゼミの重要なイベントとして取り組む予定なので、各種の役割を積極的に引き受け、ゼミを主体的に「創り上げていこう」とする意欲的な学生の参加を希望します。
目標と評価：	最終的には、4年次の卒業論文（約2万字程度）の作成が目標となります。3年次の評価は、出席、報告、ゼミ活動への取り組みなど総合的に評価します。
選考方法：	面談（志望理由など）の上、決定します。
履修が望ましい科目：	3年次設置科目、「労務管理論Ⅰ」、「労務管理論Ⅱ」

「ゼミナールⅠ」（担当者：和田 耕治）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	和田 耕治
テーマ：	中小小売業の研究、商業集積の活性化
概要：	本ゼミナールでは、わが国の中小商業を取り巻く問題を考察するために、中小商業の実態、経営、政策などに関して、多面的に検討します。また、中小小売業と大型店、ショッピングセンター、地域、行政等との関わりを意識しつつ、今日における商業集積の活性化、街づくり、中小小売店の経営の課題を考えます。
授業方法：	わが国における中小商業あるいは街づくりに関する基本的な知識を修得するために中小商業に関する基本的な書籍を輪読します。また、視聴覚教材を用いて中小商業の実態把握を商店街、商業集積の実態調査を行います。
履修の留意点：	中小商業、流通について興味を持っている学生の参加を歓迎します。卒業後の進路として、家業を継ぐもの、公的機関や金融機関等において中小企業に対する支援を職業としたい学生の参加を歓迎します。履修者は、平常の授業週において、週1コマの参加を必要とします。さらに、商店街やショッピングセンターの視察を考えています。
目標と評価：	最終的には卒業制作を目標としますが、3年次はその過程における基本となる知識の修得、問題意識の設定に重きをおきます。3年次の評価は、ゼミナールへの出席と授業中での報告、発言などに基づいて下されます。4年次に行う卒業論文については、16000字以上の本文と2000字程度の要旨を作成してください。
選考方法：	定員を超えた場合は2年次春学期までの成績内容を含め総合的判断で決めますので、面談の際に成績表を持参して下さい。 3年次編入者等については、抽選で決めます。
履修が望ましい科目：	中小企業論と事業創造論は履修してください。

「ゼミナールⅠ」（担当者：南 憲一）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	南 憲一
テーマ：	経営科学
概要：	<p>一般に経営科学と呼ばれる分野の中で、統計解析、データ解析、シミュレーションについて学習を進めます。これらの理論を学んだ上でExcelを用いた実際の経営の問題への応用を行います。</p> <p>統計解析の内容 記述統計、確率、正規分布、標本分布、推定、検定</p> <p>データ解析の内容 分散分析、単回帰分析、重回帰分析、主成分分析、判別分析</p> <p>シミュレーションの内容 擬似乱数と確率分布、計画の問題、決定の問題、在庫の問題、待ち行列の問題</p>
授業方法：	<p>3年次 統計解析、データ解析、シミュレーションの様々な手法について教科書の輪読とExcelを用いた実習を通して学習を進めます。輪読では、各受講生の担当を決め順番に授業までに内容を熟読の上、内容を解説してもらいます。引き続き、実際の経営の問題に関するExcelを用いた分析を行います。</p> <p>4年次 卒業論文作成のために必要な文献購読を行います（輪読形式）。さらに研究テーマを各自設定し、そのテーマによって研究を進めます。研究の途中経過の報告を随時行います。最終的に各自卒業論文を完成させます。</p>
履修の留意点：	<p>通常の授業とゼミナールの異なる点は、ゼミナールが学生参加型・学生主体の授業であるということです。従って、まず欠席しないということが大事です。さらに学生どうしお互い協力しながら学習を進めていくということが求められます。夏期休暇にはゼミ合宿を行い、春学期の学習成果を発表しあう予定です。</p>
目標と評価：	<p>3年次 経営科学の手法を理解し、実際の問題に適用できる能力を養うのが目標です。</p> <p>4年次 研究論文の作成が求められるので、研究のための 1. 目的の設定 2. 方法の選択 3. 実施 4. 結果の評価 という各フェーズをこなし、論文を作成する能力を養うことを目標とします。</p> <p>評価は 1. 日常の受講状況 2. 発表状況 3. 提出レポート、卒業論文の内容 によって行います。</p>
選考方法：	<p>面談で選考します。 これまでの履修状況・出席状況も参考にします。</p>
履修が望ましい科目：	統計学Ⅰ・Ⅱ（2年次までに履修していない人は3年次に履修してください）

「ゼミナールⅠ」（担当者：中村 修）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	中村 修
テーマ：	研究テーマ設定、研究遂行そして論文執筆の演習
概要：	自身の興味に基づいて、自由に研究テーマを設定します。次いで、設定した研究テーマに関連した分野での調査を行います。そして、関連分野における動向を参考に、研究の課題を設定し、具体的に研究活動に入っていきます。最終目標である卒業論文執筆の準備として、論文執筆の演習を行います。この演習では、春学期開始時から少しずつ論文の執筆を進め、ゼミナールⅠの最後に、演習論文として完成させます。学会発表のスタイルに準じた論文の雛形を示しますので、これに肉付けをしていく方法で内容の充実と、深化を進めていきます。また、自身の研究成果を他の人にアピールするためのプレゼンテーションについて、その基本知識および実際の発表方法を、基礎ゼミナールの発展形態として練習を行っていきます。
授業方法：	各自の自主的な研究活動を基本とし、ゼミナールの時間では、それぞれ1週間分の検討経過について報告をしてもらいます。また、報告内容に対する意見交換を行います。さらに必要に応じて、関連分野の補足説明や、個別のディスカッションを行います。 具体的には、設定した研究テーマについて、以下の各研究項目を明らかにしていきます。 (1) 研究の目的：ピンボケにならないようにするためにもしっかり考える必要があります。 (2) 研究の背景：なぜ、その研究をする必要があるのか、この研究が貢献できることは何なのかを明確にする必要があります。 (3) 研究の課題：この研究で解決しようとする問題は何なのかを絞ります。 (4) 類似研究の動向：先人はどこまで、その研究を進めたか、調査・分析を行います。 (5) 研究の課題に対する検討結果：具体的な研究内容を、各研究課題に対応して示していきます。 (6) 結論：得られた研究成果の要点を明らかにします。 (7) 今後の研究課題：やり残した未解決課題を明示します。 (8) 参考文献：研究を遂行するに当たって、重要と考えられる文献を示します。 調査や基本知識の習得に必要な文献や図書については、極力、ゼミナール文献として準備していきたいと思えます。
履修の留意点：	特に以下の3つは重視します。 ★自主的に活動する ★約束を守る。守れない約束はしない ★ゼミナールを欠席しない ※特に情報処理に関して詳しい必要はありません。
目標と評価：	以下を個人の成長の基準とします。 (1) 論理的にプレゼンテーションができる。 (2) 自己の調査結果を報告書としてまとめられる。 (3) 自己の検討結果を、調査結果と区別してまとめられる。 これらの結果が、最終的に論文などに結びついていけばよいのですが、あえてその論文としての質は問いません(プロセスを重視します)。
選考方法：	(1) 申込書の提出後、必要な場合には面談を行います。 (2) 原則として、定員になるまでは、特に問題が無い限り受け付けます。 (3) 各申し込み期間で定員を超えた場合には、経営情報メディアコースの人を優先します。
履修が望ましい科目：	留学生は、履修可能な日本語関連科目を受講すること。

「ゼミナールⅠ」（担当者：滑川 光裕）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	滑川 光裕
テーマ：	システム情報論、システムシミュレーション、モデリング論
概要：	シミュレーションという言葉は、「買い物シミュレーション」「シミュレーション・ゲーム」など、日常的にも取り入れられており、疑似体験を意味することはよく知られている。古くは製鉄所での工程管理から発生したといわれているが、現在では電子部品から工場まで、様々な設計を行う際に用いられている。また、交通運輸分野では、新幹線・スペースシャトルなどは、リアルタイムシミュレーションにより運行管理がなれている。 本ゼミナールでは、このシミュレーション技術や最新の情報技術を組み合わせることにより、経営・経済分野を含めた社会現象において、現状を分析し、将来、どのようなことが起きるかを予測するためのシステムを構築することを目的としている。 なぜ統計予測という手法もあるのにシミュレーションが使われるかということ、統計学だけでは捕らえきれない複雑な現象が、それぞれのシステムに依存して生じるためである。そのような現象をより明確に解析するためには、実際のシステムの特徴を抽出し、それをコンピュータ上に再現するモデリングという手法を用いる。
授業方法：	本ゼミナールでは、前述の通り、シミュレーション技術や最新の情報技術を用いることにより、現状の分析・将来予測のためのシステム構築を行うことが目的である。 その前提として、プログラムが必要となるので、ゼミナール配属決定と同時に（2年秋学期）に、プログラミングの勉強を始める。汎用のCやJavaなどの言語の他に、シミュレーション専用の言語もあるが、科学的な理論をモデリングに忠実に反映するためには、汎用の言語が望ましい。 3年次からは、情報システムやシミュレーション関連の書籍を中心に、輪読・輪講を行う。それと同時に簡単なシステムのプログラム作成の練習も行う。 3年次後半～4年次には、卒論のテーマ設定と資料収集、テストプログラムを行い、自分の研究方向性について適切であるかを明確にし、卒論へと進むこととなります。
履修の留意点：	本ゼミナールでは、素直に学びたいというゼミナール学習への熱意を必要とする点を強調します。 また、ゼミナールでは、普段の出席はもとより、ゼミナールでの以下のイベント ・合宿（春合宿・夏合宿） ・春期休暇および夏期休暇の集中ゼミ（2週間ほど） ・学園祭でのパネル展示およびプレゼンテーション ・神田古本街ツアーおよび秋葉原電気街ツアーへの参加についても欠席をしないことが条件となります。 特に、本ゼミナールでは、先輩と後輩あるいは同輩どうしで共同研究することもあり、共同研究しないでも、似た分野を卒業研究する者どうしで議論をすることがありますので、言うまでもないことかも知れませんが、協調性も重視しますので注意してください。
目標と評価：	最終評価は、卒業研究の成果と卒業論文の作成によります。 3年次は、ゼミ活動への熱意を中心に、計画性と成果を見ながら、4年次の研究へ続けることができるかの判断をします。4年次には、各種研究発表の義務がありますが最終的には、前述の通りの最終評価となります。
選考方法：	面接を行います。まずは、ゼミに関するより詳細な説明をしますので、研究室に来てもらいます。その後、ゼミナールへの志望動機を書いた文書を提出してもらい、選考を行います。
履修が望ましい科目：	コンピュータ入門

「ゼミナールⅠ」（担当者：森本 孝）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	森本 孝
テーマ：	「人間と共生する」コンピュータの活用のあり方について考える
概要：	<p>■テーマ 「人間と共生する」コンピュータの活用のあり方について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そもそもコンピュータは人間を幸せにしているのか？ ・どういった使い方をすれば、コンピュータは人間を幸せにできるのか？ ・コンピュータの活用のされ方から、現代の人間と社会についてどのようなことが分かるか？ <p>■概要 コンピュータは大変優れた機械です。たとえば、コンピュータを使えば、人間には不可能な複雑な計算を短時間で実行することができます。しかし、他方で、コンピュータはとてつもなくバカな機械でもあります。たとえば、Googleという検索エンジンで木村拓也について情報検索するケースを考えてみましょう。人間であれば、「木村拓也」は「キムタク」とも呼ぶことを知っていますから、木村拓也の情報を調べる場合、キムタクの情報も調べます。しかし、Googleは、あらかじめ人間が指示しておかないと、木村拓也とキムタクは別人だと考えて、情報検索します。つまり、コンピュータには、人間に比べているいる劣っている点があり、人間がコンピュータをうまく助けてあげることで、コンピュータはその能力を十分に発揮するのです。スポーツでも、良いコーチがいないと潜在的な名選手も只の選手になってしまうことがあります。コンピュータの場合も同様なのです。そこで、このゼミナールでは、コンピュータのもつ限界を踏まえた上で、人間がコンピュータを助けることによって、コンピュータの能力を十分に発揮させるための方法について研究します。同時に、コンピュータの使い方を学ぶことを通じて、現代の人間と社会のあり方について理解を深めます。</p> <p>■森本ゼミではこんな人を求めている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの操作だけでは少し飽き足りない人。 ・コンピュータ自体は苦手だけれども、人間とコンピュータの関わり方には興味がある人。 ・コンピュータの使い方を考えることによって、現代の社会や企業についての理解を深めたい人。 ・一緒に楽しく学べる人。 <p>などを大募集!! 特に、楽しく一緒に学んでいける人を求めています!!</p>
授業方法：	<p>■3年次 ①プレゼンテーション・ディスカッション コンピュータの限界とその生かし方に関わる書籍・雑誌記事・新聞記事などを選び、担当者がプレゼンし、ディスカッションします。 ②パソコンの自作によるハードウェアの知識 ハードウェアについての知識を身につけるために、ゼミナールで共同してパソコンを自作します。 ③Webサーバ等の構築によるソフトウェアの知識 サーバサイドのソフトウェアの知識と技能を身につけるために、ゼミナールのWebサーバ、Blog、Wikiなどの構築と設計を共同でおこないます。 ④P検2級を目標にしたコンピュータ全般に関する知識 全体の知識レベルを合わせるために、P検「2級」合格を目標に、グループワークやe-Learningを組み合わせて、コンピュータの基礎知識を満遍なく学びます(入ゼミ時にP検3級取得をしていなくても大丈夫です。)</p> <p>■4年次 4年次は、各自のテーマに即した卒業制作(論文あるいはe-Learning教材など)の作成を中心とします。</p> <p>■3・4年次共通 ①PowerPoint PowerPointなどを使ったプレゼンテーションの技能を身につけます。 ②Bog & Wiki インターネットを利用した各種プレゼンテーションの方法 (Blog、Wikiなど)を学びます。 ③Dissusion ディスカッションの技能を身につけます。 ④Writing コンピュータを利用したレポート・論文の基本的な作成方法を学びます。 ⑤Search 情報検索の技能を実践的に磨きます。 ⑥Critical Thinking 様々な意見を根拠に遡って批判的に検討する能力を磨きます。</p>
履修の留意点：	<p>■履修の留意点 ①上の部分を読んで、少しでもピンとくるものがあつた学生の参加を希望します。 ②学園祭への参加、合宿やコンパの実施を予定しています。これらに積極的に参加できる学生を求めます。 ③ゼミナール時間外の活動をおこなう場合に、積極的に参加できる学生を求めます。 ④合宿への参加や本の購入などにかかる費用を負担できる学生を求めます。 ⑤あまり親しくない人とも共同作業できる学生を希望します。 ⑥コンピュータのスキルは要求しませんが、「コンピュータは大嫌いだ」という学生の履修は望ましくありません。自分が不幸になります。ついでに、森本も不幸になります。</p> <p>■費用 ・夏合宿代(年間) 15,000円(昨年度実績) ・教材代(年間) 5,000円(資格試験対策教材代、書籍・文献代など) ☆その他、コンパ代などがかかる場合があります。</p>

<p>目標と評価：</p>	<p>■教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の人生を豊かにするための手段としてコンピュータを活用できるようになる。 ・コンピュータの利用法を通じて、現代社会や現代企業のことが少し分かるようになる。 ・人前で発表するのが少しはうまくなる。 ・見知らぬ人との共同作業がちょっとだけうまくなる。 ・他人とのディスカッション(議論)に少しだけ自信が持てるようになる。 ・効果的な学び方についての知識が少し増える。 ・本や文献を読むスピードが少しは上がる。 ・文章を書く力が少しは向上する。 ・コンピュータの操作方法が少しは上達する。 <p>■評価</p> <p>○3年次 3年次は、ゼミ活動への主体的な参加度80%とゼミで課された課題20%によって評価します。</p> <p>○4年次 4年次には、参加度50%、卒業論文の評価50%で成績評価をします。 4年次には、卒業制作(論文あるいはe-Learning教材とその趣意書など)を作成します。卒業制作を提出しない場合には、「ゼミナールⅡ」(4年次)の単位の取得はできません。</p>
<p>選考方法：</p>	<p>①入ゼミ希望者の人数に関わらず、面談(=個別ガイダンス)を実施します。</p> <p><面談期間></p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回選考に申し込む場合 11月2日(水)～11日(金) ・第2回選考に申し込む場合 11月18日(火)～25日(水) <p><面談場所></p> <p>森本研究室(E棟3F)</p> <p><面談の際に持参するもの></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「履修申込書」(「志望理由」欄に必ず記入して提出すること) ・「成績表」のコピー <p>★ 面談希望日時に森本が研究室にいるかを事前にメールで問い合わせるのが望ましい。 メールアドレス：morimoto@kaetsu.ac.jp</p> <p>②面談の際に森本に承認印をもらって、学生センターに「履修申込書」を提出します。</p> <p>③なお、入ゼミ希望者が規定の人数を超えた場合は、面談結果と2005年度春学期までの成績を参考に総合的にみて、入ゼミを許可するかどうかを判断します。</p> <p>④面談期間ギリギリに面談しようとする、森本が不在のため、履修申込書提出期限に間に合わなくなってしまう場合があります。早めに面談するようにしましょう。</p>
<p>履修が望ましい科目：</p>	<p>『情報検索法』の履修が望ましいが、必須ではありません。</p>

「ゼミナールⅠ」（担当者：青山 悦子）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	青山 悦子
テーマ：	日本企業における人事労務管理研究
概要：	日本企業における人事労務管理は、現在大きな変革期にあります。終身雇用や年功制はすでに“博物館”には入りつつあるとさえ言われています。代わって登場したのが、成果主義、弾力化、多様化、個人主義などのキーワードに代表される新たな人事労務管理システムです。日本企業は、どのように変わろうとしているのでしょうか。人事労務管理と労使関係の新たな動向を検証し、それについて深く議論することが、本ゼミナールの主要なテーマとなります。あわせて、これからの就職活動に備え、ゼミナールがゼミ生各自の「働き方」を深く考え、議論する「場」となることも目標としています。
授業方法：	最終的には、ゼミナール構成員との話し合いの中で決定していく予定ですが、原則として、春学期前半は、現在の人事労務管理の様々な側面を新聞・雑誌記事を材料にしながら皆で考えていく予定です。毎回レポーターによる報告と、それに対する質疑、討論を重ねながら、現在進行しつつある日本企業における人事労務管理の「今」を学んでもらうことを主眼とします。後半は、秋以降の就職活動に備え、各自興味のある業界研究を行ってもらいます。ちなみに現3年生は、出版、ホテル、アパレル、コンビニ、ビール・飲料、スポーツ、公務員の各業界（業種）の報告を個人あるいはグループで行い、それぞれの業界（業種）の現状を身近なものとししました。秋学期は、各自テーマを決め、そのテーマについて深めてもらうことを目標とします。あわせて当該研究にかかわる資料収集の方法も身に付けてもらう予定です。最終的には、レポートとしてまとめることで、卒業論文作成のためのスキルの向上を目指します。
履修の留意点：	ゼミナールの活性化を図るため、報告準備のための作業に十分な時間をとって取り組める学生、さらに企業・工場見学、学園祭への参加などをゼミの重要なイベントとして取り組む予定なので、各種の役割を積極的に引き受け、ゼミを主体的に「創り上げていこう」とする意欲的な学生の参加を希望します。
目標と評価：	最終的には、4年次の卒業論文（約2万字程度）の作成が目標となります。3年次の評価は、出席、報告、ゼミ活動への取り組みなど総合的に評価します。
選考方法：	面談（志望理由など）の上、決定します。
履修が望ましい科目：	3年次設置科目、「労務管理論Ⅰ」、「労務管理論Ⅱ」

「ゼミナールⅠ」（担当者：内藤 勝）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	内藤 勝
テーマ：	自然と農業
概要：	<p>・・・自然を尺度として現代を考え生きる。・・・</p> <p>現代は総て人の頭つまり脳が考え出したmonoである。パソコン、ジャンボ機、ミサイル、共産主義、資本主義、自由主義、哲学、物理学、化学、宗教、経済学等である。それは人の願望や欲望を満たしてきた。経済的欲望を満たした物的要素は石油である。この大量消費によって大都市が出現し、豊かな生活が可能になった。他方、それは大量の排ガスを排出する。二酸化炭素は年間64億t（1997）大気中に捨てられ地球の温暖化、酸性雨、肺ガン、小児喘息の原因にもなっている。このまま、この増大が続けば臨界点を越え70～80年で人類の歴史も終わるであろうと予測される。（松井孝典）現代はエントロピー（エネルギーの汚れ）的限界に達しようとしている。</p>
授業方法：	<p>以上の問題を既成の学問、宗教が解けるとは思えない。以上の世界に入らないものは「自然」だけである。自然の摂理を体得しそれに従う学問と生活こそ現代の行き詰まりを解く鍵であろう。</p> <p>それを知るために「農業体験」を重視する。5月田植え 8月稲刈り 11月餅つき、12月おしるこ大会 1月聞き酒大会 2月座禅の体験を通して「自然の摂理を体得する。」実践による直感力を磨きたい。</p>
履修の留意点：	特になし。知性よりも肉体労働を喜べる頑丈な手と足そして根性を尊ぶ。
目標と評価：	体験した者には、体得しただけの評価をしたい。
選考方法：	tokuni nasi
履修が望ましい科目：	tokuni nasi

「ゼミナールⅠ」（担当者：中村 修）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	中村 修
テーマ：	研究テーマ設定、研究遂行そして論文執筆の演習
概要：	自身の興味に基づいて、自由に研究テーマを設定します。次いで、設定した研究テーマに関連した分野での調査を行います。そして、関連分野における動向を参考に、研究の課題を設定し、具体的に研究活動に入っていきます。最終目標である卒業論文執筆の準備として、論文執筆の演習を行います。この演習では、春学期開始時から少しずつ論文の執筆を進め、ゼミナールⅠの最後に、演習論文として完成させます。学会発表のスタイルに準じた論文の雛形を示しますので、これに肉付けをしていく方法で内容の充実と、深化を進めていきます。また、自身の研究成果を他の人にアピールするためのプレゼンテーションについて、その基本知識および実際の発表方法を、基礎ゼミナールの発展形態として練習を行っていきます。
授業方法：	各自の自主的な研究活動を基本とし、ゼミナールの時間では、それぞれ1週間分の検討経過について報告をしてもらいます。また、報告内容に対する意見交換を行います。さらに必要に応じて、関連分野の補足説明や、個別のディスカッションを行います。具体的には、設定した研究テーマについて、以下の各研究項目を明らかにしていきます。 (1) 研究の目的：ピンボケにならないようにするためにもしっかり考える必要があります。 (2) 研究の背景：なぜ、その研究をする必要があるのか、この研究が貢献できることは何なのかを明確にする必要があります。 (3) 研究の課題：この研究で解決しようとする問題は何なのかを絞ります。 (4) 類似研究の動向：先人はどこまで、その研究を進めたか、調査・分析を行います。 (5) 研究の課題に対する検討結果：具体的な研究内容を、各研究課題に対応して示していきます。 (6) 結論：得られた研究成果の要点を明らかにします。 (7) 今後の研究課題：やり残した未解決課題を明示します。 (8) 参考文献：研究を遂行するに当たって、重要と考えられる文献を示します。 調査や基本知識の習得に必要な文献や図書については、極力、ゼミナール文献として準備していきたいと思えます。
履修の留意点：	特に以下の3つは重視します。 ★自主的に活動する ★約束を守る。守れない約束はしない ★ゼミナールを欠席しない ※特に情報処理に関して詳しい必要はありません。
目標と評価：	以下を個人の成長の基準とします。 (1) 論理的にプレゼンテーションができる。 (2) 自己の調査結果を報告書としてまとめられる。 (3) 自己の検討結果を、調査結果と区別してまとめられる。 これらの結果が、最終的に論文などに結びついていけばよいのですが、あえてその論文としての質は問いません(プロセスを重視します)。
選考方法：	(1) 申込書の提出後、必要な場合には面談を行います。 (2) 原則として、定員になるまでは、特に問題が無い限り受け付けます。 (3) 各申し込み期間で定員を超えた場合には、経営情報メディアコースの人を優先します。
履修が望ましい科目：	留学生は、履修可能な日本語関連科目を受講すること。

「ゼミナールⅠ」（担当者：南 憲一）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	南 憲一
テーマ：	経営科学
概要：	<p>一般に経営科学と呼ばれる分野の中で、統計解析、データ解析、シミュレーションについて学習を進めます。これらの理論を学んだ上でExcelを用いた実際の経営の問題への応用を行います。</p> <p>統計解析の内容 記述統計、確率、正規分布、標本分布、推定、検定</p> <p>データ解析の内容 分散分析、単回帰分析、重回帰分析、主成分分析、判別分析</p> <p>シミュレーションの内容 擬似乱数と確率分布、計画の問題、決定の問題、在庫の問題、待ち行列の問題</p>
授業方法：	<p>3年次 統計解析、データ解析、シミュレーションの様々な手法について教科書の輪読とExcelを用いた実習を通して学習を進めます。輪読では、各受講生の担当を決め順番に授業までに内容を熟読の上、内容を解説してもらいます。引き続き、実際の経営の問題に関するExcelを用いた分析を行います。</p> <p>4年次 卒業論文作成のために必要な文献購読を行います（輪読形式）。さらに研究テーマを各自設定し、そのテーマによって研究を進めます。研究の途中経過の報告を随時行います。最終的に各自卒業論文を完成させます。</p>
履修の留意点：	<p>通常の授業とゼミナールの異なる点は、ゼミナールが学生参加型・学生主体の授業であるということです。従って、まず欠席しないということが大事です。さらに学生どうしお互い協力しながら学習を進めていくということが求められます。夏期休暇にはゼミ合宿を行い、春学期の学習成果を発表しあう予定です。</p>
目標と評価：	<p>3年次 経営科学の手法を理解し、実際の問題に適用できる能力を養うのが目標です。</p> <p>4年次 研究論文の作成が求められるので、研究のための 1. 目的の設定 2. 方法の選択 3. 実施 4. 結果の評価 という各フェーズをこなし、論文を作成する能力を養うことを目標とします。</p> <p>評価は 1. 日常の受講状況 2. 発表状況 3. 提出レポート、卒業論文の内容 によって行います。</p>
選考方法：	<p>面談で選考します。 これまでの履修状況・出席状況も参考にします。</p>
履修が望ましい科目：	統計学Ⅰ・Ⅱ（2年次までに履修していない人は3年次に履修してください）

「ゼミナールⅠ」（担当者：安田 利枝）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	安田 利枝
テーマ：	環境と開発の政治経済学ー世界を変えるお金の使い方ー
概要：	<p>お金で何でもできる、何でも解決できるわけではないけれど、使い方によって「世界を変える」原動力になります。経済学で教える「市場」では、あるモノを買ったり、サービスを買ったりすることが「需要」として、モノやサービスを生産している企業やその働く人に伝わります。そこに「需要」があれば、もっとそれを生産しようということになります。</p> <p>でも、それを生み出すときに、有害な工場排水を垂れ流していたり、出たゴミを違法に捨てていたり、働く人に健康被害を与えていたり、沢山の石油など化石燃料を使っていたり、途上国の自然を大規模に破壊していたら？</p> <p>経済開発に伴う問題として「貧富の格差拡大」と「環境悪化」があります。</p> <p>今は、多少その値段が高くても、働く人や環境のことを考えて作られたモノを買い（フェア・トレード、エコ・プロダクトやグリーン購入）、そのような企業の株を買い（エコ・ファンド）、困っている人を助けている活動にほんの少し寄附をするなど、世界をもっといいところにしてしようとしている動きが沢山あります。</p> <p>それらの事例に学びながら、「経済成長か環境保全か」という二者択一の議論を越える「道」を探ります。</p>
授業方法：	<p>理論と事例研究を両軸にして学習していきます。すなわち、最初はウォーミング・アップとして数冊のルポルタージュや数本のビデオ作品から環境と開発に係る問題を知ることから始め、次に教科書として指定する文献を輪読会の形式で読み進めます。1人の報告に対して他のゼミ生全員で質疑応答・ディスカッションをしていく形になります。さらに、様々な社会運動や活動事例を考察するため、問題解決の現場で苦闘し活躍している人たちにお話を伺うこともしていきます。</p> <p>頭で考えたり本で読んだりするだけでなく、見たり、聞いたり、体全体で何かを感じることで、そして考え行動し続ける素晴らしい人たちに出会ったという体験こそが、私達のなかの何かを変えてくれるはずです。何か問題を考える時、その現場やそこに生きる人々の姿や顔が思い浮かぶようになり、それがまた、本や資料の読み方を変えることを期待しています。</p>
履修の留意点：	ゼミ活動に使う時間とエネルギーを惜しまない学生を募集します。毎回のゼミで報告者だけでなく全員がある程度準備をしてゼミの授業に臨むことを求めます。
目標と評価：	<p>学習目標は、以下の5つです。これらの点で教員の評価と自己評価をつき合わせて、最終評価を決めます。通年ですの26回の授業があります。このうち4回以上欠席したら極めて単位取得は難しいと考えてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境と開発に係る重要な概念・用語を理解し、明快に自分の言葉で説明できること。 2. 問題に係る利害関係者を相関図に描けること。 3. ウェブ・サイトからのカット&ペーストでなく、論理的な組み立てがある程度できているレポートを書くことができること。 4. 社会・政治・経済問題について自分なりの問題意識を持ち始めること。 5. ゼミの仲間とコミュニケーションがとれ、共同作業ができること。
選考方法：	このゼミナールで何を学びたいと考えているのか、志望動機を400字以上書いて提出してください。それをもとに必ず面談をします。
履修が望ましい科目：	<p>社会理解科目「地球と環境Ⅰ・Ⅱ」 国際経済コース「国際協力論」「国際援助論」国際経済コース「環境と開発」 生活経済コース「生活環境論」</p>

「ゼミナールⅠ」（担当者：渡辺 広明）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	渡辺 広明
テーマ：	株式売買を通じて日本経済の今を知る
概要：	<p>①日本経済の今を知るために経済新聞や経済記事を読み、理解できることを目標とします。</p> <p>②株式の売買ゲームを行いながら経済を情報として収集し、日本経済の現状を知り、その経済分析を進めます。人数にもよりますが、東証主催の株式売買ゲームに参加する予定です。</p> <p>③現実の経済を理解するため企業見学や公共施設の訪問等を含む、合宿も行ないます。</p>
授業方法：	<p>①当方からの一方的な授業・講義はありません。</p> <p>②授業の方法は、演習形式で、参加型授業になります。毎回、何人かの受講生には売買した株式の報告書を発表したり、自分が選んだ経済ニュースや記事をプレゼンしてもらいます。</p> <p>③経営者や役所の方々へのインタビュー等の聞き取り調査をし、それをまとめ発表することも行います。</p> <p>④他大学や各種団体との交流会や討論会も行います（学園祭やスポーツ大会ももちろん参加します）。</p>
履修の留意点：	<p>①経済の勉強が好きな学生諸君お待ちしております。</p> <p>②何事にも堅実な学生諸君をお待ちしております。</p> <p>③何事にも興味を持ち文武両道で生きたい学生諸君をお待ちしております。</p> <p>④残りの大学生活2年間をゼミ中心に生活できる学生諸君をお待ちしております。</p> <p>* 時間割上のゼミの時間以外にも活動します。</p> <p>尚、教科書はありません。新聞記事やインターネットを多く利用します。適宜、資料等も配布します。以下、参考文献を上げておきます。</p> <p>『細野真宏の世界一わかりやすい株の本』文芸春秋社、2005年、『細野真宏の世界一わかりやすい株の本 実践編』文芸春秋社、2005年、『会社四季報』（最新版）東洋経済新報社、『ゼロからわかる経済の基本』野口旭 講談社現代新書 2002年、『やさしい経済学』日本経済新聞社編 日経ビジネス人文庫 2002年、『経済のニュースが面白いほどわかる本・日本経済編、世界経済編』細野真宏 中経出版 2000、2003年、『優しい経済学』高橋伸彰 ちくま新書 2003年、『はじめての経済学 上下』伊藤元重 日経文庫 2004年。</p>
目標と評価：	<p>* 目標</p> <p>①経済学を学んでステキな社会人になろう。</p> <p>②経済学や日本経済の基本的な用語を学ぶ事ができる。</p> <p>③経済新聞を理解する事ができます。</p> <p>総じて、日本経済の発展の仕組みやその問題点を理解できます。</p> <p>* 評価</p> <p>①出欠席の状況（無断の遅刻や欠席は厳禁です。単位を与え無いこともあります）</p> <p>②毎回の授業へ貢献度（発表や発言の内容等）</p> <p>③合宿やフィールドワークの貢献度（企画・準備や実施・報告の内容）</p> <p>④その他のプロジェクトの貢献度（学園祭、スポーツ大会等）</p> <p>⑤ゼミ論や卒業制作の内容</p> <p>以上の総合評価で決定します</p>
選考方法：	規定の人数を超えた場合は、適性検査または面接を行います。
履修が望ましい科目：	日本経済論

「ゼミナールⅠ」（担当者：生井 良一）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	生井 良一
テーマ：	世界そして日本の環境問題
概要：	<p>ゼミ1では下に記したような内容を勉強したり体験したりして、ゼミ2ではそれを元にして「卒業論文」の作成に当たるものとする。</p> <p>21世紀は環境の世紀とも言われる。深刻化する地球温暖化問題をはじめ、オゾン層破壊、酸性雨、森林の破壊、環境ホルモンなど化学物質による汚染、ごみ問題などの環境問題が山積している。加えて世界人口が爆発的に急増している。1900年には世界人口は16億人であったが、100年後の現在の人口は64億人である。その食糧をどうするか、エネルギーをどうするか、水をどうするか、こうした人口圧力が地球環境に及ぼす影響もきわめて大きいものと懸念されている。</p> <p>地球温暖化問題を考えてみよう。20世紀に入ると、石油石炭などの化石燃料の消費は急増した。そのおかげで生活は便利なものとなり、経済は成長した。しかし、このエネルギーの大量消費が二酸化炭素を増加させ、地球温暖化をもたらそうとしている。地球温暖化は最大の環境問題の一つと言われている。地球温暖化がこのまま進むと、海面上昇、異常気象の増加など世界各地で異常現象が続出し、しかも一度その口火を切ってしまうと人間の力では元へ戻すことは不可能と言われている。</p> <p>地球温暖化を防止するにはどうしたらよいのだろうか。どんな取り組みがあるのだろうか。それでは化石燃料に代わるエネルギー資源はあるのだろうか。化石燃料の消費を抑えることは、経済活動にも大きな影響があるだろう。それでも、化石燃料は抑えなければならぬところまできている。その取り組みの一つが省エネルギーであり、また自然エネルギーの活用である。日本では、その取り組みの現状はどうだろうか。一方、ヨーロッパのいくつかの国ではかなりの取り組みが進められている。それは、どんなものだろうか。環境を守ることと経済のことはどのように考えられているのだろうか。</p> <p>森林破壊も世界的な規模で進んでいる。これも深刻な環境問題である。なぜ、森林はそんなに大切なのだろうか。森林のはたらきとは何だろうか。熱帯林の破壊、マングローブ林、ツンドラ地帯のタイガという大森林の減少などを学びつつ森林について考えてみよう。</p> <p>森林の破壊が続いている地域では、砂漠化も進んでいる。歴史的にみても、緑を失った文明は、文明自身も減っているのだ。</p> <p>一方、森林再生への取り組みも行われている。その活動も調べてみよう。そして夏休みなどに、植林活動か、あるいは下草刈りなど森林の保全活動を体験できる機会があれば、ぜひ参加してみようではないか。</p> <p>一方、この100年間で、世界人口は急増し、やく4倍の64億人となった。単純に言えば、4倍の食糧が必要となったのである。この人口急増は主に途上国で起こっている現象である。これらの多くの人々が職を求めて都会に集まりスラム化したり、あるいは森林を焼いて焼畑農業を行い食糧を得ようとしている。このことも森林破壊に拍車をかけている。</p> <p>そんななか、20世紀後半には、技術の進歩により緑の革命とも呼ばれた食糧の大増産も可能となった。そのためには、化学肥料、農薬、そして大量の水が必要であった。結果として、現在は水不足となり、無理な耕作のために土壌も劣化した。</p> <p>水、土、緑、大気、これらは人間が生きていく上でも、他の生き物が生きていく上でも必要不可欠なものである。その存在基盤である水、土、緑、大気に現在では大きな問題が起きているのだ。</p> <p>地球はどれくらい人口を養えるのだろうか。巨大な人間活動が自然や耕作地を荒廃させ、自分達の生活をますます困難にしている。それでは、どうやって今後の世界の食糧問題を解決したらよいのだろうか、あるいは、貧困問題をどうしたらよいのだろうか。</p> <p>化学物質による汚染問題も複雑さを増している。農薬などの化学物質を大量に使用することに対して、1962年に「沈黙の春」という書物によって、生き物の生存やがんの発生に対して警告が出された。そして、1996年には「奪われし未来」という本によって、これら化学物質の一部がきわめて微量で生殖異常を引き起こしているという、いわゆる環境ホルモンについての懸念が示された。</p> <p>これら化学物質は海洋汚染も引き起こし、海の生き物たちにも影響を及ぼしている。</p> <p>日本では、明治以来足尾の銻毒事件、そして昭和の高度経済成長期の水俣病や四日市ぜんそくと言った公害問題を引き起こしてきた。これらは地域の企業による地域の汚染であり、そして多くの患者が発生した。これに似たことは現在の途上国の発展の過程でも起きている。</p> <p>現在は豊かな物質に囲まれた社会となっているが、車による大気汚染、河や湖の水質汚染、ごみ問題、森林の保全、酸性雨、あるいは地球温暖化防止のための省エネルギーをどうするかといったことが課題となっている。</p> <p>環境問題がかつての公害問題と異なる点は、環境問題では誰もが環境悪化の加害者であり、同時に被害者でもあるということである。</p> <p>ごみ問題も日本でも、世界でも大きな問題となっている。最終処分場が無くなってきていること、リサイクルをどうするか、ごみの発生を防ぐにはどうしたらよいか、実際に現場を調べてより深くごみ問題を理解しよう。</p> <p>一方で、日本の食糧自給率は40%を割っている。これは、国内の第一次産業にもダメージを与え、輸入相手国の環境にも影響を及ぼしている。また、身近なところではアレルギーに悩まされる人も多くなっているが、食品や排気ガスなどがその原因ではないかという説もある。</p> <p>こうした状況において、環境をどうするか、経済をどうするか、環境と経済の調和はとれるのか、持続可能な社会とは何か、そのことを皆で考えていきたい。</p> <p>ところで、地球というシステムと生き物との関係は絶妙なバランスの上に成り立っている。この地球システムのすばらしさもぜひ知って欲しいところである。</p> <p>なお、これら環境問題を考える際の基本的な自然法則もぜひ理解して欲しい。つまり、生態系、食物連鎖、生物濃縮、エネルギー保存則、物質不滅の法則、水の大循環、大気の大循環、物質の循環などである。</p>
授業方法：	<p>基本的には、関心のあることを調べて発表し、そして疑問、質問、意見、提案などいろいろ出し合う。そのことで、互いに他のテーマについても理解を深めたり、あるいはさらに調べることもあるだろう。具体的な事例を多く取り上げていきたい。必要に応じて、ビデオも大いに活用する。また、環境学習体験の機会もつくりたい。</p>
履修の留意点：	<p>まず、世界と日本の環境破壊の実情を知って欲しい。そして、4年生になった時の卒業論文のテーマを見つけるつもりでいろいろなことを学習し、疑問に思ったことは大事にして欲しい。環境と経済、それは対立するものなのか、調和できるものなのか、あるいはどんな調和のための取り組みがあるのか、それと持続可能な社会とは、そんな問いかけも念頭に置いて欲しい。</p> <p>目標と評価： 目標1：環境破壊について、その現状、原因、防止の取り組みの三つの視点を大事にする。 目標2：自然界では、いろいろなことが互いに関連し合っている、そのことを理解すること 目標3：生命維持のシステムは微妙なバランスの上に成り立っていることを理解すること 目標4：人間活動について、その影響の大きさを理解すること 目標5：個人の生活スタイルも見直す機会とすること</p>
目標と評価：	<p>評価については、ゼミ活動への積極性を最も大きく評価の対象とする。それと、レポート、出席点を合わせて決定する。</p>
選考方法：	<p>意欲のある人、環境問題に関心のある人、あるいは地球や生命に関心のある人にぜひ参加して欲しい。場合によっては、何か書いてもらうとか、面接をするとか、そういうことも考えている。</p>
履修が望ましい科目：	<p>〔地球と環境Ⅰ〕 〔地球と環境Ⅱ〕 〔生活環境論〕</p>

「ゼミナールⅡ」（担当者：渡辺 広明）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅡ
担当者：	渡辺 広明
テーマ：	日本経済の展開と東アジア地域
概要：	<p>当該科目はゼミナールⅠの学習を基礎に各受講生が卒業制作を完成するために設置されたクラスです。そのためには、各人の卒業制作のテーマを2006年4月段階で早急に決めます。2006年の2月～3月にかけて各種文献等をあたり、準備をして下さい。</p> <p>①春学期は各人の卒業制作のテーマに関する報告を相互に行ないます。 ②夏休みは合宿を行ないます。卒業制作の最終的な報告や企業見学を実施します。 ③秋学期のはじめには卒業制作を提出していただきます。 ④学園祭にむけて各人の卒業制作の成果を展示、もしくはプレゼンテーションの会で発表します。 ⑤2006年末には、デジタル形式で提出していただきます。</p>
授業方法：	<p>①受講生の相互の報告や討論が中心となります。 ②企業や自治体・役所など学外での活動や調査があります。 ③学外の方の講演や報告を聴きます。</p>
履修の留意点：	<p>①受講生の積極的な参加が特に必要になります。 ②時間割にあるゼミの時間以外でも活動する事があります。</p>
目標と評価：	<p>* 目標 ①1万2千字以上の卒業制作を完成させる。 ②進路を確定する。</p> <p>* 評価 ①出欠席の状況（無断の遅刻や欠席は厳禁です。単位を与え無いこともあります） ②毎回の授業へ貢献度（発表や発言の内容等） ③合宿やフィールドワークの貢献度（企画・準備や実施・報告の内容） ④その他のプロジェクトの貢献度（学園祭、スポーツ大会等） ⑤卒業制作の内容。この卒業制作を提出しない場合は、単位の認定が出来ません。注意してください。以上の総合評価で決定します。</p>
履修が望ましい科目：	特にありません。

「ゼミナールⅡ」（担当者：山田 寛）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅡ
担当者：	山田 寛
テーマ：	世界の子どもの諸問題
概要：	ゼミⅠでは、貧困、紛争の犠牲、児童労働、子ども兵士、エイズその他世界の子どもの抱えるさまざまな問題と、教室での学習とNGO活動への参加体験（春、秋あわせて1人3回）という形で取り組んできました。 ゼミⅡは、NGO実習などもまだ少し混ぜながら、それぞれの関心のある問題を絞って行き、春学期から卒業論文の準備をしていきます。
授業方法：	春学期は、NGO活動への参加を1回ずつやってもらいます。 卒業論文のテーマとなる問題を絞って、ゼミの中でできるだけ早くテーマと目次を発表してもらいます。夏休みには国際協力のイベントがいろいろ行われるので、それに1回ずつ参加してもらおうか、あるいは卒論のためのゼミ合宿をやる予定です。秋学期は卒論のための調査・執筆が中心です。
履修の留意点：	ゼミでは、出席を重視します。年間を通じ9回以上は絶対に欠席しないでください。
目標と評価：	ゼミの平常点、NGO活動参加の状況、卒論をあわせて評価します。
履修が望ましい科目：	特定の科目はありません。

「ゼミナールⅡ」（担当者：尾村 敬二）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅡ
担当者：	尾村 敬二
テーマ：	国際経済
概要：	本ゼミナールは2006年度卒業予定者を対象にするものである。2005年度にほぼ決定した各ゼミ生の卒業論文テーマに関する調査研究を深め、卒業論文を作成する。
授業方法：	決定したテーマの章および節立てをし、それにもとづき論文を作成する。各履修生のテーマが異なるため、各週ごとに1～2名の章別の内容報告を行い、全体での討論を行う。
履修の留意点：	欠席をしないで、ゼミナール活動に積極的に参加すること。
目標と評価：	卒業論文を仕上げることと、ゼミナール活動の参加度合いにもとづいて成績評価をする。
履修が望ましい科目：	

「ゼミナールⅡ」（担当者：劉 暢）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅡ
担当者：	劉 暢
テーマ：	日中比較経済論
概要：	このゼミナールは受講生がすでにゼミナールⅠ（3年次）を履修して初歩的な比較経済分析の基礎概念を理解していることを前提とします。ゼミナールでは、日中比較経済分析における代表的なアプローチの紹介を交えながら、受講生の現代日中両国経済発展に関心をもつ諸問題について簡単な比較検討を行う予定です。よって、参考資料・参考文献の分析及び批判、卒業論文における論理展開・構想力など、日中比較経済分析を行う際必要な基礎能力を高めます。
授業方法：	春学期は、具体的に日中比較経済分析における代表的なアプローチを紹介するため、日中経済に関する比較考察を行った研究事例（日本語）を取り上げます。すなわち、ゼミはそうした参考文献の輪読とそれに基づく討論・卒業論文のための準備・ゼミ報告のまとめを主たる内容とします。 秋学期では、受講生の卒業論文の執筆状況に合わせながら、関連する参考文献を輪読するという形でゼミを進めますが、卒業論文の執筆・仕上げ・提出に関する具体的な指導などがゼミの中心となります。
履修の留意点：	就職活動を行いながら受講する学生は、出席できなかった分については各自卒業論文の執筆そしてゼミ報告に力を入れるように。
目標と評価：	目標：卒業論文の完成・卒業論文に関連する基礎知識の習得 評価：卒業論文の内容・受講態度・ゼミ報告などに基づき総合的に評価します。
履修が望ましい科目：	春学期設置科目「戦後日本経済史」 秋学期設置科目「日中比較経済論」

「ゼミナールⅡ」（担当者：久保 真）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅡ
担当者：	久保 真
テーマ：	国際経済
概要：	国際経済に関心をもつ履修者を対象にして、卒業論文指導を行います。
授業方法：	卒業論文の中間報告を行ってまいります。
履修の留意点：	(1) 私の担当する「ゼミナールⅠ」を単位修得しておくこと もしくは (2) 「ゼミナールⅠ」「ゼミナールⅡ」を同時履修する場合には、相当程度の時間と労力を割くこと
目標と評価：	卒業論文の出来不出来に基づいて50%、平常的な取り組みに基づいて50%、という比率で評価を下します。
履修が望ましい科目：	「経済学Ⅰ」「国際経済学」の単位を修得していることが望ましいです。「ゼミナールⅡ」履修時に上記科目を単位修得していない場合には、四年次以降にかならず単位修得して下さい。

「ゼミナールⅡ」（担当者：生井 良一）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅡ
担当者：	生井 良一
テーマ：	世界そして日本の環境問題
概要：	<p>ゼミ2では、ゼミ1で学んだことを元にして、「卒業論文」の作成に当たるものとする。</p> <p>卒論のための段階を記しておく、次のようになる。</p> <p>テーマの設定 まずは、テーマを決めることである。 テーマは、ゼミ1で学んだり体験したりしたことを元に自分で決めるものである。そうは言っても、ゼミ1で取り上げきれなかったこともあるので、ゼミ1で学んだこと意外に関心を持っているテーマがあれば、それを追求してもよい。いずれにせよ、早い時期にテーマが決まると、その後の調べや論文作成において良いものを書きあげることとなり、時間的にも有利である。 また、調べているうちに別のことが気になりだして、そちらの方がおもしろそうだということになれば、テーマを換えてもらってもかまわない。とにかく、調べることで、関心を深めたり、あるいはおもしろさを感じてもらえればと思っている。</p> <p>調べる 次に、テーマが決まれば、それについて調べが始まることになる。単に本で読むばかりでなく、現地調査なども行って、自分の中でも理解を深めることが大切である。 また、調べることで、あるいは皆の発表を聞くことで、その中からテーマが決まっていくという人もいるかも知れない。人によって取り組み方はさまざまであるので、それでも良いと思う。ただ、気をつけることは、テーマを決める時期が遅くなると、それに関して調べる時間もまとめる時間も無くなってしまふということだ。くれぐれも注意して欲しい。</p> <p>経過発表 また、ゼミの時間に、調べたことの中間発表などを行う。そのことによって、自分自身では途中経過を一つ簡まとめていくことにもなり、あるいはその作業を通して新たな疑問にぶつかるかも知れない。一方、他のゼミ生にとっては、他の人の発表を聞くことで、そういうこともあるのかということで見聞も広がり、自分の卒論の参考になるかも知れない。</p> <p>卒論のまとめ そして、最後に卒論という形でまとめることになる。その際、章立てをどうするか、図や表などをどう挿入するかなど細かい点については、相談して欲しい。要は、「何が言いたいのか」、その視点がしっかりしていることが大切である。 一度に卒論を書くというより、途中経過をこまめにレポートとして（あるいは発表するときのまとめたものとして）提出してもらおう。こういう積み重ねをやっていけば、それが卒論につながるのではないかと考える。</p>
授業方法：	<p>基本的には、本を読んで発表し、そして疑問、質問、意見、提案などいろいろ出し合う。そのことで理解を深めたり、あるいはさらに調べることもあるだろう。具体的な事例を多く取り上げていきたい。必要に応じて、ビデオも大いに活用する。また、環境学習体験の機会もつくりたい。</p>
履修の留意点：	<p>まず、世界と日本の環境破壊の実情を知って欲しい。そして、4年生になった時の卒業論文のテーマを見つけるつもりでいろいろなことを学習し、疑問に思ったことは大事にして欲しい。環境と経済、それは対立するものなのか、調和できるものなのか、あるいはどんな調和のための取り組みがあるのか、それと持続可能な社会とは、そんな問いかけも念頭に置いて欲しい。</p>
目標と評価：	<p>目標1：環境破壊について、その現状、原因、防止の取り組みの三つの視点を大事にする。 目標2：自然界では、いろいろなことが互いに関連合っている、そのことを理解すること 目標3：生命維持のシステムは微妙なバランスの上に成り立っていることを理解すること 目標4：人間活動について、その影響の大きさを理解すること 目標5：個人の生活スタイルも見直す機会とすること</p> <p>評価 評価については、ゼミ活動への積極性を最も大きく評価の対象とする。それと、レポート、出席点を合わせて決定する。</p>
履修が望ましい科目：	<p>[地球と環境Ⅰ] [地球と環境Ⅱ] [生活環境論]</p>

「ゼミナールⅡ」（担当者：山崎 康之）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅡ
担当者：	山崎 康之
テーマ：	ミクロ経済学—戦略的アプローチ
概要：	<p>本ゼミナールの研究対象は、「ミクロ経済学」（価格理論）です。それを戦略という視点から考えようというのがその目的です。</p> <p>ある一定の目標を持った個人が、様々な可能な行動の中から、その目標に照らして最適な行動を選択することを合理的意思決定と呼びます。戦略的アプローチ（ゲームの理論）は複数の個人の利害が相互に依存しあっている場での各個人のこの意思決定、すなわち、利害が対立する状況下における合理的行動とはいかなるものであるべきかという問題を研究します。それは、相手がこちらを出し抜こうとしていることを知った上で、さらにその上を行こうと試みる戦略的行動の分析を通じて、競争と協調をめぐる紛争の一般理論であることを目指します。</p> <p>このゼミナールでは、最近社会科学の多くの分野でその応用が著しいこの戦略的アプローチを取り上げ、そのミクロ経済学への応用について学びます。</p>
授業方法：	<p>春学期・秋学期とも梶井厚志・松井彰彦『ミクロ経済学—戦略的アプローチ』日本評論社、2000年を輪読します。輪読というのは、一人では読了するのが難しいような文献を集団で読破しようとする方法で、ゼミの受講生の一人もしくは数名に文献の指定部分の内容や問題点をレジュメを用意した上で報告してもらい、他の参加者がそれについて質問・討議を行うことによって、その内容を理解していくものです。</p> <p>授業は、多分水曜日3時限に行います。</p>
履修の留意点：	<ol style="list-style-type: none"> 1. ミクロ経済学の理論とその応用に興味を持っている学生諸君の参加を希望します。 2. 高校の数学Ⅰの内容程度の数学を使います。具体的には、1次関数・2次関数の最大値・最小値および確率などです。 3. 原則として遅刻・欠席は認めません。
目標と評価：	<p>最終的には、卒業論文の作成を目標としていますが、その過程において、文献の調べ方や討論・報告の仕方を習得していただきたいと思います。具体的には、4年次に3年次の輪読によって得られた知識や視点をもとに、履修者各自の興味ある経済学関連のテーマを設定し、卒業論文を何度かの中間報告を経て完成してもらいます。</p> <p>3年次ではゼミナールへの参加程度（出席していたかだけでなく、報告をきちんと行ったかとか質問を積極的に行ったか）および月1回ぐらゐの割合で出題される宿題の結果により総合的に評価します。</p> <p>4年次のそれは、卒業論文の評価によります。なお卒業論文は、最低20000字の字数を想定しています。4年次は個別指導になると思います。</p>
履修が望ましい科目：	<p>履修が望ましい科目：経済学関係の科目（経済学Ⅰ、Ⅱなど）を出来るだけ多く履修して下さい。特に経済学Ⅱが履修済みなし3年次春学期に履修予定であること。</p>

「ゼミナールⅡ」（担当者：内藤 勝）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅡ
担当者：	内藤 勝
テーマ：	自然と農業
概要：	<p>・・・自然を尺度として現代を考え生きる。・・・</p> <p>現代は総て人の頭つまり脳が考え出したmonoである。パソコン、ジャンボ機、ミサイル、共産主義、資本主義、自由主義、哲学、物理学、化学、宗教、経済学等である。それは人の願望や欲望を満たしてきた。経済的欲望を満たした物的要素は石油である。この大量消費によって大都市が出現し、豊かな生活が可能になった。他方、それは大量の排ガスを排出する。二酸化炭素は年間64億t（1997）大気中に捨てられ地球の温暖化、酸性雨、肺ガン、小児喘息の原因にもなっている。このまま、この増大が続けば臨界点を越え70～80年で人類の歴史も終わるであろうと予測される。（松井孝典）現代はエントロピー（エネルギーの汚れ）的限界に達しようとしている。</p>
授業方法：	<p>以上の問題を既成の学問、宗教が解けるとは思えない。以上の世界に入らないものは「自然」だけである。自然の摂理を体得しそれに従う学問と生活こそ現代の行き詰まりを解く鍵であろう。</p> <p>それを知るために「農業体験」を重視する。5月田植え 8月稲刈り 11月餅つき、12月おしるこ大会 1月聞き酒大会 2月座禅の体験を通して「自然の摂理を体得する。」実践による直感力を磨きたい。</p>
履修の留意点：	特になし。知性よりも肉体労働を喜べる頑丈な手と足そして根性を尊ぶ。
目標と評価：	体験した者には、体得しただけの評価をしたい。
履修が望ましい科目：	tokuni nasi

「ゼミナールⅠ」（担当者：内田 和夫）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	内田 和夫
テーマ：	市民としての「まちづくり」
概要：	<p>まちづくりとは道路や公園や建物をどう配置するのかというハードの面と、人と人がどういう関係を築けるのかといったソフトの面があります。このゼミナールでは後者に注目しながら前者も視野の中にはいれて、人間の暮らしがもっと生き生きできる「まち」がどうしたら実現できるのかを考えていきます。</p> <p>現在のまちづくりは、パートナーシップの時代を迎えています。役所だけに責任を負わせる時代は終わりました。地域に暮らす1人1人がなにができるか。昨今注目の集まるNPOはなにができるか。地元商店はなにができるか。</p> <p>さまざまな立場の人が、さまざまに協力した、「まちづくり」が今始まっています。そうした事例に学びながら、あなた自身が暮らすしたいまちをどうつくるかをみんなで考えます。</p>
授業方法：	<p>春学期は、多摩を事例に地域の歴史を学びます。興味もてるよう、できるだけフィールドワークに行きたいとおもいます。</p> <p>夏合宿は、伊豆七島の御蔵島に行きたいとおもいます。エコツーリズムを実施している人口300人弱の島です。</p> <p>秋学期は、自分自身の卒業論文のテーマを決めるための時間にします。ひとつのことをじっくり考え抜いた経験をしたといえる自分になって大学を卒業したいと思いませんか。これまでは、「子どものためのまちづくり」「障害者のためのまちづくり」「高齢者のためのまちづくり」「震災復興のまちづくり」などのグループにわかれてテーマを設定してきました。</p>
履修の留意点：	<p>2時間続きでフィールドに行くことがあります。</p> <p>現場でがんばっている、さまざまな人と出会って、刺激を受けたい人、人と人の協力を夢持ちたい人、非営利の経済活動に興味のある人、自治体の仕事に関心のある人を歓迎します。</p>
目標と評価：	<p>私のまちづくりについての提言を含む卒業論文の執筆が最終ゴールです。</p> <p>本を読みことやフィールドにいてみることで、ものを調べ、考えることはひとつの小さい冒険旅行であることをぜひ体験してほしいとおもいます。新しい自分と新しい人と社会の理解に到達しているはず。</p> <p>3年次の評価は、出席、現場調査、報告、ゼミ活動への取り組みなどを総合評価します。4年次は、卒業論文を軸に評価する予定です。</p>
選考方法：	志望理由アンケート、課題作文、面接、によります。
履修が望ましい科目：	地方自治論ⅠⅡ

「ゼミナールⅡ」（担当者：安田 利枝）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅡ
担当者：	安田 利枝
テーマ：	開発と環境の政治経済学（お金の使い方によって世界が変わる）
概要：	3年次の学習を基礎にして、前半の授業で「開発と環境」の問題をもう少し理論的な次元で捉え返してみます。環境保全と経済発展は対立するのか、両立は可能なのかという根本的な問題です。資源の制約、人口爆発、食料やエネルギーの確保など種々の問題とつながり、地球温暖化の問題も視野に入ります。地球規模の問題を解決するには、企業の利潤と言う動機、国家の国益と言う動機を超えた、世界的な統治（ガバナンス）が必要になってきます。後半は、各自の問題設定にしたがって、卒論を完成させることに全力を注ぎます。
授業方法：	前半は、理論書の購読、後半は、論文の書き方から初めて、週に1回のペースでゼミ生の文章にコメントを入れたり、アドバイスをしていきます。
履修の留意点：	ゼミのテーマに対して「知的好奇心」に満ち、周囲の人々への暖かな気持ちを忘れずに、主体的に取り組む学生を募集します。
目標と評価：	目標は卒業論文（2万字以上）の完成です。 4年次には、参加度50%、卒業論文の評価50%で成績を評価します。
履修が望ましい科目：	社会理解科目「地球と環境Ⅰ・Ⅱ」 国際経済コース2年次科目「国際協力論」「国際援助論」 国際経済コース3年次科目「環境と開発」 生活経済コース2年次科目「生活環境論」

「ゼミナールⅡ」（担当者：戎野 淑子）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅡ
担当者：	戎野 淑子
テーマ：	「働くこと」と「企業」
概要：	現在、人々の「働き方」が大きく変わりつつあります。正社員として、終身雇用を前提として働く働き方が少なくなってきて、アルバイト・パートや派遣社員など多様な働き方が多く見られるようになってきました。皆さんの周囲にも多くのフリーターを見かけることと思います。また、若くして新規事業を成功させている人もいます。転職も珍しくなくなり、学校卒業後短時間で仕事を辞めてしまう人も少なくありません。給料の支払われ方も、年功序列から成果主義的になってきていると言われていています。このように状況がどうして起きているのでしょうか？働く場である「企業」の変化と、人々の働くことへの意識・行動の変化の両方が大きいと思われる。そこで、「企業」と「働く人々」の双方の視点から、現在の変化について考えてみたいと思います。そして、その時に、日本経済全体の仕組みを理解しつつ、国際化や技術革新など私たちを取り巻く環境の変化についても、検討していきたいです。
授業方法：	春学期は、「働き方と企業」に関する文献（参加者と相談して決定）を読み、報告・討論を行います。報告と討論を通じて、自分の問題意識を明らかにし、卒業論文のテーマを絞っていきます。秋学期は、卒業論文のテーマについて、具体的に検討を行い、執筆します。
履修の留意点：	本ゼミナールは、グループでの共同研究も多く、全員が毎回出席することによって、初めて成り立つ授業です。皆で作っていく授業ですので、欠席や無責任な行動は、ゼミナールの全員に迷惑をかけることであることを理解していただきたいです。合宿や企業・工場見学などのイベントも行いたいと考えておりますので、「協力して、楽しいゼミを作ろう」と思ってくださいの方の参加を希望します。
目標と評価：	最終的には、卒業論文の作成が目標となります。日ごろのゼミへの積極的な取り組みがあって、はじめて論文は完成します。したがって、卒業論文の他、平常点（出席、発表、レポートなど）を総合的に評価します。
履修が望ましい科目：	「日本企業と雇用システム」「労働と余暇の経済学」

「ゼミナールⅡ」（担当者：井上 行忠）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅡ
担当者：	井上 行忠
テーマ：	財務会計
概要：	本ゼミナールでは「財務会計」を研究対象とする。財務会計とは、企業の経営成績および財政成績を外部利害関係者（株主、債権者、従業員、税務官庁、監督官庁、取引先、消費者等）に報告する会計である。したがって、財務会計は、単に一部の利害関係者の利害に基づくものではなく、企業を取り巻く不特定多数の利害関係者の意思決定に役立つものである。本ゼミナールは、公認会計士試験二次試験・税理士試験・日商簿記検定1級における「簿記論・財務諸表論」の計算および理論の理解を深めることを主要なテーマとする。
授業方法：	授業方法： 授業方法は、各テーマごとに担当者を決定し、発表（報告）形式で行う。 春学期のテーマは、「企業会計の基本原則」「企業会計制度と財務諸表」「損益計算原理と損益計算書の構造」「貸借対照表の構造と貸借対照表原則」「流動資産」「有形固定資産」「無形固定資産および投資その他の資産」「繰延資産」を中心に学習を行う。 秋学期のテーマは、「負債会計」「資本会計」「金融商品会計」「外貨換算会計」「税効果会計」「財務諸表の作成」「連結会計」を中心に学習を行う。 なお、学習内容については、ゼミ受講者と相談して決定する。 注：使用テキストは、ゼミ受講者の目標内容により決定する。
履修の留意点：	履修の留意点： 将来職業会計人（会計士、税理士、大学院進学、国税専門官、会計事務所勤務、会社経理等）を志す学生の参加を希望します。
目標と評価：	目標と評価： 最終的には、卒業論文の作成を目標とする。卒業論文の作成（資料の収集方法、論文の書き方等）については、3年次に指導を行う。 評価については、目標資格の取得状況、出席状況、報告内容等、総合的に評価を行う。
履修が望ましい科目：	履修が望ましい科目： 履修が望ましい科目： 3年次設置科目：財務会計論、管理会計論、連結会計論

「ゼミナールⅡ」（担当者：飯野 幸江）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅡ
担当者：	飯野 幸江
テーマ：	会計学
概要：	会計学の中から自らが興味を持ったテーマを選び、それについて調査・分析・検討し、最終的に卒業論文として完成させます。卒業論文は4年間の学生生活の集大成です。卒業する時に、「これに関する知識だけは誰にも負けない」と胸を張って言えるように頑張りましょう。
授業方法：	2週間に1度の割合で、卒業論文の中間報告をしてもらいます。それをゼミ生全員で検討することにより、ゼミ全体でよりよい論文に上げていくためのサポートをしていきます。さらに文献の探し方・読み方、論文の執筆作法など、論文を書く上での技術的なことを指導します。
履修の留意点：	とにかく「卒業論文を書く」ということへの覚悟を持って下さい。
目標と評価：	<p>◆目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 論文の書き方を身に付けること。 2. 卒業論文を完成させること。 <p>◆評価</p> <p>ゼミナールへの取組の姿勢（発表内容、参加態度など）と卒業論文の内容によって評価します。</p>
履修が望ましい科目：	<p>◆4年次までに必ず履修しておいてほしい科目</p> <p>簿記論Ⅰ・Ⅱ、財務諸表論、原価計算論Ⅰ・Ⅱ、財務会計論Ⅰ・Ⅱ、管理会計論Ⅰ・Ⅱ</p> <p>◆履修をしておいたほうが役に立つ科目</p> <p>税務会計論Ⅰ・Ⅱ、連結会計論Ⅰ・Ⅱ、経営分析論Ⅰ・Ⅱ、国際会計論Ⅰ・Ⅱ、監査論Ⅰ・Ⅱ、コンピュータ会計論Ⅰ・Ⅱ</p>

「ゼミナールⅡ」（担当者：古賀 義弘）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅡ
担当者：	古賀 義弘
テーマ：	日本の産業・企業の現状分析
概要：	日本経済はやや回復傾向にあると言われている。しかし企業の海外進出やリストラなどの問題もかかえており、また中国の急速な発展は東アジアの経済のみならず、世界経済にも大きな影響を与えるまでになり、日本の針路が改めて問われる時代になっている。このような傾向は産業構造にも大きな変化をもたらす、学生諸君の進路にも影響を与えている。当ゼミでは、日本の主要な産業や企業の現状に焦点を当て、これらがどのような状況にあるかを明らかにしていく。これらに取り組むことで学生諸君が将来の進路に少しでも有用であるような方向を目指す。
授業方法：	1. ゼミの最初の3分の1を新聞記事の発表と解説にあてる。何よりも活字に親しむことから、社会の全般的認識を深めていくことを目的とする。順番に1週間の記事をまとめて簡潔に説明し、質疑応答形式で進める。 2. 残りの3分の2をテキストをレジメにして発表・執事応答とする。日本の経済や企業の動向を改めて整理することで、4年次の卒論作成の準備と位置付ける。 3. 出来るだけ合宿や企業見学などによる集中的勉強の機会を見つけ、効果的な授業を目指す。
履修の留意点：	1. 新聞の購読と読む習慣が不可欠であり、必要箇所は切り抜きなど記録保存する 2. 基本文献には必ず目を通すこと 3. 発表者は事前にレジメを準備して発表し、発表しない者も事前学習は必修 4. 無断欠席は絶対不可
目標と評価：	1年後には日本の経済・産業についてのアウトラインが基本的に認識できる水準を目指し、また新聞に目を通す習慣が定着する事を期待する。もって各人が4年次の卒論テーマを見出せることになる事を最高の目標とする。 1. ゼミの発表内容・態度 2. 質問等ゼミへの参加態度 3. 資料や課題に対する取り組み 4. 出欠状態 これらを総合的にみて評価をする
履修が望ましい科目：	日本経済論、産業構造論、企業論、中小企業論

「ゼミナールⅡ」（担当者：松行 彬子）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅡ
担当者：	松行 彬子
テーマ：	グローバル企業と経営
概要：	<p>20世紀末から21世紀にかけて経営環境の激変とともに企業経営のパラダイムは根底から転換しました。市場のグローバル化・技術革新の加速化などにより、多くの日本企業はグローバル企業へと変容しています。</p> <p>本ゼミナールでは'企業のグローバル経営とは何か'を追求します。その中でも特に'企業の競争力'に焦点を当てて、新しい時代の真の企業の競争力を理論的に、実証的に検討します。分析のツールとして、基礎的な経営分析を用います。また、一方では、現代経営学でもっとも注目されている知識を中心としたナレッジ・マネジメントにも踏み込んでいきます。</p> <p>1,2年で培った経営学の学習を基礎に、受講生が広く経営学に関して問題意識をもち、問題解決へと発展するよう指導したいと思っています。</p>
授業方法：	<p>春学期には企業の競争力に関する最新の文献を輪読します。毎回、指名された各レポーターが内容を発表し、全員で問題点を討論します。</p> <p>基礎的な経営分析を全員で学習し、それを用いて、企業の業績を分析・比較する方法を習得します。</p> <p>秋学期には、ケース・スタディを行います。ケースごとにグループに別れ、資料収集、競争力を分析し、その結果を比較し、成果をレポートにまとめます。このときに、経営学に関するレポートの書き方を指導します。</p>
履修の留意点：	<p>企業経営に広く興味を持ち、ゼミナール活動に積極的に取り組む熱意ある学生の参加を歓迎します。</p> <p>合宿、工場見学、企業訪問などを予定していますが、参加者との相談により選択します。</p>
目標と評価：	<p>4年次の卒業制作を最終目的とします。そのために、3年次には、資料収集、企業評価方法、基本的な専門知識などをゼミ活動を通じて習得します。</p> <p>3年次の評価は、出席、授業時の報告・発表、ゼミナールへの取り組みの熱意などを総合的に評価します。</p>
履修が望ましい科目：	経営戦略論、経営学Ⅰ、経営学Ⅱ

「ゼミナールⅡ」（担当者：青山 悦子）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅡ
担当者：	青山 悦子
テーマ：	日本企業における人事労務管理研究
概要：	日本企業における人事労務管理は、現在大きな変革期にあり、成果主義、弾力化、多様化、個人主義などのキーワードに代表される新たな人事労務管理システムが登場しつつあります。これから各自が働くことになる日本企業は、どのように変わろうとしているのでしょうか。人事労務管理と労使関係の新たな動向を検証し、卒業後の働き方、キャリア形成について深く議論し、考えることが本ゼミナールの主要なテーマとなります。
授業方法：	春学期は、早い段階で卒業論文のテーマを決定し、卒論作成に向けた準備に取り掛かります。あわせて人事労務管理に関する文献の輪読も行います。毎回事前に熟読し十分な準備をかけ、レポーターによる報告と討論を重ねながら、自分自身の卒論作成の方法も学んでいく予定です。秋学期は、各自の卒論報告を重ねながら、論文の完成を目指します。この過程で、本ゼミとは別に定期的に卒論の個人指導を行う予定です。
履修の留意点：	ゼミナールの活性化を図るため、報告準備のための作業に十分な時間をとって取り組める学生、さらにゼミ内の各種の役割を積極的に引き受け、ゼミを主体的に「創り上げていこう」とする意欲的な学生の参加を希望します。
目標と評価：	最終的には、4年次の卒業論文（約2万字程度）の作成が目標となります。卒業論文を提出できないと単位は認定されません。併せて、出席、報告、ゼミ活動への取り組みなども加味されます。
履修が望ましい科目：	3年次設置科目、「労務管理論Ⅰ」、「労務管理論Ⅱ」

「ゼミナールⅡ」（担当者：和田 耕治）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅡ
担当者：	和田 耕治
テーマ：	中小企業論、事業創造論
概要：	本ゼミナールでは、わが国の中小商業を取り巻く問題を考察するために、中小商業の実態、経営、政策などに関して、多面的に検討します。また、中小小売業と大型店、ショッピングセンター、地域、行政等との関わりを意識しつつ、今日における商業集積の活性化、街づくり、中小小売店の経営の課題を考えます。
授業方法：	授業方法： わが国における中小商業あるいは街づくりに関する基本的な知識を修得するために中小商業に関する基本的な書籍を輪読します。また、視聴覚教材を用いて中小商業の実態把握を商店街、商業集積の実態調査を行います。
履修の留意点：	履修の留意点： 中小商業、流通について興味を持っている学生の参加を歓迎します。卒業後の進路として、家業を継ぐもの、公的機関や金融機関等において中小企業に対する支援を職業としたい学生の参加を歓迎します。履修者は、平常の授業週において、週1コマの参加を必要とします。さらに、商店街やショッピングセンターの視察を考えています
目標と評価：	最終的には卒業制作を目標としますが、3年次はその過程における基本となる知識の修得、問題意識の設定に重きをおきます。3年次の評価は、ゼミナールへの出席と授業中での報告、発言などに基づいて下されます。4年次に行う卒業論文については、16000字以上の本文と2000字程度の要旨を作成してください。
履修が望ましい科目：	

「ゼミナールⅡ」（担当者：南 憲一）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅡ
担当者：	南 憲一
テーマ：	経営科学
概要：	<p>一般に経営科学と呼ばれる分野の中で、統計解析、データ解析、シミュレーションについて学習を進めます。これらの理論を学んだ上でExcelを用いた実際の経営の問題への応用を行います。</p> <p>統計解析の内容 記述統計、確率、正規分布、標本分布、推定、検定</p> <p>データ解析の内容 分散分析、単回帰分析、重回帰分析、主成分分析、判別分析</p> <p>シミュレーションの内容 擬似乱数と確率分布、計画の問題、決定の問題、在庫の問題、待ち行列の問題</p>
授業方法：	<p>3年次 統計解析、データ解析、シミュレーションの様々な手法について教科書の輪読とExcelを用いた実習を通して学習を進めます。輪読では、各受講生の担当を決め順番に授業までに内容を熟読の上、内容を解説してもらいます。引き続き、実際の経営の問題に関するExcelを用いた分析を行います。</p> <p>4年次 卒業論文作成のために必要な文献購読を行います（輪読形式）。さらに研究テーマを各自設定し、そのテーマによって研究を進めます。研究の途中経過の報告を随時行います。最終的に各自卒業論文を完成させます。</p>
履修の留意点：	<p>通常の授業とゼミナールの異なる点は、ゼミナールが学生参加型・学生主体の授業であるということです。従って、まず欠席しないということが大事です。さらに学生どうしお互い協力しながら学習を進めていくということが求められます。夏期休暇にはゼミ合宿を行い、春学期の学習成果を発表しあう予定です。</p>
目標と評価：	<p>3年次 経営科学の手法を理解し、実際の問題に適用できる能力を養うのが目標です。</p> <p>4年次 研究論文の作成が求められるので、研究のための 1. 目的の設定 2. 方法の選択 3. 実施 4. 結果の評価 という各フェーズをこなし、論文を作成する能力を養うことを目標とします。</p> <p>評価は 1. 日常の受講状況 2. 発表状況 3. 提出レポート、卒業論文の内容 によって行います。</p>
履修が望ましい科目：	統計学Ⅰ・Ⅱ（2年次までに履修していない人は3年次に履修してください）

「ゼミナールⅡ」（担当者：中村 修）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅡ
担当者：	中村 修
テーマ：	ゼミナールⅠの研究テーマの発展と卒業論文の作成
概要：	ゼミナールⅠの研究テーマを継承することを原則として、内容の充実を図ります。また、場合によっては新規テーマを起こして研究を進めることも可能とします。ゼミナールⅠ同様、研究テーマは、ゼミ生の自由設定とし、研究の手法について可能な限り指導していきたいと考えています。卒業論文制作では、春学期開始時から少しずつ執筆を進めていきます。学会発表のスタイルに準じた論文の雛形を示しますので、これに肉付けをしていく方法で内容の充実と、深化を進めていきます。卒業論文の目標は、できの良し悪しよりも制作過程における姿勢を最重要視します。自主的であることはもちろんですが、自身の頭で独自に考えることができるようにしていくことを大切にします。
授業方法：	各自の自主的な研究活動を基本とし、ゼミナールの時間では、それぞれ1週間分の卒業論文執筆の進捗報告をしてもらいます。また、報告内容に対する意見交換を行います。さらに必要に応じて、関連分野の補足説明も行っていきます。 具体的には、設定した研究テーマについて、以下の各研究項目を明らかにしていきます。 (1) 研究の目的：ピンボケにならないようにするためにもしっかり考える必要があります。 (2) 研究の背景：なぜ、その研究をする必要があるのか、この研究が貢献できることは何なのかを明確にする必要があります。 (3) 研究の課題：この研究で解決しようとする問題は何なのかを絞ります。 (4) 類似研究の動向：先人はどこまで、その研究を進めたか、調査・分析を行います。 (5) 研究の課題に対する検討結果：具体的な研究内容を、各研究課題に対応して示していきます。 (6) 結論：得られた研究成果の要点を明らかにします。 (7) 今後の研究課題：やり残した未解決課題を明示します。 (8) 参考文献：研究を遂行するに当たって、重要と考えられる文献を示します。 調査や基本知識の習得に必要な文献や図書については、極力、ゼミナール文献として準備していきたいと思えます。
履修の留意点：	特に以下の3つは重視します。 ★自主的に活動する ★約束を守る。守れない約束はしない ★ゼミナールを欠席しない ※特に情報処理に関して詳しい必要はありません。
目標と評価：	以下を個人の成長の基準とします。 (1) 論理的にプレゼンテーションができる。 (2) 自己の調査結果を報告書としてまとめられる。 (3) 自己の検討結果を、調査結果と区別してまとめられる。 これらの結果が、最終的に論文に結びついていけばよしとします。卒業論文の目標は、できの良し悪しよりも制作過程における姿勢が適切であることを最重要視します。自主的であることはもちろんですが、自身の頭で独自に考えることができるようにしていくことを大切にします。
履修が望ましい科目：	留学生は、履修可能な日本語関連科目を受講すること。

「ゼミナールⅡ」（担当者：滑川 光裕）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅡ
担当者：	滑川 光裕
テーマ：	システム情報論、システムシミュレーション、モデリング論
概要：	現在、一般に利用されているパーソナルコンピュータの能力は、一時代前の大型コンピュータに匹敵するほどの能力を持っています。このような高性能のコンピュータを活用するための一つの方法として、システムシミュレーションというものがあります。システムシミュレーションとは、社会（経済・経営）システム・物理システムなど、あるシステム（体系）に対して模擬実験を行い、そのシステムが有効に活用されているかを評価し、より良い利用方法を考えるものです。シミュレーションを行うためには、現実のシステムを数値・数式として表し、コンピュータ内で処理できるようにする（「モデリング」という）ことを行う必要があります。このモデリングの際に、カオス理論、ファジィ理論などを用いて人間の感覚を数値的に表現したり、遺伝的アルゴリズムやエージェント理論などを用いて、効率性についての追求をすることもあります。このように、本ゼミナールでは、シミュレーションあるいはモデリングを通じて、情報技術の仕組みと利用方法についての勉強を行います。
授業方法：	春学期には、プログラミングの課題を課すとともに、シミュレーションを中心に、ファジィ理論、遺伝的アルゴリズムなどの文献を輪読します。これらの最新技術は、海外の学会誌を原文（英語）で読む必要もあります。ただし、初期段階では、日本語で書かれた書籍を数冊利用する予定です。秋学期の途中からは、これらの理論を理解した上で、プログラム言語を利用してモデリングを行います。ここでは、すでにゼミナールⅡとしての卒業研究および論文を目指した展開になります。
履修の留意点：	CやJavaなどのプログラム言語が必須となります。これらは、勉強した内容を具現するために必須となるツールですので、3年生春学期には命がけで習得してもらいます。ただし、Excelという選択肢もあります。合宿も必須です。ここでは、その時点までに研究（勉強）した内容について、一通りまとめてもらい、プレゼンテーションを行うとともに、様々な議論についても行う予定です。さらに、学生によっては、ソフトウェアライセンスや依存するハードウェアなどの問題、あるいは、より専門的な連携教育のため、他大学に向いてプログラミングをしたり、そこでの教員・学生たちと一緒に議論する場合があります。
目標と評価：	卒業制作を目標とします。具体的には、それまで勉強してきた内容に関するプログラミングを行い、成果を出すことです。それをもとに講演論文程度の文書を書いてもらい、プレゼンテーションを行います。そして、質問事項への対応などの議論ができることを確認して、ゼミナールⅠおよびⅡとしての評価を出します。
履修が望ましい科目：	コンピュータ入門、情報システム論Ⅰ・Ⅱ、プログラミングⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

「ゼミナールⅡ」（担当者：中野 正健）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅡ
担当者：	中野 正健
テーマ：	現代世界経済下の企業経営
概要：	共通通貨ユーロ誕生下の欧州経済、I.T革命を軸に発展又I.Tバブル崩壊と9.11後経済異変と戦う米国経済、WTO加盟を基軸に発展中の中国経済、デフレ経済不況に悩む日本経済。こうした世界経済情勢下における企業経営を研究対象とします。
授業方法：	講義を軸に討議討論を重ね、これを基軸に各自独自に主題を研究。アドバイスを受けながらこの成果を研究論文として取り纏め発表。
履修の留意点：	世界政治経済社会と企業経営に、幅広い視点から考察することに興味をもつ意欲的な学生諸君の参加を歓迎します。 履修者は、平常の授業週において、週一コマの参加を必要とします。
目標と評価：	最終的には、卒業論文（20000字程度）の作成が目標となります。卒業論文を提出できないと単位は認定されません。 3年次の評価は、出席、分担報告、ゼミ活動への取り組みなど、総合的に評価します。4年次は、それに卒業論文の評価が加味されます。
履修が望ましい科目：	3年次設置科目「資金調達論」「投資戦略論」の履修。

「ゼミナールⅡ」（担当者：平井 東幸）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅡ
担当者：	平井 東幸
テーマ：	流通業の研究
概要：	ゼミナールⅠに続いて、とくに小売業を具体的な事例を取り上げて調査します。100円ショップや商店街、アウトレットなどの新しい業態はなぜ登場するのか、あるいは、安売りや特売はなぜ常態化するのか、メーカーから小売業までの流通経路はどうなっているのかなどを調べて、消費者としてもっとも身近な小売業を中心にして流通業界と流通企業についての理解を深めることで広く経済活動を身につけてもらいたいと思います。
授業方法：	<ol style="list-style-type: none"> 1 新聞・雑誌・ビデオの利用して、コンビニ、商店街などの事例を研究します。 2 可能であれば、外部講師を招いたり、企業見学、ゼミ合宿も実施したい。 3 3年次にまとめたレポートのテーマを4年次では卒業制作（本ゼミでは卒業論文）に発展させてもらいます。 4 使用するテキストは、3年次同様に『企業経営学の基礎』です。
履修の留意点：	<ol style="list-style-type: none"> 1 毎回、トピックをめぐって意見交換をしたいので、各人が新聞・雑誌の記事を 読んで持参すること。 2 平常点をとくに重視すること。
目標と評価：	<p>目標：流通業の研究を通じて、経済の動向、企業の実態、日々のビジネスの動き等を理解してもらいたいと思います。あわせて、よき社会人としてのマナーを身につけてもらうよう指導します。</p> <p>評価：4年次では平常点と卒業論文（16000字以上）を中心に行う予定です。</p>
履修が望ましい科目：	とくにありません。

「ゼミナールⅡ」（担当者：青山 悦子）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅡ
担当者：	青山 悦子
テーマ：	日本企業における人事労務管理研究
概要：	日本企業における人事労務管理は、現在大きな変革期にあり、成果主義、弾力化、多様化、個人主義などのキーワードに代表される新たな人事労務管理システムが登場しつつあります。これから各自が働くことになる日本企業は、どのように変わろうとしているのでしょうか。人事労務管理と労使関係の新たな動向を検証し、卒業後の働き方、キャリア形成について深く議論し、考えることが本ゼミナールの主要なテーマとなります。
授業方法：	春学期は、早い段階で卒業論文のテーマを決定し、卒論作成に向けた準備に取り掛かります。あわせて人事労務管理に関する文献の輪読も行います。毎回事前に熟読し十分な準備をかけ、レポーターによる報告と討論を重ねながら、自分自身の卒論作成の方法も学んでいく予定です。秋学期は、各自の卒論報告を重ねながら、論文の完成を目指します。この過程で、本ゼミとは別に定期的に卒論の個人指導を行う予定です。
履修の留意点：	ゼミナールの活性化を図るため、報告準備のための作業に十分な時間をとって取り組める学生、さらにゼミ内の各種の役割を積極的に引き受け、ゼミを主体的に「創り上げていこう」とする意欲的な学生の参加を希望します。
目標と評価：	最終的には、4年次の卒業論文（約2万字程度）の作成が目標となります。卒業論文を提出できないと単位は認定されません。併せて、出席、報告、ゼミ活動への取り組みなども加味されます。
履修が望ましい科目：	3年次設置科目、「労務管理論Ⅰ」、「労務管理論Ⅱ」

「ゼミナールⅠ」（担当者：内田 和夫）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	内田 和夫
テーマ：	市民としての「まちづくり」
概要：	<p>まちづくりとは道路や公園や建物をどう配置するのかというハードの面と、人と人がどういう関係を築けるのかといったソフトの面があります。このゼミナールでは後者に注目しながら前者も視野の中にはいれて、人間の暮らしがもっと生き生きできる「まち」がどうしたら実現できるのかを考えていきます。</p> <p>現在のまちづくりは、パートナーシップの時代を迎えています。役所だけに責任を負わせる時代は終わりました。地域に暮らす1人1人がなにができるか。昨今注目の集まるNPOはなにができるか。地元商店はなにができるか。</p> <p>さまざまな立場の人が、さまざまに協力した、「まちづくり」が今始まっています。そうした事例に学びながら、あなた自身が暮らすしたいまちをどうつくるかをみんなで考えます。</p>
授業方法：	<p>春学期は、多摩を事例に地域の歴史を学びます。興味ももてるよう、できるだけフィールドワークに行きたいとおもいます。</p> <p>夏合宿は、伊豆七島の御蔵島に行きたいとおもいます。エコツーリズムを実施している人口300人弱の島です。</p> <p>秋学期は、自分自身の卒業論文のテーマを決めるための時間にします。ひとつのことをじっくり考え抜いた経験をしたといえる自分になって大学を卒業したいと思いませんか。これまでは、「子どものためのまちづくり」「障害者のためのまちづくり」「高齢者のためのまちづくり」「震災復興のまちづくり」などのグループにわかれてテーマを設定してきました。</p>
履修の留意点：	<p>2時間続きでフィールドに行くことがあります。</p> <p>現場でがんばっている、さまざまな人と出会って、刺激を受けたい人、人と人の協力を夢持ちたい人、非営利の経済活動に興味のある人、自治体の仕事に関心のある人を歓迎します。</p>
目標と評価：	<p>私のまちづくりについての提言を含む卒業論文の執筆が最終ゴールです。</p> <p>本を読みことやフィールドにいてみることで、ものを調べ、考えることはひとつの小さい冒険旅行であることをぜひ体験してほしいとおもいます。新しい自分と新しい人と社会の理解に到達しているはず。</p> <p>3年次の評価は、出席、現場調査、報告、ゼミ活動への取り組みなどを総合評価します。4年次は、卒業論文を軸に評価する予定です。</p>
選考方法：	志望理由アンケート、課題作文、面接、によります。
履修が望ましい科目：	地方自治論ⅠⅡ

「ゼミナールⅡ」（担当者：尾村 敬二）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅡ
担当者：	尾村 敬二
テーマ：	国際経済
概要：	本ゼミナールは2006年度卒業予定者を対象にするものである。2005年度にほぼ決定した各ゼミ生の卒業論文テーマに関する調査研究を深め、卒業論文を作成する。
授業方法：	決定したテーマの章および節立てをし、それにもとづき論文を作成する。各履修生のテーマが異なるため、各週ごとに1～2名の章別の内容報告を行い、全体での討論を行う。
履修の留意点：	欠席をしないで、ゼミナール活動に積極的に参加すること。
目標と評価：	卒業論文を仕上げることと、ゼミナール活動の参加度合いにもとづいて成績評価をする。
履修が望ましい科目：	

「ゼミナールⅡ」（担当者：古賀 義弘）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅡ
担当者：	古賀 義弘
テーマ：	日本の産業・企業の現状分析
概要：	日本経済はやや回復傾向にあると言われている。しかし企業の海外進出やリストラなどの問題もかかえており、また中国の急速な発展は東アジアの経済のみならず、世界経済にも大きな影響を与えるまでになり、日本の針路が改めて問われる時代になっている。このような傾向は産業構造にも大きな変化をもたらす、学生諸君の進路にも影響を与えている。当ゼミでは、日本の主要な産業や企業の現状に焦点を当て、これらがどのような状況にあるかを明らかにしていく。これらに取り組むことで学生諸君が将来の進路に少しでも有用であるような方向を目指す。
授業方法：	1. ゼミの最初の3分の1を新聞記事の発表と解説にあてる。何よりも活字に親しむことから、社会の全般的認識を深めていくことを目的とする。順番に1週間の記事をまとめて簡潔に説明し、質疑応答形式で進める。 2. 残りの3分の2をテキストをレジメにして発表・執事応答とする。日本の経済や企業の動向を改めて整理することで、4年次の卒論作成の準備と位置付ける。 3. 出来るだけ合宿や企業見学などによる集中的勉強の機会を見つけ、効果的な授業を目指す。
履修の留意点：	1. 新聞の購読と読む習慣が不可欠であり、必要箇所は切り抜きなど記録保存する 2. 基本文献には必ず目を通すこと 3. 発表者は事前にレジメを準備して発表し、発表しない者も事前学習は必修 4. 無断欠席は絶対不可
目標と評価：	1年後には日本の経済・産業についてのアウトラインが基本的に認識できる水準を目指し、また新聞に目を通す習慣が定着する事を期待する。もって各人が4年次の卒論テーマを見出せることになる事を最高の目標とする。 1. ゼミの発表内容・態度 2. 質問等ゼミへの参加態度 3. 資料や課題に対する取り組み 4. 出欠状態 これらを総合的にみて評価をする
履修が望ましい科目：	日本経済論、産業構造論、企業論、中小企業論

「ゼミナールⅡ」（担当者：生井 良一）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅡ
担当者：	生井 良一
テーマ：	世界そして日本の環境問題
概要：	<p>ゼミ2では、ゼミ1で学んだことを元にして、「卒業論文」の作成に当たるものとする。</p> <p>卒論のための段階を記しておく、次のようになる。 テーマの設定 まずは、テーマを決めることである。 テーマは、ゼミ1で学んだり体験したりしたことを元に自分で決めるものである。そうは言っても、ゼミ1で取り上げきれなかったこともあるので、ゼミ1で学んだこと意外に関心を持っているテーマがあれば、それを追求してもよい。いずれにせよ、早い時期にテーマが決まると、その後の調べや論文作成において良いものを書きあげることとなり、時間的にも有利である。 また、調べているうちに別のことが気になりだして、そちらの方がおもしろそうだということになれば、テーマを換えてもらってもかまわない。とにかく、調べることで、関心を深めたり、あるいはおもしろさを感じてもらえればと思っている。</p> <p>調べる 次に、テーマが決まれば、それについて調べが始まることになる。単に本で読むばかりでなく、現地調査なども行って、自分の中でも理解を深めることが大切である。 また、調べることで、あるいは皆の発表を聞くことで、その中からテーマが決まっていくという人もいるかも知れない。人によって取り組み方はさまざまであるので、それでも良いと思う。ただ、気をつけることは、テーマを決める時期が遅くなると、それに関して調べる時間もまとめる時間も無くなってしまふということだ。くれぐれも注意して欲しい。</p> <p>経過発表 また、ゼミの時間に、調べたことの中間発表などを行う。そのことによって、自分自身では途中経過を一つ簡まとめていくことにもなり、あるいはその作業を通して新たな疑問にぶつかるかも知れない。一方、他のゼミ生にとっては、他の人の発表を聞くことで、そういうこともあるのかということと視野も広がり、自分の卒論の参考になるかも知れない。</p> <p>卒論のまとめ そして、最後に卒論という形でまとめることになる。その際、章立てをどうするか、図や表などをどう挿入するかなど細かい点については、相談して欲しい。要は、「何が言いたいのか」、その視点がしっかりしていることが大切である。 一度に卒論を書くというより、途中経過をこまめにレポートとして（あるいは発表するときのまとめたものとして）提出してもらおう。こういう積み重ねをやっていけば、それが卒論につながるのではないかと考える。</p>
授業方法：	<p>基本的には、本を読んで発表し、そして疑問、質問、意見、提案などいろいろ出し合う。そのことで理解を深めたり、あるいはさらに調べることもあるだろう。具体的な事例を多く取り上げていきたい。必要に応じて、ビデオも大いに活用する。また、環境学習体験の機会もつくりたい。</p>
履修の留意点：	<p>まず、世界と日本の環境破壊の実情を知って欲しい。そして、4年生になった時の卒業論文のテーマを見つけるつもりでいろいろなことを学習し、疑問に思ったことは大事にして欲しい。環境と経済、それは対立するものなのか、調和できるものなのか、あるいはどんな調和のための取り組みがあるのか、それと持続可能な社会とは、そんな問いかけも念頭に置いて欲しい。</p>
目標と評価：	<p>目標1：環境破壊について、その現状、原因、防止の取り組みの三つの視点を大事にする。 目標2：自然界では、いろいろなことが互いに関連合っている、そのことを理解すること 目標3：生命維持のシステムは微妙なバランスの上に成り立っていることを理解すること 目標4：人間活動について、その影響の大きさを理解すること 目標5：個人の生活スタイルも見直す機会とすること</p> <p>評価 評価については、ゼミ活動への積極性を最も大きく評価の対象とする。それと、レポート、出席点を合わせて決定する。</p>
履修が望ましい科目：	<p>[地球と環境Ⅰ] [地球と環境Ⅱ] [生活環境論]</p>

「ゼミナールⅡ」（担当者：松行 彬子）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅡ
担当者：	松行 彬子
テーマ：	グローバル企業と経営
概要：	<p>20世紀末から21世紀にかけて経営環境の激変とともに企業経営のパラダイムは根底から転換しました。市場のグローバル化・技術革新の加速化などにより、多くの日本企業はグローバル企業へと変容しています。</p> <p>本ゼミナールでは'企業のグローバル経営とは何か'を追求します。その中でも特に'企業の競争力'に焦点を当てて、新しい時代の真の企業の競争力を理論的に、実証的に検討します。分析のツールとして、基礎的な経営分析を用います。また、一方では、現代経営学でもっとも注目されている知識を中心としたナレッジ・マネジメントにも踏み込んでいきます。</p> <p>1,2年で培った経営学の学習を基礎に、受講生が広く経営学に関して問題意識をもち、問題解決へと発展するよう指導したいと思っています。</p>
授業方法：	<p>春学期には企業の競争力に関する最新の文献を輪読します。毎回、指名された各レポーターが内容を発表し、全員で問題点を討論します。</p> <p>基礎的な経営分析を全員で学習し、それを用いて、企業の業績を分析・比較する方法を習得します。</p> <p>秋学期には、ケース・スタディを行います。ケースごとにグループに別れ、資料収集、競争力を分析し、その結果を比較し、成果をレポートにまとめます。このときに、経営学に関するレポートの書き方を指導します。</p>
履修の留意点：	<p>企業経営に広く興味を持ち、ゼミナール活動に積極的に取り組む熱意ある学生の参加を歓迎します。</p> <p>合宿、工場見学、企業訪問などを予定していますが、参加者との相談により選択します。</p>
目標と評価：	<p>4年次の卒業制作を最終目的とします。そのために、3年次には、資料収集、企業評価方法、基本的な専門知識などをゼミ活動を通じて習得します。</p> <p>3年次の評価は、出席、授業時の報告・発表、ゼミナールへの取り組みの熱意などを総合的に評価します。</p>
履修が望ましい科目：	経営戦略論、経営学Ⅰ、経営学Ⅱ

「ゼミナールⅡ」（担当者：南 憲一）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅡ
担当者：	南 憲一
テーマ：	経営科学
概要：	<p>一般に経営科学と呼ばれる分野の中で、統計解析、データ解析、シミュレーションについて学習を進めます。これらの理論を学んだ上でExcelを用いた実際の経営の問題への応用を行います。</p> <p>統計解析の内容 記述統計、確率、正規分布、標本分布、推定、検定</p> <p>データ解析の内容 分散分析、単回帰分析、重回帰分析、主成分分析、判別分析</p> <p>シミュレーションの内容 擬似乱数と確率分布、計画の問題、決定の問題、在庫の問題、待ち行列の問題</p>
授業方法：	<p>3年次 統計解析、データ解析、シミュレーションの様々な手法について教科書の輪読とExcelを用いた実習を通して学習を進めます。輪読では、各受講生の担当を決め順番に授業までに内容を熟読の上、内容を解説してもらいます。引き続き、実際の経営の問題に関するExcelを用いた分析を行います。</p> <p>4年次 卒業論文作成のために必要な文献購読を行います（輪読形式）。さらに研究テーマを各自設定し、そのテーマによって研究を進めます。研究の途中経過の報告を随時行います。最終的に各自卒業論文を完成させます。</p>
履修の留意点：	<p>通常の授業とゼミナールの異なる点は、ゼミナールが学生参加型・学生主体の授業であるということです。従って、まず欠席しないということが大事です。さらに学生どうしお互い協力しながら学習を進めていくということが求められます。夏期休暇にはゼミ合宿を行い、春学期の学習成果を発表しあう予定です。</p>
目標と評価：	<p>3年次 経営科学の手法を理解し、実際の問題に適用できる能力を養うのが目標です。</p> <p>4年次 研究論文の作成が求められるので、研究のための 1. 目的の設定 2. 方法の選択 3. 実施 4. 結果の評価 という各フェーズをこなし、論文を作成する能力を養うことを目標とします。</p> <p>評価は 1. 日常の受講状況 2. 発表状況 3. 提出レポート、卒業論文の内容 によって行います。</p>
履修が望ましい科目：	統計学Ⅰ・Ⅱ（2年次までに履修していない人は3年次に履修してください）

「ゼミナールⅡ」（担当者：安田 利枝）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅡ
担当者：	安田 利枝
テーマ：	開発と環境の政治経済学（お金の使い方によって世界が変わる）
概要：	3年次の学習を基礎にして、前半の授業で「開発と環境」の問題をもう少し理論的な次元で捉え返してみます。環境保全と経済発展は対立するのか、両立は可能なのかという根本的な問題です。資源の制約、人口爆発、食料やエネルギーの確保など種々の問題とつながり、地球温暖化の問題も視野に入ります。地球規模の問題を解決するには、企業の利潤と言う動機、国家の国益と言う動機を超えた、世界的な統治（ガバナンス）が必要になってきます。後半は、各自の問題設定にしたがって、卒論を完成させることに全力を注ぎます。
授業方法：	前半は、理論書の購読、後半は、論文の書き方から初めて、週に1回のペースでゼミ生の文章にコメントを入れたり、アドバイスをしていきます。
履修の留意点：	ゼミのテーマに対して「知的好奇心」に満ち、周囲の人々への暖かな気持ちを忘れずに、主体的に取り組む学生を募集します。
目標と評価：	目標は卒業論文（2万字以上）の完成です。 4年次には、参加度50%、卒業論文の評価50%で成績を評価します。
履修が望ましい科目：	社会理解科目「地球と環境Ⅰ・Ⅱ」 国際経済コース2年次科目「国際協力論」「国際援助論」 国際経済コース3年次科目「環境と開発」 生活経済コース2年次科目「生活環境論」

「ゼミナールⅡ」（担当者：山田 寛）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅡ
担当者：	山田 寛
テーマ：	世界の子どもの諸問題
概要：	ゼミⅠでは、貧困、紛争の犠牲、児童労働、子ども兵士、エイズその他世界の子どもの抱えるさまざまな問題と、教室での学習とNGO活動への参加体験（春、秋あわせて1人3回）という形で取り組んできました。ゼミⅡは、NGO実習などもまだ少し混ぜながら、それぞれの関心のある問題を絞って行き、春学期から卒業論文の準備をしていきます。
授業方法：	春学期は、NGO活動への参加を1回ずつやってもらいます。卒業論文のテーマとなる問題を絞って、ゼミの中でできるだけ早くテーマと目次を発表してもらいます。夏休みには国際協力のイベントがいろいろ行われるので、それに1回ずつ参加してもらおうか、あるいは卒論のためのゼミ合宿をやる予定です。秋学期は卒論のための調査・執筆が中心です。
履修の留意点：	ゼミでは、出席を重視します。年間を通じ9回以上は絶対に欠席しないでください。
目標と評価：	ゼミの平常点、NGO活動参加の状況、卒論をあわせて評価します。
履修が望ましい科目：	特定の科目はありません。

「総合ゼミナール」（担当者：藤井 秀子）の履修の手引き

科目名：	総合ゼミナール
担当者：	藤井 秀子
テーマ：	故事に学ぶ日本語表現～四字熟語を中心として～
概要：	日本語表現能力とプレゼンテーション能力の開発のために「四字熟語」を探り上げる。四字熟語を学ぶことにより、言葉の意味のみならず、その基となっている故事来歴や表現方法など、深い理解と知識の修得を目指す。 さらにその言葉を自分のものとして、十分に使いこなせるようにするため、短文を作成しお互いに発表しあって、プレゼンテーション能力の向上も図る。 後半は、四字熟語だけではなく、格言や諺なども取り入れて言葉の幅を増やすと同時に自分の心の糧となる「座右の銘」も見つけたい。
授業方法：	* 春学期一四字熟語に関する個人研究発表を中心に行う。各自好きな四字熟語を選んで、その意味や故事来歴、出典、表現方法、用例などを調べ、それに加えてその四字熟語を使って作成した短文をレジュメにし、皆の前で発表する。その後、全員がその言葉を使った短文を作り発表する。 * 秋学期一3人で1グループとなり、四字熟語によるクイズやパズルを作成して、お互いに発表や討論を行う。後半は、四字熟語以外にも枠を広げて格言や諺、書物などの中から好きな言葉を探し出してきて、お互いに発表しあう。
履修の留意点：	日頃から言葉に対する関心を持ってゼミに臨んでほしい。常に人の話をよく聞き、自分の考えを自分の言葉で書き、話す習慣を持つよう心がけてほしい。 レジュメはパソコンで仕上げるので、パソコンの修得が望まれる。
目標と評価：	* 目標一四字熟語や格言、諺などの“よい言葉”を通して、「調べる力・考える力・発表する力」を養う。 * 評価一個人研究発表、期末テスト及び積極的姿勢などから総合的に評価する。
履修が望ましい科目：	履修が望ましい科目： プレゼンテーション技法

「総合ゼミナール」（担当者：安富 成良）の履修の手引き

科目名：	総合ゼミナール
担当者：	安富 成良
テーマ：	在日外国人のための日本語教室
概要：	秋学期の後半に日本で暮らす在住外国人に日本語を教えることを最終目的とし、その為の「初級日本語テキスト」の作成（春学期）と教授法を学びます（秋学期）。このゼミを通し、コミュニケーションの道具としての日本語や日本文化を見つめ直し、在住外国人との交流を通し、異文化理解を深めます。また地域に開かれた「日本語講座」を開設することにより地域活動について考えます。
授業方法：	春学期は： 1) 在住外国人についての学習 2) 「初級日本語入門」のテキスト作り ①既に出版されているテキストの収集と検討 ②自分たちのテキスト作りの編集方法の検討 ③テキスト作成作業 秋学期は： 1) テキスト作り 2) 小平市報などへの広報、受講生の募集作業 3) 日本語教室の見学 4) 日本語教師の講演 5) 学園祭での展示 6) 日本語教室の開講（実際に教える）
履修の留意点：	1) グループワークが多くなるので協調性を持ってもらいたい 2) 各学期1～2回、授業外で学外に行くことあり 3) 夏休み、合宿予定（2泊3日程度） 4) 学園祭で展示を予定 5) 秋学期には日本語教師となる、という自覚を持つ
目標と評価：	1) 目標 最終的には外国人に日本語を教えることであるが、その段階に至るまでに日本語や地域の国際化問題について考える 2) 評価 課題レポート、ゼミナールへの取り組み、出席状況の総合評価
履修が望ましい科目：	特になし

「総合ゼミナール」（担当者：石川 直弘）の履修の手引き

科目名：	総合ゼミナール
担当者：	石川 直弘
テーマ：	子どもの認知発達
概要：	子どもの「ユーモアの能力」の発達を通して、乳幼児・児童の心理発達を学んでいく。
授業方法：	まず、文献購読を中心にして学習に必要とされる基本事項を理解していく。その後、ディスカッション、データ情報収集をおこなって学習を深めていく。
履修の留意点：	ただ単に知識を獲得するだけでなく、自ら課題を通して考えること、判断することが要求される。学習したことを、発表することも必要となる。
目標と評価：	研究報告レポートを作成する。
履修が望ましい科目：	人間性の発達

「総合ゼミナール」（担当者：宮本 勉）の履修の手引き

科目名：	総合ゼミナール
担当者：	宮本 勉
テーマ：	経営とパソコンの利活用
概要：	<p>今日、企業活動においてはコンピュータの存在なくしては語れない。この現状はますますインターネットの利用やIT化の加速とともにさらに進んでいきます。その結果、新たなビジネスも次々と出現してきております。さらに、ビジネスのスタイルもどんどんと変化してきております。SOHOというものも新たな勤務の形式として注目されております。そのほか、無線LANというものもパソコン利用の世界を大きく広げております。</p> <p>このような急速なIT化の進んでいるビジネスのあり方やその実態について学習しさらにパソコンやネットワーク、ITビジネスについて学び実証的な研究を行う。</p>
授業方法：	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンやネットワーク、IT経営についての学習を通して理論を学ぶ。 ・まず、テキストや文献を輪読して学習する ・必要に応じて企業や展示会等に参加して実際の姿を学ぶ ・各自のパソコンを利用してネットワークの構築を行う ・新たなビジネスの展開に関する資料文献を収集し学習する ・夏休みや春休み等長期の休暇に合宿を実施する ・各自独自のテーマを立てて研究を行い論文をまとめる ・各自が自主的に学習意欲を持っていくことを期待する ・学園祭に参加する
履修の留意点：	<p>自ら目標をきめて努力する 欠席をしない ゼミの行事には参加する</p> <p>パソコンのマニア、パソコンの利活用に興味のある学生大歓迎 パソコンの利活用に興味を持ち、自ら授業に取り組む意欲ある学生の参加を希望する。</p>
目標と評価：	<p>1年間の結果をまとめて報告書を作成する ゼミへの参加の状況 平常の授業への意欲、姿勢 各種発表のプレゼンテーション能力 パソコンの利活用の能力および意欲 各自の研究テーマによる論文や最終的な卒業論文 以上を総合的に評価する</p>
履修が望ましい科目：	<p>必須条件ではないけれど情報関係科目、プログラム関係科目、ホームページ関係科目、プレゼンテーション関係科目を受講していることが望ましい。</p>

「総合ゼミナール」（担当者：松嶋 哲雄）の履修の手引き

科目名：	総合ゼミナール
担当者：	松嶋 哲雄
テーマ：	言葉遊び：日本語・英語・漢字
概要：	日常で何気なく使っている簡単な表現（日本語・英語・漢字）を取り上げる。正しい言葉遣い、語源、同じ言葉でも状況により微妙に異なるニュアンス、英語から日本語になった、あるいは英語になった言葉の日英語間の意味の相違、日英語の合成語、同義語でも日本語・英語からの来たカタカナ語・漢字で聞き手に与える印象や理解度の違い、用法や意味の移り変わり（発声・意味・用法の時代変化）、などを調べる。
授業方法：	対話形式、講義形式、時にフィールド研究
履修の留意点：	休まないこと
目標と評価：	レポートと出席率、および授業へ積極的に取り組姿勢
履修が望ましい科目：	特になし

「総合ゼミナール」（担当者：古閑 博美）の履修の手引き

科目名：	総合ゼミナール
担当者：	古閑 博美
テーマ：	魅力行動学研究
概要：	魅力行動学（「さまざまな出会いを通して魅力的な自己形成と人間関係を求める行動の学」）は、魅力行動を研究するゼミナールです。魅力行動は、「質・量・形・意味に魅力が付与された行動」のことです。身の回り30cmからはじめる魅力行動を提唱しています。そのひとつに、「ささき親切運動」があります。この運動は、「さっそく親切」「さりげない親切」「さわやかな親切」を身近な人から始めようというものです。魅力行動を、ことば遣い、マナーや日常の振る舞い（行住坐臥）から考察し、行動能力として身につけることで、コミュニケーション能力と社会的知性の向上を目指します。国際的視野及び日本文化の観点からも魅力行動を考えます。体験学習を重視します。
授業方法：	講義、演習、学外研修、夏合宿から成り、卒業制作を課します。春学期は『魅力行動学入門』講義、秋学期は学園祭に講演と古典遊戯投扇興で参加するなどして、魅力行動の研究を進めます。学外研修は、歌舞伎・文楽鑑賞、茶事、禊（滝修行）、接心（坐禅）、テーブルマナーなどを実施する予定。以上がつつがなく進行するよう運営します。
履修の留意点：	実際に体験することの多い講座です。自己管理・日程管理能力などが問われます。ゼミの企画に参加することを重視します。入ゼミ希望者は、申込書を研究室に持参してください。簡単な面接を実施します。
目標と評価：	魅力行動を学び、身につけ、社会的行動のなかで表現できる魅力的な自己の創造を目指します。クラスでの授業参加態度、学外研修・合宿等における参加の姿勢と取り組み、レポートなどを総合して評価します。
履修が望ましい科目：	ホスピタリティ関連科目、ビジネス関連科目、日本文化関連科目。

「総合ゼミナール」（担当者：森 康夫）の履修の手引き

科目名：	総合ゼミナール
担当者：	森 康夫
テーマ：	ユニバーサルデザインを考える
概要：	<p><ユニバーサルデザインを考える> これまで人々は便利で豊かな生活を求めてきた。20世紀はその夢を実現すべく様々な追求をして来た。その結果、大量生産された人工物やデザインが氾濫することになった。便利で快適な時代が来たと思われたが、果たしてそうなのか。物が溢れるほど、その製品やサービスに不満を持つ人々も増えているのはなぜなのか。使えない環境や道具に悩まされる人々が増えている。21世紀は高齢化社会の問題も抱えており、企業はこの問題に真剣に取り組まなければならない時代となってきている。障害者や高齢者だけでなく子供も含め、誰にでも平等で、優しく使えるものを生み出すことが求められている。本ゼミでは身の回りのものからこの問題を考えていく。</p>
授業方法：	<p>1、春学期 「ユニバーサルデザインとは何か」から始め、その意義や価値を考える。 1) 基礎的なことについて講義し、質問をして考えさせる。 2) 身の回りのものから観察（調査）する。（観察、体験、情報収集） * 各種テーマに沿って講義と観察（調査）を行う。 * 観察（調査）は全員、又はグループごとに行う。</p> <p>2、秋学期 1) 春学期の観察を各自が発展させて、テーマを決めて、提案まで深める。 * 最終的には、論文、又は作品として発表する。</p>
履修の留意点：	<p>何か新しいことをしてみたい、あるいは発見してみたいという好奇心が旺盛なことが求められる。考えることが苦手な学生は向かないかも。何か役に立つものを考えたいという強い意思を持った学生向きである。心配性なら、なお結構。</p>
目標と評価：	<p>目標：ユニバーサルデザインについて調べることを通して「自分で考え、行動出来る力を養うと共に、コミュニケーション能力の向上を図る」事を目的とする。</p> <p>評価：課題制作だけでなく、普段の授業に対する姿勢やグループワークなどを総合的に見て、判断の参考にする。特に、「報告、連絡、相談」がきちんとしてきているかも重要なポイントである。</p>
履修が望ましい科目：	

「総合ゼミナール」（担当者：星 ひろみ）の履修の手引き

科目名：	総合ゼミナール
担当者：	星 ひろみ
テーマ：	スポーツ・イベントを開催しよう！
概要：	インターネットをはじめ益々便利になっていく時代の中で、表現する力やコミュニケーション能力・行動するということが、あらためて見直される機会が増えてきました。『仲間と協力しながら作り上げる力』『考えたことを実行に移す力』は決して簡単に身につくものではありません。本ゼミではスポーツに関連するイベントを企画するところから運営するところまでを「グループワーク」をとおして、「コミュニケーション能力」を養いながら、行っていきたいと考えています。主な内容としては、地域の方々、あるいは学内の学生を対象に『スポ
授業方法：	イベントの種類を決めた後、開催に必要な準備を行っていきます。①役割分担をし、パートごとの作業（グループワーク）②イベント成功にむけての積極的な話し合い（コミュニケーション能力・協調性・リーダーシップ・プレゼンテーション）③講師・審判が出来るよう、その種目のルールを学んだり、講師が出来るよう実習を行う。（スポーツを学ぶ）④適当な時期にイベントを実施
履修の留意点：	メンバー同士で話し合い、行動することが常です。最終的にイベントの参加者に楽しんでもらうために、細かいが、表に出ない仕事なども行うことがあります。本ゼミには、スポーツ好きで、責任感があり、行動力のある学生や、人と接せることが好きな学生向きです。また、イベントの開催がゼミナール実施時間とは限らないので、自分の時間がある程度割ける学生が望ましい。
目標と評価：	目標：年2回のイベント開催 評価：イベントの開催を基本的な評価対象（単位取得）と考えます。また、運営にあたり、①実行力 ②責任感 ③協力性 ④リーダーシップ ⑤柔軟な対応力なども評価対象
履修が望ましい科目：	特になし。

「総合ゼミナール」（担当者：木村 剛）の履修の手引き

科目名：	総合ゼミナール
担当者：	木村 剛
テーマ：	顧客の心をつかむには～経営戦略の研究～
概要：	私たちは様々な製品やサービスに囲まれて生活しています。その中には長らく顧客の心をつかみ市場に残り続けるものもあれば、早々に市場から消えていってしまうものもあります。では、顧客の心をつかみ、他社との競争に打ち勝っていくためには、どのような戦略を立て、実行していけば良いのでしょうか。このゼミでは実際の企業行動を調べながら、こうした問いについての答えを探していきます。
授業方法：	最初の段階では、みんなで本を読んでいき、その内容をきちっと理解することに重点をおいて学習します。第2ステップでは、自分でテーマを設定し、それについて調べてきたことについて、発表したりディスカッションしていくことで、さらに調べるポイントを明確にしていきます。
履修の留意点：	現時点でどのくらいの知識があるかということよりも、自分が興味のある業界や企業のことについて”詳しく調べてみたい”、という好奇心旺盛な人を募集します。また当然のことですが、ゼミは遅刻・欠席厳禁です。休まないように、遅れないようにしてください。
目標と評価：	最後に卒業制作ということで、レポート（論文に近いもの）を提出してもらいます。それを提出して頂くことで評価を行います。2年間の集大成として、就職活動にも、そして一生の思い出としても意義のあるものを一緒に作り上げていきましょう。
履修が望ましい科目：	経営学入門、マーケティング論他、経営に関連する科目全般

「英語 I (再履修)」 (担当者: 栗野 恵子) の履修の手引き

科目名:	英語 I (再履修)
担当者:	栗野 恵子
設置学期:	春
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	すでに学んできた英語の知識を再度点検・確認しながら、語彙を増やすとともに基本的文章構造・文法を確実に身につけ、英語力も総合的な向上を図ります。
授業方法:	<p>【説明と作業】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回の復習 2. 語彙クイズ 3. 文法説明 4. 文法ドリル 5. 確認 <p>1～5を基本に適宜小テストを実施し、状況に応じてOn Demand あるいは一斉授業を展開していく予定です。</p>
履修の留意点:	<p>「英検 E-CAT」というE-learningソフトを使用するため教材費 (3150円・半期分) が別途必要となります。また次年度以降は開講されないので今年度中に単位を取得してください。</p> <p>* シリアル番号の配布には、事務室前の発券機を利用して入金された領収書が添付されている書類の提出が必要となります。</p>
目標と評価:	<p>最適な英検レベルの受験を目標とします。</p> <p>【評価方法】</p> <p>出席: 30%</p> <p>英検模試による合格: 50% (準2級を合格で満点。不合格なら0点)</p> <p>教員による裁量点: 20% (授業中の学習状況と授業外の学習状況)</p> <p>* 英検模試の合否は、授業外受験の状況に不備がある場合判定不可能のため授業内に実施する模試の結果のみを有効とします。但し授業内模試を3週間に1回と受験回数を増やすこと、各回の出題模試をあらかじめ指定し受講者が事前に学習できることとします。</p>
教科書:	英検E-CAT 旺文社 旺文社
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語 I (再履修)」 (担当者: 栗野 恵子) の履修の手引き

科目名:	英語 I (再履修)
担当者:	栗野 恵子
設置学期:	春
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	すでに学んできた英語の知識を再度点検・確認しながら、語彙を増やすとともに基本的文章構造・文法を確実に身につけ、英語力も総合的な向上を図ります。
授業方法:	<p>【説明と作業】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回の復習 2. 語彙クイズ 3. 文法説明 4. 文法ドリル 5. 確認 <p>1～5を基本に適宜小テストを実施し、状況に応じてOn Demand あるいは一斉授業を展開していく予定です。</p>
履修の留意点:	<p>「英検 E-CAT」というE-learningソフトを使用するため教材費 (3150円・半期分) が別途必要となります。また次年度以降は開講されないので今年度中に単位を取得してください。</p> <p>* シリアル番号の配布には、事務室前の発券機を利用して入金された領収書が添付されている書類の提出が必要となります。</p>
目標と評価:	<p>最適な英検レベルの受験を目標とします。</p> <p>【評価方法】</p> <p>出席: 30%</p> <p>英検模試による合格: 50% (準2級を合格で満点。不合格なら0点)</p> <p>教員による裁量点: 20% (授業中の学習状況と授業外の学習状況)</p> <p>* 英検模試の合否は、授業外受験の状況に不備がある場合判定不可能のため授業内に実施する模試の結果のみを有効とします。但し授業内模試を3週間に1回と受験回数を増やすこと、各回の出題模試をあらかじめ指定し受講者が事前に学習できることとします。</p>
教科書:	英検E-CAT 旺文社 旺文社
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語 I (再履修)」 (担当者: 栗野 恵子) の履修の手引き

科目名:	英語 I (再履修)
担当者:	栗野 恵子
設置学期:	秋
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	すでに学んできた英語の知識を再度点検・確認しながら、語彙を増やすとともに基本的文章構造・文法を確実に身につけ、英語力も総合的な向上を図ります。
授業方法:	<p>【説明と作業】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回の復習 2. 語彙クイズ 3. 文法説明 4. 文法ドリル 5. 確認 <p>1～5を基本に適宜小テストを実施し、状況に応じてOn Demand あるいは一斉授業を展開していく予定です。</p>
履修の留意点:	<p>「英検 E-CAT」というE-learningソフトを使用するため教材費(3150円・半期分)が別途必要となります。また次年度以降は開講されないので今年度中に単位を取得してください。</p> <p>* シリアル番号の配布には、事務室前の発券機を利用して入金された領収書が添付されている書類の提出が必要となります。</p>
目標と評価:	<p>最適な英検レベルの受験を目標とします。</p> <p>【評価方法】</p> <p>出席: 30%</p> <p>英検模試による合格: 50% (準2級を合格で満点。不合格なら0点)</p> <p>教員による裁量点: 20% (授業中の学習状況と授業外の学習状況)</p> <p>* 英検模試の合否は、授業外受験の状況に不備がある場合判定不可能のため授業内に実施する模試の結果のみを有効とします。但し授業内模試を3週間に1回と受験回数を増やすこと、各回の出題模試をあらかじめ指定し受講者が事前に学習できることとします。</p>
教科書:	英検E-CAT 旺文社 旺文社
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語 I (再履修)」 (担当者: 栗野 恵子) の履修の手引き

科目名:	英語 I (再履修)
担当者:	栗野 恵子
設置学期:	秋
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	すでに学んできた英語の知識を再度点検・確認しながら、語彙を増やすとともに基本的文章構造・文法を確実に身につけ、英語力も総合的な向上を図ります。
授業方法:	<p>【説明と作業】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回の復習 2. 語彙クイズ 3. 文法説明 4. 文法ドリル 5. 確認 <p>1～5を基本に適宜小テストを実施し、状況に応じてOn Demand あるいは一斉授業を展開していく予定です。</p>
履修の留意点:	<p>「英検 E-CAT」というE-learningソフトを使用するため教材費 (3150円・半期分) が別途必要となります。また次年度以降は開講されないので今年度中に単位を取得してください。</p> <p>* シリアル番号の配布には、事務室前の発券機を利用して入金された領収書が添付されている書類の提出が必要となります。</p>
目標と評価:	<p>最適な英検レベルの受験を目標とします。</p> <p>【評価方法】</p> <p>出席: 30%</p> <p>英検模試による合格: 50% (準2級を合格で満点。不合格なら0点)</p> <p>教員による裁量点: 20% (授業中の学習状況と授業外の学習状況)</p> <p>* 英検模試の合否は、授業外受験の状況に不備がある場合判定不可能のため授業内に実施する模試の結果のみを有効とします。但し授業内模試を3週間に1回と受験回数を増やすこと、各回の出題模試をあらかじめ指定し受講者が事前に学習できることとします。</p>
教科書:	英検E-CAT 旺文社 旺文社
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語Ⅱ(再履修)」(担当者:栗野 恵子)の履修の手引き

科目名:	英語Ⅱ(再履修)
担当者:	栗野 恵子
設置学期:	春
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	英語Ⅰで学んだ内容をさらに深め英語力の総合的な向上を図ります。
授業方法:	<p>【説明と作業】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回の復習 2. 語彙クイズ 3. 文法説明 4. 文法ドリル 5. 確認 <p>1～5を基本に、状況に応じてOn Demand あるいは一斉授業を展開していく予定です。</p>
履修の留意点:	<p>「英検E-CAT」というE-learningソフトを利用するため、教材費(3150円)が別途必要となります。また、次年度以降は開講されないので今年度中に単位取得をしてください。</p> <p>*シリアル番号の配布には、事務室前の発券機を利用して入金された領収書が添付されている書類の提出が必要です。</p>
目標と評価:	<p>最適な英検レベルの受験を目標とします。</p> <p>【評価方法】</p> <p>出席: 30%</p> <p>英検模試による合格: 50%(英検2級を合格で満点。不合格なら0点。)</p> <p>教員による裁量点: 20%(授業内・外の学習状況)</p> <p>*英検模試の可否は、授業外受験の状況で不備がある場合判定不可能のため、授業内に実施する結果のみを有効とします。但し、授業内模試を3週間に1回と受験回数を多くすること、また各回の出題模試をあらかじめ指定し、受講者が事前に学習できるものとします。</p>
教科書:	英検E-CAT 旺文社
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語Ⅱ(再履修)」(担当者:栗野 恵子)の履修の手引き

科目名:	英語Ⅱ(再履修)
担当者:	栗野 恵子
設置学期:	春
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	英語Ⅰで学んだ内容をさらに深め英語力の総合的な向上を図ります。
授業方法:	<p>【説明と作業】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回の復習 2. 語彙クイズ 3. 文法説明 4. 文法ドリル 5. 確認 <p>1～5を基本に、状況に応じてOn Demand あるいは一斉授業を展開していく予定です。</p>
履修の留意点:	<p>「英検E-CAT」というE-learningソフトを利用するため、教材費(3150円)が別途必要となります。また、次年度以降は開講されないので今年度中に単位取得をしてください。</p> <p>*シリアル番号の配布には、事務室前の発券機を利用して入金された領収書が添付されている書類の提出が必要です。</p>
目標と評価:	<p>最適な英検レベルの受験を目標とします。</p> <p>【評価方法】</p> <p>出席: 30%</p> <p>英検模試による合格: 50%(英検2級を合格で満点。不合格なら0点。)</p> <p>教員による裁量点: 20%(授業内・外の学習状況)</p> <p>*英検模試の合否は、授業外受験の状況で不備がある場合判定不可能のため、授業内に実施する結果のみを有効とします。但し、授業内模試を3週間に1回と受験回数を多くすること、また各回の出題模試をあらかじめ指定し、受講者が事前に学習できるものとします。</p>
教科書:	英検E-CAT 旺文社
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語Ⅱ(再履修)」(担当者: 栗野 恵子)の履修の手引き

科目名:	英語Ⅱ(再履修)
担当者:	栗野 恵子
設置学期:	秋
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	英語Ⅰで学んだ内容をさらに深め英語力の総合的な向上を図ります。
授業方法:	<p>【説明と作業】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回の復習 2. 語彙クイズ 3. 文法説明 4. 文法ドリル 5. 確認 <p>1～5を基本に、状況に応じてOn Demand あるいは一斉授業を展開していく予定です。</p>
履修の留意点:	<p>「英検E-CAT」というE-learningソフトを利用するため、教材費(3150円)が別途必要となります。また、次年度以降は開講されないので今年度中に単位取得をしてください。</p> <p>* シリアル番号の配布には、事務室前の発券機を利用して入金された領収書が添付されている書類の提出が必要です。</p>
目標と評価:	<p>最適な英検レベルの受験を目標とします。</p> <p>【評価方法】</p> <p>出席: 30%</p> <p>英検模試による合格: 50%(英検2級を合格で満点。不合格なら0点。)</p> <p>教員による裁量点: 20%(授業内・外の学習状況)</p> <p>* 英検模試の合否は、授業外受験の状況で不備がある場合判定不可能のため、授業内に実施する結果のみを有効とします。但し、授業内模試を3週間に1回と受験回数を多くすること、また各回の出題模試をあらかじめ指定し、受講者が事前に学習できるものとします。</p>
教科書:	英検E-CAT 旺文社
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語Ⅱ(再履修)」(担当者: 栗野 恵子)の履修の手引き

科目名:	英語Ⅱ(再履修)
担当者:	栗野 恵子
設置学期:	秋
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	英語Ⅰで学んだ内容をさらに深め英語力の総合的な向上を図ります。
授業方法:	<p>【説明と作業】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回の復習 2. 語彙クイズ 3. 文法説明 4. 文法ドリル 5. 確認 <p>1～5を基本に、状況に応じてOn Demand あるいは一斉授業を展開していく予定です。</p>
履修の留意点:	<p>「英検E-CAT」というE-learningソフトを利用するため、教材費(3150円)が別途必要となります。また、次年度以降は開講されないので今年度中に単位取得をしてください。</p> <p>* シリアル番号の配布には、事務室前の発券機を利用して入金された領収書が添付されている書類の提出が必要です。</p>
目標と評価:	<p>最適な英検レベルの受験を目標とします。</p> <p>【評価方法】</p> <p>出席: 30%</p> <p>英検模試による合格: 50%(英検2級を合格で満点。不合格なら0点。)</p> <p>教員による裁量点: 20%(授業内・外の学習状況)</p> <p>* 英検模試の合否は、授業外受験の状況で不備がある場合判定不可能のため、授業内に実施する結果のみを有効とします。但し、授業内模試を3週間に1回と受験回数を多くすること、また各回の出題模試をあらかじめ指定し、受講者が事前に学習できるものとします。</p>
教科書:	英検E-CAT 旺文社
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英文講読 I (再履修)」 (担当者: 藤岡 阿由未) の履修の手引き

科目名:	英文講読 I (再履修)
担当者:	藤岡 阿由未
設置学期:	春
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	英語 I、II で学んだ内容をさらに深め、単語と文法の知識に加えて、語法上の約束も確認していきます。また、多種多様な練習問題への取り組みに時間をかけて、各自が達成度を確認しながら進めます。
授業方法:	エッセイ、ニュース記事、ショート・ストーリー、メール等、さまざまなタイプの文章を多く読みながら、授業を進めます。
履修の留意点:	授業への参加を非常に重視します。教科書は指定せず、毎回、プリントを配布する予定です。
目標と評価:	出席 3 割、授業での取り組み 5 割、試験 2 割で評価します。
教科書:	
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英文講読 I (再履修)」 (担当者: 藤岡 阿由未) の履修の手引き

科目名:	英文講読 I (再履修)
担当者:	藤岡 阿由未
設置学期:	春
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	英語 I、II で学んだ内容をさらに深め、単語と文法の知識に加えて、語法上の約束も確認していきます。また、多種多様な練習問題への取り組みに時間をかけて、各自が達成度を確認しながら進めます。
授業方法:	エッセイ、ニュース記事、ショート・ストーリー、メール等、さまざまなタイプの文章を多く読みながら、授業を進めます。
履修の留意点:	授業への参加を非常に重視します。教科書は指定せず、毎回、プリントを配布する予定です。
目標と評価:	出席 3 割、授業での取り組み 5 割、試験 2 割で評価します。
教科書:	
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英文講読 I (再履修)」 (担当者：藤岡 阿由未) の履修の手引き

科目名：	英文講読 I (再履修)
担当者：	藤岡 阿由未
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	英語 I、II で学んだ内容をさらに深め、単語と文法の知識に加えて、語法上の約束も確認していきます。また、多種多様な練習問題への取り組みに時間をかけて、各自が達成度を確認しながら進めます。
授業方法：	エッセイ、ニュース記事、ショート・ストーリー、メール等、さまざまなタイプの文章を多く読みながら、授業を進めます。
履修の留意点：	授業への参加を非常に重視します。教科書は指定せず、毎回、プリントを配布する予定です。
目標と評価：	出席 3 割、授業での取り組み 5 割、試験 2 割で評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英文講読 I (再履修)」 (担当者：藤岡 阿由未) の履修の手引き

科目名：	英文講読 I (再履修)
担当者：	藤岡 阿由未
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	英語 I、II で学んだ内容をさらに深め、単語と文法の知識に加えて、語法上の約束も確認していきます。また、多種多様な練習問題への取り組みに時間をかけて、各自が達成度を確認しながら進めます。
授業方法：	エッセイ、ニュース記事、ショート・ストーリー、メール等、さまざまなタイプの文章を多く読みながら、授業を進めます。
履修の留意点：	授業への参加を非常に重視します。教科書は指定せず、毎回、プリントを配布する予定です。
目標と評価：	出席 3 割、授業での取り組み 5 割、試験 2 割で評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英会話Ⅱ(再履修)」(担当者: ポール エトガ)の履修の手引き

科目名:	英会話Ⅱ(再履修)
担当者:	ポール エトガ
設置学期:	秋
開講回数:	全26回
週コマ数:	週2コマ
概要:	The emphasis of this course is on self-expression. Students will be required to take part in reading, translating, answering questions, and in role-plays. A short report will be submitted once a week. Each student must possess an English/Japanese dictionary.
授業方法:	Sentence patterns will be taught and exercises will be taken from daily life activities, such as at a hotel, restaurant, etc... 1)The emphasis will be on pronunciation through reading. 2)The understanding of the course will be checked through exercises and translations. 3)Videos & cassettes audio will be used so that the students can become familiar with both American and British English.
履修の留意点:	なし
目標と評価:	The objective of this course is to allow the student to become familiar with the language, be able to read properly and express themselves with self-confidence. Evaluation: Attendance to class and participation 10%, short reports submitted 40%, tests 50%
教科書:	English for Daily Communication Paul Etoga 創成社
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英会話Ⅲ（再履修）」（担当者：ポール エトガ）の履修の手引き

科目名：	英会話Ⅲ（再履修）
担当者：	ポール エトガ
設置学期：	春
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	The emphasis of this course is on self-expression. Students will be required to take part in reading, translating, answering questions, and in role-plays. A short report will be submitted once a week. Each student must possess an English/Japanese dictionary.
授業方法：	Sentence patterns will be taught and exercises will be taken from daily life activities, such as at a hotel, restaurant, etc... 1)The emphasis will be on pronunciation through reading. 2)The understanding of the course will be checked through exercises and translations. 3)Videos & cassettes audio will be used so that the students can become familiar with both American and British English.
履修の留意点：	なし
目標と評価：	The objective of this course is to allow the student to become familiar with the language, be able to read properly and express themselves with self-confidence. Evaluation: Attendance to class and participation 10%, short reports submitted 40%, tests 50%
教科書：	English For Daily Communication Paul ETOGA + Andre GAGNE著 創成社 2005
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「海外集中英語」（担当者：サイモン クレイ）の履修の手引き

科目名：	海外集中英語
担当者：	サイモン クレイ
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	海外研修・イギリスコースの一部として、この授業は英国ケンブリッジで行います。詳しいことはKaetsu Lifeをご参考して下さい
授業方法：	英国ケンブリッジの嘉悦センターにてnativeの先生によって行います。
履修の留意点：	詳しいことはKaetsu Lifeをご参考して下さい
目標と評価：	平常点
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英文講読Ⅱ」（担当者：高野 秀之）の履修の手引き

科目名：	英文講読Ⅱ
担当者：	高野 秀之
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	旧カリキュラムの2003年度・2004年度入学生用に設置された科目ですが、その授業内容は新カリキュラムの「English CommunicationⅣ」です。新カリキュラムで学んだ2年生はすでに春学期の「English CommunicationⅢ」で文章の構成やキーワードを発見する方法を身につけていますが、旧カリキュラムの受講生用に、最初の授業と第2回目の授業は復習の時間にします。
授業方法：	毎回の授業で短い文章を読み、キーワードの発見や未知の語義を推測する練習をします。その文章の論理構成までが理解できたら簡単なディスカッションを行い、個々の受講生が内容を評価します。その後、いくつかの課題文から自分で選んだものについて調べ、授業の終わりに発表をします。次の授業までには、その授業で選ばなかった課題文についてレポートを作成し、授業の初めに提出します。そのレポートの内容が充実しているものは、毎回の授業点に加算されます。
履修の留意点：	内容の理解が目的ではなく、そこに記された内容から何を学んだのかを考えることを目指します。意味内容の理解でとどまることなく、課題文から得た情報を元に、幅広い知識と教養を身につけてください。
目標と評価：	授業中の貢献度、レポート点の合計、課題を追求する姿勢を公平に評価します。レポートの提出が遅れることや、欠席、授業中の発表が不適格なものは、加算される点が得られませんので、注意してください。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅠ」（担当者：高野 秀之）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅠ
担当者：	高野 秀之
設置学期：	春
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	「新入生ガイダンス」期間中に実施される「クラス分けテスト」の結果より、個々の学生の弱点を調査・分析し、「進度別クラス」を編成する。それぞれのクラスでは、既に高校で学習した内容を用いて「総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習した内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。秋学期のクラスは、この「統一テスト」の結果を元に編成される。
授業方法：	春学期の目標は授業を通じて学生が自分自身の弱点を克服してゆくことなので、授業の役割はその実現のための支援（サポート）となる。学生は、自ら何ができて何ができないのかを判断することが求められるので、ノート作りや復習といった「日常的学習習慣」の確立が不可欠である。辞書の正しい使い方が定着していない学生に向けて、学期の前半でその練習も予定している。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進捗やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅠ」（担当者：高野 秀之）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅠ
担当者：	高野 秀之
設置学期：	春
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	「新入生ガイダンス」期間中に実施される「クラス分けテスト」の結果より、個々の学生の弱点を調査・分析し、「進度別クラス」を編成する。それぞれのクラスでは、既に高校で学習した内容を用いて「総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習した内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。秋学期のクラスは、この「統一テスト」の結果を元に編成される。
授業方法：	春学期の目標は授業を通じて学生が自分自身の弱点を克服してゆくことなので、授業の役割はその実現のための支援（サポート）となる。学生は、自ら何ができて何ができないのかを判断することが求められるので、ノート作りや復習といった「日常的学習習慣」の確立が不可欠である。辞書の正しい使い方が定着していない学生に向けて、学期の前半でその練習も予定している。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進捗やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅠ」（担当者：粟野 恵子）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅠ
担当者：	粟野 恵子
設置学期：	春
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	「新入生ガイダンス」期間中に実施される「クラス分けテスト」の結果より、個々の学生の弱点を調査・分析し、「進度別クラス」を編成する。それぞれのクラスでは、既に高校で学習した内容を用いて「総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習した内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。秋学期のクラスは、この「統一テスト」の結果を元に編成される。
授業方法：	春学期の目標は授業を通じて学生が自分自身の弱点を克服してゆくことなので、授業の役割はその実現のための支援（サポート）となる。学生は、自ら何ができて何ができないのかを判断することが求められるので、ノート作りや復習といった「日常的学習習慣」の確立が不可欠である。辞書の正しい使い方が定着していない学生に向けて、学期の前半でその練習も予定している。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進捗やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅠ」（担当者：粟野 恵子）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅠ
担当者：	粟野 恵子
設置学期：	春
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	「新入生ガイダンス」期間中に実施される「クラス分けテスト」の結果より、個々の学生の弱点を調査・分析し、「進度別クラス」を編成する。それぞれのクラスでは、既に高校で学習した内容を用いて「総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習した内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。秋学期のクラスは、この「統一テスト」の結果を元に編成される。
授業方法：	春学期の目標は授業を通じて学生が自分自身の弱点を克服してゆくことなので、授業の役割はその実現のための支援（サポート）となる。学生は、自ら何ができて何ができないのかを判断することが求められるので、ノート作りや復習といった「日常的学習習慣」の確立が不可欠である。辞書の正しい使い方が定着していない学生に向けて、学期の前半でその練習も予定している。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進捗やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅠ」（担当者：菅原 大一太）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅠ
担当者：	菅原 大一太
設置学期：	春
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	「新入生ガイダンス」期間中に実施される「クラス分けテスト」の結果より、個々の学生の弱点を調査・分析し、「進度別クラス」を編成する。それぞれのクラスでは、既に高校で学習した内容を用いて「総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習した内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。秋学期のクラスは、この「統一テスト」の結果を元に編成される。
授業方法：	春学期の目標は授業を通じて学生が自分自身の弱点を克服してゆくことなので、授業の役割はその実現のための支援（サポート）となる。学生は、自ら何ができて何ができないかを判断することが求められるので、ノート作りや復習といった「日常的学習習慣」の確立が不可欠である。辞書の正しい使い方が定着していない学生に向けて、学期の前半でその練習も予定している。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進捗やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅠ」（担当者：菅原 大一太）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅠ
担当者：	菅原 大一太
設置学期：	春
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	「新入生ガイダンス」期間中に実施される「クラス分けテスト」の結果より、個々の学生の弱点を調査・分析し、「進度別クラス」を編成する。それぞれのクラスでは、既に高校で学習した内容を用いて「総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習した内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。秋学期のクラスは、この「統一テスト」の結果を元に編成される。
授業方法：	春学期の目標は授業を通じて学生が自分自身の弱点を克服してゆくことなので、授業の役割はその実現のための支援（サポート）となる。学生は、自ら何ができて何ができないかを判断することが求められるので、ノート作りや復習といった「日常的学習習慣」の確立が不可欠である。辞書の正しい使い方が定着していない学生に向けて、学期の前半でその練習も予定している。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進捗やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅠ」（担当者：野口 美咲）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅠ
担当者：	野口 美咲
設置学期：	春
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	「新入生ガイダンス」期間中に実施される「クラス分けテスト」の結果より、個々の学生の弱点を調査・分析し、「進度別クラス」を編成する。それぞれのクラスでは、既に高校で学習した内容を用いて「総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習した内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。秋学期のクラスは、この「統一テスト」の結果を元に編成される。
授業方法：	春学期の目標は授業を通じて学生が自分自身の弱点を克服してゆくことなので、授業の役割はその実現のための支援（サポート）となる。学生は、自ら何ができて何ができないのかを判断することが求められるので、ノート作りや復習といった「日常的学習習慣」の確立が不可欠である。辞書の正しい使い方が定着していない学生に向けて、学期の前半でその練習も予定している。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進捗やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅠ」（担当者：野口 美咲）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅠ
担当者：	野口 美咲
設置学期：	春
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	「新入生ガイダンス」期間中に実施される「クラス分けテスト」の結果より、個々の学生の弱点を調査・分析し、「進度別クラス」を編成する。それぞれのクラスでは、既に高校で学習した内容を用いて「総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習した内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。秋学期のクラスは、この「統一テスト」の結果を元に編成される。
授業方法：	春学期の目標は授業を通じて学生が自分自身の弱点を克服してゆくことなので、授業の役割はその実現のための支援（サポート）となる。学生は、自ら何ができて何ができないのかを判断することが求められるので、ノート作りや復習といった「日常的学習習慣」の確立が不可欠である。辞書の正しい使い方が定着していない学生に向けて、学期の前半でその練習も予定している。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進捗やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅠ」（担当者：杉山 幸子）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅠ
担当者：	杉山 幸子
設置学期：	春
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	「新入生ガイダンス」期間中に実施される「クラス分けテスト」の結果より、個々の学生の弱点を調査・分析し、「進度別クラス」を編成する。それぞれのクラスでは、既に高校で学習した内容を用いて「総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習した内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。秋学期のクラスは、この「統一テスト」の結果を元に編成される。
授業方法：	春学期の目標は授業を通じて学生が自分自身の弱点を克服してゆくことなので、授業の役割はその実現のための支援（サポート）となる。学生は、自ら何ができて何ができないのかを判断することが求められるので、ノート作りや復習といった「日常的学習習慣」の確立が不可欠である。辞書の正しい使い方が定着していない学生に向けて、学期の前半でその練習も予定している。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進捗やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅠ」（担当者：杉山 幸子）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅠ
担当者：	杉山 幸子
設置学期：	春
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	「新入生ガイダンス」期間中に実施される「クラス分けテスト」の結果より、個々の学生の弱点を調査・分析し、「進度別クラス」を編成する。それぞれのクラスでは、既に高校で学習した内容を用いて「総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習した内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。秋学期のクラスは、この「統一テスト」の結果を元に編成される。
授業方法：	春学期の目標は授業を通じて学生が自分自身の弱点を克服してゆくことなので、授業の役割はその実現のための支援（サポート）となる。学生は、自ら何ができて何ができないのかを判断することが求められるので、ノート作りや復習といった「日常的学習習慣」の確立が不可欠である。辞書の正しい使い方が定着していない学生に向けて、学期の前半でその練習も予定している。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進捗やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーション I」（担当者：サイモン クレイ）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーション I
担当者：	サイモン クレイ
設置学期：	春
開講回数：	全39回
週コマ数：	週1コマ
概要：	「新入生ガイダンス」期間中に実施される「クラス分けテスト」の結果より、個々の学生の弱点を調査・分析し、「進度別クラス」を編成する。それぞれのクラスでは、既に高校で学習した内容を用いて「総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習した内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。秋学期のクラスは、この「統一テスト」の結果を元に編成される。
授業方法：	春学期の目標は授業を通じて学生が自分自身の弱点を克服してゆくことなので、授業の役割はその実現のための支援（サポート）となる。学生は、自ら何ができて何ができないのかを判断することが求められるので、ノート作りや復習といった「日常的学習習慣」の確立が不可欠である。辞書の正しい使い方が定着していない学生に向けて、学期の前半でその練習も予定している。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進捗やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅠ」（担当者：サイモン クレイ）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅠ
担当者：	サイモン クレイ
設置学期：	春
開講回数：	全39回
週コマ数：	週1コマ
概要：	「新入生ガイダンス」期間中に実施される「クラス分けテスト」の結果より、個々の学生の弱点を調査・分析し、「進度別クラス」を編成する。それぞれのクラスでは、既に高校で学習した内容を用いて「総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習した内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。秋学期のクラスは、この「統一テスト」の結果を元に編成される。
授業方法：	春学期の目標は授業を通じて学生が自分自身の弱点を克服してゆくことなので、授業の役割はその実現のための支援（サポート）となる。学生は、自ら何ができて何ができないのかを判断することが求められるので、ノート作りや復習といった「日常的学習習慣」の確立が不可欠である。辞書の正しい使い方が定着していない学生に向けて、学期の前半でその練習も予定している。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進捗やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーション I」（担当者：サイモン クレイ）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーション I
担当者：	サイモン クレイ
設置学期：	春
開講回数：	全39回
週コマ数：	週1コマ
概要：	「新入生ガイダンス」期間中に実施される「クラス分けテスト」の結果より、個々の学生の弱点を調査・分析し、「進度別クラス」を編成する。それぞれのクラスでは、既に高校で学習した内容を用いて「総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習した内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。秋学期のクラスは、この「統一テスト」の結果を元に編成される。
授業方法：	春学期の目標は授業を通じて学生が自分自身の弱点を克服してゆくことなので、授業の役割はその実現のための支援（サポート）となる。学生は、自ら何ができて何ができないのかを判断することが求められるので、ノート作りや復習といった「日常的学習習慣」の確立が不可欠である。辞書の正しい使い方が定着していない学生に向けて、学期の前半でその練習も予定している。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進捗やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅠ」（担当者：サイモン クレイ）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅠ
担当者：	サイモン クレイ
設置学期：	春
開講回数：	全39回
週コマ数：	週1コマ
概要：	「新入生ガイダンス」期間中に実施される「クラス分けテスト」の結果より、個々の学生の弱点を調査・分析し、「進度別クラス」を編成する。それぞれのクラスでは、既に高校で学習した内容を用いて「総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習した内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。秋学期のクラスは、この「統一テスト」の結果を元に編成される。
授業方法：	春学期の目標は授業を通じて学生が自分自身の弱点を克服してゆくことなので、授業の役割はその実現のための支援（サポート）となる。学生は、自ら何ができて何ができないのかを判断することが求められるので、ノート作りや復習といった「日常的学習習慣」の確立が不可欠である。辞書の正しい使い方が定着していない学生に向けて、学期の前半でその練習も予定している。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進捗やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅠ」（担当者：ポール エトガ）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅠ
担当者：	ポール エトガ
設置学期：	春
開講回数：	全39回
週コマ数：	週1コマ
概要：	「新入生ガイダンス」期間中に実施される「クラス分けテスト」の結果より、個々の学生の弱点を調査・分析し、「進度別クラス」を編成する。それぞれのクラスでは、既に高校で学習した内容を用いて「総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習した内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。秋学期のクラスは、この「統一テスト」の結果を元に編成される。
授業方法：	春学期の目標は授業を通じて学生が自分自身の弱点を克服してゆくことなので、授業の役割はその実現のための支援（サポート）となる。学生は、自ら何ができて何ができないのかを判断することが求められるので、ノート作りや復習といった「日常的学習習慣」の確立が不可欠である。辞書の正しい使い方が定着していない学生に向けて、学期の前半でその練習も予定している。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進捗やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅠ」（担当者：ポール エトガ）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅠ
担当者：	ポール エトガ
設置学期：	春
開講回数：	全39回
週コマ数：	週1コマ
概要：	「新入生ガイダンス」期間中に実施される「クラス分けテスト」の結果より、個々の学生の弱点を調査・分析し、「進度別クラス」を編成する。それぞれのクラスでは、既に高校で学習した内容を用いて「総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習した内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。秋学期のクラスは、この「統一テスト」の結果を元に編成される。
授業方法：	春学期の目標は授業を通じて学生が自分自身の弱点を克服してゆくことなので、授業の役割はその実現のための支援（サポート）となる。学生は、自ら何ができて何ができないのかを判断することが求められるので、ノート作りや復習といった「日常的学習習慣」の確立が不可欠である。辞書の正しい使い方が定着していない学生に向けて、学期の前半でその練習も予定している。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進捗やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅠ」（担当者：ポール エトガ）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅠ
担当者：	ポール エトガ
設置学期：	春
開講回数：	全39回
週コマ数：	週1コマ
概要：	「新入生ガイダンス」期間中に実施される「クラス分けテスト」の結果より、個々の学生の弱点を調査・分析し、「進度別クラス」を編成する。それぞれのクラスでは、既に高校で学習した内容を用いて「総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習した内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。秋学期のクラスは、この「統一テスト」の結果を元に編成される。
授業方法：	春学期の目標は授業を通じて学生が自分自身の弱点を克服してゆくことなので、授業の役割はその実現のための支援（サポート）となる。学生は、自ら何ができて何ができないのかを判断することが求められるので、ノート作りや復習といった「日常的学習習慣」の確立が不可欠である。辞書の正しい使い方が定着していない学生に向けて、学期の前半でその練習も予定している。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進捗やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅠ」（担当者：ポール エトガ）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅠ
担当者：	ポール エトガ
設置学期：	春
開講回数：	全39回
週コマ数：	週1コマ
概要：	「新入生ガイダンス」期間中に実施される「クラス分けテスト」の結果より、個々の学生の弱点を調査・分析し、「進度別クラス」を編成する。それぞれのクラスでは、既に高校で学習した内容を用いて「総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習した内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。秋学期のクラスは、この「統一テスト」の結果を元に編成される。
授業方法：	春学期の目標は授業を通じて学生が自分自身の弱点を克服してゆくことなので、授業の役割はその実現のための支援（サポート）となる。学生は、自ら何ができて何ができないのかを判断することが求められるので、ノート作りや復習といった「日常的学習習慣」の確立が不可欠である。辞書の正しい使い方が定着していない学生に向けて、学期の前半でその練習も予定している。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進捗やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーション I」（担当者：Chris Mathews）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーション I
担当者：	Chris Mathews
設置学期：	春
開講回数：	全39回
週コマ数：	週1コマ
概要：	「新入生ガイダンス」期間中に実施される「クラス分けテスト」の結果より、個々の学生の弱点を調査・分析し、「進度別クラス」を編成する。それぞれのクラスでは、既に高校で学習した内容を用いて「総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習した内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。秋学期のクラスは、この「統一テスト」の結果を元に編成される。
授業方法：	春学期の目標は授業を通じて学生が自分自身の弱点を克服してゆくことなので、授業の役割はその実現のための支援（サポート）となる。学生は、自ら何ができて何ができないのかを判断することが求められるので、ノート作りや復習といった「日常的学習習慣」の確立が不可欠である。辞書の正しい使い方が定着していない学生に向けて、学期の前半でその練習も予定している。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進捗やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーション I」（担当者：Chris Mathews）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーション I
担当者：	Chris Mathews
設置学期：	春
開講回数：	全39回
週コマ数：	週1コマ
概要：	「新入生ガイダンス」期間中に実施される「クラス分けテスト」の結果より、個々の学生の弱点を調査・分析し、「進度別クラス」を編成する。それぞれのクラスでは、既に高校で学習した内容を用いて「総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習した内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。秋学期のクラスは、この「統一テスト」の結果を元に編成される。
授業方法：	春学期の目標は授業を通じて学生が自分自身の弱点を克服してゆくことなので、授業の役割はその実現のための支援（サポート）となる。学生は、自ら何ができて何ができないのかを判断することが求められるので、ノート作りや復習といった「日常的学習習慣」の確立が不可欠である。辞書の正しい使い方が定着していない学生に向けて、学期の前半でその練習も予定している。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進捗やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーション I」（担当者：Chris Mathews）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーション I
担当者：	Chris Mathews
設置学期：	春
開講回数：	全39回
週コマ数：	週1コマ
概要：	「新入生ガイダンス」期間中に実施される「クラス分けテスト」の結果より、個々の学生の弱点を調査・分析し、「進度別クラス」を編成する。それぞれのクラスでは、既に高校で学習した内容を用いて「総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習した内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。秋学期のクラスは、この「統一テスト」の結果を元に編成される。
授業方法：	春学期の目標は授業を通じて学生が自分自身の弱点を克服してゆくことなので、授業の役割はその実現のための支援（サポート）となる。学生は、自ら何ができて何ができないのかを判断することが求められるので、ノート作りや復習といった「日常的学習習慣」の確立が不可欠である。辞書の正しい使い方が定着していない学生に向けて、学期の前半でその練習も予定している。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進捗やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーション I」（担当者：Chris Mathews）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーション I
担当者：	Chris Mathews
設置学期：	春
開講回数：	全39回
週コマ数：	週1コマ
概要：	「新入生ガイダンス」期間中に実施される「クラス分けテスト」の結果より、個々の学生の弱点を調査・分析し、「進度別クラス」を編成する。それぞれのクラスでは、既に高校で学習した内容を用いて「総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習した内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。秋学期のクラスは、この「統一テスト」の結果を元に編成される。
授業方法：	春学期の目標は授業を通じて学生が自分自身の弱点を克服してゆくことなので、授業の役割はその実現のための支援（サポート）となる。学生は、自ら何ができて何ができないのかを判断することが求められるので、ノート作りや復習といった「日常的学習習慣」の確立が不可欠である。辞書の正しい使い方が定着していない学生に向けて、学期の前半でその練習も予定している。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進捗やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅠ」（担当者：J. Scott Mclean）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅠ
担当者：	J. Scott Mclean
設置学期：	春
開講回数：	全39回
週コマ数：	週1コマ
概要：	「新入生ガイダンス」期間中に実施される「クラス分けテスト」の結果より、個々の学生の弱点を調査・分析し、「進度別クラス」を編成する。それぞれのクラスでは、既に高校で学習した内容を用いて「総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習した内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。秋学期のクラスは、この「統一テスト」の結果を元に編成される。
授業方法：	春学期の目標は授業を通じて学生が自分自身の弱点を克服してゆくことなので、授業の役割はその実現のための支援（サポート）となる。学生は、自ら何ができて何ができないのかを判断することが求められるので、ノート作りや復習といった「日常的学習習慣」の確立が不可欠である。辞書の正しい使い方が定着していない学生に向けて、学期の前半でその練習も予定している。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進捗やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅠ」（担当者：J. Scott Mclean）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅠ
担当者：	J. Scott Mclean
設置学期：	春
開講回数：	全39回
週コマ数：	週1コマ
概要：	「新入生ガイダンス」期間中に実施される「クラス分けテスト」の結果より、個々の学生の弱点を調査・分析し、「進度別クラス」を編成する。それぞれのクラスでは、既に高校で学習した内容を用いて「総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習した内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。秋学期のクラスは、この「統一テスト」の結果を元に編成される。
授業方法：	春学期の目標は授業を通じて学生が自分自身の弱点を克服してゆくことなので、授業の役割はその実現のための支援（サポート）となる。学生は、自ら何ができて何ができないのかを判断することが求められるので、ノート作りや復習といった「日常的学習習慣」の確立が不可欠である。辞書の正しい使い方が定着していない学生に向けて、学期の前半でその練習も予定している。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進捗やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅠ」（担当者：J. Scott Mclean）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅠ
担当者：	J. Scott Mclean
設置学期：	春
開講回数：	全39回
週コマ数：	週1コマ
概要：	「新入生ガイダンス」期間中に実施される「クラス分けテスト」の結果より、個々の学生の弱点を調査・分析し、「進度別クラス」を編成する。それぞれのクラスでは、既に高校で学習した内容を用いて「総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習した内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。秋学期のクラスは、この「統一テスト」の結果を元に編成される。
授業方法：	春学期の目標は授業を通じて学生が自分自身の弱点を克服してゆくことなので、授業の役割はその実現のための支援（サポート）となる。学生は、自ら何ができて何ができないのかを判断することが求められるので、ノート作りや復習といった「日常的学習習慣」の確立が不可欠である。辞書の正しい使い方が定着していない学生に向けて、学期の前半でその練習も予定している。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進捗やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅠ」（担当者：J. Scott Mclean）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅠ
担当者：	J. Scott Mclean
設置学期：	春
開講回数：	全39回
週コマ数：	週1コマ
概要：	「新入生ガイダンス」期間中に実施される「クラス分けテスト」の結果より、個々の学生の弱点を調査・分析し、「進度別クラス」を編成する。それぞれのクラスでは、既に高校で学習した内容を用いて「総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習した内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。秋学期のクラスは、この「統一テスト」の結果を元に編成される。
授業方法：	春学期の目標は授業を通じて学生が自分自身の弱点を克服してゆくことなので、授業の役割はその実現のための支援（サポート）となる。学生は、自ら何ができて何ができないのかを判断することが求められるので、ノート作りや復習といった「日常的学習習慣」の確立が不可欠である。辞書の正しい使い方が定着していない学生に向けて、学期の前半でその練習も予定している。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進捗やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーション I（再履修）」（担当者：野口 美咲）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーション I（再履修）
担当者：	野口 美咲
設置学期：	春
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	コミュニケーションに必要なとなる、基礎的な文法を、授業とe-learningによって幅広くまとめ、より確実なものとすることを目標とします。また、日常生活によく使われるような単語力を身につけていくことも目指しています。さらに、学習した単語や文法の知識を活かして、文章読解にも取り組みます。
授業方法：	当科目は、授業とe-learning学習の両方によって進行していきます。授業中には小テストを実施し、理解度の確認をはかってゆきます。その際、欠席して、小テストを受験しないと平常点も加算されませんので、注意してください。また、授業で扱った内容の反復練習が特に重要になりますので、予習よりも、各自で復習やe-learningをしっかりと行うことが要求されます。
履修の留意点：	本科目は再履修科目です。必修科目でもあるので、確実に履修しておきませんと、上級学年になって時間割の作成に支障をきたす恐れがあります。今回の履修で必ず単位を取得するようにして下さい。また、本科目は通常、授業が週3コマ開催されています。通常履修時には日本人教員の授業が週2コマ、ネイティブの授業が週1コマ分ありましたが、再履修の授業に関してはネイティブの授業を、「英検e-CAT」というe-learning教材の利用に振り替えます。したがってネイティブの授業に相当する1コマ分の授業自体は、実際には行われませんが、通常授業以外の時間にe-learningに取り組んでもらうこととなりますので、そのための学習時間を各自確保しておいて下さい。また、この「英検e-CAT」の利用には¥3,150の費用がかかります。事務室前の発券機を利用して入金された「領収書」と、それを添付した書類の提出がないと、ログインするためのシリアル番号が配布されませんので注意して下さい。いつまでに、どのくらいe-learningを利用するのか、というようなくわしい利用法に関しては、授業の第一回目ご連絡します。
目標と評価：	この科目の目標は、これから先に出会うであろう、さまざまな英語にも対応できるような、「応用のきく基礎」をしっかりと身につけることにあります。学期末には試験を実施します。その結果と出席点、小テストなどを含む平常点を総合して、最終評価を算出します。
教科書：	English Quest Intro 小野 博 監修／酒井志延・清田洋一・大崎さつき・田辺 章・箕輪美里・Michael Farquhar 桐原書店 2005年11月
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーション I（再履修）」（担当者：野口 美咲）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーション I（再履修）
担当者：	野口 美咲
設置学期：	秋
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	コミュニケーションに必要なとなる、基礎的な文法を、授業とe-learningによって幅広くまとめ、より確実なものとすることを目標とします。また、日常生活によく使われるような単語力を身につけていくことも目指しています。さらに、学習した単語や文法の知識を活かして、文章読解にも取り組みます。
授業方法：	当科目は、授業とe-learning学習の両方によって進行していきます。授業中には小テストを実施し、理解度の確認をはかってゆきます。その際、欠席して、小テストを受験しないと平常点も加算されませんので、注意してください。また、授業で扱った内容の反復練習が特に重要になりますので、予習よりも、各自で復習やe-learningをしっかりと行うことが要求されます。
履修の留意点：	本科目は再履修科目です。必修科目でもあるので、確実に履修しておきませんと、上級学年になって時間割の作成に支障をきたす恐れがあります。今回の履修で必ず単位を取得するようにして下さい。また、本科目は通常、授業が週3コマ開催されています。通常履修時には日本人教員の授業が週2コマ、ネイティブの授業が週1コマ分ありましたが、再履修の授業に関してはネイティブの授業を、「英検e-CAT」というe-learning教材の利用に振り替えます。したがってネイティブの授業に相当する1コマ分の授業自体は、実際には行われませんが、通常授業以外の時間にe-learningに取り組んでもらうこととなりますので、そのための学習時間を各自確保しておいて下さい。また、この「英検e-CAT」の利用には¥3,150の費用がかかります。事務室前の発券機を利用して入金された「領収書」と、それを添付した書類の提出がないと、ログインするためのシリアル番号が配布されませんので注意して下さい。いつまでに、どのくらいe-learningを利用するのか、というようなくわしい利用法に関しては、授業の第一回目ご連絡します。
目標と評価：	この科目の目標は、これから先に出会うであろう、さまざまな英語にも対応できるような、「応用のきく基礎」をしっかりと身につけることにあります。学期末には試験を実施します。その結果と出席点、小テストなどを含む平常点を総合して、最終評価を算出します。
教科書：	English Quest Intro 小野 博 監修／酒井志延・清田洋一・大崎さつき・田辺 章・箕輪美里・Michael Farquhar 桐原書店 2005年11月
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ（再履修）」（担当：菅原 大一太）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ（再履修）
担当者：	菅原 大一太
設置学期：	春
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	<p>本科目は、受講生のみなさんがこれまで培ってきた英語の知識をしっかりと自分のものとして吸収し、またそれを確実なものとするを主眼に置きます。「書く・話す・読む・聞く」という要素は言語を運用する上での基本的な技能ですが、それらを全般的に英語で実践できるように取り組んでいきます。とりわけ、English CommunicationⅡは“Ⅰ”からステップアップした科目ですので、上記4技能に関する基本技能の習熟という方針は変わりませんが、そこで実践される内容に関してはステップアップしていきます。語彙や文法の知識を確認しつつ、その総量を広げることが求められます。そして、簡単な文章の作成や口頭でのやりとり等を通じて、総合的に英語を使いこなす力を高めていきます。</p>
授業方法：	<p>語法上の約束事やボキャブラリーの確認と習得、そして文法項目の理解と見直しなどを、さまざまな形で行っていきます。教科書をベースとしつつも、各種資料を使ったり、DVDといった視聴覚教材なども用いて英語の運用能力を身につけていきます。</p> <p>また、今回のEnglish CommunicationⅡでは、学んだことを実際的に身につけるため、簡単な文章の作成や口頭でのやりとり等に多く時間を割く予定です。実地で英語を使う場面では、頭で理解していたものを「声」なり「ペン」なりで表に出すことが必要となりますし、そうする時の環境では辞書が手元になかったり、さらに時間の制約もあつたりします。ですから、例え簡単な表現であっても、実際に自分で実践してみると、以外にスペリングを誤ったり、発音や文法を間違えたりすることもあるかもしれません。この授業では、そのような作業をした時のケアレス・ミスの有無を平常授業の対象としていきます。実際に自分で英語を使うような時のための実地訓練だと考えてもらえればと思います。授業内の作業に加えて、内容確認の小テストや、後日提出してもらった宿題も随時出していきます。</p>
履修の留意点：	<p>本科目は再履修科目です。必修科目でもあるので、確実に履修しておきませんと、上級学年になって時間割の作成に支障をきたす恐れがあります。今回の履修で必ず単位を取得するようにして下さい。</p> <p>予習・復習時には、各回扱うテーマに関して、どの部分がよく理解できているのか、何がわからないままなのかを、各々探し出して下さい。そして授業を通じて、自分の弱点を克服し、得意な部分を伸ばすよう努めてもらいたいと思います。また、各回になされる作業によっては辞書がないと難しい場合があります。うる覚えの単語を確認するためにも手元にあつた方が都合がいいので、辞書は毎回もってくるようにして下さい。</p> <p>また、本科目は通常、授業が週3コマ開催されています。通常履修時には日本人教員の授業が週2コマ、ネイティブの授業が週1コマ分ありましたが、再履修の授業に関してはネイティブの授業を、「英検e-CAT」というe-learning教材の利用に振り替えます。したがってネイティブの授業に相当する1コマ分の授業自体は、実際には行われませんが、通常授業以外の時間にe-learningに取り組んでもらうこととなりますので、そのための学習時間を各自確保しておいて下さい。また、この「英検e-CAT」の利用には¥3,150の費用がかかります。事務室前の発券機を利用して入金された「領収書」と、それを添付した書類の提出がないと、ログインするためのシリアル番号が配布されませんので注意して下さい。</p>
目標と評価：	<p>授業で扱った内容をきちんと吸収し、英語を運用するための力を向上させていくのが目標です。試験の結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。なお、提出物や小テストの受験の有無、授業内での作業や取り組み具合も平常授業点に加味しますので注意して下さい。また、欠席が多いと平常授業点を失うことにもなってしまいますので、なるべく休まず出席するようにして下さい。</p>
教科書：	English Quest: Mastering the Essentials of English 小野博 監修、清田洋一・酒井志延他著 桐原書店 2006年
参考書：	未定

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当者：高野 秀之）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	高野 秀之
設置学期：	秋
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	春学期の「統一テスト」で個々の学生の学習履歴を調査・分析し、進度別クラスを編成する。それぞれのクラスでは、「社会が求める総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。
授業方法：	秋学期は、授業を通じて「社会が求める総合的な英語力」というものを個々の学生が理解し、その能力を身につける上で必要となる手段（方法）を発見するまでを支援する予定。学生は、「自分の英語力」と「社会が求める総合的な英語力」との差を認識し、それらを近づけるための努力が求められる。クラスによっては、より多くの問題集や、各種「検定試験」への挑戦も必要となるので、「日常的な学習習慣」は春学期同様、不可欠である。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される授業情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進捗やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目の授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当者：高野 秀之）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	高野 秀之
設置学期：	秋
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	春学期の「統一テスト」で個々の学生の学習履歴を調査・分析し、進度別クラスを編成する。それぞれのクラスでは、「社会が求める総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。
授業方法：	秋学期は、授業を通じて「社会が求める総合的な英語力」というものを個々の学生が理解し、その能力を身につける上で必要となる手段（方法）を発見するまでを支援する予定。学生は、「自分の英語力」と「社会が求める総合的な英語力」との差を認識し、それらを近づけるための努力が求められる。クラスによっては、より多くの問題集や、各種「検定試験」への挑戦も必要となるので、「日常的な学習習慣」は春学期同様、不可欠である。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される授業情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進捗やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目の授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当者：粟野 恵子）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	粟野 恵子
設置学期：	秋
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	春学期の「統一テスト」で個々の学生の学習履歴を調査・分析し、進度別クラスを編成する。それぞれのクラスでは、「社会が求める総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。
授業方法：	秋学期は、授業を通じて「社会が求める総合的な英語力」というものを個々の学生が理解し、その能力を身につける上で必要となる手段（方法）を発見するまでを支援する予定。学生は、「自分の英語力」と「社会が求める総合的な英語力」との差を認識し、それらを近づけるための努力が求められる。クラスによっては、より多くの問題集や、各種「検定試験」への挑戦も必要となるので、「日常的な学習習慣」は春学期同様、不可欠である。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される授業情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進度やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目の授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当者：粟野 恵子）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	粟野 恵子
設置学期：	秋
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	春学期の「統一テスト」で個々の学生の学習履歴を調査・分析し、進度別クラスを編成する。それぞれのクラスでは、「社会が求める総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。
授業方法：	秋学期は、授業を通じて「社会が求める総合的な英語力」というものを個々の学生が理解し、その能力を身につける上で必要となる手段（方法）を発見するまでを支援する予定。学生は、「自分の英語力」と「社会が求める総合的な英語力」との差を認識し、それらを近づけるための努力が求められる。クラスによっては、より多くの問題集や、各種「検定試験」への挑戦も必要となるので、「日常的な学習習慣」は春学期同様、不可欠である。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される授業情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進度やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目の授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当者：菅原 大一太）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	菅原 大一太
設置学期：	秋
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	春学期の「統一テスト」で個々の学生の学習履歴を調査・分析し、進度別クラスを編成する。それぞれのクラスでは、「社会が求める総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。
授業方法：	秋学期は、授業を通じて「社会が求める総合的な英語力」というものを個々の学生が理解し、その能力を身につける上で必要となる手段（方法）を発見するまでを支援する予定。学生は、「自分の英語力」と「社会が求める総合的な英語力」との差を認識し、それらを近づけるための努力が求められる。クラスによっては、より多くの問題集や、各種「検定試験」への挑戦も必要となるので、「日常的な学習習慣」は春学期同様、不可欠である。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される授業情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進度やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目の授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当者：菅原 大一太）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	菅原 大一太
設置学期：	秋
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	春学期の「統一テスト」で個々の学生の学習履歴を調査・分析し、進度別クラスを編成する。それぞれのクラスでは、「社会が求める総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。
授業方法：	秋学期は、授業を通じて「社会が求める総合的な英語力」というものを個々の学生が理解し、その能力を身につける上で必要となる手段（方法）を発見するまでを支援する予定。学生は、「自分の英語力」と「社会が求める総合的な英語力」との差を認識し、それらを近づけるための努力が求められる。クラスによっては、より多くの問題集や、各種「検定試験」への挑戦も必要となるので、「日常的な学習習慣」は春学期同様、不可欠である。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される授業情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進度やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目の授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当者：野口 美咲）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	野口 美咲
設置学期：	秋
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	春学期の「統一テスト」で個々の学生の学習履歴を調査・分析し、進度別クラスを編成する。それぞれのクラスでは、「社会が求める総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。
授業方法：	秋学期は、授業を通じて「社会が求める総合的な英語力」というものを個々の学生が理解し、その能力を身につける上で必要となる手段（方法）を発見するまでを支援する予定。学生は、「自分の英語力」と「社会が求める総合的な英語力」との差を認識し、それらを近づけるための努力が求められる。クラスによっては、より多くの問題集や、各種「検定試験」への挑戦も必要となるので、「日常的な学習習慣」は春学期同様、不可欠である。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される授業情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進捗やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目の授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当者：野口 美咲）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	野口 美咲
設置学期：	秋
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	春学期の「統一テスト」で個々の学生の学習履歴を調査・分析し、進度別クラスを編成する。それぞれのクラスでは、「社会が求める総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。
授業方法：	秋学期は、授業を通じて「社会が求める総合的な英語力」というものを個々の学生が理解し、その能力を身につける上で必要となる手段（方法）を発見するまでを支援する予定。学生は、「自分の英語力」と「社会が求める総合的な英語力」との差を認識し、それらを近づけるための努力が求められる。クラスによっては、より多くの問題集や、各種「検定試験」への挑戦も必要となるので、「日常的な学習習慣」は春学期同様、不可欠である。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される授業情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進度やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目の授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当者：杉山 幸子）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	杉山 幸子
設置学期：	秋
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	春学期の「統一テスト」で個々の学生の学習履歴を調査・分析し、進度別クラスを編成する。それぞれのクラスでは、「社会が求める総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。
授業方法：	秋学期は、授業を通じて「社会が求める総合的な英語力」というものを個々の学生が理解し、その能力を身につける上で必要となる手段（方法）を発見するまでを支援する予定。学生は、「自分の英語力」と「社会が求める総合的な英語力」との差を認識し、それらを近づけるための努力が求められる。クラスによっては、より多くの問題集や、各種「検定試験」への挑戦も必要となるので、「日常的な学習習慣」は春学期同様、不可欠である。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される授業情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進度やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目の授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当者：杉山 幸子）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	杉山 幸子
設置学期：	秋
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	春学期の「統一テスト」で個々の学生の学習履歴を調査・分析し、進度別クラスを編成する。それぞれのクラスでは、「社会が求める総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。
授業方法：	秋学期は、授業を通じて「社会が求める総合的な英語力」というものを個々の学生が理解し、その能力を身につける上で必要となる手段（方法）を発見するまでを支援する予定。学生は、「自分の英語力」と「社会が求める総合的な英語力」との差を認識し、それらを近づけるための努力が求められる。クラスによっては、より多くの問題集や、各種「検定試験」への挑戦も必要となるので、「日常的な学習習慣」は春学期同様、不可欠である。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される授業情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進度やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目の授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当：サイモン クレイ）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	サイモン クレイ
設置学期：	秋
開講回数：	全39回
週コマ数：	週1コマ
概要：	春学期の「統一テスト」で個々の学生の学習履歴を調査・分析し、進度別クラスを編成する。それぞれのクラスでは、「社会が求める総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。
授業方法：	秋学期は、授業を通じて「社会が求める総合的な英語力」というものを個々の学生が理解し、その能力を身につける上で必要となる手段（方法）を発見するまでを支援する予定。学生は、「自分の英語力」と「社会が求める総合的な英語力」との差を認識し、それらを近づけるための努力が求められる。クラスによっては、より多くの問題集や、各種「検定試験」への挑戦も必要となるので、「日常的な学習習慣」は春学期同様、不可欠である。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される授業情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進度やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目の授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当：サイモン クレイ）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	サイモン クレイ
設置学期：	秋
開講回数：	全39回
週コマ数：	週1コマ
概要：	春学期の「統一テスト」で個々の学生の学習履歴を調査・分析し、進度別クラスを編成する。それぞれのクラスでは、「社会が求める総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。
授業方法：	秋学期は、授業を通じて「社会が求める総合的な英語力」というものを個々の学生が理解し、その能力を身につける上で必要となる手段（方法）を発見するまでを支援する予定。学生は、「自分の英語力」と「社会が求める総合的な英語力」との差を認識し、それらを近づけるための努力が求められる。クラスによっては、より多くの問題集や、各種「検定試験」への挑戦も必要となるので、「日常的な学習習慣」は春学期同様、不可欠である。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される授業情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進度やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目の授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当：サイモン クレイ）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	サイモン クレイ
設置学期：	秋
開講回数：	全39回
週コマ数：	週1コマ
概要：	春学期の「統一テスト」で個々の学生の学習履歴を調査・分析し、進度別クラスを編成する。それぞれのクラスでは、「社会が求める総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。
授業方法：	秋学期は、授業を通じて「社会が求める総合的な英語力」というものを個々の学生が理解し、その能力を身につける上で必要となる手段（方法）を発見するまでを支援する予定。学生は、「自分の英語力」と「社会が求める総合的な英語力」との差を認識し、それらを近づけるための努力が求められる。クラスによっては、より多くの問題集や、各種「検定試験」への挑戦も必要となるので、「日常的な学習習慣」は春学期同様、不可欠である。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される授業情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進度やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目の授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当：サイモン クレイ）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	サイモン クレイ
設置学期：	秋
開講回数：	全39回
週コマ数：	週1コマ
概要：	春学期の「統一テスト」で個々の学生の学習履歴を調査・分析し、進度別クラスを編成する。それぞれのクラスでは、「社会が求める総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。
授業方法：	秋学期は、授業を通じて「社会が求める総合的な英語力」というものを個々の学生が理解し、その能力を身につける上で必要となる手段（方法）を発見するまでを支援する予定。学生は、「自分の英語力」と「社会が求める総合的な英語力」との差を認識し、それらを近づけるための努力が求められる。クラスによっては、より多くの問題集や、各種「検定試験」への挑戦も必要となるので、「日常的な学習習慣」は春学期同様、不可欠である。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される授業情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進度やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目の授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当者：ポール エトガ）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	ポール エトガ
設置学期：	秋
開講回数：	全39回
週コマ数：	週1コマ
概要：	春学期の「統一テスト」で個々の学生の学習履歴を調査・分析し、進度別クラスを編成する。それぞれのクラスでは、「社会が求める総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。
授業方法：	秋学期は、授業を通じて「社会が求める総合的な英語力」というものを個々の学生が理解し、その能力を身につける上で必要となる手段（方法）を発見するまでを支援する予定。学生は、「自分の英語力」と「社会が求める総合的な英語力」との差を認識し、それらを近づけるための努力が求められる。クラスによっては、より多くの問題集や、各種「検定試験」への挑戦も必要となるので、「日常的な学習習慣」は春学期同様、不可欠である。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される授業情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進度やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目の授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当者：ポール エトガ）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	ポール エトガ
設置学期：	秋
開講回数：	全39回
週コマ数：	週1コマ
概要：	春学期の「統一テスト」で個々の学生の学習履歴を調査・分析し、進度別クラスを編成する。それぞれのクラスでは、「社会が求める総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。
授業方法：	秋学期は、授業を通じて「社会が求める総合的な英語力」というものを個々の学生が理解し、その能力を身につける上で必要となる手段（方法）を発見するまでを支援する予定。学生は、「自分の英語力」と「社会が求める総合的な英語力」との差を認識し、それらを近づけるための努力が求められる。クラスによっては、より多くの問題集や、各種「検定試験」への挑戦も必要となるので、「日常的な学習習慣」は春学期同様、不可欠である。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される授業情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進度やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目の授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当者：ポール エトガ）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	ポール エトガ
設置学期：	秋
開講回数：	全39回
週コマ数：	週1コマ
概要：	春学期の「統一テスト」で個々の学生の学習履歴を調査・分析し、進度別クラスを編成する。それぞれのクラスでは、「社会が求める総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。
授業方法：	秋学期は、授業を通じて「社会が求める総合的な英語力」というものを個々の学生が理解し、その能力を身につける上で必要となる手段（方法）を発見するまでを支援する予定。学生は、「自分の英語力」と「社会が求める総合的な英語力」との差を認識し、それらを近づけるための努力が求められる。クラスによっては、より多くの問題集や、各種「検定試験」への挑戦も必要となるので、「日常的な学習習慣」は春学期同様、不可欠である。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される授業情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進度やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目の授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当者：ポール エトガ）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	ポール エトガ
設置学期：	秋
開講回数：	全39回
週コマ数：	週1コマ
概要：	春学期の「統一テスト」で個々の学生の学習履歴を調査・分析し、進度別クラスを編成する。それぞれのクラスでは、「社会が求める総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。
授業方法：	秋学期は、授業を通じて「社会が求める総合的な英語力」というものを個々の学生が理解し、その能力を身につける上で必要となる手段（方法）を発見するまでを支援する予定。学生は、「自分の英語力」と「社会が求める総合的な英語力」との差を認識し、それらを近づけるための努力が求められる。クラスによっては、より多くの問題集や、各種「検定試験」への挑戦も必要となるので、「日常的な学習習慣」は春学期同様、不可欠である。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される授業情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進度やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目の授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当者：Chris Mathews）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	Chris Mathews
設置学期：	秋
開講回数：	全39回
週コマ数：	週1コマ
概要：	春学期の「統一テスト」で個々の学生の学習履歴を調査・分析し、進度別クラスを編成する。それぞれのクラスでは、「社会が求める総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。
授業方法：	秋学期は、授業を通じて「社会が求める総合的な英語力」というものを個々の学生が理解し、その能力を身につける上で必要となる手段（方法）を発見するまでを支援する予定。学生は、「自分の英語力」と「社会が求める総合的な英語力」との差を認識し、それらを近づけるための努力が求められる。クラスによっては、より多くの問題集や、各種「検定試験」への挑戦も必要となるので、「日常的な学習習慣」は春学期同様、不可欠である。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される授業情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進度やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目の授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当者：Chris Mathews）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	Chris Mathews
設置学期：	秋
開講回数：	全39回
週コマ数：	週1コマ
概要：	春学期の「統一テスト」で個々の学生の学習履歴を調査・分析し、進度別クラスを編成する。それぞれのクラスでは、「社会が求める総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。
授業方法：	秋学期は、授業を通じて「社会が求める総合的な英語力」というものを個々の学生が理解し、その能力を身につける上で必要となる手段（方法）を発見するまでを支援する予定。学生は、「自分の英語力」と「社会が求める総合的な英語力」との差を認識し、それらを近づけるための努力が求められる。クラスによっては、より多くの問題集や、各種「検定試験」への挑戦も必要となるので、「日常的な学習習慣」は春学期同様、不可欠である。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される授業情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進度やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目の授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当者：Chris Mathews）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	Chris Mathews
設置学期：	秋
開講回数：	全39回
週コマ数：	週1コマ
概要：	春学期の「統一テスト」で個々の学生の学習履歴を調査・分析し、進度別クラスを編成する。それぞれのクラスでは、「社会が求める総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。
授業方法：	秋学期は、授業を通じて「社会が求める総合的な英語力」というものを個々の学生が理解し、その能力を身につける上で必要となる手段（方法）を発見するまでを支援する予定。学生は、「自分の英語力」と「社会が求める総合的な英語力」との差を認識し、それらを近づけるための努力が求められる。クラスによっては、より多くの問題集や、各種「検定試験」への挑戦も必要となるので、「日常的な学習習慣」は春学期同様、不可欠である。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される授業情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進度やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目の授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当者：Chris Mathews）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	Chris Mathews
設置学期：	秋
開講回数：	全39回
週コマ数：	週1コマ
概要：	春学期の「統一テスト」で個々の学生の学習履歴を調査・分析し、進度別クラスを編成する。それぞれのクラスでは、「社会が求める総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。
授業方法：	秋学期は、授業を通じて「社会が求める総合的な英語力」というものを個々の学生が理解し、その能力を身につける上で必要となる手段（方法）を発見するまでを支援する予定。学生は、「自分の英語力」と「社会が求める総合的な英語力」との差を認識し、それらを近づけるための努力が求められる。クラスによっては、より多くの問題集や、各種「検定試験」への挑戦も必要となるので、「日常的な学習習慣」は春学期同様、不可欠である。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される授業情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進度やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目の授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当者：J. Scott Mclean）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	J. Scott Mclean
設置学期：	秋
開講回数：	全39回
週コマ数：	週1コマ
概要：	春学期の「統一テスト」で個々の学生の学習履歴を調査・分析し、進度別クラスを編成する。それぞれのクラスでは、「社会が求める総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。
授業方法：	秋学期は、授業を通じて「社会が求める総合的な英語力」というものを個々の学生が理解し、その能力を身につける上で必要となる手段（方法）を発見するまでを支援する予定。学生は、「自分の英語力」と「社会が求める総合的な英語力」との差を認識し、それらを近づけるための努力が求められる。クラスによっては、より多くの問題集や、各種「検定試験」への挑戦も必要となるので、「日常的な学習習慣」は春学期同様、不可欠である。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される授業情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進捗やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目の授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当者：J. Scott Mclean）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	J. Scott Mclean
設置学期：	秋
開講回数：	全39回
週コマ数：	週1コマ
概要：	春学期の「統一テスト」で個々の学生の学習履歴を調査・分析し、進度別クラスを編成する。それぞれのクラスでは、「社会が求める総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。
授業方法：	秋学期は、授業を通じて「社会が求める総合的な英語力」というものを個々の学生が理解し、その能力を身につける上で必要となる手段（方法）を発見するまでを支援する予定。学生は、「自分の英語力」と「社会が求める総合的な英語力」との差を認識し、それらを近づけるための努力が求められる。クラスによっては、より多くの問題集や、各種「検定試験」への挑戦も必要となるので、「日常的な学習習慣」は春学期同様、不可欠である。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される授業情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進度やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目の授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当者：J. Scott Mclean）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	J. Scott Mclean
設置学期：	秋
開講回数：	全39回
週コマ数：	週1コマ
概要：	春学期の「統一テスト」で個々の学生の学習履歴を調査・分析し、進度別クラスを編成する。それぞれのクラスでは、「社会が求める総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。
授業方法：	秋学期は、授業を通じて「社会が求める総合的な英語力」というものを個々の学生が理解し、その能力を身につける上で必要となる手段（方法）を発見するまでを支援する予定。学生は、「自分の英語力」と「社会が求める総合的な英語力」との差を認識し、それらを近づけるための努力が求められる。クラスによっては、より多くの問題集や、各種「検定試験」への挑戦も必要となるので、「日常的な学習習慣」は春学期同様、不可欠である。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される授業情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進度やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目の授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当者：J. Scott Mclean）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	J. Scott Mclean
設置学期：	秋
開講回数：	全39回
週コマ数：	週1コマ
概要：	春学期の「統一テスト」で個々の学生の学習履歴を調査・分析し、進度別クラスを編成する。それぞれのクラスでは、「社会が求める総合的な英語力」の定着度が測定されることになる。毎回の授業では、学習内容がさまざまな形で確認され、学期末に予定されている「統一テスト」とともに評価される。
授業方法：	秋学期は、授業を通じて「社会が求める総合的な英語力」というものを個々の学生が理解し、その能力を身につける上で必要となる手段（方法）を発見するまでを支援する予定。学生は、「自分の英語力」と「社会が求める総合的な英語力」との差を認識し、それらを近づけるための努力が求められる。クラスによっては、より多くの問題集や、各種「検定試験」への挑戦も必要となるので、「日常的な学習習慣」は春学期同様、不可欠である。毎回の授業内容は「学生ナビゲーションページ」を通じて配信される授業情報をもとに構成されるので、更新（予定）日には必ず確認することが必要となる。
履修の留意点：	この科目は、日本人講師の授業（90分週2回）と、外国人講師の授業（40分週2回）とで構成されている。学期の初めに発表されるクラスと教室を必ず確認し、場所を間違えないように注意すること。週に4時間分を占有する科目の単位が取得できないと、2年生の時間割作成に支障をきたす恐れがあるので、十分に注意しなければならない。学期の途中であっても、授業の進捗やその難易度について問題があると感じた場合には、必ず授業担当者やアドバイザーに相談すること。
目標と評価：	第1回目の授業で配布される「チェックリスト」を用いて、個々の学生が自分の学習履歴を確認してゆくことが求められる。毎回の授業では、その授業の前後で学ぶ（復習する）内容が確認され、それが「裁量点（全体の約20%）」として評価される。加えて、学期末の「統一テスト」の結果が評価の対象となる。授業への出席は「出席点（全体の30%）」として評価の対象となるので、欠席の回数が多い学生の評価は下がるので、注意すること。また、「統一テスト」の未受験者には評価点が見つからないことも忘れてはならない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ（再履修）」（担当：菅原 大一太）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ（再履修）
担当者：	菅原 大一太
設置学期：	秋
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	<p>本科目は、受講生のみなさんがこれまで培ってきた英語の知識をしっかりと自分のものとして吸収し、またそれを確実なものとするを主眼に置きます。「書く・話す・読む・聞く」という要素は言語を運用する上での基本的な技能ですが、それらを全般的に英語で実践できるように取り組んでいきます。とりわけ、English CommunicationⅡは“Ⅰ”からステップアップした科目ですので、上記4技能に関する基本技能の習熟という方針は変わりませんが、そこで実践される内容に関してはステップアップしていきます。語彙や文法の知識を確認しつつ、その総量を広げることが求められます。そして、簡単な文章の作成や口頭でのやりとり等を通じて、総合的に英語を使いこなす力を高めていきます。</p>
授業方法：	<p>語法上の約束事やボキャブラリーの確認と習得、そして文法項目の理解と見直しなどを、さまざまな形で行っていきます。教科書をベースとしつつも、各種資料を使ったり、DVDといった視聴覚教材なども用いて英語の運用能力を身につけていきます。</p> <p>また、今回のEnglish CommunicationⅡでは、学んだことを実際的に身につけるため、簡単な文章の作成や口頭でのやりとり等に多く時間を割く予定です。実地で英語を使う場面では、頭で理解していたものを「声」なり「ペン」なりで表に出すことが必要となりますし、そうする時の環境では辞書が手元になかったり、さらに時間の制約もあつたりします。ですから、例え簡単な表現であっても、実際に自分で実践してみると、以外にスペリングを誤ったり、発音や文法を間違えたりすることもあるかもしれません。この授業では、そのような作業をした時のケアレス・ミスの有無を平常授業の対象としていきます。実際に自分で英語を使うような時のための実地訓練だと考えてもらえればと思います。授業内の作業に加えて、内容確認の小テストや、後日提出してもらった宿題も随時出していきます。</p>
履修の留意点：	<p>本科目は再履修科目です。必修科目でもあるので、確実に履修しておきませんと、上級学年になって時間割の作成に支障をきたす恐れがあります。今回の履修で必ず単位を取得するようにして下さい。</p> <p>予習・復習時には、各回扱うテーマに関して、どの部分がよく理解できているのか、何がわからないままなのかを、各々探し出して下さい。そして授業を通じて、自分の弱点を克服し、得意な部分を伸ばすよう努めてもらいたいと思います。また、各回になされる作業によっては辞書がないと難しい場合があります。うる覚えの単語を確認するためにも手元にあつた方が都合がいいので、辞書は毎回もってくるようにして下さい。</p> <p>また、本科目は通常、授業が週3コマ開催されています。通常履修時には日本人教員の授業が週2コマ、ネイティブの授業が週1コマ分ありましたが、再履修の授業に関してはネイティブの授業を、「英検e-CAT」というe-learning教材の利用に振り替えます。したがってネイティブの授業に相当する1コマ分の授業自体は、実際には行われませんが、通常授業以外の時間にe-learningに取り組んでもらうこととなりますので、そのための学習時間を各自確保しておいて下さい。また、この「英検e-CAT」の利用には¥3,150の費用がかかります。事務室前の発券機を利用して入金された「領収書」と、それを添付した書類の提出がないと、ログインするためのシリアル番号が配布されませんので注意して下さい。</p>
目標と評価：	<p>授業で扱った内容をきちんと吸収し、英語を運用するための力を向上させていくのが目標です。試験の結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。なお、提出物や小テストの受験の有無、授業内での作業や取り組み具合も平常授業点に加味しますので注意して下さい。また、欠席が多いと平常授業点を失うことにもなってしまいますので、なるべく休まず出席するようにして下さい。</p>
教科書：	English Quest: Mastering the Essentials of English 小野博 監修、清田洋一・酒井志延他著 桐原書店 2006年
参考書：	未定

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅢ」（担当者：高野 秀之）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅢ
担当者：	高野 秀之
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	将来、英語を用いて専門分野に関する「資料検索」や「英文レポート作成」を予定している学生を対象としたもの。英語の文章構成についても学ぶので、「専門的な知識を英語で表現したい」と考えている学生には、最適なものである。学期の前半は、統一テーマの文章を全員が読み、考え、表現することから始める予定だが、学期の途中からは個々の学生が専門的な分野について読み、考え、表現することが要求される。毎回の授業には宿題が課せられるので、それにも耐えられる学生が集まることを期待している。
授業方法：	ある共通のテーマに沿った内容の文章を読み、意見を交換した後「モデル・フォーマット」にあてはめてゆく作業を予定している。そのモデルは万能ではないので、やがては個々の学生が自分のスタイルを築き上げてゆくことが求められる。作業の流れが把握できた頃、学生がコースに関連したテーマを選定し、その文章について自分の考えをまとめることになる。そのまとめた考えをもとにして、どのようなレポートが作成できるかを検討してゆく予定である。授業中、個別指導が必要となった場合には、作業するグループと面談する学生とに別れることもある。最終的には、個々の学生が1本の英文レポートを完成させることを期待している。
履修の留意点：	選択科目であるが、英語で自分の考えをまとめる訓練に耐えられることが最低の条件なので、「欠席しない、努力する、真剣に取り組む」学生だけが集まることを期待している。授業中、辞書が必要となることが予想されるので、必ず持参すること。（電子辞書も可）また、有料の資料検索が必要な場合、教材費が別途必要となることがあるので、注意すること。
目標と評価：	春学期の目標は、英文の資料を読みこなす「読解力」、英文資料からテーマを導き出す「問題発見能力」、導き出された問題に自分なりの答えを出す「問題解決能力」をバランスよく身につけることである。これら「3つの力」をもとにして、学生が1本のレポートが完成させることを期待している。最終的には個別の評価基準を設け、それに則した評価をする予定である。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅣ」（担当者：高野 秀之）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅣ
担当者：	高野 秀之
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	将来、専門分野に関する「レポート」や「論文」を英語で執筆しようと計画している学生を対象としたもの。英語の文章構成についても学ぶので、「専門的な知識を英語で表現したい」と考えている学生には最適なもの。学期の初め、春学期に書いたレポートの洗練と専門分野の資料読解が進められるが、学期の途中からは個々の学生が関連する3本のレポートを作成し、それぞれを発表することが要求される。毎回の授業には宿題が課せられるので、それに耐えられる学生が集まることを期待している。
授業方法：	ある共通のテーマに沿った内容の文章を読み、意見交換の後、個々の学生が独自のフォーマットにあてはめてレポートを作成してゆく作業を予定している。作業の流れが把握できた頃、学生がコース関連した「3つのテーマ」を選定し、その文章について自分の考えをレポートにまとめる。まとめたレポートは発表（プレゼンテーション）を通じて内容を精査し、相互の関連付けをしてゆく。授業中、個別指導が必要となった場合には、作業するグループと面談する学生とに別れる。最終的には、個々の学生が3本の英文レポートを完成させて、それぞれが柱となる論文の方向性を導き出すことまでを期待している。
履修の留意点：	関連する「English CommunicationⅢ」を履修して、英文レポートを書いた経験のある学生が受講すること期待している。選択科目ではあるが、自分の考えをまとめ、それを英語で表現する訓練にも耐えられることが求められる。従って、「欠席しない、努力する、真剣に取り組む」学生が受講することを期待している。辞書が必要となることが予想されるので、必ず持参すること。（電子辞書も可）また、有料の資料検索が必要な場合、教材費が別途必要となることがあるので、注意すること。
目標と評価：	学期中に3本のレポートを完成させることができれば、それらの上位のテーマを英語で導き出し、論文のテーマにするまでを到達目標とする。「読解力」、「問題発見能力」、「問題解決能力」に加え、「オリジナリティ」を評価基準として評価する予定である。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅤ」（担当者：菅原 大一太）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅤ
担当者：	菅原 大一太
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>English Communication I・IIでの学習内容をもとに、それをさらに発展させ、英語の運用能力を高めていくことがこの授業の目標です。わたしたちが英語に接する際、それが口頭から発せられた表現（音声による表現）であろうと文章（文字による表現）であろうと、そこには英語として体系づけられた規則が存在します。なされる言語表現が英語である状況（ex. 英語が公用語となる職種、会社、機関、国にいるような時etc.）や、その他英語での意思疎通が必要となる場面に身を置いた場合、話者同士が英語で成立している規則を「共有」していかないけません。そしてこのように「共有」できていることはいいかえれば、英語を「使いこなせる」ということにもなってきます。自分が話し手・書き手、つまり「発信者」となる時には、相手に伝えたい内容を英語特有の決まり（ex. 主語・述語の置き方、単語の選び方、発音もしくは綴りetc.）に乗せて表現しなければなりませんし、逆に聞き手・読み手、つまり「受信者」にまわった場合には、英語の規則をもとに発せられた内容を、生き生きと理解することが求められるでしょう。本科目では英語の総合的な運用能力の更なる向上を目指し、より鋭敏な英語の「理解力」を身につけていきたいと思ひます。</p> <p>なお、将来の就職先で多少なりとも英語に触れる仕事をしたい人、また、本科目は純粋な対策試験とはなりませんが、今後英語関連の各種試験（ex. 英検、TOEIC、etc.）を受けようと考えている人は、就職や受験の前提となる英語の運用能力をこの授業で養ってもらえればと思ひます。</p>
授業方法：	<p>言葉の「発し手」と「受け手」による、「英語の規則の共有」を念頭に置いて授業を進めて行きます。授業ではさまざまな分野の英文に接し、より鮮明にその内容を理解できるよう取り組んで行きます。文法項目を始め、扱う文章を通じて各回テーマを設定します。そしてそのテーマについてのポイントとなる点を吟味した上で、対象となる文章を読みこなしていきたいと思ひます。</p> <p>また、扱う文章に応じて、ポキャブラリーの量も増えてきます。英語を「英語」たらしめている規則は文法に限らず、一定のアルファベットの組み合わせがある特定の意味を表すという点で、ポキャブラリーもまた英語の規則が規定するものです。英語を使いこなすためには文法もさることながら、絶対的な語彙力も不可欠ですので、ポキャブラリーの習得を意図したエクセサイズ、または小テストを随時実施していきます。</p>
履修の留意点：	<p>各回で扱う内容にもよりますが、ポキャブラリーの習得にもしっかり目を向けて行きます。授業で扱うテーマの理解はもちろんですが、語彙力も着実に身につけていってもらいたいと思ひますので、翌週の授業に差支えが出ないよう、しっかり予習・復習をして下さい。</p> <p>語彙に関しては授業中、口述や記述などの形で適宜質問をします。細かいようですが、その際にはケアレス・ミスがないよう気を配って下さい。具体的には、口述であれば発音とアクセントの位置、記述であれば綴りです。全授業を通して、重箱の隅をつつくようなことはなされませんのでその点は安心してもらいたいのですが、必要な注意は怠らないで下さい。この点は平常授業点にも勘案します。</p> <p>また、予習・復習時には、各回扱うテーマに関して、どの部分がよく理解できているのか、何がわからないままであるのかを、各々探し出して下さい。そして授業を通じて、自分の弱点を克服し、得意な部分を伸ばすよう努めてもらいたいと思ひます。</p> <p>授業に際しては、（電子）辞書を必ず持参して下さい。ぼんやりとしか覚えられていなかった単語を目にした時、手元に辞書があれば、わかりそうでわからないもどかしさをその場で解消することができると思ひます。</p>
目標と評価：	<p>授業で扱った内容をきちんと吸収し、英語を運用するための力を向上させていくのが目標です。試験の結果と平常授業点とおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。なお、提出物や小テストの受験の有無、授業の取り組み具合も平常授業点に加味します。なるべく休まず出席するようにして下さい。</p>
教科書：	Leading Companies in the 21st Century: 21世紀の企業—成功の Alan Cogen、岡田圭子他著 松柏社 2005年
参考書：	未定

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションVI」（担当者：菅原 大一太）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションVI
担当者：	菅原 大一太
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>English CommunicationVIは、“V”に引き続き、英語の運用能力をより堅固なものにし、また発展させるのを目標とした科目です。私たちが英語を必要とする状況に遭遇した時、状況がそのようなものである以上、英語の言語体系に乗って自己を表現しなくてはなりません。そしてその時、相手に伝えたい内容を英語特有の決まり（ex. 主語・述語の置き方、単語の選び方、発音もしくは綴りetc.）に沿ってきちんと使いこなすこと、いいかえれば英語の言語体系をきちんと自分の中に取り込んでいて、それを元にして主張する内容を表に出していくことが必要となります。そしてそれはそのまま、表に出された表現をきちんと受け取ることにもつながってきます。発信者と受信者の間に介在する共通の「英語の規則」をしっかりと把握することがこの時求められるといえるでしょう。</p> <p>本科目では英語の総合的な運用能力の更なる向上を目指し、より鋭敏で実践的な英語を身につけていきたいと思います。</p> <p>なお、English CommunicationVと同様、将来の就職先で多少なりとも英語に触れる仕事をした人、また、本科目は純粋な試験対策の授業とはなりません、今後英語関連の各種試験（ex. 英検、TOEIC、etc.）を受けようと考えている人は、就職や受験の前提となる英語の運用能力をこの授業で養ってもらえればと思います。</p>
授業方法：	<p>English CommunicationVと同様に、言葉の「発し手」と「受け手」による、「英語の規則の共有」を念頭に置いて授業を進めていきます。授業の展開についても、基本的には“V”と同様で、さまざまな分野の英文に接し、より鮮明にその内容を理解できるよう取り組んでいきます。文法項目を始め、扱う文章を通じて毎回テーマを設定します（テーマの方は“V”とは別ものとなります）。そしてそのテーマについてのポイントとなる点を吟味した上で、対象となる文章を読みこなしていきたいと思います。しかしながら、本科目English CommunicationVIでは“V”で扱った内容を踏まえながら、受講生のみならず自身で表現してもらう割合を増やしていきたいと思います。口述・記述ともになるべく実践的なアサインメントに取り組み、英語を身につけていきます。</p> <p>また、ポキャブラリーの量も着実に増やしていきたいと思います。“V”の「履修の手引き」にも書きましたが、英語を「英語」たらしめている規則は文法に限らず、一定のアルファベットの組み合わせがある特定の意味を表すという点で、ポキャブラリーもまた英語の規則が規定するものです。英語を使いこなすためには文法もさることながら、正確な知識を元にした絶対的な語彙力も不可欠ですので、ポキャブラリーの習得を意図したエクセサイズ、または小テストを随時実施していきます。</p>
履修の留意点：	<p>各回で扱う内容にもよりますが、ポキャブラリーの習得にもしっかり目を向けていきます。授業で扱うテーマの理解はもちろんですが、語彙力も着実に身につけていってほしいと思しますので、翌週の授業に差支えが出ないよう、しっかり予習・復習をして下さい。</p> <p>語彙に関しては授業中、口述や記述などの形で適宜質問をします。細かいようですが、その際にはケアレス・ミスがないよう気を配って下さい。具体的には口述であれば、発音とアクセントの位置、記述であれば綴りです。全授業を通して、重箱の隅をつつくようなことはなされませんのでその点は安心してほしいのですが、必要な注意は怠らないで下さい。この点は平常授業点にも勘案します。</p> <p>また、予習・復習時には、各回扱うテーマに関して、どの部分がよく理解できているのか、何がわからないままであるのかを、各々探し出して下さい。そして授業を通じて、自分の弱点を克服し、得意な部分を伸ばすよう努めてほしいと思います。</p> <p>授業に際しては、（電子）辞書を必ず持参して下さい。ぼんやりとしか覚えられていなかった単語を目にした時、手元に辞書があれば、わかりそうでわからないもどかしさをその場で解消することができると思います。</p>
目標と評価：	<p>授業で扱った内容をきちんと吸収し、英語を運用するための力を向上させていくのが目標です。試験の結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。なお、提出物や小テストの受験の有無、授業の取り組み具合も平常授業点に加味します。なるべく休まず出席するようにして下さい。</p>
教科書：	Leading Companies in the 21st Century 松柏社 2005年
参考書：	授業内で紹介します

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅦ」（担当者：サイモン クレイ）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅦ
担当者：	サイモン クレイ
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	This course is to prepare students for study at USM beginning in August. The course will cover: English language points, cultural background and practical advice for studying abroad.
授業方法：	As much English as possible will be used in class. A variety of methods will be used.
履修の留意点：	This is not simply an English language course, but is designed as preparation for study at USM.
目標と評価：	Based on participation and enthusiasm
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語Ⅰ」（担当者：馮雪梅）の履修の手引き

科目名：	中国語Ⅰ
担当者：	馮雪梅
設置学期：	春
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	現代中国語を習得するための初歩を学習する。入門期に正しい発音を身につけるためにまず音声面の学習に重点を置き、発音の訓練を徹底的に行う。次に簡単な口語表現を学ぶ中で中国語の初歩的な文法知識を学習する。それによって中国語の基礎を固めながら、実際の運用能力をつけることを目的とする。 授業の前半では、主として発音、形容詞述語文、動詞述語文、名詞述語文、語気助詞“ ”を用いる疑問文、疑問詞疑問文、反復疑問文、選択疑問文、構造助詞“的”、助数詞、連用修飾、数量補語、結果補語を、後半では、動態助詞“了”、語気助詞“了”、動態助詞“ ”、連体修飾、語気助詞“吧”、連動文、方向補語、不定代詞“什么”、否定を表す副詞、比較表現、主な程度を表す副詞、程度補語、主述述語文などについて学習する。
授業方法：	講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。 具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。
履修の留意点：	初学者を対象とする。
目標と評価：	最終的な目標を、基本的に中国語の発音をマスターし、文法の基礎的事項を身につけ、表現や理解の基礎を作ることに置く。 普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。
教科書：	「实用中国語」基礎編Ⅰ 馮雪梅・李芳傑 白帝社 2000年
参考書：	「標準中国語辞典」、「標準日中辞典」 上野恵司、上野恵司・顧明耀 白帝社 1996年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語Ⅰ」（担当者：劉 大蘭）の履修の手引き

科目名：	中国語Ⅰ
担当者：	劉 大蘭
設置学期：	春
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	<p>現代中国語を習得するための初歩を学習する。入門期に正しい発音を身につけるためにまず音声面の学習に重点を置き、発音の訓練を徹底的に行う。次に簡単な口語表現を学ぶ中で中国語の初歩的な文法知識を学習する。それによって中国語の基礎を固めながら、実際の運用能力をつけることを目的とする。</p> <p>授業の前半では、主として発音、形容詞述語文、動詞述語文、名詞述語文、語気助詞“ ”を用いる疑問文、疑問詞疑問文、反復疑問文、選択疑問文、構造助詞“的”、助数詞、連用修飾、数量補語、結果補語を、後半では、動態助詞“了”、語気助詞“了”、動態助詞“ ”、連体修飾、語気助詞“吧”、連動文、方向補語、不定代詞“什么”、否定を表す副詞、比較表現、主な程度を表す副詞、程度補語、主述語文などについて学習する。</p>
授業方法：	<p>講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。</p> <p>具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。</p>
履修の留意点：	初学者を対象とする。
目標と評価：	<p>最終的な目標を、基本的に中国語の発音をマスターし、文法の基礎的事項を身につけ、表現や理解の基礎を作ることに置く。</p> <p>普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。</p>
教科書：	「実用中国語」基礎編Ⅰ 馮雪梅・李芳傑 白帝社 2000年
参考書：	「標準中国語辞典」、「標準日中辞典」 上野恵司、上野恵司・顧明耀 白帝社 1996年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語Ⅰ」（担当者：林 平）の履修の手引き

科目名：	中国語Ⅰ
担当者：	林 平
設置学期：	春
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	現代中国語を習得するための初歩を学習する。入門期に正しい発音を身につけるためにまず音声面の学習に重点を置き、発音の訓練を徹底的に行う。次に簡単な口語表現を学ぶ中で中国語の初歩的な文法知識を学習する。それによって中国語の基礎を固めながら、実際の運用能力をつけることを目的とする。 授業の前半では、主として発音、形容詞述語文、動詞述語文、名詞述語文、語気助詞“ ”を用いる疑問文、疑問詞疑問文、反復疑問文、選択疑問文、構造助詞“的”、助数詞、連用修飾、数量補語、結果補語を、後半では、動態助詞“了”、語気助詞“了”、動態助詞“ ”、連体修飾、語気助詞“吧”、連動文、方向補語、不定代詞“什么”、否定を表す副詞、比較表現、主な程度を表す副詞、程度補語、主述述語文などについて学習する。
授業方法：	講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。 具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。
履修の留意点：	初学者を対象とする。
目標と評価：	最終的な目標を、基本的に中国語の発音をマスターし、文法の基礎的事項を身につけ、表現や理解の基礎を作ることに置く。 普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。
教科書：	「実用中国語」基礎編Ⅰ 馮雪梅・李芳傑 白帝社 2000年
参考書：	「標準中国語辞典」、「標準日中辞典」 上野恵司、上野恵司・顧明耀 白帝社 1996年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語Ⅰ」（担当者：曾 蓉子）の履修の手引き

科目名：	中国語Ⅰ
担当者：	曾 蓉子
設置学期：	春
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	現代中国語を習得するための初歩を学習する。入門期に正しい発音を身につけるためにまず音声面の学習に重点を置き、発音の訓練を徹底的に行う。次に簡単な口語表現を学ぶ中で中国語の初歩的な文法知識を学習する。それによって中国語の基礎を固めながら、実際の運用能力をつけることを目的とする。
授業方法：	講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。
履修の留意点：	初学者を対象とする。
目標と評価：	最終的な目標を、基本的に中国語の発音をマスターし、文法の基礎的事項を身につけ、表現や理解の基礎を作ることに置く。
教科書：	「実用中国語」基礎編Ⅰ 馮雪梅・李芳傑 白帝社 2000年
参考書：	「標準中国語辞典」、「標準日中辞典」 上野恵司、上野恵司・顧明耀 白帝社 1996年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語Ⅱ」（担当者：馮 雪梅）の履修の手引き

科目名：	中国語Ⅱ
担当者：	馮 雪梅
設置学期：	秋
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	中国語コミュニケーションIで学んだ中国語の基礎に基づき、内容的に一步進んだ口語表現を勉強すると共に、中国語の基礎文法、表現法を学ぶ。それによって中国語の文の基本的な構造を理解し、各種場面での応用会話力をつけることを目的とする。レベル的には、HSK 1級程度の実力がつくことを目指す。 授業の前半では、主として前置詞、未来の表現、動作の持続を表す表現、「進行」を表す“在”、特殊疑問文、概数表現、可能補語、助動詞、仮定表現、動態助詞“着”、様態補語、構造助詞“地”、兼語文、接続詞を、後半では、反語表現、受け身文、“動詞の重ね型等+看”、接頭語、方向補語の派生用法、緊縮文、縮略語、“把”構文による処置の表現、4種類の述語文、使役表現、前置詞などについて学習する。
授業方法：	講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。 具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。
履修の留意点：	中国語コミュニケーションI修了者を対象とする。
目標と評価：	最終的には中国語の基本文法、日常生活に必要な基礎表現法の習得を目指すこととする。 普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する
教科書：	「実用中国語」基礎編Ⅰ 馮雪梅・李芳傑 白帝社 2000年
参考書：	「標準中国語辞典」、「標準日中辞典」 上野恵司、上野恵司・顧明耀 白帝社 1996年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語Ⅱ」（担当者：劉 大蘭）の履修の手引き

科目名：	中国語Ⅱ
担当者：	劉 大蘭
設置学期：	秋
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	中国語コミュニケーションIで学んだ中国語の基礎に基づき、内容的に一步進んだ口語表現を勉強すると共に、中国語の基礎文法、表現法を学ぶ。それによって中国語の文の基本的な構造を理解し、各種場面での応用会話力をつけることを目的とする。レベル的には、HSK 1級程度の実力がつくことを目指す。 授業の前半では、主として前置詞、未来の表現、動作の持続を表す表現、「進行」を表す“在”、特殊疑問文、概数表現、可能補語、助動詞、仮定表現、動態助詞“着”、様態補語、構造助詞“地”、兼語文、接続詞を、後半では、反語表現、受け身文、“動詞の重ね型等+看”、接頭語、方向補語の派生用法、緊縮文、縮略語、“把”構文による処置の表現、4種類の述語文、使役表現、前置詞などについて学習する。
授業方法：	講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。 具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。
履修の留意点：	中国語コミュニケーションI修了者を対象とする。
目標と評価：	最終的には中国語の基本文法、日常生活に必要な基礎表現法の習得を目指すこととする。 普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。
教科書：	「実用中国語」基礎編Ⅰ 馮雪梅・李芳傑 白帝社 2000年
参考書：	「標準中国語辞典」、「標準日中辞典」 上野恵司、上野恵司・顧明耀 白帝社 1996年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語Ⅱ」（担当者：林 平）の履修の手引き

科目名：	中国語Ⅱ
担当者：	林 平
設置学期：	秋
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	中国語コミュニケーションIで学んだ中国語の基礎に基づき、内容的に一步進んだ口語表現を勉強すると共に、中国語の基礎文法、表現法を学ぶ。それによって中国語の文の基本的な構造を理解し、各種場面での応用会話力をつけることを目的とする。レベル的には、HSK 1級程度の実力がつくことを目指す。 授業の前半では、主として前置詞、未来の表現、動作の持続を表す表現、「進行」を表す“在”、特殊疑問文、概数表現、可能補語、助動詞、仮定表現、動態助詞“着”、様態補語、構造助詞“地”、兼語文、接続詞を、後半では、反語表現、受け身文、“動詞の重ね型等+看”、接頭語、方向補語の派生用法、緊縮文、縮略語、“把”構文による処置の表現、4種類の述語文、使役表現、前置詞などについて学習する。
授業方法：	講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。 具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。
履修の留意点：	中国語コミュニケーションI修了者を対象とする。
目標と評価：	最終的には中国語の基本文法、日常生活に必要な基礎表現法の習得を目指すこととする。 普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。
教科書：	「実用中国語」基礎編Ⅰ 馮雪梅・李芳傑 白帝社 2000年
参考書：	「標準中国語辞典」、「標準日中辞典」 上野恵司、上野恵司・顧明耀 白帝社 1996年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語Ⅱ」（担当者：曾 蓉子）の履修の手引き

科目名：	中国語Ⅱ
担当者：	曾 蓉子
設置学期：	秋
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	中国語コミュニケーションIで学んだ中国語の基礎に基づき、内容的に一步進んだ口語表現を勉強すると共に、中国語の基礎文法、表現法を学ぶ。それによって中国語の文の基本的な構造を理解し、各種場面での応用会話力をつけることを目的とする。レベル的には、HSK 1級程度の実力がつくことを目指す。
授業方法：	講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。
履修の留意点：	中国語コミュニケーションI修了者を対象とする。
目標と評価：	最終的には中国語の基本文法、日常生活に必要な基礎表現法の習得を目指すこととする。
教科書：	「実用中国語」基礎編Ⅰ 馮雪梅・李芳傑 白帝社 2000年
参考書：	「標準中国語辞典」、「標準日中辞典」 上野恵司、上野恵司・顧明耀 白帝社 1996年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語Ⅲ」（担当者：馮 雪梅）の履修の手引き

科目名：	中国語Ⅲ
担当者：	馮 雪梅
設置学期：	春
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	<p>中国語コミュニケーションⅠ・Ⅱで習得した中国語の成果をふまえ、日常生活でのさまざまな場面での口語表現を学ぶ中で中国語文法の一般的事項を学習し、それによって日常場面での基本的な表現を習得し、中国語で簡単な意思表示ができるようにすることを目標とする。</p> <p>授業の前半では、動詞述語文の語順、副詞“不”“”、副詞“也”、疑問詞“怎么”（1）、前置詞“跟”、“的”を用いた連体修飾語、文末助詞“吧”（2）、動詞+“一下儿”、文末助詞“了”、正反疑問文、結果補語、可能補語、帰結を表す“就”、助動詞“能”“”“想”“可以”、接続詞“和”、前置詞“在”（1）、副詞“多”、“是~的”構文、“喜”の用法を、後半では、前置詞“从”“在”（2）、結果補語“”、疑問詞の連用、選択疑問文に用いる“是”、動詞の重ね型、“有 ~有 ~”構文、使役の“”、前置詞“”、連動文、“A跟B—”、疑問詞“什么”の不定用法、結果補語“到”、指示詞+数詞+量詞+名詞、形容詞の連用“又~又~”、形容詞・動詞+“一点儿”、疑問詞“怎么”（2）、中止を表す“不~了”などについて学習する。</p>
授業方法：	<p>講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。</p> <p>具体的な授業の進め方としては、まず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、下記の目標の達成を目指す。</p>
履修の留意点：	中国語Ⅱ修了者を対象とする。
目標と評価：	<p>最終的には、日常場面での基本的な表現を習得し、中国語で簡単な意思表示ができるようにすることを目標とする。</p> <p>普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。</p>
教科書：	「留学気分て中国語」 待場裕子・能勢良子・小野秀樹等 白帝社 2001年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割，出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語Ⅳ」（担当者：劉 大蘭）の履修の手引き

科目名：	中国語Ⅳ
担当者：	劉 大蘭
設置学期：	秋
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	<p>中国語コミュニケーションⅢで学習した内容を共通の基盤とし、更なる中国語のコミュニケーション能力の向上を希望する学生が履修する科目。具体的には、引き続き中国語文法の一般的事項を学習し、語彙を広め、様々な文章を読む上での基礎的な力がつくようにする。</p> <p>授業の前半では、“把”構文、“好好儿”、伝聞表現“听 ”、否定副詞“不”と“没”、強調の“可”、反語文“不是～？”、様態補語、比較文“A比B～”、“虽然～但是…”、結果補語“完”、動作の進行の表し方、“有”を用いた連動文、仮定を表す“要是”、二重否定“非～不可”“不～不行”、動作の持続時間の表し方、離合動詞、方向動詞と方向補語、受身を表す“被、、叫”を、後半では、結果補語“在”、副詞“倒”“偏偏”“怪”、“～～”、方向補語“上去”の派生用法、行為の順序を表す“先～再…”、「疑問詞+“也〈都〉”+否定形」の強調表現、“不但～而且…”、文末助詞“嘛”、“一点儿也不(没)～”、“越来越～”、“既～又…”、仮定を表す“没有～就…”、“由～成”、“因～所以…”、“A也好，B也好，～”などについて学習する。</p>
授業方法：	<p>講義と演習形式で行う。黒板に出してもらって板書する機会が多い。</p> <p>具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。</p>
履修の留意点：	中国語Ⅲ修了者を対象とする。
目標と評価：	<p>最終的には、文法の一般的事項を学習し、語彙を広めると共に、様々な文章を読む上での基礎的な力がつくことを目標とする。</p> <p>普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。</p>
教科書：	「留学気分で中国語」 待場裕子・能勢良子・小野秀樹等 白帝社 2001年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「海外集中中国語」（担当者：馮 雪梅）の履修の手引き

科目名：	海外集中中国語
担当者：	馮 雪梅
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	留学により認定される科目です。
授業方法：	学内での授業は実施いたしません。 詳細は地域国際交流センターよりお知らせいたします。
履修の留意点：	履修の他に手続が必要になります。 詳細は地域国際交流センターにご相談下さい。
目標と評価：	成績評価は、授業を行わないため評価点のみの評価とします。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語コミュニケーションⅠ」（担当者：馮 雪梅）の履修の手引き

科目名：	中国語コミュニケーションⅠ
担当者：	馮 雪梅
設置学期：	春
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	<p>現代中国語を習得するための初歩を学習する。入門期に正しい発音を身につけるためにまず音声面の学習に重点を置き、発音の訓練を徹底的に行う。次に簡単な口語表現を学ぶ中で中国語の初歩的な文法知識を学習する。それによって中国語の基礎を固めながら、実際の運用能力をつけることを目的とする。</p> <p>授業の前半では、主として発音、形容詞述語文、動詞述語文、名詞述語文、語気助詞“ ”を用いる疑問文、疑問詞疑問文、反復疑問文、選択疑問文、構造助詞“的”、助数詞、連用修飾、数量補語、結果補語を、後半では、動態助詞“了”、語気助詞“了”、動態助詞“ ”、連体修飾、語気助詞“吧”、連動文、方向補語、不定代詞“什么”、否定を表す副詞、比較表現、主な程度を表す副詞、程度補語、主述述語文などについて学習する。</p>
授業方法：	<p>講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。</p> <p>具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。</p>
履修の留意点：	初学者を対象とする。
目標と評価：	<p>最終的な目標を、基本的に中国語の発音をマスターし、文法の基礎的事項を身につけ、表現や理解の基礎を作ることに置く。</p> <p>普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。</p>
教科書：	「実用中国語」基礎編Ⅰ 馮雪梅・李芳傑 白帝社 2000年
参考書：	「標準中国語辞典」、「標準日中辞典」 上野恵司、上野恵司・顧明耀 白帝社 1996年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語コミュニケーションⅠ」（担当者：劉 大蘭）の履修の手引き

科目名：	中国語コミュニケーションⅠ
担当者：	劉 大蘭
設置学期：	春
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	<p>現代中国語を習得するための初歩を学習する。入門期に正しい発音を身につけるためにまず音声面の学習に重点を置き、発音の訓練を徹底的に行う。次に簡単な口語表現を学ぶ中で中国語の初歩的な文法知識を学習する。それによって中国語の基礎を固めながら、実際の運用能力をつけることを目的とする。</p> <p>授業の前半では、主として発音、形容詞述語文、動詞述語文、名詞述語文、語気助詞“ ”を用いる疑問文、疑問詞疑問文、反復疑問文、選択疑問文、構造助詞“的”、助数詞、連用修飾、数量補語、結果補語を、後半では、動態助詞“了”、語気助詞“了”、動態助詞“ ”、連体修飾、語気助詞“吧”、連動文、方向補語、不定代詞“什么”、否定を表す副詞、比較表現、主な程度を表す副詞、程度補語、主述述語文などについて学習する。</p>
授業方法：	<p>講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。</p> <p>具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。</p>
履修の留意点：	初学者を対象とする。
目標と評価：	<p>最終的な目標を、基本的に中国語の発音をマスターし、文法の基礎的事項を身につけ、表現や理解の基礎を作ることに置く。</p> <p>普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。</p>
教科書：	「実用中国語」基礎編Ⅰ 馮雪梅・李芳傑 白帝社 2000年
参考書：	「標準中国語辞典」、「標準日中辞典」 上野恵司、上野恵司・顧明耀 白帝社 1996年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語コミュニケーションⅠ」（担当者：林 平）の履修の手引き

科目名：	中国語コミュニケーションⅠ
担当者：	林 平
設置学期：	春
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	<p>現代中国語を習得するための初歩を学習する。入門期に正しい発音を身につけるためにまず音声面の学習に重点を置き、発音の訓練を徹底的に行う。次に簡単な口語表現を学ぶ中で中国語の初歩的な文法知識を学習する。それによって中国語の基礎を固めながら、実際の運用能力をつけることを目的とする。</p> <p>授業の前半では、主として発音、形容詞述語文、動詞述語文、名詞述語文、語気助詞“ ”を用いる疑問文、疑問詞疑問文、反復疑問文、選択疑問文、構造助詞“的”、助数詞、連用修飾、数量補語、結果補語を、後半では、動態助詞“了”、語気助詞“了”、動態助詞“ ”、連体修飾、語気助詞“吧”、連動文、方向補語、不定代詞“什么”、否定を表す副詞、比較表現、主な程度を表す副詞、程度補語、主述述語文などについて学習する。</p>
授業方法：	<p>講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。</p> <p>具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。</p>
履修の留意点：	初学者を対象とする。
目標と評価：	<p>最終的な目標を、基本的に中国語の発音をマスターし、文法の基礎的事項を身につけ、表現や理解の基礎を作ることに置く。</p> <p>普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。</p>
教科書：	「実用中国語」基礎編Ⅰ 馮雪梅・李芳傑 白帝社 2000年
参考書：	「標準中国語辞典」、「標準日中辞典」 上野恵司、上野恵司・顧明耀 白帝社 1996年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語コミュニケーションⅠ」（担当者：曾 蓉子）の履修の手引き

科目名：	中国語コミュニケーションⅠ
担当者：	曾 蓉子
設置学期：	春
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	<p>現代中国語を習得するための初歩を学習する。入門期に正しい発音を身につけるためにまず音声面の学習に重点を置き、発音の訓練を徹底的に行う。次に簡単な口語表現を学ぶ中で中国語の初歩的な文法知識を学習する。それによって中国語の基礎を固めながら、実際の運用能力をつけることを目的とする。</p> <p>授業の前半では、主として発音、形容詞述語文、動詞述語文、名詞述語文、語気助詞“ ”を用いる疑問文、疑問詞疑問文、反復疑問文、選択疑問文、構造助詞“的”、助数詞、連用修飾、数量補語、結果補語を、後半では、動態助詞“了”、語気助詞“了”、動態助詞“ ”、連体修飾、語気助詞“吧”、連動文、方向補語、不定代詞“什么”、否定を表す副詞、比較表現、主な程度を表す副詞、程度補語、主述述語文などについて学習する。</p>
授業方法：	<p>講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。</p> <p>具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。</p>
履修の留意点：	初学者を対象とする。
目標と評価：	<p>最終的な目標を、基本的に中国語の発音をマスターし、文法の基礎的事項を身につけ、表現や理解の基礎を作ることに置く。</p> <p>普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。</p>
教科書：	「実用中国語」基礎編Ⅰ 馮雪梅・李芳傑 白帝社 2000年
参考書：	「標準中国語辞典」、「標準日中辞典」 上野恵司、上野恵司・顧明耀 白帝社 1996年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語コミュニケーションⅡ」（担当者：馮雪梅）の履修の手引き

科目名：	中国語コミュニケーションⅡ
担当者：	馮雪梅
設置学期：	秋
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	中国語コミュニケーションIで学んだ中国語の基礎に基づき、内容的に一步進んだ口語表現を勉強すると共に、中国語の基礎文法、表現法を学ぶ。それによって中国語の文の基本的な構造を理解し、各種場面での応用会話力をつけることを目的とする。レベル的には、HSK 1級程度の実力がつくことを目指す。 授業の前半では、主として前置詞、未来の表現、動作の持続を表す表現、「進行」を表す“在”、特殊疑問文、概数表現、可能補語、助動詞、仮定表現、動態助詞“着”、様態補語、構造助詞“地”、兼語文、接続詞を、後半では、反語表現、受け身文、“動詞の重ね型等十看”、接頭語、方向補語の派生用法、緊縮文、縮略語、“把”構文による処置の表現、4種類の述語文、使役表現、前置詞などについて学習する。
授業方法：	講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。 具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。
履修の留意点：	中国語コミュニケーションⅠ修了者を対象とする。
目標と評価：	最終的には中国語の基本文法、日常生活に必要な基礎表現法の習得を目指すこととする。 普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する
教科書：	「実用中国語」基礎編Ⅰ 馮雪梅・李芳傑 白帝社 2000年
参考書：	「標準中国語辞典」、「標準日中辞典」 上野恵司、上野恵司・顧明耀 白帝社 1996年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語コミュニケーションⅡ」（担当者：劉 大蘭）の履修の手引き

科目名：	中国語コミュニケーションⅡ
担当者：	劉 大蘭
設置学期：	秋
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	中国語コミュニケーションIで学んだ中国語の基礎に基づき、内容的に一步進んだ口語表現を勉強すると共に、中国語の基礎文法、表現法を学ぶ。それによって中国語の文の基本的な構造を理解し、各種場面での応用会話力をつけることを目的とする。レベル的には、HSK 1級程度の実力がつくことを目指す。 授業の前半では、主として前置詞、未来の表現、動作の持続を表す表現、「進行」を表す“在”、特殊疑問文、概数表現、可能補語、助動詞、仮定表現、動態助詞“着”、様態補語、構造助詞“地”、兼語文、接続詞を、後半では、反語表現、受け身文、“動詞の重ね型等+看”、接頭語、方向補語の派生用法、緊縮文、縮略語、“把”構文による処置の表現、4種類の述語文、使役表現、前置詞などについて学習する。
授業方法：	講義と演習形式で行う。黒板に出してもらって板書する機会が多い。 具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。
履修の留意点：	中国語コミュニケーションⅠ修了者を対象とする。
目標と評価：	最終的には中国語の基本文法、日常生活に必要な基礎表現法の習得を目指すこととする。 普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する
教科書：	「実用中国語」基礎編Ⅰ 馮雪梅・李芳傑 白帝社 2000年
参考書：	「標準中国語辞典」、「標準日中辞典」 上野恵司、上野恵司・顧明耀 白帝社 1996年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語コミュニケーションⅡ」（担当者：林 平）の履修の手引き

科目名：	中国語コミュニケーションⅡ
担当者：	林 平
設置学期：	秋
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	中国語コミュニケーションIで学んだ中国語の基礎に基づき、内容的に一步進んだ口語表現を勉強すると共に、中国語の基礎文法、表現法を学ぶ。それによって中国語の文の基本的な構造を理解し、各種場面での応用会話力をつけることを目的とする。レベル的には、HSK 1級程度の実力がつくことを目指す。 授業の前半では、主として前置詞、未来の表現、動作の持続を表す表現、「進行」を表す“在”、特殊疑問文、概数表現、可能補語、助動詞、仮定表現、動態助詞“着”、様態補語、構造助詞“地”、兼語文、接続詞を、後半では、反語表現、受け身文、“動詞の重ね型等+看”、接頭語、方向補語の派生用法、緊縮文、縮略語、“把”構文による処置の表現、4種類の述語文、使役表現、前置詞などについて学習する。
授業方法：	講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。 具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。
履修の留意点：	中国語コミュニケーションⅠ修了者を対象とする。
目標と評価：	最終的には中国語の基本文法、日常生活に必要な基礎表現法の習得を目指すこととする。 普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する
教科書：	「実用中国語」基礎編Ⅰ 馮雪梅・李芳傑 白帝社 2000年
参考書：	「標準中国語辞典」、「標準日中辞典」 上野恵司、上野恵司・顧明耀 白帝社 1996年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語コミュニケーションⅡ」（担当者：曾 蓉子）の履修の手引き

科目名：	中国語コミュニケーションⅡ
担当者：	曾 蓉子
設置学期：	秋
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	中国語コミュニケーションIで学んだ中国語の基礎に基づき、内容的に一步進んだ口語表現を勉強すると共に、中国語の基礎文法、表現法を学ぶ。それによって中国語の文の基本的な構造を理解し、各種場面での応用会話力をつけることを目的とする。レベル的には、HSK 1級程度の実力がつくことを目指す。 授業の前半では、主として前置詞、未来の表現、動作の持続を表す表現、「進行」を表す“在”、特殊疑問文、概数表現、可能補語、助動詞、仮定表現、動態助詞“着”、様態補語、構造助詞“地”、兼語文、接続詞を、後半では、反語表現、受け身文、“動詞の重ね型等+看”、接頭語、方向補語の派生用法、緊縮文、縮略語、“把”構文による処置の表現、4種類の述語文、使役表現、前置詞などについて学習する。
授業方法：	講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。 具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。
履修の留意点：	中国語コミュニケーションⅠ修了者を対象とする。
目標と評価：	最終的には中国語の基本文法、日常生活に必要な基礎表現法の習得を目指すこととする。 普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する
教科書：	「実用中国語」基礎編Ⅰ 馮雪梅・李芳傑 白帝社 2000年
参考書：	「標準中国語辞典」、「標準日中辞典」 上野恵司、上野恵司・顧明耀 白帝社 1996年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語コミュニケーションⅢ」（担当者：劉 大蘭）の履修の手引き

科目名：	中国語コミュニケーションⅢ
担当者：	劉 大蘭
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>中国語コミュニケーションⅠ・Ⅱで習得した中国語の成果をふまえ、日常生活でのさまざまな場面での口語表現を学ぶ中で中国語文法の一般的事項を学習し、それによって日常場面での基本的な表現を習得し、中国語で簡単な意思表示ができるようにすることを目標とする。</p> <p>授業の前半では、動詞述語文の語順、副詞“不”“”、副詞“也”、疑問詞“怎么”(1)、前置詞“跟”、“的”を用いた連体修飾語、文末助詞“吧”(2)、動詞+“一下儿”、文末助詞“了”、正反疑問文、結果補語、可能補語、帰結を表す“就”、助動詞“能”“”“想”“可以”、接続詞“和”、前置詞“在”(1)、副詞“多”、“是~的”構文、“喜”の用法を、後半では、前置詞“从”“在”(2)、結果補語“”、疑問詞の連用、選択疑問文に用いる“是”、動詞の重ね型、“有~有~”構文、使役の“”、前置詞“”、連動文、“A跟B一”、疑問詞“什么”の不定用法、結果補語“到”、指示詞+数詞+量詞+名詞、形容詞の連用“又~又~”、形容詞・動詞+“一点儿”、疑問詞“怎么”(2)、中止を表す“不~了”などについて学習する。</p>
授業方法：	<p>講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。</p> <p>具体的な授業の進め方としては、まず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、下記の目標の達成を目指す。</p>
履修の留意点：	中国語Ⅱ修了者を対象とする。
目標と評価：	<p>最終的には、日常場面での基本的な表現を習得し、中国語で簡単な意思表示ができるようにすることを目標とする。</p> <p>普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。</p>
教科書：	「留学気分で中国語」 待場裕子・能勢良子・小野秀樹等 白帝社 2001年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語コミュニケーションⅣ」（担当者：劉 大蘭）の履修の手引き

科目名：	中国語コミュニケーションⅣ
担当者：	劉 大蘭
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>中国語コミュニケーションⅢで学習した内容を共通の基盤とし、更なる中国語のコミュニケーション能力の向上を希望する学生が履修する科目。具体的には、引き続き中国語文法の一般的事項を学習し、語彙を広め、様々な文章を読む上での基礎的な力がつくようにする。</p> <p>授業の前半では、“把”構文、“好好儿”、伝聞表現“听 ”、否定副詞“不”と“没”、強調の“可”、反語文“不是～？”、様態補語、比較文“A比B～”、“虽然～但是…”、結果補語“完”、動作の進行の表し方、“有”を用いた連動文、仮定を表す“要是”、二重否定“非～不可”“不～不行”、動作の持続時間の表し方、離合動詞、方向動詞と方向補語、受身を表す“被”、“叫”を、後半では、結果補語“在”、副詞“倒”“偏偏”“怪”、“～”、“～”、方向補語“上”“去”の派生用法、行為の順序を表す“先～再…”、「疑問詞+“也〈都〉”+否定形」の強調表現、“不但～而且…”、文末助詞“嘛”、“一点儿也不(没)～”、“越来越～”、“既～又…”、仮定を表す“没有～就…”、“由～成”、“因～所以…”、“A也好，B也好，～”などについて学習する。</p>
授業方法：	<p>講義と演習形式で行う。黒板に出してもらって板書する機会が多い。</p> <p>具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、下記の目標の達成を目指す。</p>
履修の留意点：	中国語Ⅲ修了者を対象とする。
目標と評価：	<p>最終的には、文法の一般的事項を学習し、語彙を広めると共に、様々な文章を読む上での基礎的な力がつくことを目標とする。</p> <p>普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。</p>
教科書：	「留学気分で中国語」 待場裕子・能勢良子・小野秀樹等 白帝社 2001年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語コミュニケーションⅤ」（担当者：劉 大蘭）の履修の手引き

科目名：	中国語コミュニケーションⅤ
担当者：	劉 大蘭
設置学期：	春
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	<p>中国語を履修した学生が、更にコミュニケーションスキルを向上させるために学ぶ科目。具体的には、中国語コミュニケーションⅠ・Ⅱで身につけた学力をもとに、文法・表現の面でより高度なものを学習し、体系的な文法の知識と基礎的な表現法を習得することによって中国語の基礎力の定着を図る。</p> <p>授業の前半では、動詞述語文の語順、副詞“不”“ ”、結果補語、可能補語、助動詞“能”“ ” “想” “可以”、結果補語“ ”、疑問詞の連用、“有 ～有 ～”構文、使役の“ ”、前置詞“ ”、中止を表す“不～了”、“好好儿”、様態補語、“虽然～但是…”を、後半では、二重否定“非～不可” “不～不行”、離合動詞、方向動詞と方向補語、受身を表す“被、叫” “～ ～”、方向補語“上去”の派生用法、行為の順序を表す“先～再～”、“不但～而且…”、“既～又…”、仮定を表す“没有～就…”などについて学習する。</p>
授業方法：	<p>講義と演習形式で行う。黒板に出してもらって板書する機会が多い。</p> <p>具体的な授業の進め方としては、まず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、下記の目標の達成を目指す。</p>
履修の留意点：	中国語Ⅱ修了者を対象とする。
目標と評価：	<p>最終的には体系的な文法の知識と基礎的な表現法の習得を目指すこととする。</p> <p>普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。</p>
教科書：	「留学気分で中国語」 待場裕子・能勢良子・小野秀樹等 白帝社 2001年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語コミュニケーションⅥ」（担当者：劉 大蘭）の履修の手引き

科目名：	中国語コミュニケーションⅥ
担当者：	劉 大蘭
設置学期：	秋
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	中国語コミュニケーションⅤで身につけた学力をもとに、文法・表現の面でより高度なものを学習し、体系的な文法の知識と基礎的な表現法を習得することによって中国語の基礎力のより一層のステップアップをはかり、最終的には、HSK 2級程度の実力がつくことを目標とする。 授業の前半では、“一心想～”、助動詞“想”と“要”、“既～、又～、～”、“一口气儿能～”、“不能多，也要少～”、“已～了”、“先～、又～、然后～”、完了の“了”、変化の“了”、“是～呢？”、“～了～、才知道～”、“我替他（她）～”を、後半では、“只～、没～”、“别提多～了”、“～都没～”、動量補語、“～的”、“又开始～了”、“再也没有～了”、“从来不～”、“好像～似的”、“～真不容易”、“好容易～”、“幸～”、“怪不得～呢”、“是因～的 故”、時量補語、程度補語、結果補語、方向補語、可能補語などについて学習する。
授業方法：	講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。 具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、下記の目標の達成を目指す。
履修の留意点：	中国語Ⅴ修了者を対象とする。
目標と評価：	最終的にはHSK 2級程度の実力がつくことを目的とする。 普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。
教科書：	「私の毎日」 焦凡・勝股高志 白帝社 2001年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語コミュニケーションⅦ」（担当者：馮 雪梅）の履修の手引き

科目名：	中国語コミュニケーションⅦ
担当者：	馮 雪梅
設置学期：	春
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	<p>一年次に習得した中国語の成果をふまえ、引き続き日常生活での様々な場面での口語表現を学ぶ中で中国語文法の一般的事項を学習する。それによって日常場面での基本的な表現を習得し、体系的な文法の知識を身につけ、やや高度な表現ができるようによりしっかりした基礎作りをする。</p> <p>授業の前半では、結果補語“ ”、疑問詞の連用、“有 ～有 ～”構文、使役の“ ”、前置詞“ ”、中止を表す“不～了”、“好好儿”、二重否定“非～不可”“不～不行”、離合動詞、方向動詞と方向補語、受身を表す“被、 ”、“叫”、“ ～ ～”、方向補語“上去”の派生用法、行為の順序を表す“先～再～”を、後半では、“一心想～”、助動詞“想”と“要”、“一口气儿能～”、“已 ～了”、“先～、又～、然后～”、完了の“了”、変化の“了”、“是 ～呢？”、“只～、没～”、“别提多～了”、“～都没～”、動量補語、“～的”、“又开始～了”、“再也没有～了”、時量補語、程度補語、結果補語などについて学習する。</p>
授業方法：	<p>講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。</p> <p>具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、下記の目標の達成を目指す。</p>
履修の留意点：	中国語Ⅱ修了者を対象とする。
目標と評価：	<p>最終的にはHSK2級程度の実力がつくことを目標とする。</p> <p>普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。</p>
教科書：	「留学気分で中国語」 待場裕子・能勢良子・小野秀樹等 白帝社 2001年
参考書：	「私の毎日」 焦凡・勝股高志 白帝社 2001年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「原書講読 I」（担当者：尾村 敬二）の履修の手引き

科目名：	原書講読 I
担当者：	尾村 敬二
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	原書講読Iの授業目的は、英語原書を教材にして世界の経済を学習することです。英語能力を養い、将来に国際的な仕事をしたい人には必須の科目です。基礎的な英語能力があれば脱落せずについてこられる内容であり、英語と日本語の経済用語を習得し、国際経済についての理解が進みます。教科書は以下のとおりです。 Deflation What Happens When Prices Fall Chris Farrell Happer Collins Publishers First Collinns Paperback edition 2005
授業方法：	最初の授業では履修生がどの程度の英語読解能力があるかを試し、その結果によって授業のスピードを決める。2回目以降は、定められた範囲の読解および要約をする。無作為に履修者を指名し、読解をさせる。毎週の予習および復習を義務付けるため、教科書の翻訳および要約をレポート（宿題）として作成を義務付ける。出席点、宿題および最終レポート評価（全体のまとめのレポートを作成）による成績評価を行う。
履修の留意点：	英和辞典を必携すること。可能であれば、経済用語辞典を購入すること。出席は重要であり、欠席が重なれば必ず脱落する科目であることに留意されたい。
目標と評価：	目標は英語の経済書1冊を読みこなせる能力を養うことである。成績評価は授業方法にも記したが、出席点、宿題提出、および、最終レポートによる平常評価である。定期試験は実施しない。
教科書：	Deflation What Happens When Prices Fall Chris Farrell Haper Collins Publishers 2005
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「原書講読Ⅱ」（担当者：尾村 敬二）の履修の手引き

科目名：	原書講読Ⅱ
担当者：	尾村 敬二
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	原書講読Ⅱの授業目的は、英語原書を教材にして世界の経済を学習することです。英語能力を養い、将来に国際的な仕事をしたい人には必須の科目です。基礎的な英語能力があれば脱落せずについてくれる内容であり、英語と日本語の経済用語を習得し、国際経済についての理解が進みます。 なお、本科目は原書講読Ⅰからの継続科目であり、原書講読Ⅰ（春学期）を履修することが望ましい。
授業方法：	最初の授業では履修生がどの程度の英語読解能力があるかを試し、その結果によって授業のスピードを決める。2回目以降は、定められた範囲の読解および要約をする。無作為に履修者を指名し、読解をさせる。
履修の留意点：	英和辞典を必携すること。可能であれば、経済用語辞典を購入すること。
目標と評価：	目標は英語の経済書1冊を読みこなせる能力を養うことである。成績評価は授業方法にも記したが、出席点、宿題提出、および、最終レポートによる平常評価である。定期試験は実施しない。
教科書：	Deflation What Happens When Prices Fall Chris Farrell Harper collins Publishers 2005
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語 I (留学生用)」 (担当者: 河村 玲子) の履修の手引き

科目名:	日本語 I (留学生用)
担当者:	河村 玲子
設置学期:	春
開講回数:	全39回
週コマ数:	週3コマ
概要:	日本語の四技能(読む・書く・話す・聞く)を高め、大学の授業を受ける際の困難を減らすこと、また、日本語能力試験一級程度の日本語力の習得を目的として、主に講義や教科書等で使用される文語表現の読解や作文に重点を置いて勉強していく。
授業方法:	演習方式で、学生の皆さんの積極的な参加、発言を重視して授業を進める。
履修の留意点:	一回一回の授業に集中し、その時間内に最大限に学習項目を習得してほしい。
目標と評価:	基本的な経済用語を含む文章を読んで理解できること、適切な書き言葉を用いて文章を書けること、日本語能力試験一級程度の日本語力の習得、以上の三点を目標とする。評価については、出席点とは別に、授業における課題への取り組み姿勢や提出状況等、平常点を重視する。
教科書:	配布プリントを使用
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語Ⅱ(留学生用)」(担当者: 河村 玲子)の履修の手引き

科目名:	日本語Ⅱ(留学生用)
担当者:	河村 玲子
設置学期:	秋
開講回数:	全39回
週コマ数:	週3コマ
概要:	日本語の四技能(読む・書く・話す・聞く)を高め、大学の授業を受ける際の困難を減らすこと、また、日本語能力試験一級程度の日本語力の習得を目的として、主に講義や教科書等で使用される文語表現の読解や作文に重点を置いて勉強していく。
授業方法:	演習方式で、学生の皆さんの積極的な参加、発言を重視して授業を進める。
履修の留意点:	一回一回の授業に集中し、その時間内に最大限に学習項目を習得してほしい。
目標と評価:	基本的な経済用語を含む文章を読んで理解できること、適切な書き言葉を用いて文章を書けること、日本語能力試験一級程度の日本語力の習得、以上の三点を目標とする。評価については、出席点とは別に、授業における課題への取り組み姿勢や提出状況等、平常点を重視する。
教科書:	配布プリントを使用
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「留学外国語 I」（担当者：サイモン クレイ）の履修の手引き

科目名：	留学外国語 I
担当者：	サイモン クレイ
設置学期：	秋
開講回数：	全0回
週コマ数：	週0コマ
概要：	この授業は長期留学の一部として南ミシシッピ大学で行います。
授業方法：	この授業は長期留学の一部として南ミシシッピ大学で行います。
履修の留意点：	この授業は長期留学の一部として南ミシシッピ大学で行います。
目標と評価：	この授業は長期留学の一部として南ミシシッピ大学で行います。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「留学外国語Ⅰ」（担当者：馮 雪梅）の履修の手引き

科目名：	留学外国語Ⅰ
担当者：	馮 雪梅
設置学期：	秋
開講回数：	全0回
週コマ数：	週0コマ
概要：	留学により認定される科目です。
授業方法：	学内での授業は実施いたしません。
履修の留意点：	履修の他に手続が必要になります。
目標と評価：	成績評価は、授業を行わないため評価点のみの評価とします。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「留学外国語Ⅱ」（担当者：サイモン クレイ）の履修の手引き

科目名：	留学外国語Ⅱ
担当者：	サイモン クレイ
設置学期：	秋
開講回数：	全0回
週コマ数：	週0コマ
概要：	この授業は長期留学の一部として南ミシシッピ大学で行います。
授業方法：	この授業は長期留学の一部として南ミシシッピ大学で行います。
履修の留意点：	この授業は長期留学の一部として南ミシシッピ大学で行います。
目標と評価：	この授業は長期留学の一部として南ミシシッピ大学で行います。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「留学外国語Ⅱ」（担当者：馮 雪梅）の履修の手引き

科目名：	留学外国語Ⅱ
担当者：	馮 雪梅
設置学期：	秋
開講回数：	全0回
週コマ数：	週0コマ
概要：	留学により認定される科目です。
授業方法：	学内での授業は実施いたしません。
履修の留意点：	履修の他に手続が必要になります。
目標と評価：	成績評価は、授業を行わないため評価点のみの評価とします。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「留学外国語Ⅲ」（担当者：サイモン クレイ）の履修の手引き

科目名：	留学外国語Ⅲ
担当者：	サイモン クレイ
設置学期：	秋
開講回数：	全0回
週コマ数：	週0コマ
概要：	この授業は長期留学の一部として南ミシシッピ大学で行います。
授業方法：	この授業は長期留学の一部として南ミシシッピ大学で行います。
履修の留意点：	この授業は長期留学の一部として南ミシシッピ大学で行います。
目標と評価：	この授業は長期留学の一部として南ミシシッピ大学で行います。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「留学外国語Ⅲ」（担当者：馮 雪梅）の履修の手引き

科目名：	留学外国語Ⅲ
担当者：	馮 雪梅
設置学期：	秋
開講回数：	全0回
週コマ数：	週0コマ
概要：	留学により認定される科目です。
授業方法：	学内での授業は実施いたしません。
履修の留意点：	履修の他に手続が必要になります。
目標と評価：	成績評価は、授業を行わないため評価点のみの評価とします。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「スピーチトレーニング」（担当者：熊谷 美代子）の履修の手引き

科目名：	スピーチトレーニング
担当者：	熊谷 美代子
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	スピーチとは、聴衆を前にして一定の時間内にまとまった話をするをいいます。スピーチの力をつけることは、単にスピーチ上手になるというのではなく、話す力、聞く力が磨かれて、話すことに自信がつけます。ふだん会話をしている次の項目のうち、ひとつでも心当たりがある人はぜひこの授業を受けてください。 1、楽しく会話をしたいのに、なぜかいつも会話がはずまない。 2、話したいことが思いうかばない 3、話したいことはあるが、表現のしかたがわからない。 4、相手とうまく話を合わせられない。 5、ありきたりのことしか言えない。 6、まとまった文章を書くのが苦手 7、思いつくままでなく、きちんと話せるようになりたい。
授業方法：	1、全13回のうち、スピーチの実習訓練を4回行います。 2、スピーチのテーマは、「自己紹介」1回、「自由題」2回、「即題」1回です。 3、トレーニング後、自分のスピーチの優れている点と直したい点を明らかにしていきます。 4、スピーチに失敗しないため、スピーチメモ（原稿）の作り方を学び、話したいことを事前にまとめておくようにします。 5、他に、あがらないための方策、表現力を高める方法、聴衆分析法などを学びます。 6、スピーチ実習する日と具体的なテーマは、一週間前に予告します。 7、必要に応じてレジュメを配布します。
履修の留意点：	はじめから完璧にやろうとしないで、目標をひとつずつクリアしてゆくよう努力することが大切です。 ふだんから、身近な出来事や社会情勢などに関心を持ち、自分なりの考えや意見をあたためておくことスピーチの内容が充実します。 成績評価は平常点です。実習日に欠席すると、評価ができなくなります。
目標と評価：	（目標）1、人前できちんと話ができる常識ある社会人になること。 2、スピーチ能力を向上させ、話すことに自信をつけること。 3、人まねでなく、自分らしさを活かしたスピーチができること。 （評価）平常評価とします。 内容は、①スピーチ（4回）の実習点 ②提出物（スピーチの原稿）の成績 ③授業に対する意欲 以上で評価します。
教科書：	
参考書：	「なぜかいつも会話がはずまない人へ」 「話し方の技術」 大島常靖 総合法令 2006年1月 2003年6月

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「スピーチトレーニング」（担当者：熊谷 美代子）の履修の手引き

科目名：	スピーチトレーニング
担当者：	熊谷 美代子
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	スピーチとは、聴衆を前にして一定の時間内にまとまった話をするをいいます。スピーチの力をつけることは、単にスピーチ上手になるというのではなく、話す力、聞く力が磨かれて、話すことに自信がつけます。ふだん会話をしている次の項目のうち、ひとつでも心当たりがある人はぜひこの授業を受けてください。 1、楽しく会話をしたいのに、なぜかいつも会話がはずまない。 2、話したいことが思いうかばない 3、話したいことはあるが、表現のしかたがわからない。 4、相手とうまく話を合わせられない。 5、ありきたりのことしか言えない。 6、まとまった文章を書くのが苦手 7、思いつくままでなく、きちんと話せるようになりたい。
授業方法：	1、全13回のうち、スピーチの実習訓練を4回行います。 2、スピーチのテーマは、「自己紹介」1回、「自由題」2回、「即題」1回です。 3、トレーニング後、自分のスピーチの優れている点と直したい点を明らかにしていきます。 4、スピーチに失敗しないため、スピーチメモ（原稿）の作り方を学び、話したいことを事前 にまとめておくようにします。 5、他に、あがらないための方策、表現力を高める方法、聴衆分析法などを学びます。 6、スピーチ実習する日と具体的なテーマは、一週間前に予告します。 7、必要に応じてレジュメを配布します。
履修の留意点：	はじめから完璧にやろうとしないで、目標をひとつずつクリアしてゆくよう努力することが大切です。 ふだんから、身近な出来事や社会情勢などに関心を持ち、自分なりの考えや意見をあたためておくことスピーチの内容が充実します。 成績評価は平常点です。実習日に欠席すると、評価ができなくなります。
目標と評価：	（目標）1、人前できちんと話ができる常識ある社会人になること。 2、スピーチ能力を向上させ、話すことに自信をつけること。 3、人まねでなく、自分らしさを活かしたスピーチができること。 （評価）平常評価とします。 内容は、①スピーチ（4回）の実習点 ②提出物（スピーチの原稿）の成績 ③授業に対する意欲 以上で評価します。
教科書：	
参考書：	「なぜかいつも会話がはずまない人へ」 「話し方の技術」 大島常靖 総合法令 2006年1月 2003年6月

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「芸術と社会Ⅰ」（担当者：森 康夫）の履修の手引き

科目名：	芸術と社会Ⅰ
担当者：	森 康夫
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	日常生活の中で「芸術」はどのような意味を持っているのか。そしてそれはどのような働きをしているのか。現代は物質欲を満足させることで豊かさを感じる傾向にある。しかし、真の豊かさとは精神面の充実や心の豊かさであり、それを求めなくてはならないことを分かってはいるが、そのアプローチは様々であり、大変難しい。当科目はこの問題を「美術」の面からとらえ、考えていこうというものです。具体的には、西洋美術史を中心に展開するが単に知識の吸収に止まらず、見学などを通して自分の目で確認し、自分なりの物の見方や感じ方を磨いて欲しい。「感情」を学ぶ良い機会ですし。「社交」という面からも必ず役立つはずです。
授業方法：	毎回、テーマのポイントを書いたプリントを配り、それに沿って講義を行う。画集やビデオを見ながら進めるので理解しやすいと思います。 <年間授業計画と芸術全般について説明> *ルネサンスを中心としてロマン派までを解説する /導入として「エジプト美術」のねじれた人物について解説 /ギリシャ/ローマ/ヴィザンチン /ロマネスク/ゴシック /ルネサンス（イタリア）（北方） /バロック/ロココ /新古典派/ロマン派
履修の留意点：	テーマのポイントを書いたプリントを配りますが、自分なりにノートも取ること。 テストがあるので気を抜かないこと。
目標と評価：	目標：自分なりの物の見方や感じ方を磨いて欲しい。 評価：基本的には「展覧会についてのレポート」と「テスト」の両者によるが、授業態度も加味して総合的に評価する。 *「テスト」はそれぞれの美術の特徴を覚えておけばできるものである。 再試はかなり難しいので、最初のテストで頑張ることをお勧めする。
教科書：	西洋美術史 高階秀爾 美術出版社
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「芸術と社会Ⅰ」（担当者：森 康夫）の履修の手引き

科目名：	芸術と社会Ⅰ
担当者：	森 康夫
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	日常生活の中で「芸術」はどのような意味を持っているのか。そしてそれはどのような働きをしているのか。現代は物質欲を満足させることで豊かさを感じる傾向にある。しかし、真の豊かさとは精神面の充実や心の豊かさであり、それを求めなくてはならないことを分かってはいるが、そのアプローチは様々であり、大変難しい。当科目はこの問題を「美術」の面からとらえ、考えていこうというものです。具体的には、西洋美術史を中心に展開するが単に知識の吸収に止まらず、見学などを通して自分の目で確認し、自分なりの物の見方や感じ方を磨いて欲しい。「感情」を学ぶ良い機会ですし。「社交」という面からも必ず役立つはずです。
授業方法：	毎回、テーマのポイントを書いたプリントを配り、それに沿って講義を行う。画集やビデオを見ながら進めるので理解しやすいと思います。 <年間授業計画と芸術全般について説明> *ルネサンスを中心としてロマン派までを解説する /導入として「エジプト美術」のねじれた人物について解説 /ギリシャ/ローマ/ヴィザンチン /ロマネスク/ゴシック /ルネサンス（イタリア）（北方） /バロック/ロココ /新古典派/ロマン派
履修の留意点：	テーマのポイントを書いたプリントを配りますが、自分なりにノートも取ること。 テストがあるので気を抜かないこと。
目標と評価：	目標：自分なりの物の見方や感じ方を磨いて欲しい。 評価：基本的には「展覧会についてのレポート」と「テスト」の両者によるが、授業態度も加味して総合的に評価する。 *「テスト」はそれぞれの美術の特徴を覚えておけばできるものである。 再試はかなり難しいので、最初のテストで頑張ることをお勧めする。
教科書：	西洋美術史 高階秀爾 美術出版社
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「芸術と社会Ⅱ」（担当者：森 康夫）の履修の手引き

科目名：	芸術と社会Ⅱ
担当者：	森 康夫
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	日常生活の中で「芸術」はどのような意味を持っているのか。そしてそれはどのような働きをしているのか。現代は物質欲を満足させることで豊かさを感じる傾向にある。しかし、真の豊かさとは精神面の充実や心の豊かさであり、それを求めなくてはならないことを分かってはいるが、そのアプローチは様々であり、大変難しい。 当科目はこの問題を「美術」の面からとらえ、考えていこうというものです。具体的には、西洋美術史を中心に展開するが単に知識の吸収に止まらず、見学などを通して自分の目で確認し、自分なりの物の見方や感じ方を磨いて欲しい。「感情」を学ぶ良い機会ですし。「社交」という面からも必ず役立つはずです。
授業方法：	毎回、テーマのポイントを書いたプリントを配り、それに沿って講義を行う。画集やビデオを見ながら進めるので理解しやすいと思う。 <年間の授業計画を説明する> * 写実派や印象派から抽象絵画までを解説する 写実派／印象派／後期印象派／象徴派／アールヌーボー／新印象派／ナビ派 ／ナイーブ派／野獣派（フォーヴィズム）／立体派（キュービズム） ドイツ表現派／超現実派（シュールレアリスム）／エコールドパリ／抽象絵画
履修の留意点：	テーマのポイントを書いたプリントを配りますが、自分なりにノートも取ること。 テストがあるので気を抜かない事。
目標と評価：	目標：自分なりの物の見方や感じ方を磨いて欲しい。 評価：基本的には「展覧会についてのレポート」と「テスト」の両者によるが、授業態度も加味して総合的に評価する。 * 「テスト」は簡単な三択形式で行う予定。 再試はかなり難しいので、最初のテストで頑張ることをお勧めする。
教科書：	西洋美術史 高階秀爾 美術出版社
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「芸術と社会Ⅱ」（担当者：森 康夫）の履修の手引き

科目名：	芸術と社会Ⅱ
担当者：	森 康夫
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	日常生活の中で「芸術」はどのような意味を持っているのか。そしてそれはどのような働きをしているのか。現代は物質欲を満足させることで豊かさを感じる傾向にある。しかし、真の豊かさとは精神面の充実や心の豊かさであり、それを求めなくてはならないことを分かってはいるが、そのアプローチは様々であり、大変難しい。 当科目はこの問題を「美術」の面からとらえ、考えていこうというものです。具体的には、西洋美術史を中心に展開するが単に知識の吸収に止まらず、見学などを通して自分の目で確認し、自分なりの物の見方や感じ方を磨いて欲しい。「感情」を学ぶ良い機会ですし。「社交」という面からも必ず役立つはずです。
授業方法：	毎回、テーマのポイントを書いたプリントを配り、それに沿って講義を行う。画集やビデオを見ながら進めるので理解しやすいと思う。 <年間の授業計画を説明する> * 写実派や印象派から抽象絵画までを解説する 写実派／印象派／後期印象派／象徴派／アールヌーボー／新印象派／ナビ派 ／ナイーブ派／野獣派（フォーヴィズム）／立体派（キュービズム） ドイツ表現派／超現実派（シュールレアリスム）／エコールドパリ／抽象絵画
履修の留意点：	テーマのポイントを書いたプリントを配りますが、自分なりにノートも取ること。 テストがあるので気を抜かない事。
目標と評価：	目標：自分なりの物の見方や感じ方を磨いて欲しい。 評価：基本的には「展覧会についてのレポート」と「テスト」の両者によるが、授業態度も加味して総合的に評価する。 * 「テスト」は簡単な三択形式で行う予定。 再試はかなり難しいので、最初のテストで頑張ることをお勧めする。
教科書：	西洋美術史 高階秀爾 美術出版社
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代日本の政治 I」（担当者：門松 秀樹）の履修の手引き

科目名：	現代日本の政治 I
担当者：	門松 秀樹
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	政治学が対象とする「政治」は、行政や経済など、様々な分野と深い関連性を有しています。この授業では、政治学が対象としている「政治」とはどのようなものなのか、ということを中心として、政治学を学ぶに当たって必要になる用語や理論にはどのようなものがあるのか、わが国における「政治」とはどのようなシステムによって運営されているのかといったようなことについて説明を進めていきたいと考えています。こうしたことを通じて、政治学に関する入門的な知識を身に付けてもらいたいと思います。
授業方法：	授業は、講義形式で進めます。基本的には板書が中心となりますが、各自で必要と思う箇所については、特に板書をしなくてもノートを取るようして下さい。
履修の留意点：	履修上、特に必要な要件や準備はありませんが、政治や行政、経済などについて日頃から関心を持つように心がけて下さい。
目標と評価：	この授業では、政治学に関する入門的な知識を身に付けることを目標とします。すなわち、政治学における基礎的な用語や理論等の理解、現代日本における政治制度等に対する理解をすることによって、より専門性の高い議論を行うための基礎を作ります。なお、成績の評価は、授業中に適宜行う小テスト等の平常点（30%）と、学期末に行う筆記試験（70%）の結果を総合して評価します。
教科書：	現代政治学 加茂利男・大西仁・石田徹・伊藤恭彦 有斐閣 平成15年11月20日 新版第3刷発行
参考書：	政治学・行政学の基礎知識 堀江湛（編） 一藝社 平成16年4月15日 初版第1刷発行

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代日本の政治Ⅱ」（担当者：門松 秀樹）の履修の手引き

科目名：	現代日本の政治Ⅱ
担当者：	門松 秀樹
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	政治学において、実際に政治現象を分析していくに当たっては様々な理論や手法があります。この授業では、そうした理論や手法の基本的な説明を行いつつ、選挙や議会、マスコミなど、現代日本における政治過程や政策決定過程などについて、事例を示しつつ説明を進めたいと考えています。ここでは、政治学における分析手法に対する理解と、それに基づく分析の内容を理解することを目指してもらいたいと思います。
授業方法：	授業は、講義形式で進めます。基本的には板書が中心となりますが、各自で必要と思う箇所については、特に板書をしなくてもノートを取るようして下さい。
履修の留意点：	「政治学Ⅱ」の履修にあたって、「政治学Ⅰ」の履修は必要要件とはしませんが、履修していることが望ましいです。政治学に関する基礎的な用語や知識を習得していた方が、より深く授業の内容を理解できると思います。
目標と評価：	この授業では、政治学に関する基礎的な知識を基にして、現状を分析するために必要な議論の内容を理解することを目標とします。例えば、政治過程論や公共政策論といった政治学における理論に基づく分析や議論の内容を、各自が理解できるようになるということです。なお、成績の評価は、授業中に適宜行う小テスト等の平常点（30％）と、学期末に行う筆記試験（70％）の結果を総合して評価します。
教科書：	現代政治学 加茂利男・大西仁・石田徹・伊藤恭彦 有斐閣 平成15年11月20日 新版第3刷発行
参考書：	現代政治学叢書9 公共選択 小林良彰 東京大学出版会 平成17年4月20日 初版第8刷発行

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「国際社会と日本 I」（担当者：嘉悦 康太）の履修の手引き

科目名：	国際社会と日本 I
担当者：	嘉悦 康太
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>作家の立花隆が近著『天皇と東大』でこのように述べています。「日本の政治は、〇五年総選挙における小泉自民党の大勝利を受けて、五十五年体制から〇五体制への大転換を遂げたようである。まだ〇五体制が歴史に対してどのような意味を持つようになるかは見えてこない。しかし、歴史を振り返ると、日本は大きな曲がり角をまわるたびに、大きな過誤を犯してきた。客観情勢の判断ミスあるいは行動のオプションの選択ミスである。（略）」</p> <p>本講義では「国際社会における日本」という文脈のなかで、この”仮説”を「批判的に”検証”してもらいます。対象とする時代区分としては、一般的にこれまで近代日本が経験した3大歴史的転換点を考えています。すなわち：</p> <p>I. 近代国家・明治日本の国際デビュー（1867～1919） I I. 第2次世界大戦の敗戦を経て、国際社会への「復帰」まで（1920～1952） I I I. 高度成長期の終焉と成熟社会への試行（1955～2005）</p> <p>以上（前編）です。</p>
授業方法：	<p>まずは受講生を上記年代分類にしたがって3グループに分けます。そしてグループごとに対象となる時代の「年表作り」から始めてもらいます。</p> <p>その際、各時代々々の「ディスコース（主要な論調）」を各種1～2次資料を分析して併記してもらいます（例えば06年4月現在で言うと「小泉構造改革によって実現された自由主義・競争社会のおかげで日本は長期不況から完全に脱した」「民主党はそれに対抗して（減税、敗者復活の制度などを盛り込んだ）『競争社会への代替イメージ』等の対立軸を打ち出さなくてはならない」「ライブドアの堀江元社長はやはりやり過ぎた」「野球はやはりサッカーより面白い」等々）。</p> <p>そういった作業を通じて「歴史」に立体感を持たせ、ひいては歴史的分析が現代情勢の理解のみならず、将来予測にも役立つことを実感してもらえよう努めます。</p>
履修の留意点：	「公文書」や「統計」（以上「一次資料」という）と「テキスト（事実・理論）」（以上「二次資料」という）を横断的に行き来します。各種ドキュメント（文字／数字／マルチメディアデータ）への興味関心と各種命題・仮説検証に対する知的好奇心が要求されます。
目標と評価：	各段階でのグループワークの作業と最終の個人提出レポートとの総合評価で採点します。
教科書：	『昭和史（新版）』 遠山茂樹ほか 岩波新書 2005（1959）
参考書：	『国際政治下の近代日本』 宮地正人 山川出版社 1987

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「国際社会と日本Ⅱ」（担当者：嘉悦 康太）の履修の手引き

科目名：	国際社会と日本Ⅱ
担当者：	嘉悦 康太
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>作家の立花隆が近著『天皇と東大』でこのように述べています。「日本の政治は、〇五年総選挙における小泉自民党の大勝利を受けて、五十五年体制から〇五体制への大転換を遂げたようである。まだ〇五体制が歴史に対してどのような意味を持つようになるかは見えてこない。しかし、歴史を振り返ると、日本は大きな曲がり角をまわるたびに、大きな過誤を犯してきた。客観情勢の判断ミスあるいは行動のオプションの選択ミスである。（略）」</p> <p>本講義では「国際社会における日本」という文脈のなかで、この”仮説”を「批判的に”検証”してもらいます。対象とする時代区分としては、一般的にこれまで近代日本が経験した3大歴史的転換点を考えています。すなわち：</p> <p>I. 近代国家・明治日本の国際デビュー（1867～1919） I I. 第2次世界大戦の敗戦を経て、国際社会への「復帰」まで（1920～1952） I I I. 高度成長期の終焉と成熟社会への試行（1955～2005）</p> <p>以上（後編）です。</p>
授業方法：	<p>まずは受講生を上記年代分類にしたがって3グループに分けます。そしてグループごとに対象となる時代の「年表作り」から始めてもらいます。</p> <p>その際、各時代々々の「ディスコース（主要な論調）」を各種1～2次資料を分析して併記してもらいます（例えば06年4月現在で言うと「小泉構造改革によって実現された自由主義・競争社会のおかげで日本は長期不況から完全に脱した」「民主党はそれに対抗して（減税、敗者復活の制度などを盛り込んだ）『競争社会への代替イメージ』等の対立軸を打ち出さなくてはならない」「ライブドアの堀江元社長はやはりやり過ぎた」「野球はやはりサッカーより面白い」等々）。</p> <p>そういった作業を通じて「歴史」に立体感を持たせ、ひいては歴史的分析が現代情勢の理解のみならず、将来予測にも役立つことを実感してもらえよう努めます。</p>
履修の留意点：	<p>「公文書」や「統計」（以上「一次資料」という）と「テキスト（事実・理論）」（以上「二次資料」という）を横断的に行き来します。各種ドキュメント（文字／数字／マルチメディアデータ）への興味関心と各種命題・仮説検証に対する知的好奇心が要求されます。</p>
目標と評価：	各段階でのグループワークの成果と最終課題の個人レポートの総合評価で採点します。
教科書：	『昭和史（新版）』 遠山茂樹ほか 岩波新書 2005（1959）
参考書：	『国際政治下の近代日本』 宮地正人 山川出版社 1987

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代企業と社会」（担当者：天野 義也）の履修の手引き

科目名：	現代企業と社会
担当者：	天野 義也
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>①「大学生」として、何故この科目を履修するのか？ - 人間としての「風格作り」とは何か - 社会・会社と諸君との接点とは何か</p> <p>②「戦後日本社会・企業の変化」と、「現在の世界の中における日本」の位置付けは？ - 経済的に日本はどこに行くのか？</p> <p>③「労働」の質的变化は我々の生活にどんな変化を求めているのか？ - 肉体労働から「知的労働」へ</p> <p>④「現実の社会・企業生活」とは？ - 社会・企業のなかでどんな「自己実現」を目指すのか - 「女性の社会進出」と社会・企業構造の変化とは</p> <p>⑤「社会の変遷」と人間の意識変化は？ - 社会現象から見た将来の日本はどうなるか</p> <p>⑥「人間としての生き様」と、「考え抜く」ということ - 「風格」「論理的思考」を持った人間を目指す</p>
授業方法：	<p>①社会・企業の具体的事例（私の経験、新聞、雑誌等）を示しながら、「社会と企業のかかわり」や「人間の生き様」について講義する</p> <p>②生徒数によるが、時々、課題を決めてレポートの実習をする</p>
履修の留意点：	<p>①教室に出る以上は自分なりの問題意識をもって受講すること</p> <p>②1人でも私の授業を真剣に聞いている限り、私語を許さないので喋りたい生徒は静かに教室を退場すること</p>
目標と評価：	<p>[目標]</p> <p>①様々な社会現象を的確に把握し、複眼的な思考で対応する力を養成する</p> <p>②大学生として、真の大人として、社会人への心構えを習得する</p> <p>③自己実現に向け、自分の頭で考える力を身に付ける</p> <p>④人間としての「風格」を身につける大切さを知る</p> <p>[評価]</p> <p>①自分の頭で考えることを主眼としているために、前期の期間中に2回ほど論文の作成を要求する</p> <p>②出席を重視しているので、授業中に出てくるテーマを課題に論文を書かせるのでよく授業を聞いていないとピント外れの論文になってしまうので注意</p> <p>③時々、生徒諸君と直接議論をしながら生徒諸君の問題意識を確認</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代企業と人材」（担当者：天野 義也）の履修の手引き

科目名：	現代企業と人材
担当者：	天野 義也
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	①「大学生」として、何故この科目を履修するのか？——社会は諸君に対して、何を望んでいるか？ ②日本の社会・企業はどのように変化してきたか、また今後、どのような社会が出現するか？この中で諸君はどんな生活をしていくのか？——世界と日本との関係 ③労働の質的变化は、われわれの生活にどんな影響を与えるか？——肉体労働から「知的労働」へ ④現実の社会・企業と自己実現について——「女性の社会進出」により社会・企業の構造はどのように変化するか？ ⑤日本式経営とアメリカ式経営の違いは？——「経営（マネージメント）」とは？ ⑥人間としての生き方と、考えながら生きていくということとは？——「風格」「論理的思考」を持った人間への成長
授業方法：	①社会現象・企業活動の具体的事例（私の経験、新聞、雑誌等）を示しながら、「企業の経営理念」「人間の生き様」について講義する ②生徒数によるが、課題を決めリポートの実習をする
履修の留意点：	①授業に出る以上は、自分なりの「問題意識」をもって受講すること ②1人でも私の授業を真剣に聞いている限り、私語を許さないので喋りたい生徒は、静かに教室を出ること
目標と評価：	【目標】 ①さまざまな社会現象を的確に把握し、「複眼的な思考」で対応する力を養成する ②大学生として、真の大人として「社会人への心構え」を習得する ③「自己実現」に向け、自分の頭で考える力を身に付ける ④人間としての「風格」を身につける大切さを知る 【評価】 ①自分の頭で考えることを主眼としているために、後期の期間中に2回ほど「論文」の作成を要求する ②出席を重視しているため、授業中に出てくるテーマを課題に論文を書かせるので、よく授業を聞いていないとピント外れの論文になってしまうので注意 ③時々、生徒諸君と直接議論をしながら生徒諸君の問題意識を確認
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「人間社会とテクノロジー I」（担当者：生井 良一）の履修の手引き

科目名：	人間社会とテクノロジー I
担当者：	生井 良一
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>概要</p> <p>現代の科学技術の進歩はめざましい。そして、それは我々の社会にも個人の生活にも大きな影響を及ぼしている。一方、人間の幸福とは何であろうか。科学技術と人間あるいは科学技術と社会との関係を多方面から考察することによって、科学技術というものに対して、そのプラス面とマイナス面を考える力を養うことを目指すものである。</p> <p>20世紀に科学技術は急激な発達をとげた。身近なところでみると、テレビも、車も、GPSもあり、一方ではエアコンも普及し、快適で便利な生活がおくれるようになった。江戸時代には東京から京都まで歩いておよそ14日かかったが、飛行機や新幹線の発達で速くどこへでも行けるようになった。パソコンも個人で持てるようになった。携帯電話やインターネットの利用も活発である。科学・技術の進歩で不可能だったことも可能となった。これは、我々にとって大きな恩恵ではないだろうか。</p> <p>その一方で、ややもすると人間が機械に使われてはいないだろうか。便利になったのに、生活が忙しくなっていないだろうか。あるいは人間らしさというものが失われてはいないだろうか。ギスギスした社会になってはいないだろうか。携帯電話は便利である。それを小学生が一人一台持てるというのはいずれのことだろうか。親が子供に携帯電話を持たせないと、いつ自分の子供が誘拐されるか分からないというような社会はいい社会と言えるだろうか。</p> <p>技術と人間あるいは技術と社会との関係をこうした現代技術のプラス面とマイナス面とから考えてみる。</p> <p>一般に人間の問題や社会の問題は正解が無かったり、あったとしてもなかなか見つからないものである。たとえば臓器移植の問題である。賛成の人もいれば、反対の人もいるだろう。中には条件つきでという人もいれば、よく分からないという人もいるだろう。こうした問題に対して、あえて結論は出さずにいろいろな側面から考えてみよう。</p> <p>授業では、以下のようなことを取り上げる</p> <p>最近では地震がひんぱんに発生して、その災害も甚大である。そこで、まず地震について取り上げる。地震発生メカニズムとしてのプレートテクトニクスの話や地震予知について紹介する。その上で、地震が起こった後で、どのような救援活動が大切か、そのようなことについていろいろな側面から考えてみる。</p> <p>次いで、時間や天体、宇宙といったことについて考えてみる。時間の流れと暮らしのとらえかたについては、時代とともに変わってきた。国によっても異なる。江戸時代では、同じ「いつとき」でも昼と夜で長さが違っていったのだ。なぜだろう。あるいは時計が無い時代に、どうやって待ち合わせをしたのだろうか。そんなことを考えると、時計の歴史も、暦の歴史も興味深いものがある。なぜ、うるう年があるのだろうか。こうした歴史を振り返ることで、我々の現代生活を相対的に見つめ、考えてみよう。一方では、世界共通の正確な時間がなぜ必要なのだろうか。</p> <p>昨年は尼崎での鉄道暴走脱線事故があった。いろいろな安全装置が開発されているにもかかわらず、なぜ事故は起こったのだろうか。これに関連して、安全システム、それとヒューマンエラーについて考えてみよう。</p> <p>日本地図を作った伊能忠敬は50歳を過ぎてから隠居し、それから天文学、測量学を学んだ。およそ1800年頃の江戸時代である。そして、日本全国を自分の足で歩いて測量し、日本地図を作った。歩いた距離はほぼ地球一周分に相当する。この地図は、現在の精密な測定方で作った地図と比べてもあまり違いはないほど正確なものだという。ロウテックとハイテック。ときには、このような過去の先人たちの興味あるエピソードも紹介したい。そこから昔の人と現代人について考えてみたい。</p> <p>20世紀は生命科学の進歩が著しく、遺伝子の解明も進んだ。同時に遺伝子診断や臓器移植、あるいは不妊治療、再生医療の技術も進歩した。それに伴い、生命倫理という問題も浮上した。生命技術は一部とはいえ生命そのものの根源まで解明するほど進歩したが、その一方では、ES細胞の問題など、これらの技術は社会的に大きな問題を投げかけている。そこで代理母出産などいろいろな生殖医療やクローン技術、その倫理的問題、あるいは脳死や臓器移植、再生技術といったことに対して、いろいろな事例をあげて考えてみたい。それぞれ自分のことも含めて、「死とは」、「生きてるとは」、「人間が生きてるとはどういうことだろうか」などなど、皆で考えてみよう。</p> <p>それから、福祉にかかわる技術や環境にかかわる技術についてもぜひ取り上げてみたい。トイレで流した後の水はどのようにして処理されているのだろうか。あるいは、二酸化炭素の排出を減らすためにはどんな取り組みがあるのだろうか。障害を持つ人たちはどのような不便を感じているのだろうか。たとえば、目が見えなくて耳も不自由という人たちもいる。どうコミュニケーションを取るのだろうか。技術はその解決にどれだけ貢献してきたのだろうか。</p>
授業方法：	<p>授業の方法</p> <p>講義内容を具体的に理解できるようにいろいろな事例を紹介する。そのためビデオ教材を使用したり、必要に応じてプリントを配布する。質問は大歓迎。疑問に思ったことは皆で議論し、考えるようにしていきたい。ときには、アンケートなどで君たちの意見を聞いたりして、それを授業に反映させていきたい。</p>
履修上の留意点	

履修の留意点：	[人間社会とテクノロジーⅠ]と、秋学期には[人間社会とテクノロジーⅡ]もあるが、それぞれの科目単独でも受講することはできる。なお、受講する上で、必ずしも技術に関する知識は必要としない。ただ、できれば技術に関するニュースや社会現象などに関するニュースなどには関心を持って新聞などを見ていて欲しい。
目標と評価：	<p>目標と評価</p> <p>目標1：技術の進歩はすばらしいが、主体はあくまでも人間であることをしっかり認識して欲しい。</p> <p>目標2：最近の医療技術についてはいろいろな意見があることを知って欲しい。そして、そのケースの背景に目を向けて欲しい。</p> <p>目標3：技術の進歩と人間社会の進歩を対比して、現代生活を考えて欲しい。</p> <p>評価の方法</p> <p>評価については、学期末の試験あるいはそれに替るレポート、それと出席点で決定する。他に授業に積極的に参加しているかどうか、授業中の態度について考慮することもある。100点満点のうち、評価点が70%、出席点が30%である。</p>
教科書：	教科書は使用しない。
参考書：	参考書については、必要に応じて紹介する。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「人間社会とテクノロジー I」（担当者：永松 陽明）の履修の手引き

科目名：	人間社会とテクノロジー I
担当者：	永松 陽明
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>今日、我々の生活は、多くの「テクノロジー（技術）」を利用している。また、「技術」は、生活だけでなく、社会に対しても、企業に対しても大きな影響を与えている。こうした生活・社会・企業に対する「技術が与える影響」は、プラス面だけではなく、マイナス面もある。例えば、自動車の発展は、容易にどこにでも行けるというプラスの効果を持つ反面、環境に負荷を与えるガスの排出というマイナスの効果を持つ。本講義では、「技術が与える影響」を「自動車」「流通（コンビニエンスストア）」「通信（携帯電話）」の3テーマを通じて説明する。また、「技術が与える影響」を理解する上で重要となる「産業構造」、「企業・技術の将来動向」の説明を併せて行う。</p>
授業方法：	講義（60分）と課題レポート作成（30分）を実施する。
履修の留意点：	<p>「現代社会とテクノロジーII」の履修を前提としない。</p> <p>備考 2004年度以前の入学者は「人間社会とテクノロジーI」として、この科目を履修する。</p>
目標と評価：	<p>【目標】 生活・社会・企業に対する「技術が与える影響」（プラス面・マイナス面）を理解する。「自動車」「流通（コンビニエンスストア）」「通信（携帯電話）」における「産業構造」を理解する。例えば、どんな企業があるのか、市場のシェアはどうなっているのかなど。「自動車」「流通（コンビニエンスストア）」「通信（携帯電話）」における「企業・技術の将来動向」を理解する。例えば、環境に対する技術など。</p> <p>【評価】 評価は、下記項目で算出する。 講義内での課題レポート 学期末レポート</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「人間社会とテクノロジーⅡ」（担当者：生井 良一）の履修の手引き

科目名：	人間社会とテクノロジーⅡ
担当者：	生井 良一
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>概要： 概要</p> <p>科学技術が発達したおかげで便利な世の中となった。やく20年前に初めてワープロが開発された。その時の値段は一台600万円以上もしたが、日本語を自由に書けるすばらしさに皆驚嘆した。それが今やばこそん、インターネット、携帯電話の時代となった。読み書きの困難な障害者も、コミュニケーションの難しい障害者もパソコンのおかげで世界が広がった。</p> <p>その一方で、情報交換の手段は進んだのに、人間関係が希薄になったとも言われている。これは、どうしたことだろうか。さらには、ややもすると人間が機械に使われるという心配もある。機会とは道具であり、それを使うのは人間なのだ。機械は社会の在りかたまで変えてしまうかもしれない。だからこそ、科学技術と社会と人間の関係に注目して、技術のプラス面とマイナス面について考えたい。その中で、科学技術の歴史にも触れることになるだろう。</p> <p>授業では、以下のような内容を考えている。</p> <p>まず、情報化社会について、いろいろな事例を紹介しながら考えたい。情報機器については君たちの方が詳しいだろうから、ともに考えて欲しい。情報のやりとりは手軽なものとなった。その便利さは計り知れないほどであるため、多くの人が参加して使用している。したがって、そこには必ずルール、マナーが必要となる。匿名だからといって、何を書いてもいいというものではない、相手を傷つけるようなことをしてはいけないのだ。また、プライバシーが漏れてしまう心配もある。加えて、意識的に悪用するケースもある。出会い系サイトや自殺願望サイトまである。せっかくのすばらしい情報機器も使う人しだいで良くもなり、悪くもなる。情報化社会にあっては、これらプラス面とマイナス面をしっかりと認識し、有効な利用を心がけたいものである。どんなにすばらしい機器であっても、それを使うのは人間なのである。</p> <p>インターネットにはさまざまな情報が載っている。正しい情報もあれば、誤った情報もある。中には危険な情報もある。どれが信頼できる情報化、それを判断するのは利用者自身である。その判断力をどう養えばよいのだろうか。こう考えてくると、それぞれにとって情報とは何だろうか、その意味をあらためて考えてみる必要がある。</p> <p>上記のような意味も含めて、「情報倫理」、「インターネットリテラシー」、「メディアリテラシー」という分野もある。関心があれば、さらに調べて欲しい。</p> <p>地球温暖化防止の技術</p> <p>現在は地球温暖化防止の取り組みが重要な時代である。対策の一つは省エネルギーであり、もう一つは石油や石炭に替わる代替エネルギーの開発である。これらの取り組みの一部を紹介したい。</p> <p>それらの中には、風力発電や太陽光発電といった自然エネルギーの利用もあり、世界各地でさまざまな取り組みが行われている。</p> <p>中には、バイオマスというのものもある。木材やワラ、家畜の排泄物などからエネルギーを取り出そうというものだ。菜の花からジーゼル燃料をつくろうという取り組みもある。バイオマスの特徴は二酸化炭素を増やさないということだ。なぜなら、バイオマスからエネルギーを取り出すときに二酸化炭素が出るが、これは元々大気中にあったものである。木が生長するときに光合成によって取り込んだものだ。だから、植林をしながらバイオマスを使っていけば、二酸化炭素は増えないことになる。これをカーボンニュートラルと呼んでいる。</p> <p>それから、燃料電池の開発がある。これは、水素と酸素を化学反応させて電気と熱を取り出そうというもの。水素と酸素なので、排気されるのは水だけというクリーンエネルギーである。呼び名は電池だが、実際は発電機である。家庭には家庭用の燃料電池を、ビルにはビル用の燃料電池をそれぞれ設置し、必要な電気を自分の所でまかなう。これが実現すれば、将来は水素社会になるという構想もある。車のエンジンとしてはすでに開発されているが、その値段は一台一億円ほどもする。したがって普及を目指した研究がさかんに行われている。</p> <p>一方、原子力発電についてはどうであろうか。原子力発電も二酸化炭素を出さないというメリットがある。しかし、放射能いっばいの使用済み燃料が出るし、事故の心配もある。また、原子力発電所を運転すれば、やっかいなプルトニウムも出てくる。現在電力の35%は原子力による発電である。外国などの対応も参考にしながら、今後を考えてみよう。</p> <p>技術の発達というと、産業革命がある。産業革命をもたらした技術と、その人間生活への影響を考えてみる。蒸気機関の開発に始まり、綿工業、鉄道、通信技術、製鉄業など関連産業が次々と勃興した。これらは人間・社会にきわめて大きな影響を及ぼしたが、それはどんなものだったろうか。そして、産業革命の流れは現代にまで引き続けている。V</p> <p>さて、ライト兄弟がエンジンによる初飛行に成功したのは1903年のこと、今から100年前のことだ。それが現在では、ジェット機宇宙ロケットの時代になった。それを支える通信技術の発達も著しい。そして電気工業、電子工業、化学工業、バイオテクノロジーと続く。現在では、生命科学、ナノテクノロジーがさかんに研究されている。他方、軍事技術の進歩も著しい。これらの技術の進歩を概観し、人間生活や社会、あるいは人間の精神に及ぼした影響を考えてみたい。</p> <p>ヒューマンエラーと事故</p> <p>これだけすばらしい技術に囲まれていても、事故は起こる。医療事故や交通事故はなかなか無くならない。そこには人的ミス、ヒューマンエラーがかかわっている。そう考えられるのではないだろうか。ボカミスは人間にはつきものだ。ヒューマンエラーによる事故の事例を取りあげて、どうして事故につながったのか、どんな対応策があれば良いか、皆で考えてみよう。</p>

	<p>また、情報技術が発達したにもかかわらず人間関係は稀薄になったと言われている。なぜだろうか。あるいは、「ひきこもり」や「アダルトチルドレン」といった現象も多く起きている。こうしたことについても、事例を取りあげながら皆と考えてみたい。</p> <p>さて、人類は宇宙に足を踏み出した。そしてさまざまな危機を使って、宇宙の始まりから宇宙の構造まで解明しようとしている。なぜ人間は宇宙に関心を向けるのだろうか。ときには、こうした宇宙の神秘についても語りたい。</p> <p>また、環境保全機器や福祉機器とテクノロジーの進歩についても実例を挙げながら取りあげてみたい。</p>
授業方法：	<p>授業方法</p> <p>講義内容を具体的に理解できるようにいろいろな事例を紹介する。そのためビデオ教材を使用したり、必要に応じてプリントを配布する。質問は大歓迎、結論は出なくても皆で議論し、考えるようにしていきたい。</p>
履修の留意点：	<p>履修上の留意点</p> <p>〔人間社会とテクノロジーⅠ〕を履修していなくても、この科目を履修することはできる。授業に際しては、自分の経験と照らし合わせながら聞いて欲しい。なお、受講する上で、必ずしも技術に関する知識は必要としない。ただ、できれば情報に関するニュース、あるいは技術に関するニュースなどには関心を持って新聞などを見ていて欲しい。v</p>
目標と評価：	<p>目標と評価</p> <p>目標 1：インターネットやメールはルールを守って使うことを確認する</p> <p>目標 2：情報社会の危険な面もしっかり認識すること</p> <p>目標 3：歴史的にみても、技術の発達は人間・社会に良い影響と悪い影響を及ぼしてきた、この両面性を理解すること</p> <p>目標 4：人間生活、社会生活を陰で支えている技術についても認識すること</p> <p>評価の方法</p> <p>評価については、学期末の試験あるいはそれに替るレポート、それに出席点を合わせて決定する。なお、100点満点のうち、評価点は70%、出席点は30%とする。</p>
教科書：	教科書は使用しない。
参考書：	参考書については、必要に応じて紹介する。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「人間社会とテクノロジーⅡ」（担当者：永松 陽明）の履修の手引き

科目名：	人間社会とテクノロジーⅡ
担当者：	永松 陽明
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>企業にとって、「テクノロジー（技術）」を生み出し、利益をもたらす仕組みをつくるのが益々重要になってきている。</p> <p>パーソナルコンピュータ市場でのインテルとマイクロソフトの成功は、その重要性を示す好例である。一方で、技術を生み出すことと利益をもたらす仕組みをつくるが出来なかった企業は、市場から退出している。例としては家庭用ゲーム機器のセガなどが挙げられる。</p> <p>本講義では、「技術を生み出し、利益をもたらす仕組みの重要性」を下記のテーマを通じて説明する。 (1) 技術の導入、(2) 技術の代替、(3) 特許の有効性、(4) 技術の多角化、(5) ネットワークの外部性とデファクトスタンダード、(6) 共同研究、(7) 政策と技術開発、(8) 技術の評価。 各項目とも、多くの事例を用いて説明を行う。</p>
授業方法：	講義（60分）と課題レポート作成（30分）を実施する。
履修の留意点：	<p>「現代社会とテクノロジーⅠ」の履修を前提としない。</p> <p>備考 2004年度以前の入学者は「人間社会とテクノロジーⅠ」として、この科目を履修する。</p>
目標と評価：	<p>【目標】 「技術を生み出し、利益をもたらす仕組みの重要性」の概要を理解する。 インテル・マイクロソフトの市場地位が築かれたメカニズムを理解する。 技術に関連する国の役割を理解する。</p> <p>【評価】 評価は、下記項目で算出する。 講義内での課題レポート 学期末レポート</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「人間・社会・性 I」（担当者：黒田 慶子）の履修の手引き

科目名：	人間・社会・性 I
担当者：	黒田 慶子
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	本講義ではジェンダー（社会的性差）について、ジェンダーが社会のなかでどのように作られ、また再生産されていくのか、それはどんな社会的役割をはたしているのかを考える。そのためには、まずジェンダーとは何かということを理解することが必要である。ジェンダーは私たちがそれと気づかぬうちに、つまり当たり前だと思っている事柄の中に存在する。そこにジェンダーがあるということに気づくことが大切である。 きわめて微細な日常のなかに存在するジェンダーが、いかにして社会的規範として私たちの社会を貫徹するか、いわばマイクロとマクロな視点を統合することによって、ジェンダーのメカニズムを理解することをめざす。
授業方法：	講義を中心に、意見発表、討論を取り入れる。
履修の留意点：	どれほど積極的にかかわったかを評価にいれるので、出席、討論への参加やレポートの提出が重要である。出席やレポート提出が評価の前提と考えてほしい。
目標と評価：	目標：現代社会におけるジェンダーの意味と役割を理解する。 評価：講義、討論への参加、出席、レポートを総合的に評価する。
教科書：	
参考書：	21世紀のジェンダー論（改訂版） 池内靖子他編 晃洋書房 2004年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「人間・社会・性Ⅱ」（担当者：青山 悦子）の履修の手引き

科目名：	人間・社会・性Ⅱ
担当者：	青山 悦子
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	旧カリキュラムのため、「ジェンダーと社会Ⅱ」を参照。
授業方法：	同上。
履修の留意点：	同上。
目標と評価：	同上。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代社会とファッション」（担当者：高梨 正見）の履修の手引き

科目名：	現代社会とファッション
担当者：	高梨 正見
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	今日は、何を着ていこうか、今日会う人に自分をどう印象付けるか考えて家を出たこと有りますか？ 全身を鏡に映してみたこと有りますか？ これは、日々変化する自分を認識する第一歩であり、同時に自分を変化させていきます。 自分の社会へのプレゼンテーションでもあります。 生活している現代社会は、突然できたものではなく時の流れがあり、その時々価値観があり流行があります。ファッションとは、流行、流行、服飾と辞書にあります。 現代はファッションを服飾(アパレル)業界に主に使われていますが、この授業では、ファッションを本来の広い意味「流行」とらえ「食・生活品・スポーツ・・・」など生活事例をテーマとしてライフスタイルと流行(ファッション)との係わりを考えます、同時に、ファッションの要因であるデザイン・情報・企画とは何かを演習で学びます。
授業方法：	1講義ごとのテーマ設定による講義。 テーマによる演習。 ビデオソフト・パワーポイントによるプロジェクターによる講義。 この映像が教科書に成ります。 講義60分 対話20分。
履修の留意点：	日々の生活の中で周りに起きている「流行」を、意識した生活をしてください。 授業計画の 参考欄に講義用の映像資料を添付します 参考にすること
目標と評価：	「現代社会におけるファッションの意味と役割」への理解と興味の醸成。 生活上の日常的出来事につながる(役立つ)情報学習を中軸とする。 評価 通常点(試験はありません) 出席を重要視します (中間での演習)と(期末の復習レポート)との合計点が 評価点となります
教科書：	生活デザインの社会学 城 一夫 明現社
参考書：	ファッションの原風景 城 一夫 明現社

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代社会とデザイン」（担当者：高梨 正見）の履修の手引き

科目名：	現代社会とデザイン
担当者：	高梨 正見
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	デザインは私達の日々の生活を快適に心豊かにしてくれる活動の一つで、生活環境のあらゆることに影響を与えているのがデザインです。コミュニケーションデザイン、スペースデザイン、インダストリアルデザインなどに分類されている。「遊ぶ・学ぶ・つくる・感じる・交流する」などの創造性を優先する価値観で生活している私達にとって、デザインは空気のようなものでもありますが、自己表現として大切なものでもあります。デザインを感じる(選ぶ)のにも、デザインをするのにもクリエイティビティが必要です日常的現象から、デザインと生活とのかかわりを考察し、同時にデザインング、プランニングなどを学びます。
授業方法：	1講義テーマ設定による講義。 Q & Aによる対話。 テーマによる演習。 ビデオソフトとパワーポイントによるプロジェクター映像講義 (この映像が教科書に成ります)。 講義60分 対話20分。
履修の留意点：	日々の生活で周りあるデザインを常に“自分ならこうする”の視点をもって生活すること。 授業計画(Web)の参考欄に講義用の資料が添付されます。 参考にすること
目標と評価：	「現代社会におけるデザインの意味と役割」の理解と興味の醸成。 日常生活に役立つための情報学習を中軸とする。 最終評価：通常評価 出席を重要視します 試験はありません 「授業での演習」、「期末復習レポート」などの合算で評価します。
教科書：	
参考書：	生活デザイン論 城 一夫 建帛社 平成11年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「社会と生涯スポーツ」（担当者：星 ひろみ）の履修の手引き

科目名：	社会と生涯スポーツ
担当者：	星 ひろみ
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>日々、高齢化がすすむ現代社会において、どのようにしたら充実したライフスタイルが築けるだろうか。そのことをスポーツという視点から考えてみると、「健康の維持・増進に励み、スポーツを楽しむ、ゆとりある生活」ということが大前提である。IT化が進む中、自然に目をむけながらスポーツを楽しむことや、恵まれた食生活という反面、健康を害する中高年世代にとって、適度な運動というものはとても重要なはずである。「社会と生涯スポーツ」の授業では、まず、恵まれた自然の中でからだを動かし、汗を流すことの快適さをしり、そして、スポーツを「文化」ととらえて学んでいきたい。春学期は実技（各種スポーツ）と講義を行う。秋学期は学内での授業はなく、2月3～4週目頃（予定）の海外スポーツ研修に参加する。</p> <p>《コース紹介》</p> <p>① パラオ・ライセンス取得コース *パラオスケジュール ～パラオにてダイビングC級ライセンス取得を目的としたコース。 費用：2004年度実績 ¥241,600（5泊7日）</p> <p>② パラオ・ファンダイブコース *スケジュール（別途説明） ～すでにライセンスを取得している学生でパラオにてダイビング楽しむコース。 費用：2004年度実績 ¥218,600（5泊7日）</p> <p>③ パラオ・アクティビティコース *スケジュール（別途説明） ～世界一透明度の高い海でシーカヤックやシュノーケルを行い、ジャングルに覆われた島を散策するなど、自然をフルに楽しむコース （TBS「サバイバー」の舞台になったところです。） その他、オプションでダイビングやフィッシングも可 費用：2004年度実績 ¥184,700（5泊7日）（オプション代は含まない）</p>
授業方法：	<ul style="list-style-type: none"> ・春学期は様々なスポーツを行う（ゴルフ・バトミント・卓球・ソフトバレーボールなど） ・秋学期は講義を含む事前研修と実習の参加のみ（実技授業は行わない） ・実習は2月の3～4週目頃を予定 <p>*春学期の授業参加が芳しくない場合、実習に参加できないことがある。</p>
履修の留意点：	秋学期の海外スポーツ実習に参加するには、春学期の授業の履修が必須である。（履修希望者は必ず第1週目の授業に参加すること。）
目標と評価：	春学期の実技授業の参加と秋学期の海外スポーツ実習の参加・内容によって評価するが、実習に参加しないと評価できない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代社会と民族Ⅰ」（担当者：安富 成良）の履修の手引き

科目名：	現代社会と民族Ⅰ
担当者：	安富 成良
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	春学期では現代社会における世界の民族問題について包括的に学びます。世界各地でひき起こされてきた民族抗争やエスニック集団間の紛争の原因の一つに宗教問題があげられる場合が多いですが、世界各地の個々の事例を取り上げ、視聴覚教材（主にビデオ）も利用しながらその歴史的背景や現状、そして色々な民族の文化を授業を通して学びます。秋学期では国民国家の枠組みの中に存在する民族問題の代表的な事例としてアメリカの民族問題を素材に現代社会における民族のあり方と国家との関係について考察します。世界各地で起きている民族問題が日本にも直接的・間接的に多大な影響を与える一方、日本にとって日米関係はとりわけこれまで以上に重要になってきており、多民族国家・アメリカを知る事は大きな意味を持つようになってきています。ぜひ学んでおきたい科目です。
授業方法：	講義と各回のテーマに関するビデオを視聴し、毎回その日の「講義・ビデオ」についての感想文を提出。
履修の留意点：	秋学期には具体的な事例としてアメリカの民族問題について深く学び、「現代社会と民族」の授業が完結します。春学期の受講者は秋学期も継続して受講する事が望まれます。特にアメリカに関心を持つ受講生の場合は、秋学期のみの受講も可能です。
目標と評価：	各学期2回レポートと毎回の授業態度・感想文で総合評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代社会と民族Ⅱ」（担当者：安富 成良）の履修の手引き

科目名：	現代社会と民族Ⅱ
担当者：	安富 成良
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	春学期では現代社会における世界の民族問題について包括的に学びます。世界各地でひき起こされてきた民族抗争やエスニック集団間の紛争の原因の一つに宗教問題があげられる場合が多いですが、世界各地の個々の事例を取り上げ、視聴覚教材（主にビデオ）も利用しながらその歴史的背景や現状、そして色々な民族の文化を授業を通して学びます。秋学期では国民国家の枠組みの中に存在する民族問題の代表的な事例としてアメリカの民族問題を素材に現代社会における民族のあり方と国家との関係について考察します。世界各地で起きている民族問題が日本にも直接的・間接的に多大な影響を与える一方、日本にとって日米関係はとりわけこれまで以上に重要になってきており、多民族国家・アメリカを知る事は大きな意味を持つようになってきています。ぜひ学んでおきたい科目です。
授業方法：	講義と各回のテーマに関するビデオを視聴し、毎回その日の「講義・ビデオ」についての感想文を提出。
履修の留意点：	秋学期には具体的な事例としてアメリカの民族問題について深く学び、「現代社会と民族」の授業が完結します。春学期の受講者は秋学期も継続して受講する事が望まれます。特にアメリカに関心を持つ受講生の場合は、秋学期のみの受講も可能です。
目標と評価：	各学期2回レポートと毎回の授業態度・感想文で総合評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「環境と社会Ⅰ」（担当者：生井 良一）の履修の手引き

科目名：	環境と社会Ⅰ
担当者：	生井 良一
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>概要</p> <p>環境問題、特に地球環境問題は世界的にも大きな社会問題となってきた。また、その対策も急がれている。</p> <p>世界人口の急増と活発な人間活動によって、地球の環境は世界各地で破壊されようとしている。環境の悪化は人間社会にも、生き物たちの暮らしにも大きな影響を及ぼそうとしている。</p> <p>生命活動に必要な大気や水、土壌といったものは元からあったものではない。生命が誕生し、その生命と地球が一緒になって、数10億年という長い年月をかけて創りあげてきたものだ。この地球自然システムは、変化に対応して回復能力を持っているものだが、最近の人間活動はその回復能力を超えて拡大しているのだ。これまでは地球の大きさは無限と感じられてきたが、もはや現在では地球の大きさは有限であることを自覚しなければならない。一説には、地球が3個も必要だとも言われる。このままでは、自分たちの生きる基盤の存続さえ危うくなる。経済活動もまた、持続可能な環境があって成り立つものである。</p> <p>こうした観点から、一方では自然のしくみのすばらしさについて、他方では環境破壊の現状について紹介し、合わせて環境保全の取り組みについてもしようかいる。また環境と経済社会、環境と南北問題などについても触れていきたい。これらの基礎的な概念を学び、環境問題への配慮なくしては成り立たない将来の地球社会という視座を獲得する。</p> <p>具体的には、主に次のようなテーマを取り上げたい。</p> <p>まず地球温暖化の影響を概観し、二酸化炭素の削減について考える。そして京都議定書のマイナス6%削減についても触れていきたい。なお、秋学期に、地球温暖化の問題はかなりの時間を割いて考える予定である。</p> <p>次に、オゾン層破壊の問題を取り上げる。オゾン層とはどんなものか、どんなはたらきをしているのだろうか。地球にはオゾン層は元々存在しないものであったが、数10億年という長い年月をかけて地球生命それ自身が作りあげてきた。それは地上の生命を守るバリアーなのだ。それが人間のつくりだした物質によって、ここ数10年で破壊されるという問題が起こった。破壊の原因、オゾン層のはたらき、経済と環境の問題、南北問題、オゾン層保護に世界はどう取り組んできたか、現在の問題点は何か、といったことについて解説する。</p> <p>ついで、森林の大切さについて学ぶ。いわゆる水と緑の関係、そして土との関係である。森林は水の保水力がきわめて大きく、森林と水がある所は自然が豊かであり、一方森林が無くなると土地は荒廃していく。このように森林は環境にとって大事なものだ。ところが、熱帯林の消滅は続いている。熱帯の土地は決して豊かではない。そのため、一度伐採すると、その再生は決して容易なことではない。また熱帯林の減少は生物の多様性の減少にも関係している。一方、このような中で、森林の再生に力を尽くしている人々がいる。これらの人々についても紹介したい。</p> <p>また、森と海は密接な関係を持っている。どんな関係だろうか。そのような事例も紹介し、森のさまざまなはたらきについて考える。</p> <p>ごみ問題・廃棄物問題も世界的な問題となっている。ごみの現状、ごみとリサイクル、ごみを減らす取り組み、世界の状況などについて紹介する。ゼロ・エミッションの取り組みや環境に取り組む企業なども紹介したい。</p> <p>環境問題はごみのことから分かるように、私たち一人一人が被害者でもあり、加害者でもあるのだ。したがって、一人一人が自分の問題として環境問題を考えることが大切なことだ。</p> <p>Think globally, Act locally（視野は広く、行動は足元から）である。</p>
授業方法：	<p>授業方法： 授業の方法</p> <p>講義内容を具体的に理解できるように、いろいろな事例を紹介する。そのために、ビデオ教材をひんぱんに使用する。プリントは必要に応じて配布する。どんな質問でも大歓迎、ささいなことでも疑問があったらどんどん質問して欲しい。</p>
履修の留意点：	<p>履修上の留意点</p> <p>〔環境と社会Ⅰ〕単独でも受講できる。ただ、できることなら「環境と社会Ⅱ」も合わせて受講することが望ましい。</p> <p>受講に際して、〔視野は地球的規模で、行動は足元から〕の原則にしたがい、自分でもできることはないか、そんな気持ちで講義を聞いて欲しい。</p>
	目標と評価

<p>目標と評価：</p>	<p>目標 1：自然はいろいろな要素が密接に関係しあって現在の姿を造っている。その自然のしくみのすばらしさを理解する</p> <p>目標 2：生命維持のシステムは微妙なバランスの上に成り立っていることを理解する</p> <p>目標 3：人間活動について、その影響の大きさを理解すること</p> <p>目標 4：個人の生活スタイルも見直す機会とすること</p> <p>評価方法</p> <p>評価は、学期末の試験あるいはそれに替るレポート、それと出席点を合わせて決定する。ときには、授業中の態度が考慮の対象となることもある。なお、総合点は、評価点が70%、出席点が30%である。</p>
<p>教科書：</p>	<p>教科書は使わない。</p>
<p>参考書：</p>	<p>参考書は、必要に応じ紹介する。</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「環境と社会Ⅰ」（担当者：信澤 由之）の履修の手引き

科目名：	環境と社会Ⅰ
担当者：	信澤 由之
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	近年、環境と経済の調和を図る社会経済システムを構築していく上で、企業や消費者が果たすべき役割が大きくなっている。こうしたことから環境に関する教育の重要性が高まっている。「環境と社会Ⅰ」の授業では、環境に関する諸問題を環境と社会活動の関係や環境保全のための対策の側面から学んでいく。環境と社会活動の関係では、環境問題が発生するメカニズムを分析していくとともに、実際に取り組まれている環境保全の対策事例を結び付け、その理解を深めていきたい。特に、環境問題がどのようなメカニズムで生じ、それをどのように解決していくのか。環境を保全するための費用を誰が負担していくのか、などを考えていく。そして、環境保全型の社会がどのようなものかについて明らかにしていく。この授業では、環境問題が自分の日常生活にどのようにかかわっているのかを理解し、改善の取り組みができるようにしていくことによって環境管理や保全のための総合的な知識を身につけていくことをめざします。
授業方法：	授業は配布資料を用いて授業を進めます。また、教室内の知識だけでは環境問題の深刻さは、十分に理解できません。そこで、この授業では、写真やビデオなどを活用してさまざまな環境問題を取り上げて、それを題材に学んでいきます。 ※教科書については、指定せず、必要に応じて参考書を紹介していきます。
履修の留意点：	特になし
目標と評価：	この授業では、受講した学生が行政や企業、地域社会において環境政策・対策のリーダーシップを取れるようになるようになることをめざします。 評価については、期末試験の成績に、平常点（小テスト、出席など）を加味します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割，出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「環境と社会Ⅰ」（担当者：生井 良一）の履修の手引き

科目名：	環境と社会Ⅰ
担当者：	生井 良一
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>概要</p> <p>環境問題、特に地球環境問題は世界的にも大きな社会問題となってきた。また、その対策も急がれている。</p> <p>世界人口の急増と活発な人間活動によって、地球の環境は世界各地で破壊されようとしている。環境の悪化は人間社会にも、生き物たちの暮らしにも大きな影響を及ぼそうとしている。</p> <p>生命活動に必要な大気や水、土壌といったものは元からあったものではない。生命が誕生し、その生命と地球が一緒になって、数10億年という長い年月をかけて創りあげてきたものだ。この地球自然システムは、変化に対応して回復能力を持っているものだが、最近の人間活動はその回復能力を超えて拡大しているのだ。これまでは地球の大きさは無限と感じられてきたが、もはや現在では地球の大きさは有限であることを自覚しなければならない。一説には、地球が3個も必要だとも言われる。このままでは、自分たちの生きる基盤の存続さえ危うくなる。経済活動もまた、持続可能な環境があって成り立つものである。</p> <p>こうした観点から、一方では自然のしくみのすばらしさについて、他方では環境破壊の現状について紹介し、合わせて環境保全の取り組みについてもしようかいる。また環境と経済社会、環境と南北問題などについても触れていきたい。これらの基礎的な概念を学び、環境問題への配慮なくしては成り立たない将来の地球社会という視座を獲得する。</p> <p>具体的には、主に次のようなテーマを取り上げたい。</p> <p>まず地球温暖化の影響を概観し、二酸化炭素の削減について考える。そして京都議定書のマイナス6%削減についても触れていきたい。なお、秋学期に、地球温暖化の問題はかなりの時間を割いて考える予定である。</p> <p>次に、オゾン層破壊の問題を取り上げる。オゾン層とはどんなものか、どんなはたらきをしているのだろうか。地球にはオゾン層は元々存在しないものであったが、数10億年という長い年月をかけて地球生命それ自身が作りあげてきた。それは地上の生命を守るバリアーなのだ。それが人間のつくりだした物質によって、ここ数10年で破壊されるという問題が起こった。破壊の原因、オゾン層のはたらき、経済と環境の問題、南北問題、オゾン層保護に世界はどう取り組んできたか、現在の問題点は何か、といったことについて解説する。</p> <p>ついで、森林の大切さについて学ぶ。いわゆる水と緑の関係、そして土との関係である。森林は水の保水力がきわめて大きく、森林と水がある所は自然が豊かであり、一方森林が無くなると土地は荒廃していく。このように森林は環境にとって大事なものだ。ところが、熱帯林の消滅は続いている。熱帯の土地は決して豊かではない。そのため、一度伐採すると、その再生は決して容易なことではない。また熱帯林の減少は生物の多様性の減少にも関係している。一方、このような中で、森林の再生に力を尽くしている人々がいる。これらの人々についても紹介したい。</p> <p>また、森と海は密接な関係を持っている。どんな関係だろうか。そのような事例も紹介し、森のさまざまなはたらきについて考える。</p> <p>ごみ問題・廃棄物問題も世界的な問題となっている。ごみの現状、ごみとリサイクル、ごみを減らす取り組み、世界の状況などについて紹介する。ゼロ・エミッションの取り組みや環境に取り組む企業なども紹介したい。</p> <p>環境問題はごみのことから分かるように、私たち一人一人が被害者でもあり、加害者でもあるのだ。したがって、一人一人が自分の問題として環境問題を考えることが大切なことだ。</p> <p>Think globally, Act locally（視野は広く、行動は足元から）である。</p>
授業方法：	<p>授業方法： 授業の方法</p> <p>講義内容を具体的に理解できるように、いろいろな事例を紹介する。そのために、ビデオ教材をひんぱんに使用する。プリントは必要に応じて配布する。どんな質問でも大歓迎、ささいなことでも疑問があったらどんどん質問して欲しい。</p>
履修の留意点：	<p>履修上の留意点</p> <p>〔環境と社会Ⅰ〕単独でも受講できる。ただ、できることなら「環境と社会Ⅱ」も合わせて受講することが望ましい。</p> <p>受講に際して、〔視野は地球的規模で、行動は足元から〕の原則にしたがい、自分でもできることはないか、そんな気持ちで講義を聞いて欲しい。</p>
	目標と評価

<p>目標と評価：</p>	<p>目標 1：自然はいろいろな要素が密接に関係しあって現在の姿を造っている。その自然のしくみのすばらしさを理解する</p> <p>目標 2：生命維持のシステムは微妙なバランスの上に成り立っていることを理解する</p> <p>目標 3：人間活動について、その影響の大きさを理解すること</p> <p>目標 4：個人の生活スタイルも見直す機会とすること</p> <p>評価方法</p> <p>評価は、学期末の試験あるいはそれに替るレポート、それと出席点を合わせて決定する。ときには、授業中の態度が考慮の対象となることもある。なお、総合点は、評価点が70%、出席点が30%である。</p>
<p>教科書：</p>	<p>教科書は使わない。</p>
<p>参考書：</p>	<p>参考書は、必要に応じ紹介する。</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「環境と社会Ⅱ」（担当者：生井 良一）の履修の手引き

科目名：	環境と社会Ⅱ
担当者：	生井 良一
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要	<p>まず、大きな環境問題である地球温暖化問題を詳しく解説する。次いで、世界の人口爆発と環境問題、食料問題、関連して水問題や土壌劣化の問題をとりあげたい。21世紀は水問題の世紀になるのではないとも言われている。</p> <p>人類はおよそ200年前の産業革命依頼、大量のエネルギーを消費してきた。その結果社会が豊かになった、一方で大気汚染などさまざまな環境問題を引き起こしてきた。そして今では、石炭や石油の大量使用によって、地球温暖化が現実になろうとしている。地球温暖化はいろいろな環境問題の中でも、最も大きな環境問題と言われている。暖かくなることで、海面が上昇し、世界各地の海岸に海水が押し寄せてくるのだ。また、気候にも地史的規模で異変が生じ、異常気象が多発し、台風も大型化するようになって予想される。熱波や寒波、洪水や旱魃、乾燥化、砂漠化などが心配されている。こうしたことが世界的規模で起こると、生き物にとっても人間にとっても生存がそれだけ困難になる。食糧生産もきびしくなり、世界の食糧危機も心配されている。</p> <p>こうした地球温暖化について、そのしくみやさまざまな影響、そして温暖化防止のためのいろいろな取り組みなどについてかなりの時間を費やして説明する。</p> <p>温暖化を防止するための国際的な取り決めである京都議定書が昨年2月に発効した。議定書においては、石油や石炭などに対する削減目標が具体的な数値で定められており、日本は1990年比で、2008年から2012年までに6%を削減しなければならないことになっている。これは単なる目標ではなく、義務量である。したがって、6%の削減をどう実現するか、これは今や大きな課題となっている。</p> <p>対策として、大きく分けて二つ考えてみる。一つは省エネルギーである。無駄なエネルギーの使用を減らそうというものだ。もう一つの対策は新エネルギーの開発である。石油や石炭などの化石燃料に代わるエネルギー源を探そうというのだ。それに、原子力エネルギーをどう考えていくかという問題もある。</p> <p>こうした状況の中でも、風力発電、太陽光発電などの自然エネルギーの利用も進んでいる。あるいは発電時に出る熱も合わせて利用するコジェネレーションもある。また、燃料電池の開発も大いに期待されている。燃料電池とは、水素を燃料として発電し、廃棄物は水というクリーンエネルギーである。燃料電池は小型発電所から家庭用電源、携帯電話の電源、燃料電池で動く車などいろいろな利用が考えられている。これら分散型発電方式は世界的にも取り組みが行われている。このような新エネルギーについてもぜひ紹介したい。</p> <p>とにかく地球温暖化は一度引き金がかかると、人間の力ではそれをくい止めることはできないと言われている。化石燃料の使用を抑えることは経済活動と直接関係するだけに、地球温暖化を防止することは非常に難しいことであるが、でも何とかしなければならぬ。このような意味で、経済と環境の問題についても、いろいろな視点から考えてみたい。</p> <p>次に酸性雨について取り上げる。酸性雨は1960年代にヨーロッパや北米で大きな被害をもたらした。湖の魚が死滅したり、森林の木が立ち枯れ状態となった。原因は石炭や石油の燃焼から発生するイオウ酸化物やチンソ酸化物である。これらが空気中で雨に溶けると、硫酸や硝酸という強い酸になるからだ。現在の日本では、イオウ分を除去する脱硫装置があるのでイオウ酸化物についての心配はほぼ無くなった。しかし、チンソ酸化物については車の排気ガスから相変わらず発生している。これが酸性雨の原因となって、空気の流れによっては森林の立ち枯れが起こっている所もある。他方、脱硫装置が無かったり、質の悪い燃料を使っている地域や国では大気汚染もひどく酸性雨による被害も続いている。長い期間酸性雨が続けば、土地の酸性化がいつそう進んで、土壌から重金属が溶け出すという心配もある。とにかく、イオウ酸化物やチンソ酸化物を含んだ空気は国境を越えて広がっていく。そのために被害は汚染物質の発生した地域に限らず、遠く離れた国や地域にも影響する。</p> <p>ついで、世界の人口問題を取りあげる。世界人口は爆発的に増加している。日本では少子化が問題となっているが、全地球的にみると事情は一変する。途上国を中心に20世紀に入ってからのたった100年間で世界人口は4倍ちかくにも急増した。16億人だったのが、60億人を越えたのである。では、その食糧はどうしたか。人々はまずは食べなければならない。それに応えたのが緑の革命であった。20世紀後半に起こった緑の革命は食糧増産に成功した。それには、種子の品種改良、かんがい用水の大量使用、化学肥料や農薬の使用が必要だった。ところが、現在は食糧生産は頭打ちとなってしまった。その一方で世界人口の増加は止まらない。逆に緑の革命は土壌の荒廃、土壌の侵蝕をもたらし、耕地を減少させてしまった。また、水を使い過ぎて水不足ももたらした。中国の大河である黄河でさえ水が無くなっているのだ。日本では実感がわかないが、この水不足は今後21世紀の大きな問題になるのではないとも言われている。</p> <p>人口が増加すれば、食料の需要もエネルギーの需要も増すことになる。それが世界的規模で起これば、地球環境に及ぼす影響は計り知れない。森林を切り払って畑をつくらうとし、あるいは家畜を増やそうとする。家畜の群れは草や木の緑を食べ尽くす。化石燃料の使用も増加し、化石燃料が入手できない所では木を切ったきぎとしていく。こうして森が無くなり、土地の荒廃、砂漠化が進んでいく、自らの生存条件さえ危うくなっているのだ。</p> <p>増加した人間活動により、熱帯雨林の破壊も続いている。同じくマングローブ林も減少しているが、これについては日本との関係が深い。熱帯林は地球の肺とも呼ばれ、多くの生物種が存在しており、きわめて重要なものである。熱帯林を生活の場としている人々にとっても、そこに暮らす生き物にとっても、熱帯林が無くなることは大きな問題でもある。他方、森林を護ろうと植林を続けている人たちもいる。意外なことだが、熱帯林の土地はやせているものなのだ。そして強い陽射し。そうした条件のもとでは植林活動は大変な作業となる。そんな事例も紹介したい。</p> <p>こうした状況の元であらためて、土のはたらき、森林のはたらき、水の循環といった基本的なことに目</p>

概要：

	<p>を向けて、人間活動と「母なる大地」との関係を考えてみたい。</p> <p>さらには、エイズなどの感染症についても言及したい。アフリカやアジアなどでは、現在爆発的にエイズ感染者が増えている。世界としての取り組みも迫られている。先進国といわれる地域では、日本だけが感染者の増加が続いている。あらためて正しい知識を説明し、注意を喚起したい。</p>
授業方法：	<p>授業方法</p> <p>講義内容を具体的に理解できるように、いろいろな事例を紹介する。そのために、ビデオ教材をひんぱんに使用する。プリントは必要に応じて配布する。どんな質問でも大歓迎、こんなことと思われるようなことでも気軽に質問して欲しい。</p>
履修の留意点：	<p>履修上の留意点</p> <p>〔環境と社会Ⅰ〕を履修していなくても、この科目は履修が可能である。環境と経済、それは対立するものなのか、調和できるものなのか、あるいはどんな調和のための取り組みがあるのか、そんなことを自らに問いかけながら授業を聞いて欲しい。なお、受講に際しては、〔視野は地球的規模で、行動は足元から〕の観点から、自分でもできることは実践しよう、そんな気持ちで講義を聞いて欲しい。</p>
目標と評価：	<p>目標と評価</p> <p>目標1：地球温暖化の重要性をしっかりと認識すること</p> <p>目標2：人間活動について、その影響の大きさを理解すること</p> <p>目標3：個人の生活スタイルを見直す機会とすること</p> <p>目標4：自然界では、いろいろなことが互いに関連している、そのことを理解すること</p> <p>評価の方法</p> <p>評価については、学期末の試験あるいはそれに替るレポート、それと出席点で決定する。ときには、授業中の態度が考慮の対象となることもある。出席点は全体の30%と大きいので、要注意。</p>
教科書：	教科書は使用しない。
参考書：	参考書は、必要に応じ紹介する。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「環境と社会Ⅱ」（担当者：信澤 由之）の履修の手引き

科目名：	環境と社会Ⅱ
担当者：	信澤 由之
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	近年、環境と経済の調和を図る社会経済システムを構築していく上で、企業や消費者が果たすべき役割が大きくなっている。こうしたことから環境に関する教育の重要性が高まっている。「環境と社会Ⅱ」の授業では、環境に関する諸問題と経済活動の関係や環境保全のための対策の側面から学んでいく。環境破壊と経済活動の関係では、環境問題が発生するメカニズムを分析していくとともに、消費者レベルでの身近な環境対策の事例と結び付け、その理解を深めていきたい。特に、「電気」、「水道（水）」、「ごみ」の視点から日常生活においてどのような環境に負荷をかけており、その負荷をどのような方法（手段）で軽減できるかを学んでいく。この授業では、環境問題が自分の日常生活にどのようなかかわっているのかを理解し、改善の取り組みができるようにしていくために、「環境家計簿」などを用いて総合的な知識を身につけていくことをめざします。
授業方法：	授業は配布資料を用いて授業を進めます。また、教室内の知識だけでは環境問題の深刻さは、十分に理解できません。そこで、この授業では、写真やビデオなどを活用してさまざまな環境問題を取り上げて、それを題材に学んでいきます。 ※教科書については、指定せず、必要に応じて参考書を紹介していきます。
履修の留意点：	特になし
目標と評価：	この授業では、受講した学生が行政や企業、地域社会において環境政策・対策のリーダーシップを取れるようになることをめざします。 評価については、期末試験の成績に、平常点（小テスト、出席など）を加味します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「環境と社会Ⅱ」（担当者：生井 良一）の履修の手引き

科目名：	環境と社会Ⅱ
担当者：	生井 良一
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>概要</p> <p>まず、大きな環境問題である地球温暖化問題を詳しく解説する。次いで、世界の人口爆発と環境問題、食料問題、関連して水問題や土壌劣化の問題をとりあげたい。21世紀は水問題の世紀になるのではないとも言われている。</p> <p>人類はおよそ200年前の産業革命依頼、大量のエネルギーを消費してきた。その結果社会が豊かになった、一方で大気汚染などさまざまな環境問題を引き起こしてきた。そして今では、石炭や石油の大量使用によって、地球温暖化が現実になろうとしている。地球温暖化はいろいろな環境問題の中でも、最も大きな環境問題と言われている。暖かくなることで、海面が上昇し、世界各地の海岸に海水が押し寄せてくるのだ。また、気候にも地史的規模で異変が生じ、異常気象が多発し、台風も大型化するようになって予想される。熱波や寒波、洪水や旱魃、乾燥化、砂漠化などが心配されている。こうしたことが世界的規模で起こると、生き物にとっても人間にとっても生存がそれだけ困難になる。食糧生産もきびしくなり、世界の食糧危機も心配されている。</p> <p>こうした地球温暖化について、そのしくみやさまざまな影響、そして温暖化防止のためのいろいろな取り組みなどについてかなりの時間を費やして説明する。</p> <p>温暖化を防止するための国際的な取り決めである京都議定書が昨年2月に発効した。議定書においては、石油や石炭などに対する削減目標が具体的な数値で定められており、日本は1990年比で、2008年から2012年までに6%を削減しなければならないことになっている。これは単なる目標ではなく、義務量である。したがって、6%の削減をどう実現するか、これは今や大きな課題となっている。</p> <p>対策として、大きく分けて二つ考えてみる。一つは省エネルギーである。無駄なエネルギーの使用を減らそうというものだ。もう一つの対策は新エネルギーの開発である。石油や石炭などの化石燃料に代わるエネルギー源を探そうというものだ。それに、原子力エネルギーをどう考えていくかという問題もある。</p> <p>こうした状況の中でも、風力発電、太陽光発電などの自然エネルギーの利用も進んでいる。あるいは発電時に出る熱も合わせて利用するコジェネレーションもある。また、燃料電池の開発も大いに期待されている。燃料電池とは、水素を燃料として発電し、廃棄物は水というクリーンエネルギーである。燃料電池は小型発電所から家庭用電源、携帯電話の電源、燃料電池で動く車などいろいろな利用が考えられている。これら分散型発電方式は世界的にも取り組みが行われている。このような新エネルギーについてもぜひ紹介したい。</p> <p>とにかく地球温暖化は一度引き金がかかると、人間の力ではそれをくい止めることはできないと言われている。化石燃料の使用を抑えることは経済活動と直接関係するだけに、地球温暖化を防止することは非常に難しいことであるが、でも何とかしなければならぬ。このような意味で、経済と環境の問題についても、いろいろな視点から考えてみたい。</p> <p>次に酸性雨について取り上げる。酸性雨は1960年代にヨーロッパや北米で大きな被害をもたらした。湖の魚が死滅したり、森林の木が立ち枯れ状態となった。原因は石炭や石油の燃焼から発生するイオウ酸化物やチンソ酸化物である。これらが空気中で雨に溶けると、硫酸や硝酸という強い酸になるからだ。現在の日本では、イオウ分を除去する脱硫装置があるのでイオウ酸化物についての心配はほぼ無くなった。しかし、チンソ酸化物については車の排気ガスから相変わらず発生している。これが酸性雨の原因となつて、空気の流れによっては森林の立ち枯れが起こっている所もある。他方、脱硫装置が無かったり、質の悪い燃料を使っている地域や国では大気汚染もひどく酸性雨による被害も続いている。長い期間酸性雨が続けば、土地の酸性化がいつそう進んで、土壌から重金属が溶け出すという心配もある。とにかく、イオウ酸化物やチンソ酸化物を含んだ空気は国境を越えて広がっていく。そのために被害は汚染物質の発生した地域に限らず、遠く離れた国や地域にも影響する。</p> <p>ついで、世界の人口問題を取りあげる。世界人口は爆発的に増加している。日本では少子化が問題となっているが、全地球的にみると事情は一変する。途上国を中心に20世紀に入ってからのたった100年間で世界人口は4倍ちかくにも急増した。16億人だったのが、60億人を越えたのである。では、その食糧はどうしたか。人々はまずは食べなければならない。それに応えたのが緑の革命であった。20世紀後半に起こった緑の革命は食糧増産に成功した。それには、種子の品種改良、かんがい用水の大量使用、化学肥料や農薬の使用が必要だった。ところが、現在は食糧生産は頭打ちとなってしまった。その一方で世界人口の増加は止まらない。逆に緑の革命は土壌の荒廃、土壌の侵蝕をもたらし、耕地を減少させてしまった。また、水を使い過ぎて水不足ももたらした。中国の大河である黄河でさえ水が無くなっているのだ。日本では実感がわかないが、この水不足は今後21世紀の大きな問題になるのではないとも言われている。</p> <p>人口が増加すれば、食料の需要もエネルギーの需要も増すことになる。それが世界的規模で起これば、地球環境に及ぼす影響は計り知れない。森林を切り払って畑をつくらうとし、あるいは家畜を増やそうとする。家畜の群れは草や木の緑を食べ尽くす。化石燃料の使用も増加し、化石燃料が入手できない所では木を切ったきぎとしていく。こうして森が無くなり、土地の荒廃、砂漠化が進んでいく、自らの生存条件さえ危うくなっているのだ。</p> <p>増加した人間活動により、熱帯雨林の破壊も続いている。同じくマングローブ林も減少しているが、これについては日本との関係が深い。熱帯林は地球の肺とも呼ばれ、多くの生物種が存在しており、きわめて重要なものである。熱帯林を生活の場としている人々にとっても、そこに暮らす生き物にとっても、熱帯林が無くなることは大きな問題でもある。他方、森林を護ろうと植林を続けている人たちもいる。意外なことだが、熱帯林の土地はやせているものなのだ。そして強い陽射し。そうした条件のもとでは植林活動は大変な作業となる。そんな事例も紹介したい。</p> <p>こうした状況の元であらためて、土のはたらき、森林のはたらき、水の循環といった基本的なことに目</p>

	<p>を向けて、人間活動と「母なる大地」との関係を考えてみたい。</p> <p>さらには、エイズなどの感染症についても言及したい。アフリカやアジアなどでは、現在爆発的にエイズ感染者が増えている。世界としての取り組みも迫られている。先進国といわれる地域では、日本だけが感染者の増加が続いている。あらためて正しい知識を説明し、注意を喚起したい。</p>
授業方法：	<p>授業方法</p> <p>講義内容を具体的に理解できるように、いろいろな事例を紹介する。そのために、ビデオ教材をひんぱんに使用する。プリントは必要に応じて配布する。どんな質問でも大歓迎、こんなことと思われるようなことでも気軽に質問して欲しい。</p>
履修の留意点：	<p>履修上の留意点</p> <p>〔環境と社会Ⅰ〕を履修していなくても、この科目は履修が可能である。環境と経済、それは対立するものなのか、調和できるものなのか、あるいはどんな調和のための取り組みがあるのか、そんなことを自らに問いかけながら授業を聞いて欲しい。なお、受講に際しては、〔視野は地球的規模で、行動は足元から〕の観点から、自分でもできることは実践しよう、そんな気持ちで講義を聞いて欲しい。</p>
目標と評価：	<p>目標と評価</p> <p>目標1：地球温暖化の重要性をしっかりと認識すること</p> <p>目標2：人間活動について、その影響の大きさを理解すること</p> <p>目標3：個人の生活スタイルを見直す機会とすること</p> <p>目標4：自然界では、いろいろなことが互いに関連している、そのことを理解すること</p> <p>評価の方法</p> <p>評価については、学期末の試験あるいはそれに替るレポート、それと出席点で決定する。ときには、授業中の態度が考慮の対象となることもある。出席点は全体の30%と大きいので、要注意。</p>
教科書：	教科書は使用しない。
参考書：	参考書は、必要に応じ紹介する。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代社会とテクノロジーⅠ」（担当者：生井 良一）の履修の手引き

科目名：	現代社会とテクノロジーⅠ
担当者：	生井 良一
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>概要</p> <p>現代の科学技術の進歩はめざましい。そして、それは我々の社会にも個人の生活にも大きな影響を及ぼしている。一方、人間の幸福とは何であろうか。科学技術と人間あるいは科学技術と社会との関係を多方面から考察することによって、科学技術というものに対して、そのプラス面とマイナス面を考える力を養うことを目指すものである。</p> <p>20世紀に科学技術は急激な発達をとげた。身近なところでみると、テレビも、車も、GPSもあり、一方ではエアコンも普及し、快適で便利な生活がおくれるようになった。江戸時代には東京から京都まで歩いておよそ14日かかったが、飛行機や新幹線の発達で速くどこへでも行けるようになった。パソコンも個人で持てるようになった。携帯電話やインターネットの利用も活発である。科学・技術の進歩で不可能だったことも可能となった。これは、我々にとって大きな恩恵ではないだろうか。</p> <p>その一方で、ややもすると人間が機械に使われてはいないだろうか。便利になったのに、生活が忙しくなっていないだろうか。あるいは人間らしさというものが失われてはいないだろうか。ギスギスした社会になってはいないだろうか。携帯電話は便利である。それを小学生が一人一台持てるというのはいずれのことだろうか。親が子供に携帯電話を持たせないと、いつ自分の子供が誘拐されるか分からないというような社会はいい社会と言えるだろうか。</p> <p>技術と人間あるいは技術と社会との関係をこうした現代技術のプラス面とマイナス面とから考えてみる。</p> <p>一般に人間の問題や社会の問題は正解が無かったり、あったとしてもなかなか見つからないものである。たとえば臓器移植の問題である。賛成の人もいれば、反対の人もいるだろう。中には条件つきでという人もいれば、よく分からないという人もいるだろう。こうした問題に対して、あえて結論は出さずにいろいろな側面から考えてみよう。</p> <p>授業では、以下のようなことを取り上げる</p> <p>最近では地震がひんぱんに発生して、その災害も甚大である。そこで、まず地震について取り上げる。地震発生メカニズムとしてのプレートテクトニクスの話や地震予知について紹介する。その上で、地震が起こった後で、どのような救援活動が大切か、そのようなことについていろいろな側面から考えてみる。</p> <p>次いで、時間や天体、宇宙といったことについて考えてみる。時間の流れと暮らしのとらえかたについては、時代とともに変わってきた。国によっても異なる。江戸時代では、同じ「いつか」でも昼と夜で長さが違っていたのだ。なぜだろう。あるいは時計が無い時代に、どうやって待ち合わせをしたのだろうか。そんなことを考えると、時計の歴史も、暦の歴史も興味深いものがある。なぜ、うるう年があるのだろうか。こうした歴史を振り返ることで、我々の現代生活を相対的に見つめ、考えてみよう。一方では、世界共通の正確な時間がなぜ必要なのだろうか。</p> <p>昨年では尼崎での鉄道暴走脱線事故があった。いろいろな安全装置が開発されているにもかかわらず、なぜ事故は起こったのだろうか。これに関連して、安全システム、それとヒューマンエラーについて考えてみよう。</p> <p>日本地図を作った伊能忠敬は50歳を過ぎてから隠居し、それから天文学、測量学を学んだ。およそ1800年頃の江戸時代である。そして、日本全国を自分の足で歩いて測量し、日本地図を作った。歩いた距離はほぼ地球一周分に相当する。この地図は、現在の精密な測定方で作った地図と比べてもあまり違いはないほど正確なものだという。ロウテックとハイテック。ときには、このような過去の先人たちの興味あるエピソードも紹介したい。そこから昔の人と現代人について考えてみたい。</p> <p>20世紀は生命科学の進歩が著しく、遺伝子の解明も進んだ。同時に遺伝子診断や臓器移植、あるいは不妊治療、再生医療の技術も進歩した。それに伴い、生命倫理という問題も浮上した。生命技術は一部とはいえ生命そのものの根源まで解明するほど進歩したが、その一方では、ES細胞の問題など、これらの技術は社会的に大きな問題を投げかけている。そこで代理母出産などいろいろな生殖医療やクローン技術、その倫理的問題、あるいは脳死や臓器移植、再生技術といったことに対して、いろいろな事例をあげて考えてみたい。それぞれ自分のことも含めて、「死とは」、「生きているとは」、「人間が生きてるとはどういうことだろうか」などなど、皆で考えてみよう。</p> <p>それから、福祉にかかわる技術や環境にかかわる技術についてもぜひ取り上げてみたい。トイレで流した後の水はどのようにして処理されているのだろうか。あるいは、二酸化炭素の排出を減らすためにはどんな取り組みがあるのだろうか。障害を持つ人たちはどのような不便を感じているのだろうか。たとえば、目が見えなくて耳も不自由という人々もいる。どうコミュニケーションを取るのだろうか。技術はその解決にどれだけ貢献してきたのだろうか。</p>
授業方法：	<p>授業の方法</p> <p>講義内容を具体的に理解できるようにいろいろな事例を紹介する。そのためビデオ教材を使用したり、必要に応じプリントを配布する。質問は大歓迎。疑問に思ったことは皆で議論し、考えるようにしていきたい。ときには、アンケートなどで君たちの意見を聞いたりして、それを授業に反映させていきたい。</p>
	履修上の留意点

履修の留意点：	[現代社会とテクノロジーⅠ]と、秋学期には[現代社会とテクノロジーⅡ]もあるが、それぞれの科目単独でも受講することはできる。なお、受講する上で、必ずしも技術に関する知識は必要としない。ただ、できれば技術に関するニュースや社会現象などに関するニュースなどには関心を持って新聞などを見ていて欲しい。
目標と評価：	<p>目標と評価</p> <p>目標 1：技術の進歩はすばらしいが、主体はあくまでも人間であることをしっかり認識して欲しい。</p> <p>目標 2：最近の医療技術についてはいろいろな意見があることを知って欲しい。そして、そのケースの背景に目を向けて欲しい。</p> <p>目標 3：技術の進歩と人間社会の進歩を対比して、現代生活を考えて欲しい。</p> <p>評価の方法</p> <p>評価については、学期末の試験あるいはそれに替るレポート、それと出席点で決定する。他に授業に積極的に参加しているかどうか、授業中の態度について考慮することもある。100点満点のうち、評価点が70%、出席点が30%である。</p>
教科書：	教科書は使用しない。
参考書：	参考書については、必要に応じて紹介する。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代社会とテクノロジーⅠ」（担当者：永松 陽明）の履修の手引き

科目名：	現代社会とテクノロジーⅠ
担当者：	永松 陽明
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	今日、我々の生活は、多くの「テクノロジー（技術）」を利用している。また、「技術」は、生活だけでなく、社会に対しても、企業に対しても大きな影響を与えている。こうした生活・社会・企業に対する「技術が与える影響」は、プラス面だけでなく、マイナス面もある。例えば、自動車の発展は、容易にどこにでも行けるというプラスの効果を持つ反面、環境に負荷を与えるガスの排出というマイナスの効果を持つ。本講義では、「技術が与える影響」を「自動車」「流通（コンビニエンスストア）」「通信（携帯電話）」の3テーマを通じて説明する。また、「技術が与える影響」を理解する上で重要となる「産業構造」、「企業・技術の将来動向」の説明を併せて行う。
授業方法：	講義（60分）と課題レポート作成（30分）を実施する。
履修の留意点：	「現代社会とテクノロジーⅡ」の履修を前提としない。 備考 2004年度以前の入学者は「人間社会とテクノロジーⅠ」として、この科目を履修する。
目標と評価：	【目標】 ・生活・社会・企業に対する「技術が与える影響」（プラス面・マイナス面）を理解する。 ・「自動車」「流通（コンビニエンスストア）」「通信（携帯電話）」における「産業構造を理解する。例えば、どんな企業があるのか、市場のシェアはどうなっているのかなど。 ・「自動車」「流通（コンビニエンスストア）」「通信（携帯電話）」における「企業・技術の将来動向」を理解する。例えば、環境に対する技術など。 【評価】 評価は、下記項目で算出する。 ・講義内での課題レポート ・学期末レポート
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代社会とテクノロジーⅡ」（担当者：生井 良一）の履修の手引き

科目名：	現代社会とテクノロジーⅡ
担当者：	生井 良一
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>概要： 概要</p> <p>科学技術が発達したおかげで便利な世の中となった。やく20年前に初めてワープロが開発された。その時の値段は一台600万円以上もしたが、日本語を自由に書けるすばらしさに皆驚嘆した。それが今やばこそん、インターネット、携帯電話の時代となった。読み書きの困難な障害者も、コミュニケーションの難しい障害者もパソコンのおかげで世界が広がった。</p> <p>その一方で、情報交換の手段は進んだのに、人間関係が希薄になったとも言われている。これは、どうしたことだろうか。さらには、ややもすると人間が機械に使われるという心配もある。機会とは道具であり、それを使うのは人間なのだ。機械は社会の在りかたまで変えてしまうかもしれない。だからこそ、科学技術と社会と人間の関係に注目して、技術のプラス面とマイナス面について考えたい。その中で、科学技術の歴史にも触れることになるだろう。</p> <p>授業では、以下のような内容を考えている。</p> <p>まず、情報化社会について、いろいろな事例を紹介しながら考えたい。情報機器については君たちの方が詳しいだろうから、ともに考えて欲しい。情報のやりとりは手軽なものとなった。その便利さは計り知れないほどであるため、多くの人々が参加して使用している。したがって、そこには必ずルール、マナーが必要となる。匿名だからといって、何を書いてもいいというものではない、相手を傷つけるようなことをしてはいけないのだ。また、プライバシーが漏れてしまう心配もある。加えて、意識的に悪用するケースもある。出会い系サイトや自殺願望サイトまである。せっかくのすばらしい情報機器も使う人しだいで良くもなり、悪くもなる。情報化社会にあっては、これらプラス面とマイナス面をしっかりと認識し、有効な利用を心がけたいものである。どんなにすばらしい機器であっても、それを使うのは人間なのである。</p> <p>インターネットにはさまざまな情報が載っている。正しい情報もあれば、誤った情報もある。中には危険な情報もある。どれが信頼できる情報化、それを判断するのは利用者自身である。その判断力をどう養えばよいのだろうか。こう考えてくると、それぞれにとって情報とは何だろうか、その意味をあらためて考えてみる必要がある。</p> <p>上記のような意味も含めて、「情報倫理」、「インターネットリテラシー」、「メディアリテラシー」という分野もある。関心があれば、さらに調べて欲しい。</p> <p>地球温暖化防止の技術</p> <p>現在は地球温暖化防止の取り組みが重要な時代である。対策の一つは省エネルギーであり、もう一つは石油や石炭に替わる代替エネルギーの開発である。これらの取り組みの一部を紹介したい。</p> <p>それらの中には、風力発電や太陽光発電といった自然エネルギーの利用もあり、世界各地でさまざまな取り組みが行われている。</p> <p>中には、バイオマスというのものもある。木材やワラ、家畜の排泄物などからエネルギーを取り出そうというものだ。菜の花からジーゼル燃料をつくろうという取り組みもある。バイオマスの特徴は二酸化炭素を増やさないということだ。なぜなら、バイオマスからエネルギーを取り出すときに二酸化炭素が出るが、これは元々大気中にあったものである。木が生長するときに光合成によって取り込んだものだ。だから、植林をしながらバイオマスを使っていけば、二酸化炭素は増えないことになる。これをカーボンニュートラルと呼んでいる。</p> <p>それから、燃料電池の開発がある。これは、水素と酸素を化学反応させて電気と熱を取り出そうというもの。水素と酸素なので、排気されるのは水だけというクリーンエネルギーである。呼び名は電池だが、実際は発電機である。家庭には家庭用の燃料電池を、ビルにはビル用の燃料電池をそれぞれ設置し、必要な電気を自分の所でまかなう。これが実現すれば、将来は水素社会になるという構想もある。車のエンジンとしてはすでに開発されているが、その値段は一台一億円ほどもする。したがって普及を目指した研究がさかんに行われている。</p> <p>一方、原子力発電についてはどうであろうか。原子力発電も二酸化炭素を出さないというメリットがある。しかし、放射能いっばいの使用済み燃料が出るし、事故の心配もある。また、原子力発電所を運転すれば、やっかいなプルトニウムも出てくる。現在電力の35%は原子力による発電である。外国などの対応も参考にしながら、今後を考えてみよう。</p> <p>技術の発達というと、産業革命がある。産業革命をもたらした技術と、その人間生活への影響を考えてみる。蒸気機関の開発に始まり、綿工業、鉄道、通信技術、製鉄業など関連産業が次々と勃興した。これらは人間・社会にきわめて大きな影響を及ぼしたが、それはどんなものだったろうか。そして、産業革命の流れは現代にまで引き続けている。v</p> <p>さて、ライト兄弟がエンジンによる初飛行に成功したのは1903年のこと、今から100年前のことだ。それが現在では、ジェット機宇宙ロケットの時代になった。それを支える通信技術の発達も著しい。そして電気工業、電子工業、化学工業、バイオテクノロジーと続く。現在では、生命科学、ナノテクノロジーがさかんに研究されている。他方、軍事技術の進歩も著しい。これらの技術の進歩を概観し、人間生活や社会、あるいは人間の精神に及ぼした影響を考えてみたい。</p> <p>ヒューマンエラーと事故</p> <p>これだけすばらしい技術に囲まれていても、事故は起こる。医療事故や交通事故はなかなか無くならない。そこには人的ミス、ヒューマンエラーがかかわっている。そう考えられるのではないだろうか。ボカミスは人間にはつきものだ。ヒューマンエラーによる事故の事例を取りあげて、どうして事故につながったのか、どんな対応策があれば良いか、皆で考えてみよう。</p>

	<p>また、情報技術が発達したにもかかわらず人間関係は稀薄になったと言われている。なぜだろうか。あるいは、「ひきこもり」や「アダルトチルドレン」といった現象も多く起きている。こうしたことについても、事例を取りあげながら皆と考えてみたい。</p> <p>さて、人類は宇宙に足を踏み出した。そしてさまざまな危機を使って、宇宙の始まりから宇宙の構造まで解明しようとしている。なぜ人間は宇宙に関心を向けるのだろうか。ときには、こうした宇宙の神秘についても語りたい。</p> <p>また、環境保全機器や福祉機器とテクノロジーの進歩についても事例を挙げながら取りあげてみたい。</p>
授業方法：	<p>授業方法</p> <p>講義内容を具体的に理解できるようにいろいろな事例を紹介する。そのためビデオ教材を使用したり、必要に応じてプリントを配布する。質問は大歓迎、結論は出なくても皆で議論し、考えるようにしていきたい。</p>
履修の留意点：	<p>履修上の留意点</p> <p>〔現代社会とテクノロジーⅠ〕を履修していなくても、この科目を履修することはできる。授業に際しては、自分の経験と照らし合わせながら聞いて欲しい。なお、受講する上で、必ずしも技術に関する知識は必要としない。ただ、できれば情報に関するニュース、あるいは技術に関するニュースなどには関心を持って新聞などを見ていて欲しい。v</p>
目標と評価：	<p>目標と評価</p> <p>目標 1：インターネットやメールはルールを守って使うことを確認する</p> <p>目標 2：情報社会の危険な面もしっかり認識すること</p> <p>目標 3：歴史的にみても、技術の発達は人間・社会に良い影響と悪い影響を及ぼしてきた、この両面性を理解すること</p> <p>目標 4：人間生活、社会生活を陰で支えている技術についても認識すること</p> <p>評価の方法</p> <p>評価については、学期末の試験あるいはそれに替るレポート、それに出席点を合わせて決定する。なお、100点満点のうち、評価点は70%、出席点は30%とする。</p>
教科書：	教科書は使用しない。
参考書：	参考書については、必要に応じて紹介する。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代社会とテクノロジーⅡ」（担当者：永松 陽明）の履修の手引き

科目名：	現代社会とテクノロジーⅡ
担当者：	永松 陽明
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>企業にとって、「テクノロジー（技術）」を生み出し、利益をもたらす仕組みをつくることが益々重要になってきている。</p> <p>パーソナルコンピュータ市場でのインテルとマイクロソフトの成功は、その重要性を示す好例である。一方で、技術を生み出すことと利益をもたらす仕組みをつくるが出来なかった企業は、市場から退出している。例としては家庭用ゲーム機器のセガなどが挙げられる。</p> <p>本講義では、「技術を生み出し、利益をもたらす仕組みの重要性」を下記のテーマを通じて説明する。 (1) 技術の導入、(2) 技術の代替、(3) 特許の有効性、(4) 技術の多角化、(5) ネットワークの外部性とデファクトスタンダード、(6) 共同研究、(7) 政策と技術開発、(8) 技術の評価。 各項目とも、多くの事例を用いて説明を行う。</p>
授業方法：	講義（60分）と課題レポート作成（30分）を実施する。
履修の留意点：	<p>「現代社会とテクノロジーⅠ」の履修を前提としない。</p> <p>備考 2004年度以前の入学者は「人間社会とテクノロジーⅡ」として、この科目を履修する。</p>
目標と評価：	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「技術を生み出し、利益をもたらす仕組みの重要性」の概要を理解する。 ・インテル・マイクロソフトの市場地位が築かれたメカニズムを理解する。 ・技術に関連する国の役割を理解する。 <p>【評価】</p> <p>評価は、下記項目で算出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内での課題レポート ・学期末レポート
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ジェンダーと社会Ⅰ」（担当者：黒田 慶子）の履修の手引き

科目名：	ジェンダーと社会Ⅰ
担当者：	黒田 慶子
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	本講義ではジェンダー（社会的性差）について、ジェンダーが社会のなかでどのように作られ、また再生産されていくのか、それはどんな社会的役割をはたしているのかを考える。そのためには、まずジェンダーとは何かということを理解することが必要である。ジェンダーは私たちがそれと気づかぬうちに、つまり当たり前だと思っている事柄の中に存在する。そこにジェンダーがあるということに気づくことが大切である。 きわめて微細な日常のなかに存在するジェンダーが、いかにして社会的規範として私たちの社会を貫徹するか、いわばマイクロとマクロな視点を統合することによって、ジェンダーのメカニズムを理解することをめざす。
授業方法：	講義を中心に、意見発表、討論を取り入れる。
履修の留意点：	どれほど積極的にかかわったかを評価にいれるので、出席、討論への参加やレポートの提出が重要である。出席やレポート提出が評価の前提と考えてほしい。 なお参考書は私も執筆しているので、あらかじめ読んでおくことが望ましい。
目標と評価：	目標：現代社会におけるジェンダーの意味と役割を理解する。 評価：講義、討論への参加、出席、レポートを総合的に評価する。
教科書：	
参考書：	21世紀のジェンダー論（改訂版） 池内靖子他編 晃洋書房 2004年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ジェンダーと社会Ⅱ」（担当者：青山 悦子）の履修の手引き

科目名：	ジェンダーと社会Ⅱ
担当者：	青山 悦子
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	ジェンダー（社会的性差）の問題については、様々なアプローチの方法があるが、本講義では、皆さんがこれから直面するであろう労働問題を、ジェンダーの視点から見ていくことにする。
授業方法：	教科書は特に指定しないが、講義用レジュメ、資料を配布し、それに沿って、日本の特に女性の労働問題を見ていくことにする。併せて世界の動向も紹介しながら、どうすれば男女が共に平等に処遇される社会が実現できるのかといった議論も、受講者と共に行っていきたい。
履修の留意点：	広く男女の受講者を希望。
目標と評価：	男女が共に平等に処遇される社会について、世界の動向も参考にしながら考察することが目標。評価については、秋学期末の定期試験で評価するが、平常の授業への参加度も加味される。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「社会と異文化コミュニケーション」（担当者：松嶋 哲雄）の履修の手引き

科目名：	社会と異文化コミュニケーション
担当者：	松嶋 哲雄
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	同国人あるいは異国人同士でも、経験・年齢・生活スタイル・価値観・文化背景などの点で、人は様々である。そうした多様性や相違を乗り越えて円滑なコミュニケーションスキルをどのように習得するか、コミュニケーション活動の障害や誤解をどのように解消するか、身近な問題を取り上げて、対話形式や調査、情報収集を通して解決策を探る授業である。
授業方法：	毎回テーマを決めて、解説のための講義と対話・討論形式で解決方法を考える。
履修の留意点：	休まない。暗記する授業ではなく考える授業である。
目標と評価：	普段点
教科書：	なし
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「社会と異文化コミュニケーション」（担当者：松嶋 哲雄）の履修の手引き

科目名：	社会と異文化コミュニケーション
担当者：	松嶋 哲雄
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	同国人あるいは異国人同士でも、経験・年齢・生活スタイル・価値観・文化背景などの点で、人は様々である。そうした多様性や相違を乗り越えて円滑なコミュニケーションスキルをどのように習得するか、コミュニケーション活動の障害や誤解をどのように解消するか、身近な問題を取り上げて、対話形式や調査、情報収集を通して解決策を探る授業である。
授業方法：	毎回テーマを決めて、解説のための講義と対話・討論形式で解決方法を考える。
履修の留意点：	休まない。暗記する授業ではなく考える授業である。
目標と評価：	普段点
教科書：	なし
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「社会と生涯スポーツⅠ」（担当者：星 ひろみ）の履修の手引き

科目名：	社会と生涯スポーツⅠ
担当者：	星 ひろみ
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>日々、高齢化がすすむ現代社会において、どのようにしたら充実したライフスタイルが築けるだろうか。そのことをスポーツという視点から考えてみると、「健康の維持・増進に励み、スポーツを楽しむ、ゆとりある生活」ということが大前提である。IT化が進む中、自然に目をむけながらスポーツを楽しむことや、恵まれた食生活という反面、健康を害する中高年世代にとって、適度な運動というものはとても重要なはずである。「社会と生涯スポーツ」の授業では、まず、恵まれた自然の中でからだを動かし、汗を流すことの快適さをしり、そして、スポーツを「文化」ととらえて学んでいきたい。春学期は実技（各種スポーツ）と講義を行う。秋学期は学内での授業はなく、2月3～4週目頃（予定）の海外スポーツ研修に参加する。</p> <p>《コース紹介》</p> <p>① パラオ・ライセンス取得コース *パラオスケジュール ～パラオにてダイビングC級ライセンス取得を目的としたコース。 費用：2004年度実績 ￥241,600（5泊7日）</p> <p>② パラオ・ファンダイブコース *スケジュール（別途説明） ～すでにライセンスを取得している学生でパラオにてダイビング楽しむコース。 費用：2004年度実績 ￥218,600（5泊7日）</p> <p>③ パラオ・アクティビティコース *スケジュール（別途説明） ～世界一透明度の高い海でシーカヤックやシュノーケルを行い、ジャングルに覆われ た島を散策するなど、自然をフルに楽しむコース （TBS「サバイバー」の舞台になったところです。） その他、オプションでダイビングやフィッシングも可 費用：2004年度実績 ￥184,700（5泊7日）（オプション代は含まない）</p>
授業方法：	<ul style="list-style-type: none"> ・春学期は様々なスポーツを行う（ゴルフ・バトミント・卓球・ソフトバレーボールなど） ・秋学期は講義を含む事前研修と実習の参加のみ（実技授業は行わない） ・実習は2月の3～4週目頃を予定 <p>*春学期の授業参加が芳しくない場合、実習に参加できないことがある。</p>
履修の留意点：	秋学期の海外スポーツ実習に参加するには、春学期の授業の履修が必須である。（履修希望者は必ず第1週目の授業に参加すること。）
目標と評価：	春学期の実技授業の参加と秋学期の海外スポーツ実習の参加・内容によって評価するが、実習に参加しないと評価できない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「社会と生涯スポーツⅡ」（担当者：星 ひろみ）の履修の手引き

科目名：	社会と生涯スポーツⅡ
担当者：	星 ひろみ
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>日々、高齢化がすすむ現代社会において、どのようにしたら充実したライフスタイルが築けるだろうか。そのことをスポーツという視点から考えてみると、「健康の維持・増進に励み、スポーツを楽しむ、ゆとりある生活」ということが大前提である。IT化が進む中、自然に目をむけながらスポーツを楽しむことや、恵まれた食生活という反面、健康を害する中高年世代にとって、適度な運動というものはとても重要なはずである。「社会と生涯スポーツ」の授業では、まず、恵まれた自然の中でからだを動かす、汗を流すことの快適さをしり、そして、スポーツを「文化」ととらえて学んでいきたい。春学期は実技（各種スポーツ）と講義を行う。秋学期は学内での授業はなく、2月3～4週目頃（予定）の海外スポーツ研修に参加する。</p> <p>《コース紹介》</p> <p>① パラオ・ライセンス取得コース *パラオスケジュール ～パラオにてダイビングC級ライセンス取得を目的としたコース。 費用：2004年度実績 ￥241,600（5泊7日）</p> <p>② パラオ・ファンダイブコース *スケジュール（別途説明） ～すでにライセンスを取得している学生でパラオにてダイビング楽しむコース。 費用：2004年度実績 ￥218,600（5泊7日）</p> <p>③ パラオ・アクティビティコース *スケジュール（別途説明） ～世界一透明度の高い海でシーカヤックやシュノーケルを行い、ジャングルに覆われ た島を散策するなど、自然をフルに楽しむコース （TBS「サバイバー」の舞台になったところですよ。） その他、オプションでダイビングやフィッシングも可 費用：2004年度実績 ￥184,700（5泊7日）（オプション代は含まない）</p>
授業方法：	<ul style="list-style-type: none"> ・春学期は様々なスポーツを行う（ゴルフ・バトミント・卓球・ソフトバレーボールなど） ・秋学期は講義を含む事前研修と実習の参加のみ（実技授業は行わない） ・実習は2月の3～4週目頃を予定 <p>* 春学期の授業参加が芳しくない場合、実習に参加できないことがある。</p>
履修の留意点：	秋学期の海外スポーツ実習に参加するには、春学期の授業の履修が必須である。（履修希望者は必ず第1週目の授業に参加すること。）
目標と評価：	春学期の実技授業の参加と秋学期の海外スポーツ実習の参加・内容によって評価するが、実習に参加しないと評価できない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「社会と文化受容」（担当者：宮田 伊知郎）の履修の手引き

科目名：	社会と文化受容
担当者：	宮田 伊知郎
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>日本は「単一の民族」からなり、したがって文化的に「よくまとまった」国とよく言われますが、果たしてそうなのでしょうか。ご存知のように、アイヌ、在日の朝鮮人だけでなく、海外からの出稼ぎ労働者や移民など、多くの人たちが、それぞれの文化を守りながら生活しています。そればかりでなく、都市や農村との違い、地域の差異や、性別、あるいは階級の違いも、それぞれ違った文化を生み出します。わたしたちは、様々な文化が共存する社会に生きているのです。</p> <p>こうしたいわゆる「多文化社会」に生きているわたしたちにとって、自分の文化を知ったり、他の文化のことを知ろうとしたりすることはとても重要です。この授業では、それぞれに異なった文化を持った人たちが、どのように互いに接してきたのか——どのようにぶつかり合い、争ってきたのか、または理解しあい、共存しようとしてきたのか——を、二つの国の経験を見ることによって、考えていきたいと思えます。その国とは、アメリカと日本です。アメリカは、様々な人種の人が共に生きる、世界で最も有名な多文化社会です。「民主主義」や「平等」をスローガンとして掲げるアメリカでは、人種の違いによる差別が、文化間の争いを生み出してきました。本講義では、そうした争いを象徴する重要な出来事に、日本に於ける多文化の関係性について調査報告してもらおうとも考えています。</p>
授業方法：	基本的に講義形式で進めます。それと同時に、出席者の主体的な参加を求めます。そのために、クラスを小グループに分けての調査やその発表を行います。詳細は授業開始時にお伝えします。
履修の留意点：	特にありません。
目標と評価：	<ul style="list-style-type: none"> ● 単に「ほかの人のこと」「遠い時代のこと」「外国のこと」を学ぼうとするのではなく、それを通じて、自分の社会について批判的に考察する技術を体得すること。また、他の国のこと、他の時代のことではなく、つねに自分がその場所に、その時代にいたら、どのように行動するかを考える想像力を養うこと。 ● 自分達が生きる環境のなかにある、多文化的状況を積極的に評価できるようになること。日常生活のなかに埋没した差別・不平等などを見逃さない態度を身につけること。 ● 社会学・現代思想における基本的な学術用語（階級、人種、ジェンダーなど）を使いこなせるようになること。 ● 論理的で論旨のわかりやすいプレゼンテーションができるようになること。 <p>評価点（7割）は、以下のように算出されます（変更の可能性有）。期末レポート試験が35%、小レポートと調査報告がそれぞれ15%、そして、主体的な授業参加（発言等）が5%です。これに出席点3割の点数が加算されて、最終評価が出されます。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「社会と文化受容」（担当者：宮田 伊知郎）の履修の手引き

科目名：	社会と文化受容
担当者：	宮田 伊知郎
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>日本は「単一の民族」からなり、したがって文化的に「よくまとまった」国とよく言われますが、果たしてそうなのでしょうか。ご存知のように、アイヌ、在日の朝鮮人だけでなく、海外からの出稼ぎ労働者や移民など、多くの人たちが、それぞれの文化を守りながら生活しています。そればかりでなく、都市や農村との違い、地域の差異や、性別、あるいは階級の違いも、それぞれ違った文化を生み出します。わたしたちは、様々な文化が共存する社会に生きているのです。</p> <p>こうしたいわゆる「多文化社会」に生きているわたしたちにとって、自分の文化を知ったり、他の文化のことを知ろうとしたりすることはとても重要です。この授業では、それぞれに異なった文化を持った人たちが、どのように互いに接してきたのか——どのようにぶつかり合い、争ってきたのか、または理解しあい、共存しようとしてきたのか——を、二つの国の経験を見ることによって、考えていきたいと思えます。その国とは、アメリカと日本です。アメリカは、様々な人種の人が共に生きる、世界で最も有名な多文化社会です。「民主主義」や「平等」をスローガンとして掲げるアメリカでは、人種の違いによる差別が、文化間の争いを生み出してきました。本講義では、そうした争いを象徴する重要な出来事に、日本に於ける多文化の関係性について調査報告してもらおうとも考えています。</p>
授業方法：	基本的に講義形式で進めます。それと同時に、出席者の主体的な参加を求めます。そのために、クラスを小グループに分けての調査やその発表を行います。詳細は授業開始時にお伝えします。
履修の留意点：	特にありません。
目標と評価：	<ul style="list-style-type: none"> ● 単に「ほかの人のこと」「遠い時代のこと」「外国のこと」を学ぼうとするのではなく、それを通じて、自分の社会について批判的に考察する技術を体得すること。また、他の国のこと、他の時代のことではなく、つねに自分がその場所に、その時代にいたら、どのように行動するかを考える想像力を養うこと。 ● 自分達が生きる環境のなかにある、多文化的状況を積極的に評価できるようになること。日常生活のなかに埋没した差別・不平等などを見逃さない態度を身につけること。 ● 社会学・現代思想における基本的な学術用語（階級、人種、ジェンダーなど）を使いこなせるようになること。 ● 論理的で論旨のわかりやすいプレゼンテーションができるようになること。 <p>評価点（7割）は、以下のように算出されます（変更の可能性有）。期末レポート試験が35%、小レポートと調査報告がそれぞれ15%、そして、主体的な授業参加（発言等）が5%です。これに出席点3割の点数が加算されて、最終評価が出されます。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「少子・高齢化社会と福祉Ⅰ」（担当者：山崎 常雄）の履修の手引き

科目名：	少子・高齢化社会と福祉Ⅰ
担当者：	山崎 常雄
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	豊かな社会の繁栄中であって、児童を取り巻く環境は必ずしも良好とは言えない。少子化傾向が進む中、不登校児童・生徒は年々増加し、いじめによる自殺者も後を絶たない。非行も残虐化し、マスコミによって社会問題として大きく報道され、その原因を究明するが根拠は至って希薄である。一方政府は、子育てを支援する施策を「エンゼルプラン」として事業の目標を示しているが、女性就労の増大と核家族化による児童の環境整備も緊急の課題である。保育所待機数の解消や児童虐待も深刻である。児童福祉の視点から、児童福祉のサービス体系を「法と施策」について紹介し、健全な子育て及び支援のあり方について学習する。
授業方法：	講義形式による。内容は理論と共に実践例を取り上げ、問題を日常的に考え、児童理解を深めることを目指す。
履修の留意点：	現在の児童問題がどういう点にあり、現状はどうなっているのかという問題意識をもって授業に臨むこと。それには新聞・テレビなど日常的で身近な報道に関心を持ち、講義で学んでいることと実情はどう異なるかという意識を持つことが必要である。
目標と評価：	「少子・高齢社会」といわれて久しいが、子どもの数が減少してゆく中で、様々な問題が起こっている。何故子どもの数が少なくなってゆくのか、それによってどういう問題が起こるのか、国の施策はどうなっているのか等を把握できるように学ぶ。
教科書：	家族・児童福祉 庄司洋子・松原康雄・山縣文治編集 有斐閣
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「少子・高齢化社会と福祉Ⅰ」（担当者：山崎 常雄）の履修の手引き

科目名：	少子・高齢化社会と福祉Ⅰ
担当者：	山崎 常雄
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	豊かな社会の繁栄中であって、児童を取り巻く環境は必ずしも良好とは言えない。少子化傾向が進む中、不登校児童・生徒は年々増加し、いじめによる自殺者も後を絶たない。非行も残虐化し、マスコミによって社会問題として大きく報道され、その原因を究明するが根拠は至って希薄である。一方政府は、子育てを支援する施策を「エンゼルプラン」として事業の目標を示しているが、女性就労の増大と核家族化による児童の環境整備も緊急の課題である。保育所待機数の解消や児童虐待も深刻である。児童福祉の視点から、児童福祉のサービス体系を「法と施策」について紹介し、健全な子育て及び支援のあり方について学習する。
授業方法：	講義形式による。内容は理論と共に実践例を取り上げ、問題を日常的に考え、児童理解を深めることを目指す。
履修の留意点：	現在の児童問題がどういう点にあり、現状はどうなっているのかという問題意識をもって授業に臨むこと。それには新聞・テレビなど日常的で身近な報道に関心を持ち、講義で学んでいることと実情はどう異なるかという意識を持つことが必要である。
目標と評価：	「少子・高齢社会」といわれて久しいが、子どもの数が減少してゆく中で、様々な問題が起こっている。何故子どもの数が少なくなってゆくのか、それによってどういう問題が起こるのか、国の施策はどうなっているのか等を把握できるように学ぶ。
教科書：	家族・児童福祉 庄司洋子・松原康雄・山縣文治編集 有斐閣
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「少子・高齢化社会と福祉Ⅱ」（担当者：山崎 常雄）の履修の手引き

科目名：	少子・高齢化社会と福祉Ⅱ
担当者：	山崎 常雄
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	わが国の高齢者問題は、世界一の長寿国であると同時に総人口に占める65歳以上の高齢者の割合が2015年には4人に1人になるという他に例をみない高齢化の速さにある。この人口構成は様々な分野において問題化し、労働人口不足を始め、年金、介護、医療、生きがい等避けて通ることのできない重要な課題である。誰もが高齢者問題は、健康で生きがいのある生活を送ることが幸せである。一方要介護者の問題も年を追うごとに様々な分野で増加し、その対応が追いつかないのが現状である。老後の問題は身近な家族だけのもの、或いは他人事という考えから、いずれ自分たちの問題であるとの認識をもって学習する。
授業方法：	講義形式による。内容は理論と共に新聞などによる実践例をとりあげ、高齢者をめぐる日常的報道を念頭に置き問題意識をもち理解を深める。
履修の留意点：	現在の高齢者問題がどういう点にあり、現状はどうなっているのかという問題意識をもって授業に臨むこと。それには新聞・テレビなど日常的で身近な報道に関心を持ち、講義で学んでいることと実情はどう異なるかという意識を持つことが必要である。
目標と評価：	目標： 「少子・高齢社会」といわれる中で、わが国は世界に類を見ないほどの速さで高齢化が進み、高齢化率も年々高くなっている。高齢社会になると、どういう問題があって、それに対し国の施策はどうなっているのかということ把握する。 評価方法： 基本的には筆記試験による。受講学生が少ない場合は、レポートによる採点方法も考慮したい。
教科書：	高齢者福祉 小笠原祐次・橋本泰子・浅野 仁編集 有斐閣
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「少子・高齢化社会と福祉Ⅱ」（担当者：山崎 常雄）の履修の手引き

科目名：	少子・高齢化社会と福祉Ⅱ
担当者：	山崎 常雄
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	わが国の高齢者問題は、世界一の長寿国であると同時に総人口に占める65歳以上の高齢者の割合が2015年には4人に1人になるという他に例をみない高齢化の速さにある。この人口構成は様々な分野において問題化し、労働人口不足を始め、年金、介護、医療、生きがい等避けて通ることのできない重要な課題である。誰もが高齢者問題は、健康で生きがいのある生活を送ることが幸せである。一方要介護者の問題も年を追うごとに様々な分野で増加し、その対応が追いつかないのが現状である。老後の問題は身近な家族だけのもの、或いは他人事という考えから、いずれ自分たちの問題であるとの認識をもって学習する。
授業方法：	講義形式による。内容は理論と共に新聞などによる実践例をとりあげ、高齢者をめぐる日常的報道を念頭に置き問題意識をもち理解を深める。
履修の留意点：	現在の高齢者問題がどういう点にあり、現状はどうなっているのかという問題意識をもって授業に臨むこと。それには新聞・テレビなど日常的で身近な報道に関心を持ち、講義で学んでいることと実情はどう異なるかという意識を持つことが必要である。
目標と評価：	目標： 「少子・高齢社会」といわれる中で、わが国は世界に類を見ないほどの速さで高齢化が進み、高齢化率も年々高くなっている。高齢社会になると、どういう問題があって、それに対し国の施策はどうなっているのかということ把握する。 評価方法： 基本的には筆記試験による。受講学生が少ない場合は、レポートによる採点方法も考慮したい。
教科書：	高齢者福祉 小笠原祐次・橋本泰子・浅野 仁編集 有斐閣
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済学史 I」（担当者：佐藤 方宣）の履修の手引き

科目名：	経済学史 I
担当者：	佐藤 方宣
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	概要： この「経済学史 I」では「経済学」の誕生以来の歴史的展開について学びます。単に経済学や経済学者についての歴史的知識を学ぶだけではなく、それぞれの時代において人々がどのような問題に直面していたのか、そして個々の経済学説・経済思想がそれに対していかなるかたちで解答しようとする試みであったのか、という点に焦点をあてたいと思います。また現在では自明視されている経済学の概念や分析用具がどのような歴史的経緯で確立してきたのかを学ぶことで、経済学をより深く理解できるようになることを目指します。
授業方法：	授業方法： 基本的に講義形式で行いますが、授業時間内にミニットペーパーを記入してもらうなど、なるべくインタラクティブな授業となるようにしたいと考えています。
履修の留意点：	履修の留意点： <ul style="list-style-type: none"> ・履修希望者は、第1回の講義に必ず参加すること。何らかの理由で参加できなかった場合は、第2回以降すぐに講師にコンタクトをとること。 ・他の学生の静かな受講を妨げる行為については、特に厳しく対処します。あらかじめ留意しておくこと。
目標と評価：	講義の目標： <ul style="list-style-type: none"> ・第一に、経済学の成立期とその後の発展についての歴史的知識を習得すること、第二に、基本的な概念や分析用具の歴史的形成過程を知ることによって経済学をより深く理解できるようになること。 評価について： <ul style="list-style-type: none"> ・学期末試験の点数に平常点（出席、受講態度、レスポンス・ペーパーなど）を加味して総合的に判断します。 ・また任意提出の読書レポートの評価を加点することも考えています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済学史Ⅱ」（担当者：佐藤 方宣）の履修の手引き

科目名：	経済学史Ⅱ
担当者：	佐藤 方宣
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>概要： この「経済学史Ⅱ」では20世紀の経済学・経済思想の展開について学びます。現在にいたる経済学と政策思想の歴史的展開を学ぶなかで、単に経済学や経済学者についての歴史的知識を得るだけでなく、現代の経済社会問題を考えるための基礎教養を身につけていただければと思います。また現在では自明視されている経済学の概念や分析用具がどのような歴史的経緯で確立してきたのかを学ぶことで、経済学をより深く理解できるようになることを目指します。</p>
授業方法：	<p>授業方法： 基本的に講義形式で行いますが、授業時間内にミニットペーパーを記入してもらうなど、なるべくインタラクティブな授業となるようにしたいと考えています。</p>
履修の留意点：	<p>履修の留意点： <ul style="list-style-type: none"> ・履修希望者は、第1回の講義に必ず参加すること。何らかの理由で参加できなかった場合は、第2回以降すぐに講師にコンタクトをとること。 ・他の学生の静かな受講を妨げる行為については、特に厳しく対処します。あらかじめ留意しておくこと。 </p>
目標と評価：	<p>講義の目標： <ul style="list-style-type: none"> ・第一に、20世紀の経済学と政策思想の展開についての歴史的知識を習得すること、第二に、基本的な概念や分析用具の歴史的形成過程を知ることによって現代の経済学と政策思想をより深く理解できるようになること。 </p> <p>評価について： <ul style="list-style-type: none"> ・学期末試験の点数に平常点（出席、受講態度、レスポンス・ペーパーなど）を加味して総合的に判断します。 ・また任意提出の読書レポートの評価を加点することも考えています。 </p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済数学 I」（担当者：山崎 康之）の履修の手引き

科目名：	経済数学 I
担当者：	山崎 康之
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>経済学の理論を学習する上で必要となる数学について講義します。その基礎的知識の習得とそれが経済学とどのように関係しているかを理解することがその目的です。経済数学 I では、その内、ベクトルと行列（高校の数学では、それぞれ「数学B」と「数学C」にあります）と行列式などの線形代数を使って、連立方程式の一般的解法について学びます。</p> <p>この授業で取り上げる主なトピックとその順序は、以下の通りです。</p> <p>線形代数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ベクトルと行列 2. 連立1次方程式 3. 行列式
授業方法：	通常の講義によります。
履修の留意点：	高校の数学 I を正確に理解していることが望ましい。 (最初の授業の、その理解度を確認するための簡単な予備テストを行います。)
目標と評価：	中間試験および期末試験（ウエイトは各50%）により評価します。
教科書：	やさしく学べる基礎数学—線形代数・微分積分 石村園子 共立出版 2001年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済数学Ⅱ」（担当者：山崎 康之）の履修の手引き

科目名：	経済数学Ⅱ
担当者：	山崎 康之
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>経済学の理論を学習する上で必要となる数学について講義します。その基礎理論の習得とそれが経済学とどのように関係しているのかを理解することがその目的です。経済数学Ⅱでは、その内、微分と積分などの解析（高校の数学では、「数学Ⅱ」と「数学Ⅲ」にあります）について、その初歩的理論と経済学的応用について学びます。</p> <p>この授業で取り上げる主なトピックとその順序は、以下の通りです。</p> <p>微分積分 1. 関数 2. 微分 3. 積分</p>
授業方法：	通常の講義によります。
履修の留意点：	高校の数学Ⅰをきちんと理解していることが望ましい。 （最初の授業の時にその理解度の確認のための簡単な予備テストを行います。）
目標と評価：	中間試験および期末試験（ウエイトは各50%）の結果により評価します。
教科書：	やさしく学べる基礎数学—線形代数・微分積分 石村園子 共立出版 2001年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「統計学 I」（担当者：田尻 慎太郎）の履修の手引き

科目名：	統計学 I
担当者：	田尻 慎太郎
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>統計学は数学ができないと分からない。高校時代の確率・統計がチンプンカンプンだった。そんな理由で統計学を毛嫌いしている人は多いのではないのでしょうか？たしかに統計学では数学の知識を多少は必要としますが、現在では計算の多くの部分をMS Excelをはじめとしたコンピュータ・アプリケーションが行ってくれます。むしろ大事なのは、データを収集し、それを実戦的に分析する能力を身につけることです。データに裏打ちされていない議論の多くは説得力を欠きます。統計学は経済学や経営学のみならず、多くの学問の基礎となるものであり、また卒業後もみなさんが仕事をする上で欠かせない実務上のツールとなります。</p> <p>そこで、この授業ではアンケート調査を実際に行うことで自らデータを収集し、段階を踏んでそれを加工、整理、分析する方法を学びます。アンケート調査ではオープン・ソース・ソフトウェアとして開発されているSQS (Shared Questionnaire System) を使います。単純に数学が得意、Excelがもっと使えるようになりたい、コンピュータで何か新しいことを学びたいなど、さまざまな熱意ある人の履修を希望します。</p>
授業方法：	<p>教科書は使用しません。必要な資料等は適宜、授業時間内に紹介・配布します。</p> <p>以下に示す授業計画に従って進めます。</p> <p>第1回 インタロダクション 第2回 データとは？ 第3回 データの視覚化 第4回 アンケート調査のしくみ 第5回 仮説を立てる 第6回 アンケート票の設計（SQS入門） 第7回 授業内プリテスト 第8回 データの要約 第9回 クロス集計（ピボットテーブル） 第10回 検定 第11回 回帰分析 第12回 調査結果発表会 第13回 報告書の提出</p>
履修の留意点：	<p>アンケート調査の設計、実施、分析、発表はテーマごとにグループになって行います。またアンケート票の作成や配布、回収など授業時間外も課題としての作業が必要となりますので、協力してグループワークを進めることが重要です。</p> <p>授業では毎回、Excelを使いますので充電したノートPCを必ず持参してください。</p> <p>この授業とあわせて月曜1/2限に開講される「表計算によるビジネス情報分析」も同時に履修することをおすすめします。</p>
目標と評価：	<p>成績評価は、出席（30点）、グループで行う調査結果発表会のプレゼンテーション（30点）、個人ごとに提出する報告書（20点）、その他の課題・平常点（20点）とします。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「統計学Ⅱ」（担当者：田尻 慎太郎）の履修の手引き

科目名：	統計学Ⅱ
担当者：	田尻 慎太郎
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>本講義では、統計学の諸概念を学ぶことに重点を置く。その際に、単に数式を書くのではなく、実際にソフトウェアを自分で動かすことでより体感的な理解を得られるようにする。フリーソフトウェア（無料）として配布されているRを用いる。RはMS Excelでは困難な統計分析を簡単に行える統計専用の言語である。授業では実際にインターネットから種々のデータをダウンロードし、それをRで分析しながら、各種の統計学のコンセプトを学んでいく。</p> <p>http://www.okada.jp.org/RWiki/</p>
授業方法：	<p>教科書を使用するので、必ず購入し、毎週持参すること。 教科書に載ってないプログラム等については、印刷して配布するか学ナビに掲載する。 また毎授業、Rを使用するので、必ず充電済みのノートPCを持参すること。</p>
履修の留意点：	春学期の統計学Ⅰとは独立した授業なので、統計学Ⅰを履修している必要はない。
目標と評価：	成績評価は、出席（30点）、コンピュータを利用した中間課題（30点）、レポート形式の期末課題（40点）とする。
教科書：	R/S-PLUSによる統計解析入門 垂水共之・飯塚誠也 共立出版 2006
参考書：	フレッシュマンから大学院生までのデータ解析・R言語 渡辺利夫 ナカニシヤ出版 2005

※最終評価は、評価点7割，出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「数学Ⅰ」（担当者：山崎 康之）の履修の手引き

科目名：	数学Ⅰ
担当者：	山崎 康之
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	経済学の理論を学習する上で必要となる数学について講義します。その基礎的知識の習得とそれが経済学とどのように関係しているかを理解することがその目的です。経済数学Ⅰでは、その内、ベクトルと行列（高校の数学では、それぞれ「数学B」と「数学C」にあります）と行列式などの線形代数を使って、連立方程式の一般的解法について学びます。
授業方法：	通常の講義によります。
履修の留意点：	高校の数学Ⅰを正確に理解していることが望ましい。
目標と評価：	中間試験および期末試験（ウエイトは各50%）により評価します。
教科書：	やさしく学べる基礎数学—線形代数・微分積分 石村園子 共立出版 2001年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「数学Ⅱ」（担当者：山崎 康之）の履修の手引き

科目名：	数学Ⅱ
担当者：	山崎 康之
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	経済学の理論を学習する上で必要となる数学について講義します。その基礎理論の習得とそれが経済学とどのように関係しているのかを理解することがその目的です。経済数学Ⅱでは、その内、微分と積分などの解析（高校の数学では、「数学Ⅱ」と「数学Ⅲ」にあります）について、その初歩的理論と経済学的応用について学びます。
授業方法：	通常の講義によります。
履修の留意点：	高校の数学Ⅰをきちんと理解していることが望ましい。
目標と評価：	中間試験および期末試験（ウエイトは各50%）の結果により評価します。
教科書：	やさしく学べる基礎数学—線形代数・微分積分 石村園子 共立出版 2001年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済政策 I」（担当者：佐藤 方宣）の履修の手引き

科目名：	経済政策 I
担当者：	佐藤 方宣
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	概要： この「経済政策 I」では「経済政策」の問題を論じる上での基本的知識、とりわけ経済学的な知識の取得を目指します。経済政策の問題を考える際にミクロ・マクロ経済学の基本的知識がどのように助けとなるのか、具体的なトピックスに即して学んでいきます。さまざまな政策問題について、経済学的な観点から捉えられるようになっていただければと思います。
授業方法：	授業方法： <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義形式で行います。 ・ 授業時間内にレスポンス・ペーパーを記入してもらうなど、なるべくインタラクティブな授業となるようにしたいと考えています。
履修の留意点：	履修の留意点： <ul style="list-style-type: none"> ・ 履修希望者は、第1回の講義に必ず参加すること。何らかの理由で参加できなかった場合は、第2回以降、すぐに講師にコンタクトをとること。 ・ 他の学生の静かな履修を妨げる行為については、特に厳しく対処します。あらかじめ留意しておくこと。
目標と評価：	目標と評価： 講義の目標： <ul style="list-style-type: none"> ・ 第一に、経済政策の問題を論じるための経済学の基本的知識を習得すること、第二に、現代の政策問題について考慮に入れるべきさまざまな観点に目配りした上で自分自身の判断を下せるようになること。 評価について： <ul style="list-style-type: none"> ・ 学期末試験の点数に平常点（出席、受講態度、レスポンス・ペーパーなど）を加味して総合的に判断します。 ・ また任意提出の読書レポートの評価を加点することも考えています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済政策Ⅱ」（担当者：佐藤 方宣）の履修の手引き

科目名：	経済政策Ⅱ
担当者：	佐藤 方宣
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>概要：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済政策の問題を考える上では経済学の基本的知識が重要になりますが、それだけでは十分とはいえません。例えば近年話題になっている若年層の雇用環境の問題（若年層の失業率の増大やフリーター・ニートの増加）、あるいは年金や社会保険など社会保障制度のあり方、そして環境問題への公的介入といった問題を考えるためには、個別の政策論点にそくして、さまざまな観点から政策の望ましさや適切さを考える必要があります。 ・この「経済政策Ⅱ」では、少子化問題、若年層雇用の問題、環境問題、年金・社会保障問題などについて、経済学とその周辺領域の知見を参照しつつ、少し広い観点から考えてみたいと思います。
授業方法：	<p>授業方法：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義形式で行います。 ・授業時間内にレスポンス・ペーパーを記入してもらうなど、なるべくインタラクティブな授業となるようにしたいと考えています。
履修の留意点：	<p>履修の留意点：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・履修希望者は、第1回の講義に必ず参加すること。何らかの理由で参加できなかった場合は、第2回以降、すぐに講師にコンタクトをとること。 ・他の学生の静かな履修を妨げる行為については、特に厳しく対処します。あらかじめ留意しておくこと。
目標と評価：	<p>講義の目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一に、経済政策の具体的な問題を考える上で最低限必要な知識を習得し、具体的な問題を考える際に自分でそれを利用できるようになること。第二に、具体的な政策問題にそくして自分自身で考えるようになること。 <p>評価について：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期末試験の点数に平常点（出席、受講態度、レスポンス・ペーパーなど）を加味して総合的に判断します。 ・また任意提出の読書レポートの評価を加点することも考えています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「地球と環境Ⅰ」（担当者：生井 良一）の履修の手引き

科目名：	地球と環境Ⅰ
担当者：	生井 良一
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>概要</p> <p>環境問題、特に地球環境問題は世界的にも大きな社会問題となってきた。また、その対策も急がれている。</p> <p>世界人口の急増と活発な人間活動によって、地球の環境は世界各地で破壊されようとしている。環境の悪化は人間社会にも、生き物たちの暮らしにも大きな影響を及ぼそうとしている。</p> <p>生命活動に必要な大気や水、土壌といったものは元からあったものではない。生命が誕生し、その生命と地球が一緒になって、数10億年という長い年月をかけて創りあげてきたものだ。この地球自然システムは、変化に対応して回復能力を持っているものだが、最近の人間活動はその回復能力を超えて拡大しているのだ。これまでは地球の大きさは無限と感じられてきたが、もはや現在では地球の大きさは有限であることを自覚しなければならない。一説には、地球が3個も必要だとも言われる。このままでは、自分たちの生きる基盤の存続さえ危うくなる。経済活動もまた、持続可能な環境があって成り立つものである。</p> <p>こうした観点から、一方では自然のしくみのすばらしさについて、他方では環境破壊の現状について紹介し、合わせて環境保全の取り組みについてもしようかいる。また環境と経済社会、環境と南北問題などについても触れていきたい。これらの基礎的な概念を学び、環境問題への配慮なくしては成り立たない将来の地球社会という視座を獲得する。</p> <p>具体的には、主に次のようなテーマを取り上げたい。</p> <p>まず地球温暖化の影響を概観し、二酸化炭素の削減について考える。そして京都議定書のマイナス6%削減について、もう一度確認したい。なお、秋学期に、地球温暖化の問題はかなりの時間を割いて考える予定である。</p> <p>次に、オゾン層破壊の問題を取り上げる。オゾン層とはどんなものか、どんなはたらきをしているのだろうか。地球にはオゾン層は元々存在しないものであったが、数10億年という長い年月をかけて地球生命それ自身がつくりあげてきた。それは地上の生命を守るバリアーなのだ。それが人間のつくりだした物質によって、ここ数10年で破壊されるという問題が起こった。破壊の原因、オゾン層のはたらき、経済と環境の問題、南北問題、オゾン層保護に世界はどう取り組んできたか、現在の問題点は何か、といったことについて解説する。</p> <p>ついで、森林の大切さについて学ぶ。いわゆる水と緑の関係、そして土との関係である。森林は水の保水力がきわめて大きく、森林と水がある所は自然が豊かであり、一方森林が無くなると土地は荒廃していく。このように森林は環境にとって大事なものだ。ところが、熱帯林の消滅は続いている。熱帯の土地は決して豊かではない。そのため、一度伐採すると、その再生は決して容易なことではない。また熱帯林の減少は生物の多様性の減少にも関係している。一方、このような中で、森林の再生に力を尽くしている人々がいる。これらの人々についても紹介したい。</p> <p>また、森と海は密接な関係を持っている。どんな関係だろうか。そのような事例も紹介し、森のさまざまなはたらきについて考える。</p> <p>ごみ問題・廃棄物問題も世界的な問題となっている。ごみの現状、ごみとリサイクル、ごみを減らす取り組み、世界の状況などについて紹介する。ゼロ・エミッションの取り組みや環境に取り組む企業なども紹介したい。</p> <p>環境問題はごみのことから分かるように、私たち一人一人が被害者でもあり、加害者でもあるのだ。したがって、一人一人が自分の問題として環境問題を考えることが大切なことだ。</p> <p>Think globally, Act locally（視野は広く、行動は足元から）である。</p>
授業方法：	<p>授業方法： 授業の方法</p> <p>講義内容を具体的に理解できるように、いろいろな事例を紹介する。そのために、ビデオ教材をひんぱんに使用する。プリントは必要に応じて配布する。どんな質問でも大歓迎、ささいなことでも疑問があったらどんどん質問して欲しい。</p>
履修の留意点：	<p>履修上の留意点</p> <p>〔地球と環境Ⅰ〕単独でも受講できる。ただ、できることなら「地球と環境Ⅱ」も合わせて受講することが望ましい。</p> <p>受講に際して、〔視野は地球的規模で、行動は足元から〕の原則にしたがい、自分でもできることはないか、そんな気持ちで講義を聞いて欲しい。</p>
	目標と評価

<p>目標と評価：</p>	<p>目標 1：自然はいろいろな要素が密接に関係しあって現在の姿を造っている。その自然のしくみのすばらしさを理解する</p> <p>目標 2：生命維持のシステムは微妙なバランスの上に成り立っていることを理解する</p> <p>目標 3：人間活動について、その影響の大きさを理解すること</p> <p>目標 4：個人の生活スタイルも見直す機会とすること</p> <p>評価方法</p> <p>評価は、学期末の試験あるいはそれに替るレポート、それと出席点を合わせて決定する。ときには、授業中の態度が考慮の対象となることもある。なお、総合点は、評価点が70%、出席点が30%である。</p>
<p>教科書：</p>	<p>教科書は使用しない。</p>
<p>参考書：</p>	<p>参考書は、必要に応じ紹介する。</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「地球と環境Ⅰ」（担当者：信澤 由之）の履修の手引き

科目名：	地球と環境Ⅰ
担当者：	信澤 由之
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	近年、環境と経済の調和を図る社会経済システムを構築していく上で、企業や消費者が果たすべき役割が大きくなっている。こうしたことから環境に関する教育の重要性が高まっている。「環境と社会Ⅰ」の授業では、環境に関する諸問題を環境と社会活動の関係や環境保全のための対策の側面から学んでいく。環境と社会活動の関係では、環境問題が発生するメカニズムを分析していくとともに、実際に取り組まれている環境保全の対策事例を結び付け、その理解を深めていきたい。特に、環境問題がどのようなメカニズムで生じ、それをどのように解決していくのか。環境を保全するための費用を誰が負担していくのか、などを考えていく。そして、環境保全型の社会がどのようなものかについて明らかにしていく。この授業では、環境問題が自分の日常生活にどのようにかかわっているのかを理解し、改善の取り組みができるようにしていくことによって環境管理や保全のための総合的な知識を身につけていくことをめざします。
授業方法：	授業は配布資料を用いて授業を進めます。また、教室内の知識だけでは環境問題の深刻さは、十分に理解できません。そこで、この授業では、写真やビデオなどを活用してさまざまな環境問題を取り上げて、それを題材に学んでいきます。 ※教科書については、指定せず、必要に応じて参考書を紹介していきます。
履修の留意点：	特になし
目標と評価：	この授業では、受講した学生が行政や企業、地域社会において環境政策・対策のリーダーシップを取れるようになるようになることをめざします。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「地球と環境Ⅰ」（担当者：生井 良一）の履修の手引き

科目名：	地球と環境Ⅰ
担当者：	生井 良一
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>概要</p> <p>環境問題、特に地球環境問題は世界的にも大きな社会問題となってきた。また、その対策も急がれている。</p> <p>世界人口の急増と活発な人間活動によって、地球の環境は世界各地で破壊されようとしている。環境の悪化は人間社会にも、生き物たちの暮らしにも大きな影響を及ぼそうとしている。</p> <p>生命活動に必要な大気や水、土壌といったものは元からあったものではない。生命が誕生し、その生命と地球が一緒になって、数10億年という長い年月をかけて創りあげてきたものだ。この地球自然システムは、変化に対応して回復能力を持っているものだが、最近の人間活動はその回復能力を超えて拡大しているのだ。これまでは地球の大きさは無限と感じられてきたが、もはや現在では地球の大きさは有限であることを自覚しなければならない。一説には、地球が3個も必要だとも言われる。このままでは、自分たちの生きる基盤の存続さえ危うくなる。経済活動もまた、持続可能な環境があって成り立つものである。</p> <p>こうした観点から、一方では自然のしくみのすばらしさについて、他方では環境破壊の現状について紹介し、合わせて環境保全の取り組みについてもしようかいる。また環境と経済社会、環境と南北問題などについても触れていきたい。これらの基礎的な概念を学び、環境問題への配慮なくしては成り立たない将来の地球社会という視座を獲得する。</p> <p>具体的には、主に次のようなテーマを取り上げたい。</p> <p>まず地球温暖化の影響を概観し、二酸化炭素の削減について考える。そして京都議定書のマイナス6%削減について、もう一度確認したい。なお、秋学期に、地球温暖化の問題はかなりの時間を割いて考える予定である。</p> <p>次に、オゾン層破壊の問題を取り上げる。オゾン層とはどんなものか、どんなはたらきをしているのだろうか。地球にはオゾン層は元々存在しないものであったが、数10億年という長い年月をかけて地球生命それ自身がつくりあげてきた。それは地上の生命を守るバリアーなのだ。それが人間のつくりだした物質によって、ここ数10年で破壊されるという問題が起こった。破壊の原因、オゾン層のはたらき、経済と環境の問題、南北問題、オゾン層保護に世界はどう取り組んできたか、現在の問題点は何か、といったことについて解説する。</p> <p>ついで、森林の大切さについて学ぶ。いわゆる水と緑の関係、そして土との関係である。森林は水の保全力がきわめて大きく、森林と水がある所は自然が豊かであり、一方森林が無くなると土地は荒廃していく。このように森林は環境にとって大事なものだ。ところが、熱帯林の消滅は続いている。熱帯の土地は決して豊かではない。そのため、一度伐採すると、その再生は決して容易なことではない。また熱帯林の減少は生物の多様性の減少にも関係している。一方、このような中で、森林の再生に力を尽くしている人々がいる。これらの人々についても紹介したい。</p> <p>また、森と海は密接な関係を持っている。どんな関係だろうか。そのような事例も紹介し、森のさまざまなはたらきについて考える。</p> <p>ごみ問題・廃棄物問題も世界的な問題となっている。ごみの現状、ごみとリサイクル、ごみを減らす取り組み、世界の状況などについて紹介する。ゼロ・エミッションの取り組みや環境に取り組む企業なども紹介したい。</p> <p>環境問題はごみのことから分かるように、私たち一人一人が被害者でもあり、加害者でもあるのだ。したがって、一人一人が自分の問題として環境問題を考えることが大切なことだ。</p> <p>Think globally, Act locally（視野は広く、行動は足元から）である。</p>
授業方法：	<p>授業方法： 授業の方法</p> <p>講義内容を具体的に理解できるように、いろいろな事例を紹介する。そのために、ビデオ教材をひんぱんに使用する。プリントは必要に応じて配布する。どんな質問でも大歓迎、ささいなことでも疑問があったらどんどん質問して欲しい。</p>
履修の留意点：	<p>履修上の留意点</p> <p>〔地球と環境Ⅰ〕単独でも受講できる。ただ、できることなら「地球と環境Ⅱ」も合わせて受講することが望ましい。</p> <p>受講に際して、〔視野は地球的規模で、行動は足元から〕の原則にしたがい、自分でもできることはないか、そんな気持ちで講義を聞いて欲しい。</p>
	目標と評価

<p>目標と評価：</p>	<p>目標 1：自然はいろいろな要素が密接に関係しあって現在の姿を造っている。その自然のしくみのすばらしさを理解する</p> <p>目標 2：生命維持のシステムは微妙なバランスの上に成り立っていることを理解する</p> <p>目標 3：人間活動について、その影響の大きさを理解すること</p> <p>目標 4：個人の生活スタイルも見直す機会とすること</p> <p>評価方法</p> <p>評価は、学期末の試験あるいはそれに替るレポート、それと出席点を合わせて決定する。ときには、授業中の態度が考慮の対象となることもある。なお、総合点は、評価点が70%、出席点が30%である。</p>
<p>教科書：</p>	<p>教科書は使用しない。</p>
<p>参考書：</p>	<p>参考書は、必要に応じ紹介する。</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「地球と環境Ⅱ」（担当者：生井 良一）の履修の手引き

科目名：	地球と環境Ⅱ
担当者：	生井 良一
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要	<p>まず、大きな環境問題である地球温暖化問題を詳しく解説する。次いで、世界の人口爆発と環境問題、食料問題、関連して水問題や土壌劣化の問題をとりあげたい。21世紀は水問題の世紀になるのではないかととも言われている。</p> <p>人類はおよそ200年前の産業革命依頼、大量のエネルギーを消費してきた。その結果社会が豊かになった、一方で大気汚染などさまざまな環境問題を引き起こしてきた。そして今では、石炭や石油の大量使用によって、地球温暖化が現実になろうとしている。地球温暖化はいろいろな環境問題の中でも、最も大きな環境問題と言われている。暖かくなることで、海面が上昇し、世界各地の海岸に海水が押し寄せてくるのだ。また、気候にも地史的規模で異変が生じ、異常気象が多発し、台風も大型化するようになって予想される。熱波や寒波、洪水や旱魃、乾燥化、砂漠化などが心配されている。こうしたことが世界的規模で起こると、生き物にとっても人間にとっても生存がそれだけ困難になる。食糧生産もきびしくなり、世界の食糧危機も心配されている。</p> <p>こうした地球温暖化について、そのしくみやさまざまな影響、そして温暖化防止のためのいろいろな取り組みなどについてかなりの時間を費やして説明する。</p> <p>温暖化を防止するための国際的な取り決めである京都議定書が昨年2月に発効した。議定書においては、石油や石炭などに対する削減目標が具体的な数値で定められており、日本は1990年比で、2008年から2012年までに6%を削減しなければならないことになっている。これは単なる目標ではなく、義務量である。したがって、6%の削減をどう実現するか、これは今や大きな課題となっている。</p> <p>対策として、大きく分けて二つ考えてみる。一つは省エネルギーである。無駄なエネルギーの使用を減らそうというものだ。もう一つの対策は新エネルギーの開発である。石油や石炭などの化石燃料に代わるエネルギー源を探そうというものだ。それに、原子力エネルギーをどう考えていくかという問題もある。</p> <p>こうした状況の中でも、風力発電、太陽光発電などの自然エネルギーの利用も進んでいる。あるいは発電時に出る熱も合わせて利用するコジェネレーションもある。また、燃料電池の開発も大いに期待されている。燃料電池とは、水素を燃料として発電し、廃棄物は水というクリーンエネルギーである。燃料電池は小型発電所から家庭用電源、携帯電話の電源、燃料電池で動く車などいろいろな利用が考えられている。これら分散型発電方式は世界的にも取り組みが行われている。このような新エネルギーについてもぜひ紹介したい。</p> <p>とにかく地球温暖化は一度引き金がかかると、人間の力ではそれをくい止めることはできないと言われている。化石燃料の使用を抑えることは経済活動と直接関係するだけに、地球温暖化を防止することは非常に難しいことであるが、でも何とかしなければならぬ。このような意味で、経済と環境の問題についても、いろいろな視点から考えてみたい。</p> <p>次に酸性雨について取り上げる。酸性雨は1960年代にヨーロッパや北米で大きな被害をもたらした。湖の魚が死滅したり、森林の木が立ち枯れ状態となった。原因は石炭や石油の燃焼から発生するイオウ酸化物やチンソ酸化物である。これらが空気中で雨に溶けると、硫酸や硝酸という強い酸になるからだ。現在の日本では、イオウ分を除去する脱硫装置があるのでイオウ酸化物についての心配はほぼ無くなった。しかし、チンソ酸化物については車の排気ガスから相変わらず発生している。これが酸性雨の原因となつて、空気の流れによっては森林の立ち枯れが起こっている所もある。他方、脱硫装置が無かったり、質の悪い燃料を使っている地域や国では大気汚染もひどく酸性雨による被害も続いている。長い期間酸性雨が続けば、土地の酸性化がいつそう進んで、土壌から重金属が溶け出すという心配もある。とにかく、イオウ酸化物やチンソ酸化物を含んだ空気は国境を越えて広がっていく。そのために被害は汚染物質の発生した地域に限らず、遠く離れた国や地域にも影響する。</p> <p>ついで、世界の人口問題を取りあげる。世界人口は爆発的に増加している。日本では少子化が問題となっているが、全地球的にみると事情は一変する。途上国を中心に20世紀に入ってからのたった100年間で世界人口は4倍ちかくにも急増した。16億人だったのが、60億人を越えたのである。では、その食糧はどうしたか。人々はまずは食べなければならない。それに応えたのが緑の革命であった。20世紀後半に起こった緑の革命は食糧増産に成功した。それには、種子の品種改良、かんがい用水の大量使用、化学肥料や農薬の使用が必要だった。ところが、現在は食糧生産は頭打ちとなってしまった。その一方で世界人口の増加は止まらない。逆に緑の革命は土壌の荒廃、土壌の侵蝕をもたらし、耕地を減少させてしまった。また、水を使い過ぎて水不足ももたらした。中国の大河である黄河でさえ水が無くなっているのだ。日本では実感がわかないが、この水不足は今後21世紀の大きな問題になるのではないかとされている。</p> <p>人口が増加すれば、食料の需要もエネルギーの需要も増すことになる。それが世界的規模で起これば、地球環境に及ぼす影響は計り知れない。森林を切り払って畑をつくらうとし、あるいは家畜を増やそうとする。家畜の群れは草や木の緑を食べ尽くす。化石燃料の使用も増加し、化石燃料が入手できない所では木を切ったきぎとしていく。こうして森が無くなり、土地の荒廃、砂漠化が進んでいく、自らの生存条件さえ危うくなっているのだ。</p> <p>増加した人間活動により、熱帯雨林の破壊も続いている。同じくマングローブ林も減少しているが、これについては日本との関係が深い。熱帯林は地球の肺とも呼ばれ、多くの生物種が存在しており、きわめて重要なものである。熱帯林を生活の場としている人々にとっても、そこに暮らす生き物にとっても、熱帯林が無くなることは大きな問題でもある。他方、森林を護ろうと植林を続けている人たちもいる。意外なことだが、熱帯林の土地はやせているものなのだ。そして強い陽射し。そうした条件のもとでは植林活動は大変な作業となる。そんな事例も紹介したい。</p> <p>こうした状況の元であらためて、土のはたらき、森林のはたらき、水の循環といった基本的なことに目</p>

概要：

	<p>を向けて、人間活動と「母なる大地」との関係を考えてみたい。</p> <p>さらには、エイズなどの感染症についても言及したい。アフリカやアジアなどでは、現在爆発的にエイズ感染者が増えている。世界としての取り組みも迫られている。先進国といわれる地域では、日本だけが感染者の増加が続いている。あらためて正しい知識を説明し、注意を喚起したい。</p>
授業方法：	<p>授業方法</p> <p>講義内容を具体的に理解できるように、いろいろな事例を紹介する。そのために、ビデオ教材をひんぱんに使用する。プリントは必要に応じて配布する。どんな質問でも大歓迎、こんなことと思われるようなことでも気軽に質問して欲しい。</p>
履修の留意点：	<p>履修上の留意点</p> <p>〔地球と環境Ⅰ〕を履修していなくても、この科目は履修が可能である。環境と経済、それは対立するものなのか、調和できるものなのか、あるいはどんな調和のための取り組みがあるのか、そんなことを自らに問いかけながら授業を聞いて欲しい。なお、受講に際しては、〔視野は地球的規模で、行動は足元から〕の観点から、自分でもできることは実践しよう、そんな気持ちで講義を聞いて欲しい。</p>
目標と評価：	<p>目標と評価</p> <p>目標 1：地球温暖化の重要性をしっかりと認識すること</p> <p>目標 2：人間活動について、その影響の大きさを理解すること</p> <p>目標 3：個人の生活スタイルを見直す機会とすること</p> <p>目標 4：自然界では、いろいろなことが互いに関連している、そのことを理解すること</p> <p>評価の方法</p> <p>評価については、学期末の試験あるいはそれに替るレポート、それと出席点で決定する。ときには、授業中の態度が考慮の対象となることもある。出席点は全体の30%と大きいので、要注意。</p>
教科書：	教科書は使用しない。
参考書：	参考書については、必要に応じ紹介する。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「地球と環境Ⅱ」（担当者：信澤 由之）の履修の手引き

科目名：	地球と環境Ⅱ
担当者：	信澤 由之
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	近年、環境と経済の調和を図る社会経済システムを構築していく上で、企業や消費者が果たすべき役割が大きくなっている。こうしたことから環境に関する教育の重要性が高まっている。「環境と社会Ⅱ」の授業では、環境に関する諸問題と経済活動の関係や環境保全のための対策の側面から学んでいく。環境破壊と経済活動の関係では、環境問題が発生するメカニズムを分析していくとともに、消費者レベルでの身近な環境対策の事例と結び付け、その理解を深めていきたい。特に、「電気」、「水道（水）」、「ごみ」の視点から日常生活においてどのような環境に負荷をかけており、その負荷をどのような方法（手段）で軽減できるかを学んでいく。この授業では、環境問題が自分の日常生活にどのようなにかかわっているのかを理解し、改善の取り組みができるようにしていくために、「環境家計簿」などを用いて総合的な知識を身につけていくことをめざします。
授業方法：	授業は配布資料を用いて授業を進めます。また、教室内の知識だけでは環境問題の深刻さは、十分に理解できません。そこで、この授業では、写真やビデオなどを活用してさまざまな環境問題を取り上げて、それを題材に学んでいきます。※教科書については、指定せず、必要に応じて参考書を紹介していきます。
履修の留意点：	特になし
目標と評価：	この授業では、受講した学生が行政や企業、地域社会において環境政策・対策のリーダーシップを取れるようになるようになることをめざします。評価については、期末試験の成績に、平常点（小テスト、出席など）を加味します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「地球と環境Ⅱ」（担当者：生井 良一）の履修の手引き

科目名：	地球と環境Ⅱ
担当者：	生井 良一
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要	<p>まず、大きな環境問題である地球温暖化問題を詳しく解説する。次いで、世界の人口爆発と環境問題、食料問題、関連して水問題や土壌劣化の問題をとりあげたい。21世紀は水問題の世紀になるのではないかとも言われている。</p> <p>人類はおよそ200年前の産業革命依頼、大量のエネルギーを消費してきた。その結果社会が豊かになった、一方で大気汚染などさまざまな環境問題を引き起こしてきた。そして今では、石炭や石油の大量使用によって、地球温暖化が現実になろうとしている。地球温暖化はいろいろな環境問題の中でも、最も大きな環境問題と言われている。暖かくなることで、海面が上昇し、世界各地の海岸に海水が押し寄せてくるのだ。また、気候にも地表的規模で異変が生じ、異常気象が多発し、台風も大型化するようになって予想される。熱波や寒波、洪水や旱魃、乾燥化、砂漠化などが心配されている。こうしたことが世界的規模で起こると、生き物にとっても人間にとっても生存がそれだけ困難になる。食糧生産もきびしくなり、世界の食糧危機も心配されている。</p> <p>こうした地球温暖化について、そのしくみやさまざまな影響、そして温暖化防止のためのいろいろな取り組みなどについてかなりの時間を費やして説明する。</p> <p>温暖化を防止するための国際的な取り決めである京都議定書が昨年2月に発効した。議定書においては、石油や石炭などに対する削減目標が具体的な数値で定められており、日本は1990年比で、2008年から2012年までに6%を削減しなければならないことになっている。これは単なる目標ではなく、義務量である。したがって、6%の削減をどう実現するか、これは今や大きな課題となっている。</p> <p>対策として、大きく分けて二つ考えてみる。一つは省エネルギーである。無駄なエネルギーの使用を減らそうというものだ。もう一つの対策は新エネルギーの開発である。石油や石炭などの化石燃料に代わるエネルギー源を探そうというのだ。それに、原子力エネルギーをどう考えていくかという問題もある。</p> <p>こうした状況の中でも、風力発電、太陽光発電などの自然エネルギーの利用も進んでいる。あるいは発電時に出る熱も合わせて利用するコジェネレーションもある。また、燃料電池の開発も大いに期待されている。燃料電池とは、水素を燃料として発電し、廃棄物は水というクリーンエネルギーである。燃料電池は小型発電所から家庭用電源、携帯電話の電源、燃料電池で動く車などいろいろな利用が考えられている。これら分散型発電方式は世界的にも取り組みが行われている。このような新エネルギーについてもぜひ紹介したい。</p> <p>とにかく地球温暖化は一度引き金がかかると、人間の力ではそれをくい止めることはできないと言われている。化石燃料の使用を抑えることは経済活動と直接関係するだけに、地球温暖化を防止することは非常に難しいことであるが、でも何とかしなければならぬ。このような意味で、経済と環境の問題についても、いろいろな視点から考えてみたい。</p> <p>次に酸性雨について取り上げる。酸性雨は1960年代にヨーロッパや北米で大きな被害をもたらした。湖の魚が死滅したり、森林の木が立ち枯れ状態となった。原因は石炭や石油の燃焼から発生するイオウ酸化物やチンソ酸化物である。これらが空気中で雨に溶けると、硫酸や硝酸という強い酸になるからだ。現在の日本では、イオウ分を除去する脱硫装置があるのでイオウ酸化物についての心配はほぼ無くなった。しかし、チンソ酸化物については車の排気ガスから相変わらず発生している。これが酸性雨の原因となつて、空気の流れによっては森林の立ち枯れが起こっている所もある。他方、脱硫装置が無かったり、質の悪い燃料を使っている地域や国では大気汚染もひどく酸性雨による被害も続いている。長い期間酸性雨が続けば、土地の酸性化がいつそう進んで、土壌から重金属が溶け出すという心配もある。とにかく、イオウ酸化物やチンソ酸化物を含んだ空気は国境を越えて広がっていく。そのために被害は汚染物質の発生した地域に限らず、遠く離れた国や地域にも影響する。</p> <p>ついで、世界の人口問題を取りあげる。世界人口は爆発的に増加している。日本では少子化が問題となっているが、全地球的にみると事情は一変する。途上国を中心に20世紀に入ってからのたった100年間で世界人口は4倍ちかくにも急増した。16億人だったのが、60億人を越えたのである。では、その食糧はどうしたか。人々はまずは食べなければならない。それに応えたのが緑の革命であった。20世紀後半に起こった緑の革命は食糧増産に成功した。それには、種子の品種改良、かんがい用水の大量使用、化学肥料や農薬の使用が必要だった。ところが、現在は食糧生産は頭打ちとなってしまった。その一方で世界人口の増加は止まらない。逆に緑の革命は土壌の荒廃、土壌の侵蝕をもたらし、耕地を減少させてしまった。また、水を使い過ぎて水不足ももたらした。中国の大河である黄河でさえ水が無くなっているのだ。日本では実感がわかないが、この水不足は今後21世紀の大きな問題になるのではないかとされている。</p> <p>人口が増加すれば、食料の需要もエネルギーの需要も増すことになる。それが世界的規模で起これば、地球環境に及ぼす影響は計り知れない。森林を切り払って畑をつくらうとし、あるいは家畜を増やそうとする。家畜の群れは草や木の緑を食べ尽くす。化石燃料の使用も増加し、化石燃料が入手できない所では木を切ったきぎとしていく。こうして森が無くなり、土地の荒廃、砂漠化が進んでいく、自らの生存条件さえ危うくなっているのだ。</p> <p>増加した人間活動により、熱帯雨林の破壊も続いている。同じくマングローブ林も減少しているが、これについては日本との関係が深い。熱帯林は地球の肺とも呼ばれ、多くの生物種が存在しており、きわめて重要なものである。熱帯林を生活の場としている人々にとっても、そこに暮らす生き物にとっても、熱帯林が無くなることは大きな問題でもある。他方、森林を護ろうと植林を続けている人たちもいる。意外なことだが、熱帯林の土地はやせているものなのだ。そして強い陽射し。そうした条件のもとでは植林活動は大変な作業となる。そんな事例も紹介したい。</p> <p>こうした状況の元であらためて、土のはたらき、森林のはたらき、水の循環といった基本的なことに目</p>

概要：

	<p>を向けて、人間活動と「母なる大地」との関係を考えてみたい。</p> <p>さらには、エイズなどの感染症についても言及したい。アフリカやアジアなどでは、現在爆発的にエイズ感染者が増えている。世界としての取り組みも迫られている。先進国といわれる地域では、日本だけが感染者の増加が続いている。あらためて正しい知識を説明し、注意を喚起したい。</p>
授業方法：	<p>授業方法</p> <p>講義内容を具体的に理解できるように、いろいろな事例を紹介する。そのために、ビデオ教材をひんぱんに使用する。プリントは必要に応じて配布する。どんな質問でも大歓迎、こんなことと思われるようなことでも気軽に質問して欲しい。</p>
履修の留意点：	<p>履修上の留意点</p> <p>〔地球と環境Ⅰ〕を履修していなくても、この科目は履修が可能である。環境と経済、それは対立するものなのか、調和できるものなのか、あるいはどんな調和のための取り組みがあるのか、そんなことを自らに問いかけながら授業を聞いて欲しい。なお、受講に際しては、〔視野は地球的規模で、行動は足元から〕の観点から、自分でもできることは実践しよう、そんな気持ちで講義を聞いて欲しい。</p>
目標と評価：	<p>目標と評価</p> <p>目標1：地球温暖化の重要性をしっかりと認識すること</p> <p>目標2：人間活動について、その影響の大きさを理解すること</p> <p>目標3：個人の生活スタイルを見直す機会とすること</p> <p>目標4：自然界では、いろいろなことが互いに関連している、そのことを理解すること</p> <p>評価の方法</p> <p>評価については、学期末の試験あるいはそれに替るレポート、それと出席点で決定する。ときには、授業中の態度が考慮の対象となることもある。出席点は全体の30%と大きいので、要注意。</p>
教科書：	教科書は使用しない。
参考書：	参考書については、必要に応じ紹介する。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済データの読み方」（担当者：松野 由希）の履修の手引き

科目名：	経済データの読み方
担当者：	松野 由希
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	
授業方法：	
履修の留意点：	
目標と評価：	
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済データの読み方」（担当者：松野 由希）の履修の手引き

科目名：	経済データの読み方
担当者：	松野 由希
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	
授業方法：	
履修の留意点：	
目標と評価：	
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「時事経済Ⅰ」（担当：長嶋 佐央里）の履修の手引き

科目名：	時事経済Ⅰ
担当者：	長嶋 佐央里
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>現在、日本では、郵政民営化、三位一体改革などさまざまな構造改革の取り組みがはじまっており、大きな変革期を迎えています。日本経済では、景気を支える設備投資と個人消費が回復しはじめ、安定的な上昇へと向かい始めています。また、年金や医療といった社会保障制度、少子化に伴う人口減少も社会問題となっています。</p> <p>この授業では、これから経済学を本格的に学ぼうとする学生を対象に、現在日本経済が直面している様々な問題の現状、そうした動きの背景や要因などについて考えていきます。その際に現実の経済問題を理解するのに役立つ経済学の基礎とその考え方もあわせて教え、将来予測や解決策も考えていきます。</p> <p>経済学は、希少な資源（金、時間など）を用いて、どのようにわれわれの幸福と利益を高め、またそれをどのように経済社会全体の発展につなげていくかを探求する学問です。経済社会問題は、われわれの暮らしに直接関わるものであり、それを正しく認識し、理解するのに必要なツールである経済学の基礎的知識を身につけ、将来を予測できることが必要となっています。</p> <p>授業では、理論的解説を最小限にとどめて、今日の日本経済が直面する問題を中心に、その時々のカレントな話題を取り上げながら、授業を進めていきたいと考えています。</p>
授業方法：	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業は、講義形式で、主に教員が講義します。 ・ 教科書は使わず、プリントやその日のテーマに関連する新聞記事などを配布し、それを基に授業を進めます。 ・ 参考図書については、授業で随時紹介します。
履修の留意点：	日頃から新聞、雑誌、テレビのニュースや報道番組などをみる習慣をつけて、現在の日本の政治・経済・社会情勢や日本と世界の国々との関係、世界経済情勢に関心を持ってほしいと思います。
目標と評価：	<p>この授業を受講した学生は以下のことができるようになるように学習することを望みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ さまざまな経済社会現象に関心を持つこと ・ さまざまな社会経済問題を経済学観点から理解できるようになること ・ 基本的な統計を読むことができ、そのトレンドと将来予測ができるようになること ・ 経済学は結構面白いものかもしれないと思っただけのこと <p>評価は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出席[30%] ・ 中間レポート（授業で取り上げたテーマのなかから出題します）[35%] ・ 定期試験（授業で取り上げたテーマのなかから出題します）[35%]
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「時事経済Ⅱ」（担当者：長嶋 佐央里）の履修の手引き

科目名：	時事経済Ⅱ
担当者：	長嶋 佐央里
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	日々の生活の中で『日本経済新聞』を読む習慣をさらに確実なものにし、その折々の経済問題を自分自身の身近な問題として理解し、考察する能力のさらなる向上を目指します。 講義のテーマは、時事経済Ⅰと同様、最新の経済ニュースから選びます。 『日本経済新聞』を読むことと、主要記事の収集（切り抜き・コピー）が義務付けられます。
授業方法：	原則として、講義のテーマを事前に授業計画を通じて示すので、予備知識を持って講義の臨んでもらいます。 グローバルな観点から見た日本経済の現状と問題点を把握してもらうことを主眼に、①経済のグローバル化②経済ブロックと日本③国際経済機関と日本④経済協力⑤平成17年度予算案と税制改正などを考察・検証の対象とします。
履修の留意点：	最新の新聞記事、テレビのニュースから抗議のテーマを選ぶので、受講生が日常的に読むことを義務付けられる『日本経済新聞』が教科書になります。 なお、参考書として『Q&A 世界経済100の常識』日本経済新聞社編、『ゼミナール世界経済入門』日本経済新聞社編を推奨します。
目標と評価：	グローバルな観点から見た日本経済の現状と問題点を認識できる目を養うことを目標とします。 成績の評価は、期末試験の結果にレポートなど提出物の評価による平常点を加味して評価点を決定します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「アカデミックディベート」（担当者：森本 孝）の履修の手引き

科目名：	アカデミックディベート
担当者：	森本 孝
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>「日本語」によるディベートを通じて、今後の社会で必要とされる知的基礎体力を身につけることを目的にした科目です。</p> <p>私たちが仕事をしたり、日常生活を送る上で、①「物事を論理的に考える」論理的な思考力と②「相手に自分の考えを適切に伝え、相手の考えを的確に受け取る」コミュニケーション能力の2つはとても大切です。</p> <p>ディベートを行うと、「考える力」(=論理的思考力)、「聴く力・表現する力」(=コミュニケーション能力)が鍛えられます。</p> <p>この授業では、ディベートを行うことそれ自体を目的とするのではなく、ディベートを行うための基礎訓練を中心に進行することによって、ディベート力だけではなく、大学で学習したり、将来企業で働く場合に役立つ総合的な知的基礎体力の育成を目指します。</p>
授業方法：	<p>授業は、学期の前半は、ディベートのための知的基礎体力を養う準備パートとし、学期の後半に具体的なテーマを決めてディベートを実施します。</p> <p>「コミュニケーション能力」を養うことが教育目標の柱の一つですから、授業中にできるだけ頻繁にプレゼンテーションの機会を設けていきます。</p>
履修の留意点：	<p>① 単に聴くだけの授業ではありません。 授業に積極的に参加し、行動することが求められます。 履修する場合は、この点に注意してください。</p> <p>② 英語でのディベートは行いません。 すべて日本語でディベートをします。 英語のディベートを期待する場合は、期待に応えられません。</p>
目標と評価：	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に課す課題と授業での様々なアクティビティの結果を総合して評価します。 ・学期末のペーパーテストは実施しません。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「アカデミックディベート」（担当者：森本 孝）の履修の手引き

科目名：	アカデミックディベート
担当者：	森本 孝
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>「日本語」によるディベートを通じて、今後の社会で必要とされる知的基礎体力を身につけることを目的にした科目です。</p> <p>私たちが仕事をしたり、日常生活を送る上で、①「物事を論理的に考える」論理的な思考力と②「相手に自分の考えを適切に伝え、相手の考えを的確に受け取る」コミュニケーション能力の2つはとても大切です。</p> <p>ディベートを行うと、「考える力」（＝論理的思考力）、「聴く力・表現する力」（＝コミュニケーション能力）が鍛えられます。</p> <p>この授業では、ディベートを行うことそれ自体を目的とするのではなく、ディベートを行うための基礎訓練を中心に進行することによって、ディベート力だけではなく、大学で学習したり、将来企業で働く場合に役立つ総合的な知的基礎体力の育成を目指します。</p>
授業方法：	<p>授業は、学期の前半は、ディベートのための知的基礎体力を養う準備パートとし、学期の後半に具体的なテーマを決めてディベートを実施します。</p> <p>「コミュニケーション能力」を養うことが教育目標の柱の一つですから、授業中にできるだけ頻繁にプレゼンテーションの機会を設けていきます。</p>
履修の留意点：	<p>① 単に聴くだけの授業ではありません。 授業に積極的に参加し、行動することが求められます。 履修する場合は、この点に注意してください。</p> <p>② 英語でのディベートは行いません。 すべて日本語でディベートをします。 英語のディベートを期待する場合は、期待に応えられません。</p>
目標と評価：	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に課す課題と授業での様々なアクティビティの結果を総合して評価します。 ・学期末のペーパーテストは実施しません。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「スポーツ」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目名：	スポーツ
担当者：	平田 貴
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	スポーツ大好き！運動大好き！という学生。または普段運動不足がちな生活を過ごしていて、無性に体を動かしたいと思っている学生。B & FやWB & Fの授業では行わない、他に学内で出来る各種スポーツ種目を中心に行う授業です。
授業方法：	バドミントン・卓球・ソフトバレーボール・その他、3～4週間サイクルで複数のスポーツ種目に取り組みます。
履修の留意点：	選択科目であるため、B & FやWB & Fなどの必修科目との単位の代替は出来ません。
目標と評価：	実技種目のため出席状況も含めた平常評価で採点します。種目ごとに実技試験等はありません。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「会計リテラシ（全経3級）」（担当者：前川 道生）の履修の手引き

科目名：	会計リテラシ（全経3級）
担当者：	前川 道生
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	複式簿記の基本原則である取引の範囲・取引の八要素（費用・収益・資産・負債・資本）、の認識、及び会計処理（仕訳）を学び、問題集等を使用して、簿記の基本的な技術を習得する。全経簿記検定3級の合格を目指す。
授業方法：	テキストを中心に授業を行う。授業体系は、簿記一巡の流れを把握し、前半は個別取引を中心に学習を行い、後半は総合問題対策（試算表作成、精算表作成、補助簿：仕入帳、売上帳、現金出納帳、小口現金出納帳、当座預金出納帳、手形記入帳、商品有高帳等）を中心に授業を行う。7月の全経簿記検定3級に目標を定め学習を行う。
履修の留意点：	学習に当たり、電卓が必要となります。最初の授業で指示をしますので、事前に購入しないで下さい。
目標と評価：	全経簿記検定3級の資格試験に合格する事を目標としています。また、成績評価（評価点70点）は、試験および授業態度（小テスト、宿題など）により評価します。出席点（30点）は通常通り評価します。
教科書：	全経3級 簿記問題集 山本孝夫・前川邦生（編著） 創成社
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「会計リテラシ(全経3級)」(担当者: 前川 道生)の履修の手引き

科目名:	会計リテラシ(全経3級)
担当者:	前川 道生
設置学期:	春
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	複式簿記の基本原則である取引の範囲・取引の八要素(費用・収益・資産・負債・資本)、の認識、及び会計処理(仕訳)を学び、問題集等を使用して、簿記の基本的な技術を習得する。全経簿記検定3級の合格を目指す。
授業方法:	テキストを中心に授業を行う。授業体系は、簿記一巡の流れを把握し、前半は個別取引を中心に学習を行い、後半は総合問題対策(試算表作成、精算表作成、補助簿:仕入帳、売上帳、現金出納帳、小口現金出納帳、当座預金出納帳、手形記入帳、商品有高帳等)を中心に授業を行う。7月の全経簿記検定3級に目標を定め学習を行う。
履修の留意点:	学習に当たり、電卓が必要となります。最初の授業で指示をしますので、事前に購入しないで下さい。
目標と評価:	全経簿記検定3級の資格試験に合格する事を目標としています。また、成績評価(評価点70点)は、試験および授業態度(小テスト、宿題など)により評価します。出席点(30点)は通常通り評価します。
教科書:	全経3級 簿記問題集 山本孝夫・前川邦生(編著) 創成社
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済史（再履修）」（担当者：内藤 勝）の履修の手引き

科目名：	経済史（再履修）
担当者：	内藤 勝
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	日本資本主義の歩みを中心に講義をする。戦後を10年単位で刻みながら歴史を整理する。この中から「歴史の教訓」を導きたい。
授業方法：	ビデオと講義による。
履修の留意点：	なし
目標と評価：	最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 期末テストによる。
教科書：	物質循環とエントロピーの経済学 内藤勝 高文堂 2004
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「会計学総論」（担当者：飯野 幸江）の履修の手引き

科目名：	会計学総論
担当者：	飯野 幸江
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>会計は、企業の経済活動を貨幣額で記録・計算・報告するシステムです。企業は、自らの経済活動の成果を「会計」という技法で作成された財務諸表（損益計算書や貸借対照表）を通じて明らかに報告します。したがって、会計は企業を運営していく上で不可欠なものといえます。本講義では会計の基礎知識を学ぶことにより、企業の経営活動において会計が果たしている役割を学びます。講義で取り上げる内容は、以下のものです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 企業と会計 2. 会計学の体系 3. 複式簿記システムと財務諸表 4. アカウンタビリティとステークホルダー 5. 会計制度 6. 会計公準と会計原則 7. 財務諸表 8. 損益分岐点分析 9. 職業会計人と監査 10. 国際会計基準 <p>最近、会計に関する諸問題がテレビや新聞で大きく取り上げられています。こうした会計の時事的な問題についても適宜、授業で触れていく予定です。</p>
授業方法：	<p>講義形式を中心としますが、学ナビを活用して、できるだけ双方向の授業を展開していく予定です。具体的には、授業中に学ナビのアンケート機能を使って会計に関するクイズ（テストではありません）をしたり、授業の最後の15～20分で、レポート機能を使ってその回の授業のポイントをまとめたものを課題として提出してもらいます。</p>
履修の留意点：	<p>毎回、パソコンを使って課題を提出してもらいますので、第1回目の授業からパソコンを持参して下さい。この授業は「経営と会計」（担当者：飯野）と同じ内容です。</p>
目標と評価：	<p>会計学の基本的な知識を修得するとともに、会計学の基本的な考え方を身につけることを目標とします。成績は、毎回の授業で提出してもらった課題（3割）と定期試験（7割）で評価します。</p>
教科書：	使用しません。
参考書：	第1回目の授業で紹介します。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「会計学総論」（担当者：井上 行忠）の履修の手引き

科目名：	会計学総論
担当者：	井上 行忠
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	会計理論は簿記によって具体化し、簿記は会計理論の助けを得て機能する。会計は、企業の経営活動を貨幣単位で計算し、報告することに妥当性を与えるための基準を提供する会計（理論）と、その基準に従って経営活動を正確に記録し、報告するための技術である会計（簿記）に分けることができる。したがって、会計は簿記と理論を共に理解することにより、会計の全体を理解したことになる。
授業方法：	理論の解説を中心にを行い、実務と理論を結びつける。
履修の留意点：	出席を重視する。 教科書は、授業中にプリントを配布する。
目標と評価：	経営と会計の基本を学習し、将来職業会計人としての知識を学ぶ。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「企業論（再履修）」（担当者：趙 容）の履修の手引き

科目名：	企業論（再履修）
担当者：	趙 容
設置学期：	春
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	<p>本講義では、まず企業とは何でしょうか、企業の役割は何ですか、企業はどのように生成と発展してきましたか、また企業の様々な形態と特徴はどのようになっていますか。次に企業はどのような組織でどんな活動を行っていますか。企業間の関係や企業の社会的責任とはなんですか。そのため、以下のような内容構成となっています。さらに将来の企業像はどうなっていくべきかについて一緒に考えていきましょう。</p> <p>第1章 企業とは何か 第2章 企業の新動向 第3章 企業の生成と発展 第4章 企業の形態と特徴 第5章 日本企業の生成と発展 第6章 企業のガバナンスと社会的責任 第7章 企業の経営管理</p>
授業方法：	<p>①レジュメをほぼ毎回配布。 ②ビデオは適宜使用する。 ③新聞や雑誌の資料は活用する。</p>
履修の留意点：	<ul style="list-style-type: none"> ・企業論は皆さんに何が役に立ちますか ・就職に当たっての企業選びに必要な基礎知識があります。 ・市場経済の社会において、社会人になってくる皆さんは、企業がその基本単位としてかかわった基礎を知る必要があります。 ・企業論はその他の専門科目（経済学、経営学、財務会計論、経営分析論、中小企業経営論など）を理解するための基礎知識です。 ・企業論を通じて、他の国の企業と比較しながら関連な知識を身につけることができます。 ・企業法人も私たちの人間と同様に、関係する法律の枠内で活動しなければなりません。たとえば、会社法、商法、独占禁止法、貿易管理法、などですが、海外に進出した場合、またその所在地の国の法律を熟知し、守らなければなりません。
目標と評価：	成績評価：春期試験40%、秋学期試験40%、授業態度20%。
教科書：	
参考書：	『企業経営学の基礎』 坂野峰彦・平井東幸・猪平進・海野博・籠幾緒共著 税務経理協会 平成15年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「企業論」（担当者：趙 容）の履修の手引き

科目名：	企業論
担当者：	趙 容
設置学期：	秋
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	<p>本講義では、まず企業とは何でしょうか、企業の役割は何ですか、企業はどのように生成と発展してきましたか、また企業の様々な形態と特徴はどのようになっていますか。次に企業はどのような組織でどんな活動を行っていますか。企業間の関係や企業の社会的責任とはなんですか。そのため、以下のような内容構成となっています。さらに将来の企業像はどうなっていくべきかについて一緒に考えていきましょう。</p> <p>第1章 企業とは何か 第2章 企業の新動向 第3章 企業の生成と発展 第4章 企業の形態と特徴 第5章 日本企業の生成と発展 第6章 企業のガバナンスと社会的責任 第7章 企業の経営管理</p>
授業方法：	<p>①レジュメをほぼ毎回配布。 ②ビデオは適宜使用する。 ③新聞や雑誌の資料は活用する。</p>
履修の留意点：	<ul style="list-style-type: none"> ・企業論は皆さんに何が役に立ちますか ・就職に当たっての企業選びに必要な基礎知識があります。 ・市場経済の社会において、社会人になってくる皆さんは、企業がその基本単位としてかかわった基礎を知る必要があります。 ・企業論はその他の専門科目（経済学、経営学、財務会計論、経営分析論、中小企業経営論など）を理解するための基礎知識です。 ・企業論を通じて、他の国の企業と比較しながら関連な知識を身につけることができます。 ・企業法人も私たちの人間と同様に、関係する法律の枠内で活動しなければなりません。たとえば、会社法、商法、独占禁止法、貿易管理法、などですが、海外に進出した場合、またその所在地の国の法律を熟知し、守らなければなりません。
目標と評価：	春期試験40%、秋学期試験40%、授業態度20%。
教科書：	
参考書：	『企業経営学の基礎』 坂野峰彦・平井東幸・猪平進・海野博・籠幾緒共著 税務経理協会 平成15年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「企業論」（担当者：木村 剛）の履修の手引き

科目名：	企業論
担当者：	木村 剛
設置学期：	秋
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	近年、企業のあり方が大きくクローズアップされてきています。会社は誰のものか、そして企業は社会に対してどのような責任を負っているのかといった、基本的な問いかけが、ここ数年、企業の不祥事が発生するたびに大きな話題となっています。 企業のあり方は、私たち消費者の生活に対しても大きな影響を与えます。そうした事実に基づいて、本講義では、企業とはどういった存在であるべきなのか、企業はどのような社会的責任を負うべきなのか、それには何が必要なのかといった点について学んでいきたいと思ひます。
授業方法：	原則として講義形式で説明していきますが、場合によっては映像を見てもらうことがあります。適宜プリントを配布します。参考文献等については、講義中に適宜紹介していきます。
履修の留意点：	遅刻には厳密に対処しますので、遅刻しないようにして下さい。 講義に集中できない人には退室してもらふことがあります。
目標と評価：	講義の中で、提出物（小レポート）を何回か実施する予定です。また期末に試験を実施します。評価の割合は、授業中の提出物30%、試験70%とします。
教科書：	
参考書：	「経営をしっかりと理解する」 岩崎尚人／神田良編著 日本能率協会マネジメントセンター 2005

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本経済論」（担当者：劉 暢）の履修の手引き

科目名：	日本経済論
担当者：	劉 暢
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	この授業は現代日本経済システムの特徴と問題点について、戦後復興・高度成長が多様な要因の相互作用、総合的な働きによる結果であることを説明する予定である。その中で、特に戦後日本経済の劇的な変化がアメリカの対日政策と密接に関連するという視角から、それぞれの発展時期における特定の問題を取り上げ、検討を行う。これらを通して、戦後日本は何を求め、何を失い、何を犠牲にし、何を獲得してきたのか、などの問題を考えてみたい。
授業方法：	授業は通常の講義形式で行う。
履修の留意点：	①今日日本経済システムの特徴と問題点に対して関心をもつ学生の履修を歓迎する。 ②3年次秋学期に「日中比較経済論」を受講したい場合は、この授業を履修することが望ましい。
目標と評価：	目標： 日本の戦後経済成長について理解を深め、日本経済はどうあるべきかという問題を独自の視角から観察できる能力を身につけることを目標とする。 評価： 筆記試験（持込み可）、受講態度などを総合して、成績を評価する。
教科書：	履修者の予備知識、授業への関心そして理解などを前提にし、必要に応じて授業の時に提示する。
参考書：	履修者の予備知識、授業への関心そして理解などを前提にし、必要に応じて授業の時に提示する。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本経済論」（担当者：貝塚 亨）の履修の手引き

科目名：	日本経済論
担当者：	貝塚 亨
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	現在の日本経済は、景気の先行きに明るい兆しが見え始めたとはいえ、90年代前半から続く平成不況下にあります。また近年急速に進む経済のグローバル化や高齢化のなかで、これまでの日本的な経済システムの改革が求められています。そこで、本講義では、現在の日本経済の特徴や構造を明らかにし、今後の方向性を考えていきます。その前提として、戦後復興、高度経済成長、石油危機、円高、バブル経済など、日本経済の歴史的経緯を学習します。具体的にはGDP、経常収支、為替相場などの推移や、産業の中心が製造業の重厚長大産業から軽薄短小産業やサービス産業に移行してきたことを学習します。サービス産業には現在では日本の就業者の半数以上が集中しており、サービス経済化は、現在の日本経済を理解するだけでなく、今後を展望する上で重要な問題なので、とくに詳しく学習していきます。
授業方法：	基本的に講義形式でおこないます。
履修の留意点：	毎回の授業で、課題に取り組んでもらいます。単に講義を聴くだけでなく、自分で考え、理解し、問題意識をもつといった積極的な態度が必要です。
目標と評価：	目標：○日本経済に関する基本的用語を理解することができる。 ○経済統計の数値の意味を理解することができる。 ○新聞の経済欄を理解することができる。 評価：学期末テスト(70%)、出席(30%)
教科書：	現代日本経済史年表 矢部洋三 その他編 日本経済評論社 2001年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本経済論（再履修）」（担当者：貝塚 亨）の履修の手引き

科目名：	日本経済論（再履修）
担当者：	貝塚 亨
設置学期：	春
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	<p>本講義は専門共通科目の一つで、必修科目です。現在の日本経済は、景気の先行きに明るい兆しが見え始めたとはいえ、90年代前半から続く平成不況下にあります。また近年急速に進む経済のグローバル化や高齢化のなかで、これまでの日本的な経済システムの改革が求められています。</p> <p>そこで、本講義では、現在の日本経済の特徴や構造を明らかにし、今後の方向性を考えていきます。その前提として、戦後復興、高度経済成長、石油危機、円高、バブル経済など、日本経済の歴史的経緯を学習します。具体的にはGDP、経常収支、為替相場などの推移や、産業の中心が製造業の重厚長大産業から軽薄短小産業やサービス産業に移行してきたことを学習します。</p> <p>サービス産業には現在では日本の就業者の半数以上が集中しており、サービス経済化は、現在の日本経済を理解するだけでなく、今後を展望する上で重要な問題なので、とくに詳しく学習していきます。</p>
授業方法：	基本的に講義形式でおこないます。
履修の留意点：	毎回の授業で、課題に取り組んでもらいます。単に講義を聴くだけでなく、自分で考え、理解し、問題意識をもつといった積極的な態度が必要です。
目標と評価：	<p>目標：○日本経済に関する基本的用語を理解することができる。 ○経済統計の数値の意味を理解することができる。 ○新聞の経済欄を理解することができる。</p> <p>評価：学期末テスト(70%)、出席(30%)</p>
教科書：	現代日本経済史年表 矢部洋三 その他編 日本経済評論社 2001年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本経済論（再履修）」（担当者：貝塚 亨）の履修の手引き

科目名：	日本経済論（再履修）
担当者：	貝塚 亨
設置学期：	秋
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	<p>本講義は専門共通科目の一つで、必修科目です。現在の日本経済は、景気の先行きに明るい兆しが見え始めたとはいえ、90年代前半から続く平成不況下にあります。また近年急速に進む経済のグローバル化や高齢化のなかで、これまでの日本的な経済システムの改革が求められています。</p> <p>そこで、本講義では、現在の日本経済の特徴や構造を明らかにし、今後の方向性を考えていきます。その前提として、戦後復興、高度経済成長、石油危機、円高、バブル経済など、日本経済の歴史的経緯を学習します。具体的にはGDP、経常収支、為替相場などの推移や、産業の中心が製造業の重厚長大産業から軽薄短小産業やサービス産業に移行してきたことを学習します。</p> <p>サービス産業には現在では日本の就業者の半数以上が集中しており、サービス経済化は、現在の日本経済を理解するだけでなく、今後を展望する上で重要な問題なので、とくに詳しく学習していきます。</p>
授業方法：	基本的に講義形式でおこないます。
履修の留意点：	毎回の授業で、課題に取り組んでもらいます。単に講義を聴くだけでなく、自分で考え、理解し、問題意識をもつといった積極的な態度が必要です。
目標と評価：	<p>目標：○日本経済に関する基本的用語を理解することができる。</p> <p>○経済統計の数値の意味を理解することができる。</p> <p>○新聞の経済欄を理解することができる。</p> <p>評価：学期末テスト(70%)、出席(30%)</p>
教科書：	現代日本経済史年表 矢部洋三 その他編 日本経済評論社 2001年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済学入門」（担当者：久保 真）の履修の手引き

科目名：	経済学入門
担当者：	久保 真
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	我々現代人は日々買い物などの経済活動をしているにも拘わらず、いやそれだからこそというべきでしょうか、経済の仕組みや成り立ちには無関心な人が少なくありません。しかし他方で、いわゆる「自己責任」の時代の到来とともに、経済に関する知識や理解は普通の人々にもますます求められるようになって来ています。このような現実に鑑み、本講義は、経済学の初学者が、経済というものに興味を持つよう促すことを目的とします。このような目的を果たすために、できるだけ身近なトピックも取り上げるようにしますので、受講生諸君は、新聞やテレビなどで報じられる経済関連ニュースに、日頃から接するように心がけてください。 講義において扱う具体的なテーマは、(1)生産と消費 (2)市場 (3)企業 (4)経済成長 (5)通貨 (6)景気循環とポリシーミックス (8)国際経済 を予定しています。
授業方法：	通常の講義によって行いますが、できるだけ双方向性を確保するよう努力するつもりです。特に教科書は使いませんので、授業中は講義内容の理解に全身全霊を注いでください。また、宿題を複数回課しますので、必ず独力で取り組んで下さい。
履修の留意点：	本講義は、2005年度以降に入学した学生には「経済と政策」（経営経済学科）「経済学概論」（経営法学科）という名称で開講されます。
目標と評価：	目標は以下の三点です。 (1) 経済学の基本的な概念を理解する。 (2) 日常的な経済事象や言葉を、経済学の概念を用いて説明する。 (3) 大学における授業形態や試験形式に馴れる。 評価は、通常授業週での小テストや宿題（30%）と定期試験に行われる筆答試験（持ち込み可、70%）とを総合して下します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済学入門」（担当者：渡辺 広明）の履修の手引き

科目名：	経済学入門
担当者：	渡辺 広明
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	①この科目は経済学をこれから学ぶための入門の講座です。経済学の基礎の基礎を学習します。初学者の経済学ですから授業展開で留意した点は、身近な経済問題を取り上げると共に内容を絞り込み、分かりやすい授業を行う事に力を入れました。
授業方法：	基本的には、講義形式です。毎回、パソコンを利用したレポートや作業があります。これが平常点にもなります。奮って参加してください
履修の留意点：	①この講義では、ホームランを打つ事が出来ません。毎日の積み重ねが大切です。ヒットをこつこつ打ってください。毎日、経済学のことを少しでも考えてもらいたい。そのため授業に出席するのはもとより、毎回、パソコンを利用する作業・レポートが課されます。それらを積極的に取り組んでください。
目標と評価：	①経済学の基本的な用語を学ぶ事が出来る。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済学入門」（担当者：久保 真）の履修の手引き

科目名：	経済学入門
担当者：	久保 真
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	我々現代人は日々買い物などの経済活動をしているにも拘わらず、いやそれだからこそというべきでしょうか、経済の仕組みや成り立ちには無関心な人が少なくありません。しかし他方で、いわゆる「自己責任」の時代の到来とともに、経済に関する知識や理解は普通の人々にもますます求められるようになって来ています。このような現実に鑑み、本講義は、経済学の初学者が、経済というものに興味を持つよう促すことを目的とします。このような目的を果たすために、できるだけ身近なトピックも取り上げるようにしますので、受講生諸君は、新聞やテレビなどで報じられる経済関連ニュースに、日頃から接するように心がけてください。 講義において扱う具体的なテーマは、(1)生産と消費 (2)市場 (3)企業 (4)経済成長 (5)通貨 (6)景気循環とポリシーミックス (8)国際経済 を予定しています。
授業方法：	通常の講義によって行いますが、できるだけ双方向性を確保するよう努力するつもりです。特に教科書は使いませんので、授業中は講義内容の理解に全身全霊を注いでください。また、宿題を複数回課しますので、必ず独力で取り組んで下さい。
履修の留意点：	本講義は、2005年度以降に入学した学生には「経済と政策」（経営経済学科）「経済学概論」（経営法学科）という名称で開講されます。
目標と評価：	目標は以下の三点です。 (1) 経済学の基本的な概念を理解する。 (2) 日常的な経済事象や言葉を、経済学の概念を用いて説明する。 (3) 大学における授業形態や試験形式に馴れる。 評価は、通常授業週での小テストや宿題（30%）と定期試験に行われる筆答試験（持ち込み可、70%）とを総合して下します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済学入門」（担当者：渡辺 広明）の履修の手引き

科目名：	経済学入門
担当者：	渡辺 広明
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	①この科目は経済学をこれから学ぶための入門の講座です。経済学の基礎の基礎を学習します。初学者の経済学ですから授業展開で留意した点は、身近な経済問題を取り上げると共に内容を絞り込み、分かりやすい授業を行う事に力を入れました。
授業方法：	基本的には、講義形式です。毎回、パソコンを利用したレポートや作業があります。これが平常点にもなります。奮って参加してください
履修の留意点：	①この講義では、ホームランを打つ事が出来ません。毎日の積み重ねが大切です。ヒットをこつこつ打ってください。毎日、経済学のことを少しでも考えてもらいたい。そのため授業に出席するのはもとより、毎回、パソコンを利用する作業・レポートが課されます。それらを積極的に取り組んでください。
目標と評価：	①経済学の基本的な用語を学ぶ事が出来る。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営学入門」（担当者：吉沢 正広）の履修の手引き

科目名：	経営学入門
担当者：	吉沢 正広
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>経営と組織という科目は、大学入学後初めて経営学を学ぶ学生のために経営学の基礎を提供することにある。そこでは難しい理論や学説を学生に紹介するだけということとはなるべく避け、経営学の全体像を少しでも理解できるような内容にしたい。経営学という学問分野はどのようなものか。一緒に考えていくことを基本としたい。</p> <p>経営学は基本的には企業経営（会社の経営）とそれを支えている組織を研究するものといえる。こうしたことを学ぶことを通じて企業経営とは何か、組織とは何か、という疑問を少しずつ解明したい。企業経営や組織という言葉は新聞、雑誌、テレビなど各種マスコミで頻繁に我々の眼にとまったり、耳にする言葉である。それで何となく身近な学問という印象を持つかもしれないが、実際学習を始めてみると、以外に複雑で範囲が広く、そこで使われている概念なども必ずしも統一的なものがないことに気がつくと思う。その点で戸惑いを感じる学生もいるかもしれない。しかし逆に言えば非常に多彩でクリエイティブな学問ともいえる。経営学とは、どのような性格のものか、どのような内容を含んでいるのかを知ることは必要であし意義あることである。少しでもそういった日頃感じる疑問に対する学生諸君の自分なりの答えを出せるような講義としたい。まず会社とは何かについて、その仕組みから始めたい。</p>
授業方法：	<p>講義内容については、講義初めに学生の要望等を聞き取り、講義に反映させたい。その時点でテキスト等も決めたいと思う。そして日本経済新聞など学生にとって有益と思われる記事をプリントして配布したい。そういったアップデートな知識の吸収も考えています。</p>
履修の留意点：	<p>経営学はきわめて複雑広範囲な学問なので、いろいろな知識があるとより理解ができ、理解できると一層興味深くなると思います。そういう意味で、英語をはじめとする一般教養科目や経済学や法学や社会学やその他の科目もしっかり意欲的に勉強することを望みます。出席については、これを前提に講義を進めますので休みが多くなると当然ながら講義も理解できなくなります。そうなるとう勉強に興味もてなくなります。また講義中の小テストやレポートも提出できなくなりますので注意してください。それから最低限の礼儀やエチケットを守れない学生、例えば、周囲の学生の迷惑となる私語や携帯電話の使用などは厳しく対処するつもりです。</p>
目標と評価：	<p>基本的には期末の試験が大きなウェイトを占めることになります。講義の間の小テストやレポートも評価の対象にしますので、出席をきちんとして、そして試験を頑張るという姿勢を大切にしてください。</p>
教科書：	マネジメント基本全集1『経営学入門（ビジネスマネジメント）』 根本孝 学文社 2006年1月
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営学入門」（担当者：木村 剛）の履修の手引き

科目名：	経営学入門
担当者：	木村 剛
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>企業を取り巻く環境は「情報化」や「規制緩和」そして「国際化」などといった流れのなかで、これまでになく複雑なものになっています。こうした流れのなかで、企業の経営が今後どのように変化していくのか、またそれが私達の生活にどのような影響を及ぼすのか。こうした問題意識から経営を体系的に理解するのが本講義の目的です。</p> <p>経営学入門では、経営学の基礎的な理解を踏まえ、より実践的な解説を行います。具体的には、会社の機能や責任、他社との競争などといったことから、人事管理、生産管理、財務管理、情報管理などといった組織内の諸活動について解説することを通じて、実際のビジネスがどのように動いているのかを理解します。また本講義では、実際に使われることの多いビジネス用語についても適宜紹介していきます。</p>
授業方法：	テキストを中心に、講義形式で進めていきますが、なるべく具体的な企業のケースを取り入れていきます。場合によってはビデオ等を見てもうることがあります。
履修の留意点：	経営に対して体系的に理解するために、欠席はしないようにして下さい。 私語の多い学生には、退室してもらいますので注意して下さい。
目標と評価：	<p>最低限知っておいて欲しい基礎的な事柄について、体系的に「経営」というものを理解してもらうことが本講義の目的です。</p> <p>評価は、期末試験と講義中で行う小テスト（もしくはレポート）等によって総合的に評価します。 ※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p>
教科書：	経営をしっかりと理解する 岩崎尚人 神田良編著 日本能率協会マネジメントセンター 2005
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営学入門」（担当者：吉沢 正広）の履修の手引き

科目名：	経営学入門
担当者：	吉沢 正広
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>経営と組織という科目は、大学入学後初めて経営学を学ぶ学生のために経営学の基礎を提供することにある。そこでは難しい理論や学説を学生に紹介するだけということとはなるべく避け、経営学の全体像を少しでも理解できるような内容にしたい。経営学という学問分野はどのようなものか。一緒に考えていくことを基本としたい。</p> <p>経営学は基本的には企業経営（会社の経営）とそれを支えている組織を研究するものといえる。こうしたことを学ぶことを通じて企業経営とは何か、組織とは何か、という疑問を少しずつ解明したい。企業経営や組織という言葉は新聞、雑誌、テレビなど各種マスコミで頻繁に我々の眼にとまったり、耳にする言葉である。それで何となく身近な学問という印象を持つかもしれないが、実際学習を始めてみると、以外に複雑で範囲が広く、そこで使われている概念なども必ずしも統一的なものがないことに気がつくと思う。その点で戸惑いを感じる学生もいるかもしれない。しかし逆に言えば非常に多彩でクリエイティブな学問ともいえる。経営学とは、どのような性格のものか、どのような内容を含んでいるのかを知ることは必要であし意義あることである。少しでもそういった日頃感じる疑問に対する学生諸君の自分なりの答えを出せるような講義としたい。まず会社とは何かについて、その仕組みから始めたい。</p>
授業方法：	<p>講義内容については、講義初回に学生の要望等を聞き取り、講義に反映させたい。その時点でテキスト等も決めたいと思う。そして日本経済新聞など学生にとって有益と思われる記事をプリントして配布したい。そういったアップデートな知識の吸収も考えています。</p>
履修の留意点：	<p>経営学はきわめて複雑広範囲な学問なので、いろいろな知識があるとより理解ができ、理解できると一層興味深くなると思います。そういう意味で、英語をはじめとする一般教養科目や経済学や法学や社会学やその他の科目もしっかり意欲的に勉強することを望みます。出席については、これを前提に講義を進めますので休みが多くなると当然ながら講義も理解できなくなります。そうなるとう勉強に興味もてなくなります。また講義中の小テストやレポートも提出できなくなりますので注意してください。それから最低限の礼儀やエチケットを守れない学生、例えば、周囲の学生の迷惑となる私語や携帯電話の使用などは厳しく対処するつもりです。</p>
目標と評価：	<p>基本的には期末の試験が大きなウェイトを占めることになります。講義の間の小テストやレポートも評価の対象にしますので、出席をきちんとして、そして試験を頑張るという姿勢を大切にしてください。</p>
教科書：	マネジメント基本全集1『経営学入門（ビジネスマネジメント）』 根本孝 学文社 2006年1月
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「人間関係論」（担当者：石川 直弘）の履修の手引き

科目名：	人間関係論
担当者：	石川 直弘
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	この講義では、日常生活でみられる人間の社会的行動から、いくつかのテーマをとりあげて、自己と他者の関係およびその背景にある心理の特質を、科学的に考察していく。 集団力学（group dynamics）に関しては、実験例にもとづいて特に詳しく学ぶ。
授業方法：	通常の講義形式で授業を行う。
履修の留意点：	特になし。
目標と評価：	定期試験によって成績評価を行う。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「人間関係論」（担当者：石川 直弘）の履修の手引き

科目名：	人間関係論
担当者：	石川 直弘
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	この講義では、日常生活でみられる人間の社会的行動から、いくつかのテーマをとりあげて、自己と他者の関係およびその背景にある心理の特質を、科学的に考察していく。 集団力学（group dynamics）に関しては、実験例にもとづいて特に詳しく学ぶ。
授業方法：	通常の講義形式で授業を行う。
履修の留意点：	特になし。
目標と評価：	定期試験によって成績評価を行う。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営管理論Ⅰ」（担当者：吉沢 正広）の履修の手引き

科目名：	経営管理論Ⅰ
担当者：	吉沢 正広
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	経営管理論Ⅰは、現代企業の経営管理の基本的な部分について理解することを目的としたい。経営管理論は、企業経営に関する多様な事柄について研究する学問分野である。この科目を学習していく上で学生諸君に期待したいことは、教室での講義はもちろんのこと、教室を離れても毎日の新聞、雑誌、テレビなど各種マスコミが報ずるビジネスに関するトピックにも関心を持ってもらいたいことである。しかしそこで展開される事象について、直ぐに正解を求めようとしてはいけない。その答えに至る思考するプロセスを大切にもらいたい。現代のビジネスや企業経営について、様々な見解や答えが見出せるかもしれないが、唯一絶対というものはない。自分なりの答えを導き出すには、多くのケースや理論や学説や立場を勉強し理解しておく必要がある。そうしたことを通じてよりの確かな答えが見つけられることと思う。それを可能にするには、企業経営について歴史的に観察するという姿勢が是非必要である。こうした姿勢があれば、企業に対する見方も自然に奥行きが深いものとなるはずであり、洞察力もより確かなものとなる。学生諸君はいずれ大学を卒業すれば、企業や各種団体に所属したり、グループで起業したり、あるいは大学院に進学することになる。そういう自分の将来像に強い関心を持ってもらいたい。経営管理論を学ぶことは、自分の将来像に少しでも近づくことができるようにする大切な科目の一つであると認識してもらいたい。しかし経営管理論については、多くの理論や学説がある。それらをすべて講義することは困難といえる。講義ではその意味で経営学の奥行きを一緒に体感できるような内容としたい。
授業方法：	基本的には指定したテキストの内容に基づいて講義を展開したい。しかし、一方的な知識の伝達は避けたいと思っている。講義内容の確認テスト、レポートなど、また講義中の学生への質問等、双方向の講義を心がけたい。必要に応じて日本経済新聞など学生にとって有益と思われる記事をプリントして配布します。そうしたアップデートな知識の提供と吸収も考えています。
履修の留意点：	経営学はきわめて学際的な学問分野なので、経済学や法学や社会学などの科目を意欲的に勉強しておいて下さい。これは学生にとってとても意義あることだと思います。出席については、これを前提に講義を進めますので休みが多くなると当然ながら講義も理解できなくなります。また講義中の小テストやレポートも提出できなくなりますので注意してください。それから最低限の礼儀やエチケットを守れない学生、例えば、周囲の学生の迷惑となる私語や携帯電話の使用などは厳しく対処するつもりです。
目標と評価：	基本的には期末の試験が大きなウエイトを占めることになります。講義の間の小テストやレポートも評価の対象にしますので、出席をきちんとして、そして試験を頑張るという姿勢を大切にしてください。
教科書：	マネジメント基本全集 1 1 『経営管理（マネジメント）』 根本孝 学文社 2006年1月
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「会計リテラシ I (全経3級)」 (担当者: 前川 道生) の履修の手引き

科目名:	会計リテラシ I (全経3級)
担当者:	前川 道生
設置学期:	春
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	複式簿記の基本原則である取引の範囲・取引の八要素(費用・収益・資産・負債・資本)、の認識、及び会計処理(仕訳)を学び、問題集等を使用して、簿記の基本的な技術を習得する。全経簿記検定3級の合格を目指す。
授業方法:	テキストを中心に授業を行う。授業体系は、簿記一巡の流れを把握し、前半は個別取引を中心に学習を行い、後半は総合問題対策(試算表作成、精算表作成、補助簿:仕入帳、売上帳、現金出納帳、小口現金出納帳、当座預金出納帳、手形記入帳、商品有高帳等)を中心に授業を行う。7月の全経簿記検定3級に目標を定め学習を行う。
履修の留意点:	学習に当たり、電卓が必要となります。最初の授業で指示をしますので、事前に購入しないで下さい。
目標と評価:	全経簿記検定3級の資格試験に合格する事を目標としています。また、成績評価(評価点70点)は、試験および授業態度(小テスト、宿題など)により評価します。出席点(30点)は通常通り評価します。
教科書:	全経3級 簿記問題集 山本孝夫・前川邦生(編著) 創成社
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「会計リテラシ I (全経3級)」 (担当者: 前川 道生) の履修の手引き

科目名:	会計リテラシ I (全経3級)
担当者:	前川 道生
設置学期:	春
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	複式簿記の基本原則である取引の範囲・取引の八要素(費用・収益・資産・負債・資本)、の認識、及び会計処理(仕訳)を学び、問題集等を使用して、簿記の基本的な技術を習得する。全経簿記検定3級の合格を目指す。
授業方法:	テキストを中心に授業を行う。授業体系は、簿記一巡の流れを把握し、前半は個別取引を中心に学習を行い、後半は総合問題対策(試算表作成、精算表作成、補助簿:仕入帳、売上帳、現金出納帳、小口現金出納帳、当座預金出納帳、手形記入帳、商品有高帳等)を中心に授業を行う。7月の全経簿記検定3級に目標を定め学習を行う。
履修の留意点:	学習に当たり、電卓が必要となります。最初の授業で指示をしますので、事前に購入しないで下さい。
目標と評価:	全経簿記検定3級の資格試験に合格する事を目標としています。また、成績評価(評価点70点)は、試験および授業態度(小テスト、宿題など)により評価します。出席点(30点)は通常通り評価します。
教科書:	全経3級 簿記問題集 山本孝夫・前川邦生(編著) 創成社
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「会計リテラシ I (全経3級)」 (担当者: 前川 道生) の履修の手引き

科目名:	会計リテラシ I (全経3級)
担当者:	前川 道生
設置学期:	秋
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	複式簿記の基本原則である取引の範囲・取引の八要素(費用・収益・資産・負債・資本)、の認識、及び会計処理(仕訳)を学び、問題集等を使用して、簿記の基本的な技術を習得する。全経簿記検定3級の合格を目指す。
授業方法:	テキストを中心に授業を行う。授業体系は、簿記一巡の流れを把握し、前半は個別取引を中心に学習を行い、後半は総合問題対策(試算表作成、精算表作成、補助簿:仕入帳、売上帳、現金出納帳、小口現金出納帳、当座預金出納帳、手形記入帳、商品有高帳等)を中心に授業を行う。7月の全経簿記検定3級に目標を定め学習を行う。
履修の留意点:	学習に当たり、電卓が必要となります。最初の授業で指示をしますので、事前に購入しないで下さい。
目標と評価:	全経簿記検定3級の資格試験に合格する事を目標としています。また、成績評価(評価点70点)は、試験および授業態度(小テスト、宿題など)により評価します。出席点(30点)は通常通り評価します。
教科書:	全経3級 簿記問題集 山本孝夫・前川邦生(編著) 創成社
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「会計リテラシ I (全経3級)」 (担当者: 前川 道生) の履修の手引き

科目名:	会計リテラシ I (全経3級)
担当者:	前川 道生
設置学期:	秋
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	複式簿記の基本原則である取引の範囲・取引の八要素(費用・収益・資産・負債・資本)、の認識、及び会計処理(仕訳)を学び、問題集等を使用して、簿記の基本的な技術を習得する。全経簿記検定3級の合格を目指す。
授業方法:	テキストを中心に授業を行う。授業体系は、簿記一巡の流れを把握し、前半は個別取引を中心に学習を行い、後半は総合問題対策(試算表作成、精算表作成、補助簿:仕入帳、売上帳、現金出納帳、小口現金出納帳、当座預金出納帳、手形記入帳、商品有高帳等)を中心に授業を行う。7月の全経簿記検定3級に目標を定め学習を行う。
履修の留意点:	学習に当たり、電卓が必要となります。最初の授業で指示をしますので、事前に購入しないで下さい。
目標と評価:	全経簿記検定3級の資格試験に合格する事を目標としています。また、成績評価(評価点70点)は、試験および授業態度(小テスト、宿題など)により評価します。出席点(30点)は通常通り評価します。
教科書:	全経3級 簿記問題集 山本孝夫・前川邦生(編著) 創成社
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営学概論」（担当者：吉沢 正広）の履修の手引き

科目名：	経営学概論
担当者：	吉沢 正広
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>経営と組織という科目は、大学入学後初めて経営学を学ぶ学生のために経営学の基礎を提供することにある。そこでは難しい理論や学説を学生に紹介するだけということとはなるべく避け、経営学の全体像を少しでも理解できるような内容にしたい。経営学という学問分野はどのようなものか。一緒に考えていくことを基本としたい。</p> <p>経営学は基本的には企業経営（会社の経営）とそれを支えている組織を研究するものといえる。こうしたことを学ぶことを通じて企業経営とは何か、組織とは何か、という疑問を少しずつ解明したい。企業経営や組織という言葉は新聞、雑誌、テレビなど各種マスコミで頻繁に我々の眼にとまったり、耳にする言葉である。それで何となく身近な学問という印象を持つかもしれないが、実際学習を始めてみると、以外に複雑で範囲が広く、そこで使われている概念なども必ずしも統一的なものがないことに気がつくと思う。その点で戸惑いを感じる学生もいるかもしれない。しかし逆に言えば非常に多彩でクリエイティブな学問ともいえる。経営学とは、どのような性格のものか、どのような内容を含んでいるのかを知ることは必要であし意義あることである。少しでもそういった日頃感じる疑問に対する学生諸君の自分なりの答えを出せるような講義としたい。まず会社とは何かについて、その仕組みから始めたい。</p>
授業方法：	<p>講義内容については、講義初めに学生の要望等を聞き取り、講義に反映させたい。その時点でテキスト等も決めたいと思う。そして日本経済新聞など学生にとって有益と思われる記事をプリントして配布したい。そういったアップデートな知識の吸収も考えています。</p>
履修の留意点：	<p>経営学はきわめて複雑広範囲な学問なので、いろいろな知識があるとより理解ができ、理解できると一層興味深くなると思います。そういう意味で、英語をはじめとする一般教養科目や経済学や法学や社会学やその他の科目もしっかり意欲的に勉強することを望みます。出席については、これを前提に講義を進めますので休みが多くなると当然ながら講義も理解できなくなります。そうなるとう勉強に興味もなくなります。また講義中の小テストやレポートも提出できなくなりますので注意してください。それから最低限の礼儀やエチケットを守れない学生、例えば、周囲の学生の迷惑となる私語や携帯電話の使用などは厳しく対処するつもりです。</p>
目標と評価：	<p>基本的には期末の試験が大きなウェイトを占めることになります。講義の間の小テストやレポートも評価の対象にしますので、出席をきちんとして、そして試験を頑張るという姿勢を大切にしてください。</p>
教科書：	マネジメント基本全集1『経営学入門（ビジネスマネジメント）』 根本孝 学文社 2006年1月
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営学概論」（担当者：遠藤 ひとみ）の履修の手引き

科目名：	経営学概論
担当者：	遠藤 ひとみ
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>経営学は、理論的であるとともに実践的であり、経営革新を行うための専門的な知識体系である。本講は、経営管理を中心とする経営思想の発展について、体系的に整理された経営学原理について学習する。</p> <p>現代の企業経営の原理は、その経営思想にまで遡及すれば、17世紀以来の還元主義、機械論などの哲学や思想を基礎にして発展してきている。そうした企業経営は、現代の情報社会のなかでグローバルに展開されるとき、企業の環境問題、社会的責任など、大きな曲がり角に立っている。</p> <p>この講義では、経営学の原理を通論として展望するとともに、その還元主義的思想の限界を述べ、新しいシステム思考に立脚する企業経営の成長・進化・発展への道筋を明らかにする。</p> <p>講義の内容は、およそつぎに示す通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 古典的経営管理論 (1) テーラーの科学的管理法、(2) ファヨールの経営管理論、(3) マックスウェーバーの官僚制モデル、(4) 権限委譲の組織理論 2. 行動科学 (1) 人間関係論（ホーソン実験）、(2) 行動科学への発展（①マズローの欲求5段階説、②マグレガーのX理論、Y理論、③ハーズバーグの動機づけ要因、衛生要因など）、(3) 管理行動の認識 3. 分権化と経営組織 (1) ドラッカーの分権組織、(2) 権限の意義と分権原理、(3) マトリックス組織 4. 協働体系論と意思決定論 (1) バーナードの協働体系論、(2) サイモンの組織均衡理論、(3) サイモンの意思決定論 5. 経営戦略論 (1) チャンドラーの経営戦略論、(2) 経営戦略の理論と手法（①アンソフの理論、②PPM、③ポーターの競争戦略）、(3) 経営戦略と組織形態（①マイルズとスノーの理論、②ミンツバーグの理論） <p>講義では、これから経営学を学ぼうとする受講生を対象とし、経営学の基本的な原理を理解してもらうことを目指している。同時に、受講生には、経営学を学ぶ楽しさを知ってもらいたい。</p>
授業方法：	<p>基本的に講義形式で行い、適宜、講義中に小テストを実施する。小テスト、レポート提出など、受講生の側からも積極的な取り組みを期待する。レポートの作成に関しては、教科書、参考書を読むことのほかに、積極的にインターネットの利用、図書館の利用を薦めたい。</p>
履修の留意点：	あらかじめ、指定した教科書をよく読んでおくことが望ましい。
目標と評価：	<p>授業の評価は、学期末の試験を中心に行うが、あわせて、小テスト、レポート提出の結果を参照することがある。</p> <p>この講義の受講生は、つぎの目標を目指して、しっかり学習して欲しい。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①経営学の基本的な知識の習得。 ②経営管理を中心とした経営思想の発展について、体系的な知識の整理をして欲しい。 <p>うへの①と②の目標について、その達成度合いを調べるために、授業において小テスト、レポート作成、学期末試験の3点から評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ③経営学に関する応用力をつけさせる。 <p>日常生活のなかで、経営学の視点を生かせるようにさせたい。経営学に関する新しい知識を身につけることで、これまで見過ごしてきた経営事象に関心をもつことを勧めたい。講義を通して、「経営と組織」という人間の営みを、より深く読み解けるようになって欲しい。</p> <p>評価の点数は、以下の項目毎に加算する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席および授業中の小テスト〔10%〕 ・レポートの提出とその内容〔20%〕 ・学期末試験〔40%〕
教科書：	『経営思想の発展』 松行康夫・北原貞輔 勁草書房 1997年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営学概論」（担当者：吉沢 正広）の履修の手引き

科目名：	経営学概論
担当者：	吉沢 正広
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>経営と組織という科目は、大学入学後初めて経営学を学ぶ学生のために経営学の基礎を提供することにある。そこでは難しい理論や学説を学生に紹介するだけということとはなるべく避け、経営学の全体像を少しでも理解できるような内容にしたい。経営学という学問分野はどのようなものか。一緒に考えていくことを基本としたい。</p> <p>経営学は基本的には企業経営（会社の経営）とそれを支えている組織を研究するものといえる。こうしたことを学ぶことを通じて企業経営とは何か、組織とは何か、という疑問を少しずつ解明したい。企業経営や組織という言葉は新聞、雑誌、テレビなど各種マスコミで頻繁に我々の眼にとまったり、耳にする言葉である。それで何となく身近な学問という印象を持つかもしれないが、実際学習を始めてみると、以外に複雑で範囲が広く、そこで使われている概念なども必ずしも統一的なものがないことに気がつくと思う。その点で戸惑いを感じる学生もいるかもしれない。しかし逆に言えば非常に多彩でクリエイティブな学問ともいえる。経営学とは、どのような性格のものか、どのような内容を含んでいるのかを知ることは必要であし意義あることである。少しでもそういった日頃感じる疑問に対する学生諸君の自分なりの答えを出せるような講義としたい。まず会社とは何かについて、その仕組みから始めたい。</p>
授業方法：	<p>講義内容については、講義初めに学生の要望等を聞き取り、講義に反映させたい。その時点でテキスト等も決めたいと思う。そして日本経済新聞など学生にとって有益と思われる記事をプリントして配布したい。そういったアップデートな知識の吸収も考えています。</p>
履修の留意点：	<p>経営学はきわめて複雑広範囲な学問なので、いろいろな知識があるとより理解ができ、理解できると一層興味深くなると思います。そういう意味で、英語をはじめとする一般教養科目や経済学や法学や社会学やその他の科目もしっかり意欲的に勉強することを望みます。出席については、これを前提に講義を進めますので休みが多くなると当然ながら講義も理解できなくなります。そうなるとう勉強に興味もてなくなります。また講義中の小テストやレポートも提出できなくなりますので注意してください。それから最低限の礼儀やエチケットを守れない学生、例えば、周囲の学生の迷惑となる私語や携帯電話の使用などは厳しく対処するつもりです。</p>
目標と評価：	<p>基本的には期末の試験が大きなウェイトを占めることになります。講義の間の小テストやレポートも評価の対象にしますので、出席をきちんとして、そして試験を頑張るという姿勢を大切にしてください。</p>
教科書：	マネジメント基本全集1『経営学入門（ビジネスマネジメント）』 根本孝 学文社 2006年1月
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営学概論」（担当者：和田 耕治）の履修の手引き

科目名：	経営学概論
担当者：	和田 耕治
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>本講は、はじめて経営学を学ぶ学生に対する講義です。経営、組織、企業等に関する代表的なキーワードを取り上げ、それを受講者が理解し、自らの知識として、身につけるところから、はじめます。2年次以降の経営学に関する専門科目を理解するための基本的な用語、知識の修得を目指しますので、講義で取り上げた経営用語等については、必ず理解し、自分自身のものにして下さい。</p> <p>講義は以下の順序で進める予定ですが、適時、企業経営に関するトピックを盛り込んでいく事を考えています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 企業経営とは何か 2. 経営戦略 3. 企業組織 4. 企業と人 5. 企業とお金 6. 企業と情報
授業方法：	基本的には指定した教科書にそって行いますが、補足すべき知識については、板書やパワーポイントを用いて説明しますので、ノートは取るようして下さい。
履修の留意点：	基本的な経営用語の説明が主となります。2年次以降の専門科目につながりますので、欠席しないようにして下さい。
目標と評価：	期末試験での評価。
教科書：	経営の基本 武藤泰明 日本経済新聞社 2002年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営と会計」（担当者：飯野 幸江）の履修の手引き

科目名：	経営と会計
担当者：	飯野 幸江
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>会計は、企業の経済活動を貨幣額で記録・計算・報告するシステムです。企業は、自らの経済活動の成果を「会計」という技法で作成された財務諸表（損益計算書や貸借対照表）を通じて明らかに報告します。したがって、会計は企業を運営していく上で不可欠なものといえます。本講義では会計の基礎知識を学ぶことにより、企業の経営活動において会計が果たしている役割を学びます。講義で取り上げる内容は、以下のものです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 企業と会計 2. 会計学の体系 3. 複式簿記システムと財務諸表 4. アカウンタビリティとステークホルダー 5. 会計制度 6. 会計公準と会計原則 7. 財務諸表 8. 損益分岐点分析 9. 職業会計人と監査 10. 国際会計基準 <p>最近、会計に関する諸問題がテレビや新聞で大きく取り上げられています。こうした会計の時事的な問題についても適宜、授業で触れていく予定です。</p>
授業方法：	<p>講義形式を中心としますが、学ナビを活用して、できるだけ双方向の授業を展開していく予定です。具体的には、授業中に学ナビのアンケート機能を使って会計に関するクイズ（テストではありません）をしたり、授業の最後の15～20分で、レポート機能を使ってその回の授業のポイントをまとめたものを課題として提出してもらいます。</p>
履修の留意点：	<p>毎回、パソコンを使って課題を提出してもらいますので、第1回目の授業からパソコンを持参して下さい。</p>
目標と評価：	<p>会計学の基本的な知識を修得するとともに、会計学の基本的な考え方を身につけることを目標とします。成績は、毎回の授業で提出してもらう課題（3割）と定期試験（7割）で評価します。</p>
教科書：	使用しません。
参考書：	第1回目の授業で紹介します。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営と会計」（担当者：飯野 幸江）の履修の手引き

科目名：	経営と会計
担当者：	飯野 幸江
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>会計は、企業の経済活動を貨幣額で記録・計算・報告するシステムです。企業は、自らの経済活動の成果を「会計」という技法で作成された財務諸表（損益計算書や貸借対照表）を通じて明らかにし報告します。したがって、会計は企業を運営していく上で不可欠なものといえます。本講義では会計の基礎知識を学ぶことにより、企業の経営活動において会計が果たしている役割を学びます。講義で取り上げる内容は、以下のものです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 企業と会計 2. 会計学の体系 3. 複式簿記システムと財務諸表 4. アカウンタビリティとステークホルダー 5. 会計制度 6. 会計公準と会計原則 7. 財務諸表 8. 損益分岐点分析 9. 職業会計人と監査 10. 国際会計基準 <p>最近、会計に関する諸問題がテレビや新聞で大きく取り上げられています。こうした会計の時事的な問題についても適宜、授業で触れていく予定です。</p>
授業方法：	<p>講義形式を中心としますが、学ナビを活用して、できるだけ双方向の授業を展開していく予定です。具体的には、授業中に学ナビのアンケート機能を使って会計に関するクイズ（テストではありません）をしたり、授業の最後の15～20分で、レポート機能を使ってその回の授業のポイントをまとめたものを課題として提出してもらいます。</p>
履修の留意点：	<p>毎回、パソコンを使って課題を提出してもらいますので、第1回目の授業からパソコンを持参して下さい。</p>
目標と評価：	<p>会計学の基本的な知識を修得するとともに、会計学の基本的な考え方を身につけることを目標とします。成績は、毎回の授業で提出してもらう課題（3割）と定期試験（7割）で評価します。</p>
教科書：	使用しません。
参考書：	第1回目の授業で紹介します。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営と会計」（担当者：飯野 幸江）の履修の手引き

科目名：	経営と会計
担当者：	飯野 幸江
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>会計は、企業の経済活動を貨幣額で記録・計算・報告するシステムです。企業は、自らの経済活動の成果を「会計」という技法で作成された財務諸表（損益計算書や貸借対照表）を通じて明らかに報告します。したがって、会計は企業を運営していく上で不可欠なものといえます。本講義では会計の基礎知識を学ぶことにより、企業の経営活動において会計が果たしている役割を学びます。講義で取り上げる内容は、以下のものです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 企業と会計 2. 会計学の体系 3. 複式簿記システムと財務諸表 4. アカウンタビリティとステークホルダー 5. 会計制度 6. 会計公準と会計原則 7. 財務諸表 8. 損益分岐点分析 9. 職業会計人と監査 10. 国際会計基準 <p>最近、会計に関する諸問題がテレビや新聞で大きく取り上げられています。こうした会計の時事的な問題についても適宜、授業で触れていく予定です。</p>
授業方法：	<p>講義形式を中心としますが、学ナビを活用して、できるだけ双方向の授業を展開していく予定です。具体的には、授業中に学ナビのアンケート機能を使って会計に関するクイズ（テストではありません）をしたり、授業の最後の15～20分で、レポート機能を使ってその回の授業のポイントをまとめたものを課題として提出してもらいます。</p>
履修の留意点：	<p>毎回、パソコンを使って課題を提出してもらいますので、第1回目の授業からパソコンを持参して下さい。</p>
目標と評価：	<p>会計学の基本的な知識を修得するとともに、会計学の基本的な考え方を身につけることを目標とします。成績は、毎回の授業で提出してもらう課題（3割）と定期試験（7割）で評価します。</p>
教科書：	使用しません。
参考書：	第1回目の授業で紹介します。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営と会計」（担当者：井上 行忠）の履修の手引き

科目名：	経営と会計
担当者：	井上 行忠
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>会計理論は簿記によって具体化し、簿記は会計理論の助けを得て機能する。会計は、企業の経営活動を貨幣単位で計算し、報告することに妥当性を与えるための基準を提供する会計（理論）と、その基準に従って経営活動を正確に記録し、報告するための技術である会計（簿記）に分けることができる。したがって、会計は簿記と理論を共に理解することにより、会計の全体を理解したことになる。ここに本講義は、①会計の範囲・資格について、②複式簿記のルール、③簿記一巡の流れ、④会社の設立、⑤税金・個人の所得、⑥給料（厚生年金・健康保険料・住民税・所得税等）、⑦手形・小切手について、⑧損益分岐点とは、⑨企業の業種について、基本的事項を学習する。</p>
授業方法：	授業方法： 理論の解説を中心に行い、実務と理論を結びつける。
履修の留意点：	<p>履修の留意点： 履修の留意点： 出席を重視する。</p> <p>教科書は、授業中にプリントを配布する。</p>
目標と評価：	目標と評価： 目標と評価： 経営と会計の基本を学習し、将来職業会計人としての知識を学ぶ。
教科書：	教科書： 「なし」
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営と政策」（担当者：内田 和夫）の履修の手引き

科目名：	経営と政策
担当者：	内田 和夫
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>本講義は、経営法学科設置の公共経営コースではどのようなことを学ぶのかを1年生諸君が理解し、実感してくれることを目的としています。気づいた諸君もいると思いますが、経営法学科は、別名「コンパクト法学部」であり、公共経営コースはいわば、別名「政治学科公共政策学専攻」といえます。その学問的基礎は、政治学、行政学、公法学、です。</p> <p>本講義が、1年生むけの数少ない専門科目であることも念頭に置きつつ、具体的な現実の事例から出発して、公共経営コースではどのようなことを学ぶコースなのかを実感してもらうことを目的としています。</p> <p>第1章 経営法学科はコンパクト法学部、ーそこで君は 第2章 迷い犬の運命と多様な主体の公共的取り組み 第3章 地域生活の現在とまちづくりという課題 第4章 君の大学イメージと社会の中での大学 第5章 人を大事にする社会の実現とさまざまな市民活動 第6章 政策と公共経営が課題となる時代の学問的営み</p>
授業方法：	<p>① 教員が一方向的に話すスタイルではなく、考える素材を提供します。受講生諸君はいろいろ考えるところをどしどし書き、教員はそれに応答します。</p> <p>② ゲストスピーカーが2回から3回、おいでくださいます。昨年は『小平よさこい』でまちづくりの皆さんといっしょに踊りも体験しましたし、国際協力に大学生時代から取り組んだ横田宗さん（NGO、ACTION代表）もおいでくださいました。</p> <p>③ 事例を読み、自分の意見を書く事を重視します。</p> <p>④ 面白かったという感想を抱く読書レポートがあります。</p> <p>⑤ 心が動き、思考が始まる授業を目指しています。</p>
履修の留意点：	<p>① 大学生としてのいいスタートを切りたい諸君、ひとりひとりの勉強方法もアドバイスしていきま</p> <p>す。たとえば、昨年は、ボランティア活動をしてみたい諸君にいくつかのボランティアをリレー式で体験できるコースをアレンジして提供しました。遠慮しないで、率直に相談してください。</p> <p>② 公務員受験を希望する諸君も、歓迎します。</p> <p>③ それぞれの学問分野の参考図書にぜひチャレンジしてください。</p> <p>④ 教科書は使用しません。</p>
目標と評価：	<p>① 公共経営コースで学ぶことはどんなことか、また、同コースに進まない諸君にも、政治学、行政学、公法学がどういう学問なのかにふれてもらうことを目的としています。</p> <p>② 社会のいろいろなところで公共課題の解決に取り組む人々の体験を人としてみず受け止めることを大切にしています。</p> <p>③ 評価はレポート2本を中心にする予定であるが、受講生の状況によっては試験を実施するJ こともある。</p>
教科書：	
参考書：	政治一個人と統合 有賀弘・阿部齊・斉藤眞 東京大学出版会 1994

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営と政策」（担当者：内田 和夫）の履修の手引き

科目名：	経営と政策
担当者：	内田 和夫
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>本講義は、経営法学科設置の公共経営コースではどのようなことを学ぶのかを1年生諸君が理解し、実感してくれることを目的としています。気づいた諸君もいると思いますが、経営法学科は、別名「コンパクト法学部」であり、公共経営コースはいわば、別名「政治学科公共政策学専攻」といえます。その学問的基礎は、政治学、行政学、公法学、です。</p> <p>本講義が、1年生むけの数少ない専門科目であることも念頭に置きつつ、具体的な現実の事例から出発して、公共経営コースではどのようなことを学ぶコースなのかを実感してもらうことを目的としています。</p> <p>第1章 経営法学科はコンパクト法学部、ーそこで君は 第2章 迷い犬の運命と多様な主体の公共的取り組み 第3章 地域生活の現在とまちづくりという課題 第4章 君の大学イメージと社会の中での大学 第5章 人を大事にする社会の実現とさまざまな市民活動 第6章 政策と公共経営が課題となる時代の学問的営み</p>
授業方法：	<p>① 教員が一方向的に話すスタイルではなく、考える素材を提供します。受講生諸君はいろいろ考えるところをどしどし書き、教員はそれに応答します。</p> <p>② ゲストスピーカーが2回から3回、おいでくださいます。昨年は『小平よさこい』でまちづくりの皆さんといっしょに踊りも体験しましたし、国際協力に大学生時代から取り組んだ横田宗さん（NGO、ACTION代表）もおいでくださいました。</p> <p>③ 事例を読み、自分の意見を書く事を重視します。</p> <p>④ 面白かったという感想を抱く読書レポートがあります。</p> <p>⑤ 心が動き、思考が始まる授業を目指しています。</p>
履修の留意点：	<p>① 大学生としてのいいスタートを切りたい諸君、ひとりひとりの勉強方法もアドバイスしていきま</p> <p>す。たとえば、昨年は、ボランティア活動をしてみたい諸君にいくつかのボランティアをリレー式で体験できるコースをアレンジして提供しました。遠慮しないで、率直に相談してください。</p> <p>② 公務員受験を希望する諸君も、歓迎します。</p> <p>③ それぞれの学問分野の参考図書にぜひチャレンジしてください。</p> <p>④ 教科書は使用しません。</p>
目標と評価：	<p>① 公共経営コースで学ぶことはどんなことか、また、同コースに進まない諸君にも、政治学、行政学、公法学がどういう学問なのかにふれてもらうことを目的としています。</p> <p>② 社会のいろいろなところで公共課題の解決に取り組む人々の体験を人としてみず受け止めることを大切にしています。</p> <p>③ 評価はレポート2本を中心にする予定であるが、受講生の状況によっては試験を実施するJ こともある。</p>
教科書：	
参考書：	政治一個人と統合 有賀弘・阿部齊・斉藤眞 東京大学出版会 1994

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営と組織」（担当者：吉沢 正広）の履修の手引き

科目名：	経営と組織
担当者：	吉沢 正広
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>経営と組織という科目は、大学入学後初めて経営学を学ぶ学生のために経営学の基礎を提供することにある。そこでは難しい理論や学説を学生に紹介するだけということとはなるべく避け、経営学の全体像を少しでも理解できるような内容にしたい。経営学という学問分野はどのようなものか。一緒に考えていくことを基本としたい。</p> <p>経営学は基本的には企業経営（会社の経営）とそれを支えている組織を研究するものといえる。こうしたことを学ぶことを通じて企業経営とは何か、組織とは何か、という疑問を少しずつ解明したい。企業経営や組織という言葉は新聞、雑誌、テレビなど各種マスコミで頻繁に我々の眼にとまったり、耳にする言葉である。それで何となく身近な学問という印象を持つかもしれないが、実際学習を始めてみると、以外に複雑で範囲が広く、そこで使われている概念なども必ずしも統一的なものがないことに気がつくと思う。その点で戸惑いを感じる学生もいるかもしれない。しかし逆に言えば非常に多彩でクリエイティブな学問ともいえる。経営学とは、どのような性格のものか、どのような内容を含んでいるのかを知ることは必要であし意義あることである。少しでもそういった日頃感じる疑問に対する学生諸君の自分なりの答えを出せるような講義としたい。まず会社とは何かについて、その仕組みから始めたい。</p>
授業方法：	<p>講義内容については、講義初回に学生の要望等を聞き取り、講義に反映させたい。その時点でテキスト等も決めたいと思う。そして日本経済新聞など学生にとって有益と思われる記事をプリントして配布したい。そういったアップデートな知識の吸収も考えています。</p>
履修の留意点：	<p>経営学はきわめて複雑広範囲な学問なので、いろいろな知識があるとより理解ができ、理解できると一層興味深くなると思います。そういう意味で、英語をはじめとする一般教養科目や経済学や法学や社会学やその他の科目もしっかり意欲的に勉強することを望みます。出席については、これを前提に講義を進めますので休みが多くなると当然ながら講義も理解できなくなります。そうなるとう勉強に興味もてなくなります。また講義中の小テストやレポートも提出できなくなりますので注意してください。それから最低限の礼儀やエチケットを守れない学生、例えば、周囲の学生の迷惑となる私語や携帯電話の使用などは厳しく対処するつもりです。</p>
目標と評価：	<p>基本的には期末の試験が大きなウェイトを占めることになります。講義の間の小テストやレポートも評価の対象にしますので、出席をきちんとして、そして試験を頑張るという姿勢を大切にしてください。</p>
教科書：	マネジメント基本全集1『経営学入門（ビジネスマネジメント）』 根本孝 学文社 2006年1月
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営と組織」（担当者：遠藤 ひとみ）の履修の手引き

科目名：	経営と組織
担当者：	遠藤 ひとみ
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>経営学は、理論的であるとともに実践的であり、経営革新を行うための専門的な知識体系である。本講は、経営管理を中心とする経営思想の発展について、体系的に整理された経営学原理について学習する。</p> <p>現代の企業経営の原理は、その経営思想にまで遡及すれば、17世紀以来の還元主義、機械論などの哲学や思想を基礎にして発展してきている。そうした企業経営は、現代の情報社会のなかでグローバルに展開されるとき、企業の環境問題、社会的責任など、大きな曲がり角に立っている。</p> <p>この講義では、経営学の原理を通論として展望するとともに、その還元主義的思想の限界を述べ、新しいシステム思考に立脚する企業経営の成長・進化・発展への道筋を明らかにする。</p> <p>講義の内容は、およそつぎに示す通りである。</p> <p>1. 古典的経営管理論 (1) テーラーの科学的管理法、(2) ファヨールの経営管理論、(3) マックスウェーバーの官僚制モデル、(4) 権限委譲の組織理論</p> <p>2. 行動科学 (1) 人間関係論（ホーソン実験）、(2) 行動科学への発展（①マズローの欲求5段階説、②マグレガーのX理論、Y理論、③ハーズバーグの動機づけ要因、衛生要因など）、(3) 管理行動の認識</p> <p>3. 分権化と経営組織 (1) ドラッカーの分権組織、(2) 権限の意義と分権原理、(3) マトリックス組織</p> <p>4. 協働体系論と意思決定論 (1) バーナードの協働体系論、(2) サイモンの組織均衡理論、(3) サイモンの意思決定論</p> <p>5. 経営戦略論 (1) チャンドラーの経営戦略論、(2) 経営戦略の理論と手法（①アンソフの理論、②PPM、③ポーターの競争戦略）、(3) 経営戦略と組織形態（①マイルズとスノーの理論、②ミンツバーグの理論）</p> <p>講義では、これから経営学を学ぼうとする受講生を対象とし、経営学の基本的な原理を理解してもらうことを目指している。同時に、受講生には、経営学を学ぶ楽しさを知ってもらいたい。</p>
授業方法：	基本的に講義形式で行い、適宜、講義中に小テストを実施する。小テスト、レポート提出など、受講生の側からも積極的な取り組みを期待する。レポートの作成に関しては、教科書、参考書を読むことのほかに、積極的にインターネットの利用、図書館の利用を薦めたい。
履修の留意点：	あらかじめ、指定した教科書をよく読んでおくことが望ましい。
目標と評価：	<p>授業の評価は、学期末の試験を中心に行うが、あわせて、小テスト、レポート提出の結果を参照することがある。</p> <p>この講義の受講生は、つぎの目標を目指して、しっかり学習して欲しい。</p> <p>①経営学の基本的な知識の習得。 ②経営管理を中心とした経営思想の発展について、体系的な知識の整理をして欲しい。 ③経営学に関する応用力をつけさせる。</p> <p>うえの①と②の目標について、その達成度合いを調べるために、授業において小テスト、レポート作成、学期末試験の3点から評価する。</p> <p>日常生活のなかで、経営学の視点を生かせるようにさせたい。経営学に関する新しい知識を身につけることで、これまで見過ごしてきた経営事象に関心をもつことを勧めたい。講義を通して、「経営と組織」という人間の営みを、より深く読み解けるようになって欲しい。</p> <p>評価の点数は、以下の項目毎に加算する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席および授業中の小テスト [10%] ・レポートの提出とその内容 [20%] ・学期末試験 [40%]
教科書：	『経営思想の発展』 松行康夫・北原貞輔 勁草書房 1997年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営と組織」（担当者：吉沢 正広）の履修の手引き

科目名：	経営と組織
担当者：	吉沢 正広
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>経営と組織という科目は、大学入学後初めて経営学を学ぶ学生のために経営学の基礎を提供することにある。そこでは難しい理論や学説を学生に紹介するだけということとはなるべく避け、経営学の全体像を少しでも理解できるような内容にしたい。経営学という学問分野はどのようなものか。一緒に考えていくことを基本としたい。</p> <p>経営学は基本的には企業経営（会社の経営）とそれを支えている組織を研究するものといえる。こうしたことを学ぶことを通じて企業経営とは何か、組織とは何か、という疑問を少しずつ解明したい。企業経営や組織という言葉は新聞、雑誌、テレビなど各種マスコミで頻繁に我々の眼にとまったり、耳にする言葉である。それで何となく身近な学問という印象を持つかもしれないが、実際学習を始めてみると、以外に複雑で範囲が広く、そこで使われている概念なども必ずしも統一的なものがないことに気がつくと思う。その点で戸惑いを感じる学生もいるかもしれない。しかし逆に言えば非常に多彩でクリエイティブな学問ともいえる。経営学とは、どのような性格のものか、どのような内容を含んでいるのかを知ることは必要であし意義あることである。少しでもそういった日頃感じる疑問に対する学生諸君の自分なりの答えを出せるような講義としたい。まず会社とは何かについて、その仕組みから始めたい。</p>
授業方法：	<p>講義内容については、講義初回に学生の要望等を聞き取り、講義に反映させたい。その時点でテキスト等も決めたいと思う。そして日本経済新聞など学生にとって有益と思われる記事をプリントして配布したい。そういったアップデートな知識の吸収も考えています。</p>
履修の留意点：	<p>経営学はきわめて複雑広範囲な学問なので、いろいろな知識があるとより理解ができ、理解できると一層興味深くなると思います。そういう意味で、英語をはじめとする一般教養科目や経済学や法学や社会学やその他の科目もしっかり意欲的に勉強することを望みます。出席については、これを前提に講義を進めますので休みが多くなると当然ながら講義も理解できなくなります。そうなるとう勉強に興味もてなくなります。また講義中の小テストやレポートも提出できなくなりますので注意してください。それから最低限の礼儀やエチケットを守れない学生、例えば、周囲の学生の迷惑となる私語や携帯電話の使用などは厳しく対処するつもりです。</p>
目標と評価：	<p>基本的には期末の試験が大きなウェイトを占めることになります。講義の間の小テストやレポートも評価の対象にしますので、出席をきちんとして、そして試験を頑張るという姿勢を大切にしてください。</p>
教科書：	マネジメント基本全集1『経営学入門（ビジネスマネジメント）』 根本孝 学文社 2006年1月
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営と組織」（担当者：和田 耕治）の履修の手引き

科目名：	経営と組織
担当者：	和田 耕治
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	本講は、はじめて経営学を学ぶ学生に対する講義です。経営、組織、企業等に関する代表的なキーワードを取り上げ、それを受講者が理解し、自らの知識として、身につけるところから、はじめます。2年次以降の経営学に関する専門科目を理解するための基本的な用語、知識の修得を目指しますので、講義で取り上げた経営用語等については、必ず理解し、自分自身のものにして下さい。
授業方法：	基本的には指定した教科書にそって行いますが、補足すべき知識については、板書やパワーポイントを用いて説明しますので、ノートは取るようして下さい。
履修の留意点：	基本的な経営用語の説明が主となります。2年次以降の専門科目につながりますので、欠席しないようにしてください。
目標と評価：	期末試験での評価。
教科書：	経営の基本 武藤泰明 日本経済新聞社 2002年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済学概論」（担当者：久保 真）の履修の手引き

科目名：	経済学概論
担当者：	久保 真
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	我々現代人は日々買い物などの経済活動をしているにも拘わらず、いやそれだからこそというべきでしょうか、経済の仕組みや成り立ちには無関心な人が少なくありません。しかし他方で、いわゆる「自己責任」の時代の到来とともに、経済に関する知識や理解は普通の人々にもますます求められるようになって来ています。このような現実に鑑み、本講義は、経済学の初学者が、経済というものに興味を持つよう促すことを目的とします。このような目的を果たすために、できるだけ身近なトピックも取り上げるようにしますので、受講生諸君は、新聞やテレビなどで報じられる経済関連ニュースに、日頃から接するように心がけてください。
授業方法：	通常の講義によって行いますが、できるだけ双方向性を確保するよう努力するつもりです。特に教科書は使いませんので、授業中は講義内容の理解に全身全霊を注いでください。また、宿題を複数回課しますので、必ず独力で取り組んで下さい。
履修の留意点：	本講義は、経営経済学科の学生には「経済と政策」という名称で開講されます。
目標と評価：	<p>目標は以下の三点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 経済学の基本的な概念を理解する。 (2) 日常的な経済事象や言葉を、経済学の概念を用いて説明する。 (3) 大学における授業形態や試験形式に馴れる。 <p>評価は、通常授業週での小テストや宿題（30%）と定期試験に行われる筆答試験（持ち込み可、70%）とを総合して下します。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済学概論」（担当者：渡辺 広明）の履修の手引き

科目名：	経済学概論
担当者：	渡辺 広明
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	①この科目は経済学をこれから学ぶための入門の講座です。経済学の基礎の基礎を学習します。初学者の経済学ですから授業展開で留意した点は、身近な経済問題を取り上げると共に内容を絞り込み、分かりやすい授業を行う事に力を入れました。 ②主な内容は、パンダ・タイムマシンに乗る（経済学とは何か）、パンダの日記（3大経済学者の理論と処方箋・経済政策）パンダの身体の仕組み（国民経済の仕組みと循環）、パンダ・お元気ですか（景気の話とGDP）、パンダ海外旅行に行こう（外国為替とその相場、円高・円安）、パンダの体調と血圧（銀行の仕事、中央銀行の役割、株式）、パンダの頭痛の種（財政の役割、赤字財政の問題）等です。教科書は特に有りません。必要な資料は、学ナビに添付するか、教室内で配布します。
授業方法：	基本的には、講義形式です。毎回、パソコンを利用したレポートや作業があります。これが平常点にもなります。奮って参加してください
履修の留意点：	①この講義では、ホームランを打つ事が出来ません。毎日の積み重ねが大切です。ヒットをこつこつ打ってください。毎日、経済学のことを少しでも考えてもらいたい。そのため授業に出席するのはもとより、毎回、パソコンを利用する作業・レポートが課されます。それらを積極的に取り組んでください。 ②もちろん、パソコンが毎時間、必携です。 ③教科書はありませんが、参考書をあげておきます。 『ゼロからわかる経済の基本』 野口旭 講談社現代新書 2002年 『やさしい経済学』 日本経済新聞社編 日経ビジネス人文庫 2002 『経済のニュースが面白いほどわかる本・日本経済編、世界経済編』 細野真宏 中経出版 2000、2003年 『優しい経済学』 高橋伸彰 ちくま新書 2003年 『はじめての経済学 上下』 伊藤元重 日経文庫 2004年
目標と評価：	①経済学の基本的な用語を学ぶ事が出来る。 ②経済新聞を理解する事が出来る。 ③評価：学期末テスト（50%）、作業・平常点（50%）
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済学概論」（担当者：久保 真）の履修の手引き

科目名：	経済学概論
担当者：	久保 真
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	我々現代人は日々買い物などの経済活動をしているにも拘わらず、いやそれだからこそというべきでしょうか、経済の仕組みや成り立ちには無関心な人が少なくありません。しかし他方で、いわゆる「自己責任」の時代の到来とともに、経済に関する知識や理解は普通の人々にもますます求められるようになって来ています。このような現実に鑑み、本講義は、経済学の初学者が、経済というものに興味を持つよう促すことを目的とします。このような目的を果たすために、できるだけ身近なトピックも取り上げるようにしますので、受講生諸君は、新聞やテレビなどで報じられる経済関連ニュースに、日頃から接するように心がけてください。
授業方法：	通常の講義によって行いますが、できるだけ双方向性を確保するよう努力するつもりです。特に教科書は使いませんので、授業中は講義内容の理解に全身全霊を注いでください。また、宿題を複数回課しますので、必ず独力で取り組んで下さい。
履修の留意点：	本講義は、経営経済学科の学生には「経済と政策」という名称で開講されます。
目標と評価：	目標は以下の三点です。 (1) 経済学の基本的な概念を理解する。 (2) 日常的な経済事象や言葉を、経済学の概念を用いて説明する。 (3) 大学における授業形態や試験形式に馴れる。 評価は、通常授業週での小テストや宿題（30%）と定期試験に行われる筆答試験（持ち込み可、70%）とを総合して下します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済学概論」（担当者：渡辺 広明）の履修の手引き

科目名：	経済学概論
担当者：	渡辺 広明
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	①この科目は経済学をこれから学ぶための入門の講座です。経済学の基礎の基礎を学習します。初学者の経済学ですから授業展開で留意した点は、身近な経済問題を取り上げると共に内容を絞り込み、分かりやすい授業を行う事に力を入れました。 ②主な内容は、パンダ・タイムマシンに乗る（経済学とは何か）、パンダの日記（3大経済学者の理論と処方箋・経済政策）パンダの身体の仕組み（国民経済の仕組みと循環）、パンダ・お元気ですか（景気の話とGDP）、パンダ海外旅行に行こう（外国為替とその相場、円高・円安）、パンダの体調と血圧（銀行の仕事、中央銀行の役割、株式）、パンダの頭痛の種（財政の役割、赤字財政の問題）等です。教科書は特に有りません。必要な資料は、学ナビに添付するか、教室内で配布します。
授業方法：	基本的には、講義形式です。毎回、パソコンを利用したレポートや作業があります。これが平常点にもなります。奮って参加してください
履修の留意点：	①この講義では、ホームランを打つ事が出来ません。毎日の積み重ねが大切です。ヒットをこつこつ打ってください。毎日、経済学のことを少しでも考えてもらいたい。そのため授業に出席するのはもとより、毎回、パソコンを利用する作業・レポートが課されます。それらを積極的に取り組んでください。 ②もちろん、パソコンが毎時間、必携です。 ③教科書はありませんが、参考書をあげておきます。 『ゼロからわかる経済の基本』 野口旭 講談社現代新書 2002年 『やさしい経済学』 日本経済新聞社編 日経ビジネス人文庫 2002 『経済のニュースが面白いほどわかる本・日本経済編、世界経済編』 細野真宏 中経出版 2000、2003年 『優しい経済学』 高橋伸彰 ちくま新書 2003年 『はじめての経済学 上下』 伊藤元重 日経文庫 2004年
目標と評価：	①経済学の基本的な用語を学ぶ事が出来る。 ②経済新聞を理解する事が出来る。 ③評価：学期末テスト（50%）、作業・平常点（50%）
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済と政策」（担当者：久保 真）の履修の手引き

科目名：	経済と政策
担当者：	久保 真
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	我々現代人は日々買い物などの経済活動をしているにも拘わらず、いやそれだからこそというべきでしようか、経済の仕組みや成り立ちには無関心な人が少なくありません。しかし他方で、いわゆる「自己責任」の時代の到来とともに、経済に関する知識や理解は普通の人々にもますます求められるようになって来ています。このような現実に鑑み、本講義は、経済学の初学者が、経済というものに興味を持つよう促すことを目的とします。このような目的を果たすために、できるだけ身近なトピックも取り上げるようにしますので、受講生諸君は、新聞やテレビなどで報じられる経済関連ニュースに、日頃から接するように心がけてください。
授業方法：	通常の講義によって行いますが、できるだけ双方向性を確保するよう努力するつもりです。特に教科書は使いませんので、授業中は講義内容の理解に全身全霊を注いでください。また、宿題を複数回課しますので、必ず独力で取り組んで下さい。
履修の留意点：	本講義は、経営法学科の学生には「経済学概論」という名称で開講されます。
目標と評価：	<p>目標は以下の三点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 経済学の基本的な概念を理解する。 (2) 日常的な経済事象や言葉を、経済学の概念を用いて説明する。 (3) 大学における授業形態や試験形式に馴れる。 <p>評価は、通常授業週での小テストや宿題（30%）と定期試験に行われる筆答試験（持ち込み可、70%）とを総合して下します。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済と政策」（担当者：渡辺 広明）の履修の手引き

科目名：	経済と政策
担当者：	渡辺 広明
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	①この科目は経済学をこれから学ぶための入門の講座です。経済学の基礎の基礎を学習します。初学者の経済学ですから授業展開で留意した点は、身近な経済問題を取り上げると共に内容を絞り込み、分かりやすい授業を行う事に力を入れました。 ②主な内容は、パンダ・タイムマシンに乗る（経済学とは何か）、パンダの日記（3大経済学者の理論と処方箋・経済政策）パンダの身体の仕組み（国民経済の仕組みと循環）、パンダ・お元気ですか（景気の話とGDP）、パンダ海外旅行に行こう（外国為替とその相場、円高・円安）、パンダの体調と血圧（銀行の仕事、中央銀行の役割、株式）、パンダの頭痛の種（財政の役割、赤字財政の問題）等です。教科書は特に有りません。必要な資料は、学ナビに添付するか、教室内で配布します。
授業方法：	基本的には、講義形式です。毎回、パソコンを利用したレポートや作業があります。これが平常点にもなります。奮って参加してください
履修の留意点：	①この講義では、ホームランを打つ事が出来ません。毎日の積み重ねが大切です。ヒットをこつこつ打ってください。毎日、経済学のことを少しでも考えてもらいたい。そのため授業に出席するのはもとより、毎回、パソコンを利用する作業・レポートが課されます。それらを積極的に取り組んでください。 ②もちろん、パソコンが毎時間、必携です。 ③教科書はありませんが、参考書をあげておきます。 『ゼロからわかる経済の基本』 野口旭 講談社現代新書 2002年 『やさしい経済学』 日本経済新聞社編 日経ビジネス人文庫 2002 『経済のニュースが面白いほどわかる本・日本経済編、世界経済編』 細野真宏 中経出版 2000、2003年 『優しい経済学』 高橋伸彰 ちくま新書 2003年 『はじめての経済学 上下』 伊藤元重 日経文庫 2004年
目標と評価：	①経済学の基本的な用語を学ぶ事が出来る。 ②経済新聞を理解する事が出来る。 ③評価：学期末テスト（50%）、作業・平常点（50%）
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済と政策」（担当者：久保 真）の履修の手引き

科目名：	経済と政策
担当者：	久保 真
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	我々現代人は日々買い物などの経済活動をしているにも拘わらず、いやそれだからこそというべきでしようか、経済の仕組みや成り立ちには無関心な人が少なくありません。しかし他方で、いわゆる「自己責任」の時代の到来とともに、経済に関する知識や理解は普通の人々にもますます求められるようになって来ています。このような現実に鑑み、本講義は、経済学の初学者が、経済というものに興味を持つよう促すことを目的とします。このような目的を果たすために、できるだけ身近なトピックも取り上げるようにしますので、受講生諸君は、新聞やテレビなどで報じられる経済関連ニュースに、日頃から接するように心がけてください。
授業方法：	通常の講義によって行いますが、できるだけ双方向性を確保するよう努力するつもりです。特に教科書は使いませんので、授業中は講義内容の理解に全身全霊を注いでください。また、宿題を複数回課しますので、必ず独力で取り組んで下さい。
履修の留意点：	本講義は、経営法学科の学生には「経済学概論」という名称で開講されます。
目標と評価：	<p>目標は以下の三点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 経済学の基本的な概念を理解する。 (2) 日常的な経済事象や言葉を、経済学の概念を用いて説明する。 (3) 大学における授業形態や試験形式に馴れる。 <p>評価は、通常授業週での小テストや宿題（30%）と定期試験に行われる筆答試験（持ち込み可、70%）とを総合して下します。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済と政策」（担当者：渡辺 広明）の履修の手引き

科目名：	経済と政策
担当者：	渡辺 広明
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	①この科目は経済学をこれから学ぶための入門の講座です。経済学の基礎の基礎を学習します。初学者の経済学ですから授業展開で留意した点は、身近な経済問題を取り上げると共に内容を絞り込み、分かりやすい授業を行う事に力を入れました。 ②主な内容は、パンダ・タイムマシンに乗る（経済学とは何か）、パンダの日記（3大経済学者の理論と処方箋・経済政策）パンダの身体の仕組み（国民経済の仕組みと循環）、パンダ・お元気ですか（景気の話とGDP）、パンダ海外旅行に行こう（外国為替とその相場、円高・円安）、パンダの体調と血圧（銀行の仕事、中央銀行の役割、株式）、パンダの頭痛の種（財政の役割、赤字財政の問題）等です。教科書は特に有りません。必要な資料は、学ナビに添付するか、教室内で配布します。
授業方法：	基本的には、講義形式です。毎回、パソコンを利用したレポートや作業があります。これが平常点にもなります。奮って参加してください
履修の留意点：	①この講義では、ホームランを打つ事が出来ません。毎日の積み重ねが大切です。ヒットをこつこつ打ってください。毎日、経済学のことを少しでも考えてもらいたい。そのため授業に出席するのはもとより、毎回、パソコンを利用する作業・レポートが課されます。それらを積極的に取り組んでください。 ②もちろん、パソコンが毎時間、必携です。 ③教科書はありませんが、参考書をあげておきます。 『ゼロからわかる経済の基本』 野口旭 講談社現代新書 2002年 『やさしい経済学』 日本経済新聞社編 日経ビジネス人文庫 2002 『経済のニュースが面白いほどわかる本・日本経済編、世界経済編』 細野真宏 中経出版 2000、2003年 『優しい経済学』 高橋伸彰 ちくま新書 2003年 『はじめての経済学 上下』 伊藤元重 日経文庫 2004年
目標と評価：	①経済学の基本的な用語を学ぶ事が出来る。 ②経済新聞を理解する事が出来る。 ③評価：学期末テスト（50%）、作業・平常点（50%）
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営学 I」（担当：吉沢 正広）の履修の手引き

科目名：	経営学 I
担当者：	吉沢 正広
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>経営学 I は大学入学後一般教養科目や経済学、法学、社会学などの科目を学んできた学生に、経営学の基礎的な知識を提供することを目的としている。経営学は非常に複雑多岐にわたっており、経営上の事象を一つの理論や学説や立場で説明することはできない。すなわちその全体像はきわめて複雑であるといえる。21世紀を迎え、グローバル化、経済のサービス化、情報技術（IT）の進化、国内の少子高齢化の急速な進展といったように、それらがビジネスの世界にも波及し、ビジネスの世界も大きく変貌を遂げている。このように企業や組織や個人を取り巻く環境は大きく変わり、それに企業や組織や個人も対応していかなければならない。</p> <p>経営学 I では、上記した内容を踏まえ、また学際的な知識を前提にして経営学の基礎的な知識を学んでいきたい。複雑多岐な内容を含むので、即効的な成果を期待するのは早計であろう。そこには地道な努力と忍耐が要請される。半年、一年という長いスパンで臨む気持ちが必要である。そのような努力を惜しむことなく続けることにより、一年後、二年後にはきっと諸君の企業や社会を見る目は確実に成長することと思う。そして社会や企業や各種組織から必要とされる資質を身につけ、各方面で活躍できる人材となることと思う。さらにビジネス・リーダーとして、これからの社会で活躍する場も拓けてくることを期待したい。経営学 I は、そういう意味で将来の自分への種まきの第一歩と考えて欲しい。</p>
授業方法：	<p>基本的には指定したテキストの内容に基づいて講義を展開したい。しかし、一方的な知識の伝達は避けたいと思っている。講義内容の確認テスト、レポートなど、また講義中の学生への質問等、双方向の講義を心がけたい。</p> <p>必要に応じて日本経済新聞など学生にとって有益と思われる記事をプリントして配布します。そうしたアップデートな知識の提供と吸収も考えています。</p>
履修の留意点：	<p>経営学はきわめて学際的な学問分野なので、経済学や法律学や社会学などの科目を意欲的に勉強しておいて下さい。これは学生にとってとても意義あることだと思います。出席については、これを前提に講義を進めますので休みが多くなると当然ながら講義も理解できなくなります。また講義中の小テストやレポートも提出できなくなりますので注意してください。</p> <p>それから最低限の礼儀やエチケットを守れない学生、例えば、周囲の学生の迷惑となる私語や携帯電話の使用などは厳しく対処するつもりです。</p>
目標と評価：	<p>基本的には期末の試験が大きなウエイトを占めることとなります。講義の間の小テストやレポートも評価の対象にしますので、出席をきちんとして、そして試験を頑張るという姿勢を大切にしてください。</p>
教科書：	基本テキストシリーズ経営学 唐沢昌敬 同文館 2006年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営学 I」（担当：吉沢 正広）の履修の手引き

科目名：	経営学 I
担当者：	吉沢 正広
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>経営学 I は大学入学後一般教養科目や経済学、法学、社会学などの科目を学んできた学生に、経営学の基礎的な知識を提供することを目的としている。経営学は非常に複雑多岐にわたっており、経営上の事象を一つの理論や学説や立場で説明することはできない。すなわちその全体像はきわめて複雑であるといえる。21世紀を迎え、グローバル化、経済のサービス化、情報技術（IT）の進化、国内の少子高齢化の急速な進展といったように、それらがビジネスの世界にも波及し、ビジネスの世界も大きく変貌を遂げている。このように企業や組織や個人を取り巻く環境は大きく変わり、それに企業や組織や個人も対応していかなければならない。</p> <p>経営学 I では、上記した内容を踏まえ、また学際的な知識を前提にして経営学の基礎的な知識を学んでいきたい。複雑多岐な内容を含むので、即効的な成果を期待するのは早計であろう。そこには地道な努力と忍耐が要請される。半年、一年という長いスパンで臨む気持ちが必要である。そのような努力を惜しむことなく続けることにより、一年後、二年後にはきっと諸君の企業や社会を見る目は確実に成長することと思う。そして社会や企業や各種組織から必要とされる資質を身につけ、各方面で活躍できる人材となることと思う。さらにビジネス・リーダーとして、これからの社会で活躍する場も拓けてくることを期待したい。経営学 I は、そういう意味で将来の自分への種まきの第一歩と考えて欲しい。</p>
授業方法：	<p>基本的には指定したテキストの内容に基づいて講義を展開したい。しかし、一方的な知識の伝達は避けたいと思っている。講義内容の確認テスト、レポートなど、また講義中の学生への質問等、双方向の講義を心がけたい。</p> <p>必要に応じて日本経済新聞など学生にとって有益と思われる記事をプリントして配布します。そうしたアップデートな知識の提供と吸収も考えています。</p>
履修の留意点：	<p>経営学はきわめて学際的な学問分野なので、経済学や法律学や社会学などの科目を意欲的に勉強しておいて下さい。これは学生にとってとても意義あることだと思います。出席については、これを前提に講義を進めますので休みが多くなると当然ながら講義も理解できなくなります。また講義中の小テストやレポートも提出できなくなりますので注意してください。</p> <p>それから最低限の礼儀やエチケットを守れない学生、例えば、周囲の学生の迷惑となる私語や携帯電話の使用などは厳しく対処するつもりです。</p>
目標と評価：	<p>基本的には期末の試験が大きなウエイトを占めることとなります。講義の間の小テストやレポートも評価の対象にしますので、出席をきちんとして、そして試験を頑張るという姿勢を大切にしてください。</p>
教科書：	基本テキストシリーズ経営学 唐沢昌敬 同文館 2006年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営学Ⅰ」（担当者：山川 肇）の履修の手引き

科目名：	経営学Ⅰ
担当者：	山川 肇
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>●「プロ」になるとはどのようなことか。どの分野でも、知識と技能が熟達すれば「プロ」なのだろうか。</p> <p>●「プロ」とは、知識と技能によって専門的課題を成し遂げ、しかるべき報酬を得ることであるが、その仕事を遂行するときに原料の仕入れや経費がどのくらいかかり、自分の手元に残る金額はどのくらいなのか、などの収支関係を調整・統括しながら、計画的に進めていくことも必要です。</p> <p>●また、「プロ」とは、競争相手ができた場合、どのような作戦で対抗すべきか、を考えねばならないし、世の中の急激な変化を敏感に読み取り、次の「施策」を立てていかなければなりません。</p> <p>●さらに、「プロ」は、自分に仕事を与えてくれた相手、つまり「客」が支払い能力や品質のレベルに問題がないか、信用できるのかを確認する能力も要求されます。</p> <p>●諸君は、近い将来何らかの専門家になろうと志向することでしょう。しかし、専門家は同時に「プロ」とはいえません。</p> <p>●専門的知識や技能を提供するのにふさわしい環境なのか、ふさわしい報酬なのか、適当な費用なのか、を判断するためには、「プロ」としての基本的なノウハウが不可欠です。それが「経営」を学ぶということなのです。</p>
授業方法：	<p>■会社の誕生から、成長・発展、衰退までのプロセスを各段階ごとに「テーマ」を決めて学習し、結果として経営の全体像を把握し、実際の経営に役立つようにする。</p> <p>■授業は、基本的には教科書に沿って行うが、必要な資料の随時配布や、その時期にふさわしい臨時的テーマを開講するので、欠席をすると全体的な把握が困難になる。全出席をぜひ心がけて欲しい。</p> <p>■2回程度の簡単なレポートを出題するが、最終評価の参考とする。</p>
履修の留意点：	<p>★講師は現役の経営者です。経営の現場で実際に行われている「ノウハウ」、「言葉」、「仕組み」、「習慣」、「数式」、「人間関係」などを提示しながら講義します。</p> <p>理解できないところは、遠慮なく質問して理解を徹底してください。</p> <p>★授業の内容および順序は、変更する場合があります。ナビをよくチェックしてください。</p>
目標と評価：	<p>◎近い将来に起業できるレベルの常識とノウハウの習得を目標とします。また、就社する際に必要な経営の基本を在学中に会得できるようにしたいと考えています。</p> <p>◎最終評価の方法は、課題レポートの提出を求めます。自らの研究成果をきちんと表現していることが大切です。</p> <p>◎出席も、大学の出席評価点とは別に、本講義独自に出席の状況を最終評価に加味することがあります。理由は、プロセス型で設定した経営体系の流れを断ち切ることのないように、しっかりと学習してもらったためであることは言うまでもありません。</p>
教科書：	経営学 小松 章 新世社 2003
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営学Ⅰ」（担当者：山川 肇）の履修の手引き

科目名：	経営学Ⅰ
担当者：	山川 肇
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>●「プロ」になるとはどのようなことか。どの分野でも、知識と技能が熟達すれば「プロ」なのだろうか。</p> <p>●「プロ」とは、知識と技能によって専門的課題を成し遂げ、しかるべき報酬を得ることであるが、その仕事を遂行するときに原料の仕入れや経費がどのくらいかかり、自分の手元に残る金額はどのくらいなのか、などの収支関係を調整・統括しながら、計画的に進めていくことも必要です。</p> <p>●また、「プロ」とは、競争相手ができた場合、どのような作戦で対抗すべきか、を考えねばならないし、世の中の急激な変化を敏感に読み取り、次の「施策」を立てていかなければなりません。</p> <p>●さらに、「プロ」は、自分に仕事を与えてくれた相手、つまり「客」が支払い能力や品質のレベルに問題がないか、信用できるのかを確認する能力も要求されます。</p> <p>●諸君は、近い将来何らかの専門家になろうと志向することでしょう。しかし、専門家は同時に「プロ」とはいえません。</p> <p>●専門的知識や技能を提供するのにふさわしい環境なのか、ふさわしい報酬なのか、適当な費用なのか、を判断するためには、「プロ」としての基本的なノウハウが不可欠です。それが「経営」を学ぶということなのです。</p>
授業方法：	<p>■会社の誕生から、成長・発展、衰退までのプロセスを各段階ごとに「テーマ」を決めて学習し、結果として経営の全体像を把握し、実際の経営に役立つようにする。</p> <p>■授業は、基本的には教科書に沿って行うが、必要な資料の随時配布や、その時期にふさわしい臨時的テーマを開講するので、欠席をすると全体的な把握が困難になる。全出席をぜひ心がけて欲しい。</p> <p>■2回程度の簡単なレポートを出題するが、最終評価の参考とする。</p>
履修の留意点：	<p>★講師は現役の経営者です。経営の現場で実際に行われている「ノウハウ」、「言葉」、「仕組み」、「習慣」、「数式」、「人間関係」などを提示しながら講義します。</p> <p>理解できないところは、遠慮なく質問して理解を徹底してください。</p> <p>★授業の内容および順序は、変更する場合があります。ナビをよくチェックしてください。</p>
目標と評価：	<p>◎近い将来に起業できるレベルの常識とノウハウの習得を目標とします。また、就社する際に必要な経営の基本を在学中に会得できるようにしたいと考えています。</p> <p>◎最終評価の方法は、課題レポートの提出を求めます。自らの研究成果をきちんと表現していることが大切です。</p> <p>◎出席も、大学の出席評価点とは別に、本講義独自に出席の状況を最終評価に加味することがあります。理由は、プロセス型で設定した経営体系の流れを断ち切ることのないように、しっかりと学習してもらったためであることは言うまでもありません。</p>
教科書：	経営学 小松 章 新世社 2003
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「簿記論Ⅰ（日商2級）」（担当者：大塚 俊仁）の履修の手引き

科目名：	簿記論Ⅰ（日商2級）
担当者：	大塚 俊仁
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	本講義は、「会計リテラシ」で学んだ知識を前提として、簿記についての知識と理解を深めていきます。具体的には、日商簿記検定2級の商業簿記の内容（特殊商品売買取引、株式会社会計、本支店会計、帳簿組織など）を学習することによって、より高度な簿記の理論と技術を身につけていきます。
授業方法：	本講義では記帳練習問題を通じて、簿記の理論と技術を学んでもらいます。したがって、授業は教科書で基本的な論点を説明した後、記帳練習問題を解いてもらうという方法で行います。簿記の学習は、講義の内容を頭で理解するよりも、数多くの記帳練習問題を解いて身体で覚えることが重要です。そのため授業中に小テストを行ったり、記帳練習問題を課題として提出してもらうこともあります。
履修の留意点：	本講義は、記帳練習問題を通じて簿記のしくみを学習しますので、授業には教科書の他に、電卓、赤ペンおよび定規を持参して下さい。簿記は積み重ねの学問です。1回でも欠席をすると授業がわからなくなることがあります。予習をする必要はありませんが、必ず復習をして下さい。なお、本科目は「簿記論Ⅱ」とセットになっている科目です。本科目を履修する学生は、必ず「簿記論Ⅱ」も履修して下さい。授業は「簿記論Ⅰ」と「簿記論Ⅱ」の両科目を履修していることを前提に行います。
目標と評価：	2007年2月の日商簿記検定2級の受験を目標とします。成績は、原則として定期試験の結果で評価します。
教科書：	完全合格のための日商簿記2級商業簿記テキスト 大原簿記学校 大原出版 2006/03
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「国際関係論」（担当者：安田 利枝）の履修の手引き

科目名：	国際関係論
担当者：	安田 利枝
設置学期：	春
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	<p>今は自分のことだけで精一杯、国際関係なんて「国」や「外交官」が考えていればいい、と思っていますか？</p> <p>日本という国の国民に生まれてしまった私たちは、みんなで同じ船に乗っています。確かに船頭さんはいるけれど、その船頭さんが間違った方向に船を進めていたり、近くの船に喧嘩を売ってばかりでは困ります。民主主義国家では、どんな船頭さんを選ぶのかは国民次第です。そして船の運命は、海全体が荒れているか、凪いでいるか、どんな潮の流れになっているかなどで大きく異なってくるのです。国際関係論は、ヨーロッパを戦場にしたりした第一次大戦後に、戦争と平和を考える学問として生まれました。その後、世界的な富と貧困の格差や、人権や、地球規模の市場が生まれる中で出てきた環境問題などを国家と国家の関係の問題として扱ってきました。</p> <p>これらの大きな問題については、当然、様々な学問がそれぞれの視点や方法で考え続けています。国際関係論独自の視点とは、それを、国家間のパワー（国力）の配置の問題としてとらえるところにあるといえます。</p> <p>では、その国家とはどんなものなのでしょう。国際社会のありようを考える基本的な知識を身につけるための科目です。</p> <p>少し、顔を上げて、海全体を見渡してみませんか。自分の乗っている船も違って見えてくるかもしれません。</p> <p>授業の体系</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際関係論とは 2. 国際社会理解の基礎 3. 国際社会のイメージ：4つの類型 4. リアリズムとリベラリズム 5. 国家間の関係：西欧国際体系 華夷秩序 イスラム国際体系 6. 国家の分類と多様性 7. 国家間の協力・対立・紛争 8. 東西冷戦の時代 9. 国際連合と国連平和維持活動 10. フレトウッズ体制：IMFと世界銀行 GATT 11. 経済のグローバル化・リージョナル化 自由貿易圏から地域統合へ 12. パワーの分散 大企業のカ・NGOのカ 13. 南北問題と発展途上国のグローバリゼーション 14. 今後の国際秩序
授業方法：	講義、VTR視聴、ロール・プレイング、シミュレーション・ゲームなどできるだけ組み合わせて授業を行っていきます。
履修の留意点：	国際関係論は、政治学と経済学をベースにしますが、広くさまざまな諸科学の総合ですので、前提となる知識、特に世界地理、世界歴史の知識をある程度前提にします。新聞の国際政治経済のページに親しみ、すぐれたドキュメンタリー番組を沢山見ましょう。そうすることで、少しずつ、感性が磨かれていくはずですよ。
目標と評価：	<p>目標と評価：この科目を履修することによって、次のような成果を得て欲しいと願っています。また、そうなるよう、努力することを望みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が生き、生かされている世界への想像力を持つこと。 ・一国主義を克服すること ・善玉・悪玉論を克服すること ・国際政治経済についての一般常識を身につけること <p>成績評価は、以下の項目によって行ないます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加度 20% ・授業内容の理解度 50%（定期試験時に実施する理解度試験） ・勉学度 30%（定期試験時に提出する小論文課題レポート）
教科書：	「今がわかる時代がわかる 世界地図 2006年版」 正井泰夫監修 成美堂出版 2007年1月
参考書：	『国際紛争 理論と歴史 原書第5版』 ジョセフ・S・ナイ・ジュニア著 有斐閣 2005年4月

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「国際関係論」（担当者：安田 利枝）の履修の手引き

科目名：	国際関係論
担当者：	安田 利枝
設置学期：	秋
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	<p>今は自分のことだけで精一杯、国際関係なんて「国」や「外交官」が考えていればいい、と思っていますか？</p> <p>日本という国の国民に生まれてしまった私たちは、みんなで同じ船に乗っています。確かに船頭さんはいるけれど、その船頭さんが間違った方向に船を進めていたり、近くの船に喧嘩を売ってばかりでは困ります。民主主義国家では、どんな船頭さんを選ぶのかは国民次第です。そして船の運命は、海全体が荒れているか、凪いでいるか、どんな潮の流れになっているかなどで大きく異なってくるのです。国際関係論は、ヨーロッパを戦場にした第一次大戦後に、戦争と平和を考える学問として生まれました。その後、世界的な富と貧困の格差や、人権や、地球規模の市場が生まれる中で出てきた環境問題などを国家と国家の関係の問題として扱ってきました。</p> <p>これらの大きな問題については、当然、様々な学問がそれぞれの視点や方法で考え続けています。国際関係論独自の視点とは、それを、国家間のパワー（国力）の配置の問題としてとらえるところにあるといえます。</p> <p>では、その国家とはどんなものなのでしょう。国際社会のありようを考える基本的な知識を身につけるための科目です。</p> <p>少し、顔を上げて、海全体を見渡してみませんか。自分の乗っている船も違って見えてくるかもしれません。</p> <p>授業の体系</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際関係論とは 2. 国際社会理解の基礎 3. 国際社会のイメージ：4つの類型 4. リアリズムとリベラリズム 5. 国家間の関係：西欧国際体系 華夷秩序 イスラム国際体系 6. 国家の分類と多様性 7. 国家間の協力・対立・紛争 8. 東西冷戦の時代 9. 国際連合と国連平和維持活動 10. プレトンウッズ体制：IMFと世界銀行 GATT 11. 経済のグローバル化・リージョナル化 自由貿易圏から地域統合へ 12. パワーの分散 大企業のカ・NGOのカ 13. 南北問題と発展途上国のグローバリゼーション 14. 今後の国際秩序
授業方法：	講義、VTR視聴、ロール・プレイング、シミュレーション・ゲームなどできるだけ組み合わせて授業を行います。
履修の留意点：	国際関係論は、政治学と経済学をベースにしますが、広くさまざまな諸科学の総合ですので、前提となる知識、特に世界地理、世界歴史の知識をある程度前提にします。 新聞の国際政治経済のページに親しみ、すぐれたドキュメンタリー番組を沢山見ましょう。 そうすることで、少しずつ、感性が磨かれていくはずですよ。
目標と評価：	<p>目標と評価：この科目を履修することによって、次のような成果を得て欲しいと願っています。また、そうなるよう、努力することを望みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が生き、生かされている世界への想像力を持つこと。 ・一国主義を克服すること ・善玉・悪玉論を克服すること ・国際政治経済についての一般常識を身につけること <p>成績評価は、以下の項目によって行ないます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加度 20% ・授業内容の理解度 50%（定期試験時に実施する理解度試験） ・勉学度 30%（定期試験時に提出する小論文課題レポート）
教科書：	「今がわかる時代がわかる 世界地図 2006年版」 正井泰夫監修 成美堂出版 2007年1月
参考書：	『国際紛争 理論と歴史 原書第5版』 ジョセフ・S・ナイ・ジュニア著 有斐閣 2005年4月

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「生活経済学」（担当者：田尻 慎太郎）の履修の手引き

科目名：	生活経済学
担当者：	田尻 慎太郎
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	みなさんの中で自分や両親のふるさとの市町村が、合併でなくなってしまったという人はいませんか？東京三菱銀行とUFJ銀行が合併して東京三菱UFJ銀行になったのは、店舗や自分のキャッシュカードが新しくなったからなんとなく分かるけど、自治体同士が合併するって、一体どういうことなのでしょう？実はいま、日本の政府や自治体（地方公共団体）は巨額の財政赤字を抱えて苦しんでいます。急速に進む少子高齢化により、今後の税収に期待することも難しくなっているのです。そうした中、民間企業の経営手法を取り入れて公共部門の効率化・活性化を図ろうとする「新公共経営」（New Public Management）という考えが脚光を浴びています。 小泉首相が登場して以来、道路公団民営化、郵政民営化、指定管理者制度、市場化テスト、PPP、PFI、政策評価・行政評価というNPMに基づく様々な構造改革が進められています。それらをくくるキーワードが「民でできることは民へ」というものです。 本講義では、いまの日本で進められている改革を事例にとり、いまなぜ公共部門に「経営」が必要なのかということをお学ばしていきます。何回かの講義では、外部からゲスト・スピーカーを招いて、実際の改革について紹介していただくことを予定しています。また、講義の後半ではグループに分かれて、授業で学んだ様々な改革手法を嘉悦大学に適用し、改革プランを立案するコンテストを行います。
授業方法：	教科書は使用しません。必要な参考文献等は適宜、授業時間内に紹介・配布します。
履修の留意点：	「経済と政策」、「政治学Ⅰ」、「財政学」、「時事経済Ⅰ」、「統計学Ⅰ」もあわせて履修することをおすすめします。
目標と評価：	成績評価は、出席（30点）、授業で出される課題（数回、30点）、大学改革コンテスト（グループワーク、40点）とします。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「高等簿記論（再履修）」（担当者：前川 道生）の履修の手引き

科目名：	高等簿記論（再履修）
担当者：	前川 道生
設置学期：	春
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	<p>簿記は、企業の経営活動をステイクホルダーに報告する「共通言語」として利用され、企業が作成する損益計算書（経営成績の表示）および貸借対照表（財政状態の表示）の基礎知識となるものである。このように企業の経営に必要な不可欠な複式簿記を正しく理解するために、取引の認識・測定から決算書の作成・報告までを解説する。具体的な授業内容は、以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 資産の特殊問題と評価 2. 特殊商品売買取引の処理 3. 株式会社の設立と資本会計 4. 本支店会計と合併会計 5. 財務諸表の体系と作成方法
授業方法：	理論的側面と実践的側面とを両立させながら実社会に即した授業を進めていく。また、定期的に復習問題の出題と解説を行う。
履修の留意点：	既に簿記の基本原則（簿記検定3級合格程度）を修得した者を対象として、より高度な知識と応用的技術を培いたいと思う。
目標と評価：	成績評価は、定期試験の他に授業中の小テストや授業態度などを総合的に判断して行う。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営学Ⅱ」（担当者：吉沢 正広）の履修の手引き

科目名：	経営学Ⅱ
担当者：	吉沢 正広
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	経営学Ⅱ（秋学期）は、経営学Ⅰ（春学期）を履修したことを前提に、さらに学生に経営学の基礎的な知識を提供することを目的としている。経営学Ⅱでは、経営学Ⅰの内容を踏まえ、また学際的な知識を前提にして経営学の基礎的な知識を学んでいくことを目的とする。複雑多岐な内容を含むので、即効的な成果を期待するのは早計であろう。そこには地道な努力と忍耐が要請される。半年、一年という長いスパンで臨む気持ちが必要である。そのような努力を惜しむことなく続けることにより、一年後、二年後にはきっと諸君の企業や社会を見る目は確実に成長することと思う。そして社会や企業や各種組織から必要とされる人材となり、各方面で活躍できる資質を身につけることとなると思う。さらにビジネス・リーダーとして、これからの社会で活躍する途も拓けることとなることを期待したい。経営学Ⅱは、経営学Ⅰ同様に将来の自分への種まきの第一歩と考えて欲しい。
授業方法：	基本的には指定したテキストの内容に基づいて講義を展開したい。しかし、一方的な知識の伝達は避けたいと思っている。講義内容の確認テスト、レポートなど、また講義中の学生への質問等、双方向の講義を心がけたい。必要に応じて日本経済新聞など学生にとって有益と思われる記事をプリントして配布します。そうしたアップデートな知識の提供と吸収も考えています。
履修の留意点：	経営学はきわめて学際的な学問分野なので、経済学や法律学や社会学などの科目を意欲的に勉強しておいて下さい。これは学生にとってとても意義あることだと思います。出席については、これを前提に講義を進めますので休みが多くなると当然ながら講義も理解できなくなります。また講義中の小テストやレポートも提出できなくなりますので注意してください。それから最低限の礼儀やエチケットを守れない学生、例えば、周囲の学生の迷惑となる私語や携帯電話の使用などは厳しく対処するつもりです。
目標と評価：	基本的には期末の試験が大きなウエイトを占めることになります。講義の間の小テストやレポートも評価の対象にしますので、出席をきちんとして、そして試験を頑張るという姿勢を大切にしてください。
教科書：	基本テキストシリーズ経営学 唐沢昌敬 同文館 2006年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営学Ⅱ」（担当者：吉沢 正広）の履修の手引き

科目名：	経営学Ⅱ
担当者：	吉沢 正広
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	経営学Ⅱ（秋学期）は、経営学Ⅰ（春学期）を履修したことを前提に、さらに学生に経営学の基礎的な知識を提供することを目的としている。経営学Ⅱでは、経営学Ⅰの内容を踏まえ、また学際的な知識を前提にして経営学の基礎的な知識を学んでいくことを目的とする。複雑多岐な内容を含むので、即効的な成果を期待するのは早計であろう。そこには地道な努力と忍耐が要請される。半年、一年という長いスパンで臨む気持ちが必要である。そのような努力を惜しむことなく続けることにより、一年後、二年後にはきっと諸君の企業や社会を見る目は確実に成長することと思う。そして社会や企業や各種組織から必要とされる人材となり、各方面で活躍できる資質を身につけることとなると思う。さらにビジネス・リーダーとして、これからの社会で活躍する途も拓けることとなることを期待したい。経営学Ⅱは、経営学Ⅰ同様に将来の自分への種まきの第一歩と考えて欲しい。
授業方法：	基本的には指定したテキストの内容に基づいて講義を展開したい。しかし、一方的な知識の伝達は避けたいと思っている。講義内容の確認テスト、レポートなど、また講義中の学生への質問等、双方向の講義を心がけたい。必要に応じて日本経済新聞など学生にとって有益と思われる記事をプリントして配布します。そうしたアップデートな知識の提供と吸収も考えています。
履修の留意点：	経営学はきわめて学際的な学問分野なので、経済学や法律学や社会学などの科目を意欲的に勉強しておいて下さい。これは学生にとってとても意義あることだと思います。出席については、これを前提に講義を進めますので休みが多くなると当然ながら講義も理解できなくなります。また講義中の小テストやレポートも提出できなくなりますので注意してください。それから最低限の礼儀やエチケットを守れない学生、例えば、周囲の学生の迷惑となる私語や携帯電話の使用などは厳しく対処するつもりです。
目標と評価：	基本的には期末の試験が大きなウエイトを占めることになります。講義の間の小テストやレポートも評価の対象にしますので、出席をきちんとして、そして試験を頑張るという姿勢を大切にしてください。
教科書：	基本テキストシリーズ経営学 唐沢昌敬 同文館 2006年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営学Ⅱ」（担当者：山川 肇）の履修の手引き

科目名：	経営学Ⅱ
担当者：	山川 肇
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>◎会社に入ってから、また管理職になってからは、経営を体系的に勉強する機会はほとんど 無いといってよいでしょう。在学中に経営の実務をしっかりと理解し把握すれば、早ければ 在学中から会社を創って事業を志す学生諸君も生まれるだろうし、何らかの「プロ」として 専門家になろうとする諸君も経営の基本が不可欠として、学習の必要性を感じるだろう。</p> <p>◎さらに現在の「マネジメント」は、グローバルな視点を持ち、文化・歴史・伝統を考慮 し、社会生活の現状と変化を見つめ、人間関係を良好に保つ心理を学ぶと同時に規範・節度 を守る姿勢を、保持しなければなりません。</p> <p>その意味で、「経営学」は、極めて総合的な科学であるといえます。経営者のためだけに あるものではありません。</p>
授業方法：	<p>■「経営学Ⅱ」の講義は、新人ビジネススタッフを対象に講義するような形で、経営の実務 を具体的に解説します。「経営学入門」および「経営学Ⅰ」を学習してなくても、ぜひチ ャレンジして欲しいと思います。そのかわり、体系的に学ぶので欠席すると理解がしにく くなります。出席を心がけてください。</p> <p>■受講期間中に、自分の事業計画をまとめ提出してもかまいません。適切なアドバイスと注 意を、場合によってはその計画を実行できるように支援します。</p> <p>■教科書を設定しますが、参考程度とします。主体は講義と板書によって行います。</p> <p>■実在の企業をケーススタディとしますが、諸君の周辺に関連する方がおられるかも知れま せんが、あくまで研究の範囲ですので、了承してください。</p>
履修の留意点：	<p>★実務を中心とした講義ですから、理解できないところは遠慮なく質問してください。担当 の講師は、現役の経営者なので経験による実践に即した解答・解説を行います。氾濫する経 営理論や方法論に惑わされず、それらの良いところや旧態であることを判断できるような、 レベルへの着地が理想的です。</p> <p>★積極的な質疑応答を期待します。</p> <p>★2回程度の簡単なレポート提出を求めます。最終評価の参考にしますので忘れずに提出し てください。</p>
目標と評価：	<p>●目標は、無論「経営」の実施です。新鮮な着想と堅実な計画、積極的な姿勢がなければ 進展しません。少なくとも、自分が何らかの「プロ」となるという強い「想い」を、講義 の終わりまでに持ってほしいと望んでいます。</p> <p>●最終評価は、課題レポートの提出によります。また、大学の出席評価点とは別に、本講義 独自に出席の状況を最終評価に加味する場合があります。授業の体系的な流れを中断するこ とは、習得を困難にします。したがって全出席を評価します。</p>
教科書：	経営学要論 名取 修一 / 市川 章 他 同友社
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営学Ⅱ」（担当者：山川 肇）の履修の手引き

科目名：	経営学Ⅱ
担当者：	山川 肇
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>◎会社に入ってから、また管理職になってからは、経営を体系的に勉強する機会はほとんど 無いといっ てよいでしょう。在学中に経営の実務をしっかりと理解し把握すれば、早ければ 在学中から会社を創っ て事業を志す学生諸君も生まれるだろうし、何らかの「プロ」として 専門家になろうとする諸君も経営 の基本が不可欠として、学習の必要性を感じるだろう。</p> <p>◎さらに現在の「マネジメント」は、グローバルな視点を持ち、文化・歴史・伝統を考慮 し、社会生活 の現状と変化を見つめ、人間関係を良好に保つ心理を学ぶと同時に規範・節度 を守る姿勢を、保持しな ければなりません。</p> <p>その意味で、「経営学」は、極めて総合的な科学であるといえます。経営者のためだけに あるものではありません。</p>
授業方法：	<p>■「経営学Ⅱ」の講義は、新人ビジネススタッフを対象に講義するような形で、経営の実務 を具体的に 解説します。「経営学入門」および「経営学Ⅰ」を学習してなくても、ぜひチ ャレンジして欲しいと 思います。そのかわり、体系的に学ぶので欠席すると理解がしにく くなります。出席を心がけてくだ さい。</p> <p>■受講期間中に、自分の事業計画をまとめ提出してもかまいません。適切なアドバイスと注 意を、場合 によってはその計画を実行できるように支援します。</p> <p>■教科書を設定しますが、参考程度とします。主体は講義と板書によって行います。</p> <p>■実在の企業をケーススタディとしますが、諸君の周辺に関連する方がおられるかも知れま せんが、あ くまで研究の範囲ですので、了承してください。</p>
履修の留意点：	<p>★実務を中心とした講義ですから、理解できないところは遠慮なく質問してください。担当 の講師は、 現役の経営者なので経験による実践に即した解答・解説を行います。氾濫する経 営理論や方法論に惑わ されず、それらの良いところや旧態であることを判断できるような、 レベルへの着地が理想的です。</p> <p>★積極的な質疑応答を期待します。</p> <p>★2回程度の簡単なレポート提出を求めます。最終評価の参考にしますので忘れず提出し てくださ い。</p>
目標と評価：	<p>●目標は、無論「経営」の実施です。新鮮な着想と堅実な計画、積極的な姿勢がなければ 進展しません。少なくとも、自分が何らかの「プロ」となるという強い「想い」を、講義 の終わりまでに持ってもらいたいと望んでいます。</p> <p>●最終評価は、課題レポートの提出によります。また、大学の出席評価点とは別に、本講義 独自に出席の状況を最終評価に加味する場合があります。授業の体系的な流れを中断するこ とは、習得 を困難にします。したがって全出席を評価します。</p>
教科書：	経営学要論 名取 修一 / 市川 章 他 同友社
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法で
す。

「経営情報論」（担当者：南 憲一）の履修の手引き

科目名：	経営情報論
担当者：	南 憲一
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	<p>企業経営とネットワーク・セキュリティ・標準化に関連した内容について学ぶ。基本情報技術者の試験範囲に従って学習を進め、初級システムアドミニストレータ試験の当該範囲についても考慮する。</p> <p>(内容)</p> <p>通信ネットワーク ネットワークアーキテクチャ ローカルエリアネットワーク セキュリティ 標準化</p>
授業方法：	パソコンを使用しながら授業を進めていくので、ノートパソコンを必ず持参すること。
履修の留意点：	嘉悦e-Campusを活用して授業を進めるので、授業時間内だけでなく自宅でも授業情報のページを開き、予習・復習に役立てること。
目標と評価：	<p>目標</p> <p>基本情報技術者試験の「情報化と経営」、「セキュリティと標準化」の範囲、および、初級システムアドミニストレータ試験の当該範囲の問題が解けることを目標とする。</p>
教科書：	基本情報技術者試験 標準基礎テキスト(2) ネットワークと情報化の総合研究 藤山秋良他 技術評論社 2001
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「国際経済学」（担当者：佐々木 高成）の履修の手引き

科目名：	国際経済学
担当者：	佐々木 高成
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	この授業では世界経済のグローバル化の流れを理解するのに役立つ視点や見方、基本的な概念や事実を米国、日本とアジアとの関係を中心に学ぶ。 FedEx等の外資系物流サービス企業は東アジアの経済統合にどのように関わっているのか。日本が自由貿易協定を進めている理由は何か。日米経済摩擦はなぜ起きるのか。インドIT産業躍進の背景は何か。中国の台頭は米国経済をどう変えているのか。世界経済の急速なグローバル化の流れとその背景を考えることなしにはこれらの問題を本当には理解できない。 そこで中国、インド等の急成長と世界経済への影響、モノやサービスの海外アウトソーシング拡大と国際的な人材活用戦略、地域経済統合と二国間自由貿易協定ネットワークの広がり、東アジア経済における日本の役割変化、中国の台頭に対応する米国の対外経済戦略等、また新聞記事等では単発的に捉えられがちな世界経済グローバル化の特徴や要因について具体的事実に基づいて解説していく。
授業方法：	講義（配布するレジュメおよび資料、パワーポイントを使用）。講義内容に沿った資料を配布する。参考書および参考情報は講義の中で適宜紹介する。
履修の留意点：	時事的なテーマも本授業の材料にして考察するので、本講義の聴講生には日ごろ新聞、雑誌の国際関連記事にも目を通しておくことを期待する。
目標と評価：	目標 <ul style="list-style-type: none"> ・世界経済に関する基礎的情報、統計等の情報源や扱い方を知る ・世界経済の流れを理解するのに役立つ概念、用語を知る ・貿易、通商に関する基本概念を理解する ・世界経済グローバル化の特徴、課題を理解するのに役立つ視点・見方を知る ・世界経済グローバル化の底に流れる背景要因を考え、理解する習慣を涵養する 評価点は以下の項目ごとに加算して算出する。 中間レポート 45% 期末レポート・試験 45% 発言・質問等講義への貢献 10%
教科書：	配布レジュメ・資料をもって教科書に代える
参考書：	日米経済関係論 青木健・馬田啓一[編著] 勁草書房 近刊

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「社会福祉概論」（担当者：坂田 伸子）の履修の手引き

科目名：	社会福祉概論
担当者：	坂田 伸子
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	この授業では、現代が抱える社会福祉問題について、考える力を身につけることを目指し、問題を克服するために取り組まれている社会福祉実践、社会福祉制度の現状と課題を学びます。前期の授業では、社会福祉の概念・歴史・制度・法律などの基本的なことを学びます。後期は各授業ごとに、少子高齢化、児童虐待、介護などの社会問題にテーマを絞り、一緒に考えます。1年間の授業を通して、皆さんと「社会福祉とは何か」を明らかにしていきたいと思っています。
授業方法：	授業は講義（プリント配布）を中心に行いますが、関連したビデオやホームページを補助教材として使用します。参考文献は、授業ごとに提示します。
履修の留意点：	新聞を読み、テレビのニュース番組を見ることを心がけてください。
目標と評価：	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉問題を取上げた新聞記事、TVの報道番組などの内容を理解する。 ・社会福祉情報を収集し利用する方法を身につける。 ・自分にとっての「社会福祉」とは何かを明らかにする。 <p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポート（夏季・冬季休暇） ・授業時の提出物等の平常点 ・定期試験 ・出席（遅刻3回で欠席1回、15分以上の遅刻は欠席とみなす） <p>上記による総合評価</p>
教科書：	『社会福祉小六法 2006』 ミネルヴァ書房編集部 ミネルヴァ書房 2005年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「会計学」（担当者：飯野 幸江）の履修の手引き

科目名：	会計学
担当者：	飯野 幸江
設置学期：	秋
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	<p>会計は経済活動を貨幣額で記録・計算・報告するシステムで、会計学はそのシステムを支える理論や技法を学ぶための学問です。本講義では皆さんが今後、専門的に会計学を学ぶ上で必要になってくる基本的な理論と技法を学びます。具体的には全経簿記検定1級（会計学）程度のもを学習します。本講義で取り上げる内容は、以下のものです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 企業会計の仕組み 2. 会計公準 3. 企業会計原則 4. 会計制度 5. 資産会計 6. 負債会計 7. 資本金会計 8. 損益会計 9. 財務諸表 10. 連結財務諸表 <p>本講義で取り上げる内容は、いずれも会計の基本ばかりで決して面白いものではありません。しかし、会計の「面白さ」を体験するには、このように一見地味でつまらない基礎をしっかりと身につけないと「面白さ」に出会うことができません。本講義では、1～2年後に皆さんが会計を「面白い」と思えるようになるための基礎を徹底的に学習していきます。</p>
授業方法：	<p>会計学の勉強に必要なのは、理論と計算技術の修得です。どちらが欠けても会計学を理解するには不十分です。授業は講義形式を中心としながら、とことろで演習を取り入れる形式で進めます。また、定期試験の他に、授業内容が理解できているかどうかを確認するために、小テスト（6～7回を予定）を実施します。</p>
履修の留意点：	<p>◇企業会計コースの学生へ 皆さんは企業会計を学ぶことを選んでしまったのだから、たとえ基礎ばかりでつまなくても覚悟を決めて勉強しましょう。これを乗り越えれば、皆さんの未来は明るくなるでしょう（多分）。</p> <p>◇企業会計コース以外の学生へ この授業は地道にコツコツと会計学の基礎を学ぶ授業です。これに耐えられないと思う人は履修をやめたほうがいいでしょう。また、地道にコツコツと会計学の基礎を学びたいという人は、春学期中に会計リテラシまたは簿記論を履修しておいて下さい。この授業を受ければ、会計リテラシまたは簿記論が「面白い」と感じられるようになるでしょう（多分）。</p>
目標と評価：	<p>1～2年後に会計が「面白い」と思えるようになるための基本的な理論と技法を修得することが目標です。 成績は小テスト（3割）と定期試験（7割）で評価します。</p>
教科書：	会計法規集 中央経済社編 中央経済社 05/02/08
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中小企業論」（担当者：和田 耕治）の履修の手引き

科目名：	中小企業論
担当者：	和田 耕治
設置学期：	秋
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	20世紀において進展した資本の集中・集積に伴う企業の大規模化は、大量生産・大量消費型の社会を構築させ、我々の生活を飛躍的に豊かにさせた。しかしながら、近年においては、大企業支配型の社会の問題性も顕在化するようになり、20世紀型生産体制（フォードイズム）の変革の必要性が唱えられている。変革に関しては、さまざまな方向性が考えられるが、その回答のひとつは、中小企業型社会の構築があげられよう。中小企業の柔軟性ある専門化（フレキシブルスペシャライゼーション）による協業は、フォードイズムにとって代わる可能性を秘めている。本講義では以上を問題意識としつつ、歴史的、空間的な広がりの中なかで中小企業の位置付けを考える
授業方法：	講義形式で行う。受講者の理解を促進するために視聴覚教材を使用する。 講義は以下の点に触れつつ、進める。 1. 中小企業をみる視点、中小企業概念 2. 中小企業の存立形態 3. 大企業と中小企業 4. 中小企業の歴史的展開 5. 二重構造論、中小企業の近代化 6. ペンチャービジネス 7. 地域社会と中小企業（産業集積、商業集積） 8. 中小企業政策
履修の留意点：	講義ノートは必ず取ること。
目標と評価：	学期末試験による評価
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済学 I (週2コマ)」 (担当者: 久保 真) の履修の手引き

科目名:	経済学 I (週2コマ)
担当者:	久保 真
設置学期:	春
開講回数:	全26回
週コマ数:	週2コマ
概要:	この授業では「マクロ経済学」を学習します。マクロ経済学とは、国民所得・失業率・物価水準などの集計的な量を扱う経済学の一部門で、要素所得・価格などを扱うミクロ経済学と区別されます。マクロ経済学が取り組む問題は、例えば「国民所得はどのように決定されるのか」とか「不況対策にはどのような政策が有効か」とかといったものです。「GDP」や「景気」などのように、日常的に新聞やテレビニュースなどで目にしたり耳にしたりする言葉を正確に理解するためにも、是非とも学習しておかなくてはならない、いわば「経済学の基礎」にあたります。逆に言えば、マクロ経済学を修得すれば、国民経済（日本経済とかアメリカ経済とか）に関する多くの問題を「理論的に」理解することが可能になります。週2回とハードなスケジュールですが、最後まで挫折せずに頑張りましょう。そうすれば、これまで摩訶不思議だった国民経済に関するニュースが「すっきり」と理解できるようになるでしょう。
授業方法:	講義形式、問題演習形式、調査報告形式などを組み合わせて授業を行います。週2回と他の授業よりも頻度が高いので、休んだ回は学ナビを見るなり友人に問い合わせるなどして、各自でキャッチアップして臨んで下さい。また、個別の質問は、授業中でもメールでも結構ですので、遠慮せずどんどんなさって下さい。
履修の留意点:	マクロ経済学は、若干の数学的知識を必要とします。具体的には、一次関数とその幾何的意味（座標上のグラフの意味）を理解しておく必要があります。授業中には、適宜これらの知識を補いながら講義を進めますが、理解できない部分は必ず質問するようにして下さい。必要に応じて、補習等を行いたいと思います。
目標と評価:	目標は以下の三点です。 (1) 国民所得会計や国際収支表などのなかの概念を理解する (2) 国民所得がどのように決定されるか理解する (3) 財政政策や金融政策がどのような条件下でどのような効果を発揮するかを理解する 評価は、通常授業週での小テストや宿題（30%）と定期試験に行われる筆答試験（持ち込み可、70%）とを総合して下さい。
教科書:	『入門マクロ経済学（第4版）』 中谷巖 日本評論社 2000
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ホスピタリティ I」（担当者：古閑 博美）の履修の手引き

科目名：	ホスピタリティ I
担当者：	古閑 博美
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>本科目では、「ホスピタリティ」の意味と行為を理解し、ホスピタリティが社会においてどのように必要とされているのか、受講生にとって共通性が高いことが予想されるオフィスを中心場面としてオフィスワークにおけるホスピタリティの重要性について学ぶ。</p> <p>ホスピタリティに必要な技法を身につけ、職場で必要とされるホスピタリティ及びホスピタリティの視点で社会を考察することを試みる。</p> <p>受講生は、「身近なホスピタリティ」（共通課題）について発表する。「障害者とホスピタリティ」「声で伝えるホスピタリティ」などの演習を実施する。</p>
授業方法：	講義と演習。ビデオ学習。
履修の留意点：	積極的に演習に参加すること。
目標と評価：	<p>目標</p> <p>①ホスピタリティを理解する。 ②ホスピタリティを身につける。 ③ホスピタリティを実践する。</p> <p>評価 提出物、授業への参加度などの平常点、出席点等を総合して評価する。</p>
教科書：	看護のホスピタリティとマナー 古閑博美 鷹書房弓プレス 2001年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「CS実践論」（担当者：永原 亜美）の履修の手引き

科目名：	CS実践論
担当者：	永原 亜美
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	商品やサービスの価格や品質の差別化が困難になっている今日、時代は“物”から“人”へとシフトしている。企業においても顧客満足が重要な経営戦略とされている。この授業では、顧客満足の理論のみならず、それに不可欠な「コミュニケーション」「サービス」「ホスピタリティー」について考える。又、演習や実技を通じ、「コミュニケーション能力」「ビジネスマナー」を身に付ける
授業方法：	講義、演習及び実技
履修の留意点：	講義内容に関するプリントを適宜配布
目標と評価：	目標：顧客満足とは何かを理解し、演習、実技を通して実際に社会で役立つコミュニケーション能力、ビジネスマナーを身に付ける。 評価：授業への取り込み姿勢（20%） 各回プリント提出（40%） 学期末試験（40%） 評価点は、上記の項目毎に加算式で算出する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「工業簿記Ⅰ（日商2級）」（担当者：前川 道生）の履修の手引き

科目名：	工業簿記Ⅰ（日商2級）
担当者：	前川 道生
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	複式簿記の基本原則である取引の範囲・取引の八要素（費用・収益・資産・負債・資本）、の認識及び会計処理（仕訳）を学び、製造業会計にける工業簿記・原価計算を中心に問題集等を使用して、工業簿記の基本的な技術を習得する。日商簿記検定2級工業簿記・原価計算の範囲を学習する。
授業方法：	授業体系は、費目別原価計算（材料費・労務費・経費・製造間接費）、部門別原価計算、個別原価計算、総合原価計算、製造原価報告書の作成等を中心に授業を行う。 また、標準原価計算及び直接原価計算にあつては、特に重要な範囲であるため、多くの時間を割いて学習を行う。
履修の留意点：	出席率100%を目指して欲しい。
目標と評価：	平成18年2月の日商簿記検定2級（工業簿記・原価計算）の受験を目指して学習する。
教科書：	演習 工業簿記 前川邦生（監修）井上行忠（著） 創成社
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「工業簿記 I (日商2級)」 (担当者: 前川 道生) の履修の手引き

科目名:	工業簿記 I (日商2級)
担当者:	前川 道生
設置学期:	秋
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	複式簿記の基本原理解である取引の範囲・取引の八要素(費用・収益・資産・負債・資本)、の認識及び会計処理(仕訳)を学び、製造業会計にける工業簿記・原価計算を中心に問題集等を使用して、工業簿記の基本的な技術を習得する。日商簿記検定2級工業簿記・原価計算の範囲を学習する。
授業方法:	授業体系は、費目別原価計算(材料費・労務費・経費・製造間接費)、部門別原価計算、個別原価計算、総合原価計算、製造原価報告書の作成等を中心に授業を行う。 また、標準原価計算及び直接原価計算にあつては、特に重要な範囲であるため、多くの時間を割いて学習を行う。
履修の留意点:	出席率100%を目指して欲しい。
目標と評価:	平成18年2月の日商簿記検定2級(工業簿記・原価計算)の受験を目指して学習する。
教科書:	演習 工業簿記 前川邦生(監修)井上行忠(著) 創成社
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「工業簿記Ⅱ（日商2級）」（担当者：前川 道生）の履修の手引き

科目名：	工業簿記Ⅱ（日商2級）
担当者：	前川 道生
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	複式簿記の基本原理である取引の範囲・取引の八要素（費用・収益・資産・負債・資本）、の認識及び会計処理（仕訳）を学び、製造業会計にをける工業簿記・原価計算を中心に問題集等を使用して、工業簿記の基本的な技術を習得する。日商簿記検定2級工業簿記・原価計算の範囲を学習する。
授業方法：	授業体系は、費目別原価計算（材料費・労務費・経費・製造間接費）、部門別原価計算、個別原価計算、総合原価計算、製造原価報告書の作成等を中心に授業を行う。 また、標準原価計算及び直接原価計算にあつては、特に重要な範囲であるため、多くの時間を割いて学習を行う。
履修の留意点：	出席率100%を目指して欲しい。
目標と評価：	平成18年2月の日商簿記検定2級（工業簿記・原価計算）の受験を目指して学習する。
教科書：	日商簿記過去問題集 大原簿記学校 大原簿記学校
参考書：	新検定簿記講義2級工業簿記 染谷・新井・岡本 中央経済社

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「工業簿記Ⅱ（日商2級）」（担当者：前川 道生）の履修の手引き

科目名：	工業簿記Ⅱ（日商2級）
担当者：	前川 道生
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	複式簿記の基本原則である取引の範囲・取引の八要素（費用・収益・資産・負債・資本）、の認識及び会計処理（仕訳）を学び、製造業会計にける工業簿記・原価計算を中心に問題集等を使用して、工業簿記の基本的な技術を習得する。日商簿記検定2級工業簿記・原価計算の範囲を学習する。
授業方法：	授業体系は、費目別原価計算（材料費・労務費・経費・製造間接費）、部門別原価計算、個別原価計算、総合原価計算、製造原価報告書の作成等を中心に授業を行う。 また、標準原価計算及び直接原価計算にあつては、特に重要な範囲であるため、多くの時間を割いて学習を行う。
履修の留意点：	出席率100%を目指して欲しい。
目標と評価：	平成18年2月の日商簿記検定2級（工業簿記・原価計算）の受験を目指して学習する。
教科書：	日商簿記過去問題集 大原簿記学校 大原簿記学校
参考書：	新検定簿記講義2級工業簿記 染谷・新井・岡本 中央経済社

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済政策論」（担当者：川瀬 晃弘）の履修の手引き

科目名：	経済政策論
担当者：	川瀬 晃弘
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	わが国の経済は、失業の増大、デフレ、少子高齢化、財政赤字の拡大など、さまざまな問題に直面しています。日本経済が抱えているこれらの問題を理解し、あるべき経済政策について考えていくことが本講義の目的です。
授業方法：	授業は講義形式で進めます。授業中の質問は歓迎します。授業では、必要に応じて講義ノートや新聞・雑誌等を配布し、これらに基づいて授業を行います。また、参考文献等は授業中に適宜紹介します。
履修の留意点：	「経済学Ⅰ」「経済学Ⅱ」を履修済みもしくは履修中であることが望ましい。ただし、基礎的なところから解説するので、この限りではない。私語等の他の学生の迷惑になる行為は禁止する。
目標と評価：	<p><目標> 政府内で議論され、新聞や雑誌に掲載されている経済政策の意図を理解できるようになることを目標とする。</p> <p><評価> 中間試験、期末試験、レポートで評価する。</p>
教科書：	マンキュー経済学①ミクロ編・マンキュー経済学②マクロ編 東洋経済新報社 東洋経済新報社
参考書：	講義中に適宜指示する。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済政策論」（担当者：貝塚 亨）の履修の手引き

科目名：	経済政策論
担当者：	貝塚 亨
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	現代資本主義経済は、かつて夜警国家を要請していたような19世紀の資本主義とは異なり、大規模になり複雑な構造を持つようになっています。現在の日本では、市場を重視した規制緩和や様々な改革が行われておりますが、それでも国家が経済活動に対して介入しなければ、様々な問題—構造偽装問題・ライプドア問題・談合問題など—が発生してしまいます。そこで、本講義では、自由主義を基礎におく資本主義経済において、国家が経済といかにかかわるべきかについて、その方法と課題を学んでいきます。 そのために、まず、経済政策の歴史的展開を明らかにし、経済政策がどのような歴史的条件と社会的背景の下で形成・展開してきたかを学び、次いで、産業政策・労働政策・物価政策・福祉政策・環境政策・対外政策等の具体的な個々の政策を学んでいきます。
授業方法：	基本的に講義形式でおこないます。
履修の留意点：	毎回の授業で、課題に取り組んでもらいます。単に講義を聴くだけでなく、自分で考え、理解し、問題意識をもつといった積極的な態度が必要です。
目標と評価：	目標：○経済政策論とは何かを理解できる。 ○国家と経済の関係を理解できる。 ○国民生活の諸問題を理解し、その解決策を考える事ができる。 評価：学期末テスト(70%)、出席(30%)
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「公共経営」（担当者：田尻 慎太郎）の履修の手引き

科目名：	公共経営
担当者：	田尻 慎太郎
設置学期：	春
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	みなさんの中で自分や両親のふるさとの市町村が、合併でなくなってしまったという人はいませんか？東京三菱銀行とUFJ銀行が合併して東京三菱UFJ銀行になったのは、店舗や自分のキャッシュカードが新しくなったからなんとなく分かるけど、自治体同士が合併するって、一体どういうことなのでしょう？実はいま、日本の政府や自治体（地方公共団体）は巨額の財政赤字を抱えて苦しんでいます。急速に進む少子高齢化により、今後の税収に期待することも難しくなっているのです。そうした中、民間企業の経営手法を取り入れて公共部門の効率化・活性化を図ろうとする「新公共経営」（New Public Management）という考えが脚光を浴びています。 小泉首相が登場して以来、道路公団民営化、郵政民営化、指定管理者制度、市場化テスト、PPP、PFI、政策評価・行政評価というNPMに基づく様々な構造改革が進められています。それらをくくるキーワードが「民でできることは民へ」というものです。 本講義では、いまの日本で進められている改革を事例にとり、いままぜ公共部門に「経営」が必要なのかということをお学ばしていきます。何回かの講義では、外部からゲスト・スピーカーを招いて、実際の改革について紹介していただくことを予定しています。また、講義の後半ではグループに分かれて、授業で学んだ様々な改革手法を嘉悦大学に適用し、改革プランを立案するコンテストを行います。
授業方法：	教科書は使用しません。必要な参考文献等は適宜、授業時間内に紹介・配布します。
履修の留意点：	「経済と政策」、「政治学Ⅰ」、「財政学」、「時事経済Ⅰ」、「統計学Ⅰ」もあわせて履修することをおすすめします。
目標と評価：	成績評価は、出席（30点）、授業で出される課題（数回、30点）、大学改革コンテスト（グループワーク、40点）とします。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「簿記論(日商3級)」(担当者:井上 行忠)の履修の手引き

科目名:	簿記論(日商3級)
担当者:	井上 行忠
設置学期:	春
開講回数:	全26回
週コマ数:	週2コマ
概要:	概要: 複式簿記の基本原則である取引の範囲・取引の八要素(費用・収益・資産・負債・資本)の認識、及び会計処理(仕訳)を学び、問題集等を使用して、簿記の基本的な技術を習得する。 日商簿記検定3級・全経簿記検定3級の合格を目指す。
授業方法:	授業方法: 授業方法: 授業方法: テキストを中心に授業を行う。授業体系は、簿記一巡の流れを把握し、前半は個別取引を中心に学習を行い、後半は総合問題対策(試算表作成、精算表作成、補助簿:仕入帳、売上帳、現金出納帳、小口現金出納帳、当座預金出納帳、手形記入帳、商品有高帳等)を中心に授業を行う。7月の全経簿記検定3級に目標を定め学習を行う。6月の日商簿記検定3級を目指す学生は、週一回実施される「会計リテラシ」の補講を聴講すること。
履修の留意点:	履修の留意点: 履修上の留意点: 履修の留意点: 学習に当たり、電卓が必要となります。最初の授業で指示をしますので、事前に購入しないで下さい。
目標と評価:	目標と評価: 目標と評価※: 目標と評価: この授業は、日商簿記検定3級または全経簿記検定2級の資格試験に合格する事を目標としています。
教科書:	教科書: 教科書 教科書①: 例解演習 基本簿記 教科書 ②: 日商簿記3級過去問題集 ① 山本孝夫・前川邦生共著 ②大原出版 ①創成社 ②大原出版
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「簿記論(日商3級)」(担当者:釜谷 彰一)の履修の手引き

科目名:	簿記論(日商3級)
担当者:	釜谷 彰一
設置学期:	春
開講回数:	全26回
週コマ数:	週2コマ
概要:	簿記という言葉は、帳簿記入からきたともいわれている。企業の経済活動を維持・管理・運営するには記録・計算・整理(帳簿に記録する)することが必要となる。その記録・計算・整理するためのシステムが簿記である。 日本商工会議所は、企業経営の健全化と事務処理能力の増進、記帳能力の向上をはかるため、簿記検定試験を年3回(6月・11月・2月)実施している。高校・短大・大学においても資格取得の第1位にランキングされている。 これから学ぶ簿記は、将来社会に出た時にはあらゆる場面で求められる能力の一つであり、起業を目指す人はもちろんのこと、ぜひ身につけておいてもらいたい。特に職業会計人(公認会計士・税理士)を目指す人にとっては登竜門となっており社会が要求する資格であるといっても過言ではない。
授業方法:	初めて簿記を学ぶものを対象に毎回講義を行い、演習を行いながら簿記の基礎的な技術を完全にマスターできるようにする。そして全国経理学校協会簿記検定や日本商工会議所簿記検定に合格することを目標にする。
履修の留意点:	電卓は必ず使用するので毎回持参すること。 予習は必要ないが、復習を必ず行うこと。 教科書: 書名:日商簿記検定試験 出題傾向と対策 著者名:税務経理協会 出版社名:税務経理協会 出版年:2005年9月
目標と評価:	全国経理学校協会簿記検定や日本商工会議所簿記検定に合格できる能力を習得することを目標にする。 評価点については以下のものを考慮して決定します ・授業時の理解度 ・授業内ミニテスト ・学期末試験 ・検定試験の結果
教科書:	例解演習 基本簿記 山本孝夫・前川邦生(編) 創成社 2004年4月四訂版発行
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「簿記論(日商3級)」(担当者:大塚 俊仁)の履修の手引き

科目名:	簿記論(日商3級)
担当者:	大塚 俊仁
設置学期:	春
開講回数:	全26回
週コマ数:	週2コマ
概要:	複式簿記の基本原則である取引の範囲・取引の八要素(費用・収益・資産・負債・資本)の認識、及び会計処理(仕訳)を学び、問題集等を使用して、簿記の基本的な技術を習得する。 日商簿記検定3級・全経簿記検定3級の合格を目指す。
授業方法:	テキストを中心に授業を行う。授業体系は、簿記一巡の流れを把握し、前半は個別取引を中心に学習を行い、後半は総合問題対策(試算表作成、精算表作成、補助簿:仕入帳、売上帳、現金出納帳、小口現金出納帳、当座預金出納帳、手形記入帳、商品有高帳等)を中心に授業を行う。7月の全経簿記検定3級に目標を定め学習を行う。6月の日商簿記検定3級を目指す学生は、週一回実施される「会計リテラシー」の補講を聴講すること。
履修の留意点:	学習に当たり、電卓が必要となります。最初の授業で指示をしますので、事前に購入しないで下さい。
目標と評価:	この授業は、日商簿記検定3級または全経簿記検定2級の資格試験に合格する事を目標としています。
教科書:	
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「簿記論(日商3級)」(担当者:釜谷 彰一)の履修の手引き

科目名:	簿記論(日商3級)
担当者:	釜谷 彰一
設置学期:	秋
開講回数:	全26回
週コマ数:	週2コマ
概要:	簿記という言葉は、帳簿記入からきたともいわれている。企業の経済活動を維持・管理・運営するには記録・計算・整理(帳簿に記録する)することが必要となる。その記録・計算・整理するためのシステムが簿記である。 日本商工会議所は、企業経営の健全化と事務処理能力の増進、記帳能力の向上をはかるため、簿記検定試験を年3回(6月・11月・2月)実施している。高校・短大・大学においても資格取得の第1位にランキングされている。 これから学ぶ簿記は、将来社会に出た時にはあらゆる場面で求められる能力の一つであり、起業を目指す人はもちろんのこと、ぜひ身につけておいてもらいたい。特に職業会計人(公認会計士・税理士)を目指す人にとっては登竜門となっており社会が要求する資格であるといっても過言ではない。
授業方法:	初めて簿記を学ぶものを対象に毎回講義を行い、演習を行いながら簿記の基礎的な技術を完全にマスターできるようにする。そして全国経理学校協会簿記検定や日本商工会議所簿記検定に合格することを目標にする。
履修の留意点:	電卓は必ず使用するので毎回持参すること。 予習は必要ないが、復習を必ず行うこと。 教科書: 書名:日商簿記検定試験 出題傾向と対策 著者名:税務経理協会 出版社名:税務経理協会 出版年:2005年9月
目標と評価:	全国経理学校協会簿記検定や日本商工会議所簿記検定に合格できる能力を習得することを目標にする。 評価点については以下のものを考慮して決定します ・授業時の理解度 ・授業内ミニテスト ・学期末試験 ・検定試験の結果
教科書:	例解演習 基本簿記 山本孝夫・前川邦生(編) 創成社 2004年4月四訂版発行
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「国際協力論」（担当者：安田 利枝）の履修の手引き

科目名：	国際協力論
担当者：	安田 利枝
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>私たち人間が「一人では生きていけない」ように、国際社会において、国家も企業も私たちの一人ひとりの暮らしも相互に深く結びつくようになっていきます。これを「相互依存」と言います。国際協力論では、地球規模の問題群である、人口、食糧、資源（海洋・森林）、エネルギー、環境保全と汚染防止、人権、貧困と開発、軍縮、紛争予防、平和維持などの課題について、主要な国際協定、国際組織のかたちで、各国がどのような協力をしているのかを学びます。国際組織、国家、多国籍企業、NGO（市民団体）が、どのように互いに係わりながら問題に立ちむかっているかを考えましょう。</p> <p>注：経済学では、国際協力論を途上国の経済開発に対する協力の分野に限定して考えますが、本学カリキュラムでは「国際援助論」という独立した科目を置いているため、この「国際協力論」では通貨、貿易、金融などの国際経済学の問題を除いた他の問題領域を扱います。</p> <p>授業の体系</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. レジーム論 2. 人口・食糧 3. 資源・エネルギー 4. 平和維持と予防外交 5. 人権 6. 地球環境問題
授業方法：	講義とグループワークの組み合わせで授業をしていきます。受講者には「ただ授業を聞きに来る」、「黙って座っていればいい」ということ以上の積極的な参加をディスカッションや質疑応答のかたちで求めます。グループワークをできるだけ取り入れていくつもりです。
履修の留意点：	「国際関係論」を履修合格していることが望ましい。
目標と評価：	<p>目標：この科目を履修することによって、次のような成果が得られることを期待します。またそうなるべく、努力することを求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球規模の課題と国際協力の現状について、一般常識を身につけること ・一人一人の関心と行動が、国家の政策決定に影響を及ぼし、そして何かを変えていくことに気付くこと <p>成績評価は、以下の項目によって行ないます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加度 20%（各授業の終わりに提出する授業メモへの記入） ・授業内容の理解度 50%（定期試験時に実施する理解度試験） ・勉学度 30%（定期試験時に提出する小論文問題への解答）
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「国際援助論」（担当者：尾村 敬二）の履修の手引き

科目名：	国際援助論
担当者：	尾村 敬二
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	21世紀になってから、先進国の開発途上国に対する軽罪開発援助の概念は変わり始めているが、実態は20世紀のやり方を踏襲することが多い。本授業では援助問題を公的開発援助（ODA）を中心問題とし、ODAのあり方および実際の実施体制の改革について考察する。講義の内容は尾村の実際の体験をベースに、具体的な援助プログラムやプロジェクトの例を挙げて、履修生に分かりやすく援助問題を講義する。
授業方法：	授業方法は普通の講義形式で行うが、履修生を適宜指名して質問をしたり、履修生からの質問を受け付ける。教科書を使わないが、適宜、プリントをメールにて配布する。
履修の留意点：	欠席をしないで、積極的に授業に参加すること、講義の内容を適切にノートできるように心がける必要がある。配布されたプリント資料を必ず予習し、授業の祭に持参すること。
目標と評価：	国際援助とは何か、および、その問題点と将来の方向を理解・展望することが目標である。成績評価は定期試験にて行う。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「地域経済論」（担当者：飯島 正義）の履修の手引き

科目名：	地域経済論
担当者：	飯島 正義
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	戦後の経済発展は、地域格差をもたらし、これまでこれを是正するための地域政策が展開されてきました。しかし、大都市圏への集中は是正されることはなく、むしろ東京一極集中を強める結果となっています。90年代以降、経済のグローバル化が進み、これまでの地域政策に関する考え方も変化しています。授業では、まず各地域の経済的特徴を統計を通して見ていきます。次に、これまでの地域政策がどのように展開されてきたのかを見ていきます。そして、各地域の現状について理解を深めていきます。
授業方法：	講義形式で行います。
履修の留意点：	毎回の積み重ねが重要です。出席状況に注意してください。
目標と評価：	各地域の経済的特徴と現状について理解を深めることを目標とします。評価は、授業中に行う確認、レポート等で総合的に評価します。
教科書：	使用しません。授業のときに資料を配布します。
参考書：	必要に応じて紹介します。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「地域経済論」（担当者：飯島 正義）の履修の手引き

科目名：	地域経済論
担当者：	飯島 正義
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	戦後の経済発展は、地域格差をもたらし、これまでこれを是正するための地域政策が展開されてきました。しかし、大都市圏への集中は是正されることなく、むしろ東京一極集中を強める結果となっています。90年代以降、経済のグローバル化が進み、これまでの地域政策に関する考え方も変化しています。授業では、まず各地域の経済的特徴を統計を通して見ていきます。次に、これまでの地域政策がどのように展開されてきたのかを見ていきます。そして、各地域の現状について理解を深めていきます。
授業方法：	講義形式で行います。
履修の留意点：	毎回の積み重ねが重要です。出席状況に注意してください。
目標と評価：	各地域の経済的特徴と現状について理解を深めることを目標とします。評価は、授業中に行う確認、レポート等で総合的に評価します。
教科書：	使用しません。授業のときに資料を配布します。
参考書：	必要に応じて紹介します。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「農業経済論」（担当者：内藤 勝）の履修の手引き

科目名：	農業経済論
担当者：	内藤 勝
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	自然の摂理に基づき農業のメカニズムを解明する。
授業方法：	講義とビデオにより世界の農業を研究する。特に「水（仮想水）」との関連で生産を分析する。そして人の命と食料の関連を考察する。
履修の留意点：	なし。
目標と評価：	興味のある所をレポートに作成する。
教科書：	自然と産業 内藤勝 高文堂 1996
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「金融論 I」（担当者：松田 岳）の履修の手引き

科目名：	金融論 I
担当者：	松田 岳
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>「不良債権問題」「電子マネー」「ペイオフ」「金融危機」。。。最近の経済ニュースに金融問題が登場しない日が無いといっても過言ではありません。なぜなら、最近起こったあるいは起こりつつある経済問題には、必ずといって良いほど金融が関わっているからです。政治・財界・行政・マスコミがつねに金融に関心を払っているのも当然のことといえます。学生の皆さんも金融から逃れることはできません。「金融リテラシ」という言葉が最近よく聞かれるようになりました。これは、従来のリテラシ＝「読み」「書き」「そろばん」と同じぐらい「金融への理解」が必須のものとなりつつありますことを示しています。しかしその一方で、「金融は難しいのでイヤ」という学生さんが多いのも事実です。そしてその難解さの原因は「金融に関する自分の知識不足だ」と考える傾向にあります。</p> <p>ところが事実逆です。金融が難しく見えるのは、情報の発信者が金融理論をよく理解していないからであって、決して皆さんの責任ではありません。誤解を多く含んだ「幻想的」な主張こそが、みなさんの混乱を招いているのです。</p> <p>金融論Iでは、金融の基礎知識・基礎理論・基礎的な制度を取り上げ、まず「金融」に慣れてもらおうと思います。その際、一般的な見解・議論がもっている誤まりを正すことで、みなさんの混乱を解きほぐし、金融への理解を深めてもらおうと考えています。</p>
授業方法：	<ul style="list-style-type: none"> ・確認テストの日を除き、全て講義形式で行う。代表的な講義プロセスは以下の通り。 [1] 30分 <ul style="list-style-type: none"> ・プリント配布 ・過去一週間の出来事についてコメント。（授業と現実が密接不可分の関係にあることを再認識してもらいます） ・前回の講義を復習するためのミニテスト（前回の授業を思い出し、理解を深めてもらいます） [2] 60分 <ul style="list-style-type: none"> ・一回の授業につき、原則として一つのテーマに取り組みます。（内容にまとまりを持たせるためです） ・適宜、質問を出し、回答を求めます。（授業への積極的な参加が求められます） ・適宜、視聴覚教材を用いて、講義への理解を深めてもらいます。
履修の留意点：	<p>[1] 授業妨害行為に対し、1度目は警告、2度目は退出指示、3度目は「履修相談」を行います。</p> <p>[2] 課題は約30題あります。課題数を覚悟した上で履修するかどうかを判断して下さい。</p> <p>[3] 座席は履修確定後、全席指定します。</p> <p>[4] 講義中はPCの使用も机上に出すことも認めていません。</p> <p>[5] 金融論Iと金融論IIは併せて履修することが望ましい（強制ではありません）。</p>
目標と評価：	<p>[目標]</p> <p>[1] 金融の基礎知識・基礎理論・基礎的な制度を理解すること。</p> <p>[2] 金融を材料として論理的思考力を身につけること。</p> <p>[評価]</p> <p>評価点の構成要素と評価ポイントは以下のとおりです。</p> <p>[1] 課題(60%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「復習」のために授業内にミニテストを実施。 ・持ち込み可能。前回のプリントを参照しながら、ポイントを押さえる。 ・講義理解度の向上、講義内容の定着を目的に行う。 <p>[2] 定期試験・確認テスト(40%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持ち込み不可のテスト。 ・講義の理解度を測り、向上させることを目的に行う。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「金融論Ⅱ」（担当者：松田 岳）の履修の手引き

科目名：	金融論Ⅱ
担当者：	松田 岳
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>「不良債権問題」「電子マネー」「ペイオフ」「金融危機」。。。最近の経済ニュースに金融問題が登場しない日が無いといっても過言ではありません。なぜなら、最近起こったあるいは起こりつつある経済問題には、必ずといって良いほど金融が関わっているからです。政治・財界・行政・マスコミがつねに金融に関心を払っているのも当然のことといえます。学生の皆さんも金融から逃れることはできません。「金融リテラシ」という言葉が最近よく聞かれるようになりました。これは、従来のリテラシ＝「読み」「書き」「そろばん」と同じぐらい「金融への理解」が必須のものとなりつつありますことを示しています。しかしその一方で、「金融は難しいのでイヤ」という学生さんが多いのも事実です。そしてその難解さの原因は「金融に関する自分の知識不足だ」と考える傾向にあります。ところが事実は逆です。金融が難しく見えるのは、情報の発信者が金融理論をよく理解していないからであって、決して皆さんの責任ではありません。誤解を多く含んだ「幻想的」な主張こそが、みなさんの混乱を招いているのです。</p> <p>金融の基礎理論と制度についてわかりやすく解説する点では金融論Iと共通ですが、金融論IIではIに比べてより複雑な金融問題に取り組みたいと考えています。その際、一般的な見解・議論がもっている誤まりを直すことで、みなさんの混乱を解きほぐし、金融への理解を深めてもらおうと考えています。</p>
授業方法：	<ul style="list-style-type: none"> ・確認テストの日を除き、全て講義形式で行う。代表的な講義プロセスは以下の通り。 [1] 30分 ・プリント配布 ・過去一週間の出来事についてコメント。 (授業と現実が密接不可分の関係にあることを再認識してもらいます) ・前回の講義を復習するためのミニテスト (前回の授業を思い出し、理解を深めてもらいます) [2] 60分 ・一回の授業につき、原則として一つのテーマに取り組みます。 (内容にまとまりを持たせるためです) ・適宜、質問を出し、回答を求めます。 (授業への積極的な参加が求められます) ・適宜、視聴覚教材を用いて、講義への理解を深めてもらいます。
履修の留意点：	<p>[1] 授業妨害行為に対し、1度目は警告、2度目は退出指示、3度目は「履修相談」を行います。 [2] 課題は約30題あります。課題数を覚悟した上で履修するかどうかを判断して下さい。 [3] 座席は履修確定後、全席指定します。 [4] 講義中はPCの使用も机に出すことも認めていません。 [5] 金融論Iと金融論IIは併せて履修することが望ましい（強制ではありません）。</p>
目標と評価：	<p>[目標]</p> <p>[1] 金融の基礎知識・基礎理論・基礎的な制度を理解すること。 [2] 金融を材料として、論理的思考力を身につけること。 [3] 金融を材料にして、様々な考えが存在し、それぞれの理屈があり、対立していることを知ること。</p> <p>[評価]</p> <p>評価点の構成要素と評価ポイントは以下のとおりです。</p> <p>[1] 課題(60%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「復習」のために授業内にミニテストを実施。 ・持ち込み可能。前回のプリントを参照しながら、ポイントを押さえる。 ・講義理解度の向上、講義内容の定着を目的に行う。 <p>[2] 定期試験・確認テスト(40%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持ち込み不可のテスト。 ・講義の理解度を測り、向上させることを目的に行う。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済学Ⅱ」（担当者：山崎 康之）の履修の手引き

科目名：	経済学Ⅱ
担当者：	山崎 康之
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>現代経済学理論のミクロ経済学（価格理論）の部分について講義します。市場経済において価格がどのように決定され、どのような役割を果たしているかについて学びます。すなわち、さまざまな財・サービスの価格の決定メカニズムと一国経済を構成する家計・企業・政府などの個々の経済主体の消費・生産といった経済行動がこの価格メカニズムを通じていかにして決定、調整されていくのか、またされるべきなのかについて講義します。ミクロ経済学の分析の基本的枠組みを理解することがその目的です。</p> <p>この講義で取り上げる主なトピックとその順序は、以下の通りです。</p> <p>ミクロ経済学</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 市場における需要と供給の作用。 2. 弾力性とその応用。 3. 需要、供給および政府の政策。 4. 消費者、生産者、市場の効率性。
授業方法：	通常の講義によります。
履修の留意点：	特にありません。
目標と評価：	期末試験の結果により評価します。
教科書：	マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編（第2版） N・グレゴリー・マンキュー 東洋経済新報社 2000年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「世界の民族と宗教」（担当者：畑中 敏夫）の履修の手引き

科目名：	世界の民族と宗教
担当者：	畑中 敏夫
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	この講義では宗教という視点から現代世界の問題を考えていきます。 まずユダヤ教、キリスト教、イスラム教それぞれの成立とその歴史的背景ならびにそれらの独自性を学びます。次に現代の最もアクチュアルな問題のひとつであるパレスチナ問題を取り上げ民族と宗教の係わり合いを考察します。
授業方法：	講義が中心の授業ですが、時にはビデオ教材を活用して、出来る限り具体的な事例に即して授業を進めます。
履修の留意点：	特にありません。
目標と評価：	目標 宗教を鏡に現代世界の抱える問題を映し出す事を目標とします。 評価 レポートの内容から評価します。
教科書：	使用せず
参考書：	適宜指示する。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「国際理解と交流」（担当者：山田 寛）の履修の手引き

科目名：	国際理解と交流
担当者：	山田 寛
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	この課目は、私たち日本人が外国人や外国文化とどのように接し、交流しているか、そしてどんな問題を抱えているかが、主なテーマです。留学生、移住労働者、難民など、様々な形で日本にやってくる外国人とどのようにつきあうか、どれほど心の門を開いているか、日本人は人種差別をしているか、市民レベルでどんな交流が行われているか、文化やスポーツの交流はどうか、など、いろいろな問題に取り組んでいきます。
授業方法：	ただテキストや本を読むのではなく、ビデオ、写真、映画などいろいろなものを使い、イメージを持ってもらうことを重視します。
履修の留意点：	国際問題、国際協力、国際交流などに積極的に取り組んでほしい、外国の人々の喜びや哀しみに対して、スイッチ・オン（スイッチを入れている）してほしいと思います。まず関心を持つことです。
目標と評価：	この大学で、できたら自分でも国際交流を実行する、例えば、私（山田）が夏休みに行っている「国際ボランティア体験研修」などに参加する学生が増える、というのが教員側の目標です。成績評価は、平常点プラス期末試験です。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「開発経済学Ⅰ」（担当者：尾村 敬二）の履修の手引き

科目名：	開発経済学Ⅰ
担当者：	尾村 敬二
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	開発経済学Ⅰおよび開発経済学Ⅱは春学期に一括して履修しなければならない科目であるから、必ずⅠおよびⅡを履修申請してください。 授業の内容は、開発途上国の経済開発をいかにに進めたらよいかを21世紀の中心的課題である貧困問題、環境問題などを通じて学ぶことにある。特に、環境維持・改善と経済開発が共存する持続的経済開発に力点をおく。経済開発問題を理解する上で欠かせないことは開発経済学について学習することであり、開発経済学の基礎をもあわせて学習する。本講義の内容は多岐に及び、1つの学問分野にとどまるものではないので、開発経済問題を学ぶことにより、学際的（マルチディシプリン）思考方法を学び取ることができる。
授業方法：	授業は通常の講義形式で行う。
履修の留意点：	教科書を使用するが、教科書にないことも講義するので欠席をすると理解できなくなる科目である。教科書以外にもプリントを配布する。また、適宜、参考書を提示する。
目標と評価：	開発経済学は開発途上国問題だけでなく、世界全体を理解する上で重要な科目である。国際経済コースを選択する人には学習が必須の科目である。 評価は、出席点、レポートおよび定期試験で行う。
教科書：	開発経済学入門（第2版） 渡辺利夫 東洋経済新報社 2004
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「開発経済学Ⅱ」（担当者：尾村 敬二）の履修の手引き

科目名：	開発経済学Ⅱ
担当者：	尾村 敬二
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	開発経済学Iおよび開発経済学IIは春学期に一括して履修しなければならない科目です。履修申請時には十分注意してください。それゆえ、履修の手引きは開発経済学Iと同じとします。
授業方法：	開発経済学Iに同じ
履修の留意点：	開発経済学Iに同じ
目標と評価：	開発経済学Iに同じ
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「世界経済と資源」（担当者：沼田 郷）の履修の手引き

科目名：	世界経済と資源
担当者：	沼田 郷
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>今日、世界動向を理解しようとする際に、「グローバル化」という現象を避けて通ることは不可能です。「グローバル化」はアメリカ化、世界的規模での競争の激化などと理解されていますが、どれも一面を表したものに過ぎません。この講義は「グローバル化」をキーワードに世界の動向を読み解くことに主眼をおいています。</p> <p>講義内容としては、「グローバル化」がもたらす影響を経済理論と最新の統計を用いて様々な角度から考察し、その実体をみなさんと一緒に探ってゆきます。さらに、こうした影響を先進国と発展途上国に分けて考察することによって、今後世界経済がどのように変化するかをある程度予測することが可能になるでしょう。経済理論という非常に難解な理論や高等数学を用いなければならないと考えている諸君も多いと思いますが、本講義に必要な理論は、特定の人のみで理解できる難解なものではありません。また高等数学を用いたりすることはありませんので心配なく。そして、資源とは一体どのようなものを指すのかを明らかにし、特に重要と思われる石油やレアメタルなどの鉱物資源に焦点を当て、その歴史を含めて考察を行います。</p>
授業方法：	<p>授業方法：講義（12回ないし11回）およびビデオによる学習（1回ないし2回）</p> <p>講義は「世界経済」と「資源」に関する概説を行う。その後、最新の統計データを用いながら「世界経済」と「資源」に関する知識を深める。</p> <p>ビデオ学習に関しては、石油に関するプログラムをいくつか鑑賞してもらい、学習した点、疑問に感じた点などを小レポートとして提出していただきます。</p> <p>講義はパワーポイントを用いる。また、適宜参考資料を配布する。</p>
履修の留意点：	<p>目まぐるしく変動する世界経済を対象としますので、事前に勉強することはこれで十分ということはありません。ですから、みなさん一人一人が様々な関心や興味をもって講義に参加することが重要にあります。</p> <p>その代わりに、みなさんが気になっている諸問題を可能な限り講義に反映させたいと考えています。教科書は特に指定しませんが、講義開始までに読むことをお勧めする参考図書をいくつか挙げておきます。また、より専門的な知識を得たいと考える諸君には講義中にも参考図書を紹介いたします。最後に、あたりまえのことですが、私語や他人に迷惑をかける行為に関しては、即刻退室していただきます。また、携帯電話の使用はその一切を禁止します。</p>
目標と評価：	<p>目標</p> <p>「グローバル化」の本質を理解する。</p> <p>世界経済を最新データをもとに分析、理解する。</p> <p>資源に関わる今日的諸問題を理解する。</p> <p>評価</p> <p>基本的には平常評価を考えています。ただし、最終講義において小試験もしくは小レポートを提出していただくことを考えています。</p>
教科書：	
参考書：	世界経済診断』 岩波ブックレット (No. 512) 2000年 西川潤 岩波ブックレット (No. 512) 2000年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「欧米経済論」（担当者：佐々木 高成）の履修の手引き

科目名：	欧米経済論
担当者：	佐々木 高成
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	世界最大の経済パワーである米国との関係は日本だけでなくアジア全体にとっても最重要課題である。ダイナミックな変革力と競争力に富む米国産業の現状とこれを支える社会・制度や日米摩擦を始めとする対外経済関係の流れを概観することにより、米国経済の特徴、米国と世界との係わりについて理解することを旨とする。欧州については米国との比較、欧米関係の中で論じる。米国は報道等を通じて最も身近な国のひとつであるが、往々にして極端でステレオタイプのアメリカ像によって米国経済を見る目も歪みがちである。このため、まず米国経済を理解するのに役立つ視点や基本的事実を学ぶ。
授業方法：	講義（配布するレジュメおよび資料、パワーポイントを使用）。講義内容に沿った資料を配布する。参考書および参考情報は講義の中で適宜紹介する。
履修の留意点：	今日的テーマを取り上げるので本講義の聴講生には日ごろ新聞、雑誌の欧米関係記事に目を通しておくことを期待する。
目標と評価：	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米国経済に関する基礎的情報・統計等の情報源を知る ・欧米経済の特徴を表す指標、事実について知る ・米国経済に関する情報とその利用の仕方について知る ・一般経済、貿易・通商に関する基本的用語を理解する ・米国経済の特徴を日欧と比較考察する視点を知る <p>評価点は以下の項目ごとに加算して算出する。</p> <p>中間レポート 45% 期末レポート・試験 45% 発言・質問等 10%</p>
教科書：	配布レジュメ・資料をもって教科書に代える
参考書：	アメリカ経済 みずほ総合研究所 日本経済新聞社 2005年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「国際金融論」（担当者：堀内 健一）の履修の手引き

科目名：	国際金融論
担当者：	堀内 健一
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>この講義では、国際通貨、為替レート、国際収支、国際金融市場などの問題を理論、制度、現状などの観点から学び、グローバル化時代の経済問題、経営問題に対応する能力を身につけることをねらいとしています。</p> <p>ではまず、外国貿易などによる国境を越えた取引ではどの国の通貨が多く使われているのでしょうか？現在ではアメリカ合衆国の国内で使われる米ドルが国際取引で多く使われています。また、アメリカ人（アメリカ居住者）を取引当事者とする場合はもちろんのこと、アメリカ人を取引当事者としないう国際取引でも、その多くはドルが利用され日常的に決済されています。このことをもって現在、ドルに「国際通貨」という規定が与えられているのです。</p> <p>では、ドルは実際、国際取引でどのように利用されているのでしょうか？現在ではアメリカのニューヨークの銀行に常時一定額預けてあるドル預金が増え続けることによって対外取引の多くが決済されています。そして、このドル預金を振替えるときに必要なのがドル為替であり、外国人（アメリカ非居住者）は頻りにこのドル為替を自国通貨を対価として売り買いする取引、つまり外国為替取引が必要になるのです。そして、国際通貨ドルの実体はアメリカの銀行にあるアメリカ非居住者のドル預金残高であり、取引されるドル為替であるのです。このドル為替と自国通貨を交換するときの交換比率が「為替レート」であり、ドルと円との交換であれば、1ドル何円と日本では表示されるのです。</p> <p>では、為替レートはどのようにして決定されるのでしょうか？その相場を決定するのはドル為替に対する需要と供給のバランスであり、相場の変動要因はドル為替に対する需要と供給の関係の変動で、為替レートは市場で絶えず変動しています。そして実際には為替の需給関係は銀行間市場（外国為替市場）に集約されているのです。</p> <p>では、ドル為替の需給関係は何によって決まるのでしょうか？一定期間の為替の需給関係には、その背後にある対外取引の動向が反映されているのです。その対外取引の一定期間の受払を集約してその収支差額を記録したものが「国際収支」統計です。対外取引は、①モノの取引（財貨＝有形財）、②サービスの取引（無形財取引）、③カネの取引（資本取引）、そして④資本取引の結果生じる投資収益（利子、配当など）の受払に分類されます。それらが、①貿易収支、②サービス収支、③資本収支・外貨準備増減、④所得収支という名称で記録されているのです。</p> <p>ただし、今日の為替レートを動かすのは、ほとんどがカネの取引によるもので、「国際金融市場」における資本取引の激増、なかでも投機的な資本取引の激増の結果です。今日の外国為替取引の圧倒的部分は、金融収益を獲得するための資本取引を反映しているのです。金融グローバル化、デリバティブ取引の急増、急速な資本移動、マネー・ゲーム、急速な円高・円安、通貨危機、カジノ資本主義といったキーワードはこのことに関連するのです。そして、今日、日本において為替レートとりわけ円ドル相場の変動が大きな問題となり注目されるのは、日本経済とアメリカ経済が貿易や資本取引において密接不可分の関係にあるからなのです。</p> <p>では、国際通貨国アメリカと貿易立国日本の関係は実際どうなっているのでしょうか？日本とアメリカのGDPは、あわせて世界全体の48%を占めています。この両大国は互いに補完しあいますがますます関係を強めあっています。というのは、第1に、日本の輸出はアジア経由を含めて半分ぐらいはアメリカに依存しているからです。近年、中国が巨大な消費市場として成長していますが、日本の対米輸出の中継基地としても大きな役割を果たしつつあります。今やアメリカ経済とアジア経済が日本経済の死命を制しているといっても過言ではありません。その結果、日本では対米輸出拡大による貿易黒字が拡大する一方で、アメリカでは史上最大の財政赤字と経常収支（貿易収支）赤字の拡大が続いています。また、アメリカは外貨でなく自国通貨ドルで世界中からモノを買うことができるので、ある一定限度までは赤字の拡大が持続可能なのです。</p> <p>第2に、現在、アメリカ経済は政府部門によって一定程度引っ張られていますが、その資金的支柱は日本になっています。アメリカ政府の発行する国債を大量に買っているのは日本だからです。そのことも1つの大きな要因となって、資本収支は日本の大幅赤字、アメリカの大幅黒字となり、さらにアメリカは世界最大の債務国、日本は世界最大の債権国となっているのです。</p> <p>しかし、日本の経済は内需ではなく、巨大な貿易赤字の背後にあるアメリカ人の低貯蓄と過剰消費に依存しているといえるのです。したがって、この関係がいつまでも持続可能ではないことも明らかになってくるのです。さらにアメリカの貿易赤字の持続は、アメリカの購買力の一方的な対外流出を意味し、アメリカ国内の雇用問題を悪化させることとなります。</p> <p>このようにして、国際金融の制度や理論を知ることで、貿易におけるアメリカ依存の日本経済と日本と資金循環が結びつくアメリカ経済という特異な構造が見えてきます。すなわち、ドルに依存しつつドルを支えるという日本の対外取引におけるバランスを欠いた奇妙な関係が見えてくるのです。そして、そここそ自立性のない日本の経済政策の根源があるといえます。グローバル化が大きく進展した今日ですが、グローバル化の実態を正しく認識することが必要であり、そこから浮かび上がる日本経済の問題、さらには日本企業の経営の問題を根本的に理解することが必要となっています。そのためには国際金融の知識が不可欠といえます。</p> <p>以上の視点から、国際金融論では、1) 国際金融の理論と制度についての基礎的な知識、2) 国際金融から見てくる日本経済の問題点、あるいは企業経営の課題について展開し、みなさんの国際金融への理解を深めてもらいたいと考えています。</p>
授業方法：	<p>授業は全て講義形式でおこない、毎回、講義資料を配付します。授業は基本的には以下の流れで行う予定です。</p> <p>[1] 前回講義の復習および質問に対するリプライ [2] 講義 [3] 授業内容等に関する質問票提出</p>
履修の留意点：	必ずしも前提とはしませんが、関連する科目として「金融論」、「証券論」、「国際経済学」、「欧米経済論」等を履修していると学習効果は高まるでしょう。
目標と評価：	<p>[目標] [1] 国際金融における基礎的な理論・制度に関する知識を獲得する [2] 国際金融に関する知識がなぜ必要なのか、その意義を理解する [3] グローバル化とその実態、国際金融の視点から見えてくる日本経済や日本企業の経営の問題を認識し、それにどう対応するべきか自分自身の見解を確立する</p> <p>[評価] 期末試験の結果に、質問票に対する評価などの平常点を加味して評価します。 評価の配点は以下のとおりです。 [1] 平常点 (10%) [2] 試験 (90%)</p>
教科書：	
参考書：	『金融論』 関根猪一郎・木村二郎・大島重衛・小西一雄 青木書店 2000年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日中比較経済論」（担当者：劉暢）の履修の手引き

科目名：	日中比較経済論
担当者：	劉暢
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	この授業では、まず比較経済学の研究対象、分析方法及び研究内容に関する基礎概念を講義する予定である。そして比較経済学の視点から日中比較経済研究の可能性、前提及び目的等を説明する。これらに基づき、講義時間が許す限り、20世紀半ば以降の日中両国の経済発展を中心とする諸問題を取り上げ具体的な比較検討を行いたい。
授業方法：	授業は通常の講義形式で行う。
履修の留意点：	①今日の日本経済及び中国経済に対して関心をもつ学生の履修を歓迎する。 ②2年次春学期に「日本経済論」（劉暢担当） 3年次秋学期に「アジア経済論」（劉暢担当）の授業を履修しておくことが望ましい。
目標と評価：	目標： ①比較経済論の視点から日中比較経済研究の基礎知識を身につける。 ②よって、日中比較経済研究に関する具体的な考察を理解できることを目指す。 評価： 筆記試験（持込み可）、受講態度などを総合して、成績を評価する。
教科書：	履修者の予備知識、授業への関心そして理解などを前提にし、必要に応じて授業の時に提示する。
参考書：	履修者の予備知識、授業への関心そして理解などを前提にし、必要に応じて授業の時に提示する。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「アジア経済論」（担当者：劉 暢）の履修の手引き

科目名：	アジア経済論
担当者：	劉 暢
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	アジア経済は今後中国経済の影響を強く受けながら再編成され、世界経済の中で一段と存在感を増していくであろう。従って、今年度の「アジア経済論」の中心は中国経済に関する基礎知識の説明・アジア経済の中で重要な役割を担う中国経済の変容・日中経済関係の緊密化が日本経済に及ぼす影響、などの内容に置かれる。授業を通して、日中経済関係の共栄を図る上で何が重要かについて考え、よって、中国経済の全体像を冷静にとらえられ、「脅威論」を超えて日本とアジア、とりわけ中国との経済関係の実態を正しく認識できることを期待したい。
授業方法：	授業は通常の講義形式で行う。
履修の留意点：	①アジア経済、特に日中両国の経済関係に関心をもつ学生の履修を歓迎する。 ②3年次秋学期に「日中比較経済論」（劉暢担当）を受講したい場合は、この授業を履修することが望ましい。
目標と評価：	目標： ①アジア経済、とりわけ中国経済に関する基礎知識を身につける。 ②中国経済の実態をある程度認識し、日中経済関係を正しく理解できることを望む。 評価： 筆記試験（持込み可）、受講態度などを総合して、成績を評価する。
教科書：	履修者の予備知識、授業への関心そして理解などを前提にし必要に応じて授業時に指示する。
参考書：	履修者の予備知識、授業への関心そして理解などを前提にし必要に応じて授業時に指示する。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「国際貿易論」（担当者：亀卦川 芽以）の履修の手引き

科目名：	国際貿易論
担当者：	亀卦川 芽以
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	世界はグローバル化が進み、モノやサービスは国境を越えて取引されています。この「国際貿易論」では前半に、貿易が起こる仕組みなどを理論的に分析をしていこうと思っています。具体的な内容としては交易条件、リカード・モデル、ヘクシャー＝オリーンの理論などです。後半では、時事的な内容を項目別に分けて授業を行います。具体的な内容は、GATT＝WTO体制、地域内交渉、二国間協定などです。
授業方法：	講義形式で行います。しかし、こちらが一方的に話すのではなく、皆さんに質問を投げかけて答えてもらう方法で授業を行いたいと思っています。
履修の留意点：	この科目に興味がある学生は全員歓迎します。ただし基本的な経済学の内容が分からず、授業についてこれない場合は、こちらが指定した本で勉強してもらいます。また科目の性質上、留学生の受講者が多いですが、日本語の試験をクリアして嘉悦大学に入学しているので特別扱いはしません。日本人であろうと留学生であろうと同じように試験の採点をします。また、授業の連絡を嘉悦大学のHPからメールを送るので、確認することができることを履修の条件とします。 授業では教科書は使わず、こちらからプリントを配布します。サイズはA4に統一しますので、なくならないようファイルを用意して下さい。 この科目の再試験に関しては、出席点は加味しません。しかし、試験の内容に関しては本試験と異なるものにしますので、きちんと授業を受けていなければ合格はできないと考えていて下さい。
目標と評価：	この科目を受講した場合の目標は、 ・基本的な貿易メカニズムを図や文章を使って理解できる。 ・現在さまざまな貿易体制があるが、それぞれの仕組みを理解できる。 評価の方法は、学期末試験（90点）と課題の提出状況（10点）の合計100点満点で採点します。 ・学期末試験は追試との関係で最後の授業ではなく、学校が定めた試験期間中に行います。 ・課題は自分のためにやるものと考えていますので、提出期間内に提出をすれば点数を加算します。ただし、白紙が多い場合はこの通りではありません。課題の回数に関しては、受講生の理解度によって決めたいと思っています。 ・大学生ですので授業を一生懸命受けるのは当然だと考えています。そのため、授業態度に関してはきちんと受けているからといって加算せず、逆に授業態度が悪い場合のみ減点の対象とします。
教科書：	
参考書：	ゼミナール国際経済入門 伊藤元重 日本経済新聞社 1989年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「国際文化論」（担当者：畑中 敏夫）の履修の手引き

科目名：	国際文化論
担当者：	畑中 敏夫
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	この授業の内容。 1 日本人の起源 2 日本語の起源とその特色（外国語と比較して） 3 日本語と日本人の行動様式（外国人から見た日本人） 4 異文化理解の問題点
授業方法：	講義中心の授業ですが、折にふれビデオ教材を用いて具体的に問題を考えていきます。 又、毎回、前週の復習から授業に入ります。授業の流れを掴んで下さい。
履修の留意点：	特にありませんが、発問しながら授業を進めていきますので積極的に発言してくれることを望みます。
目標と評価：	評価 レポートの内容により判断します。 目標 異文化理解を通じて日本文化の理解を深める。
教科書：	使用せず。
参考書：	授業内で指示します。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本文化 I」（担当者：石田 雅彦）の履修の手引き

科目名：	日本文化 I
担当者：	石田 雅彦
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	本授業の目的は学期の間に、日本の先人たちが現在にまで届けた伝統文化の一端に触れることにある。また日本の文化史を理解することにより、日本の文化が回りを取り囲む国々との交流によっていかに成り立ってきたを知り、それにより他の国々との友好の大切さを理解するにある。
授業方法：	日本の文化の成り立ちを理解しながら、現在も日本の伝統文化を維持されておられる講師の方々に来ていただきその文化に直接触れる。また、毎回授業において鎌倉時代発の日本文化のひとつである、抹茶を学生間で点てることにより、もてなしの心を身につける。またその間に箸の持ちかた等の日本人の基本のマナーにも立ち入って学ぶ。年間のカリキュラムは授業開始当日の出席学生数に応じて作成する。
履修の留意点：	上記を目的とする授業であるので、出席体験することが基本になる。したがって出席しない学生には本授業を受ける意味がない。毎回必ず出席を取るので受講希望の学生諸君には了解してもらいたい。授業においては文化史関係の資料は毎回授業の初めに配布する。
目標と評価：	目標は文化体験にある。この体験が受講したそれぞれの学生諸君の人生に於いて役に立つことがあるであろう。評価は毎授業を出席したかどうかを中心になる。また期の最後に「論文」を提出する。以上を合わせ評価する。出席なくして評価は無いことを理解してほしい。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本文化Ⅱ」（担当者：石田 雅彦）の履修の手引き

科目名：	日本文化Ⅱ
担当者：	石田 雅彦
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	日本文化Ⅰに同じ
授業方法：	日本文化Ⅰに同じ
履修の留意点：	日本文化Ⅰに同じ
目標と評価：	日本文化Ⅰに同じ
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「家庭経営論」（担当者：宮村 幸次郎）の履修の手引き

科目名：	家庭経営論
担当者：	宮村 幸次郎
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	1990年代の初頭、バブル崩壊後、経済が低成長の時代に入り、社会も少子超高齢化の時代を迎え、戦後から続いてきた日本社会の構造が、根底から変わり始めた。
授業方法：	講義 8 回及び現場実習・演習 5 回
履修の留意点：	ソーシャルワーク論（社会福祉援助技術論）は、すぐれて利用者の権利擁護（アドボカシー）を基本とした実践的研究である。履修者は、生活者としての視点を持って、今日の「豊か」な生活が維持されている、自分の身近な生活を通して、あらためて生きていく上で、今日の社会の市場化や競争（原理）社会などからの弊害や対立や衝突による不安全感や不快感、又は、いわれのない不平等や不公平を感じる状態にあるか、いわゆる基本的人権が、自分の「豊か」な生活に保証されているかを見直し、人としての感覚と感性を培うことに留意する。
目標と評価：	目標
教科書：	社会福祉援助技術総論 岡本民夫 小田兼三 ミネルヴァ書房 2003年3月20日 初版第19刷発行
参考書：	ケアを問いなおす 広井良典 ちくま新書 1997年11月20日第1刷発行

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「生活環境論」（担当者：藤井 敬宏）の履修の手引き

科目名：	生活環境論
担当者：	藤井 敬宏
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	本講義では、地域社会論・コミュニティ論に関する一般的な概説のほか、地域社会における現代的な課題として福祉や教育、環境、交通などの社会問題をとりあげてコミュニティのあり方、役割等について検討します。特に、それらの問題が現代の国や地域の政策の中でどのように扱われ、結果としてコミュニティがどのように機能していくのかを一緒に考えてもらいます。さらに、事例を通じてコミュニティ形成の視点・論点を明らかにする方法、また、具体的な地域問題から現代社会を理解する方法について検討することを目的として学習します。
授業方法：	講義は、主にプロジェクターを使用してパワーポイントで説明を行います。講義のテーマは、環境問題から住民問題まで幅広い題材を取り上げ、各回のテーマ毎に、背景、問題の緒言、内容、等についてディスカッションを行いながら、講義の論点を明確にしていきます。 なお、講義開始時には、前回の復習として講義に関するミニレポートを毎回実施する予定です。また、別途レポートの課題提出および発表を行う予定です。
履修の留意点：	この講義では、題材とする内容がマクロ（地球規模）な環境問題から、ローカル（局地的）な住民参加の問題に至る、社会情勢やニュースなどの幅広い事例を用いるので、新聞を読んだりテレビのニュース番組を見たり、社会の変化に常日頃から関心を持つようにして下さい。
目標と評価：	この授業を受講する学生には、次の点を意識した学習に努めてもらいたいと思います。 ①コミュニティとは何か。コミュニティ形成の要因を理解すること。 ②環境保全・環境創造における市民の取り組み方、交通環境問題における公害訴訟と沿道住民の対応、市民参加型のワークショップ、都市計画マスタープランづくりにおける住民参加等の具体的な事例を中心に学習するので、コミュニティが政策や対策を選択・決定していく過程を十分に理解するとともに、市民に課せられる権利と義務を論理的に把握すること。 ③わが国のコミュニティは、特に災害時にその形や結束力が現れてくる。地域コミュニティの望ましいあり方について理解すること。 評価点は次の項目毎に加算方式で算出します。 ①講義時間毎に行うミニレポートの内容と提出状況〔10%〕 ②課題の提出ならびに発表（プレゼンテーション）状況〔40%〕 なお、課題内容と提出・発表方法は講義中に説明する。 ③学期末試験〔50%〕
教科書：	必要に応じて講義中に指示する。
参考書：	必要に応じて講義中に指示する。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「NGO・NPO論」（担当者：内田 和夫）の履修の手引き

科目名：	NGO・NPO論
担当者：	内田 和夫
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>NGO・NPOは「政府の失敗」と「市場に失敗」を踏まえて、あらたな可能性を探る存在という言い方もできるが、なによりも「それは希望」と呼べる存在であるとおもう。この講義ではまず、人々がNGO/NPOになぜ希望を抱くのかを受講生諸君に実感してもらうことを第1にしている。ゲストの登場と課題図書を読破がそのために用意されている。希望としてのNGO・NPOは、活動体であるとともに経営体という性格をもつ。本講義の第2の目的は、NGO・NPOの分析による理解である。いくつかのNGO/NPOを事例にいい活動いい経営を可能とするためにはどんな条件が必要か考えてみようとおもう。</p> <p>取り上げる分野は、①ストリートチルドレンとNGO ②地雷除去とNGO ③自立援助ホームとNPO ④高齢者介護とNPO ⑤グリーンツーリズムとNPO ⑥シェルターとNPOを予定している。講義の章立てはつぎのように予定している。(1) NGO・NPOとはどういうものか。(2) NGO・NPOをめぐる法制度 (3) NGO・NPOの活動現場 (4) NGO・NPOの活動と運営 (5) 活動体と経営体としてのNGO・NPO</p>
授業方法：	<p>(1) NGO・NPOが取り組んでいる課題とはどういうものなのかを受講の諸君が受け止めることを重視する。「資料の読み込み」「読書レポート」を考えている。</p> <p>(2) NGO・NPOの担い手と受講生諸君が出会うことを大切に考える。「ゲスト」「読書レポート」を考えている。</p> <p>(3) しくみと運営面についての制度理解、NPO法の理解についてはトレーニング的な手法を工夫したい。</p>
履修の留意点：	<p>(1) 「ボランティア論」をすでに単位取得していることが、履修上は望ましい。ボランティア活動の延長上に多くのNGO・NPOの活動が展開されるからである。</p> <p>(2) 3年生以上の適用されるカリキュラムでは3年次設置専門科目、2年生に適用されるカリキュラムでは2年次設置専門科目となっている。両者に留意した講義を行う。</p> <p>(3) 教科書、参考書、読書レポート課題図書、の購入が必要となる。</p>
目標と評価：	<p>(1) 目標は上記のとおりである。</p> <p>(2) 講義内レポート、読書レポート、試験、で評価する。</p> <p>(3) 出席点を25点以上取得つもりでしっかり講義に出てきてほしい。実のある出席が不可欠の科目だからである。</p>
教科書：	NPOがわかるQ&A 早瀬昇・松原明 岩波書店（岩波ブックレット618） 2004年
参考書：	元気なNPOの育て方 戸田智弘 日本放送出版協会（生活人新書） 2005年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「環境経済論」（担当者：内藤 勝）の履修の手引き

科目名：	環境経済論
担当者：	内藤 勝
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	農業の原理は、リサイクルである。ところが、工業はその機能が無い。例えば、石油からナイロンを作る過程を考えたらい。まず、石油という資源を失う。製造過程で、大量の排ガス(高エントロピー)を環境に捨てる。これが公害の原因である。厳密に言えば、原油から石油に精製する過程からも高エントロピーは排出される。更に、ナイロン等の工業製品が捨てられ焼却される過程からも高エントロピーは生まれる。これ等が、環境の汚染、つまり公害の発生源だと言ってよい。経済学は、市場メカニズムにのったものしか評価できない。しかし、今後の社会では、排ガス等の高エントロピーをCO2税、環境税等によって課税し環境経済活動をエントロピー（エネルギーの汚す。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。
授業方法：	ビデオ等を利用しながら、講義をする。
履修の留意点：	なし。
目標と評価：	○目標 自然・経済・生活の中から環境問題を考える。自然の視点より現代社会を観る。経済活動をエントロピー（エネルギーの汚れ）から分析する。 ○評価 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 レポートによる。
教科書：	物質循環とエントロピーの経済学 内藤勝 高文堂出版社 2004
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「児童福祉論」（担当者：黒田 慶子）の履修の手引き

科目名：	児童福祉論
担当者：	黒田 慶子
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	数年前まで「児童福祉」とよばれていたことがらは、最近では「児童家庭福祉」、あるいは「子ども家庭福祉」などと呼ばれるようになってきている。それはなぜだろうか。このような問題意識を背景に、本講義では戦後日本の子どもをめぐる環境の変化に焦点をあて、学生諸君の記憶をもたどりながら、現代日本の子どもたちが直面している状況について一緒に考えてみよう。そのうえで児童家庭福祉の現状を概観し、その特徴と問題点を理解することを目指す。
授業方法：	講義を中心に、意見発表、討論を行う。
履修の留意点：	本講義は、その内容からいって学生諸君の体験や記憶を披露してもらうことが多くなる。自分の体験を言語化することは、簡単ではないが、きわめて個人的な体験が実は時代のものであることに気づく人も多いただろう。是非自分の体験を客観化する醍醐味を味わってほしい。そのためには全員が講義に前向きに関わる姿勢が大事である。履修にあたっては、この点に関し、特に強調しておきたい。尚、参考文献は講義のなかで適宜伝える。
目標と評価：	目標：戦後日本の子どもをめぐる変化と現代の子どもがおかれている現状、ならびにその対策を理解する。 評価：出席、講義・意見発表・討論への参加、レポートを総合的に評価する。出席やレポート提出が評価の前提である。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「家計と金融」（担当者：堀内 健一）の履修の手引き

科目名：	家計と金融
担当者：	堀内 健一
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>この講義では、現在の日本の標準的な家計における収入と支出および貯蓄の動向を把握し、教育資金や老後資金を含めて、生涯にわたる豊かな暮らしを支えるための生活設計、資産管理、資産設計に関する基本的な考え方を学ぶことをねらいとしています。</p> <p>では、家計とは何でしょうか？また、家計と金融とはどのように関わっているのでしょうか？日本の標準的な家計は、労働力を提供することによって賃金所得を得て、かつ金融機関への預金・証券投資によって利子や配当所得を得ることによって所得を得ています。さらに家計はその所得を企業からの財・サービスの購入にあてる（消費行動）ことと、金融機関への預金・証券投資（貯蓄行動）に配分しています。またさらに家計は公共部門に対して税金（所得税や消費税）と社会保険料（年金・医療等）の拠出を行い公共サービスと社会保険給付を政府から受けとっています。</p> <p>すなわち、家計は収入を得て、税や社会保険料の支払いをしたり消費をしたりして支出をし、残ったお金は貯蓄にまわっています。貯蓄にはいろいろな手段がありますが、それによって家計は資産を形成し、消費生活の安定・向上、健康、子供の教育・自立、家族の自己実現、余暇活動、保険、老後生活への準備など現在から将来にかけての必要な資金を確保しようとしています。さらに、家計は支出が収入を上まわるとき、あるいは投資が貯蓄を上まわるときには、消費者ローン、住宅ローン、教育ローンなどのかたがたで負債を負うこととなります。</p> <p>このような家計のプロセスにおいて前提になるのは、生活設計、すなわち現在や将来に対する望ましい生活像を描き、そのような生活はどのような条件・状況のもとで実現可能かを考え、目的達成のため、具体的計画を立てることです。将来の目標を達成するためには、現在から将来にかけての暮らし方を考えるだけではなく、将来から逆に現在までの暮らしをたどり、現在の時点で何をしておくべきかを考えることが大切になってくるのです。</p> <p>こういった生活設計をしやすくするために、通常、ライフステージを考えます。すなわち人の一生をいくつかの段階に区切って考えるのです。たとえば、人の誕生から成長発展の過程について、乳児期、幼児期、児童期、少年・少女期、青年期、労働期、引退期と分けたり、また準備期、順応期、蓄積期、両親期、再発見期、引退期と分けたりします。そして、それぞれのライフステージでの生活課題を予見し検討することによって、より具体性のある生活設計をして1回限りの人生を意義あるものにしようとするのです。</p> <p>そして、それを実現するために、合理的・効率的な家計（キャッシュ・フロー、資産・負債）管理や資産設計という技術が必要になり、そのための知識が必須となるのです。また、その際に税金や社会保険に関する知識も必須となるのはいうまでもありません。</p> <p>さらに、家計をとりまく経済状況や金融情勢についても正確な理解と判断力が求められるようになります。経済については、右肩上がりの成長の時代が終わり、雇用情勢の悪化や賃金の低下、また社会保障の後退による負担増給付減などによって収入は減り、家計は支出削減を迫られています。一方で、養育費や教育費はかさむばかりでそれが出生率低下、少子高齢化社会の加速の一因になっています。さらに、貯蓄率の低下や個人破産の急増が目立つようになってきました。</p> <p>また、1990年代に発生した不良債権問題、金融危機が引き金となったゼロ金利、ペイオフ問題、金融再編など、家計の資産運用にとってはリスクの高まりとともに、リターンをあまり期待できない非常に厳しい時代になっています。こうした家計をとりまく困難な状況を理解すると共に、このような状況の中で家計はどのような対応をするべきなのかを問われています。あるいはかつてなく将来不安に直面した家計には、なにがどこまでできて、なにができないのかを正しく認識する必要があります。</p> <p>以上の視点から、1) 家計における金融の役割とその活用のための知識、2) 家計から見た日本の経済・金融とその家計への影響について講義を展開し、みなさんの家計と金融についての理解を深めてもらいたいと考えています。</p>
授業方法：	<p>授業は全て講義形式でおこない、毎回、講義資料を配付します。授業は基本的には以下の流れで行う予定です。</p> <p>[1] 前回講義の復習および質問に対するリプライ [2] 講義 [3] 授業内容等に関する質問票提出</p>
履修の留意点：	必ずしも前提とはしませんが、関連する科目として「金融論」、「財政学」、「労働経済論」、「社会保障論」、「福祉政策」等を履修していると学習効果は高まるでしょう。
目標と評価：	<p>[目標] [1]家計と金融についての基礎的な知識を獲得する [2]生活設計、家計（キャッシュ・フロー、資産・負債）管理、資産設計の意義を理解する [3]現在、家計をとりまく諸条件すなわち経済状況、金融の最新動向について理解し、それに家計はどのように対応するべきか自分自身の見解を確立する</p> <p>[評価] 期末試験の結果に、質問票に対する評価などの平常点を加味して評価します。 評価の配点は以下のとおりです。 [1]平常点(10%) [2]試験(90%)</p>
教科書：	
参考書：	『暮らしと金融なんでもデータ』 渡辺孝監修 金融広報中央委員会 2005年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「家計と金融」（担当者：堀内 健一）の履修の手引き

科目名：	家計と金融
担当者：	堀内 健一
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>この講義では、現在の日本の標準的な家計における収入と支出および貯蓄の動向を把握し、教育資金や老後資金を含めて、生涯にわたる豊かな暮らしを支えるための生活設計、資産管理、資産設計に関する基本的な考え方を学ぶことをねらいとしています。</p> <p>では、家計とは何でしょうか？また、家計と金融とはどのように関わっているのでしょうか？日本の標準的な家計は、労働力を提供することによって賃金所得を得て、かつ金融機関への預金・証券投資によって利子や配当所得を得ることによって所得を得ています。さらに家計はその所得を企業からの財・サービスの購入にあてる（消費行動）ことと、金融機関への預金・証券投資（貯蓄行動）に配分しています。またさらに家計は公共部門に対して税金（所得税や消費税）と社会保険料（年金・医療等）の拠出を行い公共サービスと社会保険給付を政府から受けとっています。</p> <p>すなわち、家計は収入を得て、税や社会保険料の支払いをしたり消費をしたりして支出をし、残ったお金は貯蓄にまわっています。貯蓄にはいろいろな手段がありますが、それによって家計は資産を形成し、消費生活の安定・向上、健康、子供の教育・自立、家族の自己実現、余暇活動、保険、老後生活への準備など現在から将来にかけての必要な資金を確保しようとしています。さらに、家計は支出が収入を上まわるとき、あるいは投資が貯蓄を上まわるときには、消費者ローン、住宅ローン、教育ローンなどのかたがたで負債を負うこととなります。</p> <p>このような家計のプロセスにおいて前提になるのは、生活設計、すなわち現在や将来に対する望ましい生活像を描き、そのような生活はどのような条件・状況のもとで実現可能かを考え、目的達成のため、具体的計画を立てることです。将来の目標を達成するためには、現在から将来にかけての暮らし方を考えるだけではなく、将来から逆に現在までの暮らしをたどり、現在の時点で何をしておくべきかを考えることが大切になってくるのです。</p> <p>こういった生活設計をしやすくするために、通常、ライフステージを考えます。すなわち人の一生をいくつかの段階に区切って考えるのです。たとえば、人の誕生から成長発展の過程について、乳児期、幼児期、児童期、少年・少女期、青年期、労働期、引退期と分けたり、また準備期、順応期、蓄積期、両親期、再発見期、引退期と分けたりします。そして、それぞれのライフステージでの生活課題を予見し検討することによって、より具体性のある生活設計をして1回限りの人生を意義あるものにしようとするのです。</p> <p>そして、それを実現するために、合理的・効率的な家計（キャッシュ・フロー、資産・負債）管理や資産設計という技術が必要になり、そのための知識が必須となるのです。また、その際に税金や社会保険に関する知識も必須となるのはいうまでもありません。</p> <p>さらに、家計をとりまく経済状況や金融情勢についても正確な理解と判断力が求められるようになります。経済については、右肩上がりの成長の時代が終わり、雇用情勢の悪化や賃金の低下、また社会保障の後退による負担増給付減などによって収入は減り、家計は支出削減を迫られています。一方で、養育費や教育費はかさむばかりでそれが出生率低下、少子高齢化社会の加速の一因になっています。さらに、貯蓄率の低下や個人破産の急増が目立つようになってきました。</p> <p>また、1990年代に発生した不良債権問題、金融危機が引き金となったゼロ金利、ペイオフ問題、金融再編など、家計の資産運用にとってはリスクの高まりとともに、リターンをあまり期待できない非常に厳しい時代になっています。こうした家計をとりまく困難な状況を理解すると共に、このような状況の中で家計はどのような対応をするべきなのかを問われています。あるいはかつてなく将来不安に直面した家計には、なにがどこまでできて、なにができないのかを正しく認識する必要があります。</p> <p>以上の視点から、1) 家計における金融の役割とその活用のための知識、2) 家計から見た日本の経済・金融とその家計への影響について講義を展開し、みなさんの家計と金融についての理解を深めてもらいたいと考えています。</p>
授業方法：	<p>授業は全て講義形式でおこない、毎回、講義資料を配付します。授業は基本的には以下の流れで行う予定です。</p> <p>[1] 前回講義の復習および質問に対するリプライ [2] 講義 [3] 授業内容等に関する質問票提出</p>
履修の留意点：	必ずしも前提とはしませんが、関連する科目として「金融論」、「財政学」、「労働経済論」、「社会保障論」、「福祉政策」等を履修していると学習効果は高まるでしょう。
目標と評価：	<p>[目標] [1]家計と金融についての基礎的な知識を獲得する [2]生活設計、家計（キャッシュ・フロー、資産・負債）管理、資産設計の意義を理解する [3]現在、家計をとりまく諸条件すなわち経済状況、金融の最新動向について理解し、それに家計はどのように対応するべきか自分自身の見解を確立する</p> <p>[評価] 期末試験の結果に、質問票に対する評価などの平常点を加味して評価します。 評価の配点は以下のとおりです。 [1]平常点(10%) [2]試験(90%)</p>
教科書：	
参考書：	『暮らしと金融なんでもデータ』 渡辺孝監修 金融広報中央委員会 2005年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「社会保障論」（担当者：南雲 智映）の履修の手引き

科目名：	社会保障論
担当者：	南雲 智映
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	初めの数回の講義では社会保障の意義、役割、基本的な考え方を学ぶ。そのあと、日本の社会保障制度（医療保険、生活保護、社会福祉制度、介護保険、年金、雇用保険など）の概要を整理し、高齢化と財政の問題などこれから日本の社会保障が直面する問題点を解説する。また日本の社会保障制度の変遷をその時代背景とともに解説する。
授業方法：	講義形式を基本とする。これに加えて、履修者に課題を出すことがある。課題はたとえば、データや制度内容の分析のほか、全員参加型のディスカッションで行うこともある。また、日本に生活する個人の立場からは、生活設計を行うにあたって、社会保障制度の動向を捉えておく必要がある。それゆえ、履修者自身が、社会保障制度の現状・課題を考慮に入れた上、で自分の将来設計を考えていくような時間を取りたい。
履修の留意点：	この講義は、受講者が初めて社会保障を体系的に学ぶ人であることを想定しているため、社会福祉士などの資格試験を考えている人にとっては、この講義の内容だけでは少し不足だと思う。そのような人たちには別途、相談に乗る。
目標と評価：	第一に、日本の社会保障制度を体系的に理解するとともに、その背後にある考え方も理解することを目標とする。第二に、社会保障の学習を通して受講者自身の将来を見直してもらうことを目標とする。評価は期末試験を基本とするが、授業時に出題する課題の得点状況も加味する。定期レポート等はなし。
教科書：	平成18年版 社会保障入門 社会保障入門編集委員会 中央法規出版 2006年3月（予定）
参考書：	はじめての社会保障－福祉を学ぶ人へ－（第3版） 棕野美智子、田中耕太郎 有斐閣アルマ（Basic）2005/02

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代消費論」（担当者：三村 光代）の履修の手引き

科目名：	現代消費論
担当者：	三村 光代
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	消費生活及び消費者問題について学ぶ。その中から自己責任時代の消費者の権利と役割及び責務について考える。さらに消費者被害発生メカニズムを分析。
授業方法：	<ol style="list-style-type: none"> 1. 消費者問題の基礎 2. 消費者運動の歴史と現状 3. 消費者被害の発生とメカニズム 4. 最近の消費者問題 5. 事業者活動と消費者問題 6. 環境とエネルギー問題 7. 裁判所とのかかわり 8. その他
履修の留意点：	<p>必要に応じパンフレットや資料をコピーして使用する。</p> <p>教科書：（下記記載のもの2冊） ハンドブック消費者2005 内閣府国民生活局</p>
目標と評価：	期末テストとレポートの提出及び出席状況 発価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。
教科書：	消費生活論 （社）日本衣料管理協会刊行
参考書：	くらしの豆知識 国民生活センター

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「環境と開発」（担当者：沼田 郷）の履修の手引き

科目名：	環境と開発
担当者：	沼田 郷
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	我々人類の歴史は、そのまま開発の歴史と言い換えても過言ではない。開発を行うことは、自然状態に何らかの手を加えることを意味している。このように考えると、人類の歴史は常に開発と環境の問題を抱えてきていると言える。 20世紀は成長の世紀と言われるほど、我々の生活は少なくとも物質的には便利に豊かになった。その意味においては、20世紀の「開発」は成功したと言って良い。しかしながら、我々の生命を根底から支える食料、水、大地、大気などは危機的状況にあり、20世紀型の「開発」に対して地球環境が警告を発している。つまり、20世紀型の開発を今後も継続して行うことはできないということである。したがって、20世紀型にかわる21世紀型の開発が必要とされているのである。しかしながら、「開発」と「環境」とが両立しにくい難しい問題であると世界的に認識されたのは、ここ数十年のことである。我々が考察すべき問題は、自然が持っている自浄能力もしくは再生能力を著しく越えて開発が行われた点にこそある。そこで、本講義では「開発」と「環境」の両立を困難にしている諸問題を明らかにする。また、この古くて新しい問題にこれまでどのように対応してきたのかを世界と日本の事例を交えて考察し、21世紀に我々が進むべき道をみなさんと一緒に模索してみたい。
授業方法：	基本的な講義は、パワーポイントを用いて行う。また、必要に応じてビデオなどの映像を用いた講義も行う予定である。さらに、今日の「開発」、「環境」の実態を把握していただくために統計を多用する。皆さんの理解と疑問点の解消を目的として、講義中に小レポートを提出していただくことも検討している。講義中にホームページなどを参照していただくことがあるので、ノートパソコンを必要とする。
履修の留意点：	「開発」と「環境」というテーマは、我々にとって身近な問題であるにもかかわらず、こうした研究はまだまだ始まったばかりと言えます。ですから、みなさんの周囲で起きていることすべてがテキストであり、研究課題になると言ってよいでしょう。ですから、本講義では皆さんの興味・関心が重要になってきます。視野を広げて、日々のニュースを見てください。講義では「開発」に関する初歩的な理論を扱いますが、高等数学などを必要とするものではありませんのでご安心ください。教科書は特に指定しませんが、講義開始までに読むことをお勧めする参考図書をいくつか挙げておきます。また、より専門的な知識を得たいと考える諸君には講義中にも参考図書を紹介します。最後に、あたりまえのことですが、私語や他人に迷惑をかける行為に関しては、即刻退室していただきます。さらに、遅刻や居眠りなどもチェックします。最後に、携帯電話の使用はその一切を禁止します。
目標と評価：	目標 これまでの「開発」（特に20世紀型の「開発」）がどのようなものであったのかを理解すること。これからの「開発」に欠かすことのできない「環境」というファクターを認識し、今後どのような「開発」を行っていくべきかを考える基本的知識を身につけること。 これらの知識を習得することによって、21世紀のキーワードである「環境」に対して深い関心と考え方の基礎を見につけていただく。 評価 基本的には平常評価で行うが、最終講義の際に小試験か小レポートを課す。
教科書：	
参考書：	環境と開発 宮元憲一 岩波書店 1992年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「食糧経済論」（担当者：内藤 勝）の履修の手引き

科目名：	食糧経済論
担当者：	内藤 勝
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	人は、食料を食べて生きている。その食料は、国、地域、場所によって異なる。時代によっても、異なる。農業経済学では、生産に重点をおいた。ここでは、食べる、料理、流通、加工と言った点を講義したい。
授業方法：	講義、ビデオ等を活用して、講義する。
履修の留意点：	特に無し。
目標と評価：	期末にレポートによる。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「労働と余暇の経済学」（担当者：戎野 淑子）の履修の手引き

科目名：	労働と余暇の経済学
担当者：	戎野 淑子
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	今日、労働を取り巻く環境は大きく変化し、「働き方」も多様化している。また、それに伴い、様々な問題も発生してきた。そこで、この講義では、まず労働経済について理論的な理解を深め、その後今日生じている変化およびその背景である経済・社会的環境について学ぶ。さらに、労働基準法やILOなど諸制度や仕組みについても、明らかにしていく。
授業方法：	講義形式で行う
履修の留意点：	春学期の「日本企業と雇用システム」を受講していることが望ましい。
目標と評価：	原則として中間試験、期末試験によって評価するが、授業態度など平常点も考慮する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「土地・住宅経済学」（担当者：恵藤 晃朗）の履修の手引き

科目名：	土地・住宅経済学
担当者：	恵藤 晃朗
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	私の時間は教える（ティーチング）ではなく、その人の住宅経済に対する能力をひき出すよう指導（コーチング）するものである。私は学者ではない、住宅業界で身をもって体験した実務（人材開発）実学をお話し申し上げたいと思っております。 衣食住という基本的なもののうち、「住」これは人にとって生活の場であり、コミュニケーションの場でもある。 講義は日本の住宅メーカーがどのような人間を育て求めているか土地・住宅問題を主として、住宅メーカーの動き、土地の有効利用、規制緩和、住宅税制の現状と課題を考えていく、その為に住宅の歴史、材料というものを考えていかななくてはならないので生活という視点から土地・住宅経済学をスタートさせていく
授業方法：	講義中心の授業であるが授業中テーマを与え討論してもらう場合もある、これは人の意見に耳をかたむける訓練（ヒアリング）でもある。 はじめに ①、② 特に土地というものの考え方と木（材料）は住宅の基礎となるので学習する。 ③、④ 住宅の歴史にふれ、戸建の在来工法住宅、プレハブ住宅、2×4工法住宅を学習する。 ⑤ 賃貸住宅、土地活用（日本の土地利用規制による生活空間の質確保） ⑥、⑦ 住宅金融と税制の返還 ⑧ 住宅物件の今後の方向性 プライバシーの質的变化、商品開発、住宅メーカーの価格方 策他 ⑨ インターネットの可能性、生産中心から消費者中心に移行していく問題点、住宅業界、建材業界のネット事業の実態 ⑩ 宅建材のリサイクル市場について資源循環型社会の実現化 ⑪ 住宅の資産価格について ⑫ 住宅建築の将来 高齢社会が進むにつれてバリアフリー住宅を考えねばならない、住む人の心のバリアフリーも大切である。 ⑬ 今後の住宅業界の課題について 総まとめ、将来住宅業界に進む学生へアドバイス、常に自分の考え方を主張出来るようにし、自分の魅力が十分発揮出来ると共に住宅業界で生きていく人物を育てる。（住宅メーカーの求めている人物とは・・・）。
履修の留意点：	土地・住宅経済学とむずかしく考える必要はない。 自分達がいかに快適に生活していくかが問題なのだから。 先づは人の話を聞く（リスニング）事からはじめるとよい。 数字、データ等はデータ集を見ればわかる、だが土地・住宅にたずさわの方々の心は、人と話し聞き、自分で感ずるしかない。
目標と評価：	この授業を受講した学生しょくくんは、人の話を聞く姿勢を学び、住宅業界用語を理解し、自己主張が出来、相手に感動を与える表現が自然に身につく事を望みます。 評価については ・ 出席および議論における積極性 ・ 中間レポート ① 我国の住宅税制について ② 私にとって住宅とは・・・ 上記の①②のいずれかを選び春期末までに提出すること
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「土地・住宅経済学」（担当者：恵藤 晃朗）の履修の手引き

科目名：	土地・住宅経済学
担当者：	恵藤 晃朗
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	私の時間は教える（ティーチング）ではなく、その人の住宅経済に対する能力をひき出すよう指導（コーチング）するものである。私は学者ではない、住宅業界で身をもって体験した実務（人材開発）実学をお話し申し上げたいと思っております。 衣食住という基本的なもののうち、「住」これは人にとって生活の場であり、コミュニケーションの場でもある。 講義は日本の住宅メーカーがどのような人間を育て求めているか土地・住宅問題を主として、住宅メーカーの動き、土地の有効利用、規制緩和、住宅税制の現状と課題を考えていく、その為に住宅の歴史、材料というものを考えていかななくてはならないので生活という視点から土地・住宅経済学をスタートさせていく
授業方法：	講義中心の授業であるが授業中テーマを与え討論してもら場合もある、これは人の意見に耳をかたむける訓練（ヒアリング）でもある。 はじめに ①、② 特に土地というものの考え方と木（材料）は住宅の基礎となるので学習する。 ③、④ 住宅の歴史にふれ、戸建の在来工法住宅、プレハブ住宅、2×4工法住宅を学習する。 ⑤ 賃貸住宅、土地活用（日本の土地利用規制による生活空間の質確保） ⑥、⑦ 住宅金融と税制の返還 ⑧ 住宅物件の今後の方向性 プライバシーの質的变化、商品開発、住宅メーカーの価格方 策他 ⑨ インターネットの可能性、生産中心から消費者中心に移行していく問題点、住宅業界、建材業界のネット事業の実態 ⑩ 宅建材のリサイクル市場について資源循環型社会の実現化 ⑪ 住宅の資産価格について ⑫ 住宅建築の将来 高齢社会が進むにつれてバリアフリー住宅を考えねばならない、住む人の心のバリアフリーも大切である。 ⑬ 今後の住宅業界の課題について 総まとめ、将来住宅業界に進む学生へアドバイス、常に自分の考え方を主張出来るようにし、自分の魅力が十分発揮出来ると共に住宅業界で生きていく人物を育てる。（住宅メーカーの求めている人物とは・・・）。
履修の留意点：	土地・住宅経済学とむずかしく考える必要はない。 自分達がいかに快適に生活していくかが問題なのだから。 先づは人の話を聞く（リスニング）事からはじめるとよい。 数字、データ等はデータ集を見ればわかる、だが土地・住宅にたずさわの方々の心は、人と話し聞き、自分で感ずるしかない。
目標と評価：	この授業を受講した学生しょくんは、人の話を聞く姿勢を学び、住宅業界用語を理解し、自己主張が出来、相手に感動を与える表現が自然に身につく事を望みます。 評価については ・ 出席および議論における積極性 ・ 中間レポート ① 我国の住宅税制について ② 私にとって住宅とは・・・ 上記の①②のいずれかを選び春期末までに提出すること
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「高齢化社会論」（担当者：熊迫 真一）の履修の手引き

科目名：	高齢化社会論
担当者：	熊迫 真一
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	急速な高齢化は日本社会に大きな変化をもたらしている。この講義では、まず日本の高齢化がどのような原因で、どれくらい進行しているのかを解説する。その後、高齢化に伴う家族、労働、余暇、年金、医療、介護、世代間コンフリクト等の諸問題を履修者の問題意識にあわせながら考察する。また、高齢化の進行度合いについて、国際比較も行う。
授業方法：	講義形式を中心とする。また、授業中に課題を出すなどし、講義内容の理解を深めてもらえるよう努める。
履修の留意点：	高齢化が日本の社会保障制度に与える影響を考察する内容もあるので、理解を深めるためには前期の社会保障論を履修していることが望ましいが、履修していなくても対応できるように配慮する。
目標と評価：	受講者各自が、これからも急速に進む高齢化が日本社会に与える影響を理解し、日本や諸外国の高齢化問題に対して自分なりの考え方を持つようになることを目標とする。 期末テストの点数による評価が主だが、課題への解答状況も加味して成績をつける。
教科書：	高齢社会白書 平成18年版 内閣府 財務省印刷局 2006年6月（予定）
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「環境経済論Ⅰ」（担当者：内藤 勝）の履修の手引き

科目名：	環境経済論Ⅰ
担当者：	内藤 勝
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	農業の原理は、リサイクルである。ところが、工業はその機能が無い。例えば、石油からナイロンを作る過程を考えたらい。まず、石油という資源を失う。製造過程で、大量の排ガス(高エントロピー)を環境に捨てる。これが公害の原因である。厳密に言えば、原油から石油に精製する過程からも高エントロピーは排出される。更に、ナイロン等の工業製品が捨てられ焼却される過程からも高エントロピーは生まれる。これ等が、環境の汚染、つまり公害の発生源だと言ってよい。経済学は、市場メカニズムにのったものしか評価できない。しかし、今後の社会では、排ガス等の高エントロピーをCO2税、環境税等によって課税し環境経済活動をエントロピー（エネルギーの汚す。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。
授業方法：	ビデオ等を利用しながら、講義をする。
履修の留意点：	なし
目標と評価：	○目標 自然・経済・生活の中から環境問題を考える。自然の視点より現代社会を観る。経済活動をエントロピー（エネルギーの汚れ）から分析する。 ○評価 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 レポートによる。
教科書：	物質循環とエントロピーの経済学 内藤勝 高文堂出版社 2004
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「環境経済論Ⅱ」（担当者：内藤 勝）の履修の手引き

科目名：	環境経済論Ⅱ
担当者：	内藤 勝
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	農業の原理は、リサイクルである。ところが、工業はその機能が無い。例えば、石油からナイロンを作る過程を考えたらよい。まず、石油という資源を失う。製造過程で、大量の排ガス(高エントロピー)を環境に捨てる。これが公害の原因である。厳密に言えば、原油から石油に精製する過程からも高エントロピーは排出される。更に、ナイロン等の工業製品が捨てられ焼却される過程からも高エントロピーは生まれる。これ等が、環境の汚染、つまり公害の発生源だと言ってよい。経済学は、市場メカニズムにのったものしか評価できない。しかし、今後の社会では、排ガス等の高エントロピーをCO2税、環境税等によって課税し環境経済活動をエントロピー（エネルギーの汚す。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。
授業方法：	ビデオ等を利用しながら、講義をする。
履修の留意点：	なし。
目標と評価：	○目標
教科書：	物質循環とエントロピーの経済学 内藤勝 高文堂出版社 2004
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「地域研究Ⅰ」（担当者：飯田 治）の履修の手引き

科目名：	地域研究Ⅰ
担当者：	飯田 治
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>国際経済を学ぼうとする皆さんには是非知っておいて欲しい地域がアメリカと英、独、仏を中心とする西ヨーロッパです。</p> <p>冷戦終結後唯一の超大国として経済のグローバル化をリードするアメリカと、ルネッサンス、宗教改革、産業革命を生み近代精神と近代経済社会を築いた西ヨーロッパの伝統を基に、半世紀以上をかけて実現しつつある地域統合モデル、EUを、相互の歴史的関連を通して、それぞれの特徴を勉強して行きます。</p> <p>BRICSと呼ばれる新興経済大国（ブラジル、ロシア、インド、中国）も常に米欧との関係を視野に政策を進めています。日本も勿論同様です。それは、現在世界の経済を動かす実際上のルール（デファクト・スタンダード）が、元々、欧米が、そしてIT革命以後は特にアメリカが決めているという現実があるからです。</p> <p>前期の本講座では、歴史のエピソードを交え、易しく、人と社会、文化、地理、など多面的に、この地域を理解しようと試みます。日本との関係もキリシタンや鉄砲伝来から、日米修好通商条約（1858）以来の様々な曲折を概観することで、日本の立場への理解も深まります。</p> <p>アメリカと西ヨーロッパを勉強しながら、実は、日本の将来を考える・・・そんな講座にしたいと考えています。</p>
授業方法：	講義 および 討議とQ & A（各授業 後半15分程度） 教科書は使用しない。必要資料を配布することもある。
履修の留意点：	<p>教科書を使用しないので、出席が非常に大切です。</p> <p>アメリカと西ヨーロッパが対象の科目ですから、英語がよく出てきます。</p> <p>日頃から英語に興味を持つようにしてください。</p> <p>「歴史」といっても無味乾燥な年代を暗記するようなことは全くしません。</p> <p>大きな時代の流れが理解できればよいからです。</p> <p>新聞を読んでください。アメリカやEU関連の時事問題の話がよくでます。</p> <p>秋学期の「地域研究Ⅱ－経済の地域性と企業活動」を継続して履修することが望ましい。</p>
目標と評価：	<p>アメリカと西ヨーロッパについて一般的、基本的な知識を身につけ、自分の意見を構成できる。</p> <p>小テスト： 20% 討議： 20% 期末レポート： 60%</p>
教科書：	
参考書：	講義の中で必要に応じ紹介する

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「地域研究Ⅱ」（担当者：飯田 治）の履修の手引き

科目名：	地域研究Ⅱ
担当者：	飯田 治
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>現在世界の経済を動かしているモデルやルールは、基本的にアメリカと西ヨーロッパで生まれ、発展してきたものと言えます。日本や新興経済大国のそれも、大方はアメリカと西ヨーロッパ生まれのものをお手本に、地域の特性に合わせて展開しているのが実態です。</p> <p>本講座では、両地域の地理の基本的知識を習得し、それぞれの地方の特性が生み出す経済活動、そこで実際に活動する企業の姿を勉強することにより、アメリカと西ヨーロッパをよりよく理解しようと試みます。たとえば、ピッツバーグはなぜアメリカの鉄鋼業の中心となったのか？、シテイって何？、ダイムラー・クライスラーというのはどこの会社？などという疑問に答えられるだけでなく、そこに暮らし、働く人たちが、企業の特徴なども合わせて学びます。</p> <p>いわゆるお手本を概観する過程で、日本経済の問題点、将来への課題が浮き彫りになるよう日本との対比も織り込んだ講座にしてゆきたいと考えています。</p>
授業方法：	講義 および 討議と Q&A（各授業 後半15分程度） 教科書は使用しない。必要資料を配布することもある。
履修の留意点：	<p>教科書を使用しないので、出席が非常に大切です。</p> <p>時々、現地の新聞記事などから講義のテーマを持ってくることもあります。英語は将来ゼミナールで国際経済を研究する場合も大変役立ちます。日頃から英語に興味を持って勉強しよう心がけてください。</p> <p>新聞は毎日目を通すようにしてください。時事問題がよく取り上げられるはずです。</p> <p>「地域研究Ⅰーその成り立ちと相互の関係」の履修者は是非履修してください。</p>
目標と評価：	<p>経済の地域性とそこでの企業活動の特徴について基本的知識を身につけ、自分の意見を構成できる。</p> <p>小テスト：20% 討議：20% 期末レポート：60%</p>
教科書：	
参考書：	講義の中で必要に応じ紹介する

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ボランティア論」(担当者:内田 和夫)の履修の手引き

科目名:	ボランティア論
担当者:	内田 和夫
設置学期:	春
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	<p>1995年の阪神淡路震災は未曾有の被害をもたらしたが、ボランティア元年とも呼ばれる。120万とも150万ともいわれるボランティアが被災地で救援や復興支援の活動に乗り出したからである。それから10年、ボランティアはますます注目される活動となってきている。</p> <p>なぜか。人に対して人でありたいという願い、どうあつたら人と人の関係といえるのかの模索が広く行われるようになったからであると考えている。</p> <p>学生諸君のこれからの一生を考えた時、なんらかの形でボランティアと関わらないことはないように思える。もちろん、現時点でそれを積極的に評価する諸君がいる一方で、否定的な見解をもつ諸君もいることとおもう。ボランティアをしないという諸君もいるとおもう。</p> <p>この「ボランティア論」はさまざまなボランティア活動の実際に諸君に触れてもらい、ボランティア活動が何を生み出す営みなのかを受け止める中で、自分なりのボランティアについての根拠のある見解を築くことをねらいとしている。受講の結果、より積極的にボランティアに取り組む諸君も現れるし、自分のやりたいことがボランティアではないことに気づく諸君もいる。根拠のあるいい考察として自分の考え方を深めることが目的である。</p> <p>そのためもあり、徹底的にいっしょに考える脱講義型の講義スタイルで講義は進む。</p> <p>紹介を予定しているボランティア活動の領域は、①迷い犬とボランティア②大災害とボランティア③医療協力とボランティア④識字とボランティア⑤不登校とボランティア⑥障害者介護とボランティア⑦IT被害とボランティア⑧病院ボランティア、である。</p> <p>講義の章立ては以下の構成となる予定である。(1) どうしてボランティア、(2) ボランティア活動のエッセンスシャルズ、(3) ボランティアはやさしいもの、むずかしいもの、(4) ボランティアが生み出すもの、(5) ボランティア社会は夢か?</p>
授業方法:	<p>①講義の特徴は上記のねらいを実現するため、A) 応答型かつB) 読み書き重視型、であることである。活動記録やゲストやビデオとの応答を受講者自身が行い、書かれたものに教員がコメントするという作業を重ねる中で、自身の考え方を深めていくことになるスタイルである。</p> <p>②そのためC) 実質出席重視型である。単に出席するだけでなく、受講生諸君が自ら理解と考察をすることで意味が出てくる。8割以上の出席をしないと、考えが深まらないことに留意されたい。</p> <p>③講義の基本スタイルを示すと、(1) 実例との出会い(ルポ、著作、ゲスト、ビデオなど) (2) 発題への回答、(3) 受講者同士の応答、(4) 教員の応答、がセットとなって進む。</p> <p>④ゲスト・スピーカーが今期も3回登場する予定である。</p> <p>⑤読書レポート 2冊ないし3冊の読書レポートがある。5000円程度本代が必要。</p> <p>⑥1日ボランティア体験の機会を提供する予定である。</p>
履修の留意点:	<p>①上記のねらいと方法の講義である。考える楽しさを味わえるはずである。教室にすわったら「今日もかんがえるぞ」という姿勢できてほしい。寝ているヒマがない講義であることを踏まえてほしい。</p> <p>②特に予備知識を必要としないが、取り組んだだけ人間や社会に対する考えの深まりを体験できるしかけとなっている。</p> <p>③新カリキュラムの2年生諸君には秋学期に『ボランティア実習』の特設を検討している。特設される場合は、この『ボランティア実習』が前提履修の科目となる。</p>
目標と評価:	<p>①目標は上に述べたとおりである。</p> <p>②出席点を24点以上採る事を心がけてほしい。講義スタイルの性格上、出席が悪いと理解の深まりが体験できないからである。</p> <p>③評価点は、講義内のレポート作成、読書レポート、を中心に行う予定である。いくつかの基準による加点と減点を行うが、その基準は講義内の説明する。</p>
教科書:	
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「財政学」（担当者：大澤 覚）の履修の手引き

科目名：	財政学
担当者：	大澤 覚
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>「大きな政府」とか「小さな政府」といいますが、それぞれの国を細かく見ると、どの国でも国や地方の政府の経済活動が次第に比重を増してきて、今日では4割から6割を占めるようになってきているのがわかります。資本主義経済とはいうものの、政府の役割や資金の使われ方をよく知らない、じつはその国の経済そのものもよくわからないというのが実情です。</p> <p>同時に、政府は行政機関ですから、その資金は、民間の営利活動と比べて非常に政治的意味をもって使われます。たとえば、日本では、国家財政だけでも80兆円以上もの資金がその時々々の政治判断のもとに使われています。</p> <p>この講義では、民間の経済活動と並んで存在する巨額の資金が、どういうふうを集められ、どういう手続きや目的・意味をもって使われているかの把握をつうじて、政治や社会と経済のあり方を考えます。</p>
授業方法：	<p>「財政とは、どうあるべきものか、どう見るべきものか」ということを主眼に講義します。講義の順序は、大筋で「経費－予算－租税－公債－財政と金融」という順です。</p> <p>財政にかかわる大きな出来事や話題があれば、その都度取り上げます。</p>
履修の留意点：	<p>自分の考え（イデオロギー）をもてるように努力してください。これは独断（ドグマ）とは違います。そのためには、大学で勉強する意味やそのありがたさを考え、見通しをもって20年先（たとえば親の年齢になったとき）を考えて勉強してください。</p> <p>新聞を毎日読んで、必要なところや興味のあるところは切抜きを作ってみてください。できれば、複数の新聞を読んでください。図書館にもあります。各政党のビラやチラシなども有効です。</p> <p>秋学期の「地方財政学」も続けて履修してください。「国と地方は別」と思い込んでいる人が多いのですが、実際には、「国の政策や資金が地方財政をつうじて執行されていくことが多い」のです。</p>
目標と評価：	<p>目標は、いろいろな問題を「財政問題として考える」目を養うことです。</p> <p>評価は、学期末試験、出席によります。</p>
教科書：	* テキストを作成中ですが、場合によっては、プリントを用意します。頒布方法は未定。
参考書：	講義の中で紹介します。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本企業と雇用システム」（担当者：戎野 淑子）の履修の手引き

科目名：	日本企業と雇用システム
担当者：	戎野 淑子
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	「働く」ということを通じて、人間は生活し、さらに社会を形成し発展させてきた。つまり、労働は、人間にとって基本的で非常に大切な営みである。そして、今日、従来まで安定的であった日本的雇用関係が、様々な諸条件の変化により近年崩れつつあり、大きな動揺が生じている。そこで、この講義では、日本社会における労働、特に「雇用」に関する具体的な仕組み（採用、労働時間、賃金、教育、評価・昇進、退職など）や制度について理解し、現在の変容について検討を行う。
授業方法：	講義形式で行う
履修の留意点：	秋学期の「労働と余暇経済学」とあわせて受講するとよい。
目標と評価：	成績は、原則として中間レポートと期末試験によって評価するが、平常点も考慮する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「人口論」（担当者：早瀬 保子）の履修の手引き

科目名：	人口論
担当者：	早瀬 保子
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	2004年の国連推計によると、21世紀中葉には世界人口は90億人余りとなる見通しで、その8割を占める途上国の人口爆発と食糧・資源・環境問題は、緊急で重要な課題として、国際的に関心が高まっています。本科目では世界の人口問題について、日本と先進・途上諸国と対比しながら、人口の基礎的な知識を習得し、初歩的な人口用語やその分析方法について学びます。 主な講義内容は以下のとおりです。（1）人口問題とは何か、人口学の対象領域、（2）世界の人口問題のビデオ鑑賞と討論、討論、（3）日本の人口問題、（4）世界の人口動向：途上地域と先進地域、（4）人口の規模とその変動、（5）人口構造、（6）出生率の動きとその要因（7）家族計画について、中国の一人っ子政策のビデオ鑑賞と討論、（8）死亡率とHIV/AIDS、（9）国際人口移動—外国人労働力と難民—、（10）国内人口移動—移動力の上昇と低下—、（11）人口都市化—巨大都市人口集積地の形成—、（12）人口変動の将来—人口安定社会に向けて—、（13）まとめ
授業方法：	授業は原則として講義の形をとりますが、テーマによっては受講者に課題を与え、各人が調べたことを発表してもらい場合もあります。また人口問題に関するビデオの利用、資料配布なども行い、学生がこれら課題について発表していただきます。
履修の留意点：	履修の条件はありませんが、課題を出しますので、積極的に取り組む学生、知的好奇心が旺盛な学生の履修を望みます。
目標と評価：	この授業を履修した学生は、①人口現象を統計的に把握する方法とデータの読み方について基本的技術を身に付けること、②人口現象が社会経済的にどのような意味を持ちうるのかを考えるフレームを身に付けることが期待されています。 評価点は、学期末の試験結果（6割）、課題の提出状況と質問や発言などを含む授業での態度（4割）などを加味して算出します。
教科書：	（続）人口でみる世界 大友篤 古今書院 2006年
参考書：	アジアの人口—グローバル化の波の中で 早瀬保子 日本貿易振興機構アジア経済研究所 2004年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「地方財政学」（担当者：大澤 覚）の履修の手引き

科目名：	地方財政学
担当者：	大澤 覚
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	日本には2000を超える自治体があります。この中には、東京都のように人口1000万人、予算規模6兆円の大規模な自治体もあれば、人口200人、予算規模10億円程度の東京都青ヶ島村のような小自治体もあります。この講義では、これらの自治体の財政の実態や問題点などについて勉強します。
授業方法：	「財政とは、どうあるべきものか。どう見るべきものか」ということを主眼に講義します。講義の順序は、テキストによって、大筋で、第Ⅰ編第1・2・9・3・4・5・6・7・8・10章、第Ⅱ編第1・6・4章の順にすすめます。地方財政にかかわって大きな出来事や話題があれば積極的にとりあげます。
履修の留意点：	自分の考え（イデオロギー）をもてるように努力してください。これは独断（ドグマ）とは違います。そのためには、大学で勉強する意味やそのありがたさを考え、見通しをもって20年先（たとえば親の年齢になったとき）を考えて勉強してください。ふだんから、いろいろな問題を「どのように財政とかかわるか」と考えてみてください。春学期の「財政学」を合格していない人や、ついでに履修するということでは、脱落したり、意味がわかりにくかったりするでしょう。
目標と評価：	この講義の目標は、自治体の財政分析をできるようになること、国と地方の財政関係や地方財政を読めるようになることです。評価は、学期末試験・出席によります。
教科書：	現代の地方財政[第3版] 和田八束・星野泉・青木宗明編 有斐閣 2004年
参考書：	その都度、講義の中で紹介します

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「証券論」（担当者：堀内 健一）の履修の手引き

科目名：	証券論
担当者：	堀内 健一
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>本講義では、証券の種類、証券取引のしくみ、仲介者である証券会社などの業務などについて、証券業の実務面の立場から講述し、理解することをねらいとしています。</p> <p>では、まず証券とは何でしょうか？どんな種類があるのでしょうか？証券市場における証券とは、財産権を表す有価証券としての株式、債券（社債、国債）などを指します。財産権を表すために発行された有価証券は、譲渡されることでその権利が譲渡先に移転するとともに換金される、すなわち流通することが特徴です。株式は、株式会社制度の発展に伴い出資の持分を表す有価証券として登場し、社債は会社の借金（債務）を、国債は国の借金（債務）を有価証券化したものです。そして、これらを購入して取得した者、すなわち出資者や資金の貸し手は配当金や利子を受け取ることができるのです。</p> <p>では、証券市場とは何でしょうか？証券市場は株式市場と公社債市場からなっていて、公社債市場は、公共債市場（国債、地方債など）と民間債市場（社債など）とに分けられています。そして、それぞれの市場で証券の発行市場と発行済みの証券が売買される流通市場があるのです。いわゆる間接金融（銀行）優位の構造により戦後の日本の証券市場の発達には遅れてきましたが、1975年以降の国債の大量発行にもなつて国債の流通市場が急拡大することで証券市場全体が拡大してきたという経緯があります。</p> <p>では、証券市場で証券会社はどのような業務を行っているのでしょうか？金融を資金融通としてとらえる、すなわち資金供給者から資金需要者への資金の流れを金融と見なした場合、金融は、銀行の預金貸付業務を通じた資金の流れ（間接金融）と、証券の発行・取得、流通という市場での証券取引を通じた資金の流れ（直接金融）とに大別することができます。証券業とは、資金の出し手と取り手との間を証券によって仲介する業者をさし、それを専門的にいとなむ業者が証券会社です。したがって、証券会社は直接金融を仲介するのです。証券業の業務は、1) 発行市場関係と2) 流通市場関係に大別され、さらに前者は①有価証券の引受と売出（アンダーライター業務）、②有価証券の募集・売出の際の分売（セリング業務）に、後者は③他人の証券売買等の仲介（ブローカー業務）、④自ら計算しリスクを負う証券売買（ディーリング業務）に大別されます。</p> <p>こうした証券会社の本来業務の他に付随業務や兼業業務があり、これらには信用取引や金利、為替スワップなどの証券以外のデリバティブ取引のほか、M&A、資産の証券化、未公開株ファンドの組成など、広く投資銀行業務とよばれる業務が含まれています。</p> <p>現在、証券市場は激動期を迎えています。従来、日本の証券会社はブローカー業務による委託手数料を主要な収益源とする収益構造を特徴としてきました。しかし、1990年代に入って日本版「ビッグバン」の一環として委託手数料が自由化され、業務・収益構造の多様化が避けられない経営課題となっています。さらに、大手銀行による本格的な証券業務への進出が展開されています。そうした中で1つ注目されたのが投資信託の残高を増加させることでありました。またインターネット取引の活発化、東証マザーズやジャスダックなどの新興市場が現れるなど、続々と新しい変化が起きています。</p> <p>さらに、リスクをとることを避けている個人投資家に証券市場への参加を促すべく証券仲介制度が開始され、他方、個人向け国債や社債、地方債のミニ市場公募債など個人をターゲットとする証券が発行されて、家計の金融資産を証券市場に取り込もうとする試みが官民一体となって行われています。</p> <p>以上の視点から、この講義では1) 証券の理論と制度についての基礎的な知識、2) 基礎知識を応用することでみえてくる金融の世界とりわけ証券市場で急速におこりつつある変化について展開していき、とかく敬遠されがちな証券への理解を深めてもらいたいと考えています。</p>
授業方法：	<p>授業は全て講義形式でおこない、毎回、講義資料を配付します。授業は基本的には以下の流れで行う予定です。</p> <p>[1] 前回講義の復習および質問に対するリプライ [2] 講義 [3] 授業内容等に関する質問票提出</p>
履修の留意点：	必ずしも前提とはしませんが、関連する科目として「金融論」、「資金調達・投資戦略論」、「事業創造論」等を履修していると学習効果は高まるでしょう。
目標と評価：	<p>目標と評価：</p> <p>[目標]</p> <p>[1] 証券の基礎的な理論・制度に関する知識を獲得する [2] 証券に関する知識がなぜ必要なのか、その意義を理解する [3] 証券市場における急速な変化、とりわけ家計の金融資産を証券市場に取り込もうとする試みなどに対し、どう対応するべきか自分自身の見解を確立する</p> <p>[評価]</p> <p>期末試験の結果に、質問票に対する評価などの平常点を加味して評価します。 評価の配点は以下のとおりです。 [1] 平常点 (10%) [2] 試験 (90%)</p>
教科書：	
参考書：	証券市場2005 社団法人 証券広報センター編 中央経済社 2005年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「簿記論Ⅱ（日商2級）」（担当者：大塚 俊仁）の履修の手引き

科目名：	簿記論Ⅱ（日商2級）
担当者：	大塚 俊仁
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	本講義は、「会計リテラシ」で学んだ知識を前提として、簿記についての知識と理解を深めていきます。具体的には、日商簿記検定2級の商業簿記の内容（特殊商品売買取引、株式会社会計、本支店会計、帳簿組織など）を学習することによって、より高度な簿記の理論と技術を身につけていきます。
授業方法：	本講義では記帳練習問題を通じて、簿記の理論と技術を学んでもらいます。したがって、授業は教科書で基本的な論点を説明した後、記帳練習問題を解いてもらうという方法で行います。簿記の学習は、講義の内容を頭で理解するよりも、数多くの記帳練習問題を解いて身体で覚えることが重要です。そのため授業中に小テストを行ったり、記帳練習問題を課題として提出してもらうこともあります。
履修の留意点：	本講義は、記帳練習問題を通じて簿記のしくみを学習しますので、授業には教科書の他に、電卓、赤ペンおよび定規を持参して下さい。簿記は積み重ねの学問です。1回でも欠席をすると授業がわからなくなることがあります。予習をする必要はありませんが、必ず復習をして下さい。なお、本科目は「簿記論Ⅰ」とセットになっている科目です。本科目を履修する学生は、必ず「簿記論Ⅰ」も履修して下さい。授業は「簿記論Ⅰ」と「簿記論Ⅱ」の両科目を履修していることを前提に行います。
目標と評価：	2006年2月の日商簿記検定2級の受験を目標とします。成績は、原則として定期試験の結果で評価します。
教科書：	完全合格のための日商簿記2級商業簿記テキスト 大原簿記学校 大原出版 2006/03
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「原価計算論Ⅰ」（担当者：前川 道生）の履修の手引き

科目名：	原価計算論Ⅰ
担当者：	前川 道生
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	複式簿記の基本原理である取引の範囲・取引の八要素（費用・収益・資産・負債・資本）、の認識及び会計処理（仕訳）を学び、製造業会計にをける工業簿記・原価計算を中心に問題集等を使用して、工業簿記の基本的な技術を習得する。日商簿記検定2級工業簿記・原価計算の範囲を学習する。
授業方法：	授業体系は、費目別原価計算（材料費・労務費・経費・製造間接費）、部門別原価計算、個別原価計算、総合原価計算、製造原価報告書の作成等を中心に授業を行う。
履修の留意点：	出席率100%を目指して欲しい。
目標と評価：	平成18年2月の日商簿記検定2級（工業簿記・原価計算）の受験を目指して学習する。
教科書：	演習 工業簿記 前川邦生（監修）井上行忠（著） 創成社
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「原価計算論Ⅰ」（担当者：前川 道生）の履修の手引き

科目名：	原価計算論Ⅰ
担当者：	前川 道生
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	複式簿記の基本原理解である取引の範囲・取引の八要素（費用・収益・資産・負債・資本）、の認識及び会計処理（仕訳）を学び、製造業会計にける工業簿記・原価計算を中心に問題集等を使用して、工業簿記の基本的な技術を習得する。日商簿記検定2級工業簿記・原価計算の範囲を学習する。
授業方法：	授業体系は、費目別原価計算（材料費・労務費・経費・製造間接費）、部門別原価計算、個別原価計算、総合原価計算、製造原価報告書の作成等を中心に授業を行う。
履修の留意点：	出席率100%を目指して欲しい。
目標と評価：	平成18年2月の日商簿記検定2級（工業簿記・原価計算）の受験を目指して学習する。
教科書：	演習 工業簿記 前川邦生（監修）井上行忠（著） 創成社
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「原価計算論Ⅱ」（担当者：前川 道生）の履修の手引き

科目名：	原価計算論Ⅱ
担当者：	前川 道生
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	複式簿記の基本原則である取引の範囲・取引の八要素（費用・収益・資産・負債・資本）、の認識及び会計処理（仕訳）を学び、製造業会計にける工業簿記・原価計算を中心に問題集等を使用して、工業簿記の基本的な技術を習得する。日商簿記検定2級工業簿記・原価計算の範囲を学習する。
授業方法：	授業体系は、費目別原価計算（材料費・労務費・経費・製造間接費）、部門別原価計算、個別原価計算、総合原価計算、製造原価報告書の作成等を中心に授業を行う。
履修の留意点：	出席率100%を目指して欲しい。
目標と評価：	平成18年2月の日商簿記検定2級（工業簿記・原価計算）の受験を目指して学習する。
教科書：	日商簿記過去問題集 大原簿記学校 大原簿記学校
参考書：	新検定簿記講義2級工業簿記 染谷・新井・岡本 中央経済社

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「原価計算論Ⅱ」（担当者：前川 道生）の履修の手引き

科目名：	原価計算論Ⅱ
担当者：	前川 道生
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	複式簿記の基本原理解である取引の範囲・取引の八要素（費用・収益・資産・負債・資本）、の認識及び会計処理（仕訳）を学び、製造業会計にける工業簿記・原価計算を中心に問題集等を使用して、工業簿記の基本的な技術を習得する。日商簿記検定2級工業簿記・原価計算の範囲を学習する。
授業方法：	授業体系は、費目別原価計算（材料費・労務費・経費・製造間接費）、部門別原価計算、個別原価計算、総合原価計算、製造原価報告書の作成等を中心に授業を行う。
履修の留意点：	出席率100%を目指して欲しい。
目標と評価：	平成18年2月の日商簿記検定2級（工業簿記・原価計算）の受験を目指して学習する。
教科書：	日商簿記過去問題集 大原簿記学校 大原簿記学校
参考書：	新検定簿記講義2級工業簿記 染谷・新井・岡本 中央経済社

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「財務諸表論」（担当者：飯野 幸江）の履修の手引き

科目名：	財務諸表論
担当者：	飯野 幸江
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>会計は、企業の経済活動を貨幣額で記録・計算・報告するシステムです。企業は、自らの経済活動の成果を「会計」という技法で作成された財務諸表（損益計算書や貸借対照表）を通じて明らかに報告します。したがって、会計は企業を運営していく上で不可欠なものといえます。本講義では会計の基礎知識を学ぶことにより、企業の経営活動において会計が果たしている役割を学びます。講義で取り上げる内容は、以下のものです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 企業と会計 2. 会計学の体系 3. 複式簿記システムと財務諸表 4. アカウンタビリティとステークホルダー 5. 会計制度 6. 会計公準と会計原則 7. 財務諸表 8. 損益分岐点分析 9. 職業会計人と監査 10. 国際会計基準 <p>最近、会計に関する諸問題がテレビや新聞で大きく取り上げられています。こうした会計の時事的な問題についても適宜、授業で触れていく予定です。</p>
授業方法：	<p>講義形式を中心としますが、学ナビを活用して、できるだけ双方向の授業を展開していく予定です。具体的には、授業中に学ナビのアンケート機能を使って会計に関するクイズ（テストではありません）をしたり、授業の最後の15～20分で、レポート機能を使ってその回の授業のポイントをまとめたものを課題として提出してもらいます。</p>
履修の留意点：	<p>毎回、パソコンを使って課題を提出してもらいますので、第1回目の授業からパソコンを持参して下さい。この授業は「経営と会計」（担当者：飯野）と同じ内容です。</p>
目標と評価：	<p>会計学の基本的な知識を修得するとともに、会計学の基本的な考え方を身につけることを目標とします。成績は、毎回の授業で提出してもらった課題（3割）と定期試験（7割）で評価します。</p>
教科書：	使用しません。
参考書：	第1回目の授業で紹介します。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「財務会計論Ⅰ」（担当者：前川 道生）の履修の手引き

科目名：	財務会計論Ⅰ
担当者：	前川 道生
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	財務会計は、株主・債権者・従業員・税務当局・取引先・消費者その他企業のステイクホルダー又は情報利用者に対して、当該企業の経営活動による財務情報内容を問題領域とする学問である。本講義では、現行財務会計の基礎構造を学習するため、「商法」、「証券取引法」および「法人税法」からなる企業会計基準について解説する。また、社会環境のめまぐるしい変化から生ずる新しい問題についても検討を加える予定である。
授業方法：	講義形式による授業を行うが、上場企業が公表している決算書類を用いて分析・検討を加える方法も取り入れたいと考えている。 講義内容は、主に以下のとおりである。 1. 財務会計の意義とフレームワーク 2. 財務会計の基礎理論 3. 株式会社の資本会計 4. 株式会社の資産評価 5. 財務諸表の作成基準
履修の留意点：	財務会計は、制度として社会的な規範に裏付けられた報告内容が義務づけられているため、簿記知識（取引の仕訳から損益計算書と貸借対照表が作成できる）のある学生の履修が望ましい。
目標と評価：	講義目標は、企業の会計責任者レベルの内容を予定している。 成績評価は、課題レポートの提出および小テストの総合評価による。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「財務会計論Ⅱ」（担当者：前川 道生）の履修の手引き

科目名：	財務会計論Ⅱ
担当者：	前川 道生
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	本講座は、現行財務会計の基礎構造を理解するために、企業会計原則および会計基準を解説し、社会環境のめまぐるしい変化から生ずる問題点について検討を加える。 特に、財務会計は「商法」、「証券取引法」および「法人税法」からなる企業会計の基準に準拠する部分があるため、講義は制度としての会計を中心に取り上げ、各テーマごとに解説する予定である。
授業方法：	講義形式で行うが、上場企業が公表している決算書類を参照しながら、分析・検討を加える方法を取り入れる予定である。 講義内容は、主に以下のとおりである。 1. 在外支店の外貨換算会計 2. 在外子会社の外貨換算会計 3. キャッシュ・フロー計算書 4. 税効果会計 5. 金融商品会計 6. リース取引の会計
履修の留意点：	財務会計は、制度として社会的な規範に裏付けられた報告内容が義務づけられているため、簿記知識のある学生の履修が望ましい。
目標と評価：	講義目標は、企業の会計責任者レベルの内容を予定している。 成績評価は、小テストおよび課題レポート提出による総合評価を考えている。
教科書：	財務会計の入門講義 菊谷正人・岡村勝義（編著） 中央経済社
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「管理会計論Ⅰ」（担当者：井上 行忠）の履修の手引き

科目名：	管理会計論Ⅰ
担当者：	井上 行忠
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	概要：複式簿記の基本原則である取引の範囲・取引の八要素（費用・収益・資産・負債・資本）、の認識及び会計処理（仕訳）を学び、製造業会計における工業簿記・原価計算を中心に問題集等を使用して、工業簿記及び原価計算の基本に基づいた応用的な技術を習得する。日商簿記検定2級・1級工業簿記・原価計算の範囲を学習する。
授業方法：	授業方法： 授業方法： 授業方法： 授業体系は、費目別原価計算（材料費・労務費・経費・製造間接費）、部門別原価計算、個別原価計算、総合原価計算、製造原価報告書の作成等を中心に授業を行う。また、標準原価計算、直接原価計算及び意思決定会計にあつては、特に重要な範囲であるため、多くの時間を割いて学習を行う。
履修の留意点：	履修の留意点： 出席率100%を目指して欲しい。
目標と評価：	目標と評価： 日商簿記検定2級・1級（工業簿記・原価計算）の受験を目指して学習する。
教科書：	教科書： とおるテキスト 日商簿記1級 工業簿記・原価計算（1）（Ⅰ） TAK出版
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「管理会計論Ⅱ」（担当者：井上 行忠）の履修の手引き

科目名：	管理会計論Ⅱ
担当者：	井上 行忠
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	概要：複式簿記の基本原則である取引の範囲・取引の八要素（費用・収益・資産・負債・資本）、の認識及び会計処理（仕訳）を学び、製造業会計にをける工業簿記・原価計算を中心に問題集等を使用して、工業簿記及び原価計算の基本に基づいた応用的な技術を習得する。日商簿記検定2級・1級工業簿記・原価計算の範囲を学習する。
授業方法：	授業方法：授業体系は、費目別原価計算（材料費・労務費・経費・製造間接費）、部門別原価計算、個別原価計算、総合原価計算、製造原価報告書の作成等を中心に授業を行う。 また、標準原価計算、直接原価計算及び意思決定会計にあつては、特に重要な範囲であるため、多くの時間を割いて学習を行う。
履修の留意点：	履修の留意点： 履修の留意点： 出席率100%を目指して欲しい。
目標と評価：	目標と評価：商簿記検定2級・1級（工業簿記・原価計算）の受験を目指して学習する。
教科書：	教科書：教科書 とおるテキスト 日商簿記1級 工業簿記・原価計算（1） TAK出版
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「税務会計論Ⅰ」（担当者：前川 邦生）の履修の手引き

科目名：	税務会計論Ⅰ
担当者：	前川 邦生
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	本講義では、税法全般の基礎的な租税法律主義・租税原則を歴史的に解明した上で、法人税法・租税特別措置法等の「別段の定め」を中心に、税務会計の基礎を理解することに主眼を置くものとする。企業会計で算出した利益を基礎として、先の「別段の定め」により、益金の額から損金の額を控除して、課税所得を算出する手続きを理解させる。法人税法(税法)上の特別な処理方法の解説と簿記・会計的な仕分けや会計処理の理解に努める。税法固有の専門用語の使い方、専門用語の理解に努める。
授業方法：	賦金の額－損金の額＝課税所得 の税務会計特有の「法人税法上のしくみ」を解説しながら、資料やレポートの課題で補いながら講義形式で進める。勿論、会計実務の例会演習問題もこなしながら理解度を進める。特に、別表四の作成の仕方等の解説も含める。
履修の留意点：	簿記原理・会計リテラシー・財務会計・税法等の科目を履修しているか同時に履修しているほうが望ましい。目標は将来、職業会計人として税理士・公認会計士を目指す受講生に役立つように指導を進めたい。意欲ある学生の受講を望みます。 参考書 書名：『法人税法－理論と計算－』 著者名：成松洋一 出版社名：税務経理協会 出版年：2005年7月10日
目標と評価：	税法の中に流れる、基本的概念、租税原則や租税法律主義、(基本的人権等)の理解を深めた上で、法人税法上の「別段の定め」を中心にたとえば、「受取配当金の益金不算入」問題や、税法特有の会計処理としての「圧縮記帳問題」別表四の作成の理解に主眼を置いて、本学のシステムに従い、期末試験・レポート・出席等で総合評価を行う。
教科書：	『法人税法要説』 菊谷正人 同文館出版 2004年3月
参考書：	『法人税法精説－平成18年版－』 武田隆二 森山書店 2006年4月

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「税務会計論Ⅱ」（担当者：前川 邦生）の履修の手引き

科目名：	税務会計論Ⅱ
担当者：	前川 邦生
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	本講義では、税法全般の基礎的な租税法律主義・租税原則を歴史的に解明した上で、法人税法・租税特別措置法等の「別段の定め」を中心に、税務会計の基礎を理解することに主眼を置くものとする。企業会計で算出した利益を基礎として、先の「別段の定め」により、益金の額から損金の額を控除して、課税所得を算出する手続きを理解させる。法人税法(税法)上の特別な処理方法の解説と簿記・会計的な仕分けや会計処理の理解に努める。税法固有の専門用語の使い方、専門用語の理解に努める。
授業方法：	賦金の額－損金の額＝課税所得 の税務会計特有の「法人税法上のしくみ」を解説しながら、資料やレポートの課題で補いながら講義形式で進める。勿論、会計実務の例会演習問題もこなしながら理解度を進める。特に、別表四の作成の仕方等の解説も含める。
履修の留意点：	簿記原理・会計リテラシー・財務会計・税法等の科目を履修しているか同時に履修しているほうが望ましい。目標は将来、職業会計人として税理士・公認会計士を目指す受講生に役立つように指導を進めたい。意欲ある学生の受講を望みます。 参考書 書名：『法人税法－理論と計算－』 著者名：成松洋一 出版者名：税務経理協会 出版年：2005年7月10日
目標と評価：	税法の中に流れる、基本的概念、租税原則や租税法律主義、(基本的人権等)の理解を深めた上で、法人税法上の「別段の定め」を中心にたとえば、「受取配当金の益金不算入」問題や、税法特有の会計処理としての「圧縮記帳問題」別表四の作成の理解に主眼を置いて、本学のシステムに従い、期末試験・レポート・出席等で総合評価を行う。
教科書：	『法人税法要説』 菊谷正人 同文館出版 2004年3月
参考書：	『法人税法精説－平成18年版－』 武田隆二 森山書店 2006年4月

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「連結会計論Ⅰ」（担当者：松井 泰則）の履修の手引き

科目名：	連結会計論Ⅰ
担当者：	松井 泰則
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>連結会計といえば、以前は、一部の大企業における高度な会計領域として考えられていたものですが、現在では、基本財務諸表といえば連結財務諸表を意味しています。企業はさまざまな目的から、いろいろな会社の株式を保有していますが、そこでは、多くの企業集団が形成されることとなります。こうした企業グループの経済的な実態を正しく表示しようとしたのが連結財務諸表です（これに対して一つの企業の財務諸表を個別財務諸表といいます）。連結会計論で主に中心に学ぶのがこの連結財務諸表です。</p> <p>この授業では、最初からすぐ連結財務諸表を取り上げることはしません。まずは日本経済の心臓部である資本市場（特に株式市場）について、経営者や株主などさまざまな角度から理解を深めます。そして連結財務諸表を学習するにあたっては、その構造を理解することに重点をおきますので、高度で複雑な計算例は極力避けながら、わかりやすく説明していきたいと思っています。</p>
授業方法：	講義形式です。前期と後期にレポート提出を予定しています。
履修の留意点：	<p>簿記と会計学の復習をきっちり済ませておくこと。 毎日の（例えば株式欄でもよいから）企業の動きに関心を持つこと。 教科書は、しっかりと読みこなしておくこと。特に巻末のビジネス必須用語は完全にマスターすること。</p>
目標と評価：	<p>この授業を受講した学生は、以下のことができるようになっているはずで、また、そうなるように学習することを望みます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 新聞にでてくるレベルの企業経済については正しく理解できる。 2 日本における現代の会計のしくみや状況、そして今どのような動きにあるのかが説明できること。 3 基本的な会計キーワードはしっかりマスターしていること。 <p>評価点は、以下の項目に加算方式で算出します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 出席点は基本評価とします。 2 中間ならびに学期末レポートを重視します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「連結会計論Ⅱ」（担当者：松井 泰則）の履修の手引き

科目名：	連結会計論Ⅱ
担当者：	松井 泰則
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>連結会計といえば、以前は、一部の大企業における高度な会計領域として考えられていたものですが、現在では、基本財務諸表といえば連結財務諸表を意味しています。企業はさまざまな目的から、いろいろな会社の株式を保有していますが、そこでは、多くの企業集団が形成されることとなります。こうした企業グループの経済的な実態を正しく表示しようとしたのが連結財務諸表です（これに対して一つの企業の財務諸表を個別財務諸表といいます）。連結会計論で主に中心に学ぶのがこの連結財務諸表です。</p> <p>この授業では、最初からすぐ連結財務諸表を取り上げることはしません。まずは日本経済の心臓部である資本市場（特に株式市場）について、経営者や株主などさまざまな角度から理解を深めます。そして連結財務諸表を学習するにあたっては、その構造を理解することに重点をおきますので、高度で複雑な計算例は極力避けながら、わかりやすく説明していきたいと思っています。</p>
授業方法：	講義形式です。前期と後期にレポート提出を予定しています。
履修の留意点：	<p>簿記と会計学の復習をきっちりと済ませておくこと。 毎日の（例えば株式欄でもよいから）企業の動きに関心を持つこと。 教科書は、しっかりと読みこなしておくこと。特に巻末のビジネス必須用語は完全にマスターすること。</p>
目標と評価：	<p>この授業を受講した学生は、以下のことができるようになっているはずで、また、そうなるように学習することを望みます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 新聞にでてくるレベルの企業経済については正しく理解できる。 2 日本における現代の会計のしくみや状況、そして今どのような動きにあるのかが説明できること。 3 基本的な会計キーワードはしっかりマスターしていること。 <p>評価点は、以下の項目に加算方式で算出します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 出席点は基本評価とします。 2 中間ならびに学期末レポートを重視します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「国際会計論Ⅰ」（担当者：松井 泰則）の履修の手引き

科目名：	国際会計論Ⅰ
担当者：	松井 泰則
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>会計と聞いただけで、「もう、簿記だけで手一杯。私には苦手科目だ」という人も少なくないかもしれませんが、ましてや「国際会計論」などという「とてもむずかしくてつまらなそうだ」と思う人が多いかもしれませんが、でもよく考えてみてください。そもそも皆さんが勉強してきた簿記も、実は明治時代にアメリカからはいつてきたもので、皆さんが勉強してきた簿記は、すでにビジネスにおける国際言語なのです。現在、世界各国の会社が公表している財務諸表は、ほぼ同じルール（会計基準）にしたがって作成されています。ですから、簿記を学び、会計学をきちんと学んだ後で、会計学をこんどは外国から逆に見つめなおしてみようというのが、この科目の大きな学習目的の一つです。</p> <p>国際会計に登場する、例えば財務諸表情報は確かに大変難しい内容を含んでおり、高度な計算知識がそこでは要求されます。しかしこの授業では、難しい計算問題は取り扱いません。それぞれの会計の意味するところをわかりやすくするために、つまりあくまでその内容をわかりやすくするための手段として簡単な計算例を活用することになります。</p> <p>国際会計を学びながら、ある意味での国際感覚も身に付けていただければと思っています。</p>
授業方法：	講義形式です。前期と後期にレポート提出を予定しています。
履修の留意点：	<p>日の世界の経済に関心を持つこと。</p> <p>教科書の「要点整理」の箇所は、しっかりと読みこなしておくこと。</p>
目標と評価：	<p>この授業を受講した学生は、以下のことができるようになっているはずです。また、そうなるように学習することを望みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞にでてくる（国際）経済、特に企業経済についてちゃんと理解できる。 ・世界の会計の状況が今、どのような動きにあるのかが説明できること。 ・基本的な会計キーワードは英語（単語）でマスターし、基本的な英文財務諸表は読めるようにすること。 <p>評価点は、以下の項目に加算方式で算出します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席点は基本評価とします。 ・中間ならびに学期末レポートを重視します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「国際会計論Ⅱ」（担当者：松井 泰則）の履修の手引き

科目名：	国際会計論Ⅱ
担当者：	松井 泰則
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>会計と聞いただけで、「もう、簿記だけで手一杯。私には苦手科目だ」という人も少なくないかもしれませんが、ましてや「国際会計論」などという「とてもむずかしくてつまらなそうだ」と思う人が多いかもしれません。でもよく考えてみてください。そもそも皆さんが勉強してきた簿記も、実は明治時代にアメリカからはいってきたもので、皆さんが勉強してきた簿記は、すでにビジネスにおける国際言語なのです。現在、世界各国の会社が公表している財務諸表は、ほぼ同じルール（会計基準）にしたがって作成されています。ですから、簿記を学び、会計学をきちんと学んだ後で、会計学をこんどは外国から逆に見つめなおしてみようというのが、この科目の大きな学習目的の一つです。</p> <p>国際会計に登場する、例えば財務諸表情報は確かに大変難しい内容を含んでおり、高度な計算知識がそこでは要求されます。しかしこの授業では、難しい計算問題は取り扱いません。それぞれの会計の意味するところをわかりやすくするために、つまりあくまでその内容をわかりやすくするための手段として簡単な計算例を活用することになります。</p> <p>国際会計を学びながら、ある意味での国際感覚も身に付けていただければと思っています。</p>
授業方法：	講義形式です。前期と後期にレポート提出を予定しています。
履修の留意点：	<p>毎日の世界の経済に関心を持つこと。</p> <p>教科書の「要点整理」の箇所は、しっかりと読みこなしておくこと。</p>
目標と評価：	<p>この授業を受講した学生は、以下のことができるようになっているはずです。また、そうなるように学習することを望みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞にでてくる（国際）経済、特に企業経済についてちゃんと理解できる。 ・世界の会計の状況が今、どのような動きにあるのかが説明できること。 ・基本的な会計キーワードは英語（単語）でマスターし、基本的な英文財務諸表は読めるようにすること。 <p>評価点は、以下の項目に加算方式で算出します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席点は基本評価とします。 ・中間ならびに学期末レポートを重視します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「監査論Ⅰ」（担当者：山本 孝夫）の履修の手引き

科目名：	監査論Ⅰ
担当者：	山本 孝夫
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>会計監査の目的は、企業の作成した財務諸表が一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して作成されているか否かを監査人が意見表明することにより、財務諸表に対する社会の信頼性を高めようとするものである。</p> <p>この講義では、一部企業の不正問題の発生に伴い、その役割が重要視されていることから、会計監査の発展過程、監査制度、監査の社会的役割などを中心に取り上げ、受講者の理解を深めたい。</p>
授業方法：	授業は、講義形式で行う。
履修の留意点：	会計監査は、財務諸表の適正性についての意見表明を目的とするものであるから、簿記学、会計学、財務会計論および財務諸表論の講義を履修し、財務諸表について十分理解していることが望ましい。
目標と評価：	成績は、レポート課題の提出および学期末テストの総合評価とする。
教科書：	監査報告書の読み方 蟹江 章 創成社 2005
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「監査論Ⅱ」（担当者：山本 孝夫）の履修の手引き

科目名：	監査論Ⅱ
担当者：	山本 孝夫
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	会計監査の目的は、企業の作成した財務諸表が一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して作成されているか否かを監査人が意見表明することにより、財務諸表に対する社会の信頼性を高めようとするものである。
授業方法：	授業は、講義形式で行う。
履修の留意点：	会計監査は、財務諸表の適正性についての意見表明を目的とするものであるから、簿記学、会计学、財務会計論および財務諸表論の講義を履修し、財務諸表について十分理解していることが望ましい。
目標と評価：	成績は、レポート課題の提出および学期末テストの総合評価とする。
教科書：	監査報告書の読み方 蟹江 章 創成社 2005
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータ会計論Ⅰ」（担当者：大塚 俊仁）の履修の手引き

科目名：	コンピュータ会計論Ⅰ
担当者：	大塚 俊仁
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	今日の情報社会において、パソコンの役割はビジネスツールとしてどんどん広がっています。会社の経理業務においてもOA化する事により、転記や集計ミスがなくなり時間の短縮になる等、数多くのメリットがあります。授業内容としては、いかに効率よく利用者の目的にあったコンピュータ処理を行えるかという利用者の視点に立脚した、利用技術の習得を中心に行います。
授業方法：	講義及びパソコンを使用した実習
履修の留意点：	日商簿記3級程度の知識
目標と評価：	授業中の実習結果（印刷物）により評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータ会計論Ⅰ」（担当者：大塚 俊仁）の履修の手引き

科目名：	コンピュータ会計論Ⅰ
担当者：	大塚 俊仁
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	今日の情報社会において、パソコンの役割はビジネスツールとしてどんどん広がっています。会社の経理業務においてもOA化する事により、転記や集計ミスがなくなり時間の短縮になる等、数多くのメリットがあります。授業内容としては、いかに効率よく利用者の目的にあったコンピュータ処理を行えるかという利用者の視点に立脚した、利用技術の習得を中心に行います。
授業方法：	講義及びパソコンを使用した実習
履修の留意点：	日商簿記3級程度の知識
目標と評価：	授業中の実習結果（印刷物）により評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータ会計論Ⅱ」（担当者：大塚 俊仁）の履修の手引き

科目名：	コンピュータ会計論Ⅱ
担当者：	大塚 俊仁
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	今日の情報社会において、パソコンの役割はビジネスツールとしてどんどん広がっています。会社の経理業務においてもOA化する事により、転記や集計ミスがなくなり時間の短縮になる等、数多くのメリットがあります。授業内容としては、いかに効率よく利用者の目的にあったコンピュータ処理を行えるかという利用者の視点に立脚した、利用技術の習得を中心に行います。
授業方法：	講義及びパソコンを使用した実習
履修の留意点：	日商簿記3級程度の知識
目標と評価：	授業中の実習結果（印刷物）により評価する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータ会計論Ⅱ」（担当者：大塚 俊仁）の履修の手引き

科目名：	コンピュータ会計論Ⅱ
担当者：	大塚 俊仁
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	今日の情報社会において、パソコンの役割はビジネスツールとしてどんどん広がっています。会社の経理業務においてもOA化する事により、転記や集計ミスがなくなり時間の短縮になる等、数多くのメリットがあります。授業内容としては、いかに効率よく利用者の目的にあったコンピュータ処理を行えるかという利用者の視点に立脚した、利用技術の習得を中心に行います。
授業方法：	講義及びパソコンを使用した実習
履修の留意点：	日商簿記3級程度の知識
目標と評価：	授業中の実習結果（印刷物）により評価する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「財務管理論」（担当者：宮永 賢久）の履修の手引き

科目名：	財務管理論
担当者：	宮永 賢久
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>現代の財務管理は複雑な様相を示しています。ここでは基本的な側面を学んで基礎的な知識や理解を得るようにします。</p> <p>財務管理を知るためには、これまでの大きな二つの流れを理解する必要があります。一つは、第2次大戦後から今日まで50年にわたって形成・展開されてきた法人資本主義のもとでの取引拡大経営です。もう一つは、1990年代後半から日本に上陸してきた欧米機関株主資本主義のもとでの株主価値経営です。</p> <p>取引拡大経営は、企業集団など企業相互の取引を拡大していくことによって、売上げ、資産、シェアなどを多面的に成長させようとするものです。株主価値経営は、株価の成長を目的に利益率の引上げをはかるため適正な資本規模を維持するとともに無駄なコストを排除するというものです。</p> <p>取引拡大経営のもとでの財務は、資産規模の成長を目指し、株主価値経営のもとでの財務は、株価上昇のための利益率の引き上げを目指しています。</p> <p>現代の状況は、このように売上げ、資産、シェアの引上げを狙った取引拡大経営のための財務が底流に存在し、その上に株価引上げのための利益率向上を目的とするコスト削減財務が流れ込んでいます。</p> <p>財務管理論では、こうした規模拡大とコスト削減という二つの対立的な様相をしめす現代の複雑な財務管理の基本的な側面を、できるだけ解りやすく、基礎的な知識や理解が得られるように講義をします。</p>
授業方法：	講義（11回）およびディスカッション（2回）。
履修の留意点：	<p>財務管理論で学ぶ事柄では、新しい概念や事柄が多数あります。実社会で必ず必要になるので、予習をし、講義の中身で理解が不足したと思った事柄については、その都度復習をしておくようにしましょう。</p> <p>目標と評価：この授業では、経済活動の主役をになう企業・会社が社会でどのような役割や動きをしているのか、新聞紙上や経済週刊誌などを使い、基礎的な理解ができていくかどうか、次のチャプターに沿って評価をします。</p> <p>①企業の形態・責任制度について、実態経済の基本的な知識がついているか。 ②株式資本の調達と所有の法人化がどのように進むのか、説明できること。 ③自己金融の形態と方法について、説明できること。 ④借入金の調達が企業における金融でどのような役目を果たしているか説明できること。 ⑤日本の銀行が問題となっているBIS規制と成長財務について説明できること。 ⑥経営計画と財務計画の立案と分析を簡単な事例でレポートすること。 ⑦高度なデリバティブやM&Aの基本的な戦略について説明できること。 ⑧中小企業やベンチャービジネスの財務について説明できること。 ⑨財務諸表の仕組みについて説明できること。</p>
目標と評価：	<p>上記の各チャプターの理解度と問題意識を評価します。</p> <p>①出席態度、受講の積極性[30%] ②レポート課題提出、問題意識・態度、レポート内容・理解度で採点[70%]</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「環境会計論」（担当者：飯野 幸江）の履修の手引き

科目名：	環境会計論
担当者：	飯野 幸江
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	近年の環境問題は、公害問題を中心とする局地的ものから、地球規模の環境破壊を中心とする問題に移行しています。地球環境問題は一つが独立した問題ではなく、それぞれの問題が複雑に絡み合っ一つの問題を形成しています。さらに地球環境問題は、環境がいったん破壊されてしまうとその回復に時間がかかるか、もしくは回復できない点でより深刻な問題です。そのため経済学、経営学、法律学、工学などのさまざまな学問領域が環境問題に取り組んでおり、会計学も例外ではありません。環境会計とは、環境問題を会計学の立場からアプローチしたものです。つまり、企業が環境に与える負荷、環境保全活動に対するコストやそれから得られる便益を、会計の特性である貨幣額で表示しようと試みるものです。本講義では、会計学で環境問題を扱うことの必要性、環境問題における会計の役割、環境報告書やCSRにおける環境会計情報、といった内容を取り上げながら、環境問題を解決するためのツールとしての環境会計について考えていきます。
授業方法：	履修者が10人を超える場合には講義形式、10人以下の場合はゼミ形式で行います。ゼミ形式で行う場合は、事前に授業のトピックを提示しておきますので、それについて検討したり意見交換をしながら、環境会計についての理解を深めていきます。
履修の留意点：	特にありません。
目標と評価：	環境会計は、比較的新しい会計学の分野です。この授業を通じて、会計とは単なる利益計算だけのツールではないことを理解してくれればよいと思います。成績評価は授業への参加態度（3割）とレポート（7割）によって評価します。定期試験はしません。
教科書：	使用しません。
参考書：	第1回目の授業で紹介します。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代企業と会計」（担当者：井上 行忠）の履修の手引き

科目名：	現代企業と会計
担当者：	井上 行忠
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	会計理論は簿記によって具体化し、簿記は会計理論の助けを得て機能する。会計は、企業の経営活動を貨幣単位で計算し、報告することに妥当性を与えるための基準を提供する会計（理論）と、その基準に従って経営活動を正確に記録し、報告するための技術である会計（簿記）に分けることができる。会計は簿記と理論を共に理解することにより、会計の全体を理解したことになる。ここに本講義は、①会計の範囲・資格について、②本支店会計、③連結会計、④合併会計、⑤外貨換算会計、⑥税効果会計、⑦財務諸表分析等について、基本的事項を学習する。
授業方法：	授業方法：理論の解説を中心に行い、実務と理論を結びつける。
履修の留意点：	履修の留意点：履修の留意点：出席を重視する。
目標と評価：	目標と評価：経営と会計の基本を学習し、将来職業会計人又は公務員受験のための知識を学ぶ。
教科書：	公務員Vテキスト16 会計学 国税専門官 TAC出版 TAC出版
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「商業簿記Ⅰ（日商2級）」（担当者：前川 道生）の履修の手引き

科目名：	商業簿記Ⅰ（日商2級）
担当者：	前川 道生
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	本講義は、「会計リテラシ」で学んだ知識を前提として、簿記についての知識と理解を深めていきます。具体的には、日商簿記検定2級の商業簿記の内容（特殊商品売買取引、株式会社会計、本支店会計、帳簿組織など）を学習することによって、より高度な簿記の理論と技術を身につけていきます。
授業方法：	本講義では記帳練習問題を通じて、簿記の理論と技術を学んでもらいます。したがって、授業は教科書で基本的な論点を説明した後、記帳練習問題を解いてもらうという方法で行います。簿記の学習は、講義の内容を頭で理解するよりも、数多くの記帳練習問題を解いて身体で覚えることが重要です。そのため授業中に小テストを行ったり、記帳練習問題を課題として提出してもらうこともあります。
履修の留意点：	本講義は、記帳練習問題を通じて簿記のしくみを学習しますので、授業には教科書の他に、電卓、赤ペンおよび定規を持参して下さい。簿記は積み重ねの学問です。1回でも欠席をすると授業がわからなくなることがあります。予習をする必要はありませんが、必ず復習をして下さい。なお、本科目は「商業簿記Ⅱ」とセットになっている科目です。本科目を履修する学生は、必ず「商業簿記Ⅱ」も履修して下さい。授業は「商業簿記Ⅰ」と「商業簿記Ⅱ」の両科目を履修していることを前提に行います。
目標と評価：	2007年2月の日商簿記検定2級の受験を目標とします。成績は、原則として定期試験の結果で評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「商業簿記Ⅰ（日商2級）」（担当者：大塚 俊仁）の履修の手引き

科目名：	商業簿記Ⅰ（日商2級）
担当者：	大塚 俊仁
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	本講義は、「会計リテラシ」で学んだ知識を前提として、簿記についての知識と理解を深めていきます。具体的には、日商簿記検定2級の商業簿記の内容（特殊商品売買取引、株式会社会計、本支店会計、帳簿組織など）を学習することによって、より高度な簿記の理論と技術を身につけていきます。
授業方法：	本講義では記帳練習問題を通じて、簿記の理論と技術を学んでもらいます。したがって、授業は教科書で基本的な論点を説明した後、記帳練習問題を解いてもらうという方法で行います。
履修の留意点：	本講義は、記帳練習問題を通じて簿記のしくみを学習しますので、授業には教科書の他に、電卓、赤ペンおよび定規を持参して下さい。
目標と評価：	2007年2月の日商簿記検定2級の受験を目標とします。
教科書：	完全合格のための日商簿記2級商業簿記テキスト 大原簿記学校 大原出版
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「商業簿記Ⅱ（日商2級）」（担当者：前川 道生）の履修の手引き

科目名：	商業簿記Ⅱ（日商2級）
担当者：	前川 道生
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	本講義は、「会計リテラシ」で学んだ知識を前提として、簿記についての知識と理解を深めていきます。具体的には、日商簿記検定2級の商業簿記の内容（特殊商品売買取引、株式会社会計、本支店会計、帳簿組織など）を学習することによって、より高度な簿記の理論と技術を身につけていきます。
授業方法：	本講義では記帳練習問題を通じて、簿記の理論と技術を学んでもらいます。したがって、授業は教科書で基本的な論点を説明した後、記帳練習問題を解いてもらうという方法で行います。簿記の学習は、講義の内容を頭で理解するよりも、数多くの記帳練習問題を解いて身体で覚えることが重要です。そのため授業中に小テストを行ったり、記帳練習問題を課題として提出してもらうこともあります。
履修の留意点：	本講義は、記帳練習問題を通じて簿記のしくみを学習しますので、授業には教科書の他に、電卓、赤ペンおよび定規を持参して下さい。簿記は積み重ねの学問です。1回でも欠席をすると授業がわからなくなることがあります。予習をする必要はありませんが、必ず復習をして下さい。なお、本科目は「商業簿記Ⅰ」とセットになっている科目です。本科目を履修する学生は、必ず「商業簿記Ⅰ」も履修して下さい。授業は「商業簿記Ⅰ」と「商業簿記Ⅱ」の両科目を履修していることを前提に行います。
目標と評価：	2007年2月の日商簿記検定2級の受験を目標とします。成績は、原則として定期試験の結果で評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「商業簿記Ⅱ（日商2級）」（担当者：大塚 俊仁）の履修の手引き

科目名：	商業簿記Ⅱ（日商2級）
担当者：	大塚 俊仁
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	本講義は、「会計リテラシ」で学んだ知識を前提として、簿記についての知識と理解を深めていきます。具体的には、日商簿記検定2級の商業簿記の内容（特殊商品売買取引、株式会社会計、本支店会計、帳簿組織など）を学習することによって、より高度な簿記の理論と技術を身につけていきます。
授業方法：	本講義では記帳練習問題を通じて、簿記の理論と技術を学んでもらいます。したがって、授業は教科書で基本的な論点を説明した後、記帳練習問題を解いてもらうという方法で行います。
履修の留意点：	本講義は、記帳練習問題を通じて簿記のしくみを学習しますので、授業には教科書の他に、電卓、赤ペンおよび定規を持参して下さい。
目標と評価：	2007年2月の日商簿記検定2級の受験を目標とします。
教科書：	完全合格のための日商簿記2級商業簿記テキスト 大原簿記学校 大原出版
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「産業構造論」（担当者：古賀 義弘）の履修の手引き

科目名：	産業構造論
担当者：	古賀 義弘
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	本講義では、経済の発展を支えている産業の構造についての諸特徴を理解し、将来の方向性についての洞察を行う。講義のベースを、日本における主要産業の動向と構造的特徴を明らかにすることにおき、更に日本との関係の深い諸国、特に米国や中国の産業の動向とそれらの構造、そして抱えている諸問題について明らかにする。 また講義では、今日の産業構造を理解するためにその歴史についても触れていく。
授業方法：	講義形式による授業を基本とする。適宜に資料配布や参考図書を提示するので、各自の努力を求める。授業の途中でレポート提出を求める。
履修の留意点：	1. 毎日の新聞には目を通し、日本や世界の経済・産業・企業がどのような状況にあるかについて意識的に整理をしていくこと。 2. 授業中は学生としてのマナーを遵守することを強く求める。例えば遅刻、席の移動、中座、飲み食い、おしゃべり、居眠り、携帯電話、帽子等厳禁。
目標と評価：	出席と定期試験を基本とし、レポートは定期試験の採点に換算する。ただし10点以内。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「マーケティング論Ⅰ」（担当者：南 亮一）の履修の手引き

科目名：	マーケティング論Ⅰ
担当者：	南 亮一
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	メーカーが優れた製品をつくることができたとしてもそれが売れないこともあります。製品が売れるためには、それがほんとうに消費者が求めるものになっているかとか、その製品の特長を消費者に十分伝えられているのか、といったことも重要になってきます。マーケティングとは、競合他社と競いながらそのような活動をするのだといえます。 本講義では、製品計画、価格戦略、競争戦略、流通戦略、販売促進などについてのマーケティングの基礎的な考え方を、企業の事例を紹介しながら解説します。
授業方法：	教科書は特に指定しませんが、参考書は必要に応じて授業中に提示します。 授業はパワーポイントのスライドを用いて行います。 パワーポイントのファイルを毎回アップしますので、参照してください。
履修の留意点：	特になし。（必要に応じて授業中にお話しします）
目標と評価：	マーケティングの考え方と用語を習得し、企業の販売活動をマーケティングの視点から理解することができるようになることを目標とします。 評価は、学期末試験を中心に行います。（授業中にミニテストなどを行う場合があります。）
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「マーケティング論Ⅰ」（担当者：南 亮一）の履修の手引き

科目名：	マーケティング論Ⅰ
担当者：	南 亮一
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	メーカーが優れた製品をつくることができたとしてもそれが売れないこともあります。製品が売れるためには、それがほんとうに消費者が求めるものになっているかとか、その製品の特長を消費者に十分伝えられているのか、といったことも重要になってきます。マーケティングとは、競合他社と競いながらそのような活動することだといえます。 本講義では、製品計画、価格戦略、競争戦略、流通戦略、販売促進などについてのマーケティングの基礎的な考え方を、企業の事例を紹介しながら解説します。
授業方法：	教科書は特に指定しませんが、参考書は必要に応じて授業中に提示します。 授業はパワーポイントのスライドを用いて行います。 パワーポイントのファイルを毎回アップしますので、参照してください。
履修の留意点：	特になし。（必要に応じて授業中にお話しします）
目標と評価：	マーケティングの考え方と用語を習得し、企業の販売活動をマーケティングの視点から理解することができるようになることを目標とします。 評価は、学期末試験を中心に行います。（授業中にミニテストなどを行う場合があります。）
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「マーケティング論Ⅱ」（担当者：南 亮一）の履修の手引き

科目名：	マーケティング論Ⅱ
担当者：	南 亮一
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	マーケティングⅠでは、製品戦略、価格戦略、プロモーション戦略、流通戦略などを学びましたが、マーケティングⅡでは、そこでは取り上げることのできなかつた、ブランド戦略、顧客戦略などの近年注目度が高まってきたマーケティングの課題を扱います。 また、食品産業、小売業など特定の産業をとりあげ、それらの産業がどのようなマーケティング上の課題に直面しており、その課題にどのように対応しているかについても触れます。
授業方法：	教科書は特に指定しませんが、参考書は必要に応じて授業中に提示します。
履修の留意点：	受講者がマーケティングⅠの内容をほぼ理解していることを前提に授業を進めます。
目標と評価：	ブランド戦略などについて理解すること。また、いろいろなメーカーや小売業等の企業活動を、マーケティングの視点から理解できるようになることを目標とします。 評価点は、授業中に行う複数回のミニテストの結果をもとに算出します。 (学期末試験を行う可能性もあります。試験の有無等については授業中にお話します。)
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「組織行動論」（担当者：遠藤 ひとみ）の履修の手引き

科目名：	組織行動論
担当者：	遠藤 ひとみ
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>本講の目的は、組織行動論を構成する主要な概念とその基本的な方法を学ぶことにある。組織行動論は、経営学のなかでも、中心的な分野の一つである。企業という組織構造と、その行動を分析の対象とするので、経営戦略論など関連分野を学ぶ上でも重要である。受講生が組織行動論を学ぶことによって、企業を経営することとは何かを学んでくれれば幸いである。</p> <p>本講では、マクロ組織行動論、ミクロ組織行動論を中心に解説したい。講義の前半では、マクロ組織行動論について解説する。具体的なテーマとしては、組織構造、組織と戦略、組織と環境、コンティンジェンシー理論、創造的適応、組織間関係、組織間学習論などである。講義の後半では、ミクロ組織行動論について解説する。具体的なテーマとしては、組織活性化、組織におけるリーダーシップ、モチベーションの役割、組織におけるストレスの問題、組織文化などについてである。</p> <p>本講は、これら2つのテーマについて、複眼的視点を養うことを目的とする。必要に応じて、具体的な企業の事例など紹介したい。</p> <p>企業経営の根幹をなすのは、人と組織である。人と組織は、経営の原点であり、それをいかにマネジメントのなかに取り込むかが重要である。それらは、いかなる時代にあっても、経営の基本問題として存在する。本講を通じて、組織経営することの方法について理解を深めてもらいたい。</p> <p>授業方法： 本講は、基本的に講義形式で行う。適宜、講義中に小テストを実施する。小テスト、レポート提出などに対しては、受講生の側からも積極的な取り組みを期待する。 レポートの作成に関しては、教科書、参考書を読むことのほかに、積極的にインターネットの利用、図書館の活用を薦めたい。</p>
授業方法：	<p>本講は、基本的に講義形式で行う。適宜、講義中に小テストを実施する。小テスト、レポート提出などに対しては、受講生の側からも積極的な取り組みを期待する。 レポートの作成に関しては、教科書、参考書を読むことのほかに、積極的にインターネットの利用、図書館の活用を薦めたい。</p>
履修の留意点：	
目標と評価：	<p>この講義の受講生は、つぎに示す目標を目指して、しっかり学習して欲しい。</p> <p>①マネジメントに必要な人と組織に関する基礎的な理論を理解し、人とともに働き、組織を経営するとき必然的に発生する課題の構造について理解すること。</p> <p>②組織や人的資源について、解決すべき問題の原因を解明する力と、その解決に必要な判断力、実行力を高めること。</p> <p>うえの①と②の目標について、その達成度合いを調べるために、授業において小テスト、レポート作成、学期末試験の3点から評価する。評価の点数は、以下の項目毎に加算する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席および授業中の小テスト [10%] ・レポートの提出とその内容 [20%] ・学期末試験 [40%]
教科書：	
参考書：	「組織間学習論」 松行康夫・松行彬子 白桃書房 2002年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「組織行動論」（担当者：遠藤 ひとみ）の履修の手引き

科目名：	組織行動論
担当者：	遠藤 ひとみ
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>本講の目的は、組織行動論を構成する主要な概念とその基本的な方法を学ぶことにある。組織行動論は、経営学のなかでも、中心的な分野の一つである。企業という組織構造と、その行動を分析の対象とするので、経営戦略論など関連分野を学ぶ上でも重要である。受講生が組織行動論を学ぶことによって、企業を経営することとは何かを学んでくれれば幸いである。</p> <p>本講では、マクロ組織行動論、ミクロ組織行動論を中心に解説したい。講義の前半では、マクロ組織行動論について解説する。具体的なテーマとしては、組織構造、組織と戦略、組織と環境、コンティンジェンシー理論、創造的適応、組織間関係、組織間学習論などである。講義の後半では、ミクロ組織行動論について解説する。具体的なテーマとしては、組織活性化、組織におけるリーダーシップ、モチベーションの役割、組織におけるストレスの問題、組織文化などについてである。</p> <p>本講は、これら2つのテーマについて、複眼的視点を養うことを目的とする。必要に応じて、具体的な企業の事例など紹介したい。</p> <p>企業経営の根幹をなすのは、人と組織である。人と組織は、経営の原点であり、それをいかにマネジメントのなかに取り込むかが重要である。それらは、いかなる時代にあっても、経営の基本問題として存在する。本講を通じて、組織経営することの方法について理解を深めてもらいたい。</p> <p>授業方法： 本講は、基本的に講義形式で行う。適宜、講義中に小テストを実施する。小テスト、レポート提出などに対しては、受講生の側からも積極的な取り組みを期待する。 レポートの作成に関しては、教科書、参考書を読むことのほかに、積極的にインターネットの利用、図書館の活用を薦めたい。</p>
授業方法：	<p>本講は、基本的に講義形式で行う。適宜、講義中に小テストを実施する。小テスト、レポート提出などに対しては、受講生の側からも積極的な取り組みを期待する。 レポートの作成に関しては、教科書、参考書を読むことのほかに、積極的にインターネットの利用、図書館の活用を薦めたい。</p>
履修の留意点：	
目標と評価：	<p>この講義の受講生は、つぎに示す目標を目指して、しっかり学習して欲しい。</p> <p>①マネジメントに必要な人と組織に関する基礎的な理論を理解し、人とともに働き、組織を経営するときに必然的に発生する課題の構造について理解すること。</p> <p>②組織や人的資源について、解決すべき問題の原因を解明する力と、その解決に必要な判断力、実行力を高めること。</p> <p>うえの①と②の目標について、その達成度合いを調べるために、授業において小テスト、レポート作成、学期末試験の3点から評価する。評価の点数は、以下の項目毎に加算する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席および授業中の小テスト [10%] ・レポートの提出とその内容 [20%] ・学期末試験 [40%]
教科書：	
参考書：	「組織間学習論」 松行康夫・松行彬子 白桃書房 2002年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「組織行動論」（担当者：遠藤 ひとみ）の履修の手引き

科目名：	組織行動論
担当者：	遠藤 ひとみ
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>本講の目的は、組織行動論を構成する主要な概念とその基本的な方法を学ぶことにある。組織行動論は、経営学のなかでも、中心的な分野の一つである。企業という組織構造と、その行動を分析の対象とするので、経営戦略論など関連分野を学ぶ上でも重要である。受講生が組織行動論を学ぶことによって、企業を経営することとは何かを学んでくれれば幸いである。</p> <p>本講では、マクロ組織行動論、ミクロ組織行動論を中心に解説したい。講義の前半では、マクロ組織行動論について解説する。具体的なテーマとしては、組織構造、組織と戦略、組織と環境、コンティンジェンシー理論、創造的適応、組織間関係、組織間学習論などである。講義の後半では、ミクロ組織行動論について解説する。具体的なテーマとしては、組織活性化、組織におけるリーダーシップ、モチベーションの役割、組織におけるストレスの問題、組織文化などについてである。</p> <p>本講は、これら2つのテーマについて、複眼的視点を養うことを目的とする。必要に応じて、具体的な企業の事例など紹介したい。</p> <p>企業経営の根幹をなすのは、人と組織である。人と組織は、経営の原点であり、それをいかにマネジメントのなかに取り込むかが重要である。それらは、いかなる時代にあっても、経営の基本問題として存在する。本講を通じて、組織経営することの方法について理解を深めてもらいたい。</p> <p>授業方法： 本講は、基本的に講義形式で行う。適宜、講義中に小テストを実施する。小テスト、レポート提出などに対しては、受講生の側からも積極的な取り組みを期待する。 レポートの作成に関しては、教科書、参考書を読むことのほかに、積極的にインターネットの利用、図書館の活用を薦めたい。</p>
授業方法：	<p>本講は、基本的に講義形式で行う。適宜、講義中に小テストを実施する。小テスト、レポート提出などに対しては、受講生の側からも積極的な取り組みを期待する。 レポートの作成に関しては、教科書、参考書を読むことのほかに、積極的にインターネットの利用、図書館の活用を薦めたい。</p>
履修の留意点：	
目標と評価：	<p>この講義の受講生は、つぎに示す目標を目指して、しっかり学習して欲しい。</p> <p>①マネジメントに必要な人と組織に関する基礎的な理論を理解し、人とともに働き、組織を経営するときに必然的に発生する課題の構造について理解すること。</p> <p>②組織や人的資源について、解決すべき問題の原因を解明する力と、その解決に必要な判断力、実行力を高めること。</p> <p>うえの①と②の目標について、その達成度合いを調べるために、授業において小テスト、レポート作成、学期末試験の3点から評価する。評価の点数は、以下の項目毎に加算する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席および授業中の小テスト [10%] ・レポートの提出とその内容 [20%] ・学期末試験 [40%]
教科書：	
参考書：	「組織間学習論」 松行康夫・松行彬子 白桃書房 2002年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営戦略論」（担当者：松行 彬子）の履修の手引き

科目名：	経営戦略論
担当者：	松行 彬子
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>現代企業による経営戦略は、1980年代後半を境として、企業を取り囲む経営環境の急激な変化に対応して、大きく変容した。それは、従来の「競争」重視の経営戦略から、「協力と競争」重視の経営戦略へと、明らかにパラダイム転換が行われた。このような経営戦略転換を踏まえて、本講では、まず、経営戦略論を理解するために必要とされる基本的知識を講義する。さらに、従来の伝統的な経営戦略理論から現在の先端的理論にいたるまでの主要な理論を事例をも含め紹介する。そして、日本企業が真のグローバル企業として成長・発展するための経営戦略もあわせて検討・考察する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経営戦略の概念 2. 経営戦略の構造 3. 経営戦略の策定 4. 主要な経営戦略の理論（ドメイン戦略、競争戦略、資源戦略） 5. 戦略的提携
授業方法：	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主に講義形式 2. ケーススタディもできるだけ取り入れる 3. ビデオなどを使って経営戦略の実態を考察する 4. できれば、グループ毎のディスカッションなど参加型授業も取り入れたい
履修の留意点：	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中は私語をしない 2. ケーススタディやグループ活動には積極的に参加してほしい 3. スライドの内容はWEB上に貼りつけるので、利用してほしい。 4. WEB上の授業情報をよく見ておくこと
目標と評価：	<ol style="list-style-type: none"> 1. 評価は出席と定期試験による 2. 授業中の小レポート提出も評価にされる。 3. 日常点も評価にされる場合がある
教科書：	組織間学習論 松行康夫・松行彬子 白桃書房
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営組織論Ⅰ」（担当者：遠藤 ひとみ）の履修の手引き

科目名：	経営組織論Ⅰ
担当者：	遠藤 ひとみ
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>一般的に、企業経営には「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」といった経営資源が必要である。本講では、その経営資源のなかで、とくに「ヒト（人的資源）」に焦点を当て、それを「個人」、「集団」、「組織」といった多様なレベルにおいて説明していくことにする。</p> <p>春学期の「経営組織論Ⅰ」では、ミクロ的な側面から組織の構造を捉えていく。本講では、組織成員が、いかにして組織参加から満足を得るか、いかにして職務遂行に動機づけられるかに焦点を当てる。本講の内容は、およそ、つぎに示す通りである。</p> <p>(1) 組織均衡とミクロ組織論、(2) 組織における個人、(3) モチベーション理論 (①マズローの欲求階層説、②マグレガーのX理論とY理論、③ハーズバーグの動機づけ要因と衛生要因、④アダムスの公平理論、⑥ブルームの期待理論など)、(4) 組織のなかの内発的動機づけ、(5) 経済的報酬の影響力、(6) 組織とコミットメント、(7) 組織とストレス、(8) 組織と公正、(9) 組織のコミュニケーション、(10) 組織のリーダーシップ (コンティンジェンシー理論)、(11) 組織の能力開発、(12) 組織と女性、(13) 自律的キャリア開発など、さまざまな理論について検討する。</p> <p>「経営組織論Ⅰ」は、心理学や社会学を背景にした学問であり、とくに、組織と人の関係について考える視点を養うことを目指す。組織運営を行う際に必要となる「動機づけ」や「リーダーシップ」に関する理論、「個人の欲求」に関する理論などを学ぶことで、受講生が「組織で働くこと」の意味や「自分にあった働き方」を考える際の手助けにしたい。また、自分自身が、組織のリーダーになった際、どのように成員との関係を維持すれば良いのかについても言及する。</p>
授業方法：	<p>本講は、基本的に講義形式で行う。適宜、講義中に小テストを実施する。小テスト、レポート提出などに対しては、受講生の側からも積極的な取り組みを期待する。</p> <p>レポートの作成に関しては、教科書、参考書を読むことのほかに、積極的にインターネットの利用、図書館の活用を薦めたい。</p>
履修の留意点：	
目標と評価：	<p>この講義の受講生は、つぎに示す目標を目指して、しっかり学習して欲しい。</p> <p>①経営組織の全体像について理解する。 ②マネジメントに必要な人と組織に関する基礎的な理論を理解し、人とともに動き、組織を経営するとき必然的に発生する課題の構造について理解すること。 ③組織や人的資源について、解決すべき問題の原因を解明する力と、その解決に必要な判断力、実行力を高めること。</p> <p>うえの①、②、③の目標について、その達成度合いを調べるために、授業において小テスト、レポート作成、学期末試験の3点から評価する。評価の点数は、以下の項目毎に加算する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席および授業中の小テスト [10%] ・レポートの提出とその内容 [20%] ・学期末試験 [40%]
教科書：	
参考書：	「組織間学習論」 松行康夫・松行彬子 白桃書房 2002年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営組織論Ⅰ」（担当者：遠藤 ひとみ）の履修の手引き

科目名：	経営組織論Ⅰ
担当者：	遠藤 ひとみ
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>一般的に、企業経営には「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」といった経営資源が必要である。本講では、その経営資源のなかで、とくに「ヒト（人的資源）」に焦点を当て、それを「個人」、「集団」、「組織」といった多様なレベルにおいて説明していくことにする。</p> <p>春学期の「経営組織論Ⅰ」では、ミクロ的な側面から組織の構造を捉えていく。本講では、組織成員が、いかにして組織参加から満足を得るか、いかにして職務遂行に動機づけられるかに焦点を当てる。本講の内容は、およそ、つぎに示す通りである。</p> <p>(1) 組織均衡とミクロ組織論、(2) 組織における個人、(3) モチベーション理論 (①マズローの欲求階層説、②マグレガーのX理論とY理論、③ハーズバーグの動機づけ要因と衛生要因、④アダムスの公平理論、⑥ブルームの期待理論など)、(4) 組織のなかの内発的動機づけ、(5) 経済的報酬の影響力、(6) 組織とコミットメント、(7) 組織とストレス、(8) 組織と公正、(9) 組織のコミュニケーション、(10) 組織のリーダーシップ (コンティンジェンシー理論)、(11) 組織の能力開発、(12) 組織と女性、(13) 自律的キャリア開発など、さまざまな理論について検討する。</p> <p>「経営組織論Ⅰ」は、心理学や社会学を背景にした学問であり、とくに、組織と人の関係について考える視点を養うことを目指す。組織運営を行う際に必要となる「動機づけ」や「リーダーシップ」に関する理論、「個人の欲求」に関する理論などを学ぶことで、受講生が「組織で働くこと」の意味や「自分にあった働き方」を考える際の手助けにしたい。また、自分自身が、組織のリーダーになった際、どのように成員との関係を維持すれば良いのかについても言及する。</p>
授業方法：	<p>本講は、基本的に講義形式で行う。適宜、講義中に小テストを実施する。小テスト、レポート提出などに対しては、受講生の側からも積極的な取り組みを期待する。</p> <p>レポートの作成に関しては、教科書、参考書を読むことのほかに、積極的にインターネットの利用、図書館の活用を薦めたい。</p>
履修の留意点：	
目標と評価：	<p>この講義の受講生は、つぎに示す目標を目指して、しっかり学習して欲しい。</p> <p>①経営組織の全体像について理解する。 ②マネジメントに必要な人と組織に関する基礎的な理論を理解し、人とともに動き、組織を経営するとき必然的に発生する課題の構造について理解すること。 ③組織や人的資源について、解決すべき問題の原因を解明する力と、その解決に必要な判断力、実行力を高めること。</p> <p>うえの①、②、③の目標について、その達成度合いを調べるために、授業において小テスト、レポート作成、学期末試験の3点から評価する。評価の点数は、以下の項目毎に加算する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席および授業中の小テスト [10%] ・レポートの提出とその内容 [20%] ・学期末試験 [40%]
教科書：	
参考書：	「組織間学習論」 松行康夫・松行彬子 白桃書房 2002年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営組織論Ⅱ」（担当者：遠藤 ひとみ）の履修の手引き

科目名：	経営組織論Ⅱ
担当者：	遠藤 ひとみ
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>一般的に、企業経営には「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」といった経営資源が必要である。本講では、その経営資源のなかで、とくに「ヒト（人的資源）」に焦点を当て、それを「個人」、「集団」、「組織」といった多様なレベルにおいて説明していくことにする。</p> <p>秋学期の「経営組織論Ⅱ」では、マクロ的な側面から組織の構造を捉えていく。本講では、組織成員が、いかにして組織参加から満足を得るか、いかにして職務遂行に動機づけられるかに焦点を当てる。本講では、春学期の「経営組織論Ⅰ」で習得した知識を生かして、経営組織論という分野についての基本的認識、諸問題などについて学習することを目標とする。本講では、現代社会を代表する組織としての企業を中心に、組織構造についてさまざまな角度から検討し、現代企業の組織構造について理解を深めさせる。</p> <p>本講の内容は、およそ、つぎに示す通りである。</p> <p>(1) 経営組織についての定義、(2) 経営組織の形成と類型、(3) 組織の目的と組織成果、(4) 現代の組織理論、(5) 古典的管理論、(6) 官僚制組織、(7) 人間関係論、(8) 動機づけ理論、(9) バーナーズの組織論、(10) 組織のデザイン、(11) 非営利組織、(12) 環境変化と組織の適応、(13) 戦略と組織変革、(14) 企業と組織文化の問題、(15) 組織の能力開発など、さまざまな理論を紹介したい。</p> <p>「経営組織論Ⅱ」は、心理学や社会学を背景にした学問であり、とくに、組織と人の関係について考える視点を養うことを目指す。</p>
授業方法：	<p>本講は、基本的に講義形式で行う。適宜、講義中に小テストを実施する。小テスト、レポート提出などに対しては、受講生の側からも積極的な取り組みを期待する。レポートの作成に関しては、教科書、参考書を読むことのほかに、積極的にインターネットの利用、図書館の活用を薦めたい。</p>
履修の留意点：	
目標と評価：	<p>この講義の受講生は、つぎに示す目標を目指して、しっかり学習して欲しい。</p> <p>① 経営組織の全体像について理解する。 ② マネジメントに必要な人と組織に関する基礎的な理論を理解し、人とともに動き、組織を経営するときに必然的に発生する課題の構造について理解すること。 ③ 組織や人的資源について、解決すべき問題の原因を解明する力と、その解決に必要な判断力、実行力を高めること。</p> <p>うえの①、②、③の目標について、その達成度合いを調べるために、授業において小テスト、レポート作成、学期末試験の3点から評価する。評価の点数は、以下の項目毎に加算する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席および授業中の小テスト [10%] ・レポートの提出とその内容 [20%] ・学期末試験 [40%]
教科書：	
参考書：	「組織間学習論」 松行康夫・松行彬子 白桃書房 2002年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営管理論」（担当者：吉沢 正広）の履修の手引き

科目名：	経営管理論
担当者：	吉沢 正広
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>経営管理論Ⅰは、現代企業の経営管理の基本的な部分について理解することを目的としたい。経営管理論は、企業経営に関する多様な事柄について研究する学問分野である。この科目を学習していく上で学生諸君に期待したいことは、教室での講義はもちろんのこと、教室を離れても毎日の新聞、雑誌、テレビなど各種マスコミが報ずるビジネスに関するトピックにも関心を持ってもらいたいことである。しかしそこで展開される事象について、直ぐに正解を求めようとしてはいけない。その答えに至る思考するプロセスを大切にしてもらいたい。現代のビジネスや企業経営について、様々な見解や答えが見出せるかもしれないが、唯一絶対というものはない。自分なりの答えを導き出すには、多くのケースや理論や学説や立場を勉強し理解しておく必要がある。そうしたことを通じてよりの確かな答えが見つけられることと思う。それを可能にするには、企業経営について歴史的に観察するという姿勢が是非必要である。こうした姿勢があれば、企業に対する見方も自然に奥行きが深いものとなるはずであり、洞察力もより確かなものとなる。学生諸君はいずれ大学を卒業すれば、企業や各種団体に所属したり、グループで起業したり、あるいは大学院に進学することになる。そういう自分の将来像に強い関心を持ってもらいたい。経営管理論を学ぶことは、自分の将来像に少しでも近づくことができるようにする大切な科目の一つであると認識してもらいたい。しかし経営管理論については、多くの理論や学説がある。それらをすべて講義することは困難といえる。講義ではその意味で経営学の奥行きを深さを一緒に体感できるように内容としたい。</p>
授業方法：	<p>基本的には指定したテキストの内容に基づいて講義を展開したい。しかし、一方的な知識の伝達は避けたいと思っている。講義内容の確認テスト、レポートなど、また講義中の学生への質問等、双方向の講義を心がけたい。</p>
履修の留意点：	<p>経営学はきわめて学際的な学問分野なので、経済学や法律学や社会学などの科目を意欲的に勉強しておいて下さい。これは学生にとってとても意義あることだと思います。出席については、これを前提に講義を進めますので休みが多くなると当然ながら講義も理解できなくなります。また講義中の小テストやレポートも提出できなくなりますので注意してください。</p>
目標と評価：	<p>基本的には期末の試験が大きなウエイトを占めることとなります。講義の間の小テストやレポートも評価の対象にしますので、出席をきちんとし、そして試験を頑張るという姿勢を大切にしてください。</p>
教科書：	マネジメント基本全集 1 1 『経営管理（マネジメント）』 根本孝 学文社 2006年1月
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「マーケティングリサーチ」（担当者：南 亮一）の履修の手引き

科目名：	マーケティングリサーチ
担当者：	南 亮一
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	マーケティング活動を展開していくためには、当然まず消費者を知ることが重要になります。消費が低迷していることもあって自社の商品が売れず、消費者はいったい何を求めているのだろうと迷う企業は少なくありません。そこで、多くの企業では消費者を対象とした様々なマーケティング・リサーチを行い、その結果を製品開発や販売戦略等に活かしています。この授業では、アンケート調査をはじめ、グループインタビューなど、マーケティング・リサーチの代表的な調査・分析手法について解説します。
授業方法：	教科書は特に指定しませんが、参考書は必要に応じて授業中に提示します。
履修の留意点：	受講生がマーケティングⅠの単位を取得していることを前提として授業を進めます。
目標と評価：	マーケティングリサーチには多様な手法がありますが、それぞれどのような特徴があり、どのような目的で行われるものなのかを理解することを目標とします。 評価点は、授業中に行う複数回のミニテストの結果をもとに算出します。 (学期末試験を行う可能性もあります。試験の有無等については授業中にお話します。)
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「労務管理論Ⅰ」（担当者：青山 悦子）の履修の手引き

科目名：	労務管理論Ⅰ
担当者：	青山 悦子
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	企業の経営管理活動の一環としての「労務管理」は、企業にとっては、従業員をいかに有効に活用するかといった役割を担っているが、私たちにとっては、その有り様は、それぞれの就職・働き方・生活を大きく左右するものである。例えば、採用、配置、昇進・昇格、賃金、労働時間、教育・訓練など、企業に雇用されて働く限り、常に必要となる領域である。 そこで、本講義では、企業の入口から出口に至るまでのそれぞれの局面に沿って、人事・労務管理の最新の動向を提供することで、日本企業における人事・労務管理についての理解を深めていきたい。
授業方法：	教科書黒田・関口他『現代の人事労務管理』（八千代出版）に沿って授業を進めていく。資料、統計も随時配布し、最新の情報を提供しながら理解を深めていく。
履修の留意点：	新聞を読むことによって、社会、労働全般に関する理解を深めていくことが大切。
目標と評価：	多くの学生が就職することになる日本企業の人事・労務管理の動向について、事前に理解を深めることが目標。成績は、原則として、春学期の定期試験で評価するが、平常の授業への参加度も加味される。
教科書：	『現代の人事労務管理』 黒田・関口他 八千代出版 2001年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「労務管理論Ⅱ」（担当者：青山 悦子）の履修の手引き

科目名：	労務管理論Ⅱ
担当者：	青山 悦子
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	本講義では、「労務管理論Ⅰ」で学んだ中から、特に現在問題になっている事項について、より深く考察する予定である。なお、講義では、欧米諸国の動向にも言及しながら、受講者と共に、今後の日本の人事・労務管理のあるべき姿についても考えてみることにしたい。
授業方法：	毎回講義用のレジュメ・資料を配布し、それらをもとに授業を進めていく。
履修の留意点：	「労務管理論Ⅰ」を履修していることが望ましいが、熱意のある学生については、受講を認める。毎日、新聞を読むことによって、労務管理を取り巻く経済・経営・社会環境について広く学ぶことが必要。
目標と評価：	1990年代半ば以降、大きく変貌している日本企業の人事・労務管理についての理解を深めることが目標。評価は、秋学期末の定期試験と平常の授業への参加度による。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「販売管理論」（担当者：宮永 賢久）の履修の手引き

科目名：	販売管理論
担当者：	宮永 賢久
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>企業活動では、ユーザーと接し営業活動をおこなって、売上をたてるところが販売部門です。現代では、商売と取引の仕組み・形態が、製造業や流通・小売など活動分野によってさまざまに異なっているように見えます。また、営業・企画・マーケティングが、ますます一体となって活動が行われているのが特徴だと言えます。</p> <p>こうした企業の販売部門における活動を、より計画的・効率的に行うためには、商品の管理、販売組織の編成、受注・発注、売上、仕入れ・在庫の科学的管理等の方法が必要となります。これらの方法論は、基本的なところはメーカー、流通、小売のいずれにおいても、共通のものが大部分です。</p> <p>この講義では、販売に関する戦略的な管理を扱う「マーケティング論」に対し、上述の部門管理の方法論を、流通・商業をとりあげて2冊の教科書にもとづき学びます。特に、今日ではITを使ったマネジメントが当たり前となっています。実践的なシステムの基本構造の概念を学んでいくようにします。また、ケース・スタディを、皆さんにとってなじみの深い自動車業界とPC業界を事例として、発表・討論をおこない、レポートを提出してもらいます。</p>
授業方法：	講義（11回）およびディスカッション（2回）。
履修の留意点：	<p>販売管理の基本的な方法論は、今日ではそのほとんどがIT化されています。そのマネジメント・ソフトウェアの基本構造を、併せて商売の原則・商人の行動原理などを、できるだけ解りやすく学んでいくようにします。しかし、取引構造などは業種によって様々な形態が存在し、それによって方法論も異なっていますので、教科書2の「商売と取引のしくみ」を併せて読んで、どんどん積極的に自ら理解を深めてください。</p> <p>目標と評価：次に示している①から⑭に従って、商取引の基本を理解し、流通チャネルの結びつき、業界別の産業組織や商取引の仕組みを学びます。併せて、IT化されているマネジメント・ソフトウェアの概要を知ってもらうようにします。実体経済・産業界で必須の知識なので、実学として学んだ事柄を評価します。</p> <p>①流通の社会的役割と流通機構 ……流通業界の変革 ②流通機能—所有権の流れ ……商取引の基本部分 流通機能—財の流れ 流通機能—情報の伝達 ③商取引の形態について（討論1） ④流通機能の分化と結合 ……流通チャネルの結びつき 消費者と流通 生産者と流通 商業の存立基盤 ⑤流通チャネルの変革 ⑥小売業の役割と機能 小売業の構造 小売業の諸形態 ⑦卸売業の役割と機能 卸売業の構造と諸形態 ⑧卸売業と小売業について ⑨e - コマースの仕組みと変革インパクト 流通・商業に対する公共政策 ⑩インターネット取引について ⑪受注・出荷システムおよび販売管理システムの概要 ⑫サプライチェーン・マネジメントの概要 ⑬業種別ケース・スタディ1 [例：自動車業界予定] ⑭業種別ケース・スタディ2 [例：PC業界予定]</p>
目標と評価：	<p>上記の各チャプターの理解度と問題意識を評価します。</p> <p>①出席態度、受講の積極性 [30%] ②レポート課題提出、問題意識・態度、レポート内容・理解度で採点 [70%]</p> <p>※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ベンチャー経営論」（担当者：和田 耕治）の履修の手引き

科目名：	ベンチャー経営論
担当者：	和田 耕治
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>昨今、ベンチャー企業を支援する環境は整備されており、多くの新規開業、創業がみられ、景気に対する閉塞感は、なくなりつつあります。現在、わが国は第3次ベンチャーブームのなかにあるといわれておりますが、その背景等については、一般的にはよく知られておりません。本講義は、ベンチャー企業の今までの変遷を把握した上で、今後の展開を含め、多面的にベンチャー企業の実態と経営について、考察することとします。</p>
授業方法：	<p>基本的には教科書にそって進めますが、必要に応じて、板書をしますので、ノートはとるようにしてください。</p> <p>以下の順序で講義を進める予定です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ベンチャー企業とは 2. ベンチャー企業成長のマネジメント 3. 資金調達とベンチャー企業 4. ベンチャーキャピタルと支援インフラ 5. 法律問題
履修の留意点：	ノートは必ず取るようにしてください。
目標と評価：	期末試験による評価。
教科書：	ベンチャー企業（第3版） 松田修一 日本経済新聞社 2005年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「生産管理論」（担当者：宮永 賢久）の履修の手引き

科目名：	生産管理論
担当者：	宮永 賢久
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>これまで日本経済は高度な生産技術を背景にして目覚ましい発展を遂げて来ました。明治以来、欧米の技術を真似ることから始まった生産活動は、独自のTQC運動を産み出し経営環境を大きく変え、トヨタ自動車のかんばん方式などの生産活動を産み出しながら、世界トップレベルに位置付けられるようになってきました。</p> <p>しかし、今日の日本産業は、安価な人件費などを武器に台頭してきたアジア諸国がライバルとなり、新たな生産システムの構築をせまられている環境下にあると言えます。</p> <p>生産管理論では、取り上げる領域が極めて多岐にわたっています。それは、製品の生産を中心に実施されてきた現場周りの生産管理（production control）活動（activity）が、企業全体の問題として総合的な視点から把握される（production management）ようになり、さらにサービス産業をも対象となってきたからです。</p> <p>企業における生産活動を学するためには、ベースといえる骨格を、より計画的・効率的に行うために必要となる生産計画（production planning）と生産活動の統制（現場周りの生産管理＝production control）との一連の流れから、理解を深めていくことが大切です。生産計画の種類とその特徴を学び、生産統制の手順、特に計画と実績との差異の測定、その原因の追求と対策を考えていきます。</p> <p>生産管理全体では、小骨にあたる周辺のいくつかの大切なシステムがあります。需要予測では需要変動の原因・種類・予測方法、製品計画では主に新製品開発の必要性、資材管理では資材の流れに沿って購買・外注業務・受け入れ検査業務・保管業務・運搬業務という生産対象に対する管理、設備管理では保守活動を中心に生産手段に対する管理、品質管理では品質の定義・品質管理手法などです。</p> <p>生産管理論では、このような構成を念頭に入れながら、生産の科学的な管理手法を実務的知識を中心に学ことをめざします。</p>
授業方法：	講義（11回）とディスカッション（2回）。
履修の留意点：	<p>履修にあたって、前もって「履修の手引き」に記されている教科書の第1章「生産管理とは何か」（P11からP30）を必ず読んでおくこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 生産管理のなかで、計画の内容、統制の内容を具体的に説明できること。 * 周辺のシステムで、需要予測、製品計画、資材管理、設備管理、品質管理、作業管理、工程管理、外注管理の意味を具体的に正確に説明できること。 * 成績評価の基準は、実務の理解度を重要視し、レポートと試験を半々して見ることにします。
目標と評価：	この授業を受講した学生は、現代の生産管理の全体を理解し、各論にあたるシステムを知ることとなります。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「起業家論」（担当者：大野 富彦）の履修の手引き

科目名：	起業家論
担当者：	大野 富彦
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>今日、ITやバイオ分野等における技術革新、規制緩和、起業をめぐる法環境の整備などを背景に、起業のチャンスが広がっています。実際、起業する人や起業を考えている人は多くなっているように感じられます。しかし、現実には一握りの者が勝利をおさめ、多くが敗れていく、これが起業の世界です。起業する人が増え、彼（彼女）らが活躍することは、経済の活性化につながり、社会としては好ましいのですが、「言うは易し行なうは本当に難し」なのです。</p> <p>この授業は、以上のような認識のもとに「起業家に求められる資質や能力とその高め方」に焦点をあてます。講義と様々なケースを通じて、成功する起業家になるためのロジックを明らかにしていこうとするのが、この授業のもくろみでもあります。経営実務家でもある教員が、これまでの経験を踏まえて実践的な授業を進めていきます。</p> <p>詳しくは初回の授業時に説明しますが、主な授業内容は以下のとおりになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・起業家（予備軍）を取り巻く社会環境 ・起業家に求められる資質と能力：「物事を立体的に捉える力」 ・能力向上の方法 ・ビジネスモデルの構築 ・起業で陥りやすい罠 ・起業に必要な基本知識 <p>など</p>
授業方法：	講義とそれに関連したケース・メソッドを行っていきます。全13回の内、ケースを5本程度おこなう予定です。
履修の留意点：	起業に関心がある方を歓迎します。授業は教員による講義だけでなく、学生とのディスカッションに多くの時間を使う予定です。また、教材プリントを教室で配布しますので、出席を心がけてください。
目標と評価：	<p>（目標）</p> <p>①起業家に求められる資質や能力とその向上策を習得すること、②今後、自分のキャリアをどのように構築していくのかについて、深く考えるようになること、が目標になります。</p> <p>起業家に求められる能力は、「学習」によって向上していく部分が大きいという強い信念にもとづいて授業を進めていきたいと思えます。</p> <p>（評価）</p> <p>定期試験 [60%] ケース・メソッドにおける積極性 [40%]</p>
教科書：	なし（授業ごとにレジュメを配布します）
参考書：	「MBA感覚（センス）」で行動する技術 大野 富彦 PHP研究所 2004年06月18日

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「企業診断論」（担当者：小沢 勝之）の履修の手引き

科目名：	企業診断論
担当者：	小沢 勝之
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	企業診断（経営コンサルティング）の目的、役割、発展について学んだ後、主要な手法や体系および実際のやり方を、講義と実習の形式をミックスして理解していきます。企業診断の唯一の国家資格に中小企業診断士がありますように、この授業はかなり専門的な職業に就きたい人に役立つと思います。もちろん、必ずしも経営コンサルタントを目指さなくても、企業経営を分析、診断、改善できるようになることは、すばらしいことであり、特に社会にでてから役立つでしょう。
授業方法：	最初は講義が中心ですが、やがて実際の企業について調査、分析、診断、提言のレポートを作成する実習の形になります。その後、各自のレポートを皆の前で発表し、それについて皆でディスカッションして改善する方法で理解を深めていきます。
履修の留意点：	実際の企業を診断するわけですから、企業に行って経営の話聞いてくれる人でないとレポートの作成が困難になります。また経営学や簿記会計学についてきちんと基礎を身につけていない人も、履修が困難になります。ディスカッションが主体ですので、自分の意見や質問を積極的に発言できない人も履修が困難になります。
目標と評価：	企業診断の基本を理解し、実際に簡単な企業診断はできる人になることが目標です。評価は2回の診断レポートの作成内容と、発表および質問の態度で行います。
教科書：	企業診断の実際（新版） 宮崎一紀、柳田譲 日経文庫 2003年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営事例研究」（担当者：堀江 国明）の履修の手引き

科目名：	経営事例研究
担当者：	堀江 国明
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>人間は、生まれると直ちに栄養素を摂取して身体を維持し成長させます。その生生活動の過程において、身体機能に故障が生じた場合には、自らこれを自覚するとともに、これを自力で治療する能力を内蔵しています。</p> <p>自らの力で治療できないときは、薬を服用して治療能力を促進させるかまたは医師の力を頼って外科手術による故障部分の除去などにより、生生活動を回復させます。</p> <p>企業が事業を営み成長する過程は、あたかも人間の生生活動に似ていますが、根本的に異なるところは、企業が固有の活動力を内蔵しているのではなく経営者である人間によりその活動がなされるという点です。</p> <p>したがって、企業の活動機能の障害は、経営者においては自覚症状によって知ることしかできませんから、積極的に監視して発見しなければならないのです。ここに財務分析を導入する必要性が存在するのです。</p> <p>そこで、講義では財務分析の手法について説明し、さらに、事例研究を行いたいと思います。皆さんも、いずれ企業に就職なさったりあるいは独立して事業を起こすことでしょう。財務分析は、必ず役立つものとなるはずで。入門をお待ちしております。</p>
授業方法：	講義（10回）および討論（3回）。討論は、特定の受講生をレポーターに指名して行います。
履修の留意点：	「履修の手引き」に記されている教科書の第一章を読んでおくこと。 授業では、下記の教科書内容のプリント配布物や、その他の資料などを使用します。
目標と評価：	<p>この授業を受講した学生は、以下のことが出来るようになっているはずです。 また、そうなるように学習することを望みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・損益計算書の意味と特徴と見方 ・貸借対照表の意味と特徴と見方 ・キャッシュフロー計算書と意味と特徴と見方 ・資金体質図の意味と特徴と見方 ・関係比率の意味と特徴と見方 ・損益分岐点の意味と特徴と見方 <p>評価点は以下の項目毎に加算方式で算出します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席および議論における発言の積極性 [60] ・レポーター、質問者としての貢献、および小さな課題の提出状況 [40]
教科書：	これだけでわかる決算書〔読み方のコツ〕 税理士 堀江国明・原義彦 池田書店 平成15年5月20日〔発行〕以降のもの
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「資金調達論」（担当者：中野 正健）の履修の手引き

科目名：	資金調達論
担当者：	中野 正健
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>経済のグローバル化が進む中、金融業界も同業者間との合併、提携、そして異業種間との垣根の撤廃、海外企業の参入等、正にボーダレスの時代に突入。</p> <p>資金の調達、運用、投資戦略面を軸にした金融システムそのものが大きな変革の時代に突入した。</p> <p>この結果、各企業共に経営システムの改革を迫られることとなり、海外での変革動向も見据えながら、今後日本の金融業界は、どう再生、活性化していくべきか、この問題を探り上げる。</p>
授業方法：	講義と、より実践的に修得する目的で映像教育を実施する。
履修の留意点：	資金調達論と投資戦略論は、一貫して受講することが望まれる。
目標と評価：	<p>銀行、証券、保険、損保、消費者金融、政府系金融機関等、日本の金融機関の現状と将来像を学習する。</p> <p>評価は定期試験等。授業態度等平常点も考慮する。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「投資戦略論」（担当者：中野 正健）の履修の手引き

科目名：	投資戦略論
担当者：	中野 正健
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>経済のグローバル化が進む中、金融業界も同業者間との合併、提携、そして異業種間との垣根の撤廃、海外企業の参入等、正にボーダレスの時代に入りました。</p> <p>資金の運用、投資戦略面を軸にした金融システムそのものが大きな変革の時代に入りました。</p> <p>この結果、各企業共に経営システムの改革を迫られることとなり、海外での変革動向も見据えながら、今後日本の金融業界は、どう再生、活性化していくべきか、この問題を探り上げる。</p> <p>この間、国家、そして企業はどう戦略を企てて来ているか、その実像をビデオにて紹介。この実態をテイクノートし、今後実社会で役立ててほしい。</p>
授業方法：	講義と、より実践的に修得する目的で映像教育を実施する。
履修の留意点：	資金調達論と投資戦略論は、一貫して受講することが望まれる。
目標と評価：	<p>銀行、証券、保険、損保、消費者金融、政府系金融機関等、日本の金融機関の現状と将来像を学習する。</p> <p>評価は定期試験等。授業態度等平常点も考慮する。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中小企業経営論」（担当者：宮永 賢久）の履修の手引き

科目名：	中小企業経営論
担当者：	宮永 賢久
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>中小企業とよばれる企業規模の領域には、実に多数の業種、業態の企業が存在しています。あるいは耳にしたことがあると思いますが、「中小企業はわが国産業の礎」とか、「中小企業によって大企業は支えられている」と言われています。</p> <p>これらの中小企業について、全体像を簡単にとらえることは難しいのですが、産業の重要な部分を担っている事実を知って、正しくその動向や役割を理解することがとても大切です。</p> <p>この講義では、「最近の中小企業をめぐる動向」と「誕生、発展・成長する存在としての中小企業」の姿を学び、具体的に理解するするようにして下さい。皆さんが実社会へ出た時にしばしば出会う幾多の課題が、中小企業の生き様に必ず存在しているはずで、問題解決にそのことを知らずして当てることは、稚拙であり、産業人として資質を疑われかねません。</p> <p>授業では、中小企業白書を使いながら、複雑で多面的な動きを見せている中小企業の経営について、豊富な統計数値やグラフ、図にもとづき、課題や動向を理解していきましょう。</p>
授業方法：	講義（11回）、およびディスカッション（2回）。
履修の留意点：	<p>「中小企業論」は、一元的に把握することが難しく、ともすると学問的な観点が薄いと見がちですが、実はそうではなくて、広い分野で多くの学ぶべき事柄を我々に教えています。現実の経済・産業を理解する入り口であり、他方、永遠の問題をはらんでいるところでもあります。その中のいくつかの課題は、職業につけば、ただちに何らかの形で係りを持つようになります。身近な問題意識をもって、できるだけ広い視野と理解力をつけるようにして下さい。</p> <p>目標と評価： 中小企業を広く、深く捉え、抱えている問題を具体的に理解するようにして下さい。</p> <p>①中小企業の定義と特徴、これまで担ってきた産業・経済における役割 ②最近の中小企業の動向 ③デフレ下の中小企業と海外進出 ④創業と廃業問題 ⑤創業の促進（討論1） ⑥発展成長と経営革新 ⑦廃業・倒産問題（討論2） ⑧金融の課題 ⑨雇用創出と喪失問題（討論3） ⑩まちの起業家と経済活性化 ⑪中小企業の経営革新支援策（討論4） ⑫まちづくりと中小商業対策（討論5） ⑬ものづくりと技術開発支援 ⑭総括の討論（討論6）</p> <p>履修のためには次の事柄を留意すること。 ①日ごろから広い視野と問題意識を持って思考する態度を身に付けること。 ②そのために、経済誌やTV、INTの経済・産業記事に目を通しておくこと。</p>
目標と評価：	学期末レポート試験[70%]+出席点 [30%]
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ベンチャーキャピタル論」（担当者：飯島 寛之）の履修の手引き

科目名：	ベンチャーキャピタル論
担当者：	飯島 寛之
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>日本経済の長期停滞を背景に、新技術・産業社会を切り拓くベンチャー企業（VB）への期待が官民を問わず高まっている。同時に、従来型の銀行融資とは異なる形態でVBの設立にかかわり、ある程度の段階まで資金面のみならずその他の面においてもその成長に関わるベンチャーキャピタル（VC）にも注目が集まりつつある。だが、日本におけるベンチャーキャピタルの地位は欧米に比べて脆弱といわざるをえない。それどころか、「ベンチャーキャピタル」と聞いただけで怪しげな印象をもち、それを中小企業論の一分野として議論すること自体を問題とする声さえあることも事実である。一体ベンチャーキャピタルとはどのような存在なのか？日本のベンチャーキャピタルが抱える問題点とは何だろうか？本講義はベンチャーキャピタルの基本的仕組みを体系的に解説することはもちろん、VBの設立・育成にあたってベンチャーキャピタルの果たす役割や機能をベンチャーキャピタル先進国である欧米と比較しながら説明することで上記の疑問に答えていく。その上で、ベンチャーキャピタルのもつ機能を地域経済の活性化や産業政策へ応用するための方策や今後の課題について考えてみたいと思う。具体的な講義の内容・順序については初回の授業で説明を行う。</p>
授業方法：	<p>講義（12回）＋授業内試験。 講義中の発問に積極的に答えること、レジュメの空欄部分に積極的なメモが残されることを期待する。また、講義内容の理解度を確認するために、「理解度確認小テスト」を時折実施する。実施に際しては、予告するので欠席のないように。 なお、教科書・参考書の利用については、適宜指示する。</p>
履修の留意点：	<p>必ずしも前提とはしないが、ベンチャーキャピタルから資金面その他で支援を受け協力して企業の発展を目指すことを起業家側の立場から知る上でも「起業家論」を履修していること、またベンチャーキャピタルと他の金融機関との相違を明確にするために「金融論」や「資金調達論」および「証券論」を履修していれば広義を深く理解するための一助になるとと思われる。</p>
目標と評価：	<p>【目標】 本講義では、ベンチャーキャピタルやベンチャーキャピタリストについての基本的で正しい認識を身につけることを最大の目的としている。その上で、欧米との比較を踏まえ、日本のベンチャーキャピタルの現状についての的確に問題点を捉え、その方策について考えるとともに、ベンチャーキャピタルが日本および地域経済に果たす役割・可能性について考える力を養う。 講義ごとに「達成・理解すべき課題」を「学ナビ」に掲載するので、その「課題」を念頭に自ら考えて学習することを望む。</p> <p>【評価】 試験の結果に小テストおよび平常点を加味して総合的に評価する。</p>
教科書：	
参考書：	<p>【概論】日本のベンチャー・キャピタル 新座 保彦 ファーストプレス 2005年11月</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「事業創造論」（担当者：和田 耕治）の履修の手引き

科目名：	事業創造論
担当者：	和田 耕治
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	本講義では、起業、創業、新分野進出などといった企業のイノベーション、経営革新といった分野に焦点をあて、その理論を踏まえつつも具体的なケースを紹介しながら、歴史的、空間的な広がりの中での事業創造のあり方を考える。
授業方法：	講義形式による授業。 講義は以下の点に触れながら展開される。 1. 事業創造にかかわる理論 2. 企業のライフサイクル 3. 第一次ベンチャーブーム 4. 第二次ベンチャーブーム 5. 第三次ベンチャーブーム 6. ベンチャーキャピタルと証券市場 7. インキュベーション施設と地域プラットフォーム 8. 産学官連携と地域振興 9. ベンチャー支援政策の展開 10. ケーススタディー
履修の留意点：	ノートは取るようにしてください。
目標と評価：	学期末試験による評価
教科書：	ベンチャー企業経営論 金井・角田編 有斐閣 2002年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「事業創造論」（担当者：和田 耕治）の履修の手引き

科目名：	事業創造論
担当者：	和田 耕治
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	本講義では、起業、創業、新分野進出などといった企業のイノベーション、経営革新といった分野に焦点をあて、その理論を踏まえつつも具体的なケースを紹介しながら、歴史的、空間的な広がりの中での事業創造のあり方を考える。
授業方法：	講義形式による授業。 講義は以下の点に触れながら展開される。 1. 事業創造にかかわる理論 2. 企業のライフサイクル 3. 第一次ベンチャーブーム 4. 第二次ベンチャーブーム 5. 第三次ベンチャーブーム 6. ベンチャーキャピタルと証券市場 7. インキュベーション施設と地域プラットフォーム 8. 産学官連携と地域振興 9. ベンチャー支援政策の展開 10. ケーススタディー
履修の留意点：	ノートは取るようにしてください。
目標と評価：	学期末試験による評価
教科書：	ベンチャー企業経営論 金井・角田編 有斐閣 2002年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「産業集積論」（担当者：平井 東幸）の履修の手引き

科目名：	産業集積論
担当者：	平井 東幸
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>京都・西陣などの伝統的な繊維産地、日立などの企業城下町、東京・渋谷の商業・情報産業・エンターテインメントなどの複合集積、杉並区のアニメ産業、アキバの電気／IT集積、・・・これらはいずれも特定地域に特定の産業が集中して立地することでメリットを発揮するもので、産業集積といえます。</p> <p>都市や地域の活性化の切り札のひとつとして、このような産業集積が注目を集めています。それをどう活用したらよいかなどを考えていきます。地元の多摩地域の工業集積についても取上げます。</p> <p>講義の主要な項目は次の通りです（予定）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 産業集積の定義と分類・・・産業クラスターとは 2 その役割・・・地域経済社会への貢献 3 なぜ今、注目されるのか 4 工業集積・・・産地（繊維、眼鏡、陶磁器など）、工業団地、企業城下町 5 商業集積・・・商店街、流通団地、ショッピングセンター 6 複合集積・・・東京・渋谷、アキバ 7 多摩地区の産業集積・・・地元の産業形成の歴史ほか 8 集積が形成される歴史的な要因背景 9 集積のメリットとデメリット 10 産業集積が直面する課題と展望
授業方法：	毎回、プリントを配布します。教科書は使用しません。ビデオの上映、外部講師の招聘もする予定です。身近な話題を取上げて、産業集積についての理解を深めてもらえるような授業をいたします。
履修の留意点：	とくにありません。
目標と評価：	<p>目標と評価： 上記の概要で触れたように、産業集積が、モノ作りを基盤とするわが国経済社会を支えてきたこと、そして都市や地域の活性化の有力な手段であることを理解していただきたい。</p> <p>評価については、出席・平常点と定期試験によります。</p>
教科書：	
参考書：	『産業集積の本質』 有斐閣

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営分析論Ⅰ」（担当者：長谷川 美千留）の履修の手引き

科目名：	経営分析論Ⅰ
担当者：	長谷川 美千留
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	この授業では、簿記や会計に関する知識を基礎として、企業の実態を読み取ることを目的としています。その場合、大変重要な役割を果たすのは、会計情報すなわち企業から提供される財務諸表ということになります。ただ財務諸表をながめるのではなく、経営分析独自の財務指標を用いて、当該企業の収益性、安全性、効率性、成長性、生産性など順次検討していきます。これらの概念について考えておくことは重要です。また、財務指標ばかりでなく、より包括的に、そして総体的に企業を見ていくために、ビジネス雑誌に取り上げられる企業の最新の情報や記事内容などを検討します。自分なりの企業観や経営観をもって、企業を分析していきましょう。
授業方法：	講義形式ですが、時折、簡単な質問に答えてもらうこと（口頭・筆記）もあります。
履修の留意点：	私語など自分勝手な行動は、絶対にしないこと。
目標と評価：	期末のレポート課題により評価します。
教科書：	ビジネスゼミナール経営分析入門 森田松太郎 日本経済新聞社 2002年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営分析論Ⅱ」（担当者：井上 行忠）の履修の手引き

科目名：	経営分析論Ⅱ
担当者：	井上 行忠
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	経営分析論2においては、経営分析論1に引き続いて、企業の実態を読み取るためのツールを身に着けます。収益性、安全性、効率性、生産性、成長性などさまざまな視点があります。それらを複合的にもちいて企業の全体像を明らかにしていくことが重要です。新聞とくに経済新聞の記事や、経済誌から当該企業を取り巻く環境や経営陣の考え、経営理念などについても検討したり、財務諸表から様々な財務指標を算出し、包括的な企業分析をしましょう。
授業方法：	講義形式です。授業中簡単な質問に（口頭・筆記）答えてもらうこともあります。
履修の留意点：	私語など、授業の妨げになることは絶対にしないこと。
目標と評価：	期末レポートによる評価。
教科書：	ビジネスゼミナール経営分析入門 森田松太郎 日本経済新聞社 2002年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「人的資源Ⅰ」（担当者：南雲 智映）の履修の手引き

科目名：	人的資源Ⅰ
担当者：	南雲 智映
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>企業などの経営資源としてヒト・モノ・カネ・情報というものがあげられるが、この講義はそのうちの「ヒト」（人的資源）を扱う。具体的には、企業の従業員もしくは労働者といわれる人たちを企業その他の組織体がどのように管理しているのかということに焦点を当てる。</p> <p>「人的資源Ⅰ」では主に、雇用管理（だれをどのくらい雇うのか）、人事管理（従業員をどのように格づけし評価するか）、賃金管理（どのように賃金を決めるか）、昇進管理（だれをどのように昇進させるか）といった話題について講義を行う予定である。</p>
授業方法：	講義形式が基本。また、授業中に課題を出す。人的資源に関する統計データに触れたり、特定のテーマについて皆で考えるという時間をできるだけとりたい。
履修の留意点：	秋学期に「人的資源Ⅱ」も併せて履修すると、理解が深まると思われる。
目標と評価：	<p>まずは、企業等が人的資源をどのように管理しているかを理解してもらうこと、そして次のステップとして、人的資本に関する基本的な資料・統計にはどのようなものがあるかを理解してもらい、自分の興味に合わせてそれらを調べられるようになることを目標とする。</p> <p>評価は期末テストの点数が基本である。それに加えて、課題の得点状況を加味する。</p>
教科書：	〔新版〕新しい人事労務管理 佐藤博樹・藤村博之・八代充史 有斐閣アルマ 2003/03
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「人的資源Ⅱ」（担当者：熊迫 真一）の履修の手引き

科目名：	人的資源Ⅱ
担当者：	熊迫 真一
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>従業員（もしくは労働者）は企業等の人的資源という側面があるとともに、社会生活を営む人間だという側面もある。そしてそれゆえに、働く上でさまざまな規制が存在しているし、政府や企業によってさまざまな支援がなされている。また、従業員（労働者）の能力開発の必要性も生じるし、企業としては従業員（労働者）との関係を良好に保つことが大切になってくる。</p> <p>「人的資源Ⅱ」ではこういった側面に注意しながら、主に、賃金管理（どのように賃金を決めるか）、昇進管理（だれをどのように昇進させるか）、労働時間管理（どれくらい働いてもらうか）、能力開発（どのような能力をつけてもらうか）、福利厚生（給料以外の報酬）、労使関係（雇う側と雇われる側の関係）といった話題について講義を行う予定である。</p>
授業方法：	講義形式が基本。また、授業中に課題を出し、人的資源に関する統計知識をつけてもらったり、関連テーマについて皆で考えたりする時間をとりたい。
履修の留意点：	人的資源を管理するための仕組みは、さまざまな要素が複雑にからまってできている。それゆえ、春学期の「人的資源Ⅰ」を履修していることが望ましいが、履修していなくとも対応できるように配慮する。
目標と評価：	ヒューマン・リソース・マネジメントのさまざまな側面と役割について理解してもらうこと、そして、各自の興味に応じて自分で統計資料やケースを調べられるようになってもらうことが目標である。評価は期末テストの点数が基本である。それに加えて、課題への解答状況を加味する予定である。
教科書：	〔新版〕新しい人事労務管理 佐藤博樹・藤村博之・八代充史 有斐閣アルマ 2003/02
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営プレゼンテーション論」（担当者：山際 基）の履修の手引き

科目名：	経営プレゼンテーション論
担当者：	山際 基
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	企業活動において会議や営業の際にはプレゼンテーションソフトを利用して活動を行うことが常識的になっている。本講義はプレゼンテーションソフトウェアの基本的な使用法から、わかりやすいプレゼンテーションを行うまでの一連の作業について実習を通して習得することが目的である。プレゼンテーションの内容を充実させるためには、単にプレゼンテーションソフトウェアを使いこなせばよいだけではない。他のソフトウェアや周辺機器をうまく使いこなせなければならない。よってプレゼンテーションソフトウェアだけでなく、プレゼンテーションに関する様々な内容について実習を進めていく。
授業方法：	ノートパソコンはもちろんのこと様々な機器を使用して実習形式で行う。
履修の留意点：	ノートパソコンを毎回持参すること。
目標と評価：	プレゼンテーションを行うときにプレゼンテーションソフトウェアを用いて、的確な効果、理解しやすくまとまった内容を構成できるようになることが目標である。 評価は期末課題（プレゼンテーションの出来具合）、平常講義時の課題によって行う。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営プレゼンテーション論」（担当者：山際 基）の履修の手引き

科目名：	経営プレゼンテーション論
担当者：	山際 基
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	企業活動において会議や営業の際にはプレゼンテーションソフトを利用して活動を行うことが常識的になっている。本講義はプレゼンテーションソフトウェアの基本的な使用法から、わかりやすいプレゼンテーションを行うまでの一連の作業について実習を通して習得することが目的である。プレゼンテーションの内容を充実させるためには、単にプレゼンテーションソフトウェアを使いこなせばよいだけではない。他のソフトウェアや周辺機器をうまく使いこなせなければならない。よってプレゼンテーションソフトウェアだけでなく、プレゼンテーションに関する様々な内容について実習を進めていく。
授業方法：	ノートパソコンはもちろんのこと様々な機器を使用して実習形式で行う。
履修の留意点：	ノートパソコンを毎回持参すること。
目標と評価：	プレゼンテーションを行うときにプレゼンテーションソフトウェアを用いて、的確な効果、理解しやすくまとまった内容を構成できるようになることが目標である。 評価は期末課題（プレゼンテーションの出来具合）、平常講義時の課題によって行う。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「多国籍企業論」（担当者：飯田 治）の履修の手引き

科目名：	多国籍企業論
担当者：	飯田 治
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	多国籍企業という言葉が常用されなくなって久しいが、グローバル市場経済が現実となった現在、国境を越えて事業を展開する企業は世界各国に多数存在する。まず、こうした地球規模で活動する代表的な日本企業をとりあげて、なぜそうするのか、必然的な理由を探り、そのためにはどのような手段をどのような手順を踏んで実行していったのか、そのプロセスをたどりながら、展開の過程でどのような問題があるのか、それをどう乗り越えていったのかを易しく解説してゆきます。今後の課題は何かを一緒に考え、経営戦略としての海外展開について学びます。
授業方法：	講義を中心としますが、各時限の最終10分程度で受講生に討論をしてもらいたいと思います。教科書は使いませんが、参考文献や図書の推奨、また資料配布をすることがあります。
履修の留意点：	経営学の基礎知識があるのが望ましいが、必ずしも必要としない。日々、日本や世界で起きている経済ニュースに興味を持って欲しいので新聞の経済欄には目を配って欲しい。教科書を使わないので、出席が大切です。
目標と評価：	日常生活と企業の海外活動との関連がより身近に理解できるようになり企業の経営戦略としての海外展開への関心が高まります。将来、海外で仕事をしてみたいと思う受講生が出てくれれば最高です。討論への積極参加を評価の40%とし、期末レポートを60%とします。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営史」（担当者：小沢 勝之）の履修の手引き

科目名：	経営史
担当者：	小沢 勝之
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	コンビニエンス・ストアのセブンイレブンやアメリカのGM自動車会社など、現代を代表する企業の発展の軌跡を明らかにする授業です。理論よりも実際の企業が行ってきた経営革新の軌跡を比較検討して、現代企業の成り立ちや経営の特徴を明らかにします。経営史は、経営の歴史を学ぶ学問ですが、決して古い時代を扱うものではありません。現代の企業経営をより深く理解するために、その成り立ちや特徴を実際の企業の経験の比較から明らかにして行きます。
授業方法：	そのため、理論だけでなく、むしろ実際の企業が行ってきた経営革新の事例（ケース）を多数紹介します。講義が中心ですが、事例を紹介しながら、もしあなたが経営者ならどちらの戦略を採用しますか？、などの質問をして、答えてもらい、そのうえでディスカッションする形の授業を多くしたいと思っています。
履修の留意点：	多数の事例（ケース）を紹介しますのでノートを工夫してとってください。
目標と評価：	経営史の基本的な見方ができ、自分でも実際の企業を調べてみるができるようになることが、目標です。評価は授業中の発言態度と、期末のレポート（授業での解説と自分で調べたことを統合したもの）を総合して評価します。
教科書：	ありません
参考書：	授業中に紹介します。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「商品企画」（担当者：小林 伸行）の履修の手引き

科目名：	商品企画
担当者：	小林 伸行
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>日本経済の活力が将来も持続するために、次世代の人びとによる「モノづくり」が注目されています。国の内外で評価される日本の技術や技能は、高度な工業製品や電子機器を生み出すばかりではなく、私たちの身のまわりのヒット商品や有益なサービスにも多く生かされています。</p> <p>「商品企画」とは、こうした企業のモノづくりに欠かせない知的技術の一分野です。思いつきや個人の感性に頼る企画作業には限界があるため、「商品企画」では技術的なアプローチが求められます。また、「商品企画」はマーケティングや商品開発と深く関わり合い、商品の市場価値を高める重要な役割を担っています。こうして生まれた市場性の高い商品は、私たちのライフスタイルを変え、また広く社会の発展に寄与することも稀ではないでしょう。「商品企画」がもたらす効果は、私たちの生活に無縁ではありません。</p> <p>この講義では、企画の実践を理解する手立てとして対象を旅行商品とします。日常品ではありませんが目の前には膨大な旅行商品があります。そして旅行産業の成熟にもなって様々な企画提案に基く商品が世に送り出されています。私たちはその商品のお客である視点を持ちつつ、プランナーと呼ばれる企画者の技術を研究・実践し、併せて旅行業界の今も学んでいきます。</p>
授業方法：	<p>講義形式をとります。（13回） また、演習を取り入れます。 講義資料は適宜その内容をプリントで配布します。</p> <p>講義テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「商品企画」 概論 ● 「商品企画」とマーケティング ● 商品企画と開発 ● 発想を科学する ● 発想法 ● 連想に取り組む ● 企画を書く ● 旅行商品について ● 旅行商品の企画 ● 企画の発表
履修の留意点：	<p>受講への関心を自ら高めるためには講義内容に則し、身の回りの商品について日頃から強い好奇心と熱心な観察力を持つことが望まれます。</p> <p>興味を引かれた商品については以下の着眼点に沿った商品情報の収集とまとめに心がけてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 商品名と商品分類（用途）製造元（国籍） ・ 商品を見つけた理由やきっかけ（広告媒体の分類、検索の動機） ・ 商品内容の把握（簡潔な文章整理） ・ 実際に買った、使った動機や理由と感想。（ネーミング、デザイン、品質、信頼性） ・ または、興味はあるが買わない理由。
目標と評価：	<p>演習などを通して企画文章や企画構成の「表現」についての理解を深めます。「企画」の意図を表現し、それを伝える力を評価します。積極的な受講姿勢を期待します。</p> <p>評価点は以下のとおりにおこないます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「平常評価」を行います。 ● 受講姿勢を重視します。（30%） ● 講義でおこなう商品企画の「考案」や「実践」の小レポートで表現される着眼点やプロセスのみならず「企画」の意図や内容の伝える力を評価します。 ● 受講演習と期末課題レポート。（70%）
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「広報・宣伝企画」（担当者：井上 泰日子）の履修の手引き

科目名：	広報・宣伝企画
担当者：	井上 泰日子
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>広報・宣伝の基礎から、ビジネス社会での具体的な活用方法までを考え整理します。また、メディアは第4の権力と言われますが、「メディアとは何か」、あるいは「情報化社会とは何か」を十分理解していないと有効な広報・宣伝が出来ません。よって、この観点からの説明も行います。</p> <p>尚、広報と宣伝は共通点もありますが、基本的には異なるものです。この違いについても明らかにしたいと考えています。</p> <p>講義テーマ： ● 広報・宣伝概要 ● 広告クリエイティブに関して ● 各種広報活動 ● 情報の氾濫と教育に関して ● メディアとは何か ● マーケティング戦略と宣伝企画 ● 広告代理店に関して ● 広告媒体に関して ● 広報の歴史 ● プロモーションに関して （注）2回の演習を予定</p>
授業方法：	<p>（1）前述のテーマに関する講義にて、「広報・宣伝とは何か」、「メディアとは何か」に関する基礎知識の理解を目指します。</p> <p>（2）期の中間と最後の2回の授業では、演習として、皆さんが企業の広報あるいは宣伝担当になったと想定し、実際に広報・宣伝企画の作業を行い各自発表します。 （注）演習では、受講者全員の発表を予定していますが、時間の制約がある場合は、選抜メンバーにて行います。</p> <p>（3）学期末には、「広報・宣伝」あるいは「メディア」に関するレポート提出を予定しています。</p>
履修の留意点：	<p>（1）現代社会は各種情報が氾濫している社会です。有意義な情報もあれば間違った情報、また特定の意図で流された情報もあります。このような時代での情報戦略に関心のある方の受講をおすすめします。</p> <p>（2）「メディアとは何か」を実生活の中でより深く理解するため、日常生活の中で新聞、テレビ、雑誌など各種媒体に、今まで以上に興味を持って接することをおすすめします。</p> <p>（3）政治、外交、経済などの各テーマに関し、各種メディアが、どのように報道しているかに注目して観察してみることをおすすめします。</p> <p>（4）日常生活で目にした宣伝活動の中で、「特に良い宣伝（広告、コマーシャルも含む）」、あるいは「特に悪い宣伝」だと感じるものがあれば、何故良いか、何故悪いかを自分なりに分析することをおすすめします。</p>
目標と評価：	<p>現代社会においての、「広報・宣伝企画の手法」、「情報戦略」、「メディアとは何か」などの基礎を習得することを目標とします。</p> <p>評価は、学期末レポートを40%、通常講義中における活動を60%程度とします。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営情報論Ⅰ」（担当者：田中 明通）の履修の手引き

科目名：	経営情報論Ⅰ
担当者：	田中 明通
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>企業経営における情報通信技術(IT)の重要度は、情報系企業のみならず業種を超えて高まってきており、ITを活用できる人材が強く求められるようになっていきます。また、ITは日常生活にも深く浸透しており、ITに全く触れないで1日を過ごすことなど不可能になっています。</p> <p>本講義では、様々な経営活動に活用できる情報関連技術について、歴史、制度、等も含めて基礎知識の習得を目的として学習を進めます。特に重要なポイントについては、演習を通して、実際に自分で活用できるまで、学習を深めます。またこれらの技術が日常生活の中にも入り込んでいることも、合わせて学習します。</p> <p>情報関連分野は変化が激しく、社会の変動とも同期しています。そのため、常に最新情報を追いかけることが重要です。講義を通して、最新情報の収集の仕方も身につけられるように配慮します。</p> <p>範囲としては、基本情報処理技術者試験の出題範囲の内、セキュリティと標準化、情報化と経営の内容(企業会計を除く)を扱います。経営情報論Ⅰでの具体的な内容は、下記を予定しています。</p> <p>(1)セキュリティとその管理法 (2)標準化 (3)情報戦略</p>
授業方法：	<p>基本的には講義を中心としますが、インターネットからの情報収集、PCを操作して行う演習、レポート、プレゼンテーション等を適宜取り入れていきます。また、e-Campusをフルに活用するため、毎回の授業ではノートPCが必須となります。e-Campusに無線LANカードで接続できるように準備をしておいて下さい。</p>
履修の留意点：	<p>授業中e-Campusへの接続が必須ですので、講義が始まるまでにe-Campusネットワークに無線LANで接続できるようにしておいて下さい。基本的PC操作(インターネットへの接続、ワープロ・表計算ソフトの使用等)は習得していることを前提としますので、もしも自信がない場合には復習しておいて下さい。</p>
目標と評価：	<p>中間レポートおよび期末の筆記試験により評価します。講義中のアクティビティについては、特に優れたものについてはプラス点として加味して採点します。</p> <p>本講義では、以下の1~3の点について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識を得て、理解を深めること、 ・重要なポイントについては自分で活用できるようになること、 ・日常生活にも浸透していることを知ること、 <p>を目標とします。</p> <p>1. セキュリティの重要性、セキュリティ対策の手法、セキュリティポリシー 2. 標準化の重要性、標準規格の例、標準化のための組織 3. 企業組織の形態、情報化戦略</p> <p>さらに、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・IT関連の最新情報を収集する方法を身につけること、 <p>も目標とします。</p>
教科書：	
参考書：	セキュリティと標準化・情報化と経営 平井利明他 実教出版 2003年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営情報論 I」（担当者：南 憲一）の履修の手引き

科目名：	経営情報論 I
担当者：	南 憲一
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>企業経営と情報化に関連した内容について学ぶ。基本情報技術者の試験範囲に従って学習を進め、初級システムアドミニストレータ試験の当該範囲についても考慮する。</p> <p>(内容)</p> <p>情報戦略 企業会計 経営工学 情報システムの活用（エンジニアリングシステム） 情報システムの活用（ビジネスシステム） 関連法規</p>
授業方法：	パソコンを使用しながら授業を進めていくので、ノートパソコンを必ず持参すること。
履修の留意点：	嘉悦e-Campusを活用して授業を進めるので、授業時間内だけでなく自宅でも授業情報のページを開き、予習・復習に役立てること。
目標と評価：	<p>目標 基本情報技術者試験の「情報化と経営」「セキュリティと標準化」の範囲、および、初級システムアドミニストレータ試験の当該範囲の問題が解けることを目標とする。</p> <p>評価 定期試験で評価する</p>
教科書：	基本情報技術者試験 標準基礎テキスト(2) ネットワークと情報化の総合研究 藤山秋良 他 技術評論社 2001年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営情報論Ⅱ」（担当者：田中 明通）の履修の手引き

科目名：	経営情報論Ⅱ
担当者：	田中 明通
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>本講義では、経営情報論Ⅰの講義に続いて、様々な経営活動に活用できる情報関連技術について、歴史、制度、等も含めて基礎知識の習得を目的として学習を進めます。範囲としては、基本情報処理技術者試験の出題範囲の内、セキュリティと標準化、情報化と経営の内容(企業会計を除く)を扱います。経営情報論Ⅰでの具体的な内容は、下記を予定しています。</p> <p>(1) 経営工学 (2) 情報システムの活用 (3) 関連法規</p>
授業方法：	<p>基本的には講義を中心としますが、インターネットからの情報収集、PCを操作して行う演習、レポート、プレゼンテーション等を適宜取り入れていきます。また、e-Campusをフルに活用するため、毎回の授業ではノートPCが必須となります。e-Campusに無線LANカードで接続できるように準備をしておいて下さい。</p>
履修の留意点：	<p>授業中e-Campusへの接続が必須ですので、講義が始まるまでにe-Campusネットワークに無線LANで接続できるようにしておいて下さい。基本的PC操作(インターネットへの接続、ワープロ・表計算ソフトの使用等)は習得していることを前提としますので、もしも自信がない場合には復習しておいて下さい。</p>
目標と評価：	<p>中間レポートおよび期末の筆記試験により評価します。講義中のアクティビティについては、特に優れたものについてはプラス点として加味して採点します。</p> <p>本講義では、以下の1~3の点について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識を得て、理解を深めること、 ・重要なポイントについては自分で活用できるようになること、 ・日常生活にも浸透していることを知ること、 <p>を目標とします。</p> <p>1. 経営工学で使われるツール、図表類 2. 情報システムの種類、特徴 3. 知的財産に関する法規の種類、目的</p> <p>さらに、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・IT関連の最新情報を収集する方法を身につけること、 <p>も目標とします。</p>
教科書：	
参考書：	セキュリティと標準化・情報化と経営 平井利明他 実教出版 2003年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営情報論Ⅱ」（担当者：南 憲一）の履修の手引き

科目名：	経営情報論Ⅱ
担当者：	南 憲一
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>企業経営とネットワーク・セキュリティ・標準化に関連した内容について学ぶ。基本情報技術者の試験範囲に従って学習を進め、初級システムアドミニストレータ試験の当該範囲についても考慮する。</p> <p>(内容)</p> <p>通信ネットワーク ネットワークアーキテクチャ ローカルエリアネットワーク セキュリティ 標準化</p>
授業方法：	パソコンを使用しながら授業を進めていくので、ノートパソコンを必ず持参すること。
履修の留意点：	嘉悦e-Campusを活用して授業を進めるので、授業時間内だけでなく自宅でも授業情報のページを開き、予習・復習に役立てること。
目標と評価：	<p>目標 基本情報技術者試験の「情報化と経営」、「セキュリティと標準化」の範囲、および、初級システムアドミニストレータ試験の当該範囲の問題が解けることを目標とする。</p> <p>評価 定期試験で評価する</p>
教科書：	基本情報技術者試験 標準基礎テキスト(2) ネットワークと情報化の総合研究 藤山秋良 他 技術評論社 2001年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ネットワークビジネス論」（担当者：滑川 光裕）の履修の手引き

科目名：	ネットワークビジネス論
担当者：	滑川 光裕
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	ネットワークビジネスを知るためには、まず知的所有権について知る必要がある。知的所有権には、工業所有権と著作権があり、これらが知的労働をコンピュータのコピー文化から保護する役目をしている。しかしながら、近年では、「ビジネスモデル特許」といわれるものが表れ、工業所有権の仕組みによってビジネスの方法を保護する動きがある。しかしながら、知的所有権は、昔から国際勢力による「グレイゾーン」があり、難しい側面を持っている。 また、P2P（ピアツーピア）という技術により、特に著作権の保護が難しくなっている。しかし、これについても今後は、新たな情報技術とビジネスモデルの導入によって解決が図られるものと思われる。これについては、音楽関係部門を持つ幾つかの先進企業が様々な取り組みをしている。 以上について、ネットワークビジネスを技術と法律の面からの考察を行う。
授業方法：	講義形式で行う。授業中に小テスト・レポート提出を行う。
履修の留意点：	特になし。
目標と評価：	授業中の小テスト・レポートと期末テストによる評価を行う。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営管理論Ⅱ」（担当者：吉沢 正広）の履修の手引き

科目名：	経営管理論Ⅱ
担当者：	吉沢 正広
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	経営管理論Ⅱは、経営管理論Ⅰを履修したことを前提に、さらに学生に経営管理論について基礎的な知識を提供することを目的としている。講義に対する姿勢は、春学期と同様である。経営管理論の多様な側面を学生諸君と一緒に勉強していきたい。そこには学生諸君の積極的な参加の姿勢が是非とも必要となることを付言しておきたい。
授業方法：	基本的には指定したテキストの内容に基づいて講義を展開したい。しかし、一方的な知識の伝達は避けたいと思っている。講義内容の確認テスト、レポートなど、また講義中の学生への質問等、双方向の講義を心がけたい。必要に応じて日本経済新聞など学生にとって有益と思われる記事をプリントして配布します。そうしたアップデートな知識の提供と吸収も考えています。
履修の留意点：	経営学はきわめて学際的な学問分野なので、経済学や法律学や社会学などの科目を意欲的に勉強しておいて下さい。これは学生にとってとても意義あることだと思います。出席については、これを前提に講義を進めますので休みが多くなると当然ながら講義も理解できなくなります。また講義中の小テストやレポートも提出できなくなりますので注意してください。それから最低限の礼儀やエチケットを守れない学生、例えば、周囲の学生の迷惑となる私語や携帯電話の使用などは厳しく対処するつもりです。
目標と評価：	基本的には期末の試験が大きなウエイトを占めることになります。講義の間の小テストやレポートも評価の対象にしますので、出席をきちんとして、そして試験を頑張るという姿勢を大切にしてください。
教科書：	マネジメント基本全集 11 『経営管理（マネジメント）』 根本孝 学文社 2006年1月
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「組織心理学」（担当者：石川 直弘）の履修の手引き

科目名：	組織心理学
担当者：	石川 直弘
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	組織の人間行動について学ぶ。 採用と人事配置、職場環境とリーダーシップ、働く人のモチベーション、ストレスとヒューマン・エラー等の問題を中心にして、組織における人の行動を実証的に学んでいく。
授業方法：	通常の講義形式で授業を行う。
履修の留意点：	「人間の行動を通俗的に解釈するのではなく、科学的に説明する」という基本的な枠組みを常に意識して学習する。
目標と評価：	定期試験の成績によって評価を行う。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営戦略論Ⅰ」（担当者：松行 彬子）の履修の手引き

科目名：	経営戦略論Ⅰ
担当者：	松行 彬子
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>現代企業による経営戦略は、1980年代後半を境として、企業を取り囲む経営環境の急激な変化に対応して、大きく変容した。それは、従来の「競争」重視の経営戦略から、「協力と競争」重視の経営戦略へと、明らかにパラダイム転換が行われた。このような経営戦略転換を踏まえて、本講では、まず、経営戦略論を理解するために必要とされる基本的知識を講義する。さらに、従来の伝統的な経営戦略理論から現在の先端的理論にいたるまでの主要な理論を事例をも含め紹介する。そして、日本企業が真のグローバル企業として成長・発展するための経営戦略もあわせて検討・考察する。</p> <p>本年度から経営戦略論Ⅰは春学期・Ⅱは秋学期に講義することとなった。春・秋で一貫した授業となるので、できるだけ続いて受講してほしい。とくに、Ⅰでは基本的な概念、理論およびケースを学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経営戦略の概念 2. 経営戦略の構造 3. 経営戦略の策定 4. 主要な経営戦略の理論（ドメイン戦略、競争戦略、資源戦略） 5. 戦略的提携とM&A
授業方法：	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義を中心とする。 2. 理解を深めるためにスライドやビデオ等視聴覚教材を併用する。 3. ケース・スタディをできるだけ取り入れる。
履修の留意点：	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業計画は、受講者の学習進度により変更することがある。 2. カード・リーダーにより出席をとるので、学生証を携帯すること
目標と評価：	<p>評価は主に出席・期末試験によるが、小テスト・授業時の発表・受講態度等も加味して評価する</p>
教科書：	教科書：『組織間学習論—創発のマネジメンター—』 松行康夫・松行彬子 白桃書房 2002年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営戦略論Ⅱ」（担当者：松行 彬子）の履修の手引き

科目名：	経営戦略論Ⅱ
担当者：	松行 彬子
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>春学期の経営学Ⅰと同様である。 経営戦略論Ⅱを受ける学生はⅠを履修するのが望ましい。 特に、本講義では、Ⅰを基礎にして、現代の経営戦略に焦点を当て、いろいろなケースを解き明かしたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主要な経営戦略の理論とケース 2. 戦略的提携とケース 3. M&Aとケース 4. 企業の社会的貢献 5. コンプライアンス経営
授業方法：	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義を中心とする。 2. 理解を深めるためにスライドやビデオ等視聴覚教材を併用する。 3. ケース・スタディをできるだけ取り入れる
履修の留意点：	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業計画は、受講者の学習進度により変更することがある。 2. カード・リーダーにより出席をとるので、学生証を携帯すること
目標と評価：	<p>本講義を通じて、現代の企業行動に注目して、その意味を探ってほしい。</p> <p>評価は、出席・期末試験・小テスト・授業時の発表・受講態度等により評価する</p>
教科書：	『組織間学習論—創発のマネジメント—』 松行康夫・松行彬子 白桃書房 2002年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「産業政策論」（担当者：飯島 正義）の履修の手引き

科目名：	産業政策論
担当者：	飯島 正義
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	戦後の日本の産業政策について概説します。そして、基礎産業、先端技術産業、衰退産業などの分野に分けて産業政策がどのように展開されてきたのかを説明していきます。ただし、中小企業政策については中小企業論で概説します。
授業方法：	講義形式で行います。
履修の留意点：	出席回数に注意してください。
目標と評価：	戦後展開されてきた日本の産業政策について歴史的・経済的に理解を深めることを目標とする。評価は、授業中に行う確認、レポート等で総合的に評価します。
教科書：	使用しません。資料を配布します。
参考書：	必要に応じて紹介します。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「産業政策論」（担当者：飯島 正義）の履修の手引き

科目名：	産業政策論
担当者：	飯島 正義
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	戦後の日本の産業政策について概説します。そして、基礎産業、先端技術産業、衰退産業などの分野に分けて産業政策がどのように展開されてきたのかを説明していきます。ただし、中小企業政策については中小企業論で概説します。
授業方法：	講義形式で行います。
履修の留意点：	出席回数に注意してください。
目標と評価：	戦後展開されてきた日本の産業政策について歴史的・経済的に理解を深めることを目標とする。評価は、授業中に行う確認、レポート等で総合的に評価します。
教科書：	使用しません。資料を配布します。
参考書：	必要に応じて紹介します。

※最終評価は、評価点7割，出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ファイナンシャルベーシック（FP講座）」（担当者：梶原 稔）の履修の手引き

科目名：	ファイナンシャルベーシック（FP講座）
担当者：	梶原 稔
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>3級FP技能士取得をめざした講座です。受験しない方でも、日常生活に役立つ内容です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ライフプランニングと資金計画 <ul style="list-style-type: none"> (ア) ライフプランニングの基本 (イ) 人生の3大支出：教育資金・住宅資金・老後資金 (ウ) 社会保障制度：労働保険・健康保険・公的年金 2. リスク管理 <ul style="list-style-type: none"> (ア) 保険の仕組み (イ) 生命保険 (ウ) 損害保険 (エ) 保険と税金 3. 金融資産運用設計 <ul style="list-style-type: none"> (ア) 経済の基礎知識：金利と利回り (イ) 貯蓄型金融商品の知識：預金保険制度 (ウ) 投資型金融商品の知識：債権・株式・投資信託・外貨建て商品 (エ) ポートフォリオ 4. タックスプランニング <ul style="list-style-type: none"> (ア) 所得税の計算と申告手続き (イ) 住民税の仕組み 5. 不動産 <ul style="list-style-type: none"> (ア) 不動産にかかる知識：民法・借地借家法 (イ) 不動産に関する法令上の制限：建築基準法他 (ウ) 不動産にかかる税金 (エ) 不動産の有効活用と不動産の証券化 6. 相続・事業承継設計 <ul style="list-style-type: none"> (ア) 相続の基礎知識：民法 (イ) 相続税の計算 (ウ) 贈与の仕組みと贈与税 (エ) 財産評価 (オ) 相続対策
授業方法：	
履修の留意点：	
目標と評価：	
教科書：	FP技能士3級試験 [最短]集中ゼミ ㈱かんき出版 2006
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ライフプランニング(FP講座)」(担当者:梶原 稔)の履修の手引き

科目名:	ライフプランニング(FP講座)
担当者:	梶原 稔
設置学期:	秋
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	<p>3級FP技能士取得をめざした講座です。受験しない方でも、日常生活に役立つ内容です。</p> <p>1. ライフプランニングと資金計画 (ア)ライフプランニングの基本 (イ)人生の3大支出:教育資金・住宅資金・老後資金 (ウ)社会保障制度:労働保険・健康保険・公的年金</p> <p>2. リスク管理 (ア)保険の仕組み (イ)生命保険 (ウ)損害保険 (エ)保険と税金</p> <p>3. 金融資産運用設計 (ア)経済の基礎知識:金利と利回り (イ)貯蓄型金融商品の知識:預金保険制度 (ウ)投資型金融商品の知識:債権・株式・投資信託・外貨建て商品 (エ)ポートフォリオ</p> <p>4. タックスプランニング (ア)所得税の計算と申告手続き (イ)住民税の仕組み</p> <p>5. 不動産 (ア)不動産にかかる知識:民法・借地借家法 (イ)不動産に関する法令上の制限:建築基準法他 (ウ)不動産にかかる税金 (エ)不動産の有効活用と不動産の証券化</p> <p>6. 相続・事業承継設計 (ア)相続の基礎知識:民法 (イ)相続税の計算 (ウ)贈与の仕組みと贈与税 (エ)財産評価 (オ)相続対策</p>
授業方法:	
履修の留意点:	
目標と評価:	
教科書:	FP技能士3級試験 [最短]集中ゼミ (株)かんき出版 2005
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「タックスプランニングⅠ」（担当者：梶原 稔）の履修の手引き

科目名：	タックスプランニングⅠ
担当者：	梶原 稔
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>3級FP技能士取得をめざした講座です。受験しない方でも、日常生活に役立つ内容です。</p> <p>1. ライフプランニングと資金計画 (ア) ライフプランニングの基本 (イ) 人生の3大支出：教育資金・住宅資金・老後資金 (ウ) 社会保障制度：労働保険・健康保険・公的年金</p> <p>2. リスク管理 (ア) 保険の仕組み (イ) 生命保険 (ウ) 損害保険 (エ) 保険と税金</p> <p>3. 金融資産運用設計 (ア) 経済の基礎知識：金利と利回り (イ) 貯蓄型金融商品の知識：預金保険制度 (ウ) 投資型金融商品の知識：債権・株式・投資信託・外貨建て商品 (エ) ポートフォリオ</p> <p>4. タックスプランニング (ア) 所得税の計算と申告手続き (イ) 住民税の仕組み</p> <p>5. 不動産 (ア) 不動産にかかる知識：民法・借地借家法 (イ) 不動産に関する法令上の制限：建築基準法他 (ウ) 不動産にかかる税金 (エ) 不動産の有効活用と不動産の証券化</p> <p>6. 相続・事業承継設計 (ア) 相続の基礎知識：民法 (イ) 相続税の計算 (ウ) 贈与の仕組みと贈与税 (エ) 財産評価 (オ) 相続対策</p>
授業方法：	
履修の留意点：	
目標と評価：	
教科書：	F P 技能士 3 級試験 [最短] 集中ゼミ (株)かんき出版 2005
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「タックスプランニングⅡ」（担当者：梶原 稔）の履修の手引き

科目名：	タックスプランニングⅡ
担当者：	梶原 稔
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>3級FP技能士取得をめざした講座です。受験しない方でも、日常生活に役立つ内容です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ライフプランニングと資金計画 <ol style="list-style-type: none"> (ア) ライフプランニングの基本 (イ) 人生の3大支出：教育資金・住宅資金・老後資金 (ウ) 社会保障制度：労働保険・健康保険・公的年金 2. リスク管理 <ol style="list-style-type: none"> (ア) 保険の仕組み (イ) 生命保険 (ウ) 損害保険 (エ) 保険と税金 3. 金融資産運用設計 <ol style="list-style-type: none"> (ア) 経済の基礎知識：金利と利回り (イ) 貯蓄型金融商品の知識：預金保険制度 (ウ) 投資型金融商品の知識：債権・株式・投資信託・外貨建て商品 (エ) ポートフォリオ 4. タックスプランニング <ol style="list-style-type: none"> (ア) 所得税の計算と申告手続き (イ) 住民税の仕組み 5. 不動産 <ol style="list-style-type: none"> (ア) 不動産にかかる知識：民法・借地借家法 (イ) 不動産に関する法令上の制限：建築基準法他 (ウ) 不動産にかかる税金 (エ) 不動産の有効活用と不動産の証券化 6. 相続・事業承継設計 <ol style="list-style-type: none"> (ア) 相続の基礎知識：民法 (イ) 相続税の計算 (ウ) 贈与の仕組みと贈与税 (エ) 財産評価 (オ) 相続対策
授業方法：	
履修の留意点：	
目標と評価：	
教科書：	F P 技能士 3 級試験 [最短] 集中ゼミ (株)かんき出版 2005
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ビジネス文書Ⅰ」（担当者：藤井 秀子）の履修の手引き

科目名：	ビジネス文書Ⅰ
担当者：	藤井 秀子
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	企業で日常使われているビジネス文書を大きく分けると、社内文書と社外文書となる。 この科目「ビジネス文書Ⅰ」では、社内文書について、その種類や形式、用語と書き方について学ぶ。
授業方法：	はじめにそれぞれのタイプの社内文書についてポイントを説明する。次に実際に文書を作成し提出してもらい、それらを添削して返すという方法をとる。
履修の留意点：	自分の身の回りにあるさまざまな文書に目をとめ、関心を持つよう日ごろからの習慣を大切にしてほしい。書いて覚えるために、課題を出し、文書を作成し提出することが多いので、必ず提出すること。なお、企業で働くには、社外文書の修得も必須であるから、秋学期の「ビジネス文書Ⅱ」も履修するとよい。
目標と評価：	* 目標—いろいろな種類の社内文書を何も見ずに作成できるようになること * 評価—期末試験、提出物、授業態度からの総合評価とする。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ビジネス文書Ⅰ」（担当者：藤井 秀子）の履修の手引き

科目名：	ビジネス文書Ⅰ
担当者：	藤井 秀子
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	企業で日常使われているビジネス文書を大きく分けると、社内文書と社外文書となる。 この科目「ビジネス文書Ⅰ」では、社内文書について、その種類や形式、用語と書き方について学ぶ。
授業方法：	はじめにそれぞれのタイプの社内文書についてポイントを説明する。次に実際に文書を作成し提出してもらい、それらを添削して返すという方法をとる。
履修の留意点：	自分の身の回りにあるさまざまな文書に目をとめ、関心を持つよう日ごろからの習慣を大切にほしい。書いて覚えるために、課題を出し、文書を作成し提出することが多いので、必ず提出すること。なお、企業で働くには、社外文書の修得も必須であるから、秋学期の「ビジネス文書Ⅱ」も履修するとよい。
目標と評価：	* 目標—いろいろな種類の社内文書を何も見ずに作成できるようになること * 評価—期末試験、提出物、授業態度からの総合評価とする。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ビジネス文書Ⅱ」（担当者：藤井 秀子）の履修の手引き

科目名：	ビジネス文書Ⅱ
担当者：	藤井 秀子
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	「ビジネス文書Ⅱ」においては、社外文書の種類、形式、用語、書き方について学ぶ。それに加えて、社外文書の一種で一般的に「社交文書」と称される縦書きの手紙についても形式と書き方を学ぶ。
授業方法：	はじめにそれぞれのタイプの社外文書について、ポイントを説明する。次に、実際に社外文書を作成し提出してもらい、それらを添削して返すという方法をとる。
履修の留意点：	社外文書には独特の用語があり、日ごろ見慣れない漢字が多いので、パソコンだけに頼らず漢字を手で書く練習もしてほしい。提出物が多くなるが、必ず文書を作成し提出すること。なお、ビジネス文書の基本中の基本は、春学期に開講されている「ビジネス文書Ⅰ」で学ぶことになるので、「ビジネス文書Ⅱ」を学ぶには、「ビジネス文書Ⅰ」を履修しておくことが望まれる。
目標と評価：	* 目標—伝えたい内容によって、どんな種類の社外文書を書くか判断し、完全な社外文書を作成できるようになること。 * 評価—期末試験、提出物、授業態度からの総合評価とする。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ビジネス文書Ⅱ」（担当者：藤井 秀子）の履修の手引き

科目名：	ビジネス文書Ⅱ
担当者：	藤井 秀子
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	「ビジネス文書Ⅱ」においては、社外文書の種類、形式、用語、書き方について学ぶ。それに加えて、社外文書の一種で一般的に「社交文書」と称される縦書きの手紙についても形式と書き方を学ぶ。
授業方法：	はじめにそれぞれのタイプの社外文書について、ポイントを説明する。次に、実際に社外文書を作成し提出してもらい、それらを添削して返すという方法をとる。
履修の留意点：	社外文書には独特の用語があり、日ごろ見慣れない漢字が多いので、パソコンだけに頼らず漢字を手で書く練習もしてほしい。提出物が多くなるが、必ず文書を作成し提出すること。なお、ビジネス文書の基本中の基本は、春学期に開講されている「ビジネス文書Ⅰ」で学ぶことになるので、「ビジネス文書Ⅱ」を学ぶには、「ビジネス文書Ⅰ」を履修しておくことが望まれる。
目標と評価：	* 目標—伝えたい内容によって、どんな種類の社外文書を書くか判断し、完全な社外文書を作成できるようになること。 * 評価—期末試験、提出物、授業態度からの総合評価とする。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「オフィスコミュニケーションⅠ」（担当者：藤井 秀子）の履修の手引き

科目名：	オフィスコミュニケーションⅠ
担当者：	藤井 秀子
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	企業に代表される組織体の中で「働く」ということを想定して、オフィスにおける仕事の基本的知識と具体的業務との両面を学ぶ。 まず基本的なこととして、組織といわれるものの種類、企業の種類や形態、目的など概論的な知識を得た上で、企業の各部署において日常的に行われる業務について、具体的な処理の仕方を、実務を通して身につけるようにする。 日常的な業務の中でも、職場におけるコミュニケーションや人間関係、職場のルールやマナーなど、主に対人関係の業務について深く掘り下げて、学習する。
授業方法：	はじめに、組織や企業および仕事の処理の仕方などを講義形式で行い、次に実務面の学習のために、書類作成やレポート、電話や接遇のロールプレイングなどを行う。 なお、現代の企業活動に欠かせないカタカナ語の修得のために、毎回授業のはじめに「カタカナ言葉」を5語ずつ覚えるようにし、20語になると小テストを行う。
履修の留意点：	「働く」ということに関心を持ち、自分は何のために働くのか、自分は仕事とどう関わり方をしたいのかということを考えておくこと。 なお、この科目の完成度を高めるために、秋学期開講の「オフィスコミュニケーションⅡ」の履修もすすめたい。
目標と評価：	* 目標—企業というものの本質を捉え、その中で自分の位置や仕事に対する考え方を確立する。そして、社会人として、立派に企業の業務に携われる知識と技能を身につける。 * 評価—一次の4つの平均点からの総合評価とする。 ① 期末テスト ② 随時行う小テスト ③ 実務の評価 ④ 授業中の態度
教科書：	「ビジネスワーク演習」 有賀秀春・藤井秀子他7名共著 同文書院 2004年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「オフィスコミュニケーションⅠ」（担当者：藤井 秀子）の履修の手引き

科目名：	オフィスコミュニケーションⅠ
担当者：	藤井 秀子
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	企業に代表される組織体の中で「働く」ということを想定して、オフィスにおける仕事の基本的知識と具体的業務との両面を学ぶ。 まず基本的なこととして、組織といわれるものの種類、企業の種類や形態、目的など概論的な知識を得た上で、企業の各部署において日常的に行われる業務について、具体的な処理の仕方を、実務を通して身につけるようにする。 日常的な業務の中でも、職場におけるコミュニケーションや人間関係、職場のルールやマナーなど、主に対人関係の業務について深く掘り下げて、学習する。
授業方法：	はじめに、組織や企業および仕事の処理の仕方などを講義形式で行い、次に実務面の学習のために、書類作成やレポート、電話や接遇のロールプレイングなどを行う。 なお、現代の企業活動に欠かせないカタカナ語の修得のために、毎回授業のはじめに「カタカナ言葉」を5語ずつ覚えるようにし、20語になると小テストを行う。
履修の留意点：	「働く」ということに関心を持ち、自分は何のために働くのか、自分は仕事とどう関わり方をしたいのかということを考えておくこと。 なお、この科目の完成度を高めるために、秋学期開講の「オフィスコミュニケーションⅡ」の履修もすすめたい。
目標と評価：	* 目標—企業というものの本質を捉え、その中で自分の位置や仕事に対する考え方を確立する。そして、社会人として、立派に企業の業務に携われる知識と技能を身につける。 * 評価—一次の4つの平均点からの総合評価とする。 ① 期末テスト ② 随時行う小テスト ③ 実務の評価 ④ 授業中の態度
教科書：	「ビジネスワーク演習」 有賀秀春・藤井秀子他7名共著 同文書院 2004年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「オフィスコミュニケーションⅠ」（担当者：古閑 博美）の履修の手引き

科目名：	オフィスコミュニケーションⅠ
担当者：	古閑 博美
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	オフィス実務に必要な知識・技能を表現・情報・サービス実務の観点からとらえ、オフィス実務全般について学ぶ。 2004年度入学者は「オフィス実務Ⅰ」として履修する。
授業方法：	講義と演習。ビデオ学習。
履修の留意点：	教科書とパソコンを持参する。
目標と評価：	目標 ①オフィスについて理解する。 ②オフィスでの仕事について理解する。 ③オフィスに必要な知識や技能を身につける。 評価 ①出席、授業態度、提出物等を総合して評価する。
教科書：	エクセレント秘書学 福永弘之編著 樹村房 1992年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「オフィスコミュニケーションⅠ」（担当者：古閑 博美）の履修の手引き

科目名：	オフィスコミュニケーションⅠ
担当者：	古閑 博美
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	オフィス実務に必要な知識・技能を表現・情報・サービス実務の観点からとらえ、オフィス実務全般について学ぶ。 2004年度入学者は「オフィス実務Ⅰ」として履修する。
授業方法：	講義と演習。ビデオ学習。
履修の留意点：	教科書とパソコンを持参する。
目標と評価：	目標 ①オフィスについて理解する。 ②オフィスでの仕事について理解する。 ③オフィスに必要な知識や技能を身につける。 評価 ①出席、授業態度、提出物等を総合して評価する。
教科書：	エクセレント秘書学 福永弘之編著 樹村房 1992年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「オフィスコミュニケーションⅡ」（担当者：藤井 秀子）の履修の手引き

科目名：	オフィスコミュニケーションⅡ
担当者：	藤井 秀子
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	「オフィスコミュニケーションⅠ」で学習した、オフィスにおける基本的なコミュニケーションと実務をふまえて、それらをより実践的に身に付けるために「イン・バスケット」という実習形式でより深く学ぶ。
授業方法：	13回の授業で、3冊の「イン・バスケット」を学習する。まず第1冊目では、ポイントを説明したあと、皆と一緒に考えながら行う。第2冊目と第3冊目は、それまで学んだものを生かして自分の力だけで仕上げ、それに対して添削と講評をするという方法で進める。 なお、授業のはじめに、カタカナ言葉を5語ずつ覚えてもらい、それが20語になると小テストを行う。
履修の留意点：	この科目は、春学期の「オフィスコミュニケーションⅠ」で学んだことの発展的科目であるため、それを履修しておくことが望まれる。
目標と評価：	* 目標—社会人として通用するコミュニケーション能力の4分野—話す、聞く、読む、書く—の向上をはかる。 * 評価—一次の4つの平均点からの総合評価とする。 ①「イン・バスケットⅡ」の評価 ②「イン・バスケットⅢ」の評価 ③随時行う小テスト ④授業中の態度
教科書：	「ビジネスワーク演習」 有賀秀春・藤井秀子他7名共著 同文書院 2004年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「オフィスコミュニケーションⅡ」（担当者：藤井 秀子）の履修の手引き

科目名：	オフィスコミュニケーションⅡ
担当者：	藤井 秀子
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	「オフィスコミュニケーションⅠ」で学習した、オフィスにおける基本的なコミュニケーションと実務をふまえて、それらをより実践的に身に付けるために「イン・バスケット」という実習形式でより深く学ぶ。
授業方法：	13回の授業で、3冊の「イン・バスケット」を学習する。まず第1冊目では、ポイントを説明したあと、皆と一緒に考えながら行う。第2冊目と第3冊目は、それまで学んだものを生かして自分の力だけで仕上げ、それに対して添削と講評をするという方法で進める。 なお、授業のはじめに、カタカナ言葉を5語ずつ覚えてもらい、それが20語になると小テストを行う。
履修の留意点：	この科目は、春学期の「オフィスコミュニケーションⅠ」で学んだことの発展的科目であるため、それを履修しておくことが望まれる。
目標と評価：	* 目標—社会人として通用するコミュニケーション能力の4分野—話す、聞く、読む、書く—の向上をはかる。 * 評価—一次の4つの平均点からの総合評価とする。 ①「イン・バスケットⅡ」の評価 ②「イン・バスケットⅢ」の評価 ③随時行う小テスト ④授業中の態度
教科書：	「ビジネスワーク演習」 有賀秀春・藤井秀子他7名共著 同文書院 2004年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「オフィスコミュニケーションⅡ」（担当者：古閑 博美）の履修の手引き

科目名：	オフィスコミュニケーションⅡ
担当者：	古閑 博美
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	「オフィスコミュニケーションⅠ」を基礎にして、ワーカーのあり方とビジネス実務を展望する。 2004年度入学者は「オフィス実務Ⅱ」として履修する。
授業方法：	講義と演習。ビデオ学習。
履修の留意点：	教科書とパソコンを持参する。
目標と評価：	<p>目標</p> <p>①オフィスに必要な実務能力を身につける。</p> <p>②オフィス・マナーを学び、身につける。</p> <p>評価</p> <p>出席、授業態度、提出物等を総合的に評価する。</p>
教科書：	オフィス実務 森脇道子編著 建帛社 1998年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「オフィスコミュニケーションⅡ」（担当者：古閑 博美）の履修の手引き

科目名：	オフィスコミュニケーションⅡ
担当者：	古閑 博美
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	「オフィスコミュニケーションⅠ」を基礎にして、ワーカーのあり方とビジネス実務を展望する。 2004年度入学者は「オフィス実務Ⅱ」として履修する。
授業方法：	講義と演習。ビデオ学習。
履修の留意点：	教科書とパソコンを持参する。
目標と評価：	目標 ①オフィスで必要な実務能力を身につける。 ②オフィス・マナーを学び、身につける。 評価 出席、授業態度、提出物等を総合的に評価する。
教科書：	オフィス実務 森脇道子編著 建帛社 1998年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「キャリアデザインⅢ」（担当者：古閑 博美）の履修の手引き

科目名：	キャリアデザインⅢ
担当者：	古閑 博美
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>学生時代をどのように過ごすかは、将来に直結する事柄となる。入学当初、それに気づかない学生は多い。秋学期ともなればそのままではよいとはいえない。とくに、短期大学の学生は、就職や編入学など自分の進路について真剣に考える時期と位置づけられよう。しかしながら、進路というが、現在、それは、キャリアと関連して語られることが多い。学生から社会人に移行するうえで、今から考えたり身につけたりしておきたい事柄について、充実した講師陣のもと授業を進める。</p> <p>内容は多岐に渡る。それらは、先輩たちの就職体験談、就職模擬試験IPU、自己分析、エントリーシートや履歴書の書き方、論作文作成講座、マナー講座、面接実習などである。キャリアを語る講演も予定している。</p>
授業方法：	<p>授業は、本科目の単位認定をおこなう古閑博美が統括する。毎回、授業計画にのっとり進める。授業は、実学的見地に基づいた演習と講義からなる。レポートを課す。</p> <p>就職活動を控えたこの時期においては、受講者の進路選択に直接的に関係してくる事柄について内容をさらに絞り込んで授業を進める。本科目では、業種別の企業の特徴や就職状況なども講義し、就職活動により直接に関わる事項を学ぶ。例えば、企業とのコンタクトの取り方、電話の対応、エントリーシートの書き方、履歴書の書き方、企業訪問への留意点、面接の仕方・模擬面接の実施などである。</p>
履修の留意点：	<p>本科目は、キャリア教育のカリキュラムの一環として設置されたものである。就職を希望する学生は無論のこと、将来について考えを深めたい学生は履修されたい。演習が多く予定されている学生参加型の授業である。積極的に取り組むこと。</p>
目標と評価：	<p>1. 目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ①卒業後のキャリアを描けるようになる。 ②学生時代を有意義に過ごすことを学ぶ。 ③学力及び表現能力の向上をはかる。 <p>2. 評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ①古閑の評価に外部講師の評価を加味し、古閑が最終評価をおこなう。 ②授業態度（参加度）を重視する。 ③提出物等は期限内に提出すること。
教科書：	
参考書：	インターンシップ 職業教育の理論と実践 古閑博美編著 学文社 2001年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ビジネスキャリア研究Ⅰ」（担当者：渡辺 広明）の履修の手引き

科目名：	ビジネスキャリア研究Ⅰ
担当者：	渡辺 広明
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	①自分を理解し、どんな人生設計を描くのかを考える契機とします。 ②人生の中における仕事の意味を考えます。 ③その中で、卒業後の進路を描き、その具体化のためにどんな学生生活が良いかを考え、プラン化し、実践する契機とします。 ④ビジネス社会で基本となるコミュニケーションを学びます。
授業方法：	基本的には、講義方式です。その他、各種の個人ワーク（作業）、グループワークやディスカッションで切磋琢磨しあいながら、楽しく学んでいく双方向型、全員参画型授業を目指します。
履修の留意点：	①この授業では、ホームランを打つ事が出来ません。毎日の積み重ねが大切です。ヒットをこつこつ打ってください。 ②そのため授業に出席するのはもとより、毎回、パソコンを利用するアンケートや課題等が課されます。それらを積極的に取り組んでください。 ③もちろん、パソコンが毎時間、必携です。 ④テーマに対して自分で考え、実践し解決する積極性のある受講生をお待ちしております。 ⑤基本的には教科書はありません。必要な資料は学ナビに添付するか、教室内で配布します。
目標と評価：	①適職を見つけるための考え方と方法を学ぶ事ができる。 ②有意義な学生生活を送る方法と手段を学ぶ事ができる。 ③ビジネス社会で基本となるコミュニケーションを学ぶことができる。 ④出席点、レポート等、テスト、授業への参加・貢献度を総合して成績を評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ビジネスキャリア研究Ⅰ」（担当者：渡辺 広明）の履修の手引き

科目名：	ビジネスキャリア研究Ⅰ
担当者：	渡辺 広明
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>①自分を理解し、どんな人生設計を描くのかを考える契機とします。</p> <p>②人生の中における仕事の意味を考えます。</p> <p>③その中で、卒業後の進路を描き、その具体化のためにどんな学生生活が良いかを考え、プラン化し、実践する契機とします。</p> <p>④ビジネス社会で基本となるコミュニケーションを学びます。</p>
授業方法：	基本的には、講義方式です。その他、各種の個人ワーク（作業）、グループワークやディスカッションで切磋琢磨しあいながら、楽しく学んでいく双方向型、全員参画型授業を目指します。
履修の留意点：	<p>①この授業では、ホームランを打つ事が出来ません。毎日の積み重ねが大切です。ヒットをこつこつ打ってください。</p> <p>②そのため授業に出席するのはもとより、毎回、パソコンを利用するアンケートや課題等が課されます。それらを積極的に取り組んでください。</p> <p>③もちろん、パソコンが毎時間、必携です。</p> <p>④テーマに対して自分で考え、実践し解決する積極性のある受講生をお待ちしております。</p> <p>⑤基本的には教科書はありません。必要な資料は学ナビに添付するか、教室内で配布します。</p>
目標と評価：	<p>①適職を見つけるための考え方と方法を学ぶ事ができる。</p> <p>②有意義な学生生活を送る方法と手段を学ぶ事ができる。</p> <p>③ビジネス社会で基本となるコミュニケーションを学ぶことができる。</p> <p>④出席点、レポート等、テスト、授業への参加・貢献度を総合して成績を評価します。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ビジネスキャリア研究Ⅱ」（担当者：渡辺 広明）の履修の手引き

科目名：	ビジネスキャリア研究Ⅱ
担当者：	渡辺 広明
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>①1年次にたてた卒業後の進路をチェックすると共に、学生生活のフォローアップ等を促します。</p> <p>②さまざまな職業の現状、将来性やワークスタイルを学びます。企業情報の収集方法を学習し、実践します。</p> <p>③適性検査などで自分の弱点を知り、その修正を促します。</p> <p>④キャリアシートを作成しつつ、卒業後の進路をより具体化していきます。</p>
授業方法：	基本的には、講義形式です。その他、各種の個人ワーク（作業）、グループワークやディスカッションで切磋琢磨しあいながら、楽しく学んでいく双方向型、全員参画型授業を目指します。
履修の留意点：	<p>①この授業では、ホームランを打つ事が出来ません。毎日の積み重ねが大切です。ヒットをこつこつ打ってください。</p> <p>②そのため授業に出席するのはもとより、毎回、パソコンを利用するアンケートや課題等が課されます。それらを積極的に取り組んでください。</p> <p>③もちろん、パソコンが毎時間、必携です。</p> <p>④テーマに対して自分で考え、実践し解決する積極性のある受講生をお待ちしております。</p> <p>⑤基本的には教科書はありません。必要な資料は学ナビに添付するか、教室内で配布します。</p>
目標と評価：	<p>①今までの学生生活を振り返ることができる。</p> <p>②業界や業種の現状や将来について学ぶ事ができる。</p> <p>③適職を自分で探す事ができる。</p> <p>④卒業後のキャリアプランを作成する事ができる。</p> <p>⑤出席点、レポート等、テスト、授業への参加・貢献度を総合して成績を評価します。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ビジネスキャリア研究Ⅱ」（担当者：渡辺 広明）の履修の手引き

科目名：	ビジネスキャリア研究Ⅱ
担当者：	渡辺 広明
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>①1年次にたてた卒業後の進路をチェックすると共に、学生生活のフォローアップ等を促します。</p> <p>②さまざまな職業の現状、将来性やワークスタイルを学びます。企業情報の収集方法を学習し、実践します。</p> <p>③適性検査などで自分の弱点を知り、その修正を促します。</p> <p>④キャリアシートを作成しつつ、卒業後の進路をより具体化していきます。</p>
授業方法：	基本的には、講義形式です。その他、各種の個人ワーク（作業）、グループワークやディスカッションで切磋琢磨しあいながら、楽しく学んでいく双方向型、全員参画型授業を目指します。
履修の留意点：	<p>①この授業では、ホームランを打つ事が出来ません。毎日の積み重ねが大切です。ヒットをこつこつ打ってください。</p> <p>②そのため授業に出席するのはもとより、毎回、パソコンを利用するアンケートや課題等が課されます。それらを積極的に取り組んでください。</p> <p>③もちろん、パソコンが毎時間、必携です。</p> <p>④テーマに対して自分で考え、実践し解決する積極性のある受講生をお待ちしております。</p> <p>⑤基本的には教科書はありません。必要な資料は学ナビに添付するか、教室内で配布します。</p>
目標と評価：	<p>①今までの学生生活を振り返ることができる。</p> <p>②業界や業種の現状や将来について学ぶ事ができる。</p> <p>③適職を自分で探す事ができる。</p> <p>④卒業後のキャリアプランを作成する事ができる。</p> <p>⑤出席点、レポート等、テスト、授業への参加・貢献度を総合して成績を評価します。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ビジネスキャリア研究Ⅲ」（担当者：戎野 淑子）の履修の手引き

科目名：	ビジネスキャリア研究Ⅲ
担当者：	戎野 淑子
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	半年後に就職活動が始まることを念頭に置き、いよいよ卒業後の自分の進路を決め、それに向けた準備を行う。まず、社会人として求められていることや働く場について具体的に学ぶ。そして、自己分析を通して、自らの将来の方向性を定め、今後必要となる一般常識などの知識の習得の準備も行う。
授業方法：	講義ならびに演習。講義が多いが、自己分析など自分が行わなければならないこともある。
履修の留意点：	自らの積極的な取り組みが必要である
目標と評価：	レポートおよび発表が中心的な評価となるが、演習もあるので授業態度も考慮する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ビジネスキャリア研究Ⅳ」（担当者：戎野 淑子）の履修の手引き

科目名：	ビジネスキャリア研究Ⅳ
担当者：	戎野 淑子
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	これから就職活動に取り組むにあたり、必要となる様々な知識を習得する、実践的な授業である。就職では、自分で考え、自分で判断することが非常に重要となってくる。とりわけ、今日、様々なキャリア設計があるため、各自自らを十分分析し準備しなければならないであろう。そこで、この講義では、必要な知識を身につけ、実際に生かすことができる実践力を身につけ、充実した就職活動を行うことができるよう準備を行う。
授業方法：	講義ならびに演習。実践力を身につけるため、実際の演習が多くなる。
履修の留意点：	自分から積極的に取り組むことが大切である。
目標と評価：	レポートとその他の提出物が中心とはなるが、演習が多いので授業態度もかなり考慮する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「医療ビジネスⅠ」（担当者：吉田 正孝）の履修の手引き

科目名：	医療ビジネスⅠ
担当者：	吉田 正孝
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>社会保障という言葉は現在広く使用されている。この言葉が使用されるようになったのは1935年アメリカ合衆国の「社会保障法」が最初である。</p> <p>わが国では第二次世界大戦後の新憲法に初めてこの言葉が使用され一般化された。</p> <p>わが国の社会保障給付費は、1) 年金等の所得保障 2) 医療保障 3) 社会福祉サービスなどの3部門に大別されている。</p> <p>医療保障制度は医療保険制度、老人保健および公費負担を総称するものである。</p> <p>医療保険制度とは医療を受けようとする者（国民）があらかじめ保険者に保険料を支払い、医療を受けたときに保険者から医療費の支払いを受ける制度である。従って医療保険制度の構成は国民、保険者、医療提供者である。</p> <p>医療制度を支えるしくみは、医療供給制度と医療受益制度がある。</p> <p>医療供給制度を支える法体系は、医療法、歯科医師法、薬剤師法、薬事法などがある。また、医療受益制度を支える法体系は、健康保険法、国民健康保険法、各種共済組合法、老人保健法などがある。</p> <p>医療保険制度のなかで、医療給付をする保険医は特定の治療および特定の薬剤については定められた基準（治療指針および薬剤使用基準）に基づき投与することとなっている。また、厚生労働大臣の定める医薬品（薬価基準収載医薬品）以外の医薬品を患者に施用または投与してはならないこととなっている。</p> <p>診療報酬、調剤報酬は点数化し、医科診療報酬点数表、歯科診療報酬点数表、調剤報酬点数表にしたがって換算される。また、薬剤費については薬価基準（薬の公定価格）にしたがって計算される。患者は一部負担金を医療機関・薬局で支払い、残りの金額は保険者から社会保険診療報酬支払基金または国民健康保険団体連合会を経由して医療機関、薬局に支払われる。</p> <p>診療報酬、薬価基準は、おおむね2年に1回改定されている。</p> <p>このような複雑なしくみの中で医療ビジネスは行われている。</p> <p>この講義では医療保障制度のしくみの理解と医療に関連するビジネスについて理解を深めることを目標とする。</p>
授業方法：	講義（13回）
履修の留意点：	講義はレジュメを配布してすすめる。参考書の第1章から第3章を読んでおくと講義を理解しやすい。
目標と評価：	<p>この講義を受講した学生は以下のことを理解できるようになっているはずである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療保障制度のしくみ ・診療報酬制度のしくみ ・薬価基準制度のしくみ <p>評価点は以下の項目ごとに加算方式で算出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題に答える形式のレポート2回（20%） ・学期末レポート試験（80%）
教科書：	
参考書：	医療保険・診療報酬制度 遠藤久夫 池上直己 編著 勁草書房 2005年3月15日第1版第1刷発行

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「医療ビジネスⅠ」（担当者：吉田 正孝）の履修の手引き

科目名：	医療ビジネスⅠ
担当者：	吉田 正孝
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>社会保障という言葉は現在広く使用されている。この言葉が使用されるようになったのは1935年アメリカ合衆国の「社会保障法」が最初である。</p> <p>わが国では第二次世界大戦後の新憲法に初めてこの言葉が使用され一般化された。</p> <p>わが国の社会保障給付費は、1) 年金等の所得保障 2) 医療保障 3) 社会福祉サービスなどの3部門に大別されている。</p> <p>医療保障制度は医療保険制度、老人保健および公費負担を総称するものである。</p> <p>医療保険制度とは医療を受けようとする者（国民）があらかじめ保険者に保険料を支払い、医療を受けたときに保険者から医療費の支払いを受ける制度である。従って医療保険制度の構成は国民、保険者、医療提供者である。</p> <p>医療制度を支えるしくみは、医療供給制度と医療受益制度がある。</p> <p>医療供給制度を支える法体系は、医療法、歯科医師法、薬剤師法、薬事法などがある。また、医療受益制度を支える法体系は、健康保険法、国民健康保険法、各種共済組合法、老人保健法などがある。</p> <p>医療保険制度のなかで、医療給付をする保険医は特定の治療および特定の薬剤については定められた基準（治療指針および薬剤使用基準）に基づき投与することとなっている。また、厚生労働大臣の定める医薬品（薬価基準収載医薬品）以外の医薬品を患者に施用または投与してはならないこととなっている。</p> <p>診療報酬、調剤報酬は点数化し、医科診療報酬点数表、歯科診療報酬点数表、調剤報酬点数表にしたがって換算される。また、薬剤費については薬価基準（薬の公定価格）にしたがって計算される。患者は一部負担金を医療機関・薬局で支払い、残りの金額は保険者から社会保険診療報酬支払基金または国民健康保険団体連合会を経由して医療機関、薬局に支払われる。</p> <p>診療報酬、薬価基準は、おおむね2年に1回改定されている。</p> <p>このような複雑なしくみの中で医療ビジネスは行われている。</p> <p>この講義では医療保障制度のしくみの理解と医療に関連するビジネスについて理解を深めることを目標とする。</p>
授業方法：	講義（13回）
履修の留意点：	講義はレジュメを配布してすすめる。参考書の第1章から第3章を読んでおくと講義を理解しやすい。
目標と評価：	<p>この講義を受講した学生は以下のことを理解できるようになっているはずである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療保障制度のしくみ ・診療報酬制度のしくみ ・薬価基準制度のしくみ <p>評価点は以下の項目ごとに加算方式で算出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題に答える形式のレポート2回（20%） ・学期末レポート試験（80%）
教科書：	
参考書：	医療保険・診療報酬制度 遠藤久夫 池上直己 編著 勁草書房 2005年3月15日第1版第1刷発行

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「医療ビジネスⅡ」（担当者：吉田 正孝）の履修の手引き

科目名：	医療ビジネスⅡ
担当者：	吉田 正孝
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>医薬品は他の商品と比較して取り扱われる製品が多品目、少量生産である。また、医薬品全体の88%を占める医療用医薬品の価格には、健康保険制度と薬価基準（薬の公定価格）制度が関わるため、その流通と価格体系は他の一般商品とくらべて著しく異なる。</p> <p>以前には医薬品の流通について、複雑な価格形成、不透明な契約関係などが存在し公正取引委員会など各方面から種々の指摘を受けてきた。</p> <p>この問題の解決策として平成2年には流通近代化協議会により「医療用医薬品の流通の近代化と薬価について」と題する報告がまとめられた。この提言をふまえて医薬品業界は平成3年には新価格体系への移行を中心とした流通改善を行った。また、平成3年には中央社会保険医療協議会（中医協）は既記載医薬品の薬価算定方式の変更を建議した。新仕切価制と新薬価算定方式とは、医療用医薬品の流通改善を推進する二本柱である。今後とも流通の効率化、合理化を推進する必要がある。</p> <p>医薬品は人間の疾病の治療などの目的で使用されるものである。これを使用する医療関係者に充分認識され適正に使用されて、はじめて医薬品の効果が発揮される。従って製薬企業は医薬品を使用する医療関係者に、科学的データに基づく正確で公正な情報を提供すると共に、副作用等の安全性に関する情報についてはすみやかに収集してその評価、分析の結果を伝達することが求められている。</p> <p>また、医薬品はその開発から製造、発売、更に該当医薬品を販売している間は薬事法をはじめ種々の関連法規により規制されている。</p> <p>講義ではこのような条件の中で製薬企業と卸、製薬企業と医療機関・薬局との関係について考察し、ビジネスのしくみを検討する。</p>
授業方法：	講義（13回）
履修の留意点：	<p>医療ビジネスⅠの履修を前提とはしないが、春学期に医療ビジネスⅠを履修していない人は「履修の手引き」に記載されている参考書の第Ⅰ章から第Ⅲ章までを読んでおくことと講義を理解しやすい。</p> <p>講義はレジュメを配布して行う。</p>
目標と評価：	<p>この講義を受講した学生は以下のことを理解できているようになっているはずである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品の特性、医薬品の区分と定義 ・ 医薬品産業の変遷と現状 ・ 健康保険制度、薬価基準制度と医薬品企業の関係 ・ 医薬品の流通 <p>評価点は以下の項目ごとに加算方式で算出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題に答える形式のレポート 2回（20%） ・ 学期末レポート試験（80%）
教科書：	
参考書：	医薬品流通論 片岡一郎・嶋口充輝・三村優美子編 東京大学出版会 2003年3月11日初版

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「医療ビジネスⅡ」（担当者：吉田 正孝）の履修の手引き

科目名：	医療ビジネスⅡ
担当者：	吉田 正孝
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>医薬品は他の商品と比較して取り扱われる製品が多品目、少量生産である。また、医薬品全体の88%を占める医療用医薬品の価格には、健康保険制度と薬価基準（薬の公定価格）制度が関わるため、その流通と価格体系は他の一般商品とくらべて著しく異なる。</p> <p>以前には医薬品の流通について、複雑な価格形成、不透明な契約関係などが存在し公正取引委員会など各方面から種々の指摘を受けてきた。</p> <p>この問題の解決策として平成2年には流通近代化協議会により「医療用医薬品の流通の近代化と薬価について」と題する報告がまとめられた。この提言をふまえて医薬品業界は平成3年には新価格体系への移行を中心とした流通改善を行った。また、平成3年には中央社会保険医療協議会（中医協）は既記載医薬品の薬価算定方式の変更を建議した。新仕切価制と新薬価算定方式とは、医療用医薬品の流通改善を推進する二本柱である。今後とも流通の効率化、合理化を推進する必要がある。</p> <p>医薬品は人間の疾病の治療などの目的で使用されるものである。これを使用する医療関係者に充分認識され適正に使用されて、はじめて医薬品の効果が発揮される。従って製薬企業は医薬品を使用する医療関係者に、科学的データに基づく正確で公正な情報を提供すると共に、副作用等の安全性に関する情報についてはすみやかに収集してその評価、分析の結果を伝達することが求められている。</p> <p>また、医薬品はその開発から製造、発売、更に該当医薬品を販売している間は薬事法をはじめ種々の関連法規により規制されている。</p> <p>講義ではこのような条件の中で製薬企業と卸、製薬企業と医療機関・薬局との関係について考察し、ビジネスのしくみを検討する。</p>
授業方法：	講義（13回）
履修の留意点：	<p>医療ビジネスⅠの履修を前提とはしないが、春学期に医療ビジネスⅠを履修していない人は「履修の手引き」に記載されている参考書の第Ⅰ章から第Ⅲ章までを読んでおくことと講義を理解しやすい。</p> <p>講義はレジュメを配布して行う。</p>
目標と評価：	<p>この講義を受講した学生は以下のことを理解できているようになっているはずである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品の特性、医薬品の区分と定義 ・ 医薬品産業の変遷と現状 ・ 健康保険制度、薬価基準制度と医薬品企業の関係 ・ 医薬品の流通 <p>評価点は以下の項目ごとに加算方式で算出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題に答える形式のレポート 2回（20%） ・ 学期末レポート試験（80%）
教科書：	
参考書：	医薬品流通論 片岡一郎・嶋口充輝・三村優美子編 東京大学出版会 2003年3月11日初版

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ソーシャルワーク論」（担当者：宮村 幸次郎）の履修の手引き

科目名：	ソーシャルワーク論
担当者：	宮村 幸次郎
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>1990年代の初頭、バブル崩壊後、経済が低成長の時代に入り、社会も少子超高齢化の時代を迎え、戦後から続いてきた日本社会の構造が、根底から変わり始めた。成長社会から成熟社会、中央集権から地方分権の住民参加型社会、環境破壊から環境保全の循環型社会などの模索から制度が設計され、制度転換の施策が打ち出されてきた。社会福祉も、構造の改革が進められ、従来の貧困、疾病、失業、障害などによる生活問題を克服・緩和する社会福祉援助から、時代でクローズアップされている、児童虐待、DV、ホームレス、ニート、ひきこもりなど、社会から排除される生活問題のある人たちを加え、社会で包摂し、「社会参加」を支援していこうとする「ソーシャル・インクルージョン」という方向に移行してきている。</p> <p>社会福祉の専門職業は、介護保険制度の導入から、福祉サービス利用者に「援助」するかかわりから「参加」と「自立」を促す支援にシフトしてきている。</p> <p>成熟社会で投影された、多様な生活問題の裾野の広がりと、砂のように個々バラバラな人間関係の希薄さの進行は、誰もが自分の生活に満足感の持てるような社会福祉援助活動が、環境整備と人間再生に向けた、「社会の福祉化」、「当事者の時代」へと動いている。</p> <p>そこで、ソーシャルワーク、社会福祉援助技術とはなにか、社会福祉の専門業務からだけでなく、市民とのパートナーシップの構築を視野に置いた、あらたな福祉サービスの開発・創設を試みた実践的内容を踏まえ、事例やロールプレイなどの演習を通して、現場の実践的問題から、ソーシャルワーク「論」を考えて行きたい。</p>
授業方法：	講義8回及び現場実習・演習5回
履修の留意点：	<p>ソーシャルワーク論（社会福祉援助技術論）は、すぐれて利用者の権利擁護（アドボカシー）を基本とした実践的研究である。履修者は、生活者としての視点を持って、今日の「豊か」な生活が維持されている、自分の身近な生活を通して、あらためて生きていく上で、今日の社会の市場化や競争（原理）社会などからの弊害や対立や衝突による不安全感や不快感、又は、いわれのない不平等や不公平を感じる状態にあるか、いわゆる基本的な人権が、自分の「豊か」な生活に保証されているかを見直し、人としての感覚と感性を培うことに留意する。</p> <p>参考書： 当事者主権 中西正司 上野千鶴子 岩波新書 2003年11月25日第2刷発行</p>
目標と評価：	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉援助技術の意義・沿革・構造・原理について、基本的理解を持つ。 ・援助技術の展開過程と各援助技術内容については、具体的な実践の事例研究に関連することから、十分な認識と理解を持つ。 ・現場実習は、援助技術の具体的適用場面の福祉作業所と援助活動をめぐる新たな動向、市民事業の「喫茶店」 <p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講・実習において、履修上の留意を踏まえ、発言・レポートでは、人権意識を基本とした、専門的理解、科学的根拠追及姿勢を評価の指標とする。
教科書：	社会福祉援助技術総論 岡本民夫 小田兼三 ミネルヴァ書房 2003年3月20日 初版第19刷発行
参考書：	ケアを問いなおす 広井良典 ちくま新書 1997年11月20日第1刷発行

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コミュニティ論」（担当者：藤井 敬宏）の履修の手引き

科目名：	コミュニティ論
担当者：	藤井 敬宏
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>本講義では、地域社会論・コミュニティ論に関する一般的な概説のほか、地域社会における現代的な課題として福祉や教育、環境、交通などの社会問題を取りあげてコミュニティのあり方、役割等について検討します。特に、それらの問題が現代の国や地域の政策の中でどのように扱われ、結果としてコミュニティがどのように機能していくのかを一緒に考えてもらいます。</p> <p>さらに、事例を通じてコミュニティ形成の視点・論点を明らかにする方法、また、具体的な地域問題から現代社会を理解する方法について検討することを目的として学習します。</p>
授業方法：	<p>講義は、主にプロジェクターを使用してパワーポイントで説明を行います。講義のテーマは、環境問題から住民問題まで幅広い題材を取り上げ、各回のテーマ毎に、背景、問題の緒言、内容、等についてディスカッションを行いながら、講義の論点を明確にしていきます。</p> <p>なお、講義開始時には、前回の復習として講義に関するミニレポートを毎回実施する予定です。また、別途レポートの課題提出および発表を行う予定です。</p>
履修の留意点：	<p>この講義では、題材とする内容がマクロ（地球規模）な環境問題から、ローカル（局地的）な住民参加の問題に至る、社会情勢やニュースなどの幅広い事例を用いるので、新聞を読んだりテレビのニュース番組を見たり、社会の変化に常日頃から関心を持つようにして下さい。</p>
目標と評価：	<p>この授業を受講する学生には、次の点を意識した学習に努めてもらいたいと思います。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①コミュニティとは何か。コミュニティ形成の要因を理解すること。 ②環境保全・環境創造における市民の取り組み方、交通環境問題における公害訴訟と沿道住民の対応、市民参加型のワークショップ、都市計画マスタープランづくりにおける住民参加等の具体的な事例を中心に学習するので、コミュニティが政策や対策を選択・決定していく過程を十分に理解するとともに、市民に課せられる権利と義務を論理的に把握すること。 ③わが国のコミュニティは、特に災害時にその形や結束力が現れてくる。地域コミュニティの望ましいあり方について理解すること。 <p>評価点は次の項目毎に加算方式で算出します。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①講義時間毎に行うミニレポートの内容と提出状況 [10%] ②課題の提出ならびに発表（プレゼンテーション）状況 [40%] <p>なお、課題内容と提出・発表方法は講義中に説明する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ③学期末試験 [50%]
教科書：	必要に応じて講義中に指示する。
参考書：	必要に応じて講義中に指示する。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「医療秘書トレーニングⅠ」（担当者：増澤 将江）の履修の手引き

科目名：	医療秘書トレーニングⅠ
担当者：	増澤 将江
設置学期：	春
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	<p>医療機関が行う保険請求業務の基礎を理解します。私たちが病気やけがをしたときには、医療機関に受診します。診療終了後、窓口で支払う金額は、治療代の一部です。</p> <p>この科目を学習することにより、医療機関が行う保険請求業務の基礎を理解し、簡単な保険請求ができるようになります。授業の内容は基本診療料の内、初診料と再診料、特掲診療料の内、指導管理料、在宅医療、投薬料、注射料の算定方法と注意点の習得を中心に行います。この授業により、保険請求業務の基本を身につけ、医療機関において簡単な保険請求業務を行えるようになります。また診療報酬点数表の読み方、考え方を理解し、後期以降の医療事務関連科目を受講するための基礎知識も合わせて習得することができます。</p>
授業方法：	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保険診療とは何かを学びます。保険診療の種類、流れを学びます。 2. 保険の種類と制度について学びます。（社会保険・国民健康保険等） 3. 診療報酬点数表の成り立ち、わが国における診療報酬制度について学びます。（診療報酬点数の1点が10円を理解します。） 4. 初診料の算定からプリントと点数表を使用しながら、算定方法を理解します。
履修の留意点：	算定の基礎を学習していきますので、欠席をしたら、必ず授業内容を確認してください。
目標と評価：	<p>診療行為を保険点数に置き換えることができます。</p> <p>医療秘書検定3級合格に必要な診療報酬算定の知識が身につきます。</p> <p>筆記試験を行います。</p>
教科書：	医療秘書技能検定実問題集3級 2006年度版①・② 医療秘書教育全国協議会試験委員会 早稲田教育出版 2006年
参考書：	診療点数早見表 医学通信社

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「医療秘書トレーニングⅡ」（担当者：増澤 将江）の履修の手引き

科目名：	医療秘書トレーニングⅡ
担当者：	増澤 将江
設置学期：	秋
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	この授業では、診療報酬明細書（レセプト）作成の基礎を学習します。診療報酬の仕組みを前期で学習しました。医療機関に受診した場合、患者が窓口で支払う金額はほんの一部です。では残りの金額はどのようにしたら、医療機関にはいつくるのでしょうか。私たちがスーパーで買い物し、購入した品物を精算すると細かい明細書を渡されます。それと同様に医療機関では、毎月、患者が加入している保険に残りの金額を請求します。その請求書が診療報酬明細書です。その記載方法を、診療録をもとにしながら作成していきます。同時に医療秘書検定のポイントを学習していきます。
授業方法：	1. 診療報酬明細書作成の手順を確認していきます。 2. 診療報酬明細書の種類、頭が書きとは何かを理解します。 3. 初診料から、順をおいながら、点数算定と明細書の記載方法を学びます。 4. 医療秘書検定の試験項目を少しずつ学習していきます。（医学用語等、点数算定のルール） 5. 一般マナーについて学習します。
履修の留意点：	復習をして下さい。
目標と評価：	診療報酬明細書の記載方法の基礎を身に付けることができます。 医療秘書検定3級合格に必要な知識が身につきます。 定期試験を行います。
教科書：	医療秘書技能検定実問題集3級 2006年度版①・② 医療秘書教育全国協議会試験委員会 早稲田教育出版 2006年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「電子カルテ[®]レシヨ

ン」 (担当者：増澤 将江) の履修の手引き

科目名：	電子カルテ [®] レシヨ
担当者：	増澤 将江
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	医事会計システム及び電子カルテシステムを使用し、医療機関におけるコンピュータを利用した診療情報処理を学習します。受付では事務に、診療室では医師に、検査室では臨床検査技師になったつもりで、電子カルテを練習していきます。そして、電子カルテに関する操作方法、医療機関関連法規などをあわせて学習していきます。
授業方法：	1. 電子カルテの概要を学習します。 2. 外来患者入力の基本的操作方法、問診表入力、電子カルテ入力を学習します。 3. オーダーリングシステムについて、学習します。
履修の留意点：	復習して下さい。
目標と評価：	医療情報処理の基本を理解します。 定期試験を行います。
教科書：	電子カルテシステムの理解と演習 ケア&コミュニケーション社発行 2006年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「医療請求実務トレーニング」（担当者：増澤 将江）の履修の手引き

科目名：	医療請求実務トレーニング
担当者：	増澤 将江
設置学期：	春
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	診療報酬請求事務能力認定試験に合格するために、今までに習得した医療事務の知識を再確認し、復習するための授業です。 そして、1年次に診療報酬請求事務能力検定を合格したかたは、さらにワンランクアップし、正しい診療を正しく請求する、保険ルールに従って正しく請求する事を理解します。レセプト1枚1枚がお金であり、その取扱の重要性を学習します。レセプト作成の能力に加えレセプトを判断する能力を学びます。受付対応マナーを学習します。
授業方法：	1. 点数表の解釈を復習します。 2. 入院レセプト、外来レセプトの違いについて理解し、正確なレセプトが作成できるように学習していきます。 3. 受付対応の仕方、挨拶、保険証の見分け方をロールプレイングで行います。 4. 交通事故、労災、公害、健診などの特殊な診療の請求書の記載方法を学習します。
履修の留意点：	1年生の学んだ内容の復習をかねていますので、積極的に授業に参加して下さい。
目標と評価：	いままでに理解できていない点や分かりにくい点を把握します。複雑な診療行為を含む外来レセプト、入院レセプトの作成技術を身につけます。 医療事務、及び医療秘書の技術を習得します。 筆記試験を行います。
教科書：	受験対策と予想問題集2006年前期版 2006年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ホスピタリティⅡ」（担当者：古閑 博美）の履修の手引き

科目名：	ホスピタリティⅡ
担当者：	古閑 博美
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	本講では「ホスピタリティⅠ」の基礎理解を踏まえ、通信・文書などのコミュニケーション業務、接客などのコンパレンス支援業務、オフィス業務など、オフィスにおける基本業務に対する理解を深めるとともに、ホスピタリティ・マインドの果たす役割について理解を深める。ホスピタリティの表現能力について具体的に学び、ホスピタリティ産業が期待するホスピタリティについて考察する。それは、①ホスピタリティ・マナー、②ホスピタリティ・スピリット、③ホスピタリティ・テクノロジー、である。 研究課題（「キャンパス・ホスピタリティ」）と取り組み、レポートを提出する。
授業方法：	講義及び演習。研究課題と取り組む。ビデオ学習。
履修の留意点：	出席、授業態度、提出物の期限内提出などに留意する。 教科書、パソコン持参。
目標と評価：	目標 ①ホスピタリティを理解する。 ②ホスピタリティを身につける。 ③ホスピタリティを実践する。 評価：平常の授業態度、レポート、出席等で総合的に評価する。
教科書：	ホスピタリティ概論 古閑博美 学文社 2003年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代社会と観光Ⅰ」（担当者：上野 まさる）の履修の手引き

科目名：	現代社会と観光Ⅰ
担当者：	上野 まさる
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	観光（Tourism）は、人間の自由時間活動の中でもっとも人気が高く、現代社会の代表的なライフスタイルです。観光産業の経済効果は、その付加価値がGDPの5～6%を占めており、経済的な影響力は極めて大きく、「観光は21世紀のリーディング産業（平成15年版観光白書）」と言われています。また、2003年1月の小泉首相の施政方針演説で外国人の訪日客倍増方針が示され、「観光立国」が政策の大きな柱になっています。 この授業では、観光の定義、観光の現状を学習し、主として国内に的を絞った観光地、観光資源と観光産業の歴史と実態について解説します。また、世界遺産やテーマパークについて学び、観光開発・町づくりについて研究します。
授業方法：	講義とそれに付随した演習を行います。 教科書は使用せず、毎回テーマに沿った資料を配布します。
履修の留意点：	この授業は、国内旅行業務取扱主任者試験対策の科目と連動させ、国内の観光資源や観光地の学習に重点を置きます。本科目は旅行業だけではなく、交通業（航空・鉄道・バス等）、宿泊業、テーマパーク業など、観光産業全般に関心を持つ学生への知識・教養を高めることを目標とします。 秋学期の「現代社会と観光Ⅱ」も合わせて履修することが望ましいです。
目標と評価：	演習、ミニテスト、期末レポートを総合的に勘案して評価します。
教科書：	
参考書：	観光読本（第2版）（財）日本交通公社（編） 東洋経済新報社 2004年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代社会と観光Ⅱ」（担当者：上野 まさる）の履修の手引き

科目名：	現代社会と観光Ⅱ
担当者：	上野 まさる
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	観光（Tourism）とは、日常生活圏を離れてどこかへ移動し、滞在してまた戻ってくる活動を指します。出張などの業務活動も含みますが、授業では主に自由時間活動としての観光を取り上げます。産業革命以前は一部の特権階級しか観光を楽しめませんでしたが、今日では一般大衆も楽しむことができます。こうした観光の大衆化を促進したのは、何といても革新的な輸送手段が次々登場してきたからです。馬車や帆船に代わって、鉄道・汽船・自動車・飛行機が登場することによって移動が容易になり、移動時間が短縮し、移動コストが低減してきました。授業ではまず、これら移動手段の変遷と観光の発展について概観します。また、世界の空港等、観光インフラについても学んでいきます。さらに、IT（情報技術）社会を迎え、観光の現在と今後の趨勢を世界的な視野で捉えていくことにします。
授業方法：	講義とそれに付随した演習を行います。 教科書は使用せず、毎回テーマに沿った資料を配布します。
履修の留意点：	ここでは、春学期の「現代社会と観光Ⅰ」で学んだ観光の基礎を発展させ、長期的視点・世界的視点から観光を取り上げます。近代観光は19世紀に英国で始まり、運輸産業の発達とともに発展してきました。観光は文化であり、時代により、価値観により、観光スタイルも変わってきます。旅行産業に関心のある学生は是非受講してください。 また、旅行業に特化してさらに詳しく学びたい学生は「トラベルビジネス」（秋学期）を受講することを推奨します。
目標と評価：	演習、ミニテスト、期末レポートを総合的に勘案して評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ホテルビジネス」（担当者：須藤 眞一）の履修の手引き

科目名：	ホテルビジネス
担当者：	須藤 眞一
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	ホテルビジネスは、サービス産業の中でも、とりわけ良質のホスピタリティを中心とするサービスが必要とされる。 この授業において、「ホスピタリティ」がサービス産業、特にホテルビジネスにいかに関与しているか、また、他方において、「ホスピタリティ」と「サービス」の違いについても学習する。 また、ホテル産業の歴史、社会的意義や、今後の成長の見通しに関する講義演習を行いホテル産業の全体像を把握する。さらに、実地見学、研修、および、ロールプレイなどを取り入れた実地主義に基づく学生主体型の授業を行う。 これによって、「ホテルビジネスにおけるサービスとホスピタリティ」を理解し、体得することを授業の目標とする
授業方法：	授業は、以下の方法により行う。 ① 実際のホテルの見学、視察、および、実習。 ② ホテル産業、および実務に関する講義。（ビデオ、OHP、パワーポイント等を必要に応じ使用する。） ③ ホテル実務についてのロールプレイ。 ④ ホテルビジネスに関する学生間のディスカッションとプレゼンテーション。 ⑤ ホテルビジネスに関する理解度の確認（小論文、小テスト、レポート、等による。）
履修の留意点：	① 受講生は、ホテル、および、ホテル関連産業に興味を持っていること。 ② 将来、ホテル、および、ホテル関連産業の分野に進むことを希望している学生の受講が望ましいが、他の分野に進みたいと考えている学生にも、一般教養として受講することを勧める。 ③ 教科書(教材)、および、参考書は必ずしも購入する必要はない。授業に必要な教材は、その都度、教員が受講生に配付する。
目標と評価：	①目標 (財)日本ホテル教育センターが実施している「ホテルビジネス実務検定」のベーシック レベル2級の知識を身に付けることを目標とする。 ②評価 「授業への参画度」と、適宜行う「小論文」、「小テスト」、「レポート」、および、「最終試験」により、総合的に評価する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「トラベルビジネス」（担当者：小林 伸行）の履修の手引き

科目名：	トラベルビジネス
担当者：	小林 伸行
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>トラベルビジネスとは、広義では交通業・宿泊業・飲食業・レジャー業などの旅行関連ビジネスを含みますが、狭義では旅行業を示します。</p> <p>本講座では、旅行業における旅行業務を中心に、関連のさまざまな基礎知識を学びます。</p> <p>この授業は、トラベルビジネス分野への就職志望者のみを対象にしているわけではありません。旅行はだれにとっても身近なレジャー活動です。従って、旅行先を調べたり、旅行計画を練ったりという、旅行の準備の楽しさを演習に取り入れています。</p> <p>演習を楽しみながら、旅行業の実務に役立つ基礎知識を習得できるように、カリキュラムを編成します。</p> <p>また、旅行業のマーケティングを詳しく取り上げる予定です。旅行業に限らず、あらゆる産業、特にサービス産業で必要とされるマーケティングの基礎知識でもあります。</p> <p>旅行商品の概論から旅行業務の経営にかかわる実務まで広くトラベルビジネスを学びます。</p>
授業方法：	<p>講義形式をとります。（13回） また、グループ研究や自主的な演習方式を取り入れます。</p> <p>講義テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● トラベルビジネスとは ● 旅行計画、商品、市場について ● 旅行業界について ● 旅行業の業務（営業・仕入れ企画など）について ● 旅行業におけるマーケティングについて ● 旅行業における品質管理、SC（顧客満足）について ● 基礎テスト、演習、グループ発表
履修の留意点：	<p>旅行社の店頭に並ぶ旅行パンフレットや近年急増するネットを通じた旅行商品に関心を持ち受講の予備資料としてください。工夫に満ちた豊富な品揃えの旅行をビジネスとして捉えて、基礎的な知識を積極的に修得してください。</p>
目標と評価：	<p>この授業は、次の目標達成を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 旅行や旅行業に必要な基礎知識を習得する。 ● 旅行業に関わる情報収集にインターネットなどの利用を習熟する。 ● 自主研究、グループ研究の進め方を習得する。 ● レポート作成、グループ発表などを通じて、思考能力や表現能力を磨く。 <p>評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 小テスト、小レポート（個人研究）、グループ研究 ● その他、受講姿勢。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「顧客満足実践論」（担当者：永原 亜美）の履修の手引き

科目名：	顧客満足実践論
担当者：	永原 亜美
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	商品やサービスの価格や品質の差別化が困難になっている今日、時代は“物”から“人”へとシフトしている。企業においても顧客満足が重要な経営戦略とされている。この授業では、顧客満足の理論のみならず、それに不可欠な「コミュニケーション」「サービス」「ホスピタリティー」について考える。又、演習や実技を通じ、「コミュニケーション能力」「ビジネスマナー」を身に付ける
授業方法：	講義、演習及び実技
履修の留意点：	講義内容に関するプリントを適宜配布
目標と評価：	目標：顧客満足とは何かを理解し、演習、実技を通して実際に社会で役立つコミュニケーション能力、ビジネスマナーを身に付ける。 評価：授業への取り込み姿勢（20%） 各回プリント提出（40%） 学期末試験（40%） 評価点は、上記の項目毎に加算式で算出する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代商業学」（担当者：小山 周三）の履修の手引き

科目名：	現代商業学
担当者：	小山 周三
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>商品の売買によって生産者と消費者との価値交換を媒介する経済活動を商業と呼びます。この商業活動は生産活動に並ぶ重要な役割を果たしています。どんなに良いもの作っても、売れなければ、価値を生産したことになりません。消費者に買って貰えるようなものを選択して仕入れたり、消費者が十分に納得するような商品説明を行うなど、商業者には優れた目利き力や説明力、提案力などが必要になります。</p> <p>現代の商品経済の中で重要な役割を担っている商業に焦点を当てながら、生産と消費への積極的な働きかけの実態を学び、現代商業の変化のダイナミズムを理解して欲しいと願っています。100円ショップ、コンビニエンスストア、ディスカウントストア、専門店などの小売業態の成長力を客観的に分析できるような知識を習得してください。</p>
授業方法：	毎回、独自の講義内容に基づいて授業を行います。授業の最後に講義内容理解に関するコメント票を書いて提出してもらいます。
履修の留意点：	卒業後、流通サービス関係に就職を希望する学生を歓迎します。マーケティング論と合わせて履修すると、知識がより深まります。
目標と評価：	毎回提出するコメント票を評価の対象にします。期末テストも実施し、両者を合わせて成績評価をします。
教科書：	現代の百貨店 小山周三 日本経済新聞社 1997年
参考書：	『ベーシック 流通と商業』 原田英生 有斐閣アルマ

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「紛争の政治経済学」（担当者：山田 寛）の履修の手引き

科目名：	紛争の政治経済学
担当者：	山田 寛
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>いま世界には紛争がいっぱい。日本だっていつでも戦争やテロに巻き込まれる可能性がある。国境紛争、民族紛争、宗教紛争、資源争いなど種類もさまざま。そうした最近の紛争、現在の紛争を、政治や経済や子どもへの影響など、さまざまな視点から取り上げて行く。紛争の現地にいた人の話を聴く機会も作りたい。</p> <p>紛争で傷つけられ、苦しむ民衆、子どもにもきちんと目を向けたい。</p> <p>紛争を予防する方策についても考えたい。</p> <p>教科書： 参考書：</p> <p>※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p>
授業方法：	何よりも現地、現場のイメージをつかんでもらうことを重視する。そのため、ビデオや写真をたくさん使用する。教科書は使わず、プリント配布やパワーポイントによって説明する。
履修の留意点：	国際経済コースの学生は、履修することが望ましい。
目標と評価：	「日本に生まれて、こうした紛争と無関係にいられてよかった」ではなく、紛争の政治的、経済的影響を自分のこととして考え、日本がどうしたらよいかを考えてもらいたい。とにかく、関心のスイッチをオンにしてほしい。期末試験と平常点をあわせて評価する。出席点30%、平常点20%、試験50%
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「地方自治論Ⅰ」（担当者：内田 和夫）の履修の手引き

科目名：	地方自治論Ⅰ
担当者：	内田 和夫
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>地域の問題は地域の人々の手で解決するためのしくみが地方自治です。あなたの暮らす地域の地方自治はどんな様子でしょうか。あなたの地域の人々が地方自治をどう理解し、どう取り組んでいるかで、その地域に暮らしはかなり違ったものとなっていることを知っているでしょうか。時代は地方分権の流れにある今、地方自治に着目することが、いままでも増して必要になってきています。経営法学科の諸君だけでなく経営経済学科の諸君にぜひ受講してみてください。</p> <p>地方自治論Ⅰは地方自治論Ⅱとセットになった科目ですが、この地方自治論Ⅰの講義では、「仕組みの理解と活用法」に視点を置いて、地方自治という営みの骨格を理解することを目的とします。地方自治は、憲法や法律や条例によって制度が規定されている関係で、その基礎概念や制度の理解がどうしても不可欠です。一定の基礎的理解がないと地方自治を活用したり、論じることができません。実例をできるだけ示しながら進めますのでついてきてください。</p> <p>本年度は、つぎのような章立てで講義を行なう予定である。①私たちの暮らしと自治体、②個人自由と自治のレベル、③近代国家と地方自治の保障 ④自治体の2層制と自治体の種類、⑤国の法律と自治体の条例・規則、⑥自治事務と法定受託事務、⑦自治体の歳入と歳出、⑧執行機関の多元主義と地方公務員の仕事 ⑨市民自治のしくみ ⑩市民自治としての地方自治の展望</p>
授業方法：	<p>(1) 考え・制度・用語の講義を実例の紹介とともに行います。講義をしっかりきき、講義ノートもしっかりとってください。</p> <p>(2) 演習問題や小テストでミニマムの理解を鍛錬します。</p> <p>(3) 2回程度ゲスト・スピーカーを予定しています。</p> <p>(4) 中間レポートと試験を予定しています。</p>
履修の留意点：	<p>(1) 地方公務員をめざす諸君、まちづくりや地域でも市民活動に関わってみようという諸君の受講を歓迎します。</p> <p>(2) 通常の講義スタイルにより、地方自治の基礎を身に着ける講義です。自身の理解にこだわってください。</p> <p>(3) 新聞の地方自治関連記事に目を通すことを進めます。</p> <p>(4) 地方自治論Ⅰと地方自治論Ⅱ（秋学期開講）はセット科目です。地方自治論Ⅰを受講後、地方自治論Ⅱを受講してください。</p> <p>(5) 昨年度、地方自治論Ⅱからの受講を特別に認められた3年生の諸君で、単位取得にいたらなかった諸君は、地方自治論Ⅰから受講しなおしてください。（講義内容の編成変更の関係で、地方自治論Ⅱのみの受講は認めません。）</p> <p>(6) 内田ゼミナール<テーマ まちづくりと自治体の仕事>を3年次受講しようとする諸君は2年次における受講をすすめます。</p>
目標と評価：	<p>(1) ねらいは上記に記したとおりです。</p> <p>(2) 講義内小テスト、試験を行います。</p> <p>(3) 基礎理解をしっかりする上で講義への出席が欠かせません。出席点を27点以上を心がけてください。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「地方自治論Ⅱ」（担当者：内田 和夫）の履修の手引き

科目名：	地方自治論Ⅱ
担当者：	内田 和夫
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>地方自治論Ⅱは地方自治論Ⅰの単位取得者を対象に設置されている。つまり、地方自治論Ⅰにおいて地方自治の「しくみの理解と活用法」の基礎を理解した諸君を対象にしている講義である。</p> <p>地方自治論Ⅱは、「地方自治—その可能性と困難」をテーマとして取り上げる。自治体の仕事なくして、われわれの地域の暮らしは成り立たない。戦後に限ってみても、地域のための仕事を増進するための地方自治の積み重ねには多くの成果があった。一方、戦後改革の一環として保障された地方自治は現在いくつもの点で困難を抱えてもいる。</p> <p>地方自治論Ⅱでは、事例研究を重視しながら、受講生諸君と一緒に考えていく。取り上げるテーマはつぎのものを予定している。①高齢化と自治体 ②原子力発電所の立地と自治体 ③市町村合併と自治体 ④障害者と自治体 ⑤構造改革と自治体 ⑥ グローバル化と自治体 ⑦ 分権改革と自治体 である。</p>
授業方法：	<p>(1) 事例の提示—受講生の応答—教員のコメントというサイクルで進めたい。</p> <p>(2) 種々の記録、ビデオ、ゲスト、により実例を伝えたい。</p> <p>(3) 読書レポートを2回行いたい。</p>
履修の留意点：	(1) 地方自治論Ⅰと地方自治論Ⅱはセット科目であり、地方自治論Ⅱは地方自治論Ⅰの単位 取得後に履修することとなる。
目標と評価：	<p>(1) 上記のとおりである。</p> <p>(2) 読書レポートと試験で評価する。</p> <p>(3) 出席点を25点以上取得を心がけてほしい。そんなくらいに出席がないと内容理解がおぼつかないと思う。</p>
教科書：	『概説 日本の地方自治』〔第2版〕 新藤宗幸・阿部斉 東京大学出版会
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「行政学」（担当者：高野 恵亮）の履修の手引き

科目名：	行政学
担当者：	高野 恵亮
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	近年、ニュース番組だけでなくワイドショーやバラエティー番組においても総理大臣の動向、官僚の不祥事、公共事業に関する問題など政治や行政にまつわる話題がとりあげられ、国民の関心は以前にも増して高まってきています。その反面で、こうした様々な問題について、自分とは直接関係のない、言ってみればテレビの中で映し出される娯楽のひとつとして受け止められがちであるということもまた現実です。 しかしながら都市型社会となった現在、この自分たちとは縁遠い世界のように思われる政治や行政は、皆さんの想像よりもずっと深く皆さんの生活の中に入り込んでいます。 そこでこの授業では、都市型社会における行政の意義を理解するとともに、こうした行政を動かしている仕組みについてより深く理解することを目指します。そのためにこの授業では国家行政組織の変遷、公務員制度、中央省庁の意思決定過程、予算・財政のしくみ、行政改革、政策評価、行政の市民参加などについて、主に日本の事例を中心に学んでいきたいと考えています。
授業方法：	講義形式で授業をすすめます。授業で取り扱う予定の項目は以下のとおりです。 ・都市型社会と行政・行政の概念・国家行政組織の変遷と現在・中央省庁の意思決定過程 ・公務員制度・行政管理・予算、財政の仕組み・行政改革をめぐる経緯と現状・政策評価・行政の市民参加
履修の留意点：	講義はそのつど配布するプリントを中心にしますが、参考書として以下の図書をあげておきます。 行政学 [新版] 西尾勝 有斐閣 2001年4月20日 新版 第1刷発行
目標と評価：	この授業を受講した学生は以下のことができるようになっているはずですが、また、そうなるように学習することを望みます。 ● 都市型社会における行政の意義について説明できること ● 国家行政組織についてその変遷と現在の体制について説明できること ● 日本における公務員制度の歴史と現状について説明できること ● 中央省庁の意思決定過程について説明できること ● 行政改革をめぐる経緯と現状について説明できること 評価については原則として学期末試験の成績を基準としますが、適宜授業内小テストを行い、これらの結果を加味して算出します。
教科書：	
参考書：	行政学 [新版] 西尾勝 有斐閣 2001年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「地方行政学」（担当者：高野 恵亮）の履修の手引き

科目名：	地方行政学
担当者：	高野 恵亮
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	都市の生活においては行政活動が提供する公共サービスを欠かすことができません。行政学ではこれを「政策」といいます。しかしこの「政策」は行政だけが提供するものではありません。「政策」は主権を持ち、納税の義務を果たし、あるいはサービスを受している「みんなのもの」です。この授業では身近な政府としての市町村を取り上げ、この市町村が提供している身近な行政サービスを中心に理解を深めていきたいと考えています。 ところでこの「政策」は日本社会が都市化していった結果、拡大してきたものです。都市とは人が集まる場所ですが、人が集まって生活するところから、水道やガス、電気や地下鉄・電車などの様々な「政策」が必要になってきます。この授業におけるもうひとつの視点はこうした「都市」に注目することです。「政策」と「都市」が交錯する場所、それが、現在私達が住んでいる「まち」だからです。この授業では、日常的な「行政サービス」を提供してくれる自治体をより深く理解することを目指します。また行政学という学問からこのことを理解しようとする中で、行政活動のダイナミックな側面を把握しようします。そのためには行政学の知見のほか、歴史的側面などの要素も必要になります。これらのインターディシプリナーリーな学問が地方行政学です。
授業方法：	講義形式で授業をすすめます。授業で取り扱う予定の項目は以下のとおりです。 ・都市型社会と行政・地方自治とは・地方自治の制度・旧体制下の地方自治・現憲法下の地方自治・地方分権・地方議会と首長・自治体の職員・自治体の財政・行政の市民参加
履修の留意点：	この授業を受講する学生は、春学期に開講される「行政学」を履修することが望ましいと考えます。理由は基礎的な知識に共通することが多く、本講座の理解を助けてくれると考えるからです。講義はそのつど配布するプリントを中心にしますが、参考書として以下の図書をあげておきます。 『市民のための地方自治入門』 佐藤竺監修・今川晃編著 実務教育出版 2002年 『現代地方自治の現状と課題』 浅野一弘著 同文館 2004年
目標と評価：	この授業を受講した学生は以下のことができるようになっていくはずですが、また、そうなるように学習することを望みます。 ● 自治がなぜ重要か説明できること ● 自治と都市の問題を説明できること ● 自治体の歴史を説明できること ● 自治体の仕組みを説明できること ● 市民社会と自治体との関係を説明できること 評価については原則として学期末試験の成績を基準としますが、適宜授業内小テストを行い、これらの結果を加味して算出します。
教科書：	
参考書：	市民のための地方自治入門 佐藤竺監修・今川晃編著 実務教育出版 2002年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「政治学 I」（担当者：門松 秀樹）の履修の手引き

科目名：	政治学 I
担当者：	門松 秀樹
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	政治学が対象とする「政治」は、行政や経済など、様々な分野と深い関連性を有しています。この授業では、政治学が対象としている「政治」とはどのようなものなのか、ということを中心として、政治学を学ぶに当たって必要になる用語や理論にはどのようなものがあるのか、わが国における「政治」とはどのようなシステムによって運営されているのかといったようなことについて説明を進めていきたいと考えています。こうしたことを通じて、政治学に関する入門的な知識を身に付けてもらいたいと思います。
授業方法：	授業は、講義形式で進めます。基本的には板書が中心となりますが、各自で必要と思う箇所については、特に板書をしなくてもノートを取るようして下さい。
履修の留意点：	履修上、特に必要な要件や準備はありませんが、政治や行政、経済などについて日頃から関心を持つように心がけて下さい。
目標と評価：	この授業では、政治学に関する入門的な知識を身に付けることを目標とします。すなわち、政治学における基礎的な用語や理論等の理解、現代日本における政治制度等に対する理解をすることによって、より専門性の高い議論を行うための基礎を作ります。なお、成績の評価は、授業中に適宜行う小テスト等の平常点（30%）と、学期末に行う筆記試験（70%）の結果を総合して評価します。
教科書：	現代政治学 加茂利男・大西仁・石田徹・伊藤恭彦 有斐閣 平成15年11月20日 新版第3刷発行
参考書：	政治学・行政学の基礎知識 堀江湛（編） 一藝社 平成16年4月15日 初版第1刷発行

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「政治学Ⅱ」（担当者：門松 秀樹）の履修の手引き

科目名：	政治学Ⅱ
担当者：	門松 秀樹
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	政治学において、実際に政治現象を分析していくに当たっては様々な理論や手法があります。この授業では、そうした理論や手法の基本的な説明を行いつつ、選挙や議会、マスコミなど、現代日本における政治過程や政策決定過程などについて、事例を示しつつ説明を進めたいと考えています。ここでは、政治学における分析手法に対する理解と、それに基づく分析の内容を理解することを目指してもらいたいと思います。
授業方法：	授業は、講義形式で進めます。基本的には板書が中心となりますが、各自で必要と思う箇所については、特に板書をしなくてもノートを取るようして下さい。
履修の留意点：	「政治学Ⅱ」の履修にあたって、「政治学Ⅰ」の履修は必要要件とはしませんが、履修していることが望ましいです。政治学に関する基礎的な用語や知識を習得していた方が、より深く授業の内容を理解できると思います。
目標と評価：	この授業では、政治学に関する基礎的な知識を基にして、現状を分析するために必要な議論の内容を理解することを目標とします。例えば、政治過程論や公共政策論といった政治学における理論に基づく分析や議論の内容を、各自が理解できるようになるということです。なお、成績の評価は、授業中に適宜行う小テスト等の平常点（30％）と、学期末に行う筆記試験（70％）の結果を総合して評価します。
教科書：	現代政治学 加茂利男・大西仁・石田徹・伊藤恭彦 有斐閣 平成15年11月20日 新版第3刷発行
参考書：	現代政治学叢書9 公共選択 小林良彰 東京大学出版会 平成17年4月20日 初版第8刷発行

※最終評価は、評価点7割，出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「公共政策」（担当者：宝賀 寿男）の履修の手引き

科目名：	公共政策
担当者：	宝賀 寿男
設置学期：	秋
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	<p>最近のわが国経済社会の状況を見ると、様々な規制緩和や民営化は進んでいますが、その一方、裁判員制度の導入や情報関連の新しい法規制などで、公共分野との接触・対応の機会が増えてくるものがあり、税金や交通取締はもちろんのこと、年金や社会保障などもあって、日常生活において公共分野と無関係で生活することは避けられません。昨年春に完全施行になった個人情報保護法や今年4月から施行となる公益通報者保護法などは、個人や企業が社会のなかで単独で身勝手な行動ができないことを如実に示します。</p> <p>これは、私的部門において就職したり事業を営む場合でもそうですが、公共分野で仕事をするとすると、ますます自分の働く分野について関連する知識は必要となります。</p> <p>本講座では、公共政策の概念、政策決定の環境・プロセスと参加者、政策形成の指針、市場の失敗と政府の失敗、政策の評価など、政治学・行政学・財政学、経済学や経営学など広範な社会科学分野の統合を目指す「政策科学」を概観するとともに、公共政策の決定・過程・評価に関わる現実的な動きをどのように見るのかを具体的に個別事例を取り上げて学んでいきます。最後に、今後の公共政策のあり方を、最近の経済社会の動向を踏まえて民主主義と合理主義の視点から考察します。</p> <p>この授業では、理念的ではなく、むしろ日常的な具体的事例や実態を踏まえて、公共政策が働く分野とその周辺事情を理解し、これらに対して、どのように対応していくか、また対応していけるかを学びます。公共分野はたいへん幅広いので、ものによっては入口くらいしか触れられないものもありますが、それらについては、概括的に対応の考え方を学びます。</p>
授業方法：	<p>13回（26コマ）について、次のように考えています。</p> <p>講義（10回）および研究発表（1回）、視察など（2回ほど）。レポート提出は全員を対象としますが、研究発表ないし討論は、特定の受講生（グループ、個人）をレポーターに指名して行います。また、テーマによっては、その分野の専門家をゲストとして招いて、話を聞いたり討論することも考えます。机上の話ではなく、具体的に事案に即して話をし、考えていくような内容にしたいと思っています。</p>
履修の留意点：	<p>その履修を必ずしも前提とはしませんが、春学期の行政法、地方自治論、日本経済論といった公共政策に関連する分野の講義を聴くか書物を読んで、何らかの基礎知識があるほうが望ましいと考えています。</p> <p>あとは、新聞や関連する本・雑誌等について問題意識をもって丁寧に読んでいくことが講義の理解を進めるものと思われます。また、専門用語が多くあるので、政治学や経済学の辞典（事典）類をよく引いて、その用語の基本的な意味を確かめつつ学ぶことも理解を深めると考えられます。</p> <p>受講する学生は、受け身ではなく、主体的意欲的に取り組んでいただけたらと思いますし、授業の進め方については希望を聞く場合もあります。</p>
目標と評価：	<p>この授業を受講した学生は以下のことについて、知識を習得するように学習することを望みます。</p> <p>日本における公共分野の役割を具体的に認識し、説明すること 将来、公共部門で仕事をする可能性がある場合に、それに必要な基本的な知識を得ること 経済社会において、公共部門からの働きかけに対し的確に対応すること、また公共部門との交渉において適切に対処すること</p> <p>なお、評価点は以下の項目毎に加算方式で算出します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 出席および議論における発言の積極性 [20%] ● レポーター、質問者としての貢献および課題の提出状況 [30%] ● 学期末レポート試験 [50%]
教科書：	公共政策のすすめ—現代的公共性とは何か— 宮本 憲一 有斐閣 1998年（平成10年）6月 初版第1刷発行
参考書：	概説 日本の公共政策 新藤宗幸 東京大学出版会 2004年2月17日 初版

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「労働法」（担当者：松林 智紀）の履修の手引き

科目名：	労働法
担当者：	松林 智紀
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>労働法とは、一言で言えば、人が他人に雇われて働くことに関連する法の総体です。そして、その主要な内容は、いわゆる市民法の原理を修正し、雇われて働く人を保護するための規制から成り立っています。</p> <p>世の中の多くの人は、自らまたは家計の維持者が他人に雇われて働くことによって生活しているわけですので、労働法は比較的身近な法律といえようかと思えます。また、皆さんの多くは卒業後企業に雇われて働くことになるでしょうから、労働法についての基礎的な知識をもっていることは、実際上も皆さんにとって有益ではないかと思われます。</p> <p>現在、我が国の雇用社会は、長期雇用システムを中心とする従来の体制が変容していく過程にあり、これを受けて労働法分野では近時法改正が続いているほか、新たな法律（労働契約法）の制定に向けた動きもあります。このような状況についても、可能な範囲で言及します。</p>
授業方法：	<p>講義（全13回）および定期試験を行います。</p> <p>講義の進行状況によっては重要判例を素材にして討論を行うこともありえます。</p>
履修の留意点：	講義の際は六法を持参してください。
目標と評価：	<p>本講義は労働法の骨格および主要な論点についての基本的な理解を得ることを目標とします。</p> <p>評価は、受講態度および定期試験の結果等を総合的に判断して決定します。</p>
教科書：	労働法〔第3版〕 下井隆史 有斐閣 平成15年12月
参考書：	労働判例百選〔第7版〕（別冊ジュリスト165） 菅野和夫・西谷敏・荒木尚志 編 有斐閣 平成14年11月

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「労働法」（担当者：松林 智紀）の履修の手引き

科目名：	労働法
担当者：	松林 智紀
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>労働法とは、一言で言えば、人が他人に雇われて働くことに関連する法の総体です。そして、その主要な内容は、いわゆる市民法の原理を修正し、雇われて働く人を保護するための規制から成り立っています。</p> <p>世の中の多くの人は、自らまたは家計の維持者が他人に雇われて働くことによって生活しているわけですので、労働法は比較的身近な法律といえようかと思えます。また、皆さんの多くは卒業後企業に雇われて働くことになるでしょうから、労働法についての基礎的な知識をもっていることは、実際上も皆さんにとって有益ではないかと思われます。</p> <p>現在、我が国の雇用社会は、長期雇用システムを中心とする従来の体制が変容していく過程にあり、これを受けて労働法分野では近時法改正が続いているほか、新たな法律（労働契約法）の制定に向けた動きもあります。このような状況についても、可能な範囲で言及します。</p>
授業方法：	<p>講義（全13回）および定期試験を行います。</p> <p>講義の進行状況によっては重要判例を素材にして討論を行うこともありえます。</p>
履修の留意点：	講義の際は六法を持参してください。
目標と評価：	<p>本講義は労働法の骨格および主要な論点についての基本的な理解を得ることを目標とします。</p> <p>評価は、受講態度および定期試験の結果等を総合的に判断して決定します。</p>
教科書：	労働法〔第3版〕 下井隆史 有斐閣 平成15年12月
参考書：	労働判例百選〔第7版〕（別冊ジュリスト165） 菅野和夫・西谷敏・荒木尚志 編 有斐閣 平成14年11月

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「民法（週2コマ）」（担当：石川 光晴）の履修の手引き

科目名：	民法（週2コマ）
担当者：	石川 光晴
設置学期：	春
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	みなさんは「民法」と聞いたときにどのような印象を持つでしょうか。民法を含め、法学は、大学に入って初めて勉強することになるので（憲法の一部だけは社会科や公民等で少し勉強したことがあるかもしれませんが）、みなさんには予備知識がほとんどないと思います。従って、難しそう、ややこしそう、自分には関係がなさそう、あるいは、面白そう、役に立ちそう等々様々な印象を持つのではないかと思います。 本講義では、法学のうち、私人間における行為を規律する法律である民法を学びます。われわれが気づかないだけで民法の規律に服する場面は日常生活において多々あります。これらの問題もしくは紛争については民法はどのような処理をするのかを学びます。本講義の内容のイメージとしては、契約とはどのようなものか、契約にはどのようなルールがあるのかを中心に学ぶと考えると結構です。 また、本講義では、民法の知識を学ぶことはもちろん、法律家としての思考方法、いわゆる「リーガルマインド」を身につけることをもその目的とします。同時に、受講生が民法をただ学問としてだけでなく、実務において活用できるようにすることを目的とした内容の講義を行います。
授業方法：	講義（全13回）及び定期試験を行います。講義はできる限り具体的なケースを取扱い、受講者が理解しやすいように努めるつもりです。また、毎回ごとにレジュメや資料を配布する予定です。
履修の留意点：	本講義を履修するにあたり、とくに法律に関する知識は必要としません。事前に特定の科目の知識が必要ということはありませんが、民法Iを履修済みであるとより容易に内容を理解することができます。ただし、六法は小型のもので構わないので毎回持参して下さい。法学を上達させる最も優れた方法は、毎回条文を確認することにあります。また、講義は1回ごとに完結するわけではなく、同時に出席点も勘案して成績を決定しますので、必ず毎回受講するようにして下さい。
目標と評価：	概要にも少し書きましたが、本講義の目的は①リーガルマインドを身につける、②実社会において民法その他の法律を応用し、具体的に活用できるようにする、③商法をはじめとする他の法律科目を学ぶ上での基礎知識を取得することです。さらに、最終的には会社を運営するために必要な実務の知識を取得することもその目的とします。 評価は出席状況、受講態度及び定期試験の結果等を総合的に判断して決定します。
教科書：	民法入門（第5版） 川井健 有斐閣 2005年5月
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「商法」（担当者：小菅 成一）の履修の手引き

科目名：	商法
担当者：	小菅 成一
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	現代社会は、企業が存在なくして成り立ちません。皆さんの日常生活も企業との取引からはじまり、そして、多くの方が将来企業に就職することでしょう。本授業では、そうした企業と法律との関わりについて勉強していきます。具体的には、商法総則、商行為法、消費者契約法、特定商取引法という分野を対象とします。
授業方法：	講義形式で行いますが、こちらから皆さんに質問したりすることもあります。したがって、自分で以下に記したような参考書を購入し、あらかじめ予習しておくことが期待されます。
履修の留意点：	商法総則や商行為法等を勉強することで、皆さんが、企業取引における法的な問題点を検討できる能力を身につけられるようにしていきます。
目標と評価：	成績の評価については、①受講態度、定期試験の結果等（レポート等の宿題も実施する予定）＝70％、②出欠席の状況＝30％（授業開始後15分経ってからの入室は遅刻扱い、30分経ってからの入室は欠席扱いとします）によって判断します。なお、授業中に私語をする、教室内を移動する、授業内容と関係のない私的な電子機器を使用する等の行為はやめてください。これらが守れない場合には、こちらから受講の停止・退室（当然、減点の対象とします）を求めることもあります。
教科書：	
参考書：	商法Ⅰ（総則・商行為法、手形・小切手法） 丸山秀平 新世社 2005年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「税法」（担当者：前川 邦生）の履修の手引き

科目名：	税法
担当者：	前川 邦生
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>憲法第30条に「国民は法律の定めるところにより、納税の義務を負う」とあり、国民の生命・自由・財産を守るためや、公共サービスを提供するための経費を国民の負担に求める。これが租税であり、その租税を徴収するには、必ず法律の根拠がなければならない。このことを租税法律主義と呼んでいる。その根拠等を歴史的にさかのぼり、学ぶことにより、租税の意義・目的・機能等を学ぶことにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 租税と税法 2. 税法の基本原則 3. 税法の解釈と適用 4. 各税の仕組みと問題点 5. 所得税法における事業所得を中心に 6. 申告書および申告納税制度の理解
授業方法：	<p>国や地方公共団体の公共サービスの財源である税金の意義・目的・機能を税法の基本原則、租税制度について、「税法のしくみ」解説しながら、講義方式で資料や演習問題と共に理解を深めさせる。主なテーマについてはレポート等で調べて纏める力を養う。レポートの纏め方、書き方、参考文献の表示の仕方等をしっかりと学ばせる。</p>
履修の留意点：	<p>簿記原理、会計リテラシーを受講して理解しているほうが望ましい。また、財務会計および税務会計等も同時に履修されるとより理解度が深まると思われる。新聞等で税制改革や税金に関する問題に興味を持つことをおすすめいたします。</p>
目標と評価：	<p>税法全般の基礎を理解させることに主眼を置き、所得税法・法人税法等の国税を中心に理解を進める。できれば、所得税の確定申告書が作成できる力を養いたいと願っている。評価は本学のシステムに従い、期末試験・出席・レポート等で総合評価を行う。特に出席されることが大切である。</p>
教科書：	『税法入門』 -第5版- 金子宏他 有斐閣（新書） 2006年3月
参考書：	『所得税法要説』 菊谷正人、依田俊伸 同文館出版 2005年9月

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「税法」（担当者：前川 邦生）の履修の手引き

科目名：	税法
担当者：	前川 邦生
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>憲法第30条に「国民は法律の定めるところにより、納税の義務を負う」とあり、国民の生命・自由・財産を守るためや、公共サービスを提供するための経費を国民の負担に求める。これが租税であり、その租税を徴収するには、必ず法律の根拠がなければならない。このことを租税法律主義と呼んでいる。その根拠等を歴史的にさかのぼり、学ぶことにより、租税の意義・目的・機能等を学ぶことにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 租税と税法 2. 税法の基本原則 3. 税法の解釈と適用 4. 各税の仕組みと問題点 5. 所得税法における事業所得を中心にして 6. 申告書および申告納税制度の理解
授業方法：	<p>国や地方公共団体の公共サービスの財源である税金の意義・目的・機能を税法の基本原則、租税制度について、「税法のしくみ」解説しながら、講義方式で資料や演習問題と共に理解を深めさせる。主なテーマについてはレポート等で調べて纏める力を養う。レポートの纏め方、書き方、参考文献の表示の仕方等をしっかりと学ばせる。</p>
履修の留意点：	<p>簿記原理、会計リテラシーを受講して理解しているほうが望ましい。また、財務会計および税務会計等も同時に履修されるとより理解度が深まると思われる。新聞等で税制改革や税金に関する問題に興味を持つことをおすすめいたします。</p>
目標と評価：	<p>税法全般の基礎を理解させることに主眼を置き、所得税法・法人税法等の国税を中心に理解を進める。できれば、所得税の確定申告書が作成できる力を養いたいと願っている。評価は本学のシステムに従い、期末試験・出席・レポート等で総合評価を行う。特に出席されることが大切である。</p>
教科書：	『税法入門』 -第5版- 金子宏他 有斐閣（新書） 2006年3月
参考書：	『所得税法要説』 菊谷正人、依田俊伸 同文館出版 2005年9月

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「会社法」（担当者：林 康平）の履修の手引き

科目名：	会社法
担当者：	林 康平
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	平成17年の会社法大改正に対応して、新しい会社法制度について解説する。特に会社制度については規制緩和が行なわれ、会社経営者は、ある程度自由に会社の機関構成を選択でき、また、敵対的企業買収に対しては有効な防衛策を打ち出せることとなった。このような規制緩和により「会社」制度は現代社会の中でどのような役割を担うことが期待されているかについて理解を深めていくことが最終的な目標である。
授業方法：	会社法は全く一新されたのであって、どうしても新制度の解説が中心とならざるを得ない。会社法という法律は、日常生活では全く必要のないものであり、理解の及ばない部分も数多くあると思う。理解できない部分はそのまましておかず、積極的に質問することが大切である。
履修の留意点：	社会における諸現象には全て、株式会社が関わっているといっても過言ではない。新聞記事の社会面、経済面には毎日必ず目を通す習慣を身につけておくことが必要である。
目標と評価：	期末試験を重視する。
教科書：	現代 新会社法（仮題） 坂本延夫・中村建他 嵯峨野書院 2006年5月（予定）
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「商法 I」（担当者：原田 義郎）の履修の手引き

科目名：	商法 I
担当者：	原田 義郎
設置学期：	秋
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	この授業は、商法総則・会社法が対象であり、両者共、昨年の大改正により、本年5月より装いを新たに施行されることになっている。とりわけ会社法は、900点以上にも及ぶ単独の大法典となり、今日的な社会・経済状況に対応した諸制度がもり込まれ、また条文形式もひらがな、口語体に改められ、親しみやすいものとなっている。 講義の範囲は分量の関係から限定的となり、長い詳細な条文は省略あるいは意味の説明に止め、株式会社の重要な諸制度の解説を中心とする。会社法は、今日の経済社会の根幹となす株式会社を規律する基本法である。
授業方法：	①講義形式である。 ②講義の終りに学生の質問を受ける。これは、一方通告になりがちな学習を補うためである。 ③その質問は紙に書いて私の所に届ける。簡単に解答できる場合はよいが、その解説は次週に行う。（くわしくは最初の授業時間に説明する）
履修の留意点：	①講義内容を聞き漏らさず、又、よく吟味すること。 ②六法は平成18年度版のものを使用すること。
目標と評価：	目標：株式会社法の学習を通して次のようなことを考える足がかりとしたい。 (1) 会社法は今日の企業社会にとってどのような意味をもつものだろうか。 (2) 「会社は誰のものか」といった問いに何と答えるか。 (3) 会社法と「企業の社会的責任（CSR）」あるいは「コンプライアンス」などとどんな関わりがあるだろうか。 評価：期末試験が中心であるが、学生の質問の中にも評価すべきものにはプラス点となる。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「商法Ⅱ」（担当者：小菅 成一）の履修の手引き

科目名：	商法Ⅱ
担当者：	小菅 成一
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	現代社会は、企業の存在なくして成り立ちません。皆さんの日常生活も企業との取引からはじまり、そして、多くの方が将来企業に就職することでしょう。本授業では、そうした企業と法律との関わりについて勉強していきます。具体的には、商法総則を対象とします。詳細については、学ナビ上の「授業情報」中の「授業計画」をクリックして、読んでみてください。
授業方法：	講義形式で行いますが、こちらから皆さんに質問したりすることもあります。したがって、自分で以下に記したような参考書を購入し、あらかじめ予習しておくことが期待されます。
履修の留意点：	商法総則を勉強することで、皆さんが、企業取引における法的な問題点を検討できる能力を身につけられるようにしていきます。
目標と評価：	成績の評価については、①受講態度、定期試験の結果等（レポート等の宿題も実施する予定）＝70％、②出欠席の状況＝30％（授業開始後15分経ってからの入室は遅刻扱い、30分経ってからの入室は欠席扱いとします）によって判断します。なお、授業中に私語をする、教室内を移動する、授業内容と関係のない私的な電子機器を使用する等の行為はやめてください。これらが守れない場合には、こちらから受講の停止・退室（当然、減点の対象とします）を求めることもあります。
教科書：	
参考書：	商法Ⅰ（総則・商行為法／手形・小切手法） 丸山秀平 新世社 2005年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「行政法 I」（担当者：高木 康一）の履修の手引き

科目名：	行政法 I
担当者：	高木 康一
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>行政法の全体像を理解することを目的にします。具体的には第一回目の講義で話しますが、行政法はいくつかの法律から成り立っています。行政法に基づいて活動するのは、いわゆるお役所です。その母体は、国や市町村なのですが、その相手方はわれわれ市民です。したがって、われわれの日々の活動のいたるところで、行政法と関連します。それらがそれぞれどのような働きをもつのか、そして、実際に生活していくうえで、あるいは、職業活動といかに関係するのかを知ってみたいと思います。日々の新聞やニュース等にも行政法にかかわるテーマは多くあります。これらを通じて、まずは行政法（学）の概要を知ってみたいと思います。</p> <p>国家2種、地方上級等も含めた公務員試験、各種国家試験（行政書士、司法書士等）受験希望者、法科大学院進学希望者の参加も歓迎します。</p>
授業方法：	レジュメ、資料等に基づいた講義方式にします。
履修の留意点：	六法を持参のこと。
目標と評価：	<p>単なる丸暗記ではない、学問としての法学を身につけてみたいと思います。公務員試験や法科大学院進学者には特に、この点が大切なことを、講義内でも触れていきます。</p> <p>評価は学期末の試験によります。</p>
教科書：	行政法入門 第4版 藤田宙靖 有斐閣 2005年
参考書：	開講時に指示します。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「行政法Ⅱ」（担当者：高木 康一）の履修の手引き

科目名：	行政法Ⅱ
担当者：	高木 康一
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	行政法Ⅰの内容をふまえて、いわゆる行政法各論を扱います。それぞれのテーマについて学説にはどのような見解が存在するか、また、具体的な裁判例をもとに、検討を行います。特に裁判例の中には、みなさんのびっくりするような事件も多くあります。社会に出て、みなさんが行政法を使いこなせるようになることを期待します。 国家2種、地方上級等も含めた公務員試験、各種国家試験（行政書士、司法書士等）受験希望者、法科大学院進学希望者の参加も歓迎します。
授業方法：	レジュメ、資料等に基づいた講義方式にします。
履修の留意点：	六法を持参のこと。
目標と評価：	単なる丸暗記ではない学問としての法学を身につけてもらいたいと思います。公務員試験や法科大学院進学者には特に、この点が大切なことを、講義内でも触れていきます。 評価は学期末の試験によります。
教科書：	行政法入門 第4版 藤田宙靖 有斐閣 2005
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営と法」（担当者：小菅 成一）の履修の手引き

科目名：	経営と法
担当者：	小菅 成一
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	現代社会は、企業の存在なくして成り立ちません。皆さんの日常生活も企業との取引からはじまり、そして、多くの方が将来企業に就職することでしょう。本授業では、そうした企業活動と法律との関わりについて勉強していきます。
授業方法：	講義形式で行います。
履修の留意点：	企業活動と法律との関わりに関心のある学生の受講を歓迎します。逆に、やる気のない学生（日頃から授業中に平気で私語をしたり、パソコンで遊んだり、教室を出入りしたりする人等）は、迷惑ですから、受講しないでください。
目標と評価：	経営と法を勉強することで、皆さんが、企業活動における法律的な問題点を検討できる能力が身につけられるようになっていきます。なお、評価方法は、受講態度、定期試験の結果で判断します。
教科書：	
参考書：	キーワードで読む会社法 浜田道代編 有斐閣 2005年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営と法」（担当者：石川 光晴）の履修の手引き

科目名：	経営と法
担当者：	石川 光晴
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	みなさんは、「法律」あるいは「法学」にどのようなイメージを持っているのでしょうか。最近では「行列のできる法律相談所」というテレビ番組のおかげで、法律が身近なものであるという好意的なイメージを持つ方が多いのではないかと思います。ただし、ひとことで法律（学）といっても、民事事件（私人間のトラブル等）から刑事事件（殺人、傷害、窃盗といった犯罪）、さらには国や地方公共団体を相手にする行政事件（行政処分取消又は変更等を求めるもの）を対象とするものまで様々なものがあります。テレビでは、あまりこのような区別をすることなく、弁護士の方々が解説を加えるというバラエティ色が強い内容となっていますが、厳密に言えば、これらはそれぞれ区別して扱われるものです。本講義の目標は、これから本格的に法律を学ぶみなさんに、法学の基礎知識を学んでもらうことです。とくに、本講義では企業経営と法学とはどのような関係にあるのか、どのようなことを学ぶのかということに主眼をおいて講義致します。例えば、会社の設立の方法から、経営者に必要な法律はどのようなものかということについて講義いたします。講義の進め方としては、初めて法学を学ぶみなさんのために、最初に法学の概要について簡単に講義を行い、一通り説明が終わったら経営と法律についての具体的な内容に入ります。また、ニュース等で話題になっている事件や法律問題等についても、できる限り触れたいと思います。
授業方法：	講義（全13回）及び定期試験を行います。講義はできる限り具体的なケースを取扱い、受講者が理解しやすいように努めるつもりです。また、毎回ごとにレジュメや資料を配布する予定です。
履修の留意点：	本講義を履修するにあたり、とくに法律に関する知識は必要としません。事前に特定の科目の知識が必要ということはありませんが、民法Iを履修済みであるとより容易に内容を理解することができます。ただし、六法は小型のもので構わないので毎回持参して下さい。法学を上達させる最も優れた方法は、毎回条文を確認することにあります。また、講義は1回ごとに完結するわけではなく、同時に出席点も勘案して成績を決定しますので、必ず毎回受講するようにして下さい。
目標と評価：	本講義を受講することにより、法学を学ぶ上で必要な基礎知識を身につけることを目標とします。併せて「リーガルマインド（法律的なものの考え方）」を身につけることも目標と致します。評価は出席状況、受講態度及び定期試験の結果等を総合的に判断して決定します。
教科書：	法の世界へ 有斐閣アルマ 池田真朗 野川忍 長谷部由起子 犬伏由子 大塚英明 有斐閣 2004年3月
参考書：	キーワードで読む会社法 浜田道代編 有斐閣 2005年12月

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「刑法Ⅰ」（担当者：漆畑 貴久）の履修の手引き

科目名：	刑法Ⅰ
担当者：	漆畑 貴久
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>本講義では、犯罪論と刑罰論からなる刑法の基本的な考え方（刑法総論といいます）を学びます。ここでは、刑法がそもそもなぜ存在するのか、なぜ犯罪には刑罰を科するのかという根本的な問題について理解を深めるとともに、刑法がどのような行為を犯罪として規定しているのか、そして、それらの犯罪に対して刑法がどのように解釈・適用されているのかについて、具体的な事例に基づいて学んでいく予定です。具体的な授業のテーマ・内容は以下のとおりです（1つのテーマで2～3回の授業になる場合もあります）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 刑法の全体像 2. 罪刑法定主義の内容と派生原則 3. 犯罪の概念と犯罪の成立要件 4. 構成要件 5. 因果関係 6. 構成要件の故意・構成要件の過失 7. 違法性 8. 責任論 9. 未遂 10. 共犯 11. 罪数と刑罰
授業方法：	講義形式で行います。レジュメを配布しますので、それに基づいて授業を進めていきます。
履修の留意点：	<ul style="list-style-type: none"> ・小さいものでかまいませんので、六法を持参して下さい。 ・「授業方法」の欄でも述べましたが、授業ごとに該当する部分のレジュメを配布します。受講される方は、講義を聞きながら、それぞれ必要な書き込みを行って下さい。
目標と評価：	<p>目標： 我が国において、犯罪と刑罰とに関する規定がどのように定められているのか、そして、いかなる場合に犯罪が成立するかについての一般的な仕組みを学び、理解することを本授業の最終的な目標とします。</p> <p>評価： 学期末に実施する筆記試験によって評価を行います。なお、試験への持込は自由とします。</p>
教科書：	有斐閣双書 刑法（全）第3版補訂版 藤木 英雄 著、船山泰範 補訂 有斐閣 2003年
参考書：	必要に応じて紹介します。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「刑法Ⅱ」（担当者：漆畑 貴久）の履修の手引き

科目名：	刑法Ⅱ
担当者：	漆畑 貴久
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>本講義では、個人的法益に対する罪、社会的法益に対する罪、そして国家的法益に対する罪として、刑法典に定められた個別の犯罪行為がどのような要件から構成されているのか、そしてそれぞれの犯罪行為に対してどのような刑罰が科せられることが予定されているのかを中心に、条文、及び具体的事例等を参照しつつ学んでいくことを予定しています（刑法各論といいます）。ただし、刑法典に規定された個別の犯罪に関する規定・条文は量的に膨大であるため、それぞれの「罪」として規定されているものの中から重要と考えられるテーマを選択して、それを中心に勉強していく方法をとりたいと思います。具体的なテーマ・内容は以下のものを予定しています（なお、1つのテーマで、2～3回の授業となる場合があります。）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命・身体に対する罪 2. 自由及び私生活の平穩に対する罪 3. 名誉・信用に対する罪 4. 財産に対する罪 5. 公衆の安全に対する罪 6. 風俗・秩序に対する罪 7. 国家的法益に対する罪
授業方法：	講義形式で行います。レジュメを配布しますので、それに基づいて授業を進めていきます。
履修の留意点：	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小さいものでかまいませんので、六法を持参して下さい。 ・ 「授業方法」の欄でも述べましたが、授業ごとに該当する部分のレジュメを配布します。受講される方は、講義を聞きながら、それぞれ必要な書き込みを行って下さい。
目標と評価：	<p>目標： 我が国の刑法典において、犯罪と刑罰とに関する規定がどのように定められているのか、そして、いかなる場合に犯罪が成立するかについて、個別の犯罪ごとに、その仕組み・構造を学び、理解することを本授業の最終的な目標とします。</p> <p>評価： 学期末に実施する筆記試験によって評価を行います。なお、試験への持込は自由とします。</p>
教科書：	有斐閣双書 刑法（全）第3版補訂版 藤木 英雄 著、船山泰範 補訂 有斐閣 2003年
参考書：	必要に応じて紹介します。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「憲法 I」（担当者：高木 康一）の履修の手引き

科目名：	憲法 I
担当者：	高木 康一
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>憲法学全体の中のいわゆる人権分野を扱います。法律学は条文の丸暗記を行う学問ではありません。とりわけて憲法学はそうです。何条に何が書いてあるかではなく、憲法が人権を保障することの意義を探る作業を通じて、高校までの暗記科目ではない、憲法学を展開します。国家2種、地方上級等も含めた公務員試験、各種国家試験（行政書士、司法書士等）受験希望者、法科大学院進学希望者の参加も歓迎します。</p>
授業方法：	レジュメ、資料等に基づいた講義方式にします。
履修の留意点：	六法を持参のこと。
目標と評価：	<p>単なる丸暗記ではない学問としての法学を身につけてもらいたいと思います。公務員試験や法科大学院進学者には特に、この点が大切なことを、講義内でも触れていきます。評価は学期末の試験によります。</p>
教科書：	ヴァーチャル憲法 君塚・藤井・毛利 悠々社 2005
参考書：	開講時に指示します。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「憲法Ⅱ」（担当者：高木 康一）の履修の手引き

科目名：	憲法Ⅱ
担当者：	高木 康一
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	憲法Ⅱでは、いわゆる統治機構を対象とします。国会、内閣、裁判所等の構造と働きを、立憲主義の考え方に基づき理解してもらいたいと思います。憲法Ⅰと同じく、条文に何が書いてあるかということを学ぶことが憲法学ではありません。その背景にある、比較憲法的、歴史的背景を探ります。国家2種、地方上級等も含めた公務員試験、各種国家試験（行政書士、司法書士等）受験希望者、法科大学院進学希望者の参加も歓迎します
授業方法：	レジュメ、資料等に基づいた講義方式にします。
履修の留意点：	六法を持参のこと。
目標と評価：	単なる丸暗記ではない学問としての法学を身につけてもらいたいと思います。公務員試験や法科大学院進学者には特に、この点が大切なことを、講義内でも触れていきます。評価は学期末の試験によります。
教科書：	ヴァーチャル憲法 君塚・藤井・毛利 悠々社 2005
参考書：	開講時に指示します。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「商法Ⅲ」（担当者：小菅 成一）の履修の手引き

科目名：	商法Ⅲ
担当者：	小菅 成一
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	現代社会は、企業の存在なくして成り立ちません。皆さんの日常生活も企業との取引からはじまり、そして、多くの方が将来企業に就職することでしょう。本授業では、そうした企業と法律との関わりについて勉強していきます。具体的には、商行為法（企業取引法）、手形法、消費者契約法、特定商取引法、保険法等を取り上げます。詳細については、学ナビ上の「授業情報」中の「授業計画」をクリックして、読んでみてください。
授業方法：	講義形式で行いますが、こちらから皆さんに質問したりすることもあります。したがって、自分で以下に記したような参考書を購入し、あらかじめ予習しておくことが期待されます。
履修の留意点：	企業取引法や消費者契約法等を勉強することで、皆さんが、企業取引における法律的な問題点（企業間取引や消費者取引、金融取引等）を検討できる能力が身につけられるようにしていきます。
目標と評価：	成績の評価については、①受講態度、定期試験の結果等（レポート等の宿題も実施する予定）＝70％、②出欠席の状況＝30％（授業開始後15分経ってからの入室は遅刻扱い、30分経ってからの入室は欠席扱いとします）によって判断します。なお、授業中に私語をする、教室内を移動する、授業内容と関係のない私的な電子機器を使用する等の行為はやめてください。これらが守れない場合には、こちらから受講の停止・退室（当然、減点の対象とします）を求めることもあります。
教科書：	
参考書：	商法Ⅰ（総則・商行為法／手形・小切手法） 丸山秀平 新世社 2005年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「地方自治法」（担当者：菱山 泰男）の履修の手引き

科目名：	地方自治法
担当者：	菱山 泰男
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	地方自治、地方公共団体をめぐる法律は、大学における講義メニューとしては比較的地味という印象を持つ方もいるかもしれませんが、しかし、地方公共団体の活動は広範囲にわたって私たちの暮らしに密着しており、それをめぐる法律の制度・趣旨を理解する必要性は国をめぐると同じく、それをめぐる法律のそれにひけを取りません（皆さんがこれまで学生生活、社会生活をおくってきた経験上も、国と接する機会より、むしろ市町村などの地方公共団体と接する機会の方が多かったのではないのでしょうか。）。また、将来地方公務員になることを希望する方も多いかと思いますが、地方公務員になれば、当然、地方自治に関する法律知識が不可欠です。本講義では、地方公共団体の組織や活動などを規律する法律（地方自治法等）の基本的な制度・趣旨について、近時の状況の変化（いわゆる「平成の大合併」など）等もふまえて、総合的に講義を行います。
授業方法：	講義（全13回）および定期試験を行います。 講義の進行状況によっては重要判例を素材にして討論を行うこともありえます。
履修の留意点：	講義の際は地方自治法と地方公務員法が掲載されている六法を持参してください。
目標と評価：	地方自治法等に基づく制度とその趣旨について基本的な理解を得ることを目標にします。 評価は、受講態度および定期試験の結果等を総合的に判断して決定します。
教科書：	新版地方自治の法としくみ（改訂版） 原田尚彦 学陽書房 平成17年4月
参考書：	別冊ジュリスト地方自治判例百選（第3版） 磯部力・小幡純子・斎藤誠編 有斐閣 平成15年10月

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「民法Ⅰ」（担当者：石川 光晴）の履修の手引き

科目名：	民法Ⅰ
担当者：	石川 光晴
設置学期：	春
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	みなさんは「民法」と聞いたときにどのような印象を持つでしょうか。民法を含め、法律学は、大学に入って初めて勉強することになるので（憲法の一部だけは社会科や公民等で少し勉強したことがあるかもしれませんが）、みなさんには予備知識がほとんどないと思います。従って、難しそう、ややこしそう、自分には関係がなさそう、あるいは、面白そう、役に立ちそう等々様々な印象を持つのではないかと思います。
授業方法：	講義（全13回）及び定期試験を行います。講義はできる限り具体的なケースを取扱い、受講者が理解しやすいように努めるつもりです。また、毎回ごとにレジュメや資料を配布する予定です。
履修の留意点：	本講義を履修するにあたり、とくに法律に関する知識は必要としません。事前に特定の科目の知識が必要ということはありませんが、民法Ⅰを履修済みであるとより容易に内容を理解することができます。ただし、六法は小型のもので構わないので毎回持参して下さい。法律学を上達させる最も優れた方法は、毎回条文を確認することにあります。また、講義は1回ごとに完結するわけではなく、同時に出席点も勘案して成績を決定しますので、必ず毎回受講するようにして下さい。
目標と評価：	概要にも少し書きましたが、本講義の目的は①リーガルマインドを身につける、②実社会において民法その他の法律を応用し、具体的に活用できるようにする、③商法をはじめとする他の法律科目を学ぶ上での基礎知識を取得することです。さらに、最終的には会社を経営するために必要な実務の知識を取得することもその目的とします。
教科書：	民法入門（第5版） 川井健 有斐閣 2005年5月
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「民法Ⅱ」（担当者：田辺 信彦）の履修の手引き

科目名：	民法Ⅱ
担当者：	田辺 信彦
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>ある骨董品マニアがごんまりとした店の前を通り過ぎようとしたところ、仔猫が小さな皿のミルクをなめていた。よく見るとその皿には見事な模様がほどこしてあった。男は店の主人の所へ行って交渉を始めた。</p> <p>「この猫を売ってくれませんか。」 「それは売り物ではありません。」 「この猫は汚れており、それに病気がかかっていますよ。10ポンド払いましょう。 この猫を助けてやりたいんです。」 「いいでしょう。代金をいただきます。」 客はお金を支払ったあと申し出た。 「えさを食べさせるのに必要なので、この皿をいただいでいきますよ。」 店の主人は口元にいやしい笑みを浮かべながら言った。 「冗談じゃありません。この皿は金儲けするためのたったひとつの道具なんですよ。おかげでこの1週間にこの皿を手元に50匹も猫が売れましたんで。」</p> <p>池田修・アラブのジョーク（「世界のジョーク・警句集」所収）244頁、245頁</p> <p>一口に法律と言っても、様々な法律がありますが、最も基本的な法律が民法であると言えるでしょう。民法という法律は総則、物権、債権、親族、相続の5編から成っていますが、このうち第二編の物権が、ここで取り扱う対象となります。</p> <p>資産（物）を有する（所有する）というのとはどういうことなのか、資産を守るにはどうすべきか、資産を利用して何ができるのかなど、事業経営者の立場からみた法律（民法）を学びます。</p>
授業方法：	講義（全13回）及び定期試験を行います。講義は出来る限り具体的なケースを取扱い、受講者が理解しやすいように努めるつもりです。
履修の留意点：	<p>本講義を履修するにあたり、とくに法律に関する知識は必要としません。事前に特定の科目の知識が必要ということはありませんが、六法は小型のもので構わないので毎回持参してください。法律を学ぶうえで大事なことは、その都度条文を確認することです。また、講義は1回ごとに完結するわけではなく、同時に出席点も勘案して成績を決定しますので、必ず毎回受講するようにしてください。</p> <p>参考書① 民法案内3 物権法 上 我妻榮（幾代通・川井健補訂） 劉草書房 2006年1月 参考書② 民法案内4 物権法 下 我妻榮（幾代通・川井健補訂） 劉草書房 2006年1月</p>
目標と評価：	<p>本講義の目的は、①リーガルマインド（合理的なものの考え方）を身につける、②実社会において民法その他の法律が、具体的に運用されている実態を理解する、③他の法律科目を学ぶ上での基礎知識を取得することです。さらに、最終的にはリスク管理など会社を営むのに必要な判断や実務の知識を取得することもその目的とします。</p> <p>評価は出席状況、受講態度及び定期試験の結果等を総合的に判断して決定します。</p>
教科書：	民法第二版1 総則・物権法 我妻榮・有泉亨・川井健 劉草書房 2005年4月
参考書：	「履修上の留意点」参照のこと

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「民法Ⅱ」（担当者：石川 光晴）の履修の手引き

科目名：	民法Ⅱ
担当者：	石川 光晴
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>本講義では、民法Ⅰに引き続き、民法第2編に規定されている物権（担保物権を含む）について学びます。物権とは、物に対する権利であり、その物に関係する人全てに主張可能な直接的な権利をいいます。民法Ⅰで学ぶ債権が、その権利について当事者間でのみ主張可能であることと比較しても、物権がいかに強力な権利であるかがわかります。みなさんは、物権と聞いただけではあまりイメージがわかないかもしれません。しかし、物権の代表的なものとして所有権を例に挙げれば、何となくでもイメージすることができるのではないでしょうか（簡単に説明すれば、自分が購入した物は、自分がどのように扱うかを自由に決定することができるということです）。物権では、物権の発生・変更・消滅、動産・不動産、所有権、共有等について学びます。</p> <p>民法Ⅱで学ぶもう一つの重要な内容が担保物権です。担保物権には、みなさんも言葉くらいは聞いたことがあると思いますが、質権や抵当権（モノポリーというボードゲームを知っている方は多少はイメージがわくのではないのでしょうか。）といった約定担保物権や、留置権や先取特権といった法律上当然に発生する法定担保物権があります。本講義では、これらの担保物権の内容やその効果について学びます。</p> <p>担保物権は、実務では非常に重要な内容です。とくに銀行、保険会社、証券会社又は不動産会社に就職を希望する学生にとっては必ず知っておかなければならない内容なので、これらの会社に就職を希望する学生は受講することをお勧め致します。</p>
授業方法：	講義（全13回）及び定期試験を行います。講義はできる限り具体的なケースを取扱い、受講者が理解しやすいように努めるつもりです。また、各回ごとにレジュメや資料を配布する予定です。
履修の留意点：	本講義を履修するにあたり、とくに法律に関する知識は必要としません。事前に特定の科目の知識が必要ということはありませんが、民法Ⅰを履修済みであるとより容易に内容を理解することができます。ただし、六法は小型のもので構わないので毎回持参して下さい。法律学を上達させる最も優れた方法は、毎回条文を確認することにあります。また、講義は1回ごとに完結するわけではなく、同時に出席点も勘案して成績を決定しますので、必ず毎回受講するようにして下さい。
目標と評価：	概要にも少し書きましたが、本講義の目的は①リーガルマインドを身につける、②実社会において民法その他の法律を応用し、具体的に活用できるようにする、③商法をはじめとする他の法律科目を学ぶ上での基礎知識を取得することです。さらに、最終的には会社を営むために必要な実務の知識を取得することもその目的とします。評価は出席状況、受講態度及び定期試験の結果等を総合的に判断して決定します。
教科書：	民法入門（第5版） 川井健 有斐閣 2005年5月
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「デザインの基礎」（担当者：森 康夫）の履修の手引き

科目名：	デザインの基礎
担当者：	森 康夫
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	人がコミュニケーションをしていく上で言葉や文字だけでは表現しきれない物がある。それらに対しては色や形、材料という造形言語表現を使って情報をビジュアルに表わしコミュニケーションする方法がある。ここではDTPやウェブページなどをデザインする上で役立つ一般的なデザインとレイアウトの基礎を学ぶ。
授業方法：	講義だけではなく実習を行うことで更に認識を高める。 <講義> ・デザインとは何か／デザインと芸術 ・デザインの基本（点、線、面） ・視覚伝達デザイン（サイン、マーク、ポスターの効果） ・レイアウトの基本（様式の8要素／視覚度、図版率、文字のジャンプ率、写真のジャンプ率、グリッド拘束率、版面率、構成の原則、書体のイメージ）（造形の8原則／主役を明示する、純主役を離す、群化、あいまいは不安、流れを整理する、余白は主役の領域、四隅をおさえる、反面線を利用する） ・レイアウトの手順 <実習>様々なレイアウトの実習
履修の留意点：	課題をこなしながら覚えていく授業なので、休まないことが大事である。 ・課題を熱心にこなした学生は充実感とともに知識を得られるが、出せば良いと考えている学生は何も得られない。
目標と評価：	目標：目にした広告について批評、評価できること。 （自分なりに広告をデザインできること）。 評価：授業への取組方、提出物の状況などを重視する。 （知識も必要であるので、小テストも行う）。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「デザインと色彩」（担当者：森 康夫）の履修の手引き

科目名：	デザインと色彩
担当者：	森 康夫
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	人がコミュニケーションをしていく上で言葉や文字だけでは表現しきれない物がある。それらに対しては色や形、材料という造形言語表現を使って情報をビジュアルに表わしコミュニケーションする方法がある。ここではDTPやウエブページなどをデザインする上で役立つ一般的なデザインと色彩の基礎を学ぶ。
授業方法：	講義だけではなく、実習を行うことで更に認識を高める。 <講義> 1、日常生活の色彩（流行色、インテリア、ファッションなど） 色彩の心理的効果／環境と色彩／経済と色彩 色の表現（絵画と色彩、ポスター、サイン、標識） 2、三原色（色料、色光）／色の三属性（色相、明度、彩度） トーン概念／色の分類と体系／混色／色の見え・対比／ 配色の基本 <実習> 様々な配色の実習
履修の留意点：	実習があるので必ず「教科書」及び「配色カード」を用意すること。 1、「デザインの色彩」 / 日本色研事業株式会社 2、「配色カード 199a」 / 日本色研事業株式会社
目標と評価：	目標：色彩のセンスを磨いて欲しい。 評価：授業への取組方、提出物の状況などを重視する。また、知識も必要なので、テストも行い、総合して評価する。
教科書：	「デザインの色彩」 + 作業用のもの（配色カード 199a） 日本色研事業株式会社
参考書：	

※最終評価は、評価点7割，出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータ入門」（担当者：木戸 和彦）の履修の手引き

科目名：	コンピュータ入門
担当者：	木戸 和彦
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>本講義はパソコンの基礎知識を習得し、パソコンを道具として使いこなせるようになることを目的に学習を行なう。講義の対象としているのは、これから本格的にノートパソコンを使用していく学生である。</p> <p>講義ではハードウェアや基本ソフトウェア、ネットワーク利用といった、パソコンとその関連事項（P検3級程度の内容）についても取り扱う。</p> <p>具体的な内容は主に以下に示すとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. パソコンを利用する前に（情報モラルとセキュリティ） 2. パソコンとは何か？ 3. 文字の入力 4. ファイルとフォルダの管理 5. インターネット（Webページ閲覧、電子メール） 6. マルチメディア（音楽やデジタルカメラの画像、動画）の活用 7. プレゼンテーションの基礎（PowerPoint）
授業方法：	<p>講義を中心とするが実習を適宜取り入れる。毎回の講義ではノートPCが必須となる。またノートPCの充電やACアダプタを持参するなど電源にも留意していただきたい。</p> <p>講義は受講生の平均的な知識レベルを前提に進めるため、理解度や講義に対する充実度に個人差が発生する可能性がある。特に初心者は予習・復習、講師への質問等をe-Campusを活用して行なうこと。この講義でつまずくとこれからのキャンパスライフにおいて確実に悪影響が出るので確実に受講していただきたい。</p>
履修の留意点：	特になし。
目標と評価：	<p>最終目標はノートパソコンを道具として使いこなせるようになることである。</p> <p>成績については講義中の実習と期末の筆記試験にて評価する。実習での評価を重視する。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータ入門」（担当者：南 憲一）の履修の手引き

科目名：	コンピュータ入門
担当者：	南 憲一
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>コンピュータはハードウェアとソフトウェアで構成され、最近では、コンピュータどうしが、コンピュータはハードウェアとソフトウェアで構成され、最近では、コンピュータどうしが、お互いにネットワークで接続されるような形で利用される。本講義では最初に、ハードウェアを構成する5つの基本装置と、これに接続して利用される周辺機器について学ぶ。次に、コンピュータを利用する上で最も基本的なソフトウェアであるオペレーティングシステム (Windows XP) の利用方法について学ぶ。さらに、学内のネットワーク (LAN) のしくみと利用方法について学び、最後にインターネットについて学習する。</p> <p>(内容) パソコン一般知識 LAN OS (オペレーティングシステム) インターネット 情報モラル</p>
授業方法：	パソコンを使用しながら講義を進めていくので、ノートパソコンを必ず持参すること。
履修の留意点：	嘉悦e-Campusを活用して授業を進めるので、授業時間内だけでなく自宅でも授業情報のページを開き、予習・復習に役立てること。
目標と評価：	パソコン検定試験 (P検) の3級に受かるレベルを目標に、学習を進めていく。定期試験で評価する。
教科書：	I T活用のためのビギナーズブック 中村修 他 日科技連 2005年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータ入門」（担当者：南 憲一）の履修の手引き

科目名：	コンピュータ入門
担当者：	南 憲一
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>コンピュータはハードウェアとソフトウェアで構成され、最近では、コンピュータどうしが、コンピュータはハードウェアとソフトウェアで構成され、最近では、コンピュータどうしが、お互いにネットワークで接続されるような形で利用される。本講義では最初に、ハードウェアを構成する5つの基本装置と、これに接続して利用される周辺機器について学ぶ。次に、コンピュータを利用する上で最も基本的なソフトウェアであるオペレーティングシステム (Windows XP) の利用方法について学ぶ。さらに、学内のネットワーク (LAN) のしくみと利用方法について学び、最後にインターネットについて学習する。</p> <p>(内容) パソコン一般知識 LAN OS (オペレーティングシステム) インターネット 情報モラル</p>
授業方法：	パソコンを使用しながら講義を進めていくので、ノートパソコンを必ず持参すること。
履修の留意点：	嘉悦e-Campusを活用して授業を進めるので、授業時間内だけでなく自宅でも授業情報のページを開き、予習・復習に役立てること。
目標と評価：	パソコン検定試験 (P検) の3級に受かるレベルを目標に、学習を進めていく。定期試験で評価する。
教科書：	I T活用のためのビギナーズブック 中村修 他 日科技連 2005年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータ入門」（担当者：滑川 光裕）の履修の手引き

科目名：	コンピュータ入門
担当者：	滑川 光裕
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	パソコン動作の仕組みや周辺機器の種類や接続方法など、「パソコンを十二分に使いこなせる」ことを目的とした授業である。 そのために、ハードウェアとソフトウェアの操作と動作の仕組みなどを連動して説明していく。また、現在の生活では欠かせないネットワークについても、使い方から種類・仕組みまでを解説する。 (最初に、電子メールの送受信、ウイルスチェックソフトの利用方法、WindowsUpdateの使い方など、嘉悦大学生として欠かせないネットワークの利用とセキュリティに関連した操作について行います。)
授業方法：	講義形式で行うが、途中でコンピュータの操作を行う。 また、授業中に小テスト・レポート提出を行う。 ※教科書として、「IT活用のためのビギナーズブック」（日科技連、3月出版予定）を中心に進める。 ※授業ですべてをカバーするわけではありませんが、P検3級取得支援を行っています。
履修の留意点：	特になし。
目標と評価：	授業中に行う幾つかの小テストやレポートの点数と期末の試験での評価を行う。
教科書：	IT活用のためのビギナーズブック 中村修,他 日科技連 2005
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータ入門」（担当者：山際 基）の履修の手引き

科目名：	コンピュータ入門
担当者：	山際 基
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>本講義はパソコンの基礎知識を習得し、パソコンを道具として使いこなせるようになることが目的である。講義の対象としているのは、これから本格的にノートパソコンを使用していく学生である。講義ではハードウェアや基本ソフトウェア、ネットワーク利用といった、パソコンとその関連事項（P検3級程度の内容）についても取り扱う。</p> <p>具体的な内容は主に以下に示すとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. パソコンを利用する前に（情報モラルとセキュリティ） 2. パソコンとは何か？ 3. 文字の入力 4. ファイルとフォルダの管理 5. インターネット（Webページ閲覧、電子メール） 6. マルチメディア（音楽やデジタルカメラの画像、動画）の活用 7. プレゼンテーションの基礎（PowerPoint）
授業方法：	<p>講義を中心とするが実習を適宜取り入れる。毎回の講義ではノートPCが必須である。</p> <p>講義は受講生の平均的な知識レベルを前提に進めるため、理解度や講義に対する充実度に個人差が発生する可能性がある。特に初心者には予習・復習、講師への質問等をe-Campusを活用して行なうこと。この講義でつまずくとこれからの大学生活、社会生活において確実に悪影響が出るので確実に習得していただきたい。</p>
履修の留意点：	なし
目標と評価：	<p>最終目標はノートパソコンを道具として使いこなせるようになることである。</p> <p>成績については講義中の実習と期末の筆記試験にて評価する。実習での評価を重視する。</p>
教科書：	IT活用のためのビギナーズブック -パソコンを120%使う本- 中村 修、南 憲一、滑川 光裕、森本 孝、山際 基、栗原 美紀 日科技連 2005
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータ入門」（担当者：山際 基）の履修の手引き

科目名：	コンピュータ入門
担当者：	山際 基
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>本講義はパソコンの基礎知識を習得し、パソコンを道具として使いこなせるようになることが目的である。講義の対象としているのは、これから本格的にノートパソコンを使用していく学生である。講義ではハードウェアや基本ソフトウェア、ネットワーク利用といった、パソコンとその関連事項（P検3級程度の内容）についても取り扱う。</p> <p>具体的な内容は主に以下に示すとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. パソコンを利用する前に（情報モラルとセキュリティ） 2. パソコンとは何か？ 3. 文字の入力 4. ファイルとフォルダの管理 5. インターネット（Webページ閲覧、電子メール） 6. マルチメディア（音楽やデジタルカメラの画像、動画）の活用 7. プレゼンテーションの基礎（PowerPoint）
授業方法：	<p>講義を中心とするが実習を適宜取り入れる。毎回の講義ではノートPCが必須である。講義は受講生の平均的な知識レベルを前提に進めるため、理解度や講義に対する充実度に個人差が発生する可能性がある。特に初心者には予習・復習、講師への質問等をe-Campusを活用して行なうこと。この講義でつまずくとこれからの大学生活、社会生活において確実に悪影響が出るので確実に習得していただきたい。</p>
履修の留意点：	なし
目標と評価：	<p>最終目標はノートパソコンを道具として使いこなせるようになることである。</p> <p>成績については講義中の実習と期末の筆記試験にて評価する。実習での評価を重視する。</p>
教科書：	IT活用のためのビギナーズブック -パソコンを120%使う本- 中村 修、南 憲一、滑川 光裕、森本 孝、山際 基、栗原 美紀 日科技連 2005
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータ入門」（担当者：宮本 勉）の履修の手引き

科目名：	コンピュータ入門
担当者：	宮本 勉
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>コンピュータの知識のうち、パーソナルコンピュータの基礎知識を習得するとともにパソコン検定（P検）3級の出題範囲の一部を学習する。講義は主に2部構成として行う</p> <p>第Ⅰ部 一般知識（P検テキスト：リテラシー用のテキスト）</p> <p>1、情報モラル 2、パソコンの一般知識 3、LAN</p> <p>第Ⅱ部 パソコンの仕組み（下記の本講義の教科書）</p> <p>1、派損の起動と終了 2、CPUとメモリ、ディスク 3、機器の動作 4、ファイル 5、インターネット</p>
授業方法：	基本的には講義であるが演習、レポート、実習等をおこなうので各自のノートPCを持参することが必須。授業開始までにネットワークに接続しておくこと。
履修の留意点：	基本的には講義であるが演習、レポート、実習等をおこなうので各自のノートPCを持参することが必須。《大容量バッテリーを使用すること》
目標と評価：	パソコン検定3級を目標とします パソコンを使いこなすための基本知識を身に着けること
教科書：	IT活用のためのビギナーズブック 中村修、南憲一、滑川光裕、森本孝、山際基、栗原美紀 株式会社日科技連出版社 2005年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータ入門」（担当者：宮本 勉）の履修の手引き

科目名：	コンピュータ入門
担当者：	宮本 勉
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>コンピュータの知識のうち、パーソナルコンピュータの基礎知識を習得するとともにパソコン検定（P検）3級の出題範囲の一部を学習する。講義は主に2部構成として行う</p> <p>第Ⅰ部 一般知識（P検テキスト：リテラシー用のテキスト）</p> <p>1、情報モラル 2、パソコンの一般知識 3、LAN</p> <p>第Ⅱ部 パソコンの仕組み（下記の本講義の教科書）</p> <p>1、派損の起動と終了 2、CPUとメモリ、ディスク 3、機器の動作 4、ファイル 5、インターネット</p>
授業方法：	基本的には講義であるが演習、レポート、実習等をおこなうので各自のノートPCを持参することが必須。授業開始までにネットワークに接続しておくこと。
履修の留意点：	基本的には講義であるが演習、レポート、実習等をおこなうので各自のノートPCを持参することが必須。《大容量バッテリーを使用すること》
目標と評価：	パソコン検定3級を目標とします パソコンを使いこなすための基本知識を身に着けること
教科書：	IT活用のためのビギナーズブック 中村修、南憲一、滑川光裕、森本孝、山際基、栗原美紀 株式会社日科技連出版社 2005年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「情報社会論 I」 (担当者: 宮本 勉) の履修の手引き

科目名:	情報社会論 I
担当者:	宮本 勉
設置学期:	春
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	近年の情報通信技術(IT)のめざましい発展は、企業、家庭など社会の様々な側面に大きな影響を与えています。それには人々の生活を豊かにする正の面があると同時に、デジタルデバイド、有害情報の流通のような負の面も含まれます。本講義では発展著しい情報通信技術の例としてインターネットをとりあげ、その歴史と現状、基礎となる技術を学習します。そしてその社会へのインパクトを、プラスとマイナスの両方の側面から考察し、将来どのような方向に進むべきかを考えていきます。
授業方法:	基本的には講義を中心としますが、インターネットからの情報収集、演習、レポート等を適宜取り入れていきます。また、e-Campusをフルに活用するため、毎回の授業ではノートPCが必須となります。e-Campusに無線LANカードで接続できるように準備をしておいて下さい。
履修の留意点:	授業中e-Campusへの接続が必須ですので、講義が始まるまでにe-Campusネットワークに無線LANで接続できるようにしておいて下さい。講義の中では、個々の知識の説明だけでなく、その知識の背景にある考え方も合わせて説明していきます。単なる知識の暗記に終わるのではなく、知識を真に自分のものとして吸収し、自分自身の意見を持つために活用できることを目標にして下さい。
目標と評価:	中間レポートおよび期末の筆記試験により評価します。講義中のアクティビティについては、特に優れたものについてはプラス点として加味して採点します。学習の目標は、特に以下の点について基礎的な知識を得て、理解を深めることです。 1. インターネットの歴史と現状、それを支える基礎技術 2. インターネットの社会へのインパクト(プラスの面、マイナスの面) 3. インターネットが進むべき方向
教科書:	
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「情報社会論 I」 (担当者: 宮本 勉) の履修の手引き

科目名:	情報社会論 I
担当者:	宮本 勉
設置学期:	春
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	近年の情報通信技術(IT)のめざましい発展は、企業、家庭など社会の様々な側面に大きな影響を与えています。それには人々の生活を豊かにする正の面があると同時に、デジタルデバイド、有害情報の流通のような負の面も含まれます。本講義では発展著しい情報通信技術の例としてインターネットをとりあげ、その歴史と現状、基礎となる技術を学習します。そしてその社会へのインパクトを、プラスとマイナスの両方の側面から考察し、将来どのような方向に進むべきかを考えていきます。
授業方法:	基本的には講義を中心としますが、インターネットからの情報収集、演習、レポート等を適宜取り入れていきます。また、e-Campusをフルに活用するため、毎回の授業ではノートPCが必須となります。e-Campusに無線LANカードで接続できるように準備をしておいて下さい。
履修の留意点:	授業中e-Campusへの接続が必須ですので、講義が始まるまでにe-Campusネットワークに無線LANで接続できるようにしておいて下さい。講義の中では、個々の知識の説明だけでなく、その知識の背景にある考え方も合わせて説明していきます。単なる知識の暗記に終わるのではなく、知識を真に自分のものとして吸収し、自分自身の意見を持つために活用できることを目標にして下さい。
目標と評価:	中間レポートおよび期末の筆記試験により評価します。講義中のアクティビティについては、特に優れたものについてはプラス点として加味して採点します。学習の目標は、特に以下の点について基礎的な知識を得て、理解を深めることです。 1. インターネットの歴史と現状、それを支える基礎技術 2. インターネットの社会へのインパクト(プラスの面、マイナスの面) 3. インターネットが進むべき方向
教科書:	
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「情報社会論Ⅱ」（担当者：宮本 勉）の履修の手引き

科目名：	情報社会論Ⅱ
担当者：	宮本 勉
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	本講義では情報社会論Ⅰの講義に続き、情報通信技術(IT)の新しい流れの例としてモバイル・コンピューティング、ユビキタス・コンピューティングをとりあげます。それぞれが表す概念から始め、現状、基礎となる技術を学習します。そしてこれらの社会へのインパクトを、プラスとマイナスの両方の側面から考察し、将来どのような方向に進むべきかを考えていきます。
授業方法：	基本的には講義を中心としますが、インターネットからの情報収集、演習、レポート等を適宜取り入れていきます。また、e-Campusをフルに活用するため、毎回の授業ではノートPCが必須となります。e-Campusに無線LANカードで接続できるように準備をしておいて下さい。
履修の留意点：	授業中e-Campusへの接続が必須ですので、講義が始まるまでにe-Campusネットワークに無線LANで接続できるようにしておいて下さい。 講義の中では、個々の知識の説明だけでなく、その知識の背景にある考え方も合わせて説明していきます。単なる知識の暗記に終わるのではなく、知識を真に自分のものとして吸収し、自分自身の意見を持つために活用できることを目標にして下さい。
目標と評価：	中間レポートおよび期末の筆記試験により評価します。講義中のアクティビティについては、特に優れたものについてはプラス点として加味して採点します。 学習の目標は、特に以下の点について基礎的な知識を得て、理解を深めることです。 1. モバイル・コンピューティング、ユビキタス・コンピューティングの概念 2. 現状、支える基礎技術 3. 社会へのインパクト(プラスの面、マイナスの面) 4. 進むべき方向
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「情報社会論Ⅱ」（担当者：宮本 勉）の履修の手引き

科目名：	情報社会論Ⅱ
担当者：	宮本 勉
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	本講義では情報社会論Ⅰの講義に続き、情報通信技術(IT)の新しい流れの例としてモバイル・コンピューティング、ユビキタス・コンピューティングをとりあげます。それぞれが表す概念から始め、現状、基礎となる技術を学習します。そしてこれらの社会へのインパクトを、プラスとマイナスの両方の側面から考察し、将来どのような方向に進むべきかを考えていきます。
授業方法：	基本的には講義を中心としますが、インターネットからの情報収集、演習、レポート等を適宜取り入れていきます。また、e-Campusをフルに活用するため、毎回の授業ではノートPCが必須となります。e-Campusに無線LANカードで接続できるように準備をしておいて下さい。
履修の留意点：	授業中e-Campusへの接続が必須ですので、講義が始まるまでにe-Campusネットワークに無線LANで接続できるようにしておいて下さい。 講義の中では、個々の知識の説明だけでなく、その知識の背景にある考え方も合わせて説明していきます。単なる知識の暗記に終わるのではなく、知識を真に自分のものとして吸収し、自分自身の意見を持つために活用できることを目標にして下さい。
目標と評価：	中間レポートおよび期末の筆記試験により評価します。講義中のアクティビティについては、特に優れたものについてはプラス点として加味して採点します。 学習の目標は、特に以下の点について基礎的な知識を得て、理解を深めることです。 1. モバイル・コンピューティング、ユビキタス・コンピューティングの概念 2. 現状、支える基礎技術 3. 社会へのインパクト(プラスの面、マイナスの面) 4. 進むべき方向
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「情報システム論Ⅰ」（担当者：滑川 光裕）の履修の手引き

科目名：	情報システム論Ⅰ
担当者：	滑川 光裕
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	「情報」の概念について考え、「情報システム」の役割について考える。 実際に社会で運用されているシステムの実例をもとに、そこで利用されている情報技術（マンマシンインタフェース・データベースの設計技法など）や、システムのライフサイクルについて学ぶことで、情報システムの本質を理解することを目的としている。
授業方法：	講義形式で行う。 授業中に、小テスト・レポート提出を行う。
履修の留意点：	情報システム論Ⅱと同時履修しないと、単位として認められません。
目標と評価：	授業中の小テスト・レポートと期末のテストによる評価を行う。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「情報システム論Ⅱ」（担当者：滑川 光裕）の履修の手引き

科目名：	情報システム論Ⅱ
担当者：	滑川 光裕
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>情報システムを支える高度な理論・技術について学び、より複雑な情報システムの構築についての講義を行う。</p> <p>また、最新のネットワーク技術と情報システムの関わりなどについても学ぶ。</p> <p>具体的には、情報システムの分析・設計技法としての予測・最適化・シミュレーション技術、並列・分散処理技術などである。</p> <p>また、ファジィ理論、ニューラルコンピューティング理論などについても触れたい。</p>
授業方法：	<p>講義形式で行う。</p> <p>授業中に、小テスト・レポート提出を行う。</p>
履修の留意点：	情報システム論Ⅰと同時履修しないと単位として認められません。
目標と評価：	授業中の小テスト・レポートと期末テストによる評価を行う。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「インターネットビジネス論」（担当者：佐々木 洋）の履修の手引き

科目名：	インターネットビジネス論
担当者：	佐々木 洋
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	みなさんは、例えば、「IT革命」と「IT革新」の違い、「デフレ」と「不況」の違いについてどのように考えられていますか。このような言葉は、連日マスコミでも取り上げられていますが、それぞれの論者によって違う解釈をして使われています。そして、言葉自体ではなくて、言葉の解釈の背後にある事実認識の違いによって、現実に対する対応行動が違ってくることがよくあります。経済や経営の世界には、経理の世界の会計原則のような一律的に適用されるようなルールや判断基準（正解）がありません。これは、多かれ少なかれ、「情報不足のままリスクを犯して意思決定しなければならない」要素があるためであると考えられます。従って、ビジネスやマーケティングの当事者として最適な意思決定をするためには、限られた情報の中から「正解」に最も近いと考えられる考え方（仮説）を自ら導き出していく必要があります。特に、生成してから未だ日が浅く絶えず流動している「インターネット・ビジネス」については、いたずらに表層的な事象や言葉に目を奪われることなく、本質に遡って因果関係を考察し、自分なりの仮説を構成してこれを体系化してゆくことが極めて重要になります。当講座では、インターネット・ビジネスの可能性、方法、利点、問題点などについて考察した結果をそれぞれの仮説の体系に取り込むことを学ぶことによって、将来、事業家、起業家ないしは企業人としてビジネスチャンスを的確に捉えるための基礎的な能力を習得していただきたいと思っております。
授業方法：	自分自身が大学生時代に経済学部で学んだ事柄、（株）東芝に於けるIT部門を中心とした業務で経験した事項、三井実業研究所関連で出会った三井系各企業、MIT等のキーマンたちから得た教訓、更には、日経関連の国際IT研修の企画運営を通じて見聞した事柄等々私自身の体験の中から得て組み立てた仮説を交えて、有用と考えられる内容を講義によりお伝えしていきたいと思っております。全13回の講義の構成は概ね以下のようにしたいと考えておりますが、「受講録」、学ナビ、電子メールなどを媒体として利用することによって、極力質疑応答などによる双方向情報交換を行いながら、実践的な講座を企画編成し柔軟な運営を図っていくつもりです。 第1回 導入 第2－3回 インターネットの歴史的・社会的意義 第4－9回 ビジネスに及ぼすインパクトの諸相 第10－13回 ケース・スタディー（先進企業事例研究） 第13回 総括
履修の留意点：	履修上の留意点： 「情報リテラシー＝ITリテラシー+ビジネス・リテラシー」という仮説に基づいて、前期の「インターネット・ビジネス論」はビジネス・リテラシー、後期の「コミュニケーション・メディア論」はITリテラシーに、それぞれ焦点を当てて講座を構成したいと思っております。両講座は視点を異にするものであるうえ、ともに自己完結する形をとりますので、必ずしも両講座を併せて受講する必要はありません。
目標と評価：	目標と評価： 具体的に「日本経済新聞のインターネット・ビジネスに関する記事を読みこなすだけの力をつける」ことを学習目標として掲げます。“読みこなす”ということは、記事の内容を単に“理解する／覚える”のではなくて“評価しながら自分の見解（仮説）に取り入れる”ことに重点がありますので、受講の結果が情報の評価能力と仮説の構成能力の向上の形で結果することを願っております。従って、学習成果の評価のためのテストとしては、指定した日本経済新聞のインターネット・ビジネス関連の記事について「A. 大意の把握、B. 内容の評価、C. 自分としての見解」を内容とするレポートを作成願ひ、Aに60点、BおよびCに各20点をそれぞれ配点し100点満点にて評価を行う予定です。 教科書： 日本経済新聞を講義構成のための基本的な情報源としますので、同紙のインターネット・ビジネス関連記事については常々問題意識を持って目を通しておくことをお勧めします。また、具体的なテキストは、マイホームページ「東芝38年生の酒記」の「インターネットビジネス論」を用いる予定です。以下のURLで参照し、ご自分の見解（仮説）の検証と構成に役立ててください。積極的反論も大歓迎です。 http://www4.ocn.ne.jp/~daimajin/InternetBusiness.htm
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「エンドユーザーコンピューティング論」（担当者：宮本 勉）の履修の手引き

科目名：	エンドユーザーコンピューティング論
担当者：	宮本 勉
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>エンドユーザーコンピューティング（EUC）とはパソコンを活用して一般業務、経営者や各業務に所属している人がコンピュータの専門家によらずに日常業務の中において一般的システムを利用する立場の人が主体的にシステムを構築していくことを言います。</p> <p>特に、このEUCということについては初級アドミニストレーターの資格取得のための重要な一分野となっています。このEUCについては資格取得を踏まえて学習を行う。</p> <p>さらに、今後ビジネスの現場においてますますEUCという考え方は重要になります。このEUCについて知識を学ぶとともに必要に応じて演習も行い学ぶ</p>
授業方法：	<p>基本的には講義を中心に授業を行う、必要に応じてパソコンを使った演習を行う。さらに、パソコンを利用してノートの作成、インターネットからの情報検索等を行うために常時授業には携帯することが必要である。</p>
履修の留意点：	<ul style="list-style-type: none"> ・常時パソコンをネットワークに接続できるようにしておくこと ・授業のノート作成をパソコンを使用して行う ・授業とは別に演習の課題があるのでしっかり取り組むこと ・学ナビを常時利用すること
目標と評価：	<p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> ① EUCの基本的な知識を習得する ② EUCに関する実技の修得 ③ 日常的にパソコンを利用できる能力の修得 <p>評価</p> <ol style="list-style-type: none"> ① レポートの作成 ② 筆記試験の結果 ③ 演習課題の作成 <p>結果を総合的に評価する</p>
教科書：	初級シスアドの教科書2006 学研 2006
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「データベース特論」（担当者：村上 哲也）の履修の手引き

科目名：	データベース特論
担当者：	村上 哲也
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	現代社会において、コンピュータ・ネットワークを対象とするデータベースおよびデータベースシステムは、情報の管理、蓄積、編集、運用などを実現するための役割を担っている。本講義ではデータベースの概念とデータ構造、データベース管理システム(DBMS)の機能、データ操作言語の定義方法について理解した上で、ネットワークを前提とした経営支援のためのデータベースシステムの構築と運用の実際を学ぶ。
授業方法：	ノートパソコンを用い、リレーショナルデータベースシステム(Microsoft Access)およびデータベース言語SQLにより、データベースの設計・構築を行う。
履修の留意点：	データベース入門データベース応用の履修を前提とする。
目標と評価：	講義・実習によりデータベースシステムの概念、データ構造を理解し、データベースの設計・構築方法、操作方法を演習を通し理解する。 ■評価は提出課題による。
教科書：	データベース入門、データベース応用で使用した教科書
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータによるビジネス情報分析Ⅰ」（担当者：南 憲一）の履修の手引き

科目名：	コンピュータによるビジネス情報分析Ⅰ
担当者：	南 憲一
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>ビジネスの現場では、現状を把握しよりの確な行動を選択できるように各種ビジネス情報の分析が必要である。この授業ではパソコンを利用したビジネス情報分析について学習する。アプリケーションソフトとしてMicrosoft Excelを用い、データ集計、各種データ分析手法、グラフの活用方法について順に学習を進める。</p> <p>(内容)</p> <p>ビジネスデータ分析とは ピボットテーブルとピボットグラフ ドリルダウン・ドリルアップ分析 ドリルスルー分析 スライス&ダイス分析 要因分析 ABC分析グラフ Zチャート レーダーチャート ヒストグラム</p>
授業方法：	パソコンを使用しながら授業を進めていくので、ノートパソコンを必ず持参すること。
履修の留意点：	<p>WindowsおよびExcelをある程度使いこなせることが履修の条件。</p> <p>嘉悦e-Campusを活用して授業を進めるので、授業時間内だけでなく自宅でも授業情報のページを開き、予習・復習に役立てること。</p>
目標と評価：	レポートで評価する。
教科書：	Excelでマスターする ビジネスデータ分析実践の極意 住中光夫 アスキー 2003年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータによるビジネス情報分析Ⅱ」（担当者：南 憲一）の履修の手引き

科目名：	コンピュータによるビジネス情報分析Ⅱ
担当者：	南 憲一
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>ビジネスの現場では、現状を把握しよりの確な行動を選択できるように各種ビジネス情報の分析が必要である。この授業ではパソコンを利用したビジネス情報分析について学習する。ビジネス情報分析Ⅰの授業に引き続き、アプリケーションソフトとしてMicrosoft Excelを用い、業務部門別のデータ分析について実践的に学習を進める。</p> <p>（内容） 営業部門で行うビジネスデータ分析 経理部門で行うビジネスデータ分析 部門別科目推移データの分析 企画部門で行うビジネスデータ分析 エリアマーケティングで行うデータ分析 統計データの収集方法とその利用 広告部門で行うデータ分析 アンケート結果から見るデータ分析 自治体業務で行うデータ分析</p>
授業方法：	パソコンを使用しながら授業を進めていくので、ノートパソコンを必ず持参すること。
履修の留意点：	<p>WindowsおよびExcelをある程度使いこなせることが履修の条件。</p> <p>嘉悦e-Campusを活用して授業を進めるので、授業時間内だけでなく自宅でも授業情報のページを開き、予習・復習に役立てること。</p>
目標と評価：	レポートで評価する。
教科書：	ビジネスゲーム演習～意思決定能力・データ分析能力・プレゼンテーション能力を育てる～ 野々山隆幸 編著、高橋司・柳田義継・成川忠之共著 ビアソン・エデュケーション 平成14年5月
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「情報化と社会 I」（担当者：宮本 勉）の履修の手引き

科目名：	情報化と社会 I
担当者：	宮本 勉
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	近年の情報通信技術(IT)のめざましい発展は、企業、家庭など社会の様々な側面に大きな影響を与えています。それには人々の生活を豊かにする正の面があると同時に、デジタルデバイド、有害情報の流通のような負の面も含まれます。本講義では発展著しい情報通信技術の例としてインターネットをとりあげ、その歴史と現状、基礎となる技術を学習します。そしてその社会へのインパクトを、プラスとマイナスの両方の側面から考察し、将来どのような方向に進むべきかを考えていきます。
授業方法：	基本的には講義を中心としますが、インターネットからの情報収集、演習、レポート等を適宜取り入れていきます。また、e-Campusをフルに活用するため、毎回の授業ではノートPCが必須となります。e-Campusに無線LANカードで接続できるように準備をしておいて下さい。
履修の留意点：	授業中e-Campusへの接続が必須ですので、講義が始まるまでにe-Campusネットワークに無線LANで接続できるようにしておいて下さい。講義の中では、個々の知識の説明だけでなく、その知識の背景にある考え方も合わせて説明していきます。単なる知識の暗記に終わるのではなく、知識を真に自分のものとして吸収し、自分自身の意見を持つために活用できることを目標にして下さい。
目標と評価：	中間レポートおよび期末の筆記試験により評価します。講義中のアクティビティについては、特に優れたものについてはプラス点として加味して採点します。学習の目標は、特に以下の点について基礎的な知識を得て、理解を深めることです。 1. インターネットの歴史と現状、それを支える基礎技術 2. インターネットの社会へのインパクト(プラスの面、マイナスの面) 3. インターネットが進むべき方向
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「情報化と社会 I」（担当者：宮本 勉）の履修の手引き

科目名：	情報化と社会 I
担当者：	宮本 勉
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	近年の情報通信技術(IT)のめざましい発展は、企業、家庭など社会の様々な側面に大きな影響を与えています。それには人々の生活を豊かにする正の面があると同時に、デジタルデバイド、有害情報の流通のような負の面も含まれます。本講義では発展著しい情報通信技術の例としてインターネットをとりあげ、その歴史と現状、基礎となる技術を学習します。そしてその社会へのインパクトを、プラスとマイナスの両方の側面から考察し、将来どのような方向に進むべきかを考えていきます。
授業方法：	基本的には講義を中心としますが、インターネットからの情報収集、演習、レポート等を適宜取り入れていきます。また、e-Campusをフルに活用するため、毎回の授業ではノートPCが必須となります。e-Campusに無線LANカードで接続できるように準備をしておいて下さい。
履修の留意点：	授業中e-Campusへの接続が必須ですので、講義が始まるまでにe-Campusネットワークに無線LANで接続できるようにしておいて下さい。講義の中では、個々の知識の説明だけでなく、その知識の背景にある考え方も合わせて説明していきます。単なる知識の暗記に終わるのではなく、知識を真に自分のものとして吸収し、自分自身の意見を持つために活用できることを目標にして下さい。
目標と評価：	中間レポートおよび期末の筆記試験により評価します。講義中のアクティビティについては、特に優れたものについてはプラス点として加味して採点します。学習の目標は、特に以下の点について基礎的な知識を得て、理解を深めることです。 1. インターネットの歴史と現状、それを支える基礎技術 2. インターネットの社会へのインパクト(プラスの面、マイナスの面) 3. インターネットが進むべき方向
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「情報化と社会Ⅱ」（担当者：宮本 勉）の履修の手引き

科目名：	情報化と社会Ⅱ
担当者：	宮本 勉
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	本講義では情報化と社会Ⅰの講義に続き、情報通信技術(IT)の新しい流れの例としてモバイル・コンピューティング、ユビキタス・コンピューティングをとりあげます。それぞれが表す概念から始め、現状、基礎となる技術を学習します。そしてこれらの社会へのインパクトを、プラスとマイナスの両方の側面から考察し、将来どのような方向に進むべきかを考えていきます。
授業方法：	基本的には講義を中心としますが、インターネットからの情報収集、演習、レポート等を適宜取り入れていきます。また、e-Campusをフルに活用するため、毎回の授業ではノートPCが必須となります。e-Campusに無線LANカードで接続できるように準備をしておいて下さい。
履修の留意点：	授業中e-Campusへの接続が必須ですので、講義が始まるまでにe-Campusネットワークに無線LANで接続できるようにしておいて下さい。 講義の中では、個々の知識の説明だけでなく、その知識の背景にある考え方も合わせて説明していきます。単なる知識の暗記に終わるのではなく、知識を真に自分のものとして吸収し、自分自身の意見を持つために活用できることを目標にして下さい。
目標と評価：	中間レポートおよび期末の筆記試験により評価します。講義中のアクティビティについては、特に優れたものについてはプラス点として加味して採点します。 学習の目標は、特に以下の点について基礎的な知識を得て、理解を深めることです。 1. モバイル・コンピューティング、ユビキタス・コンピューティングの概念 2. 現状、支える基礎技術 3. 社会へのインパクト(プラスの面、マイナスの面) 4. 進むべき方向
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「情報化と社会Ⅱ」（担当者：宮本 勉）の履修の手引き

科目名：	情報化と社会Ⅱ
担当者：	宮本 勉
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	本講義では情報化と社会Ⅰの講義に続き、情報通信技術(IT)の新しい流れの例としてモバイル・コンピューティング、ユビキタス・コンピューティングをとりあげます。それぞれが表す概念から始め、現状、基礎となる技術を学習します。そしてこれらの社会へのインパクトを、プラスとマイナスの両方の側面から考察し、将来どのような方向に進むべきかを考えていきます。
授業方法：	基本的には講義を中心としますが、インターネットからの情報収集、演習、レポート等を適宜取り入れていきます。また、e-Campusをフルに活用するため、毎回の授業ではノートPCが必須となります。e-Campusに無線LANカードで接続できるように準備をしておいて下さい。
履修の留意点：	授業中e-Campusへの接続が必須ですので、講義が始まるまでにe-Campusネットワークに無線LANで接続できるようにしておいて下さい。 講義の中では、個々の知識の説明だけでなく、その知識の背景にある考え方も合わせて説明していきます。単なる知識の暗記に終わるのではなく、知識を真に自分のものとして吸収し、自分自身の意見を持つために活用できることを目標にして下さい。
目標と評価：	中間レポートおよび期末の筆記試験により評価します。講義中のアクティビティについては、特に優れたものについてはプラス点として加味して採点します。 学習の目標は、特に以下の点について基礎的な知識を得て、理解を深めることです。 1. モバイル・コンピューティング、ユビキタス・コンピューティングの概念 2. 現状、支える基礎技術 3. 社会へのインパクト(プラスの面、マイナスの面) 4. 進むべき方向
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「表計算によるビジネス情報分析」(担当者: 松野 由希) の履修の手引き

科目名:	表計算によるビジネス情報分析
担当者:	松野 由希
設置学期:	春
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	<p>インターネットが普及をし、データの入手が非常に容易な時代です。自分でデータを入力し、それらを加工することで、事実を認識することができます。数値の裏付けがあることで、自分の意見に説得力を持たせることができます。この授業に出席することによって、自分なりのデータを見る視点を育成して欲しいと、強く願っています。</p> <p>この授業では、景気の動き、企業の動き、働くこと、家計と暮らし、物価、金融の動き、海外との関係、政府の動きといったビジネスと、それをとりまく経済に関連する項目について、どのようなデータがあるのかを把握し、自分でデータ作成をし、それらのデータの解釈を行うことができるようになることを目標とします。</p> <p>授業には必ず、パソコンを持参してください。この科目はいわゆる“講義”ではありません。実験・演習形式で行います。新しい分析ツールを学んでいくため、授業への出席は不可欠です。学ナビに授業で用いたファイルを載せますので、必ず復習をし、一つ一つの操作を覚えていってください。</p>
授業方法:	<p>Excelというソフトを用いてデータ解析の基礎を行います。データはインターネットから入手をし、データの加工、グラフの作成を行います。</p> <p>作成したデータを、Wordというソフトを用いて、レポート形式にまとめます。</p> <p>授業は履修者の理解度を勘案しながら進めます。したがって、以下の授業計画は一応の目安と考えてください。</p> <p>「日本の人口」 ①人口(国勢調査、年齢構成) 「景気の動き」 ②日本の景気動向(GDP、設備投資) 「企業の動き」 ③日本における産業(企業数、就業者数)、企業の動向(利益、倒産件数、負債総額) ④個別企業(株価、貸借対照表、損益計算書)、企業の資金調達(銀行預貸率、社債・株式発行) 「働くこと」 ⑤労働者(失業率、給料、残業代、労働時間) 「家計と暮らし」 ⑥個人の消費・貯蓄(家計調査、住宅着工) ⑦企業販売データ(小売店販売額) 「物価」 ⑧物価(消費者物価、卸売物価) ⑨地価(公示地価) 「金融の動き」 ⑩マネーサプライ、公定歩合、コールレート ⑪株価指標、長期金利 「海外との関係」 ⑫貿易統計、為替レート 「政府の動き」 ⑬国の予算、地方の予算</p>
履修の留意点:	<p>この授業は2004年以前の入学者に対しては、「経済データの読み方」という名称で開講されます。</p> <p>この授業と併せて、統計学や計量経済学の授業を受講されると、より理解が進みます。</p> <p>授業には必ずパソコンを持参してください。</p>
目標と評価:	<p>この授業を受講した学生は以下のことができるようになっているはずで、また、そうなるように学習することを望みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> データの入手 データの加工 グラフの作成 データによる、仮説の実証 レポートの作成 <p>評価点は以下の項目毎に加算方式で算出します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 4回課題を出します。レポートを提出してください。[各10点] 中間と後半に授業内試験(30分ほどのパソコンを用いた演習)を行います。[各30点]
教科書:	
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「表計算によるビジネス情報分析」(担当者: 松野 由希) の履修の手引き

科目名:	表計算によるビジネス情報分析
担当者:	松野 由希
設置学期:	春
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	<p>インターネットが普及をし、データの入手が非常に容易な時代です。自分でデータを入力し、それらを加工することで、事実を認識することができます。数値の裏付けがあることで、自分の意見に説得力を持たせることができます。この授業に出席することによって、自分なりのデータを見る視点を育成して欲しいと、強く願っています。</p> <p>この授業では、景気の動き、企業の動き、働くこと、家計と暮らし、物価、金融の動き、海外との関係、政府の動きといったビジネスと、それをとりまく経済に関連する項目について、どのようなデータがあるのかを把握し、自分でデータ作成をし、それらのデータの解釈を行うことができるようになることを目標とします。</p> <p>授業には必ず、パソコンを持参してください。この科目はいわゆる“講義”ではありません。実験・演習形式で行います。新しい分析ツールを学んでいくため、授業への出席は不可欠です。学ナビに授業で用いたファイルを載せますので、必ず復習をし、一つ一つの操作を覚えていってください。</p>
授業方法:	<p>Excelというソフトを用いてデータ解析の基礎を行います。データはインターネットから入手をし、データの加工、グラフの作成を行います。</p> <p>作成したデータを、Wordというソフトを用いて、レポート形式にまとめます。</p> <p>授業は履修者の理解度を勘案しながら進めます。したがって、以下の授業計画は一応の目安と考えてください。</p> <p>「日本の人口」 ①人口(国勢調査、年齢構成) 「景気の動き」 ②日本の景気動向(GDP、設備投資) 「企業の動き」 ③日本における産業(企業数、就業者数)、企業の動向(利益、倒産件数、負債総額) ④個別企業(株価、貸借対照表、損益計算書)、企業の資金調達(銀行預貸率、社債・株式発行) 「働くこと」 ⑤労働者(失業率、給料、残業代、労働時間) 「家計と暮らし」 ⑥個人の消費・貯蓄(家計調査、住宅着工) ⑦企業販売データ(小売店販売額) 「物価」 ⑧物価(消費者物価、卸売物価) ⑨地価(公示地価) 「金融の動き」 ⑩マネーサプライ、公定歩合、コールレート ⑪株価指標、長期金利 「海外との関係」 ⑫貿易統計、為替レート 「政府の動き」 ⑬国の予算、地方の予算</p>
履修の留意点:	<p>この授業は2004年以前の入学者に対しては、「経済データの読み方」という名称で開講されます。</p> <p>この授業と併せて、統計学や計量経済学の授業を受講されると、より理解が進みます。</p> <p>授業には必ずパソコンを持参してください。</p>
目標と評価:	<p>この授業を受講した学生は以下のことができるようになっているはずで、また、そうなるように学習することを望みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> データの入手 データの加工 グラフの作成 データによる、仮説の実証 レポートの作成 <p>評価点は以下の項目毎に加算方式で算出します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 4回課題を出します。レポートを提出してください。[各10点] 中間と後半に授業内試験(30分ほどのパソコンを用いた演習)を行います。[各30点]
教科書:	
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「インターネット入門」（担当者：暮田 豊）の履修の手引き

科目名：	インターネット入門
担当者：	暮田 豊
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>アメリカでインターネットの起源といわれるネットワーク研究が始まってから35年以上を経過した。今では日本でもパソコンを使用している人々にとって、インターネットを利用しての情報のやりとりは半ば当然の事となっている。又その間にコンピュータについても著しい変化や進歩があり、ネットワークとコンピュータが一体化する事により、コンピュータの利用分野も拡大していった。最近においては携帯電話等、手軽に持ち運びができる小型端末でも、インターネットを利用できる迄に技術が進んでいる。</p> <p>春学期においてはインターネットの歴史を学んだ後、クライアント側（使用する側）からの立場でブラウザ、電子メール、FTP、ネットニュース、チャットなどの基礎知識と利用法を学習していく。</p>
授業方法：	授業計画に基づき、インターネットの歴史や様々な利用方法についての基礎知識を順に学習していく。
履修の留意点：	インターネットに関する基礎知識の理解と習得が目的である。授業は教科書と共に他に作成した資料を使用する。この資料はネットワークフォルダからダウンロードして参照する方法を採るので、各自パソコンは毎回持参する事。
目標と評価：	インターネットの歴史についての基本的な知識を身に付ける事。又さまざまな利用法について、どのような仕組みで成り立っているのかを理解する事が目的である。従って理解度を評価する為にテストを行い、出欠点と併せて総合的な評価を行う。
教科書：	インターネットのしくみをきちんと使って使う本 びん 技術評論社 平成14年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「インターネット入門」（担当者：暮田 豊）の履修の手引き

科目名：	インターネット入門
担当者：	暮田 豊
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>アメリカでインターネットの起源といわれるネットワーク研究が始まってから35年以上を経過した。今では日本でもパソコンを使用している人々にとって、インターネットを利用しての情報のやりとりは半ば当然の事となっている。又その間にコンピュータについても著しい変化や進歩があり、ネットワークとコンピュータが一体化する事により、コンピュータの利用分野も拡大していった。最近においては携帯電話等、手軽に持ち運びができる小型端末でも、インターネットを利用できる迄に技術が進んでいる。</p> <p>春学期においてはインターネットの歴史を学んだ後、クライアント側（使用する側）からの立場でブラウザ、電子メール、FTP、ネットニュース、チャットなどの基礎知識と利用法を学習していく。</p>
授業方法：	授業計画に基づき、インターネットの歴史や様々な利用方法についての基礎知識を順に学習していく。
履修の留意点：	インターネットに関する基礎知識の理解と習得が目的である。授業は教科書と共に他に作成した資料を使用する。この資料はネットワークフォルダからダウンロードして参照する方法を採るので、各自パソコンは毎回持参する事。
目標と評価：	インターネットの歴史についての基本的な知識を身に付ける事。又さまざまな利用法について、どのような仕組みで成り立っているのかを理解する事が目的である。従って理解度を評価する為にテストを行い、出欠点と併せて総合的な評価を行う。
教科書：	インターネットのしくみをきちんと使って使う本 びん 技術評論社 平成14年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「インターネット入門」（担当者：湖東 善明）の履修の手引き

科目名：	インターネット入門
担当者：	湖東 善明
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	現在ではインターネットが普及し誰でも利用している。 しかし、その歴史や仕組みについての理解は今ひとつである。 そこでインターネットの歴史、仕組みについて学んだうえで ブラウザ、電子メール、FTPソフトウェアなどのクライアントサイド（使用する側）ソフトの利用法 を身につける。 あわせてHTMLによる簡単なHPを作成する。
授業方法：	授業計画に基づきインターネットの基礎知識を学ぶ。 HTMLによるHPの作成実習を行う。
履修の留意点：	Windowsの基本操作ができること。 毎回各自PCを持参すること。
目標と評価：	目標 インターネットの基礎知識を身に付けること。 簡単なHPが作成できること。 評価方法 平常点で評価する。
教科書：	インターネットのしくみをきちんと使って使う本 びん 技術評論社 平成16年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「インターネット入門」（担当者：湖東 善明）の履修の手引き

科目名：	インターネット入門
担当者：	湖東 善明
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	現在ではインターネットが普及し誰でも利用している。 しかし、その歴史や仕組みについての理解は今ひとつである。 そこでインターネットの歴史、仕組みについて学んだうえで ブラウザ、電子メール、FTPソフトウェアなどのクライアントサイド（使用する側）ソフトの利用法 を身につける。 あわせてHTMLによる簡単なHPを作成する。
授業方法：	授業計画に基づきインターネットの基礎知識を学ぶ。 HTMLによるHPの作成実習を行う。
履修の留意点：	Windowsの基本操作ができること。 毎回各自PCを持参すること。
目標と評価：	目標 インターネットの基礎知識を身に付けること。 簡単なHPが作成できること。 評価方法 平常点で評価する。
教科書：	インターネットのしくみをきちんと使って使う本 びん 技術評論社 平成16年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「インターネット入門」（担当者：木戸 和彦）の履修の手引き

科目名：	インターネット入門
担当者：	木戸 和彦
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>アメリカでインターネットの起源といわれるネットワーク研究が始まって35年以上経過した。今では日本でもパソコンを使用している人々にとって、インターネットを利用する情報のやりとりは半ば当然の事となっている。</p> <p>又その間にコンピューターについても著しい変化や進歩があり、ネットワークとコンピューターが一体化する事により、コンピューターの利用分野も拡大していった。</p> <p>最近においては携帯電話等、手軽に持ち運びができる小型端末でも、インターネットを利用できる迄に技術が進んでいる。</p> <p>春学期においてはインターネットの歴史を学んだ後、クライアント側（使用する側）からの立場でブラウザ、電子メール、FTP、ネットニュース、チャットなどの利用法を学習していく。</p>
授業方法：	授業計画に基づき、インターネットの歴史及び様々な利用方法を順に学習していく。
履修の留意点：	インターネットの習得が目的であるので、パソコンは毎授業持参する事。
目標と評価：	インターネットの歴史についての基本的な知識を身に付ける事、又利用法に習熟する事が目的であるので、テスト及び実習により総合的に評価を行う。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「インターネット応用」（担当者：暮田 豊）の履修の手引き

科目名：	インターネット応用
担当者：	暮田 豊
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>春学期ではクライアント側（利用する側）から、インターネットで利用されているさまざまな技術についての基礎知識を学んだ。 秋学期では視点を変え、サーバ側（提供する側）からインターネットの仕組みを学ぶ。</p> <p>WWW、MAIL、FTP、NNTP、IRC等の用語のいくつかは、一般によく知られているが、このようなインターネット上のサービスが、どのようなサーバで提供されているのか、その基本的な知識を学んでいく。</p> <p>又インターネットが広がっていくにつれて、ネットワーク上のトラブルも多発している。これに関連してプライバシー保護やセキュリティの問題も法律化されつつあり、これらの基礎的な知識も学ぶ。</p> <p>更にHTMLやCGI等のWebプログラミングの実習を通して、クライアントとサーバとの関係を理解してもらう。</p>
授業方法：	授業計画に基づき、サーバ側からみたインターネットの仕組みを順次学習していく。又後半の授業の数を当て、Webプログラミングの実習を行う。
履修の留意点：	インターネットサーバに関する基礎知識の理解と習得が目的である。毎回作成した資料を使用するが、この資料はネットワークフォルダからダウンロードして参照する方法を採るので、各自パソコンは毎回持参する事。
目標と評価：	<p>インターネットサーバについて理解し、基本的な知識を身に付ける事。 又簡単なWebプログラミングを経験する事により、クライアントとサーバとの関係を体験する事。 評価は下記の三つを総合して行う。</p> <p>① サーバに関する理解度を評価する為のテスト（63%） ② Webプログラミング実習（7%） ③ 出欠点（30%）</p>
教科書：	検討中
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「インターネット応用」（担当者：暮田 豊）の履修の手引き

科目名：	インターネット応用
担当者：	暮田 豊
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>春学期ではクライアント側（利用する側）から、インターネットで利用されているさまざまな技術についての基礎知識を学んだ。 秋学期では視点を変え、サーバ側（提供する側）からインターネットの仕組みを学ぶ。</p> <p>WWW、MAIL、FTP、NNTP、IRC等の用語のいくつかは、一般によく知られているが、このようなインターネット上のサービスが、どのようなサーバで提供されているのか、その基本的な知識を学んでいく。</p> <p>又インターネットが広がっていくにつれて、ネットワーク上のトラブルも多発している。これに関連してプライバシー保護やセキュリティの問題も法律化されつつあり、これらの基礎的な知識も学ぶ。</p> <p>更にHTMLやCGI等のWebプログラミングの実習を通して、クライアントとサーバとの関係を理解してもらおう。</p>
授業方法：	授業計画に基づき、サーバ側からみたインターネットの仕組みを順次学習していく。又後半の授業の数を当て、Webプログラミングの実習を行う。
履修の留意点：	インターネットサーバに関する基礎知識の理解と習得が目的である。毎回作成した資料を使用するが、この資料はネットワークフォルダからダウンロードして参照する方法を採るので、各自パソコンは毎回持参する事。
目標と評価：	<p>インターネットサーバについて理解し、基本的な知識を身に付ける事。 又簡単なWebプログラミングを経験する事により、クライアントとサーバとの関係を体験する事。 評価は下記の三つを総合して行う。</p> <p>① サーバに関する理解度を評価する為のテスト（63%） ② Webプログラミング実習（7%） ③ 出欠点（30%）</p>
教科書：	検討中
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「インターネット応用」（担当者：湖東 善明）の履修の手引き

科目名：	インターネット応用
担当者：	湖東 善明
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	WWW、MAIL、FTPなどのインターネットサービスを提供するサーバーの仕組みを理解する。 ネットワーク上のセキュリティやプライバシー保護の問題について学ぶ。 PERLによるアクセスカウンタ、掲示板を備えたHPを作成することにより。 CGI、SSIを始めとするサーバーサイド（プロバイダー側）プログラムの利用法を身に付ける。
授業方法：	授業計画に基づきサーバーの基礎知識を学ぶ。 PERLによるアクセスカウンタ、掲示板を備えたHPの作成実習を行う。
履修の留意点：	Windowsの基本操作ができること。 インターネット入門を履修していることが望ましい。 毎回各自PCを持参すること。
目標と評価：	目標 サーバーの基礎知識を身に付けること。 アクセスカウンタ、掲示板を備えたHPが作成できること。 評価方法 平常点で評価する。
教科書：	はじめてのWebプログラミング 国司明宏 明日香出版社 2001年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「インターネット応用」（担当者：湖東 善明）の履修の手引き

科目名：	インターネット応用
担当者：	湖東 善明
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	WWW、MAIL、FTPなどのインターネットサービスを提供するサーバーの仕組みを理解する。 ネットワーク上のセキュリティやプライバシー保護の問題について学ぶ。 PERLによるアクセスカウンタ、掲示板を備えたHPを作成することにより。 CGI、SSIを始めとするサーバーサイド（プロバイダー側）プログラムの利用法を身に付ける。
授業方法：	授業計画に基づきサーバーの基礎知識を学ぶ。 PERLによるアクセスカウンタ、掲示板を備えたHPの作成実習を行う。
履修の留意点：	Windowsの基本操作ができること。 インターネット入門を履修していることが望ましい。 毎回各自PCを持参すること。
目標と評価：	目標 サーバーの基礎知識を身に付けること。 アクセスカウンタ、掲示板を備えたHPが作成できること。 評価方法 平常点で評価する。
教科書：	はじめてのWebプログラミング 国司明宏 明日香出版社 2001年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「インターネット応用」（担当者：木戸 和彦）の履修の手引き

科目名：	インターネット応用
担当者：	木戸 和彦
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	春学期ではクライアント側（利用する側）からのインターネット技術を学んだ。秋学期では視点を変え、サーバー側（提供する側）からインターネットの仕組みを学ぶ。WWW、MAIL、FTP、NNTP、IRC等の用語のいくつかは、一般によく知られているが、このようなインターネット上のサービスが、どのような仕組みで提供されているのか学んでいく。又インターネットが広がっていくにつれて、ネットワーク上のトラブルも多発している。これに関連して、プライバシー保護やセキュリティの問題も法律化されつつあり、これらの基礎的な知識も学ぶ。更にHTMLやXMLによるWebページの学習、CGI、SSI等のサーバーを利用したWebサイトの作成等、実習を通じて基礎的な知識を習得する。
授業方法：	授業計画に則って、各項目を順に学習していく。
履修の留意点：	毎授業各自パソコンを持参する事。
目標と評価：	サーバー側に立ってインターネットの仕組みを理解する事が目標である。又HTML、CGI等の実習によりサーバー側プログラミングの仕組みを理解する。 評価の方法はテスト及び実習により総合的に行う。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ビジネスアプリケーション応用 I」（担当者：南 憲一）の履修の手引き

科目名：	ビジネスアプリケーション応用 I
担当者：	南 憲一
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>ビジネスの現場では、現状を把握しよりの確な行動を選択できるように各種ビジネス情報の分析が必要である。この授業ではパソコンを利用したビジネス情報分析について学習する。アプリケーションソフトとしてMicrosoft Excelを用い、データ集計、各種データ分析手法、グラフの活用方法について順に学習を進める。</p> <p>(内容)</p> <p>ビジネスデータ分析とは ピボットテーブルとピボットグラフ ドリルダウン・ドリルアップ分析 ドリルスルー分析 スライス&ダイス分析 要因分析 ABC分析グラフ Zチャート レーダーチャート ヒストグラム</p>
授業方法：	パソコンを使用しながら授業を進めていくので、ノートパソコンを必ず持参すること。
履修の留意点：	<p>WindowsおよびExcelをある程度使いこなせることが履修の条件。</p> <p>嘉悦e-Campusを活用して授業を進めるので、授業時間内だけでなく自宅でも授業情報のページを開き、予習・復習に役立てること。</p>
目標と評価：	レポートで評価する。
教科書：	Excelでマスターする ビジネスデータ分析実践の極意 住中光夫 アスキー 2003年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ビジネスアプリケーション応用Ⅱ」（担当者：南 憲一）の履修の手引き

科目名：	ビジネスアプリケーション応用Ⅱ
担当者：	南 憲一
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>ビジネスの現場では、現状を把握しよりの確な行動を選択できるように各種ビジネス情報の分析が必要である。この授業ではパソコンを利用したビジネス情報分析について学習する。ビジネス情報分析Ⅰの授業に引き続き、アプリケーションソフトとしてMicrosoft Excelを用い、業務部門別のデータ分析について実践的に学習を進める。</p> <p>(内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> 営業部門で行うビジネスデータ分析 経理部門で行うビジネスデータ分析 部門別科目推移データの分析 企画部門で行うビジネスデータ分析 エリアマーケティングで行うデータ分析 統計データの収集方法とその利用 広告部門で行うデータ分析 アンケート結果から見るデータ分析 自治体業務で行うデータ分析
授業方法：	パソコンを使用しながら授業を進めていくので、ノートパソコンを必ず持参すること。
履修の留意点：	WindowsおよびExcelをある程度使いこなせることが履修の条件。
目標と評価：	レポートで評価する。
教科書：	Excelでマスターする ビジネスデータ分析実践の極意 住中光夫 アスキー 2003年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「データベース入門」（担当者：村上 哲也）の履修の手引き

科目名：	データベース入門
担当者：	村上 哲也
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	ワードプロセッサ、表計算、データベースの三つは、パーソナルコンピュータで利用するソフトウェアの基本と言われている。その中でワードプロセッサと表計算は文書作成のために使われるいわば付随的なソフトウェアであるのに対し、データベースは、パーソナルコンピュータに限らず、本来コンピュータの事務的な使用の基本であるデータ処理を行うためのソフトウェアである。このソフトウェアを使って作るのは、文書のようなデータではなく、データを処理するための様々な仕組みである。この仕組みを理解するためにデータベースの設計・データ入力・データベースの利用を演習を通し習得する。
授業方法：	ノートパソコンを用い、リレーショナルデータベースソフトウェア「Access」の基本的利用法を実習中心に進める
履修の留意点：	特になし
目標と評価：	身近な情報をもとに、データベースシステムを構成する各要素の作成を通し、システム全体関係を理解する。 ・ テーブル ・ フォーム ・ レポート ・ クエリ 最終的にはリレーションシップ・マクロの利用により、ある程度実用に耐えられるデータベースシステムの作成ができることを目標とする。 ■評価は提出課題による。
教科書：	学生のためのAccess 若山 芳三郎 東京電機大学出版局
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「データベース入門」（担当者：村上 哲也）の履修の手引き

科目名：	データベース入門
担当者：	村上 哲也
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	ワードプロセッサ、表計算、データベースの三つは、パーソナルコンピュータで利用するソフトウェアの基本と言われている。その中でワードプロセッサと表計算は文書作成のために使われるいわば付随的なソフトウェアであるのに対し、データベースは、パーソナルコンピュータに限らず、本来コンピュータの事務的な使用の基本であるデータ処理を行うためのソフトウェアである。このソフトウェアを使って作るのは、文書のようなデータではなく、データを処理するための様々な仕組みである。この仕組みを理解するためにデータベースの設計・データ入力・データベースの利用を演習を通し習得する。
授業方法：	ノートパソコンを用い、リレーショナルデータベースソフトウェア「Access」の基本的利用法を実習中心に進める
履修の留意点：	特になし
目標と評価：	身近な情報をもとに、データベースシステムを構成する各要素の作成を通し、システム全体関係を理解する。 ・ テーブル ・ フォーム ・ レポート ・ クエリ 最終的にはリレーションシップ・マクロの利用により、ある程度実用に耐えられるデータベースシステムの作成ができることを目標とする。 ■評価は提出課題による。
教科書：	学生のためのAccess 若山 芳三郎 東京電機大学出版局
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「データベース応用」（担当者：村上 哲也）の履修の手引き

科目名：	データベース応用
担当者：	村上 哲也
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	データを効率良く管理、蓄積する手段としてデータベースがある。データベースを利用することでデータを容易に管理することができるため、顧客管理や仕入れ・受注管理から個人の住所録まで企業や個人を問わず広く利用されている。本講義では、データベースの意味や利用例から講義を行ない、実際にデータベースを設計、運用することによりデータベースの作成法やデータの操作、編集といったデータベースの基礎について学習する。データベースの設計にはRDBMS (Relational DataBase Management System)を採用し、データベースの作成やデータの操作を行なうための基礎ともいえるプログラム言語SQLを学習する。さらに、パーソナルコンピュータ向けの RDBMS ソフトウェアの代表格” Microsoft Access “を使用してデータベースを設計・運用していく。
授業方法：	ノートパソコンを用いた実習を中心に講義を進めていく。
履修の留意点：	データベース入門の履修を前提とする。
目標と評価：	データベースとは何かについて講義を行なう。データベースがどのような場所でどのような場合において利用されているか、データベースの種類などについて講義する。さらに実際に RDBMS を使用してデータベースを設計、運用することによりデータベースの使用法の基礎を学ぶ。まじめにリレーショナル・データベース向けに規格化、標準化された言語である SQL の基礎について講義・実習を行なうことでデータベースの作成やデータの検索、操作を行なうための基本手法を学ぶ。 その後、Microsoft Access を使用してデータベース を設計・運用する。まずMicrosoft Accessのもつ機能やその使用方法について学習し、テーブルの作成ではデータベースの作成方法を、クエリの作成ではデータの操作法を、フォームの作成やレポートの作成では運用時のデータの表示や印刷について順次学習する。また他のアプリケーションとの連携やマクロなど独自の機能についても学習する。 ■評価は提出課題による。
教科書：	最新SQLがわかる 小野哲 他 技術評論社
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「データベース応用」（担当者：村上 哲也）の履修の手引き

科目名：	データベース応用
担当者：	村上 哲也
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	データを効率良く管理、蓄積する手段としてデータベースがある。データベースを利用することでデータを容易に管理することができるため、顧客管理や仕入れ・受注管理から個人の住所録まで企業や個人を問わず広く利用されている。本講義では、データベースの意味や利用例から講義を行ない、実際にデータベースを設計、運用することによりデータベースの作成法やデータの操作、編集といったデータベースの基礎について学習する。データベースの設計にはRDBMS (Relational DataBase Management System)を採用し、データベースの作成やデータの操作を行なうための基礎ともいえるプログラム言語SQLを学習する。さらに、パーソナルコンピュータ向けの RDBMS ソフトウェアの代表格” Microsoft Access “を使用してデータベースを設計・運用していく。
授業方法：	ノートパソコンを用いた実習を中心に講義を進めていく。
履修の留意点：	データベース入門の履修を前提とする。
目標と評価：	データベースとは何かについて講義を行なう。データベースがどのような場所でどのような場合において利用されているか、データベースの種類などについて講義する。さらに実際に RDBMS を使用してデータベースを設計、運用することによりデータベースの使用法の基礎を学ぶ。まじめにリレーショナル・データベース向けに規格化、標準化された言語である SQL の基礎について講義・実習を行なうことでデータベースの作成やデータの検索、操作を行なうための基本手法を学ぶ。 その後、Microsoft Access を使用してデータベース を設計・運用する。まずMicrosoft Accessのもつ機能やその使用方法について学習し、テーブルの作成ではデータベースの作成方法を、クエリの作成ではデータの操作法を、フォームの作成やレポートの作成では運用時のデータの表示や印刷について順次学習する。また他のアプリケーションとの連携やマクロなど独自の機能についても学習する。 ■評価は提出課題による。
教科書：	最新SQLがわかる 小野哲 他 技術評論社
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「マルチメディア演習Ⅰ」（担当者：小林 憲夫）の履修の手引き

科目名：	マルチメディア演習Ⅰ
担当者：	小林 憲夫
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	画像処理ソフトを使って、写真の加工を学びます。デジタルカメラでの撮影から、最終出力やウェブへの応用まで幅広いデジタル画像に関する知識と技術を身につけます。
授業方法：	実習と講義を時間中に適度に割り振って行います。
履修の留意点：	実習科目ですが、理論などを含む講義も行います。
目標と評価：	画像処理は理論と一緒に理解しないと身につけません。授業中に理解度を試すテストなどを実施します。最終的には各自の作品を提出してもらいます。
教科書：	使いません。毎回プリントを配布します。
参考書：	適宜アドバイスします。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「マルチメディア演習Ⅰ」（担当者：小林 憲夫）の履修の手引き

科目名：	マルチメディア演習Ⅰ
担当者：	小林 憲夫
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	画像処理ソフトを使って、写真の加工を学びます。デジタルカメラでの撮影から、最終出力やウェブへの応用まで幅広いデジタル画像に関する知識と技術を身につけます。
授業方法：	実習と講義を時間中に適度に割り振って行います。
履修の留意点：	実習科目ですが、理論などを含む講義も行います。
目標と評価：	画像処理は理論と一緒に理解しないと身につけません。授業中に理解度を試すテストなどを実施します。最終的には各自の作品を提出してもらいます。
教科書：	使いません。毎回プリントを配布します。
参考書：	適宜アドバイスします。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「マルチメディア演習Ⅰ」（担当者：山際 基）の履修の手引き

科目名：	マルチメディア演習Ⅰ
担当者：	山際 基
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	コンピュータを用いてプレゼンテーションを行うときには、そのもととなる素材が必要である。その素材の中でも本講義では画像（静止画）を取り上げて、画像の作成、編集、フォトタッチを行うために必要な知識と技能について実習を通じて習得する。
授業方法：	パソコンを用いた実習形式で講義を行う。
履修の留意点：	パソコンの基本操作は必須。
目標と評価：	プレゼンテーションやWebページの画像素材を自在に作成、編集ができることをが目標である。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「マルチメディア演習Ⅱ」（担当者：小林 憲夫）の履修の手引き

科目名：	マルチメディア演習Ⅱ
担当者：	小林 憲夫
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	動画編集ソフトを使って、ビデオの撮影と編集を学びます。ビデオカメラでの撮影から、最終出力やウェブへの応用まで幅広いデジタル映像に関する知識と技術を身につけます。
授業方法：	実習と講義を時間中に適度に割り振って行います。
履修の留意点：	実習科目ですが、理論などを含む講義も行います。
目標と評価：	ビデオ映像処理は理論と一緒に理解しないと身につけません。授業中に理解度を試すテストなどを実施します。最終的には各自の作品を提出してもらいます。
教科書：	使いません。毎回プリントを配布します。
参考書：	適宜アドバイスします。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「マルチメディア演習Ⅱ」（担当者：小林 憲夫）の履修の手引き

科目名：	マルチメディア演習Ⅱ
担当者：	小林 憲夫
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	動画編集ソフトを使って、ビデオの撮影と編集を学びます。ビデオカメラでの撮影から、最終出力やウェブへの応用まで幅広いデジタル映像に関する知識と技術を身につけます。
授業方法：	実習と講義を時間中に適度に割り振って行います。
履修の留意点：	実習科目ですが、理論などを含む講義も行います。
目標と評価：	ビデオ映像処理は理論と一緒に理解しないと身につけません。授業中に理解度を試すテストなどを実施します。最終的には各自の作品を提出してもらいます。
教科書：	使いません。毎回プリントを配布します。
参考書：	適宜アドバイスします。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「マルチメディア演習Ⅱ」（担当者：山際 基）の履修の手引き

科目名：	マルチメディア演習Ⅱ
担当者：	山際 基
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	現在、コンピュータを用いてプレゼンテーションを行うときには、静止画や文章だけでなく映像も取り入れていることがある。本講義では映像（動画）に着目し、コンピュータ上での動画の作成、編集を行うために必要な知識と技能について実習を通じて習得する。
授業方法：	パソコンを用いた実習形式で講義を行う。
履修の留意点：	パソコンの基本操作は必須。またⅠを履修済みであることが望ましい。
目標と評価：	デジタルビデオを自在に作成、編集ができることをが目標である。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「Webプレゼンテーション I」（担当者：暮田 豊）の履修の手引き

科目名：	Webプレゼンテーション I
担当者：	暮田 豊
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>アメリカでインターネットの起源といわれるネットワーク研究が始まってから35年以上を経過した。今では日本でもパソコンを使用している人々にとって、インターネットを利用しての情報のやりとりは半ば当然の事となっている。又その間にコンピュータについても著しい変化や進歩があり、ネットワークとコンピュータが一体化する事により、コンピュータの利用分野も拡大していった。最近においては携帯電話等、手軽に持ち運びができる小型端末でも、インターネットを利用できる迄に技術が進んでいる。</p> <p>春学期においてはインターネットの歴史を学んだ後、クライアント側（使用する側）からの立場でブラウザ、電子メール、FTP、ネットニュース、チャットなどの基礎知識と利用法を学習していく。</p>
授業方法：	授業計画に基づき、インターネットの歴史や様々な利用方法についての基礎知識を順に学習していく。
履修の留意点：	インターネットに関する基礎知識の理解と習得が目的である。授業は教科書と共に他に作成した資料を使用する。この資料はネットワークフォルダからダウンロードして参照する方法を採るので、各自パソコンは毎回持参する事。
目標と評価：	インターネットの歴史についての基本的な知識を身に付ける事。又さまざまな利用法について、どのような仕組みで成り立っているのかを理解する事が目的である。従って理解度を評価する為にテストを行い、出欠点と併せて総合的な評価を行う。
教科書：	インターネットのしくみをきちんと使って使う本 びん 技術評論社 平成14年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「Webプレゼンテーション I」（担当者：暮田 豊）の履修の手引き

科目名：	Webプレゼンテーション I
担当者：	暮田 豊
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>アメリカでインターネットの起源といわれるネットワーク研究が始まってから35年以上を経過した。 今では日本でもパソコンを使用している人々にとって、インターネットを利用しての情報のやりとりは半ば当然の事となっている。 又その間にコンピュータについても著しい変化や進歩があり、ネットワークとコンピュータが一体化する事により、コンピュータの利用分野も拡大していった。 最近においては携帯電話等、手軽に持ち運びができる小型端末でも、インターネットを利用できる迄に技術が進んでいる。</p> <p>春学期においてはインターネットの歴史を学んだ後、クライアント側（使用する側）からの立場でブラウザ、電子メール、FTP、ネットニュース、チャットなどの基礎知識と利用法を学習していく。</p>
授業方法：	授業計画に基づき、インターネットの歴史や様々な利用方法についての基礎知識を順に学習していく。
履修の留意点：	インターネットに関する基礎知識の理解と習得が目的である。 授業は教科書と共に他に作成した資料を使用する。この資料はネットワークフォルダからダウンロードして参照する方法を採るので、各自パソコンは毎回持参する事。
目標と評価：	インターネットの歴史についての基本的な知識を身に付ける事。 又さまざまな利用法について、どのような仕組みで成り立っているのかを理解する事が目的である。 従って理解度を評価する為にテストを行い、出欠点と併せて総合的な評価を行う。
教科書：	インターネットのしくみをきちんと使って使う本 びん 技術評論社 平成14年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「Webプレゼンテーション I」（担当者：湖東 善明）の履修の手引き

科目名：	Webプレゼンテーション I
担当者：	湖東 善明
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	現在ではインターネットが普及し誰でも利用している。 しかし、その歴史や仕組みについての理解は今ひとつである。 そこでインターネットの歴史、仕組みについて学んだうえで ブラウザ、電子メール、FTPソフトウェアなどのクライアントサイド（使用する側）ソフトの利用法 を身につける。 あわせてHTMLによる簡単なHPを作成する。
授業方法：	授業計画に基づきインターネットの基礎知識を学ぶ。 HTMLによるHPの作成実習を行う。
履修の留意点：	Windowsの基本操作ができること。 毎回各自PCを持参すること。
目標と評価：	目標 インターネットの基礎知識を身に付けること。 簡単なHPが作成できること。 評価方法 平常点で評価する。
教科書：	インターネットのしくみをきちんと使って使う本 びん 技術評論社 平成16年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「Webプレゼンテーション I」（担当者：湖東 善明）の履修の手引き

科目名：	Webプレゼンテーション I
担当者：	湖東 善明
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	現在ではインターネットが普及し誰でも利用している。 しかし、その歴史や仕組みについての理解は今ひとつである。 そこでインターネットの歴史、仕組みについて学んだうえで ブラウザ、電子メール、FTPソフトウェアなどのクライアントサイド（使用する側）ソフトの利用法 を身につける。 あわせてHTMLによる簡単なHPを作成する。
授業方法：	授業計画に基づきインターネットの基礎知識を学ぶ。 HTMLによるHPの作成実習を行う。
履修の留意点：	Windowsの基本操作ができること。 毎回各自PCを持参すること。
目標と評価：	目標 インターネットの基礎知識を身に付けること。 簡単なHPが作成できること。 評価方法 平常点で評価する。
教科書：	インターネットのしくみをきちんと使って使う本 びん 技術評論社 平成16年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「Webプレゼンテーション I」（担当者：木戸 和彦）の履修の手引き

科目名：	Webプレゼンテーション I
担当者：	木戸 和彦
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>アメリカでインターネットの起源といわれるネットワーク研究が始まって35年以上経過した。今では日本でもパソコンを使用している人々にとって、インターネットを利用する情報のやりとりは半ば当然の事となっている。</p> <p>又その間にコンピュータについても著しい変化や進歩があり、ネットワークとコンピュータが一体化する事により、コンピュータの利用分野も拡大していった。</p> <p>最近においては携帯電話等、手軽に持ち運びができる小型端末でも、インターネットを利用できる迄に技術が進んでいる。</p> <p>春学期においてはインターネットの歴史を学んだ後、クライアント側（使用する側）からの立場でブラウザ、電子メール、FTP、ネットニュース、チャットなどの利用法を学習していく。</p>
授業方法：	授業計画に基づき、インターネットの歴史及び様々な利用方法を順に学習していく。
履修の留意点：	インターネットの習得が目的であるので、パソコンは毎授業持参する事。
目標と評価：	インターネットの歴史についての基本的な知識を身に付ける事、又利用法に習熟する事が目的であるので、テスト及び実習により総合的に評価を行う。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「WebプレゼンテーションⅡ」（担当者：暮田 豊）の履修の手引き

科目名：	WebプレゼンテーションⅡ
担当者：	暮田 豊
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>春学期ではクライアント側（利用する側）から、インターネットで利用されているさまざまな技術についての基礎知識を学んだ。 秋学期では視点を変え、サーバ側（提供する側）からインターネットの仕組みを学ぶ。</p> <p>WWW、MAIL、FTP、NNTP、IRC等の用語のいくつかは、一般によく知られているが、このようなインターネット上のサービスが、どのようなサーバで提供されているのか、その基本的な知識を学んでいく。</p> <p>又インターネットが広がっていくにつれて、ネットワーク上のトラブルも多発している。これに関連してプライバシー保護やセキュリティの問題も法律化されつつあり、これらの基礎的な知識も学ぶ。</p> <p>更にHTMLやCGI等のWebプログラミングの実習を通して、クライアントとサーバとの関係を理解してもらおう。</p>
授業方法：	授業計画に基づき、サーバ側からみたインターネットの仕組みを順次学習していく。又後半の授業の数を当て、Webプログラミングの実習を行う。
履修の留意点：	インターネットサーバに関する基礎知識の理解と習得が目的である。毎回作成した資料を使用するが、この資料はネットワークフォルダからダウンロードして参照する方法を採るので、各自パソコンは毎回持参する事。
目標と評価：	<p>インターネットサーバについて理解し、基本的な知識を身に付ける事。 又簡単なWebプログラミングを経験する事により、クライアントとサーバとの関係を体験する事。 評価は下記の三つを総合して行う。</p> <p>① サーバに関する理解度を評価する為のテスト（63%） ② Webプログラミング実習（7%） ③ 出欠点（30%）</p>
教科書：	インターネットのしくみをきちんと知って使う本 びん 技術評論社
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「WebプレゼンテーションⅡ」（担当者：暮田 豊）の履修の手引き

科目名：	WebプレゼンテーションⅡ
担当者：	暮田 豊
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>春学期ではクライアント側（利用する側）から、インターネットで利用されているさまざまな技術についての基礎知識を学んだ。 秋学期では視点を変え、サーバ側（提供する側）からインターネットの仕組みを学ぶ。</p> <p>WWW、MAIL、FTP、NNTP、IRC等の用語のいくつかは、一般によく知られているが、このようなインターネット上のサービスが、どのようなサーバで提供されているのか、その基本的な知識を学んでいく。</p> <p>又インターネットが広がっていくにつれて、ネットワーク上のトラブルも多発している。これに関連してプライバシー保護やセキュリティの問題も法律化されつつあり、これらの基礎的な知識も学ぶ。</p> <p>更にHTMLやCGI等のWebプログラミングの実習を通して、クライアントとサーバとの関係を理解してもらおう。</p>
授業方法：	授業計画に基づき、サーバ側からみたインターネットの仕組みを順次学習していく。又後半の授業の数を当て、Webプログラミングの実習を行う。
履修の留意点：	インターネットサーバに関する基礎知識の理解と習得が目的である。毎回作成した資料を使用するが、この資料はネットワークフォルダからダウンロードして参照する方法を採るので、各自パソコンは毎回持参する事。
目標と評価：	<p>インターネットサーバについて理解し、基本的な知識を身に付ける事。 又簡単なWebプログラミングを経験する事により、クライアントとサーバとの関係を体験する事。 評価は下記の三つを総合して行う。</p> <p>① サーバに関する理解度を評価する為のテスト（63%） ② Webプログラミング実習（7%） ③ 出欠点（30%）</p>
教科書：	インターネットのしくみをきちんと知って使う本 びん 技術評論社
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「WebプレゼンテーションⅡ」（担当者：湖東 善明）の履修の手引き

科目名：	WebプレゼンテーションⅡ
担当者：	湖東 善明
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	WWW、MAIL、FTPなどのインターネットサービスを提供するサーバーの仕組みを理解する。 ネットワーク上のセキュリティやプライバシー保護の問題について学ぶ。 PERLによるアクセスカウンタ、掲示板を備えたHPを作成することにより。 CGI、SSIを始めとするサーバーサイド（プロバイダー側）プログラムの利用法を身に付ける。
授業方法：	授業計画に基づきサーバーの基礎知識を学ぶ。 PERLによるアクセスカウンタ、掲示板を備えたHPの作成実習を行う。
履修の留意点：	Windowsの基本操作ができること。 インターネット入門を履修していることが望ましい。 毎回各自PCを持参すること。
目標と評価：	目標 サーバーの基礎知識を身に付けること。 アクセスカウンタ、掲示板を備えたHPが作成できること。 評価方法 平常点で評価する。
教科書：	はじめてのWebプログラミング 国司明宏 明日香出版社 2001年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「WebプレゼンテーションⅡ」（担当者：湖東 善明）の履修の手引き

科目名：	WebプレゼンテーションⅡ
担当者：	湖東 善明
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	WWW、MAIL、FTPなどのインターネットサービスを提供するサーバーの仕組みを理解する。 ネットワーク上のセキュリティやプライバシー保護の問題について学ぶ。 PERLによるアクセスカウンタ、掲示板を備えたHPを作成することにより。 CGI、SSIを始めとするサーバーサイド（プロバイダー側）プログラムの利用法を身に付ける。
授業方法：	授業計画に基づきサーバーの基礎知識を学ぶ。 PERLによるアクセスカウンタ、掲示板を備えたHPの作成実習を行う。
履修の留意点：	Windowsの基本操作ができること。 インターネット入門を履修していることが望ましい。 毎回各自PCを持参すること。
目標と評価：	目標 サーバーの基礎知識を身に付けること。 アクセスカウンタ、掲示板を備えたHPが作成できること。 評価方法 平常点で評価する。
教科書：	はじめてのWebプログラミング 国司明宏 明日香出版社 2001年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「WebプレゼンテーションⅡ」（担当者：木戸 和彦）の履修の手引き

科目名：	WebプレゼンテーションⅡ
担当者：	木戸 和彦
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	春学期ではクライアント側（利用する側）からのインターネット技術を学んだ。秋学期では視点を変え、サーバー側（提供する側）からインターネットの仕組みを学ぶ。WWW、MAIL、FTP、NNTP、IRC等の用語のいくつかは、一般によく知られているが、このようなインターネット上のサービスが、どのような仕組みで提供されているのか学んでいく。又インターネットが広がっていくにつれて、ネットワーク上のトラブルも多発している。これに関連して、プライバシー保護やセキュリティの問題も法律化されつつあり、これらの基礎的な知識も学ぶ。更にHTMLやXMLによるWebページの学習、CGI、SSI等のサーバーを利用したWebサイトの作成等、実習を通じて基礎的な知識を習得する。
授業方法：	授業計画に則って、各項目を順に学習していく。
履修の留意点：	毎授業各自パソコンを持参する事。
目標と評価：	サーバー側に立ってインターネットの仕組みを理解する事が目標である。又HTML、CGI等の実習によりサーバー側プログラミングの仕組みを理解する。 評価の方法はテスト及び実習により総合的に行う。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータによる論文作成の技術」（担当者：森本 孝）の履修の手引き

科目名：	コンピュータによる論文作成の技術
担当者：	森本 孝
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>コンピュータを利用した論文やレポートの作成の方法について学びます。</p> <p>論文やレポートは、論理的な構成を持ち、適切な図表やデータを含んでいるのが通例です。これらを作成するためには、ワープロソフトのアウトラインプロセッサ機能、図形描画機能などを適切に活用する必要があります。</p> <p>また、データが含まれる論文やレポートの場合、それらを適切に分析し、グラフや図表の形でわかりやすく表現できなくてはなりません。</p> <p>この授業では、ワープロソフトや表計算ソフトの高度な活用法について学ぶことを通じて、コンピュータを活用した論文・レポートの効率的な作成法を身につけます。</p>
授業方法：	ノートパソコンを使った実習を中心に授業を進めます。
履修の留意点：	<p>① 一定のタイピング能力とWordに関する基本的な操作能力があることを履修の前提とします。具体的には、『コンピュータリテラシI』に合格していることが必要です。『コンピュータリテラシI』不合格者で、履修を希望する場合には、初回の授業に必ず出席して、授業担当者と相談してください。</p> <p>② ノートパソコンを充電して持参する必要があります。</p>
目標と評価：	随時課す課題と期末の授業内実技試験によって評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータプレゼンテーション」（担当者：木戸 和彦）の履修の手引き

科目名：	コンピュータプレゼンテーション
担当者：	木戸 和彦
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>企業活動における会議や営業の際に利用されることの多いプレゼンテーションソフトウェアの利用法を中心にデジタル時代のプレゼンテーション手法を学ぶ。</p> <p>使用ソフト：PowerPoint 到達目標：企業活動を通じて自己実現を図るための自己表現手法を身に付ける。 受講対象：ピカールの企業人になることを目指す人 ：将来、自分の会社を作ろうと思う人</p>
授業方法：	<p>机上の講義ではなく、プレゼンテーションのための作品作成と実習を通じて、実践的なプレゼンテーション手法を学ぶ。</p> <p>組織人としての自己表現方法を身につけるためのプレゼンテーション ・会社のPR ・商品説明 ・グラフ ・論点整理</p>
履修の留意点：	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション手法を習得するためには、初回はもとより、毎回継続して受講すること。 ・市販の教科書は使いません。毎回、履修内容にそったマニュアルを用意します。
目標と評価：	<ul style="list-style-type: none"> ・履修状況とプレゼンテーションの出来栄（プレゼンテーション力）で評価する。 ・定期試験は行わない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータプレゼンテーション」（担当者：木戸 和彦）の履修の手引き

科目名：	コンピュータプレゼンテーション
担当者：	木戸 和彦
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>企業活動における会議や営業の際に利用されることの多いプレゼンテーションソフトウェアの利用法を中心にデジタル時代のプレゼンテーション手法を学ぶ。</p> <p>使用ソフト：PowerPoint 到達目標：企業活動を通じて自己実現を図るための自己表現手法を身に付ける。 受講対象：ピカールの企業人になることを目指す人 ：将来、自分の会社を作ろうと思う人</p>
授業方法：	<p>机上の講義ではなく、プレゼンテーションのための作品作成と実習を通じて、実践的なプレゼンテーション手法を学ぶ。</p> <p>組織人としての自己表現方法を身につけるためのプレゼンテーション ・会社のPR ・商品説明 ・グラフ ・論点整理</p>
履修の留意点：	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション手法を習得するためには、初回はもとより、毎回継続して受講すること。 ・市販の教科書は使いません。毎回、履修内容にそったマニュアルを用意します。
目標と評価：	<ul style="list-style-type: none"> ・履修状況とプレゼンテーションの出来栄（プレゼンテーション力）で評価する。 ・定期試験は行わない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「データベース活用の技術 I」（担当者：村上 哲也）の履修の手引き

科目名：	データベース活用の技術 I
担当者：	村上 哲也
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	ワードプロセッサ、表計算、データベースの三つは、パーソナルコンピュータで利用するソフトウェアの基本と言われている。その中でワードプロセッサと表計算は文書作成のために使われるいわば付随的なソフトウェアであるのに対し、データベースは、パーソナルコンピュータに限らず、本来コンピュータの事務的な使用の基本であるデータ処理を行うためのソフトウェアである。このソフトウェアを使って作るのは、文書のようなデータではなく、データを処理するための様々な仕組みである。この仕組みを理解するためにデータベースの設計・データ入力・データベースの利用を演習を通し習得する。
授業方法：	ノートパソコンを用い、リレーショナルデータベースソフトウェア「Access」の基本的利用法を実習中心に進める
履修の留意点：	特になし
目標と評価：	身近な情報をもとに、データベースシステムを構成する各要素の作成を通し、システム全体関係を理解する。 ・ テーブル ・ フォーム ・ レポート ・ クエリ 最終的にはリレーションシップ・マクロの利用により、ある程度実用に耐えられるデータベースシステムの作成ができることを目標とする。 ■評価は提出課題による。
教科書：	学生のための Access 若山 芳三郎 東京電機大学
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「データベース活用の技術 I」（担当者：村上 哲也）の履修の手引き

科目名：	データベース活用の技術 I
担当者：	村上 哲也
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	ワードプロセッサ、表計算、データベースの三つは、パーソナルコンピュータで利用するソフトウェアの基本と言われている。その中でワードプロセッサと表計算は文書作成のために使われるいわば付随的なソフトウェアであるのに対し、データベースは、パーソナルコンピュータに限らず、本来コンピュータの事務的な使用の基本であるデータ処理を行うためのソフトウェアである。このソフトウェアを使って作るのは、文書のようなデータではなく、データを処理するための様々な仕組みである。この仕組みを理解するためにデータベースの設計・データ入力・データベースの利用を演習を通し習得する。
授業方法：	ノートパソコンを用い、リレーショナルデータベースソフトウェア「Access」の基本的利用法を実習中心に進める
履修の留意点：	特になし
目標と評価：	身近な情報をもとに、データベースシステムを構成する各要素の作成を通し、システム全体関係を理解する。 ・ テーブル ・ フォーム ・ レポート ・ クエリ 最終的にはリレーションシップ・マクロの利用により、ある程度実用に耐えられるデータベースシステムの作成ができることを目標とする。 ■評価は提出課題による。
教科書：	学生のための Access 若山 芳三郎 東京電機大学
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「データベース活用の技術Ⅱ」（担当者：村上 哲也）の履修の手引き

科目名：	データベース活用の技術Ⅱ
担当者：	村上 哲也
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	データを効率良く管理、蓄積する手段としてデータベースがある。データベースを利用することでデータを容易に管理することができるため、顧客管理や仕入れ・受注管理から個人の住所録まで企業や個人を問わず広く利用されている。本講義では、データベースの意味や利用例から講義を行ない、実際にデータベースを設計、運用することによりデータベースの作成法やデータの操作、編集といったデータベースの基礎について学習する。データベースの設計にはRDBMS(Relational DataBase Management System)を採用し、データベースの作成やデータの操作を行なうための基礎ともいえるプログラム言語SQLを学習する。さらに、パーソナルコンピュータ向けの RDBMS ソフトウェアの代表格” Microsoft Access “を使用してデータベースを設計・運用していく
授業方法：	ノートパソコンを用いた実習を中心に講義を進めていく。
履修の留意点：	データベース活用の技術Ⅰの履修を前提とする。
目標と評価：	データベースとは何かについて講義を行なう。データベースがどのような場所でどのような場合において利用されているか、データベースの種類などについて講義する。さらに実際に RDBMS を使用してデータベースを設計、運用することによりデータベースの使用法の基礎を学ぶ。まじめにリレーショナル・データベース向けに規格化、標準化された言語である SQL の基礎について講義・実習を行なうことでデータベースの作成やデータの検索、操作を行なうための基本手法を学ぶ。 その後、Microsoft Access を使用してデータベース を設計・運用する。まずMicrosoft Accessのもつ機能やその使用方法について学習し、テーブルの作成ではデータベースの作成方法を、クエリの作成ではデータの操作法を、フォームの作成やレポートの作成では運用時のデータの表示や印刷について順次学習する。また他のアプリケーションとの連携やマクロなど独自の機能についても学習する。 ■評価は提出課題による。
教科書：	最新SQLがわかる 小野哲 他 技術評論社
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「データベース活用の技術Ⅱ」（担当者：村上 哲也）の履修の手引き

科目名：	データベース活用の技術Ⅱ
担当者：	村上 哲也
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	データを効率良く管理、蓄積する手段としてデータベースがある。データベースを利用することでデータを容易に管理することができるため、顧客管理や仕入れ・受注管理から個人の住所録まで企業や個人を問わず広く利用されている。本講義では、データベースの意味や利用例から講義を行ない、実際にデータベースを設計、運用することによりデータベースの作成法やデータの操作、編集といったデータベースの基礎について学習する。データベースの設計にはRDBMS(Relational DataBase Management System)を採用し、データベースの作成やデータの操作を行なうための基礎ともいえるプログラム言語SQLを学習する。さらに、パーソナルコンピュータ向けの RDBMS ソフトウェアの代表格” Microsoft Access “を使用してデータベースを設計・運用していく
授業方法：	ノートパソコンを用いた実習を中心に講義を進めていく。
履修の留意点：	データベース活用の技術Ⅰの履修を前提とする。
目標と評価：	データベースとは何かについて講義を行なう。データベースがどのような場所でどのような場合において利用されているか、データベースの種類などについて講義する。さらに実際に RDBMS を使用してデータベースを設計、運用することによりデータベースの使用法の基礎を学ぶ。まじめにリレーショナル・データベース向けに規格化、標準化された言語である SQL の基礎について講義・実習を行なうことでデータベースの作成やデータの検索、操作を行なうための基本手法を学ぶ。 その後、Microsoft Access を使用してデータベース を設計・運用する。まずMicrosoft Accessのもつ機能やその使用方法について学習し、テーブルの作成ではデータベースの作成方法を、クエリの作成ではデータの操作法を、フォームの作成やレポートの作成では運用時のデータの表示や印刷について順次学習する。また他のアプリケーションとの連携やマクロなど独自の機能についても学習する。 ■評価は提出課題による。
教科書：	最新SQLがわかる 小野哲 他 技術評論社
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「エンドユーザプログラミング I」（担当者：松嶋 璋幸）の履修の手引き

科目名：	エンドユーザプログラミング I
担当者：	松嶋 璋幸
設置学期：	春
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	ビジネスアプリケーションをただ使うだけでなく、効率的に活用できるように加工するなど、自分専用に仕立て上げる方法を学びます。 具体的にはワープロソフト（Microsoft Word）や表計算ソフト（Microsoft Excel）に用意されているマクロ機能を理解し、機能を変更したりボタン一つで実行させたりする方法を習得します。さらにプログラム作成の知識がまったくなくても入り込めるVisual Basic for Applications（VBA）を使ってプログラムを作る方法を理解し、自分流の道具に仕立て上げる基礎を習得します。
授業方法：	13週の講義は演習や実習を随所にとり入れて進めてゆきます。つまりパソコンを使って実際にワープロソフトや表計算ソフトの動作を確かめながら習得してゆく方法です。
履修の留意点：	ワープロソフトや表計算ソフトの扱いに慣れていなくても構いませんが、パソコンを使ってWindowsの基本的な操作ができることを前提としています。
目標と評価：	この授業を受講した学生は以下のことができるようになっていと思いますし、またそうなるように学習してください。 ○ マクロ機能を使ってワープロソフトと表計算ソフトを効率的に活用する事ができる。 ○ プログラミング言語であるVisual Basic for Applications の基本がわかる。 ○ プログラムの作成手順と実行方法などがわかる。 ○ 自分流のワープロソフトや表計算ソフトに仕立て上げることができる。 評価点は次の項目ごとの数値を加算して算出します。 ○ 授業中に行う理解度診断・・・80% ○ 授業中の演習や実習の出来具合・・・10% ○ 授業態度・・・10%
教科書：	速効！図解 Excel 2003 VBA編 池谷京子（株）毎日コミュニケーションズ 2004年3月20日 第1版第1刷発行
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「エンドユーザプログラミングⅡ」（担当者：松嶋 璋幸）の履修の手引き

科目名：	エンドユーザプログラミングⅡ
担当者：	松嶋 璋幸
設置学期：	秋
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	Windowsのプログラミング言語であるVisual Basic for Applications (VBA) でプログラミング技法を身につけ、ワープロソフト (Microsoft Word) や表計算ソフト (Microsoft Excel) を経営の道具として活かすことができるよう実務的な能力を養います。 具体的にはWindowsに用意されている関数の利用、プログラミングによる機能の作り込み、ワープロソフトや表計算ソフトの制御、ダイアログボックスの作成で人との接点となる画面を変えるなど、ワープロソフトや表計算ソフトを自分好みの道具に仕立て上げる方法を身につけることを目指します。
授業方法：	13週の講義は演習や実習を随所にとり入れて進めてゆきます。つまりパソコンを使って実際にワープロソフトや表計算ソフトの動作を確かめながら習得してゆく方法です。
履修の留意点：	エンドユーザプログラミングⅠを履修していることが望ましいのですが、そうでない場合はワープロソフトと表計算ソフトの基本的な操作、および教科書（エンドユーザプログラミングⅠと同じ教科書を使います）のChapter1からChapter4までと同じ程度の知識を何らかの方法で得ておいて下さい。
目標と評価：	この授業を受講した学生は以下のことができるようになっていいると思いますし、またそうなるように学習してください。 ○ プログラミング言語であるVisual Basic for Applications がどういうものかわかる。 ○ 関数やマクロを利用することができる。 ○ プログラムの作成手順と実行方法などがわかりプログラミングができる。 ○ 自分好みのワープロソフトや表計算ソフトに仕立て上げることができる。 評価点は次の項目ごとの数値を加算して算出します。 ○ 授業中に行う理解度診断・・・80% ○ 授業中の演習や実習の出来具合・・・10% ○ 授業態度・・・10%
教科書：	速効！図解 Excel 2003 VBA編 池谷京子（株）毎日コミュニケーションズ 2004年3月20日 第1版第1刷発行
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「エンドユーザーコンピューティング I」（担当者：宮本 勉）の履修の手引き

科目名：	エンドユーザーコンピューティング I
担当者：	宮本 勉
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>エンドユーザーコンピューティング（EUC）とはパソコンを活用して一般業務、経営者や各業務に所属している人がコンピュータの専門家によらずに日常業務の中において一般的システムを利用する立場の人が主体的にシステムを構築していくことを言います。</p> <p>特に、このEUCということについては初級アドミニストレーターの資格取得のための重要な一分野となっています。このEUCについては資格取得を踏まえて学習を行う。</p> <p>さらに、今後ビジネスの現場においてますますEUCという考え方は重要になります。このEUCについて知識を学ぶとともに必要に応じて演習も行い学ぶ</p>
授業方法：	<p>基本的には講義を中心に授業を行う、必要に応じてパソコンを使った演習を行う。さらに、パソコンを利用してノートの作成、インターネットからの情報検索等を行うために常時授業には携帯することが必要である。</p>
履修の留意点：	<ul style="list-style-type: none"> ・常時パソコンをネットワークに接続できるようにしておくこと ・授業のノート作成をパソコンを使用して行う ・授業とは別に演習の課題があるのでしっかり取り組むこと ・学ナビを常時利用すること
目標と評価：	<p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> ① EUCの基本的な知識を習得する ② EUCに関する実技の修得 ③ 日常的にパソコンを利用できる能力の修得 <p>評価</p> <ol style="list-style-type: none"> ① レポートの作成 ② 筆記試験の結果 ③ 演習課題の作成 <p>結果を総合的に評価する</p>
教科書：	初級シスアドの教科書2006 学研 2006
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「エンドユーザーコンピューティングⅡ」（担当者：宮本 勉）の履修の手引き

科目名：	エンドユーザーコンピューティングⅡ
担当者：	宮本 勉
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>エンドユーザーコンピューティング（EUC）とはパソコンを活用して一般業務、経営者や各業務に所属している人がコンピュータの専門家によらずに日常業務の中において一般的システムを利用する立場の人が主体的にシステムを構築していくことを言います。 特に、このEUCということについては初級アドミニストレーターの資格取得のための重要な一分野となっています。このEUCについては資格取得を踏まえて学習を行う。 さらに、今後ビジネスの現場においてますますEUCという考え方は重要になります。このEUCについて知識を学ぶとともに必要に応じて演習も行い学ぶ</p> <p>※ⅡではⅠで学んだことをベースにさらに高度な知識及び演習を習得する。</p>
授業方法：	基本的には講義を中心に授業を行う、必要に応じてパソコンを使った演習を行う。さらに、パソコンを利用してノートの作成、インターネットからの情報検索等を行うために常時授業には携帯することが必要である。
履修の留意点：	<ul style="list-style-type: none"> ・常時パソコンをネットワークに接続できるようにしておくこと ・授業のノート作成をパソコンを使用して行う ・授業とは別に演習の課題があるのでしっかり取り組むこと ・学ナビを常時利用すること
目標と評価：	<p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> ① EUCの基本的な知識を習得する ② EUCに関する実技の修得 ③ 日常的にパソコンを利用できる能力の修得 <p>評価</p> <ol style="list-style-type: none"> ① レポートの作成 ② 筆記試験の結果 ③ 演習課題の作成 <p>結果を総合的に評価する</p>
教科書：	初級シスアドの教科書2006 学研
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ビジネスプログラミング I」（担当者：松嶋 璋幸）の履修の手引き

科目名：	ビジネスプログラミング I
担当者：	松嶋 璋幸
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	ビジネスアプリケーションの一つであるワープロソフト（Microsoft Word）をただ使うだけでなく、効率的に活用できるように加工したり、自分専用のワープロソフトに仕立て上げる方法を学びます。具体的にはワープロソフトに用意されているマクロ機能を理解し、機能を変更したりボタン一つで実行させたりする方法を習得します。さらにプログラム作成の知識がまったくなくても入り込めるVisual Basic for Applications (VBA) を使ってプログラムを作る方法を理解し、自分流のワープロソフトに仕立て上げる基礎を習得します。
授業方法：	13回の講義は演習や実習を随所にとり入れて進めてゆきます。つまりパソコンを使って実際にワープロソフトの動作を確かめながら習得してゆく方法です。
履修の留意点：	ワープロソフトの扱いに慣れていなくても構いませんが、パソコンを使ってWindowsの基本的な操作ができることを前提としています。 教科書はありません。必要な資料を授業で配布します。
目標と評価：	この授業を受講した学生は以下のことができるようになっていと思いますし、またそうなるように学習してください。 <ul style="list-style-type: none"> ○ マクロ機能を使ってワープロソフトを効率的に活用することができる。 ○ プログラミング言語であるVisual Basic for Applications の基本がわかる。 ○ プログラムの作成手順と実行方法などがわかる。 ○ 自分流のワープロソフトに仕立て上げることができる。 評価点は次の項目ごとの数値を加算して算出します。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業中に行う理解度診断・・・80% ○ 授業中の演習や実習の出来具合・・・10% ○ 授業態度・・・10%
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ビジネスプログラミングⅡ」（担当者：松嶋 璋幸）の履修の手引き

科目名：	ビジネスプログラミングⅡ
担当者：	松嶋 璋幸
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	Windowsのプログラミング言語であるVisual Basic for Applications (VBA) でプログラミング技法を身につけ、ワープロソフト (Microsoft Word) を経営の道具として活かすことができるよう実務的な能力を養います。 具体的にはWindowsに用意されている関数の利用、プログラミングによる機能の作り込みやワープロソフトの制御、ダイアログボックスの作成でワープロソフトの顔 (人との接点) を変えるなど、ワープロソフトを自分好みの道具に仕立て上げる方法を身につけることを目指します。
授業方法：	13回の講義は演習や実習を随所にとり入れて進めてゆきます。つまりパソコンを使って実際にワープロソフトの動作を確かめながら習得してゆく方法です。
履修の留意点：	ビジネスプログラミングⅠを履修していることが望ましいのですが、そうでない場合はWindowsとワープロソフトの基本的な操作、およびマクロの知識を何らかの方法で得ておいて下さい。 教科書はありません。必要な資料を授業で配布します。
目標と評価：	この授業を受講した学生は以下のことができるようになっていきたいと思いますし、またそうなるように学習してください。 ○ プログラミング言語であるVisual Basic for Applications がどういうものかわかる。 ○ 関数やマクロを利用することができる。 ○ プログラムの作成手順と実行方法などがわかりプログラミングができる。 ○ 自分好みのワープロソフトに仕立て上げることができる。 評価点は次の項目ごとの数値を加算して算出します。 ○ 授業中に行う理解度診断・・・80% ○ 授業中の演習や実習の出来具合・・・10% ○ 授業態度・・・10%
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ビジネスプログラミングⅢ」（担当者：松嶋 璋幸）の履修の手引き

科目名：	ビジネスプログラミングⅢ
担当者：	松嶋 璋幸
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	ビジネスアプリケーションの一つである表計算ソフト（Microsoft Excel）をただ使うだけでなく、効率的に活用できるように加工したり、自分専用の表計算ソフトに仕立て上げる方法を学びます。具体的には表計算ソフトに用意されているマクロ機能を理解し、機能を変更したりボタン一つで実行させたりする方法を習得します。さらにプログラム作成の知識がまったくなくても入り込めるVisual Basic for Applications (VBA) を使ってプログラムを作る方法を理解し、セルやシートやブックをプログラムで自由に操作する方法を習得します。
授業方法：	13回の講義は演習や実習を随所にとり入れて進めてゆきます。つまりパソコンを使って実際に表計算ソフトの動作を確かめながら習得してゆく方法です。
履修の留意点：	表計算ソフトの扱いに慣れていなくても構いませんが、パソコンを使ってWindowsの基本的な操作ができることを前提としています。
目標と評価：	この授業を受講した学生は以下のことができるようになっていと思いますし、またそうなるように学習してください。 ○ マクロ機能を使って表計算ソフトを効率的に活用することができる。 ○ プログラミング言語であるVisual Basic for Applications の基本がわかる。 ○ プログラムの作成手順と実行方法などがわかる。 ○ 自分流の表計算ソフトに仕立て上げることができる。 評価点は次の項目ごとの数値を加算して算出します。 ○ 授業中に行う理解度診断・・・80% ○ 授業中の演習や実習の出来具合・・・10% ○ 授業態度・・・10%
教科書：	速効！図解 Excel 2003 VBA編 池谷京子（株）毎日コミュニケーションズ 2004年3月20日 第1版第1刷発行
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ビジネスプログラミングⅣ」（担当者：松嶋 璋幸）の履修の手引き

科目名：	ビジネスプログラミングⅣ
担当者：	松嶋 璋幸
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	Windowsのプログラミング言語であるVisual Basic for Applications (VBA) でプログラミング技法を身につけ、表計算ソフト (Microsoft Excel) を会計や経営の道具として活かすことができるよう実務的な能力を養います。 具体的にはWindowsに用意されている関数の利用、プログラミングによる機能の作り込みや表計算ソフトの制御、ダイアログボックスの作成で表計算ソフトの顔 (人との接点) を変えるなど、表計算ソフトを自分好みの道具に仕立て上げる方法を身につけることを目指します。
授業方法：	13回の講義は演習や実習を随所にとり入れて進めてゆきます。つまりパソコンを使って実際に表計算ソフトの動作を確かめながら習得してゆく方法です。
履修の留意点：	ビジネスプログラミングⅢを履修していることが望ましいのですが、そうでない場合は教科書 (ビジネスプログラミングⅢと同じ教科書を使います) のChapter1からChapter4までと同じ程度の知識を何らかの方法で得ておいて下さい。
目標と評価：	この授業を受講した学生は以下のことができるようになっていきたいと思いますし、またそうなるように学習してください。 ○ プログラミング言語であるVisual Basic for Applications がどういうものかわかる。 ○ 関数やマクロを利用することができる。 ○ プログラムの作成手順と実行方法などがわかりプログラミングができる。 ○ 自分好みの表計算ソフトに仕立て上げることができる。 評価点は次の項目ごとの数値を加算して算出します。 ○ 授業中に行う理解度診断・・・80% ○ 授業中の演習や実習の出来具合・・・10% ○ 授業態度・・・10%
教科書：	速効! 図解 Excel 2003 VBA編 池谷京子 (株) 毎日コミュニケーションズ 2004年3月20日 第1版第1刷発行
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「広報戦略とメディアⅠ」（担当者：高梨 正見）の履修の手引き

科目名：	広報戦略とメディアⅠ
担当者：	高梨 正見
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>新聞を読んでいますか、テレビのニュースを見ていますか、自宅でコーヒーを飲みながら、今、世界の事件を知る事が出来ます、これはメディアによるものです。メディア（情報）は私たちの生活に良くも悪くも大きな影響を与え生活には無くてはならないものです。メディアが発信する「情報」の源には主に「社会の出来ごと」と「企業が発信すること」があります。「企業が発信する情報」をメディアを通して伝え企業と社会とのコミュニケーションをはかり企業の発展に貢献する情報活動を行うのが広報活動です。情報が社会を動かす現代、企業にとって、広報活動は重要な経営戦略のひとつとなっている。広報活動の役割とその価値、広報戦略、最新メディアによる情報伝達の仕組み、などの概念を学びます。同時に、メディアと深くかかわりのある広告の概念を学びます。「広報戦略とメディアⅠ」では 主に全般の概念を学びます。「広報戦略とメディアⅡ」は「Ⅰ」を基本として実例などを含め実務的になります。</p>
授業方法：	<p>テーマ設定による講義。 Q&Aによる対話。 テーマによる演習。 パワーポイントソフト、ビデオソフトを使ったプロジェクター活用講義。 これが教科書になります 講義 60分 対話20分</p>
履修の留意点：	<p>新聞を読もう ニュースに関心を持つ 新聞・テレビなどの情報を＜自分の視点＞を持って、読み、聞き感想を持つよう努力すること。 授業計画(Web)の参考資料に講義用の資料を添付します参考にすること</p>
目標と評価：	<p>生活上の日常的出来事に繋がる情報学習を中軸とする。 ＜会社経営と広報活動の役割＞＜広報戦略とメディア＞への理解。 最終評価：通常評価 出席を重視します 試験はありません 授業での演習・期末復習レポートなどとの合算で評価します</p>
教科書：	はじめての広報宣伝マニュアル 藤江俊彦 同友館 2001
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「広報戦略とメディアⅡ」（担当者：高梨 正見）の履修の手引き

科目名：	広報戦略とメディアⅡ
担当者：	高梨 正見
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>「広報戦略とメディアⅡ」は「Ⅰ」を基本として事例などを含め実務的になります。「広報戦略とメディアⅠ」を受けた人は60パーセントが復習になります。</p> <p>私たちは世界の出来事をほぼ同時に知る事ができ、これは、メディアのすさまじい発達によるもので、ハードの発達ソフトの価値変化を生んでいます。</p> <p>今や、世界は情報戦争と言っても過言ではありません。メディア（情報）は私たちの生活に良くも悪くも大きな影響を与え生活には無くてはならないものです。</p> <p>メディアが発信する「情報」の源には主に「社会の出来ごと」と「企業が発信すること」があります</p> <p>「企業が発信する情報」をメディアを通して伝え企業の発展に貢献する情報活動を行うのが広報です。情報が社会を動かす現代、企業にとって、広報活動は重要な経営戦略のひとつでありその戦略が会社を良くも悪くもします。効果的なメディア戦略、広報戦略を広報部門の実務を演習を交えて学びます。同時に、メディアと深くかかわりのある広告の実務を学びます。</p>
授業方法：	<p>1講義ごとテーマ設定による講義。 Q&Aによる対話。</p> <p>パワーポイントソフト、ビデオソフトを使った、プロジェクター活用講義。 これが教科書であり資料となります 講義 60分 対話 20分</p>
履修の留意点：	<p>世の中の変化、出来事に興味を持つ</p> <p>日常生活で新聞を読むとき広報の目をもって読む習慣を身に付けること。 新聞・テレビなどの情報を<自分の視点>を持って、読み、聞き感想を持つよう努力すること。</p>
目標と評価：	<p><会社経営と広報活動の役割><広報戦略とメディア>への理解。 生活上の日常的出来事に繋がる情報学習を中軸とする。</p> <p>最終評価：通常評価 出席を重視します 授業での演習・期末復習レポートなどとの合算で評価します。</p>
教科書：	
参考書：	実践企業広報マニュアル 篠崎良一 オーエス出版社 2001

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「情報メディア論」(担当者: 守屋 康正)の履修の手引き

科目名:	情報メディア論
担当者:	守屋 康正
設置学期:	春
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	みなさんの中には、情報リテラシーという言葉をご存知の方もおられると思います。リテラシーとは読み書きする能力とか、ある分野に特化した知識といった意味です。ちなみに江戸時代の商人のリテラシーは『読み』『書き』『算盤』でした。このような解釈を前提にすると、情報リテラシーは自分の目的にそって情報を使用できる能力と解釈されています。広い意味では書物も含まれますが、基本的にはコンピュータを使ってメディアの記録情報を探し出して理解し、自分に必要な情報として加工して保存したり伝達したりする能力と理解できます。情報リテラシーは主にコンピュータに関わる専門知識とか操作知識を指すコンピュータリテラシーと情報メディアを客観的に理解して、求める情報の真価を見きわめて活用したり、発信したりする能力を指すメディアリテラシーに分けられます。一方情報メディアは、フロッピーやCDROMなどの記録媒体に加えて、電話や新聞・ラジオ・テレビを含む情報を記録し伝播する媒体を含む広い範囲の解釈が行われています。本講義ではこのような広範な解釈がなされる情報メディアの中で、特に計算機が扱う情報の流通、検索、入力、編集などの基盤技術、知的財産としての情報、インターネットにおけるソフトウェアの構造、情報資源の検索、情報の電子化と構造化などを学習します。
授業方法:	講義(12回)、学習討議(1回)を実施します。学習討議では自分が発言するとともに、人の発言を刺激としながら学習した知識情報をできるだけ体系的に捉えて理解を深めます。
履修の留意点:	パソコンやインターネットの操作や設定などの細かい知識は必要としないが、ワード、エクセル、パワーポイントなどの基本的知識は学習しておくことが望ましい。
目標と評価:	<p>【学習目標】 情報リテラシー、メディアリテラシー、コンピュータリテラシーの概念の理解 アナログやデジタル情報の検索・加工・発信・保管までの情報処理プロセスの理解 インターネットを介した情報の収集や整理方法の理解 インターネットに活用されるメーリングシステムやHTMLやXMLなど情報技術の理解 ユビキタスな情報環境におけるインターネットへのアクセス方法の理解 様々な局面に対応した情報セキュリティ手法とネチケットの理解</p> <p>【評価】 期末にA42枚程度のレポート提出が必要です。限られた講義の時間を有効に活用するため、遅刻や受講態度も評価の対象とします。</p>
教科書:	
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「データ通信メディア論」（担当者：平井 俊次）の履修の手引き

科目名：	データ通信メディア論
担当者：	平井 俊次
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>近年、コンピュータの性能が格段に向上し、ソフトウェアもより高度な情報処理が可能になったことから、従来のデータ（文字、数値）処理に加えて音声や画像情報のデジタル処理が自由にできるようになりました。そして、データ通信の分野もデジタル通信技術や光通信技術、無線通信技術等の発展に伴い、大容量の高速回線（ブロードバンド）が利用可能となり、音声や画像情報を低コストで効率良く伝送できるようになりました。インターネットは正にこれらの技術を集大成したものといえるでしょう。</p> <p>一方、放送業界もこれらの情報処理技術と通信技術を積極的に取り入れ、放送の革命に取り組んでいます。特にテレビ放送はデジタル化と双方向通信を実現することによって、視聴者に対するサービスのあり方を根本から変えていこうとしています。日本の法律では通信事業者と放送事業者は別々の法律によって保護され、運営されてきましたが、21世紀はその垣根が低くなり、互いに協力又は競争する関係になります。</p> <p>この授業ではいろいろな電気通信メディアの基礎的な要素技術とその仕組みを習得し、コンピュータと通信と放送におけるメディアミックスの現状とその活用法について学びます。</p>
授業方法：	講義13回及び課題へのレポート提出
履修の留意点：	<p>コンピュータリテラシー、情報システム論、情報ネットワーク論などを履修し、情報処理や情報通信の基礎知識を有することが望ましい。</p> <p>この講義では授業フォルダに登録したPPTのスライドを使用して授業を進めます。履修する学生は保有のPCにパワーポイントのソフトウェアを準備してください。</p> <p>放送メディアについては以下の参考書を使用します。</p>
目標と評価：	<p><目標></p> <p>①データ通信技術の基礎的事項や各種要素技術を習得した上で、電話、パソコン、TVなどを活用した各種電気通信メディアの基礎知識を習得する。</p> <p>②放送のデジタル化に伴う新しい技術とサービスを理解する。</p> <p>③通信と放送の融合とは何か、通信業界と放送業界の動向を検証し、産業界や受信者に与えるインパクトについて理解する。</p> <p><評価></p> <p>評価点（7割）は以下の配分で項目毎に加算方式で算出します。</p> <p>①課題へのレポート提出 20%</p> <p>②学期末試験 80%</p>
教科書：	
参考書：	知っておきたい地上デジタル放送 NHK受信技術センター編 NHK出版 平成15年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コミュニケーションメディア論」（担当者：佐々木 洋）の履修の手引き

科目名：	コミュニケーションメディア論
担当者：	佐々木 洋
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>「パソコン（PC）がPersonal ComputerからPersonal Communicatorに変わった時に現下のIT革新が始まり、携帯電話機がケータイに変わった時にユビキタス情報社会の端緒が開かれた」と理解しております。「メディア」は「コミュニケーション」を成立させるための必須要素ですが、「メディア」の技術的な進歩により「コミュニケーション」のあり方は大きく違ったものとなります。従って、コミュニケーション系システムを構築し経営支援ツールとして効果的に運用するためには、「メディア」の技術的動向を把握しておく必要があります。当講座で、コミュニケーション・メディアの諸相と技術的趨勢の考察に一つの焦点を置くこととする理由はここにあります。しかし一方では、情報活用の主体があくまでも人間であり、「読む・書く・聞く・話す」の言語活動上の四技能を司り、表現・思考・判断・記憶の機能を制御する諸身体メディアのリテラシーが最も重要であるという事実には変わりはありません。むしろ、技術の進展によりコミュニケーション系システムを構築する上でのプラットフォームの選択の自由度がますます高まりつつある現在、システム利用者のメディア・リテラシーが一層重要になってきたと考えられます。将来、事業家、起業家ないしは企業人として、コミュニケーション系システムを構築または運用される場合に選択するメディアや利用方法は当該企業の事業環境次第であり、ここにも一律的な「正解」はありません。いかなる場合にも、基礎的な要件として欠かすことのできないメディア・リテラシーの問題に当講座のもう一つの焦点を置くこととする所以です。</p>
授業方法：	<p>授業方法： 自分自身が（株）東芝の通信機事業部に入社してからコンピュータ事業部を定年退職するまでに情報通信分野で経験した業務体験、三井実業研究所関連で出会った三井系各企業、MIT等のキーマンたちから得た教訓、更には、日経連関連の国際IT研修の企画運営を通じて見聞した事柄等々私自身の体験の中から得て組み立てた仮説を交えて、有用と考えられる内容を講義によりお伝えしていきたいと思っております。</p> <p>全14回の講義の構成は概ね以下のようになりたいと考えておりますが、極力質疑応答などによる双方向情報交換の機会を増やすとともに、受講者数やリクエスト次第では、受講生自身によるプレゼンテーションや企業における実務者の講話聴取などをプログラムに採り入れるなど、柔軟な講座運営の編成と運営を図ってゆくとともに、</p> <p>第1回 導入 第2-3回 デジタルメディア出現前史およびデジタル化のインパクト 第4-5回 インターネットとイントラネット、メディア間競合と融合の動向 第6-8回 モバイル化とブロードバンド化 第9-10回 デジタル放送ネットワークと記憶媒体の動向 第11回 ユビキタス・ネットワーク 第12-13回 メディア・リテラシー</p>
履修の留意点：	<p>「情報リテラシー＝ITリテラシー＋ビジネス・リテラシー」という仮説に基づいて、前期の「インターネット・ビジネス論」はビジネス・リテラシー、後期の「コミュニケーション・メディア論」はITリテラシーに、それぞれ焦点を当てて講座を構成したいと思っております。両講座は視点を異にするものであるうえ、ともに自己完結する形をとりますので、必ずしも両講座を併せて受講する必要はありません。</p>
目標と評価：	<p>目標と評価： 具体的に「日本経済新聞のコミュニケーション・メディアに関する記事を読みこなすだけの力をつける」ことを学習目標として掲げます。「読みこなす」ということは、記事の内容を単に「理解する／覚える」のではなくて「評価しながら自分の見解（仮説）に取り入れる」ことに重点がありますので、受講の結果が情報の評価能力と仮説の構成能力の向上の形で結果することを願っております。従って、学習成果の評価のためのテストとしては、指定した日本経済新聞のコミュニケーション・メディア関連の記事について「A. 大意の把握、B. 内容の評価、C. 自分としての見解」を内容とするレポートを作成願ひ、Aに20点、BおよびCに各40点をそれぞれ配点し100点満点にて評価を行う予定です。</p> <p>教科書： 日本経済新聞を講義構成のための基本的な情報源としますので、同紙のコミュニケーション・メディア関連記事については常々問題意識を持って目を通していただくことをお勧めします。また、具体的なテキストは、マイホームページ「東芝38年生の日記」の「情報通信論」のページに逐次講義内容を掲載してゆく予定です。以下のURLで参照し、自分の見解（仮説）の検証と構成に役立ててください。積極的議論も大歓迎です。 http://www4.ocn.ne.jp/~daimajin/Jouhoutsushin.htm</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「メディアビジネス論」（担当者：鈴木 耀夫）の履修の手引き

科目名：	メディアビジネス論
担当者：	鈴木 耀夫
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	UN/CEFACT（国連でのEDI（Electronic Data Interchange）標準化推進機構）、EDI推進協議会、旅行電子商取引促進機構などでのEDI活動をふまえて、わが国及び欧米等での電子商取引の実態と課題や今後の進め方などを学習する。この中ではインターネット、EDIやXML及びUML技術や電子商取引に伴う個人情報の保護やセキュリティ管理に関する法律上の課題、それにビジネスモデル特許などの知的財産権に関する現状と課題についてもふれることとする。
授業方法：	講義に加えて学生の自主的な調査やその結果の発表を取り入れていく。この中で学生との意見の交換を積極的に行なうこととする。なお、講義の中ではできる限り英文の資料を使用することとして、英文を通して最新の情報を理解できるようにする。
履修の留意点：	事前に履修を指定する科目はない。学生は主体的に学習をするという心構えを期待する。
目標と評価：	<ul style="list-style-type: none"> ・電子商取引の現状と課題の理解をする。 ・EDIの技術と関連する法律の枠組みを理解する。 ・電子商取引の諸問題を英文を通して理解する習慣を身に付ける。 <p>授業の中での積極的な意見交換や調査結果の発表などの学習態度（30%）、出席状況（30%）それに期末試験の成績（40%）を総合的に判断する。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「デジタル出版の技術 I」（担当者：海野 京子）の履修の手引き

科目名：	デジタル出版の技術 I
担当者：	海野 京子
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	ワープロソフトとして定番のMicrosoft Wordを使い、案内状、チラシ、ポスターなどデザイン性の高い印刷物を作るテクニックとノウハウを学びます。ビジネスでWordは必須ソフトですが、ただソフトが使えるだけでは、訴求力のある文書、美しいレイアウト、商業印刷できるデータは作れません。読みやすい文字組、自由度の高いレイアウト、確実に印刷物を出力する力は、現場で高く評価されます。本講座では、案内状やチラシなど具体的な作品を制作しながらこれらの力を身に付けます。
授業方法：	講義および実習（10回）、作品制作（3回）
履修の留意点：	この科目の履修に当たって、同時に履修すべき科目は特にありませんが、Wordの基本操作ができるという前提において授業を進めるため、パソコンおよびWordの基本操作（文字入力や簡単な文書の作成、図やテキストボックスの挿入、フォルダの作成やファイルのコピーなど）ができる力は必要です。また、この科目の再試験については、日頃の出席率などを勘案します。出席率の悪い再試験受験者に合格点を与えることはありません。注意して下さい。
目標と評価：	この授業を受講した学生は以下のことができるようになっているはずです。 <ul style="list-style-type: none"> ・ Microsoft Wordを使ってレイアウトを正確に作る ・ Adobe Photoshopを使って印刷に適した画像データを作る ・ 出力形態の違いを知り、その環境に応じてデータを作り分ける ・ デザインの基礎知識を身に付けて読みやすく美しいレイアウトを作る ・ DTP検定Ⅲ種受験程度の能力 詳細は第1回目にお話します。 評価点は以下の項目毎に加算方式で算出します。 質問などによる授業への貢献度および授業態度 [20%] 課題ごとの提出状況 [40%] 学期末の作品 [40%]
教科書：	Microsoft Word レイアウトデザインガイドブック オラリオ/編集 オラリオ 2005年9月
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「デジタル出版の技術 I」（担当者：海野 京子）の履修の手引き

科目名：	デジタル出版の技術 I
担当者：	海野 京子
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	ワープロソフトとして定番のMicrosoft Wordを使い、案内状、チラシ、ポスターなどデザイン性の高い印刷物を作るテクニックとノウハウを学びます。ビジネスでWordは必須ソフトですが、ただソフトが使えるだけでは、訴求力のある文書、美しいレイアウト、商業印刷できるデータは作れません。読みやすい文字組、自由度の高いレイアウト、確実に印刷物を出力する力は、現場で高く評価されます。本講座では、案内状やチラシなど具体的な作品を制作しながらこれらの力を身に付けます。
授業方法：	講義および実習（10回）、作品制作（3回）
履修の留意点：	この科目の履修に当たって、同時に履修すべき科目は特にありませんが、Wordの基本操作ができるという前提において授業を進めるため、パソコンおよびWordの基本操作（文字入力や簡単な文書の作成、図やテキストボックスの挿入、フォルダの作成やファイルのコピーなど）ができる力は必要です。また、この科目の再試験については、日頃の出席率などを勘案します。出席率の悪い再試験受験者に合格点を与えることはありません。注意して下さい。
目標と評価：	この授業を受講した学生は以下のことができるようになっているはずです。 <ul style="list-style-type: none"> ・ Microsoft Wordを使ってレイアウトを正確に作る ・ Adobe Photoshopを使って印刷に適した画像データを作る ・ 出力形態の違いを知り、その環境に応じてデータを作り分ける ・ デザインの基礎知識を身に付けて読みやすく美しいレイアウトを作る ・ DTP検定Ⅲ種受験程度の能力 詳細は第1回目にお話します。 評価点は以下の項目毎に加算方式で算出します。 質問などによる授業への貢献度および授業態度 [20%] 課題ごとの提出状況 [40%] 学期末の作品 [40%]
教科書：	Microsoft Word レイアウトデザインガイドブック オラリオ/編集 オラリオ 2005年9月
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「デジタル出版の技術Ⅱ」（担当者：海野 京子）の履修の手引き

科目名：	デジタル出版の技術Ⅱ
担当者：	海野 京子
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>現在、DTPは様々な現場で導入されています。雑誌、ポスターなどはもちろん、企業のカatalogやパンフレットなど身近な印刷物のほとんどはパソコンで作られています。ですから、広報職、編集職などの仕事に携わりたいと思う人にとって、印刷物作成に関する基礎知識、編集やDTPのノウハウを身につけるのは大事なことです。</p> <p>そこで本講座では、印刷物の企画、制作スタッフの選定、誌面構成の決定、原稿やレイアウトの発注、印刷依頼などについて、実際に印刷物の受注を想定しながら実践的に学びます。In Design、Photoshopなど、実際に現場で使われるDTPソフトも使用し、レイアウトの基本操作についても学びます。</p>
授業方法：	講義および実習（10回）、作品制作（3回）。
履修の留意点：	<p>この科目の履修に当たって、同時に履修すべき科目は特にありませんが、できるだけ春学期のデジタル出版の技術Ⅰ（デジタル出版演習Ⅰ）を履修しておくことを望みます。</p> <p>パソコンやWord・Excelなどの基本操作（文書の作成、フォルダの作成、ファイルのコピーなど）ができるという前提において授業を進めます。</p> <p>また、この科目の再試験については、日頃の出席率などを勘案します。出席率の悪い再試験受験者に合格点を与えることはありません。注意して下さい。</p>
目標と評価：	<p>この授業を受講した学生は以下のことが（理解）できるようになっているはずです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・印刷物制作のおおよその流れ ・読みやすく美しいレイアウトのポイント（デザインの基本的な知識） ・配布時期や配布年齢、目的などを考えたラフスケッチの作成 ・印刷に適した画像データの作成（Adobe Photoshop） ・印刷に適した図版画像データかどうかの確認（Adobe Illustrator） ・ラフスケッチをもとにしたチラシおよび案内状の作成（Adobe In Design） <p>詳細は第1回目にお話します。</p> <p>評価点は以下の項目毎に加算方式で算出します。</p> <p>質問などによる授業への貢献度および授業態度 [20%] 課題ごとの提出状況 [40%] 学期末の作品 [40%]</p>
教科書：	
参考書：	Microsoft Wordレイアウトデザインガイドブック オラリオ/編集 オラリオ 2005年9月

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「デジタル出版の技術Ⅱ」（担当者：海野 京子）の履修の手引き

科目名：	デジタル出版の技術Ⅱ
担当者：	海野 京子
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>現在、DTPは様々な現場で導入されています。雑誌、ポスターなどはもちろん、企業のカatalogやパンフレットなど身近な印刷物のほとんどはパソコンで作られています。ですから、広報職、編集職などの仕事に携わりたいと思う人にとって、印刷物作成に関する基礎知識、編集やDTPのノウハウを身につけるのは大事なことです。</p> <p>そこで本講座では、印刷物の企画、制作スタッフの選定、誌面構成の決定、原稿やレイアウトの発注、印刷依頼などについて、実際に印刷物の受注を想定しながら実践的に学びます。In Design、Photoshopなど、実際に現場で使われるDTPソフトも使用し、レイアウトの基本操作についても学びます。</p>
授業方法：	講義および実習（10回）、作品制作（3回）。
履修の留意点：	<p>この科目の履修に当たって、同時に履修すべき科目は特にありませんが、できるだけ春学期のデジタル出版の技術Ⅰ（デジタル出版演習Ⅰ）を履修しておくことを望みます。</p> <p>パソコンやWord・Excelなどの基本操作（文書の作成、フォルダの作成、ファイルのコピーなど）ができるという前提において授業を進めます。</p> <p>また、この科目の再試験については、日頃の出席率などを勘案します。出席率の悪い再試験受験者に合格点を与えることはありません。注意して下さい。</p>
目標と評価：	<p>この授業を受講した学生は以下のことが（理解）できるようになっているはずです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・印刷物制作のおおよその流れ ・読みやすく美しいレイアウトのポイント（デザインの基本的な知識） ・配布時期や配布年齢、目的などを考えたラフスケッチの作成 ・印刷に適した画像データの作成（Adobe Photoshop） ・印刷に適した図版画像データかどうかの確認（Adobe Illustrator） ・ラフスケッチをもとにしたチラシおよび案内状の作成（Adobe In Design） <p>詳細は第1回目にお話します。</p> <p>評価点は以下の項目毎に加算方式で算出します。</p> <p>質問などによる授業への貢献度および授業態度 [20%] 課題ごとの提出状況 [40%] 学期末の作品 [40%]</p>
教科書：	
参考書：	Microsoft Wordレイアウトデザインガイドブック オラリオ/編集 オラリオ 2005年9月

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「マルチメディアアプリケーションの技術Ⅰ」（担当者：小林 憲夫）の履修の手引き

科目名：	マルチメディアアプリケーションの技術Ⅰ
担当者：	小林 憲夫
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	画像処理ソフトを使って、写真の加工を学びます。デジタルカメラでの撮影から、最終出力やウェブへの応用まで幅広いデジタル画像に関する知識と技術を身につけます。
授業方法：	実習と講義を時間中に適度に割り振って行います。
履修の留意点：	実習科目ですが、理論などを含む講義も行います。
目標と評価：	画像処理は理論と一緒に理解しないと身につけません。授業中に理解度を試すテストなどを実施します。最終的には各自の作品を提出してもらいます。
教科書：	使いません。毎回プリントを配布します。
参考書：	適宜アドバイスします。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「マルチメディアアプリケーションの技術Ⅰ」（担当者：小林 憲夫）の履修の手引き

科目名：	マルチメディアアプリケーションの技術Ⅰ
担当者：	小林 憲夫
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	画像処理ソフトを使って、写真の加工を学びます。デジタルカメラでの撮影から、最終出力やウェブへの応用まで幅広いデジタル画像に関する知識と技術を身につけます。
授業方法：	実習と講義を時間中に適度に割り振って行います。
履修の留意点：	実習科目ですが、理論などを含む講義も行います。
目標と評価：	画像処理は理論と一緒に理解しないと身につけません。授業中に理解度を試すテストなどを実施します。最終的には各自の作品を提出してもらいます。
教科書：	使いません。毎回プリントを配布します。
参考書：	適宜アドバイスします。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「マルチメディアプレゼンテーションの技術Ⅰ」（担当者：山際 基）の履修の手引き

科目名：	マルチメディアプレゼンテーションの技術Ⅰ
担当者：	山際 基
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	コンピュータを用いてプレゼンテーションを行うときには、そのもととなる素材が必要である。その素材の中でも本講義では画像（静止画）を取り上げて、画像の作成、編集、フォトレタッチを行うために必要な知識と技能について実習を通じて習得する。 本講義では、実社会でのプロも使用するソフトウェアを使用して、より実用性の高い内容を目指す。
授業方法：	パソコンを用いた実習形式で講義を行う。
履修の留意点：	パソコンの基本操作は必須。 初回はもちろんのこと毎回継続して出席しないと一気に理解度が下がってしまうので注意していただきたい。自習での理解だけでは足りないことがあるので質問など随時すること。 またⅠ・Ⅱ両方の履修をしていただきたい。
目標と評価：	プレゼンテーションやWebページの画像素材を自在に作成、編集ができることをが目標である。 評価は期末課題（作成物の出来具合）と平常講義時の実習課題により行う。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「マルチメディアアプリケーションの技術Ⅱ」（担当者：小林 憲夫）の履修の手引き

科目名：	マルチメディアアプリケーションの技術Ⅱ
担当者：	小林 憲夫
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	動画編集ソフトを使って、ビデオの撮影と編集を学びます。ビデオカメラでの撮影から、最終出力やウェブへの応用まで幅広いデジタル映像に関する知識と技術を身につけます。
授業方法：	実習と講義を時間中に適度に割り振って行います。
履修の留意点：	実習科目ですが、理論などを含む講義も行います。
目標と評価：	ビデオ映像処理は理論と一緒に理解しないと身につけません。授業中に理解度を試すテストなどを実施します。最終的には各自の作品を提出してもらいます。
教科書：	使いません。毎回プリントを配布します。
参考書：	適宜アドバイスします。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「マルチメディアプレゼンテーションの技術Ⅱ」（担当者：小林 憲夫）の履修の手引き

科目名：	マルチメディアプレゼンテーションの技術Ⅱ
担当者：	小林 憲夫
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	動画編集ソフトを使って、ビデオの撮影と編集を学びます。ビデオカメラでの撮影から、最終出力やウェブへの応用まで幅広いデジタル映像に関する知識と技術を身につけます。
授業方法：	実習と講義を時間中に適度に割り振って行います。
履修の留意点：	実習科目ですが、理論などを含む講義も行います。
目標と評価：	ビデオ映像処理は理論と一緒に理解しないと身につけません。授業中に理解度を試すテストなどを実施します。最終的には各自の作品を提出してもらいます。
教科書：	使いません。毎回プリントを配布します。
参考書：	適宜アドバイスします。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「マルチメディアプレゼンテーションの技術Ⅱ」（担当者：山際 基）の履修の手引き

科目名：	マルチメディアプレゼンテーションの技術Ⅱ
担当者：	山際 基
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	現在、コンピュータを用いてプレゼンテーションを行うときには、静止画や文章だけでなく映像も取り入れていることがある。本講義では映像（動画）に着目し、コンピュータ上での動画の作成、編集を行うために必要な知識と技能について実習を通じて習得する。ビデオ映像だけでなく、静止画に動きを与える、文字に動きを与えるといった様々な処理についても理解を深める。
授業方法：	パソコンを用いた実習形式で講義を行う。
履修の留意点：	パソコンの基本操作は必須。またⅠを履修済みであることが望ましい。
目標と評価：	デジタルビデオを自在に作成、編集ができることをが目標である。 評価は期末課題（作成物の出来具合）と平常講義時の実習課題により行う。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「情報ネットワーク論」（担当者：平井 俊次）の履修の手引き

科目名：	情報ネットワーク論
担当者：	平井 俊次
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>皆さんは既に携帯電話やパソコンを保有し、家族や友人・知人と会話したり電子メールの交換を楽しんでいますね。恋人とデートする時も電車の路線や時刻表、グルメスポット情報をインターネットで検索しているでしょう。</p> <p>企業や公共団体、NPOなども仕事の効率化やサービスの向上を図るために情報ネットワークを活用しています。特に企業では情報ネットワークの構築をベースに如何に「IT化」を進めるかが生き残るための生命線になっています。2001年、日本政府は「eJAPAN」構想を打出し、ネットワーク・インフラの高度化を推進しました。そして2004年、これを進化させユビキタス社会を標榜した「U-JAPAN」構想を発表しました。21世紀の日本は「IT立国」を目指しているのです。</p> <p>しかし、このような高度情報化社会は一朝一夕に出現した訳ではありません。</p> <p>コンピュータによる情報技術の革新と通信技術の革新、更に法律や制度の規制緩和によってコンピュータと通信の融合が可能になったことが、今日の社会を生み出す原動力になりました。</p> <p>この授業ではIT社会のインフラストラクチャーとなる「情報通信ネットワーク」について、その構成や基礎的な技術、利用形態を学び、情報通信リテラシーの入門を目指します。</p>
授業方法：	講義13回及び課題へのレポート提出1回
履修の留意点：	<p>コンピュータリテラシー、情報システム論などを履修し、情報処理の基本知識を有することが望ましい。指定の教科書を必ず購入し予習・復習を行うこと。</p> <p>この講義では授業フォルダに登録したPPTスライドを使用します。予習・復習などにスライドを参照するには保有のPCにパワーポイントのソフトウェアを準備してください。</p>
目標と評価：	<p><目標></p> <p>①情報ネットワークを構成する通信機器、通信回線、伝送制御方式など通信の要素技術を習得し、コンピュータと通信の融合から生まれた情報通信システムの実態を理解する。</p> <p>②各種情報ネットワークの特徴と利用形態について学び、志望する産業分野で情報ネットワークがどのように活用されているかを理解する。</p> <p>③日経新聞や日経産業新聞で報道される情報通信関連記事から通信業界の動向、新技術や新サービスの動向が読み取れる。</p> <p><評価></p> <p>評価点（7割）を以下の配分で項目毎に加算方式で算出します。</p> <p>①課題へのレポート提出 20%</p> <p>②学期末試験 80%</p>
教科書：	情報ネットワーク論 松本良治 オーム社 平成12年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ネットワーク活用の技術Ⅰ」（担当者：滑川 光裕）の履修の手引き

科目名：	ネットワーク活用の技術Ⅰ
担当者：	滑川 光裕
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	パソコンでネットワークを利用する時の基礎的な知識や概念を中心に説明を行う。また、小規模なネットワークを構築する際に必要となる機器や接続方法などについて勉強し、状況に応じた様々なネットワーク構築ができることを目的とする。
授業方法：	講義を中心に行うが、内容を理解するための補助手段として、パソコンを利用する。
履修の留意点：	ネットワークの仕組みを理解する上で、パソコンを利用することも多いので、普段からパソコン操作に慣れておくこと。
目標と評価：	授業内の小テストと期末テストにて評価を行う。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ネットワーク活用の技術Ⅱ」（担当者：滑川 光裕）の履修の手引き

科目名：	ネットワーク活用の技術Ⅱ
担当者：	滑川 光裕
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	TCP/IPスイートやISOのOSI参照モデルなど、ネットワークの詳細な仕組みについて解説を行い、ネットワークプログラム動作の仕組みや、ネットワークセキュリティなど、幅広い講義を行う。「ネットワーク活用の技術Ⅰ」は、コンピュータによる体験（演習）も行うが、この授業は、理論と知識の習得を中心に行う。
授業方法：	講義を中心に行うが、時々、パソコンを利用する。
履修の留意点：	「ネットワーク活用の技術Ⅰ」を受講していることが好ましい。
目標と評価：	授業内の小テストと期末テストにて評価を行う。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「情報検索法」（担当者：森本 孝）の履修の手引き

科目名：	情報検索法
担当者：	森本 孝
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>この授業では、書籍・雑誌などの紙媒体、インターネットやオンラインデータベースなどのデジタル媒体などから、効率的に情報を収集する技術について実践的に学びます。</p> <p>情報化時代といわれるように、現在はきわめて多量かつ多様な情報があふれている時代です。うまくこれらの情報を活用すれば、ビジネスや生活も豊かなものとなっていくはずですが、しかし、情報が多量であればあるだけ、自分にとって本当に必要な情報を選び出す技術も必要になってきます。また、ゆがんだ情報にだまされない力も必要となってきます。</p> <p>この授業では、大量の情報の中から、自分にとって大切な情報を選び出す能力を養うことを目標にします。</p> <p>大学でレポートや論文を作成する場合にも、役立つはずですが。</p>
授業方法：	<p>講義と実習を取り混ぜながら授業を進行します。</p> <p>特に、インターネットを使った検索をテーマにする際は、ノートパソコンを実際に操作しながら学びます。</p>
履修の留意点：	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じてノートパソコンを利用します。その場合は、授業前までにノートパソコンを充電しておく必要があります。 ・授業中にオンライン書店を使って、必要な文献を最低1冊、購入してもらいます。
目標と評価：	<ul style="list-style-type: none"> ・随時課す課題と学期末のレポートにより総合的に評価します。 ・学期末の筆記試験は実施しません。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割，出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「情報検索法」（担当者：細江 哲志）の履修の手引き

科目名：	情報検索法
担当者：	細江 哲志
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>本講義では、学習や研究活動の入口に立つ学生みなさんが、既存のメディア（書籍や雑誌、新聞などの印刷媒体）やデジタルメディア（インターネットやデータベースなど）から、「自分が求めている情報」を探し出す手法を学びます。</p> <p>新しい知識を産み出すためには、「既に過去の人が考えたこと」を知る必要があります。ところが、それが「蓄積されれば知識になる」とは限りません。どの情報が足りないのか考え、どの情報を集めるべきか探索し、どのようにして集めるか実践する…これらの組み合わせにより、新しい知識が生まれることもあります。</p> <p>この講義では、「情報検索術」を学ぶだけでなく、情報とは何か、知識とは何か、過去の膨大な知的集積と現在の自分の考えをどう位置づけていくか、について考えていきます。</p> <p>具体的な演習として、いわゆる「インターネット検索」から、「図書の検索」「論文の検索」「新聞やマスメディア情報の検索」「白書や統計資料の検索」等を取りあげます。さらに、集めた情報を適切に記述する方法について学びます。</p> <p>また、デジタルテクノロジーの進歩による情報環境の変化は大変めまぐるしいものです。そこで、この講義では最新の技術や関連サービス（例えばWeb2.0やAjaxなど）についても積極的に紹介し、皆さんが時代に柔軟に対応することができる技能を育成します。</p> <p>この講義を通じて「何かを知りたい」という皆さんの欲求が具体的なスキルとして身につけば、大学でのレポート作成や研究活動、さらには社会に出てからの行動に役立つはずで。</p>
授業方法：	講義と実習を組み合わせた授業を行います。
履修の留意点：	必要に応じて、ノートパソコンを利用します。
目標と評価：	情報検索に関連した総合的なリテラシーを学ぶことを目標とします。この目標を段階的に達成していくために、定期的に課題を出し、その達成度をもとに総合的に評価します。なお、試験期間中の筆答試験は行わない予定です。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「情報検索法」（担当者：細江 哲志）の履修の手引き

科目名：	情報検索法
担当者：	細江 哲志
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>本講義では、学習や研究活動の入口に立つ学生みなさんが、既存のメディア（書籍や雑誌、新聞などの印刷媒体）やデジタルメディア（インターネットやデータベースなど）から、「自分が求めている情報」を探し出す手法を学びます。</p> <p>新しい知識を産み出すためには、「既に過去の人が考えたこと」を知る必要があります。ところが、それが「蓄積されれば知識になる」とは限りません。どの情報が足りないのか考え、どの情報を集めるべきか探索し、どのようにして集めるか実践する…これらの組み合わせにより、新しい知識が生まれることもあります。</p> <p>この講義では、「情報検索術」を学ぶだけでなく、情報とは何か、知識とは何か、過去の膨大な知的集積と現在の自分の考えをどう位置づけていくか、について考えていきます。</p> <p>具体的な演習として、いわゆる「インターネット検索」から、「図書の検索」「論文の検索」「新聞やマスメディア情報の検索」「白書や統計資料の検索」等を取りあげます。さらに、集めた情報を適切に記述する方法について学びます。</p> <p>また、デジタルテクノロジーの進歩による情報環境の変化は大変めまぐるしいものです。そこで、この講義では最新の技術や関連サービス（例えばWeb2.0やAjaxなど）についても積極的に紹介し、皆さんが時代に柔軟に対応することができる技能を育成します。</p> <p>この講義を通じて「何かを知りたい」という皆さんの欲求が具体的なスキルとして身につけば、大学でのレポート作成や研究活動、さらには社会に出てからの行動に役立つはずで。</p>
授業方法：	講義と実習を組み合わせた授業を行います。
履修の留意点：	必要に応じて、ノートパソコンを利用します。
目標と評価：	情報検索に関連した総合的なリテラシーを学ぶことを目標とします。この目標を段階的に達成していくために、定期的に課題を出し、その達成度をもとに総合的に評価します。なお、試験期間中の筆答試験は行わない予定です。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「社会調査の技術」（担当者：早瀬 保子）の履修の手引き

科目名：	社会調査の技術
担当者：	早瀬 保子
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>経済成長率、失業率の動き、少子高齢化と年金問題など、毎日の新聞に頻繁にでてきますが、これらはみな社会調査から集められた情報によるものです。国勢調査は、最も代表的な社会調査のひとつで、国や地方公共団体の基本計画・開発計画など行政施策の策定に必要な人口の現状と将来予測に必要な基礎資料を提供しています。本科目では、日本における各種社会調査と調査方法および調査結果の読み方、さらにアンケートを中心とする社会調査の方法、調査結果の分析手法や利用などを中心にお話します。</p> <p>主な講義内容は以下のとおりです。（１）社会調査とは、（２）国勢調査、（３）労働力調査と就業構造基本調査、（４）家計調査と全国消費実態調査、（５）住宅・土地統計調査、（６）社会生活基本調査、（７）内閣府など各種世論調査について、（８）社会調査の設計、（９）調査結果のまとめ方（統計図表の作成）、（１０）調査結果の分析手法、（１１）調査結果の分析のための演習（Ⅰ）、（１２）調査結果の分析のための演習（Ⅱ）、（１３）まとめ</p>
授業方法：	授業は原則として講義の形をとりますが、各社会調査を受講者に分担、発表して頂く、受講生参加型の授業です。パソコンは、必修です。
履修の留意点：	履修の条件はありませんが、課題を出しますので、積極的に取り組む学生、知的好奇心が旺盛な学生の履修を望みます。
目標と評価：	この授業を履修した学生は、①日本の各種社会調査に関する一般的知識と社会での活用について考えるフレームを身に付けること、②日本の各種社会調査を統計的に把握する方法とデータの読み方について基本的技術を身に付けることが期待されています。 評価点は、学期末の試験結果（6割）、課題の提出状況と質問や発言などを含む授業での態度（4割）などを加味して算出します。
教科書：	
参考書：	統計でみる日本2006 日本統計協会 日本統計協会 2005年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「情報検索の技術」（担当者：森本 孝）の履修の手引き

科目名：	情報検索の技術
担当者：	森本 孝
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	この授業では、書籍・雑誌などの紙媒体、インターネットやオンラインデータベースなどのデジタル媒体などから、効率的に情報を収集する技術について実践的に学びます。情報化時代といわれるように、現在はきわめて多量かつ多様な情報があふれている時代です。うまくこれらの情報を活用すれば、ビジネスや生活も豊かなものとなっていきます。しかし、情報が多量であればあるだけ、自分にとって本当に必要な情報を選び出す技術も必要になってきます。また、ゆがんだ情報にだまされない力も必要になってきます。この授業では、大量の情報の中から、自分にとって大切な情報を短時間で選び出す能力を養うことを目標にします。大学でレポートや論文を作成する場合にも、大変に役立つ内容です。
授業方法：	講義と実習を取り混ぜながら授業を進行します。特に、インターネットを使った検索をテーマにする際は、ノートパソコンを実際に操作しながら学びます。
履修の留意点：	必要に応じてノートパソコンを利用します。その場合は、授業前までにノートパソコンを充電しておく必要があります。
目標と評価：	<ul style="list-style-type: none"> ・学期中の3度のチェックテストのうち、成績の良かったもの2回分と期末レポートの得点を総合して評価します。 ・学期末の筆記試験は実施しません。
教科書：	グーグル完全活用本 知的生きかた文庫 創藝舎 三笠書房
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「情報検索の技術」（担当者：細江 哲志）の履修の手引き

科目名：	情報検索の技術
担当者：	細江 哲志
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>本講義では、学習や研究活動の入口に立つ学生みなさんが、既存のメディア（書籍や雑誌、新聞などの印刷媒体）やデジタルメディア（インターネットやデータベースなど）から、「自分が求めている情報」を探し出す手法を学びます。</p> <p>新しい知識を産み出すためには、「既に過去の人が考えたこと」を知る必要があります。ところが、それが「蓄積されれば知識になる」とは限りません。どの情報が足りないのか考え、どの情報を集めるべきか検索し、どのようにして集めるか実践する…これらの組み合わせにより、新しい知識が生まれることもあります。</p> <p>この講義では、「情報検索術」を学ぶだけでなく、情報とは何か、知識とは何か、過去の膨大な知的集積と現在の自分の考えをどう位置づけていくか、について考えていきます。</p> <p>具体的な演習として、いわゆる「インターネット検索」から、「図書の検索」「論文の検索」「新聞やマスメディア情報の検索」「白書や統計資料の検索」等を取りあげます。さらに、集めた情報を適切に記述する方法について学びます。</p> <p>また、デジタルテクノロジーの進歩による情報環境の変化は大変めまぐるしいものです。そこで、この講義では最新の技術や関連サービス（例えばWeb2.0やAjaxなど）についても積極的に紹介し、皆さんが時代に柔軟に対応することができる技能を育成します。</p> <p>この講義を通じて「何かを知りたい」という皆さんの欲求が具体的なスキルとして身につけば、大学でのレポート作成や研究活動、さらには社会に出てからの行動に役立つはずで。</p>
授業方法：	講義と実習を組み合わせた授業を行います。
履修の留意点：	必要に応じて、ノートパソコンを利用します。 また、海外の情報を検索することもあるため、和英・英和辞書を使うこともあります。
目標と評価：	情報検索に関連した総合的なリテラシーを学ぶことを目標とします。この目標を段階的に達成していくために、定期的に課題を出し、その達成度をもとに総合的に評価します。なお、試験期間中の筆答試験は行わない予定です。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「情報検索の技術」（担当者：細江 哲志）の履修の手引き

科目名：	情報検索の技術
担当者：	細江 哲志
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>本講義では、学習や研究活動の入口に立つ学生みなさんが、既存のメディア（書籍や雑誌、新聞などの印刷媒体）やデジタルメディア（インターネットやデータベースなど）から、「自分が求めている情報」を探し出す手法を学びます。</p> <p>新しい知識を産み出すためには、「既に過去の人が考えたこと」を知る必要があります。ところが、それが「蓄積されれば知識になる」とは限りません。どの情報が足りないのか考え、どの情報を集めるべきか検索し、どのようにして集めるか実践する…これらの組み合わせにより、新しい知識が生まれることもあります。</p> <p>この講義では、「情報検索術」を学ぶだけでなく、情報とは何か、知識とは何か、過去の膨大な知的集積と現在の自分の考えをどう位置づけていくか、について考えていきます。</p> <p>具体的な演習として、いわゆる「インターネット検索」から、「図書の検索」「論文の検索」「新聞やマスメディア情報の検索」「白書や統計資料の検索」等を取りあげます。さらに、集めた情報を適切に記述する方法について学びます。</p> <p>また、デジタルテクノロジーの進歩による情報環境の変化は大変めまぐるしいものです。そこで、この講義では最新の技術や関連サービス（例えばWeb2.0やAjaxなど）についても積極的に紹介し、皆さんが時代に柔軟に対応することができる技能を育成します。</p> <p>この講義を通じて「何かを知りたい」という皆さんの欲求が具体的なスキルとして身につけば、大学でのレポート作成や研究活動、さらには社会に出てからの行動に役立つはずで。</p>
授業方法：	講義と実習を組み合わせた授業を行います。
履修の留意点：	必要に応じて、ノートパソコンを利用します。 また、海外の情報を検索することもあるため、和英・英和辞書を使うこともあります。
目標と評価：	情報検索に関連した総合的なリテラシーを学ぶことを目標とします。この目標を段階的に達成していくために、定期的に課題を出し、その達成度をもとに総合的に評価します。なお、試験期間中の筆答試験は行わない予定です。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「旅行業取扱主任者トレーニングⅠ」（担当者：亀坂 興紀）の履修の手引き

科目名：	旅行業取扱主任者トレーニングⅠ
担当者：	亀坂 興紀
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	旅行業では国内旅行はもとより気軽に出かけられる海外旅行や外国からのお客様を迎える訪日旅行を取扱います。そのため旅行会社では必ず国家資格である旅行業務取扱管理者を一人以上おこななければならない。その国家資格に挑戦するのがこの講座です。本講座では年一回9月に実施される国家試験「国内旅行業務取扱管理者」を受験しその資格取得を目指します。テキストを使用するだけではなく過去問題などで試験の傾向を理解し、予想問題で各自の内容理解および到達度を確認しながら講義を進めます。国内旅行の資格を取得すると「総合旅行業務取扱管理者」を受験する際に2科目（旅行業法、国内旅行実務）が免除される特典があります。
授業方法：	講義形式でおこないます。 必要に応じて資料や練習問題などのプリントを配布します。
履修の留意点：	国家試験は9月上旬に行われますので、8月中に本試験に即した形で模擬試験（有料）を実施します。正味4ヶ月（15回）の講座ですので、教室での集中力、各自の予習・復習が必要となります。旅行パンフレット、時刻表、新聞なども興味を持ってよく見ることが役に立ちます。 なお、模擬試験の受験料（¥3,000）および教科書代（別途記載）は、初回の講義で回収いたしますので持参してください。 ・ 模擬試験 ¥3,000 ・ 教科書代（①～⑤合計） ¥11,800 ・ 合計 ¥14,800
目標と評価：	9月に実施される国家試験「国内旅行業務取扱管理者」を必ず受験する事。出席を重視します。また積極的な取組姿勢を評価します。 教科書： ①「旅行業法・旅行業約款」 JTB能力開発 2006年度版（¥2,600） ②「運送・宿泊約款」 JTB能力開発 2006年度版（¥2,600） ③「国内運賃・料金」 JTB能力開発 2006年度版（¥2,400） ④「国内観光資源・旅行実務」 JTB能力開発 2006年度版（¥2,300） ⑤「科目別速習問題（国内）」 JTB能力開発 2006年度版（¥1,900） 合計11,800円
教科書：	複数のため別に記載
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「販売士トレーニングⅠ」（担当者：櫻木 孝司）の履修の手引き

科目名：	販売士トレーニングⅠ
担当者：	櫻木 孝司
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>「販売士」とは激動する流通業界で勝ち抜くための必須の資格であり、日本商工会議所が行なう「流通業界で唯一の公的資格」として、社会的にも高い信頼と評価を得ています。レベルは1級・2級・3級と3つに分かれており、これまでに約64万人（1級～3級の合計）が合格し、「販売士」として流通業界の各分野で活躍しています。</p> <p>各級で対象としている人物像は 3級：「販売技術能力がある者」（現行：販売員） 2級：「販売管理能力がある者」（現行：管理者） 1級：「経営管理能力がある者」（現行：経営者）</p> <p>最近では学生時より3級もしくは2級を取得し、就職活動に活かす人たちが増えてきています。この授業では販売士3級の試験の合格を目指します。流通業界で仕事をしたいという学生はぜひこの授業を履修し、卒業までに販売士3級の資格を取得してください。</p> <p>平成18年度から3級試験の科目が変更されます。テキストも変更され、より実務的な要素を強めた内容となっています。3級試験のほとんどがこのテキストから出題されます。以前のテキストは使えませんので、新しいテキストを購入して受講してください。</p>
授業方法：	<p>講義は以下の内容で10回。販売士3級の試験直前には模擬試験も実施します。</p> <p>①小売業の種類 ②マーチャンダイジング ③ストアオペレーション ④マーケティング ⑤販売・経営管理</p>
履修の留意点：	販売士3級の試験は経営全般から商品知識や接客マナーまでとても広範囲の資格試験です。講義は非常に限られた回数ですので、1回1回がとても凝縮された内容となります。毎回、予習として事前にテキストに目を通しておくこと。
目標と評価：	<p>販売士3級の合格を目指します。</p> <p>評価点は以下の項目毎に加算方式で算出します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席および議論における発言の積極性（40%） ・講義の内容を良く理解しているか（30%） ・課題の提出状況（30%）
教科書：	販売士検定試験3級ハンドブック（5冊セットで7千円） 日本商工会議所・全国商工会連合会編 株式会社キャリアック 2005年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「販売士トレーニングⅠ」（担当者：櫻木 孝司）の履修の手引き

科目名：	販売士トレーニングⅠ
担当者：	櫻木 孝司
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>「販売士」とは激動する流通業界で勝ち抜くための必須の資格であり、日本商工会議所が行なう「流通業界で唯一の公的資格」として、社会的にも高い信頼と評価を得ています。レベルは1級・2級・3級と3つに分かれており、これまでに約64万人（1級～3級の合計）が合格し、「販売士」として流通業界の各分野で活躍しています。</p> <p>各級で対象としている人物像は 3級：「販売技術能力がある者」（現行：販売員） 2級：「販売管理能力がある者」（現行：管理者） 1級：「経営管理能力がある者」（現行：経営者）</p> <p>最近では学生時より3級もしくは2級を取得し、就職活動に活かす人たちが増えてきています。この授業では販売士3級の試験の合格を目指します。流通業界で仕事をしたいという学生はぜひこの授業を履修し、卒業までに販売士3級の資格を取得してください。</p> <p>平成18年度から3級試験の科目が変更されます。テキストも変更され、より実務的な要素を強めた内容となっています。3級試験のほとんどがこのテキストから出題されます。以前のテキストは使えませんので、新しいテキストを購入して受講してください。</p>
授業方法：	<p>講義は以下の内容で10回。販売士3級の試験直前には模擬試験も実施します。</p> <p>①小売業の種類 ②マーチャンダイジング ③ストアオペレーション ④マーケティング ⑤販売・経営管理</p>
履修の留意点：	販売士3級の試験は経営全般から商品知識や接客マナーまでとても広範囲の資格試験です。講義は非常に限られた回数ですので、1回1回がとても凝縮された内容となります。毎回、予習として事前にテキストに目を通しておくこと。
目標と評価：	<p>販売士3級の合格を目指します。</p> <p>評価点は以下の項目毎に加算方式で算出します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席および議論における発言の積極性（40%） ・講義の内容を良く理解しているか（30%） ・課題の提出状況（30%）
教科書：	販売士検定試験3級ハンドブック（5冊セットで7千円） 日本商工会議所・全国商工会連合会編 株式会社キャリアック 2005年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「販売士トレーニングⅡ」（担当者：櫻木 孝司）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人（櫻木 孝司先生）にお問合せ下さい。

「福祉住環境コーディネーターⅠ」（担当者：森 弘子）の履修の手引き

科目名：	福祉住環境コーディネーターⅠ
担当者：	森 弘子
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>この授業は、東京商工会議所が実施する福祉住環境コーディネーター3級検定試験合格のための知識を習得するためのものです。東京商工会議所のホームページでは、福祉住環境コーディネーターの役割について次のように解説しています。</p> <p>「高齢者や障害者に対して住みやすい住環境を提案するアドバイザーです。医療・福祉・建築について体系的で幅広い知識を身につけ、各種の専門職と連携をとりながらクライアントに適切な住宅改修プランを提示します。また福祉用具や諸施策情報などについてもアドバイスします。」</p> <p>3級の試験では、福祉と住環境の関連分野の基礎的な知識について理解することに主眼がおかれています。と同時に、ここでの知識は、さらに上の級を目指すための土台となります。</p> <p>3級試験の合格の基準は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住環境は安全でかつ安心して生活を続けるための基盤であるという認識の下に、高齢者の身体特性や、疾患別の症状と必要な介護、医療、福祉、建築および福祉用具に関する全般的な基礎知識を理解している。 ・介護保険等の福祉に関する諸制度を理解し、併せて福祉住環境コーディネーターの社会的役割を理解している。 ・生活の質の向上や介護者の介助力の軽減につながる住宅改修の基本的な方向性について理解している。 <p>この授業では、福祉住環境コーディネーター3級検定試験の合格を目指すとともに、自分のまわりの住環境から福祉を考えることで、福祉に対する関心を深めることを目指します。</p>
授業方法：	<p>講義（5回） 各回の講義内容は下記のとおりです（状況により、多少の変更があります）。 9/30 第1回 オリエンテーション 高齢社会と住環境整備 高齢者の心身の機能と特性① ほか 10/14 第2回 高齢者の心身の機能と特性② 高齢者介護のあり方 高齢者に対する諸関連施策とサービス ほか 10/21 第3回 関連専門職への理解と連携 福祉住環境整備の基礎知識 ほか 11/4 第4回 福祉住環境整備の基本技術 部屋別・場所別福祉住環境整備の仕方 ほか 11/18 第5回 福祉用具の活用と住環境 福祉住環境整備の疾患・障害別応用技術 総まとめと受験にあたっての心がまえ ほか</p> <p>※ 各回の最後に、自宅での課題として復習のための小テストを配布します。</p>
履修の留意点：	<p>東京商工会議所主催の福祉住環境コーディネーター3級検定合格を目指す、短期集中の講座です。授業では、テキストの内容をわかりやすく説明するとともに、重要なポイントを過去問題などと照らしあわせながら解説し、検定合格に必要な力を養います。</p> <p>検定合格のためには、テキストの内容を理解するだけでなく、きちんと覚えることが不可欠となりますので、授業で学習した内容については必ず自宅で復習してください。</p> <p>なお、毎回授業の最後に、その回の内容の理解度確認と復習のための小テストを配布しますので、必ず自宅で実施してください。ただし、あくまで、小テストは自身の理解度の確認と復習のためのものであり、評価の対象とはなりません。</p> <p>この講座の最終的な目的は、福祉住環境コーディネーター3級検定の合格です。評価は、授業への出席および受講態度によって行います。</p> <p>※授業では、過去問題集を使用します。書名等については後日指定します。</p> <p>※福祉住環境コーディネーター（3級）検定の概要 試験日：2006年11月 日（日） 試験時間：2時間 試験方式：マークシート方式 合格基準：試験範囲は第1分野と第2分野に分けられており、第1分野40点、第2分野60点の100点満点となっています。両分野とも70%以上をもって合格となります。</p> <p>検定試験の詳細については、東京商工会議所の下記ホームページを確認してください。 http://www.kentei.org/</p>
目標と評価：	<p>この授業では、福祉住環境コーディネーター3級検定の合格に必要な、下記の公式テキストの内容を習得するとともに、応用力をつけることを目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢社会と住環境整備 ・ 福祉住環境コーディネーターの役割と活動の場、 ・ 社会福祉と住環境整備の考え方、高齢者の心身の機能と特性 ・ 高齢者介護のあり方、高齢者に対する諸関連施策とサービス ・ 関連専門職への理解と連携 ・ 福祉住環境整備の進め方 ・ 福祉住環境整備の基礎知識 ・ 福祉住環境整備の基本技術、部屋別・場所別福祉住環境整備の仕方 ・ 福祉用具の活用と住環境 ・ 福祉住環境整備の疾患・障害別応用技術 <p>評価点は以下の項目毎に加算方式で算出します。 出席および受講態度「70%」</p>
教科書：	福祉住環境コーディネーター検定試験3級公式テキスト 東京商工会議所（編） 東京商工会議所
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「国際文化実習」（担当者：サイモン クレイ）の履修の手引き

科目名：	国際文化実習
担当者：	サイモン クレイ
設置学期：	秋
開講回数：	全0回
週コマ数：	週0コマ
概要：	この授業は長期留学の一部として南ミシシッピ大学で行います。
授業方法：	この授業は長期留学の一部として南ミシシッピ大学で行います。
履修の留意点：	この授業は長期留学の一部として南ミシシッピ大学で行います。
目標と評価：	この授業は長期留学の一部として南ミシシッピ大学で行います。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「国際文化実習」（担当者：馮 雪梅）の履修の手引き

科目名：	国際文化実習
担当者：	馮 雪梅
設置学期：	秋
開講回数：	全0回
週コマ数：	週0コマ
概要：	留学により認定される科目です。
授業方法：	学内での授業は実施いたしません。
履修の留意点：	履修の他に手続が必要になります。
目標と評価：	成績評価は、授業を行わないため評価点のみの評価とします。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ボランティア実習（春）」（担当者：内田 和夫）の履修の手引き

科目名：	ボランティア実習（春）
担当者：	内田 和夫
設置学期：	春
開講回数：	全0回
週コマ数：	週0コマ
概要：	本実習は「ボランティア活動」に取り組んでみたい諸君に機会を授業科目として提供するものである。本年度で4年目を迎える。特徴としては、受講性の自主的取組を最大限に尊重している点にある。自前の模索をしてもらうために、1施設1受講性の派遣を基本に実施していく。活動分野としては1) 乳児・幼児とともに（保育園・幼稚園）2) 障害児とともに（障害児のための学童クラブ）3) 知的障害者とともに（作業所）4) 身体障害者とともに（作業所）5) 高齢者とともに（特別養護老人ホーム）6) 不登校の若者とともに（フリースクール）など7) 自然・森林とともに8) 国際協力NGO、9) 病院、10) 小学校 を用意しているが、受講生諸君自身による開拓も認める。
授業方法：	<ul style="list-style-type: none"> (1) 週1回 最低半日の実習を7回から8回行うことを基本とする。 (2) 3年生は春学期の実施、4年生の場合は夏休みの実施も認める。 (3) つぎのような日程で進めていく。 ① 2006年度履修要綱配布（30日の成績配布時） ② 履修申し込みと保険の申し込み＜学生センターへ＞（4月10日から4月20日まで） * 履修登録は学生センターへの直接申し込みによります。 * キャリアセンターで保険の用紙を受け取ってください。 ③ 実習先の決定（4月24日から28日） ④ 実習先との打ち合わせ（4月26日から5月2日まで） ⑤ 事前研修（5月8日（月）7時限） ⑥ 実習（5月15日から7月7日まで） <中間報告会を6月5日に開催> ⑦ 実習日誌と実習レポートの提出（7月10日から14日）
履修の留意点：	<ul style="list-style-type: none"> (1) 「ボランティア論」の単位を取得していることが前提となる。 (2) 履修制限の外の扱いとなりますが、卒業の必要総単位には含めることができる。
目標と評価：	<ul style="list-style-type: none"> (1) 目標は上記のとおり。 (2) 実習日誌と実習レポートによります。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ボランティア実習（秋）」（担当者：内田 和夫）の履修の手引き

科目名：	ボランティア実習（秋）
担当者：	内田 和夫
設置学期：	秋
開講回数：	全0回
週コマ数：	週0コマ
概要：	<p>本年度は、春学期に続き、秋学期も『ボランティア実習』が開設される。この実習科目の目的は、自主的自発的なボランティア活動の機会を学生諸君に機会提供するところにある。特徴としては、1施設1実習生の派遣を原則とし、受講生の自主的取組をどしどし進めてもらうところにある。春学期の実習では、多くの諸君が、福祉や教育の場が人を大事にする場であるための可能性や困難が見えてきたり、自身の意外な持ち味に築いたり、いろいろ発見があったようである。</p> <p>実習場所の選択は、大学の紹介を受けることでも、自身で開拓するのもどちらでも良い。大学の紹介施設の分野は①保育園・幼稚園、②障害児のための学童クラブ、③知的障害者のための作業所、④身体障害者のための作業所、⑤高齢者のための特別養護老人ホーム、⑥不登校の子供たちの居場所づくり、⑦森林ボランティア、⑧ 国際協力NGO、⑨ 病院ボランティア を予定している。</p>
授業方法：	<p>（1）週1回 最低半日の実習を7回から8回行うことを基本とする。 （2）実習日と実習時間は受講者と施設間で相談の上決定する。 （3）つぎのような日程ですすめる。</p> <p>① 履修申し込み（9月19日から10月5日） 学生センターで履修申込用紙に必要事項を書き込み履修登録をしてください。 ② 実習先の決定（9月26日から10月13日） ③ 実習の開始（10月16日の週から順次開始） ④ 中間報告会の開催（追って通知） ⑤ 実習日誌と実習レポートの提出（1月上旬）</p>
履修の留意点：	<p>（1）「ボランティア論」の単位を取得していることが前提となる。 （2）履修制限外の履修の扱いとなるが、取得した単位は卒業に必要な単位に充当することができる。 （3）どの分野の卒業に必要な単位に充当できるかは、04年度以前の入学学生と05年度以降の入学学生では異なる。</p>
目標と評価：	<p>（1）目標は概要のとおり （2）実習日誌と実習レポート、中間報告会の出席で評価。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「企業実習Ⅰ」（担当者：戎野 淑子）の履修の手引き

科目名：	企業実習Ⅰ
担当者：	戎野 淑子
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	インターンシップ（企業実習Ⅱ）の前提科目である。 インターンシップについての基本的な知識を身につけるとともに、実際に社会で働くにあたって、不可欠な能力を養成する。
授業方法：	講義および演習。
履修の留意点：	企業実習Ⅱの前提科目である。
目標と評価：	原則として、レポートおよび発表（面接、ディベートなど）により評価を行うが、授業態度など平常点も考慮する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「企業実習Ⅱ」（担当者：戎野 淑子）の履修の手引き

科目名：	企業実習Ⅱ
担当者：	戎野 淑子
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	インターンシップを行う。そして、その成果をレポートにまとめ、また報告会にて発表、討論する。
授業方法：	実習が中心である。
履修の留意点：	企業実習Ⅰを受講していないと履修できない。
目標と評価：	原則として、実習内容、およびその後のレポート、発表により行う。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本文化実習 I（茶道）」（担当者：市川 宗成）の履修の手引き

科目名：	日本文化実習 I（茶道）
担当者：	市川 宗成
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>茶道を通じて、日本の伝統文化についての理解を深めると同時に感謝と思いやりの心、相手の人格を尊重し、仕え合う心などを学ぶ。 茶道の作法、実技（湯をわかし、茶を点て、菓子を味わい、茶をいただく）心のもち方、動作の美しさを身につけ、実生活に役に立つマナーを習得する。</p> <p>1. 道（心）精神面の充実 2. 学（学問）茶道における日本伝統工芸、文化の知識 3. 実（実技）茶道の作法の習得</p>
授業方法：	茶道の稽古の実習をベースに講義を進める
履修の留意点：	用具（茶、菓子、懐紙、楊子）参考書等の実費を必要とする
目標と評価：	<p>目標：茶会の実践、茶室における作法の理解と実践 評価：授業中の態度、実技習得への積極性における平常評価出席を重んじる</p>
教科書：	
参考書：	学校茶道初級編 学校茶道教本編集委員会 財団法人今日庵 平成15年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本文化実習 I（書道）」（担当者：葛原 雅子）の履修の手引き

科目名：	日本文化実習 I（書道）
担当者：	葛原 雅子
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	人類は感情動物であり、感情表現などの伝達手段として『ことば』そして『文字』を作りました。古く中国で生まれた漢字は、やがて日本に伝来。特に渡来人(百済人)の王仁(わに)は論語・千字文をもたらしました。また仏教伝来によって奈良時代には写経が盛んとなり、日本語を漢字で表記する万葉仮名も誕生。遣隋使・遣唐使の派遣にて中国の王羲之の書風が受け入れられ、平安時代の能書家、三筆(空海、橘逸勢、嵯峨天皇)そして和様書の三蹟(小野道風、藤原佐理、藤原行成)へと書が引き継がれ、今では芸術書道にまで高められているのです。 日本文化実習 I(書道)では、一般的な楷書・行書・草書のほか仮名古筆、加えて、日本に漢字が伝来される以前の中国の文字、甲骨文・金文・篆書・木簡・隸書などの古典名品を臨書します。また実務的な書道も学習し、授業を通じて自分を自分らしく書表現する技術を養います。
授業方法：	講義と実技
履修の留意点：	作品が提出されないと評価できません。必ず提出のこと。 『提出作品の評価点』は、各回の提出作品の完成度によって評価されます。 古典の臨書では、自分が感じ得た鑑識眼で、どう書表現しているか。 また創作では、自分の感情をいかにして表すか、いかに心を込めて書くかが重要な課題です。 基本学習、講義、実技を踏まえて、各自の書表現の完成度を評価します。 『出席および書を学ぶ姿勢、態度』は、まずは出席すること、そして挨拶や礼儀正しさ、書に臨む姿勢、態度を勧奨します。 『作品提出率』は、出席をして、作品を提出することが原則です。 止むを得ない状況に於いては、講師に相談の上、提出することで加算されることもあります。
目標と評価：	目標・いろいろな書体を学ぶことによって書表現力の基礎をつくります。 ・実生活に役立つ書学習、そして他人とは一味違った豊かな自己表現を確立させます。 評価・提出作品の評価点[40%] ・出席および書を学ぶ姿勢、態度[30%] ・作品提出率[30%]
教科書：	なし(プリントを配布します)
参考書：	なし

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本文化実習 I（留学生用）」（担当者：河村 玲子）の履修の手引き

科目名：	日本文化実習 I（留学生用）
担当者：	河村 玲子
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	日本語の四技能（読む・書く・話す・聞く）を高め、専門の授業やゼミへ参加する際の困難を減らすこと、また、日本語能力試験一級程度の日本語力の習得を目的とする。中でも、レポート、論文作成に必要な書き言葉と、書いたものを読み、自分の意見を明確に発表することに重点をおいて学習していく。
授業方法：	演習方式で、学生の皆さんの積極的な参加、発言を重視して授業を進める。
履修の留意点：	一回一回の授業に集中し、その時間内に最大限に学習項目を習得してほしい。
目標と評価：	適切な書き言葉を用いて、経済・経営に関する文章を書けるようになること、書いたものを正確に読み、自分の意見を明確に発表できるようになること、日本語能力試験一級程度の日本語力の習得、以上の三点を目標とする。評価については、出席点とは別に、授業における課題への取り組み姿勢や提出状況等、平常点を重視する。
教科書：	配布プリントを使用
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本文化実習Ⅱ（茶道）」（担当者：市川 宗成）の履修の手引き

科目名：	日本文化実習Ⅱ（茶道）
担当者：	市川 宗成
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>日本文化実習Ⅰに引き続き茶道を通じて、日本の伝統文化についての理解を深めると同時に感謝と思いやりの心、相手の人格を尊重し、仕え合う心などを学ぶ。茶道の作法、実技（湯をわかし、茶を点て、菓子を味わい、茶をいただく）心のもち方、動作の美しさを身につけ、実生活に役に立つマナーを習得する。</p> <p>1. 道（心）精神面の充実 2. 学（学問）茶道における日本伝統工芸、文化の知識 3. 実（実技）茶道の作法の習得</p>
授業方法：	茶道の稽古の実習をベースに講義を進める
履修の留意点：	用具（茶、菓子、懐紙、楊子）参考書等の実費を必要とする
目標と評価：	<p>目標：茶会の実践、茶室においての作法の理解と実践 評価：授業中の態度、実技習得への積極性における平常評価出席を重んじる</p>
教科書：	
参考書：	学校茶道初級編 学校茶道教本編集委員会 財団法人今日庵 平成15年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本文化実習Ⅱ（書道）」（担当者：葛原 雅子）の履修の手引き

科目名：	日本文化実習Ⅱ（書道）
担当者：	葛原 雅子
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	日本文化実習Ⅰ（書道）に続き、甲骨文・金文・篆書・木簡・隸書・草書・行書・楷書・仮名などの臨書を中心に学び、創作作品への手がかりとします。また実務的な書道も学習し、実生活に役立てます。半切に書く作品は、日本文化実習Ⅰ（書道）より多くなります。
授業方法：	講義と実技
履修の留意点：	<p>作品が提出されないと評価できません。必ず提出のこと。</p> <p>『提出作品の評価点』は、各回の提出作品の完成度によって評価されます。古典の臨書では、自分が感じ得た鑑識眼で、どう書表現しているか。また創作では、自分の感情をいかにして表すか、いかに心を込めて書くかが重要な課題です。</p> <p>基本学習、講義、実技を踏まえて、各自の書表現の完成度を評価します。</p> <p>『出席および書を学ぶ姿勢、態度』は、まずは出席すること、そして挨拶や礼儀正しさを、書に臨む姿勢、態度を勧奨します。</p> <p>『作品提出率』は、出席をして、作品を提出することが原則です。止むを得ない状況に於いては、講師に相談の上、提出することで加算されることもあります。</p>
目標と評価：	<p>目標・いろいろな書体を学ぶことによって書表現力の基礎をつくります。</p> <p>・実生活に役立つ書学習、そして他人とは一味違った豊かな自己表現を確立させます。</p> <p>評価・提出作品の評価点[40%] ・出席および書を学ぶ姿勢、態度[30%] ・作品提出率[30%]</p>
教科書：	なし（プリントを配布します）
参考書：	なし

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本文化実習Ⅱ(留学生用)」(担当者: 河村 玲子)の履修の手引き

科目名:	日本文化実習Ⅱ(留学生用)
担当者:	河村 玲子
設置学期:	秋
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	日本語の四技能(読む・書く・話す・聞く)を高め、専門の授業やゼミへ参加する際の困難を減らすこと、また、日本語能力試験一級程度の日本語力の習得を目的とする。中でも、レポート、論文作成に必要な書き言葉と、書いたものを読み、自分の意見を明確に発表することに重点をおいて学習していく。
授業方法:	演習方式で、学生の皆さんの積極的な参加、発言を重視して授業を進める。
履修の留意点:	一回一回の授業に集中し、その時間内に最大限に学習項目を習得してほしい。
目標と評価:	適切な書き言葉を用いて、経済・経営に関する文章を書けるようになること、書いたものを正確に読み、自分の意見を明確に発表できるようになること、日本語能力試験一級程度の日本語力の習得、以上の三点を目標とする。評価については、出席点とは別に、授業における課題への取り組み姿勢や提出状況等、平常点を重視する。
教科書:	配布プリントを使用
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「国際交流研修」（担当者：サイモン クレイ）の履修の手引き

科目名：	国際交流研修
担当者：	サイモン クレイ
設置学期：	春
開講回数：	全0回
週コマ数：	週0コマ
概要：	この科目についてKaetsu Lifeを参考してください
授業方法：	この科目についてKaetsu Lifeを参考してください
履修の留意点：	この科目についてKaetsu Lifeを参考してください
目標と評価：	この科目についてKaetsu Lifeを参考してください
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「国際交流研修」（担当者：山田 寛）の履修の手引き

科目名：	国際交流研修
担当者：	山田 寛
設置学期：	春
開講回数：	全0回
週コマ数：	週0コマ
概要：	私の国際交流研修は、「国際ボランティア体験研修」です。 毎年夏休み期間中の9月に、アジアの国に行き、田舎の小学校で運動会を開いています。 そのほか、年によって学校建設を手伝ったり、植樹をしたり、文化交流をしたりもしています。運動会 は、草の根の子どもたちに運動の楽しさを知ってもらいたい。2001年以来、ラオス、カン ボジア、ミャンマー、モンゴル、中国・雲南省に行ってきました。今年はまだ最終確定はしていません が、中国でも北西の端の内モンゴル行きを考えています。
授業方法：	旅行（費用は16万～17万円程度）に参加すること。
履修の留意点：	旅行前に運動会の準備などをやります。いろいろアイデアを出してもらいます。
目標と評価：	楽しみながら、ボランティアを体験してもらうことが目標です。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法で
す。

「国際交流研修」（担当者：馮 雪梅）の履修の手引き

科目名：	国際交流研修
担当者：	馮 雪梅
設置学期：	春
開講回数：	全0回
週コマ数：	週0コマ
概要：	留学により認定される科目です。
授業方法：	学内での授業は実施いたしません。
履修の留意点：	履修の他に手続が必要になります。
目標と評価：	成績評価は、授業を行わないため評価点のみの評価とします。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割，出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「インターンシップⅠ」（担当者：古閑 博美）の履修の手引き

科目名：	インターンシップⅠ
担当者：	古閑 博美
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>インターンシップ（就業体験）は、学生時代ならではの体験となる。就職を希望する学生、社会の空気に触れてみたい学生、自分の力を試してみたい学生に受講を勧める。本科目を受講することで、2年次春学期に設定されている「インターンシップⅡ」を受講することができる（「インターンシップⅡ」の前提科目）。</p> <p>1年次春休み期間中にインターンシップをおこなう。「実学の嘉悦」の伝統を踏まえ、授業は実践的におこなう。インターンシップの意義や欧米や日本でのインターンシップの動向を知り、「会社四季報」の読み方など企業情報分析の仕方を学んで実際の実習先企業分析を行なう。さらに実習に向いたときに実際に直接役立つ知識・技能の修得として、応対や接客のマナー、プレゼンテーションの仕方を習う。</p>
授業方法：	講義と演習。ビデオ学習。キャリア支援センターと密接な関係のもとに運営する。
履修の留意点：	2年次「インターンシップⅡ」の単位取得を希望する学生は、本科目を受講していることが前提となる。提出物の提出先、期限等厳守。
目標と評価：	<p>目標：①社会的知性、職場で必要とする資質や技能について学ぶ。 ②職業観、倫理観を涵養する。 ③ビジネス・マナーを身につける。</p> <p>評価：平常点、出席点等を踏まえ総合的に判断する。</p>
教科書：	インターンシップ 職業教育の理論と実践 古閑博美編著 学文社 2001年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「インターンシップⅡ」（担当者：古閑 博美）の履修の手引き

科目名：	インターンシップⅡ
担当者：	古閑 博美
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>インターンシップ（就業体験・企業実習）を体験し、社会的視野を広め、必要な技能やビジネスマナーを身につける。事前に、実習に必要な知識、技能、態度表現について具体的に学ぶ。書類やレポート提出は締切厳守のこと。実習先の企業とのマッチングに慎重を期す。キャリア支援センターと連携し、通常の授業形態と異なる形式で運営する。壮行会をはじめ、インターンシップ報告会への参加と報告が義務付けられている。</p> <p>実習期間は、実習先企業によって異なることがある（一年次春休みに行い、基本は実働10日間）。本科目の単位取得を希望する学生は、「インターンシップⅠ」を受講していることが前提となる。学生の職業選択に資することを主たる目的として、企業、地方自治体、福祉施設やNPOなどの協力を仰いで、実務研修を実施する。副次的効果としてさまざまな講義・授業で学んだことを、現実の職場で体験し、より学習効果を高めること、さらに社会人としての倫理観、責任感などを涵養することをねらいとする。</p>
授業方法：	開講日時は別途提示する。特別授業形式で実施することになるので、学生はWEB等で情報を確認すること。キャリア支援センターと連携して、報告会を実施する。
履修の留意点：	壮行会⇒インターンシップ⇒事後報告会のすべてに出席し、課題等を提出する。企業とのマッチングが重要となるので、提出資料に不備がないようにすること。
目標と評価：	<p>目標</p> <p>①企業実習を体験し、「社会」「仕事」「人間関係」について学ぶ。</p> <p>②社会人としてふさわしい自己をイメージし、知識や技能を身につける。</p> <p>評価</p> <p>①企業の評価</p> <p>②パワー・ポイントによる報告内容</p> <p>③キャリア支援センターの評価</p> <p>等を参考にして古閑が評価する。</p>
教科書：	インターンシップ 職業教育の理論と実践 古閑博美編著 学文社 2001年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「海外事情 I」（担当者：サイモン クレイ）の履修の手引き

科目名：	海外事情 I
担当者：	サイモン クレイ
設置学期：	秋
開講回数：	全0回
週コマ数：	週0コマ
概要：	この授業は長期留学の一部として南ミシシッピ大学で行います。
授業方法：	この授業は長期留学の一部として南ミシシッピ大学で行います。
履修の留意点：	この授業は長期留学の一部として南ミシシッピ大学で行います。
目標と評価：	この授業は長期留学の一部として南ミシシッピ大学で行います。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「海外事情 I」（担当者：馮 雪梅）の履修の手引き

科目名：	海外事情 I
担当者：	馮 雪梅
設置学期：	秋
開講回数：	全0回
週コマ数：	週0コマ
概要：	留学により認定される科目です。
授業方法：	学内での授業は実施いたしません。
履修の留意点：	履修の他に手続が必要になります。
目標と評価：	成績評価は、授業を行わないため評価点のみの評価とします。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「海外事情Ⅱ」（担当者：サイモン クレイ）の履修の手引き

科目名：	海外事情Ⅱ
担当者：	サイモン クレイ
設置学期：	秋
開講回数：	全0回
週コマ数：	週0コマ
概要：	この授業は長期留学の一部として南ミシシッピ大学で行います。
授業方法：	この授業は長期留学の一部として南ミシシッピ大学で行います。
履修の留意点：	この授業は長期留学の一部として南ミシシッピ大学で行います。
目標と評価：	この授業は長期留学の一部として南ミシシッピ大学で行います。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「海外事情Ⅱ」（担当者：馮 雪梅）の履修の手引き

科目名：	海外事情Ⅱ
担当者：	馮 雪梅
設置学期：	秋
開講回数：	全0回
週コマ数：	週0コマ
概要：	留学により認定される科目です。
授業方法：	学内での授業は実施いたしません。
履修の留意点：	履修の他に手続が必要になります。
目標と評価：	成績評価は、授業を行わないため評価点のみの評価とします。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「海外事情Ⅲ」（担当者：サイモン クレイ）の履修の手引き

科目名：	海外事情Ⅲ
担当者：	サイモン クレイ
設置学期：	秋
開講回数：	全0回
週コマ数：	週0コマ
概要：	この授業は長期留学の一部として南ミシシッピ大学で行います。
授業方法：	この授業は長期留学の一部として南ミシシッピ大学で行います。
履修の留意点：	この授業は長期留学の一部として南ミシシッピ大学で行います。
目標と評価：	この授業は長期留学の一部として南ミシシッピ大学で行います。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「海外事情Ⅲ」（担当者：馮 雪梅）の履修の手引き

科目名：	海外事情Ⅲ
担当者：	馮 雪梅
設置学期：	秋
開講回数：	全0回
週コマ数：	週0コマ
概要：	留学により認定される科目です。
授業方法：	学内での授業は実施いたしません。
履修の留意点：	履修の他に手続が必要になります。
目標と評価：	成績評価は、授業を行わないため評価点のみの評価とします。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。